

八尾市

子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

八尾市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学

目次

はじめに	2
I 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査内容	3
4. 調査対象者	3
5. 調査実施日	3
6. 調査配布・回収率(数)	3
7. 調査実施主体	5
8. 研究者一覧	5
9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い	5
II 調査結果	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕	7
2. 単純集計結果〔保護者〕	84
3. クロス集計および分析結果	182
3－1. 基本情報	182
(1) 経済状況	182
(2) 家庭状況（制度等）	201
3－2. 雇用	248
3－3. 健康	256
3－4. 家庭生活、学習	299
3－5. 対人関係	359
III 総合考察	427
1) 大阪府共同調査の意義	427
2) 単純集計	427
3) クロス集計	430
まとめ	432
IV 資料編	439

はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital) の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

I 調査概要

1. 調査の目的

八尾市では、すべてのこどもが将来に夢と希望をもち、いきいき過ごせるまちをめざし、その実現に向けた施策の検討を進めている。今回、子どもと保護者の日常生活を調査し、得られた結果を分析することによって、実情に応じた子どもの支援のあり方を検討することを目的としている。

2. 調査方法

八尾市内の調査対象の世帯に、各学校を通じて調査票を配布し、回収については郵送又はWEBにて回答を得たものである。

※今回の調査については、大阪府及び八尾市を含む18市町*による共同実施を行った。また、調査票の内容は、調査対象学年や調査項目等を合わすなど、大阪府内全自治体の結果と八尾市との比較ができるようにしている。

*18市町・・・大阪市、豊中市、池田市、守口市、枚方市、八尾市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、和泉市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、四条畷市、交野市、大阪狭山市、能勢町

3. 調査内容

巻末の調査票参照

4. 調査対象者

八尾市立小学校5年生（義務教育学校前期課程5年生）・その保護者（2,139世帯）

八尾市立中学校2年生（義務教育学校後期課程8年生）・その保護者（2,007世帯）

5. 調査実施日

八尾市：令和5年9月7日～令和5年9月30日

大阪府内全自治体：令和5年6月27日～令和5年9月30日

6. 調査配布・回収率(数)

表1. 調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
八尾市	小学5年生	35.0	749	2,139
	小学5年生の保護者	32.6	697	2,139
	中学2年生	24.7	496	2,007
	中学2年生の保護者	22.4	449	2,007
	小学5年生・中学2年生合計	30.0	1,245	4,146
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	27.6	1,146	4,146
	計	28.8	2,391	8,292
大阪府全自治体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

※大阪府内全自治体の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている。(子ども：91件、保護者：1,149件(うち八尾市子ども：7件、保護者：181件))

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学5年生	61.6	15,927	25,852
	小学5年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学2年生	58.3	13,712	23,539
	中学2年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学5年生・中学2年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学5年生	22.6	1,401	6,191
	小学5年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学2年生	15.3	936	6,099
	中学2年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学5年生・中学2年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学5年生	21.3	2,003	9,415
	小学5年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学2年生	17.8	1,646	9,273
	中学2年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学5年生	23.0	3,007	13,068
	小学5年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学2年生	21.3	2,714	12,718
	中学2年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学5年生・中学2年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学5年生	10.1	951	9,415
	小学5年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学2年生	10.6	982	9,273
	中学2年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

なお、未就学児童の保護者を対象とした調査も大阪府内の3自治体において実施した。さらに1自治体では、小5・中2以外の学年の児童とその保護者を対象とした調査も実施した。これらの合計配布数は、19,513件、回収数は、14,626件、回収率75.0%であった。

7. 調査実施主体

八尾市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

8. 研究者一覧

担当者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

教授 山野 則子（業務責任者）

特任講師 橋本 磨和

シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟

協力者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

准教授 嵯峨 嘉子

研究補助者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科

准教授 牛 冰

武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀

大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍

奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

研究員 黄 健育 渡邊 陽亮

大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾

松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、八尾市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。八尾市のデータについては既に「Ⅰ 調査概要 2.～8.」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに「2. 調査概要」で列記した共同実施18市町のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱う、あるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、大阪府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。大阪府では、予めサンプリングした対象8,000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市町ではほとんどの市町が全数配布の結果、高いところでは70%を超える回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体についてデータの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その

場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、必要な施策を提案するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部がすくい取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「八尾市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

Ⅱ 調査結果

1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

八尾市

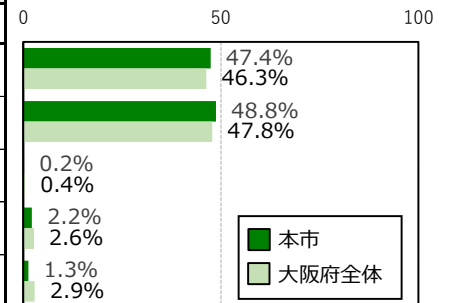
回答者の属性

問27 性別

全体は、「男子」が47.4%、「女子」が48.8%となっている。
小学生は、「男子」が47.0%、「女子」が49.1%となっている。
中学生は、「男子」が47.6%、「女子」が48.8%となっている。

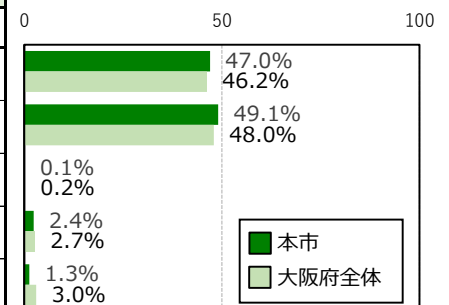
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,252名	100.0%	43,370名	100.0%
男子	594名	47.4%	20,086名	46.3%
女子	611名	48.8%	20,729名	47.8%
その他	3名	0.2%	169名	0.4%
答えたくない	28名	2.2%	1,134名	2.6%
無回答	16名	1.3%	1,252名	2.9%



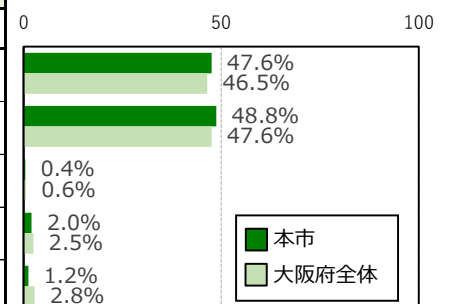
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	749名	100.0%	23,289名	100.0%
男子	352名	47.0%	10,752名	46.2%
女子	368名	49.1%	11,171名	48.0%
その他	1名	0.1%	42名	0.2%
答えたくない	18名	2.4%	636名	2.7%
無回答	10名	1.3%	688名	3.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	496名	100.0%	19,990名	100.0%
男子	236名	47.6%	9,295名	46.5%
女子	242名	48.8%	9,516名	47.6%
その他	2名	0.4%	127名	0.6%
答えたくない	10名	2.0%	493名	2.5%
無回答	6名	1.2%	559名	2.8%



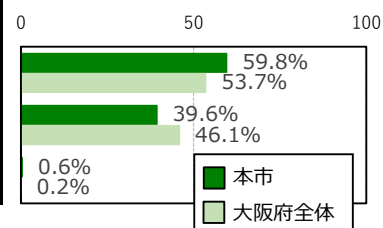
回答者の属性

問1 学年

回答者の学年は、「小学生」が749名・59.8%、「中学生」が496名・39.6%となっている。

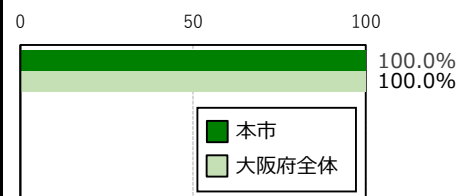
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,252名	100.0%	43,370名	100.0%
小学生	749名	59.8%	23,289名	53.7%
中学生	496名	39.6%	19,990名	46.1%
無回答	7名	0.6%	91名	0.2%



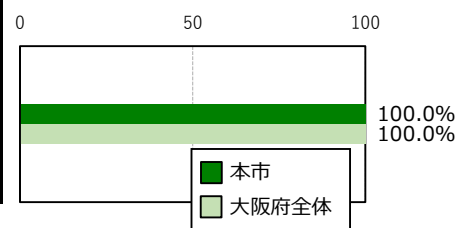
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	749名	100.0%	23,289名	100.0%
小学生	749名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	496名	100.0%	19,990名	100.0%
小学生	-	-	-	-
中学生	496名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

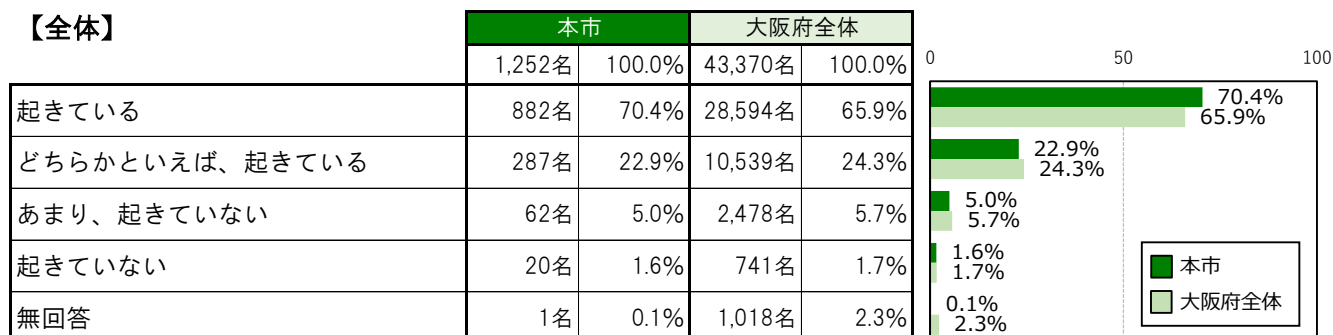
問2 起床時間の規則性

全体は、「起きている」が70.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が22.9%、「あまり、起きていない」が5.0%、「起きていない」が1.6%となっている。

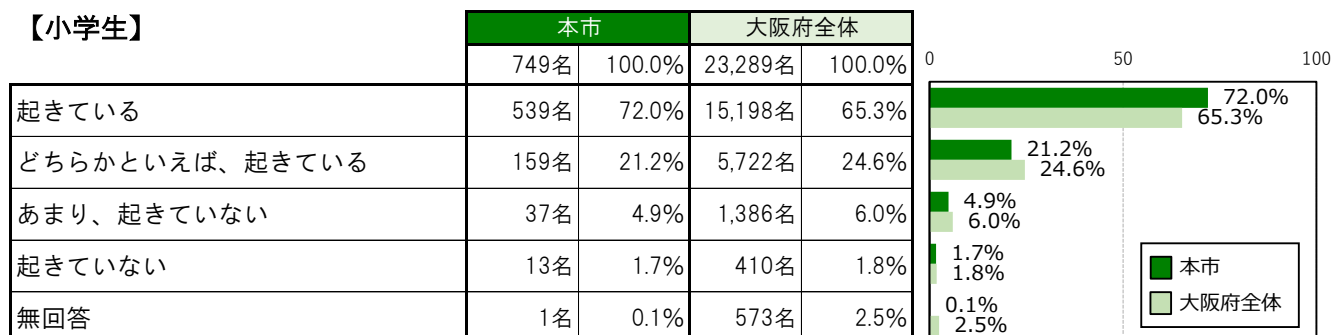
小学生は、「起きている」が72.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が21.2%、「あまり、起きていない」が4.9%、「起きていない」が1.7%となっている。

中学生は、「起きている」が68.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が25.2%、「あまり、起きていない」が4.8%、「起きていない」が1.4%となっている。

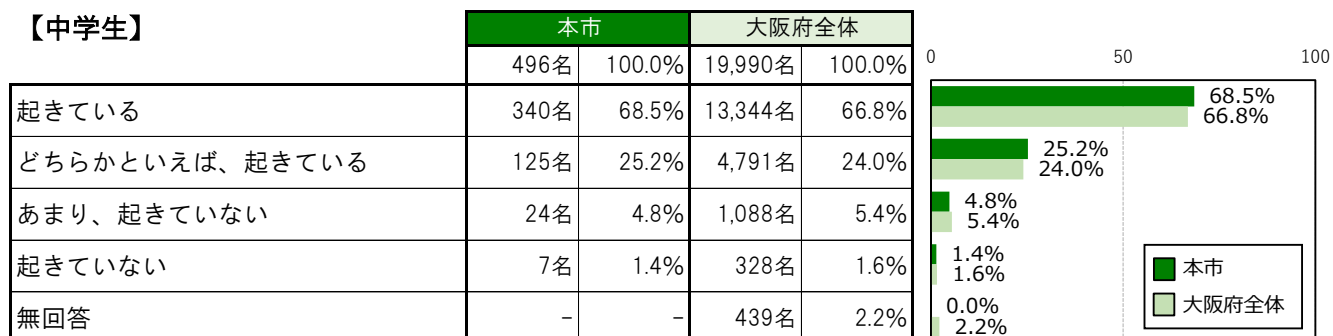
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

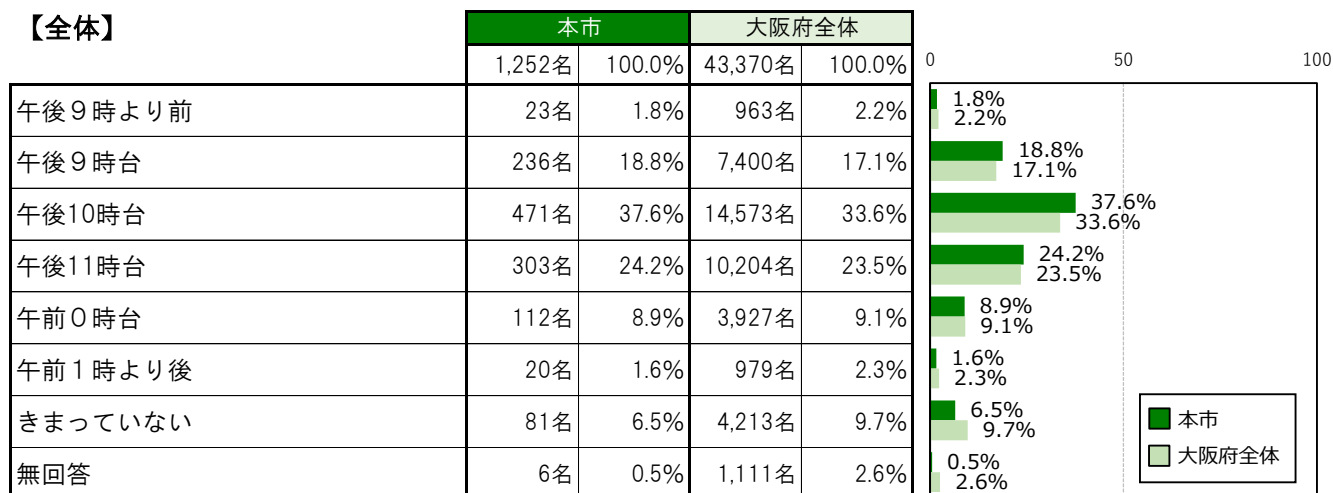
問3 就寝時間

全体は、「午後10時台」が37.6%で最も多く、次いで「午後11時台」が24.2%、「午後9時台」が18.8%、「午前0時台」が8.9%となっている。

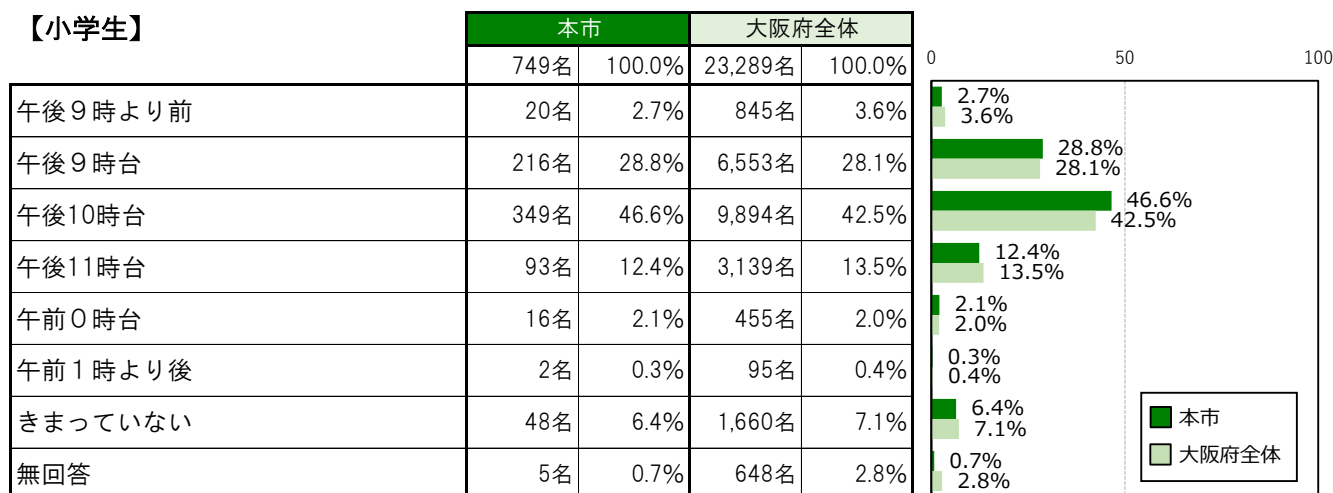
小学生は、「午後10時台」が46.6%で最も多く、次いで「午後9時台」が28.8%、「午後11時台」が12.4%、「きまっていない」が6.4%となっている。

中学生は、「午後11時台」が41.7%で最も多く、次いで「午後10時台」が24.0%、「午前0時台」が19.4%、「きまっていない」が6.7%となっている。

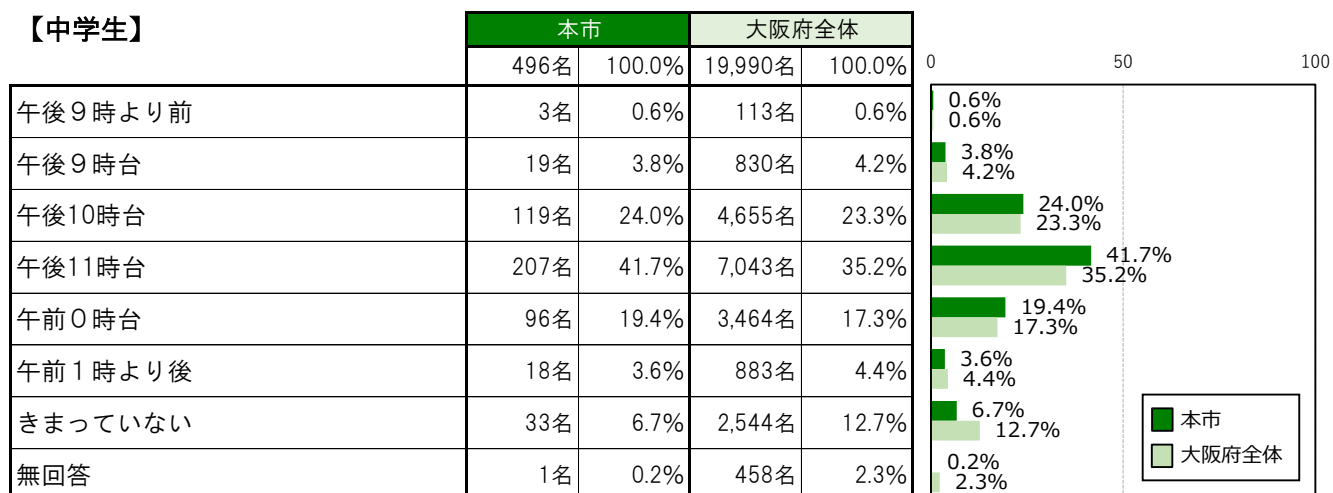
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

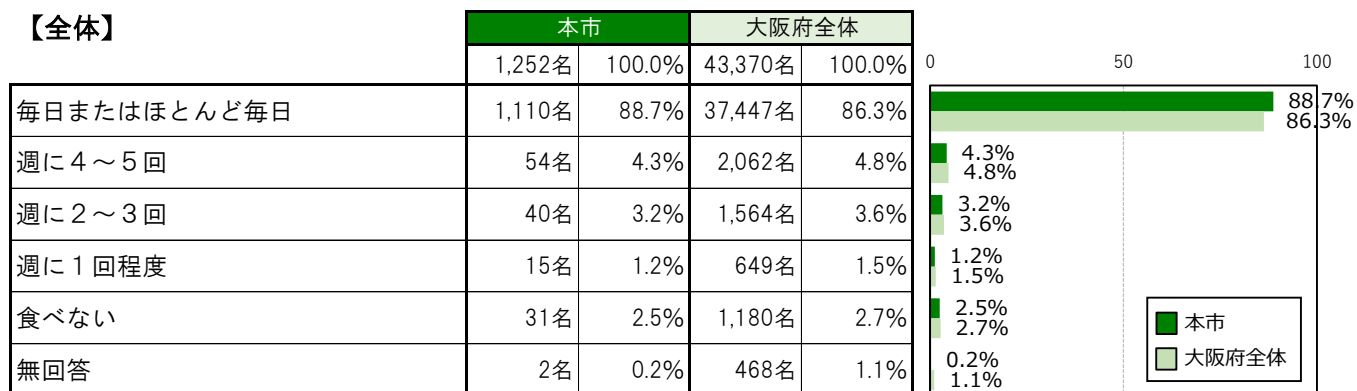
問4（1）朝食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が88.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が4.3%、「週に2～3回」が3.2%、「食べない」が2.5%となっている。

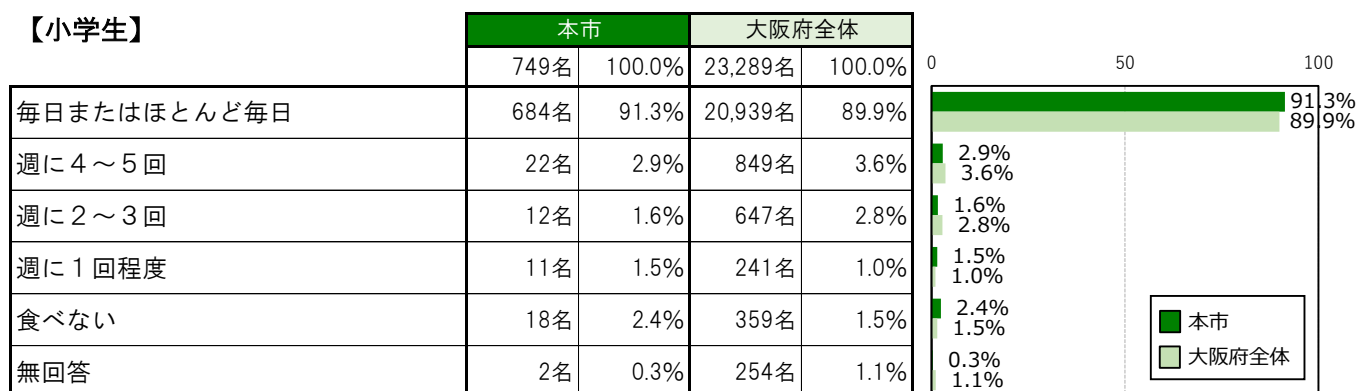
小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が91.3%で最も多く、次いで「週に4～5回」が2.9%、「食べない」が2.4%、「週に2～3回」が1.6%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が84.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が6.3%、「週に2～3回」が5.6%、「食べない」が2.6%となっている。

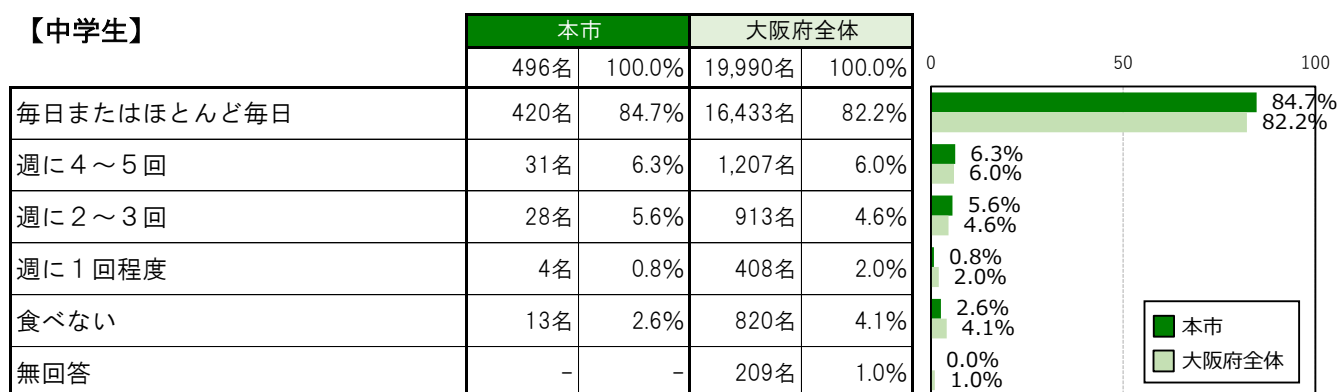
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

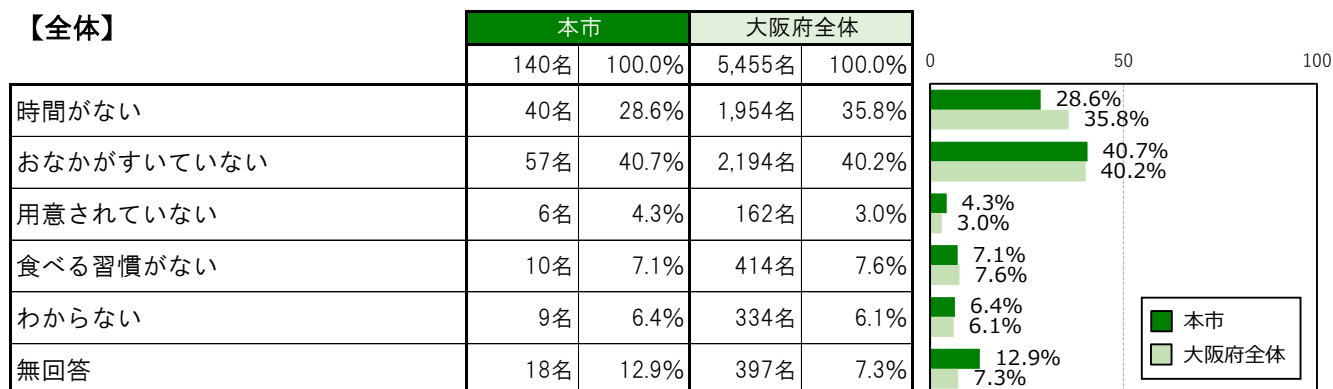
問4（2）朝食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が40.7%で最も多く、次いで「時間がない」が28.6%、「食べる習慣がない」が7.1%となっている。

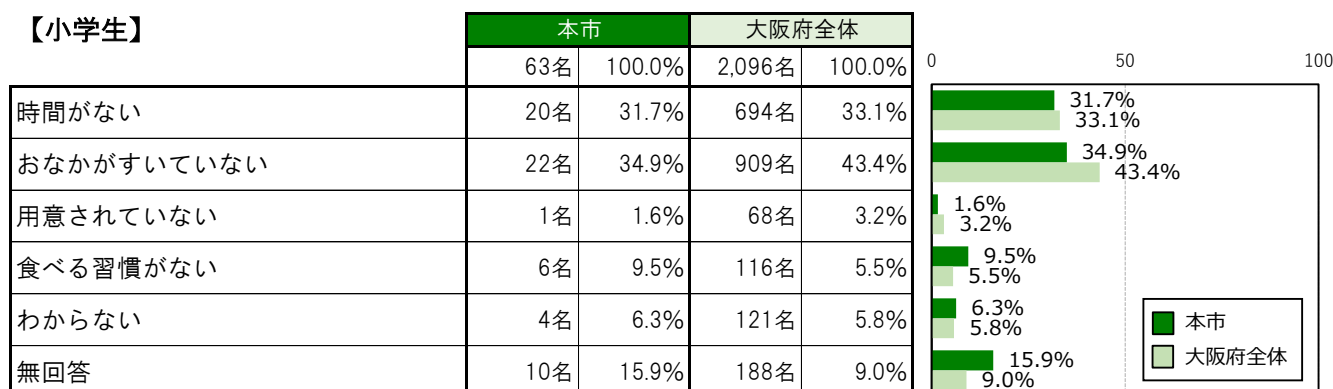
小学生は、「おなかがすいていない」が34.9%で最も多く、次いで「時間がない」が31.7%、「食べる習慣がない」が9.5%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が44.7%で最も多く、次いで「時間がない」が26.3%、「用意されていない」が6.6%となっている。

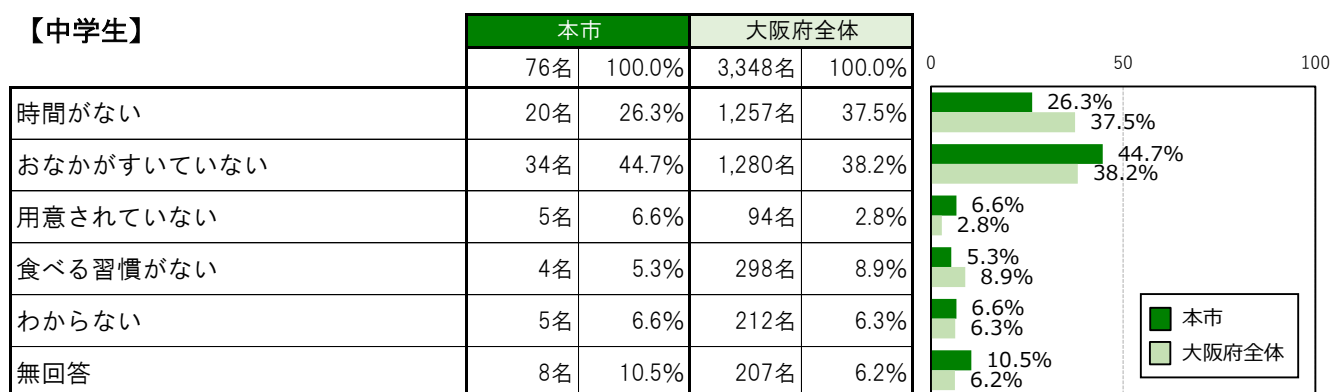
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問5（1）夕食の頻度

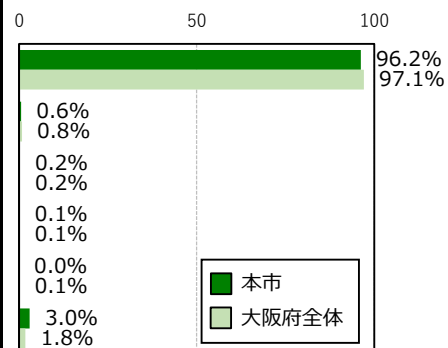
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が96.2%で最も多くなっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が95.5%で最も多くなっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が97.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が1.0%となっている。

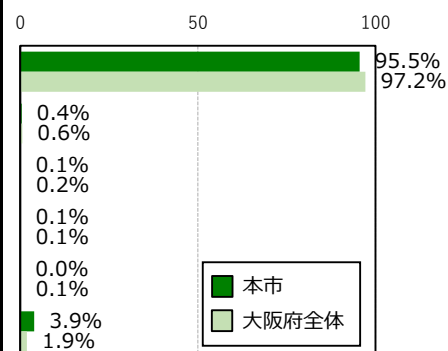
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,252名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	1,204名	96.2%	42,110名	97.1%
週に4～5回	8名	0.6%	327名	0.8%
週に2～3回	2名	0.2%	100名	0.2%
週に1回程度	1名	0.1%	31名	0.1%
食べない	-	-	32名	0.1%
無回答	37名	3.0%	770名	1.8%



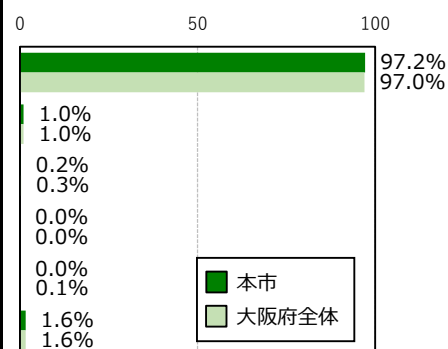
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	749名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	715名	95.5%	22,637名	97.2%
週に4～5回	3名	0.4%	132名	0.6%
週に2～3回	1名	0.1%	39名	0.2%
週に1回程度	1名	0.1%	23名	0.1%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	29名	3.9%	442名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	496名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	482名	97.2%	19,393名	97.0%
週に4～5回	5名	1.0%	195名	1.0%
週に2～3回	1名	0.2%	60名	0.3%
週に1回程度	-	-	8名	0.0%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	8名	1.6%	318名	1.6%



ふだんの生活のことについて

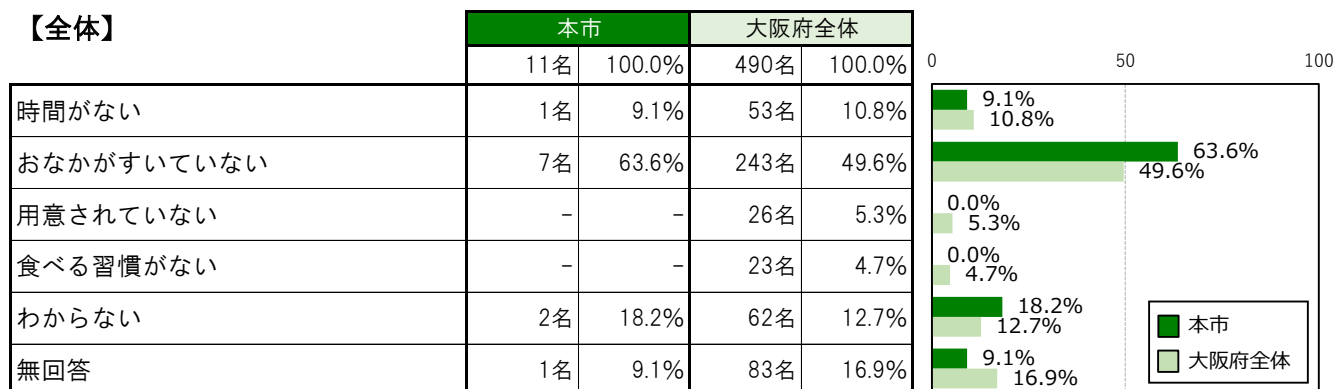
問5（2）夕食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が63.6%（7名）で最も多く、次いで「時間がない」が9.1%（1名）となっている。

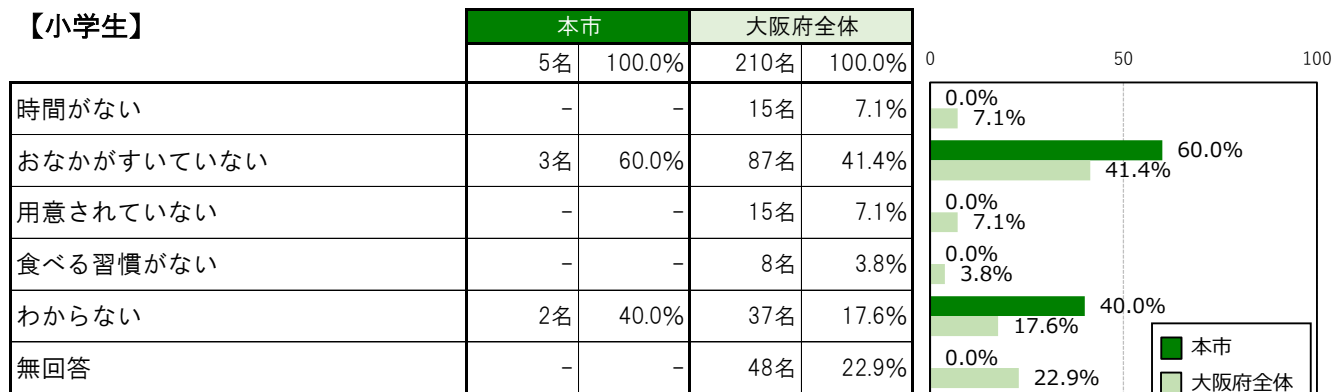
小学生は、「おなかがすいていない」が60.0%（3名）となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が66.7%（4名）で最も多く、次いで「時間がない」が16.7%（1名）となっている。

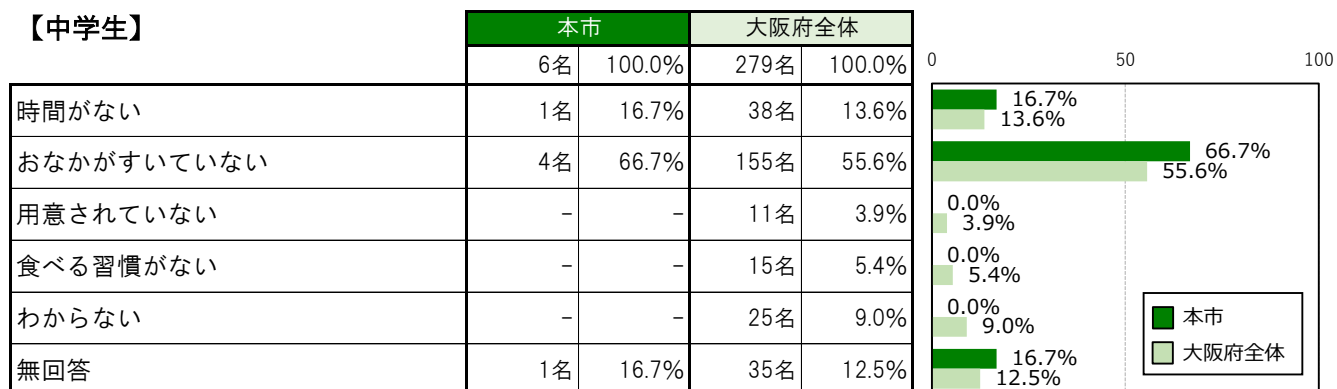
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

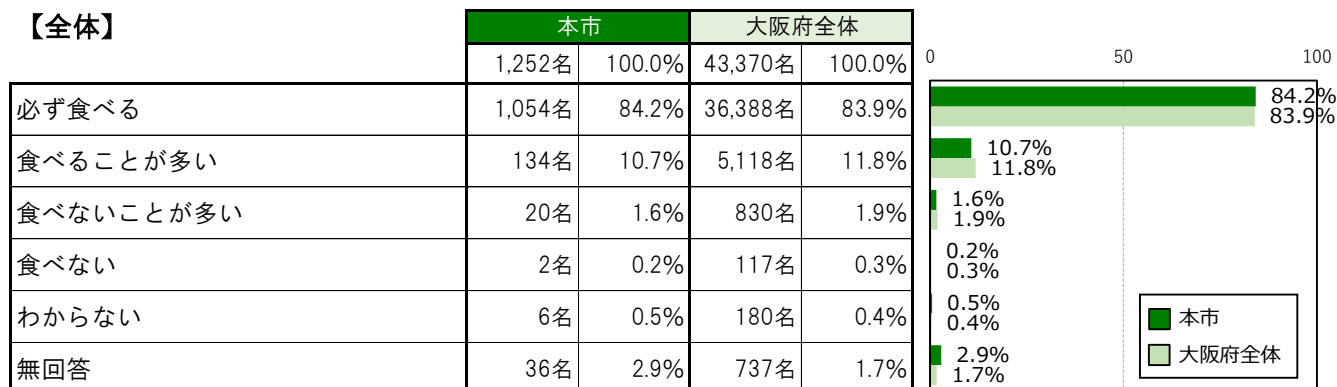
問6（１）休日の昼食の頻度

全体は、「必ず食べる」が84.2%で最も多く、次いで「食べることが多い」が10.7%、「食べないことが多い」が1.6%となっている。

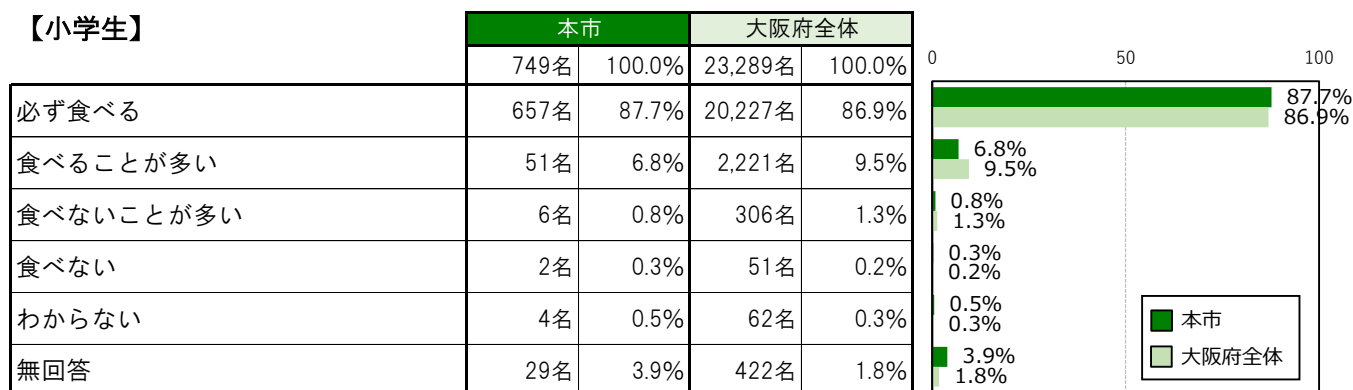
小学生は、「必ず食べる」が87.7%で最も多く、次いで「食べることが多い」が6.8%となっている。

中学生は、「必ず食べる」が79.0%で最も多く、次いで「食べることが多い」が16.3%となっている。

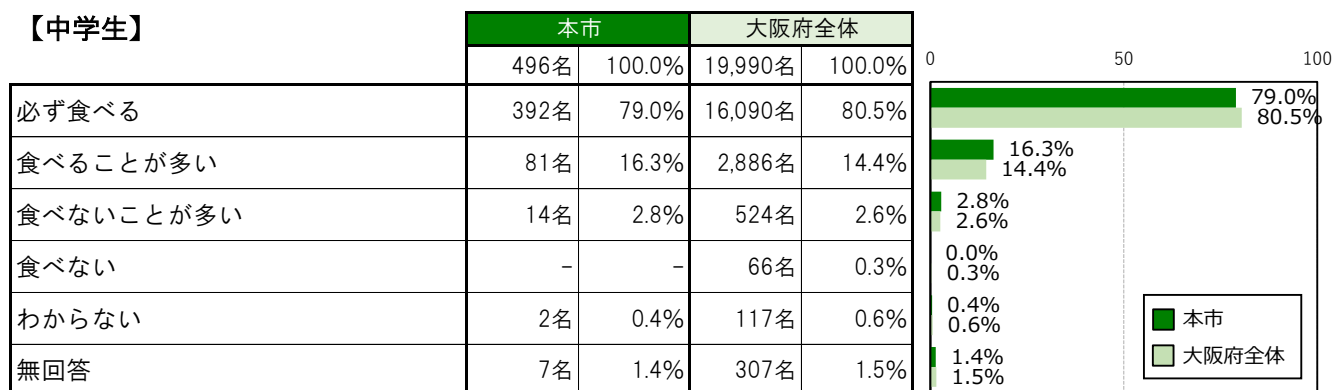
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

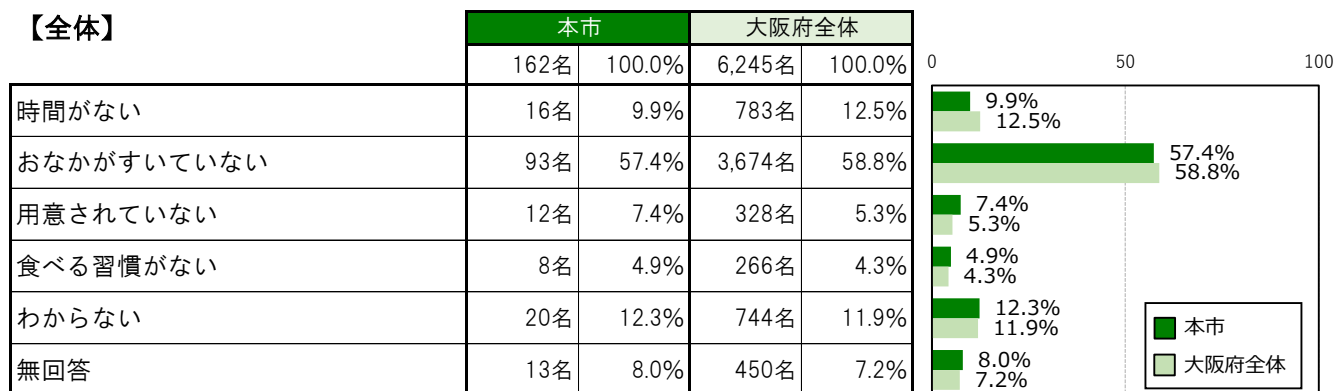
問6（2）休日に昼食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が57.4%で最も多く、次いで「時間がない」が9.9%、「用意されていない」が7.4%となっている。

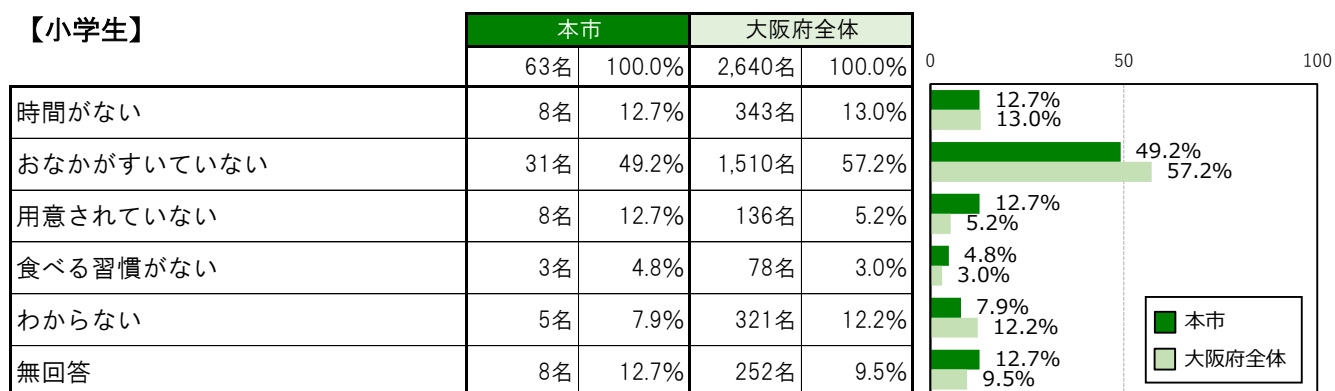
小学生は、「おなかがすいていない」が49.2%で最も多く、次いで「時間がない」、「用意されていない」がそれぞれ12.7%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が61.9%で最も多く、次いで「時間がない」が8.2%、「食べる習慣がない」が5.2%となっている。

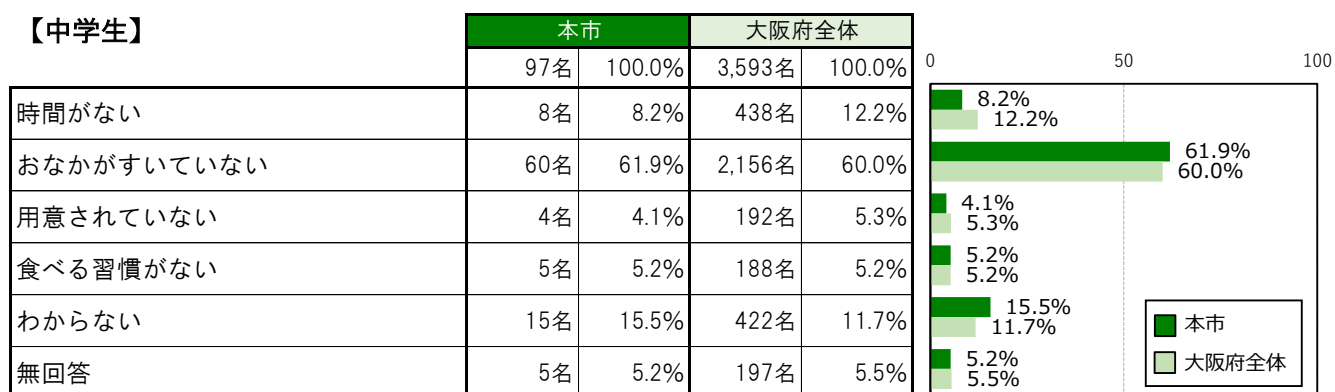
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

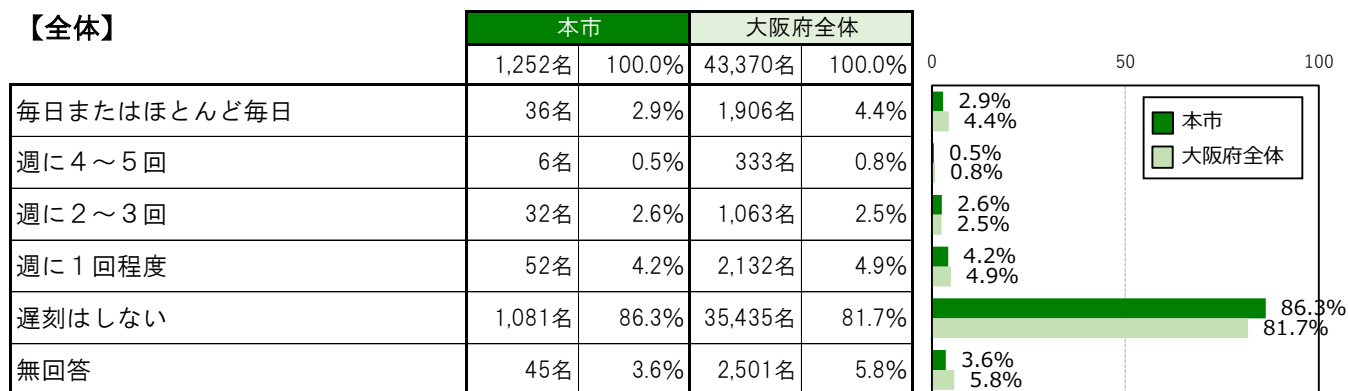
問7 学校への遅刻

全体は、「遅刻はしない」が86.3%で最も多く、次いで「週に1回程度」が4.2%、「毎日またはほとんど毎日」が2.9%、「週に2～3回」が2.6%となっている。

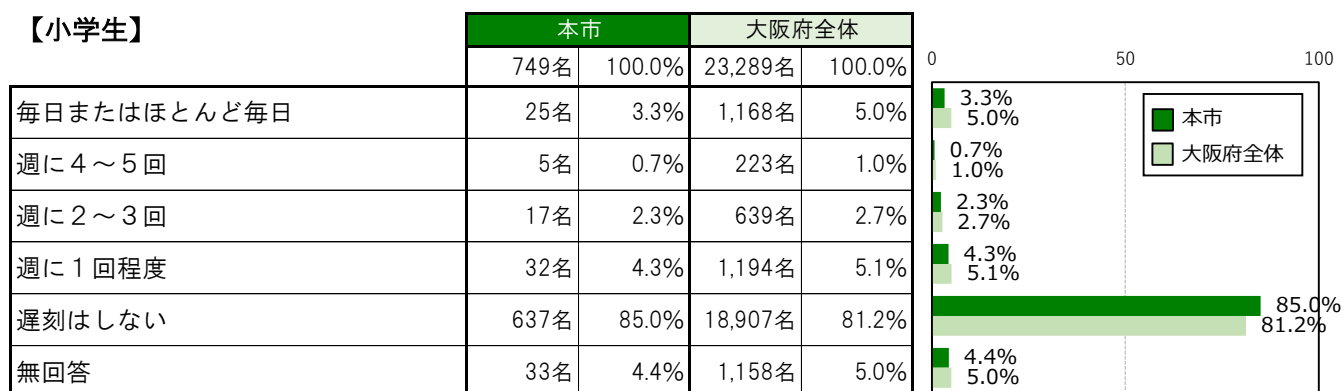
小学生は、「遅刻はしない」が85.0%で最も多く、次いで「週に1回程度」が4.3%、「毎日またはほとんど毎日」が3.3%、「週に2～3回」が2.3%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が88.3%で最も多く、次いで「週に1回程度」が3.8%、「週に2～3回」が3.0%、「毎日またはほとんど毎日」が2.2%となっている。

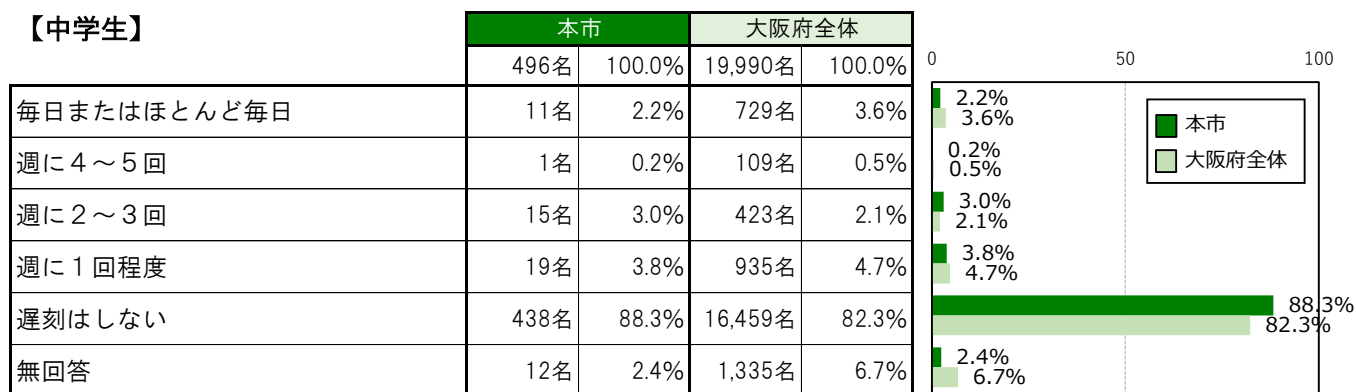
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ①おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

全体は、「ほとんど毎日」が46.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.0%、「週に2～3回」が10.9%、「まったくない」が9.7%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が51.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が13.9%、「週に2～3回」が10.5%、「週に4～5回」が7.3%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が38.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が19.2%、「まったくない」が14.7%、「週に2～3回」が11.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ②おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか

全体は、「ほとんど毎日」が79.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が8.4%、「週に2～3回」が5.8%、「週に1回程度」、「ほとんどない」がそれぞれ1.2%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が84.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」、「週に2～3回」がそれぞれ4.5%、「ほとんどない」が1.2%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が72.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が14.1%、「週に2～3回」が7.7%、「週に1回程度」が1.4%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



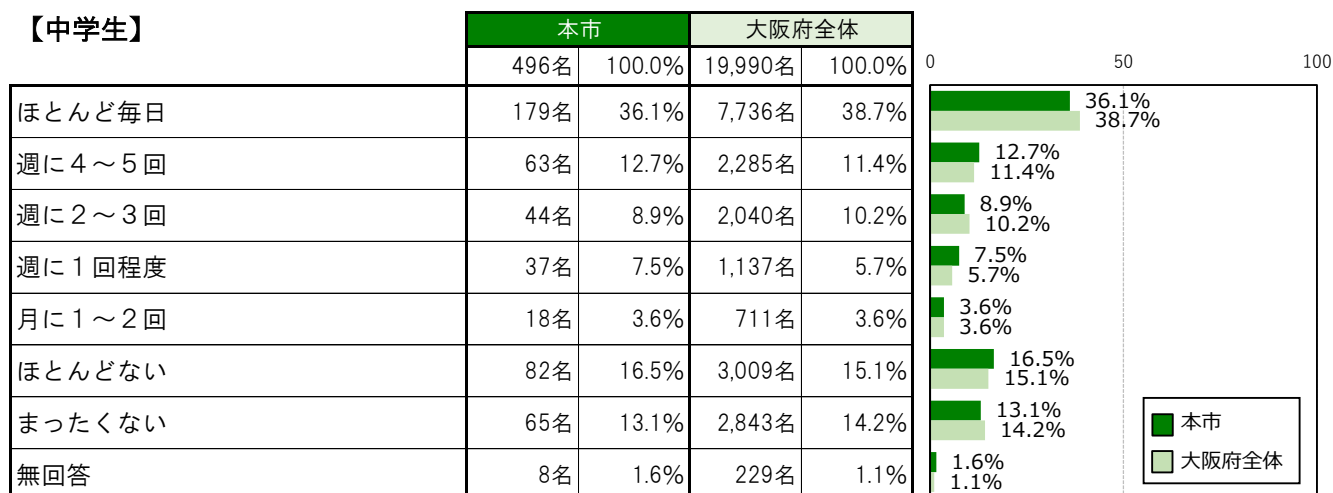
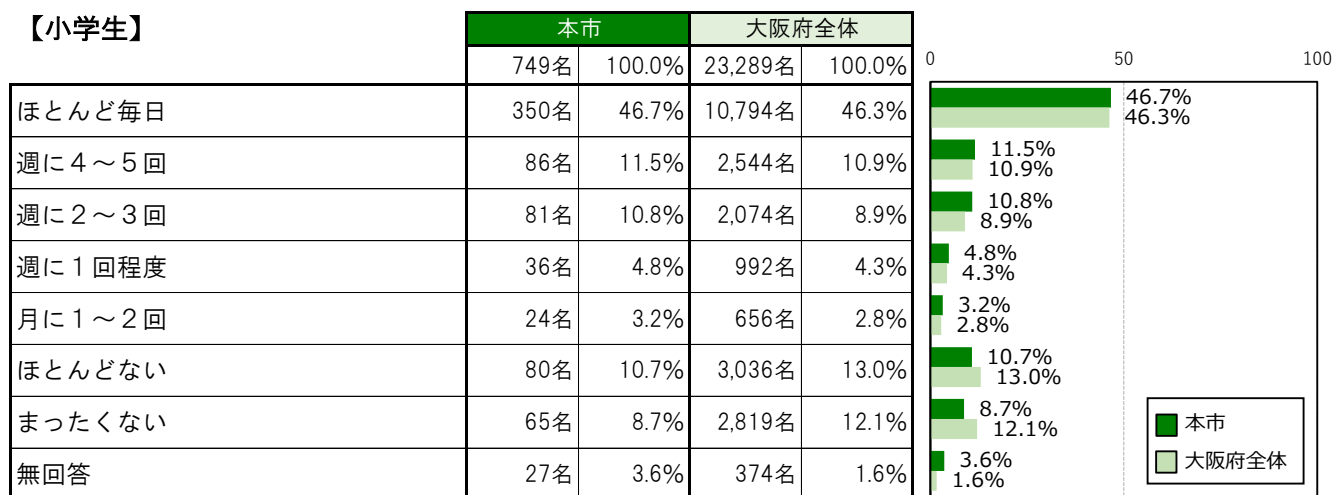
ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が42.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が13.0%、「週に4～5回」が12.1%、「まったくない」が10.5%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が46.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が11.5%、「週に2～3回」が10.8%、「ほとんどない」が10.7%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が36.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.5%、「まったくない」が13.1%、「週に4～5回」が12.7%となっている。



ふだんの生活のことについて

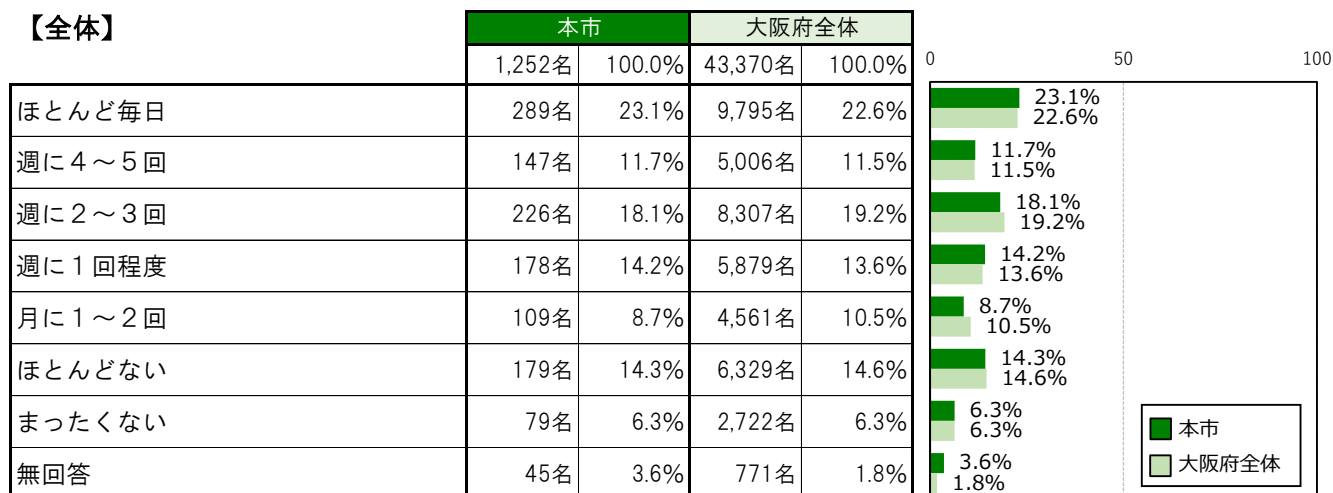
問8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

全体は、「ほとんど毎日」が23.1%で最も多く、次いで「週に2～3回」が18.1%、「ほとんどない」が14.3%、「週に1回程度」が14.2%となっている。

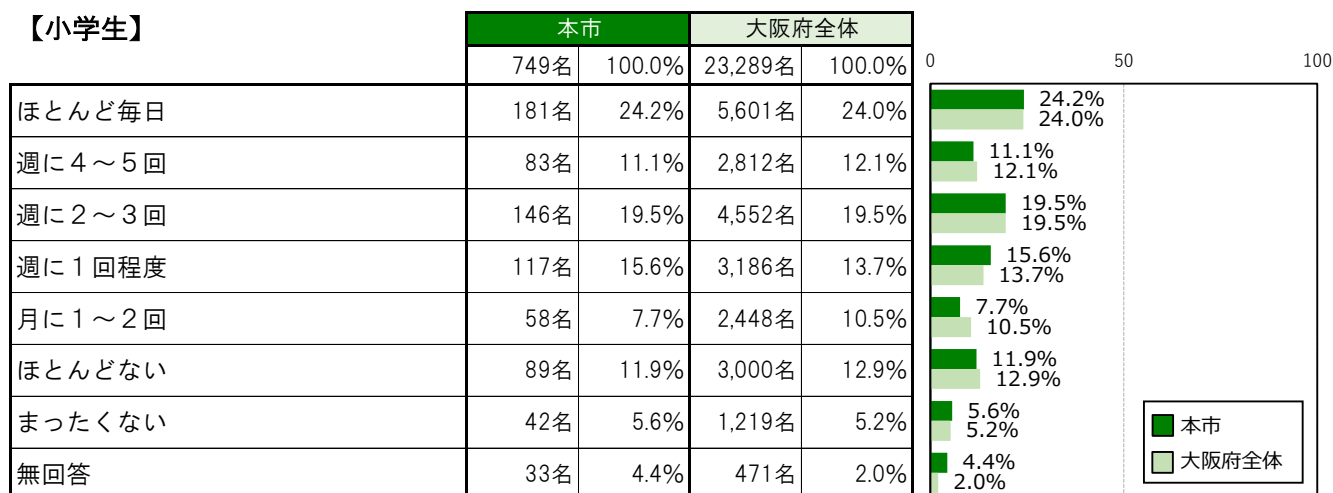
小学生は、「ほとんど毎日」が24.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が19.5%、「週に1回程度」が15.6%、「ほとんどない」が11.9%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が21.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.1%、「週に2～3回」が15.9%、「週に4～5回」が12.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

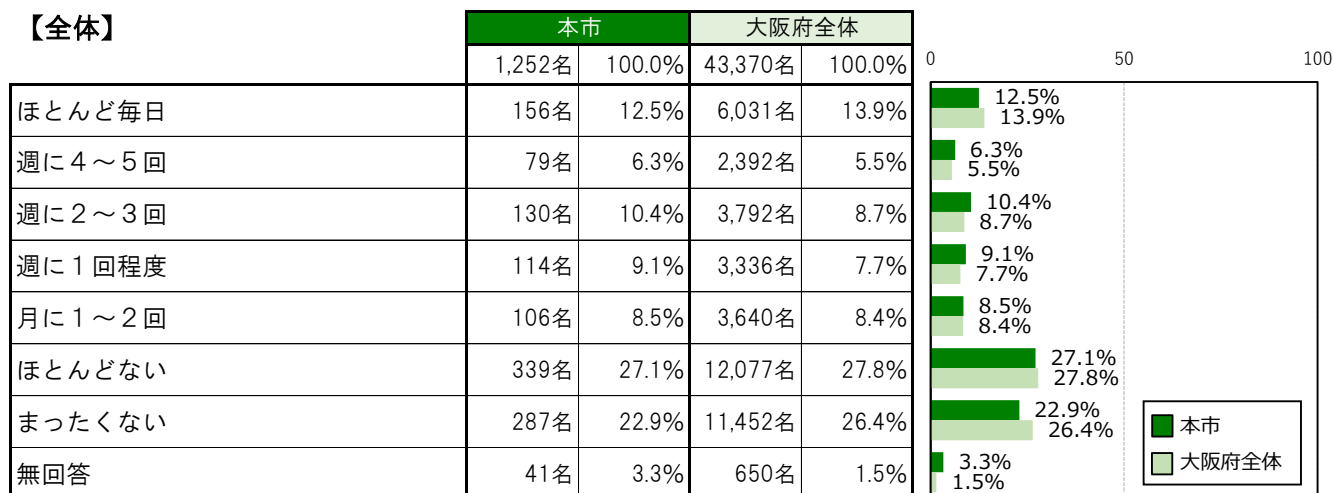
問8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

全体は、「ほとんどない」が27.1%で最も多く、次いで「まったくない」が22.9%、「ほとんど毎日」が12.5%、「週に2～3回」が10.4%となっている。

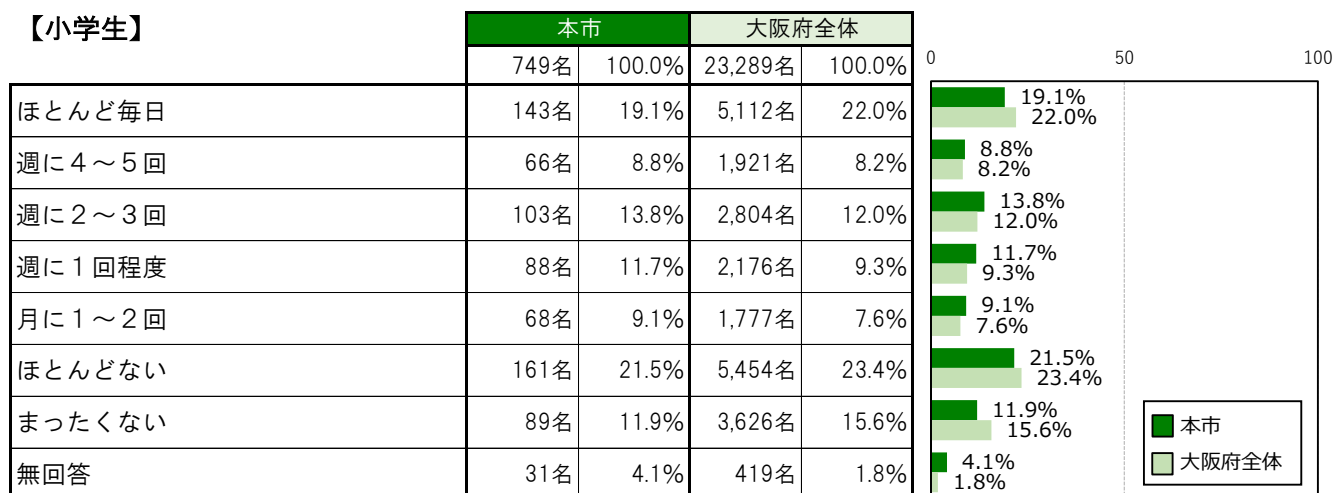
小学生は、「ほとんどない」が21.5%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が19.1%、「週に2～3回」が13.8%、「まったくない」が11.9%となっている。

中学生は、「まったくない」が39.9%で最も多く、次いで「ほとんどない」が35.3%、「月に1～2回」が7.5%、「週に2～3回」が5.4%となっている。

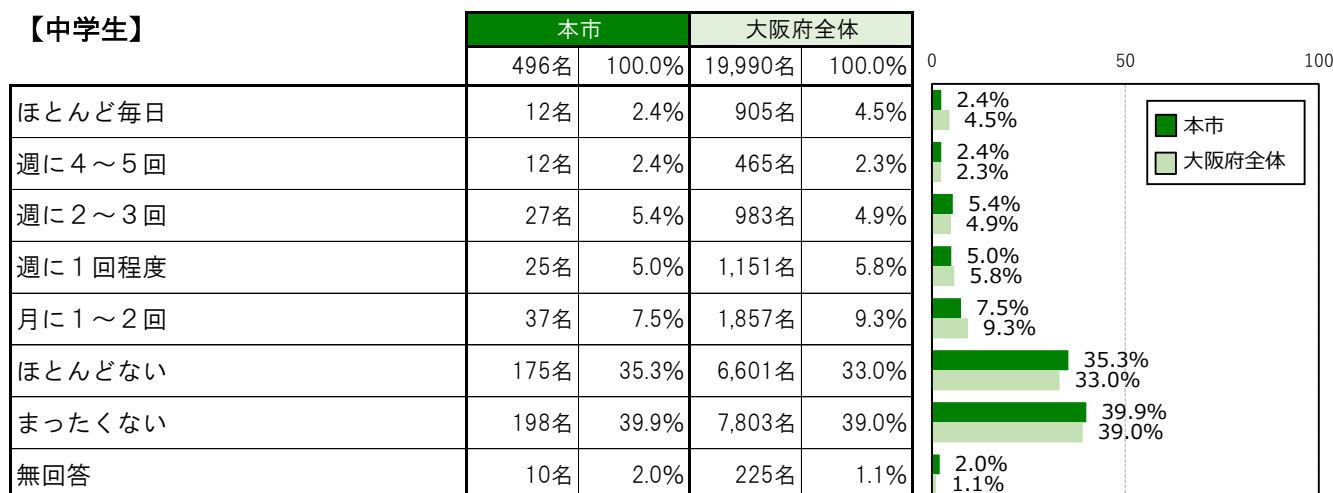
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

全体は、「ほとんど毎日」が43.4%で最も多く、次いで「週に4～5回」が17.0%、「週に2～3回」が15.9%、「週に1回程度」が7.7%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が47.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が17.9%、「週に2～3回」が13.6%、「週に1回程度」が6.8%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が37.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が19.6%、「週に4～5回」が15.7%、「ほとんどない」が8.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

全体は、「ほとんどない」が23.9%で最も多く、次いで「週に1回程度」が15.9%、「週に2～3回」が14.9%、「月に1～2回」が12.9%となっている。

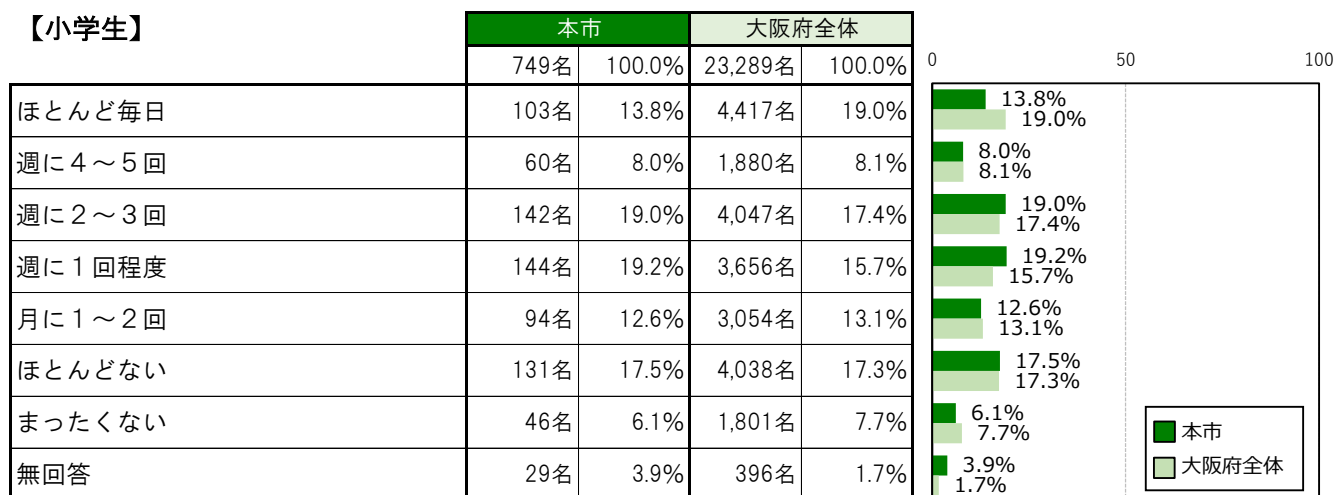
小学生は、「週に1回程度」が19.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が19.0%、「ほとんどない」が17.5%、「ほとんど毎日」が13.8%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が33.5%で最も多く、次いで「まったくない」が19.4%、「月に1～2回」が13.5%、「週に1回程度」が10.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「週に2～3回」が20.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.7%、「ほとんど毎日」が17.3%、「週に1回程度」が13.6%となっている。

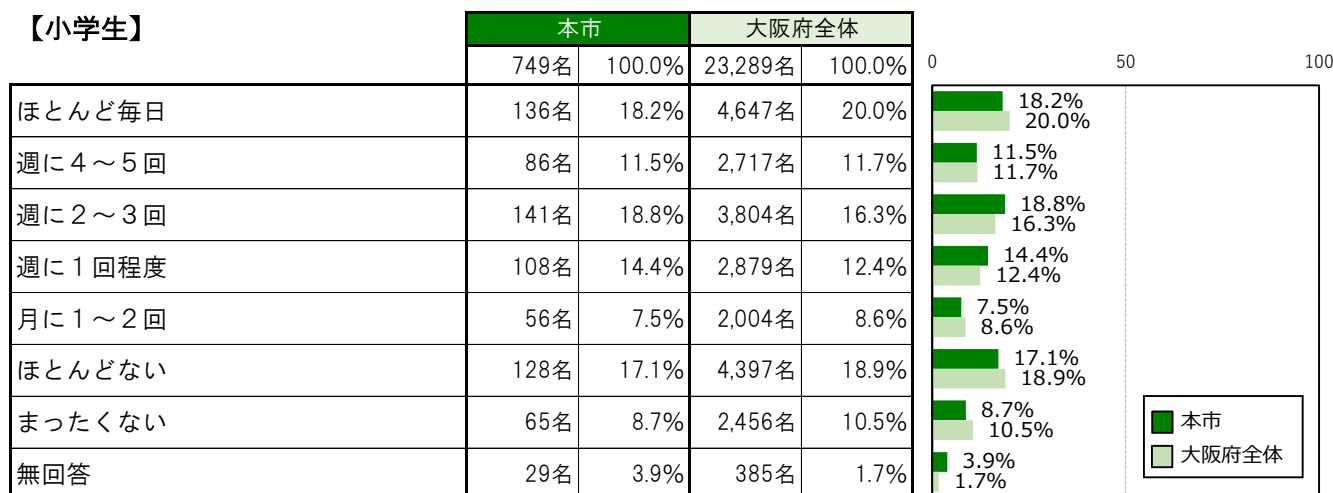
小学生は、「週に2～3回」が18.8%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が18.2%、「ほとんどない」が17.1%、「週に1回程度」が14.4%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が22.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.8%、「ほとんど毎日」が15.9%、「週に1回程度」が12.1%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

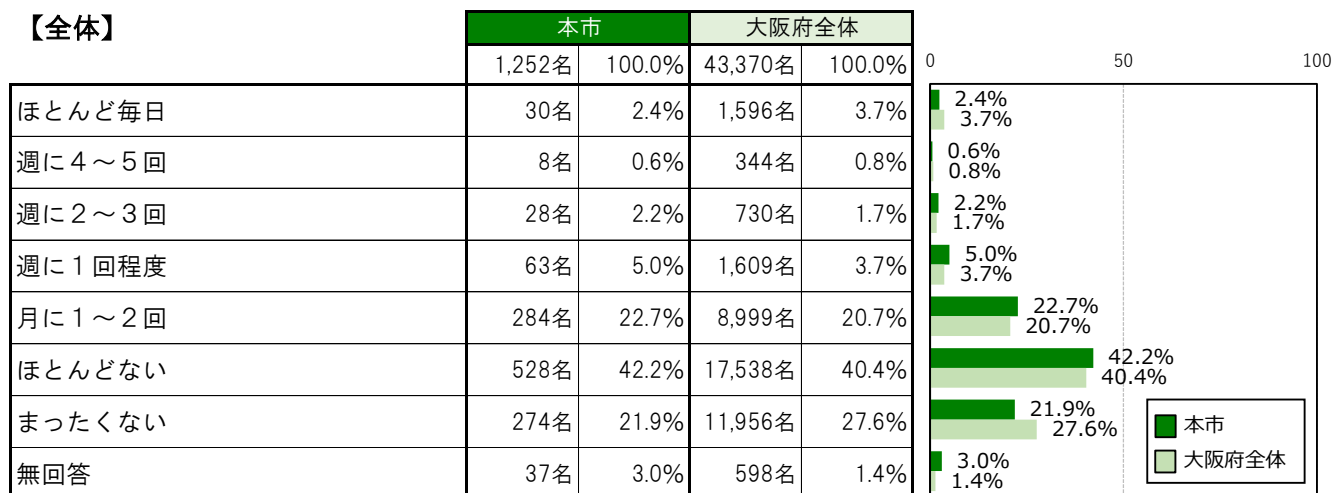
問8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

全体は、「ほとんどない」が42.2%で最も多く、次いで「月に1～2回」が22.7%、「まったくない」が21.9%、「週に1回程度」が5.0%となっている。

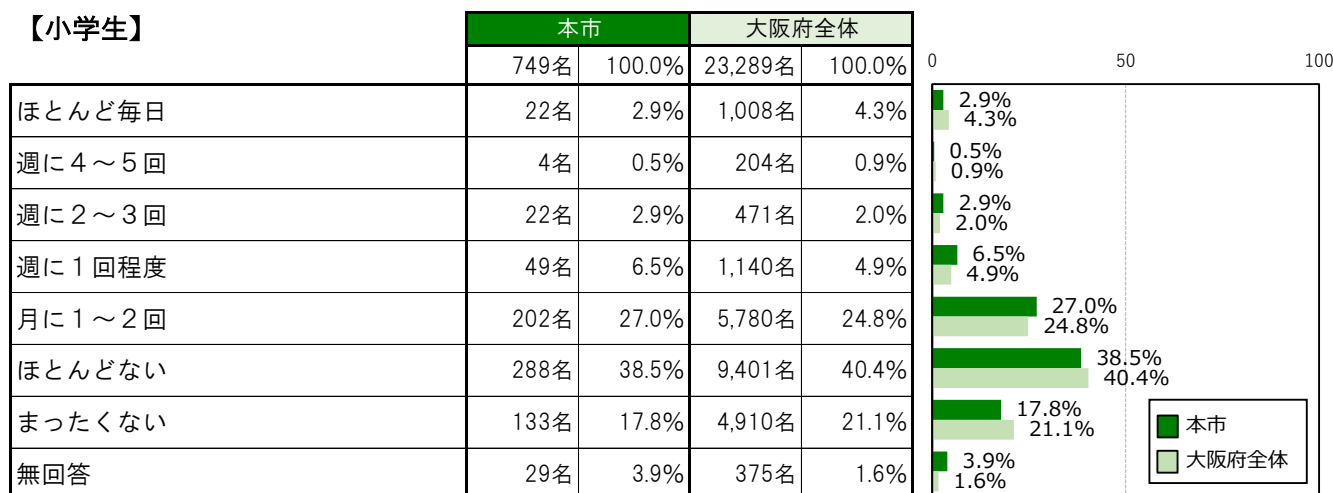
小学生は、「ほとんどない」が38.5%で最も多く、次いで「月に1～2回」が27.0%、「まったくない」が17.8%、「週に1回程度」が6.5%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が47.8%で最も多く、次いで「まったくない」が28.2%、「月に1～2回」が16.1%、「週に1回程度」が2.8%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑩うちの大人のひとと一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

全体は、「週に1回程度」が31.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が27.6%、「月に1～2回」が19.9%、「ほとんど毎日」が7.7%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が32.0%で最も多く、次いで「週に1回程度」が31.1%、「月に1～2回」が13.8%、「ほとんど毎日」が8.9%となっている。

中学生は、「週に1回程度」が31.5%で最も多く、次いで「月に1～2回」が29.0%、「週に2～3回」が21.4%、「ほとんどない」が6.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

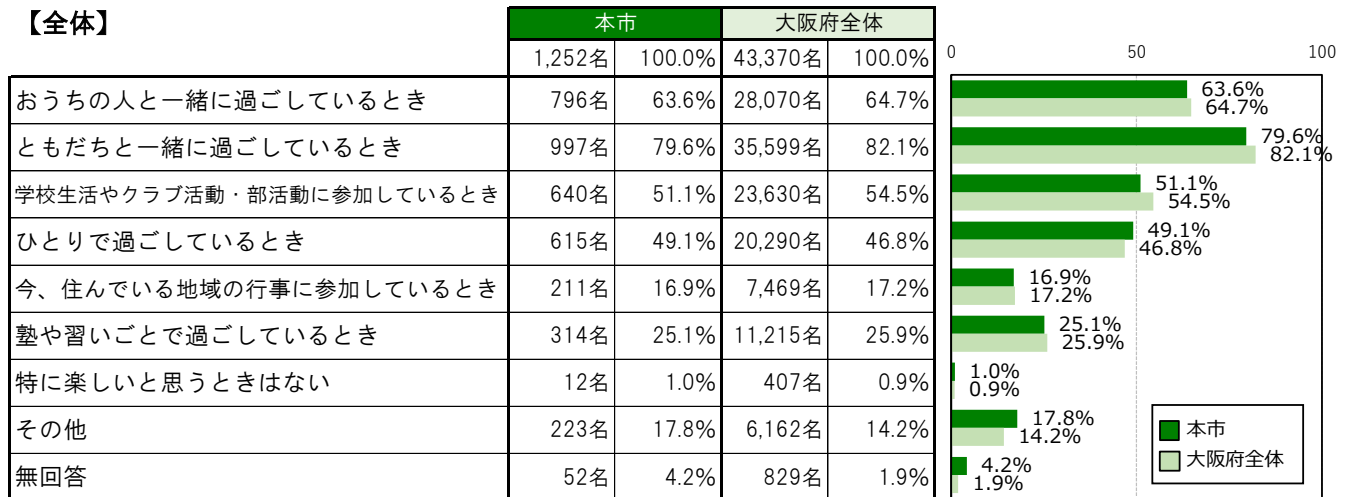
問9 毎日の生活で楽しいこと

全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が79.6%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が63.6%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が51.1%、「ひとりで過ごしているとき」が49.1%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が81.0%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が71.6%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が48.9%、「ひとりで過ごしているとき」が39.9%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が77.2%で最も多く、次いで「ひとりで過ごしているとき」が63.5%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が54.2%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が51.6%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



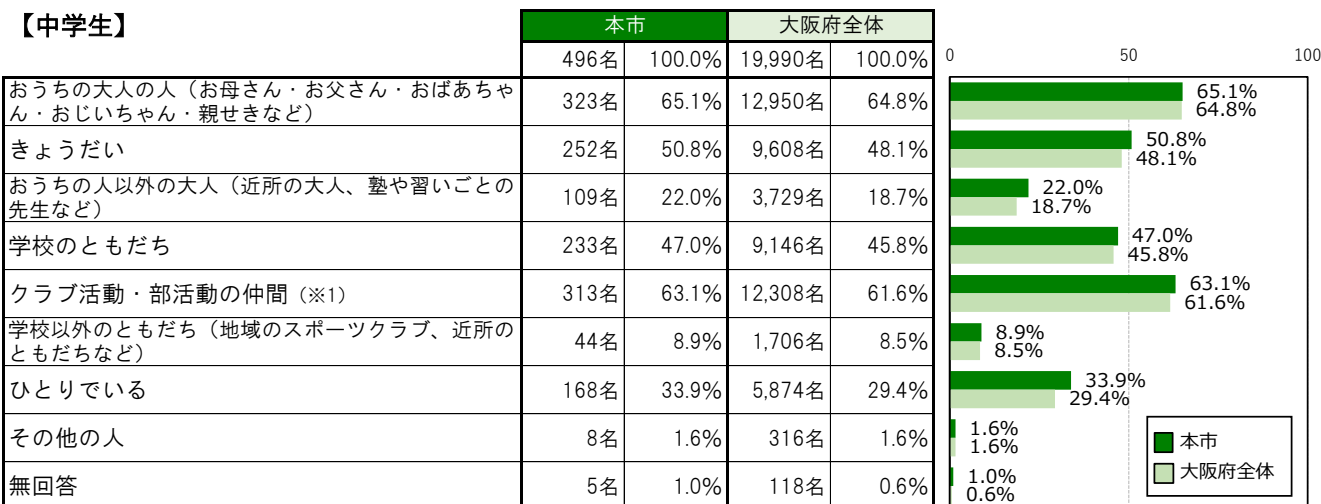
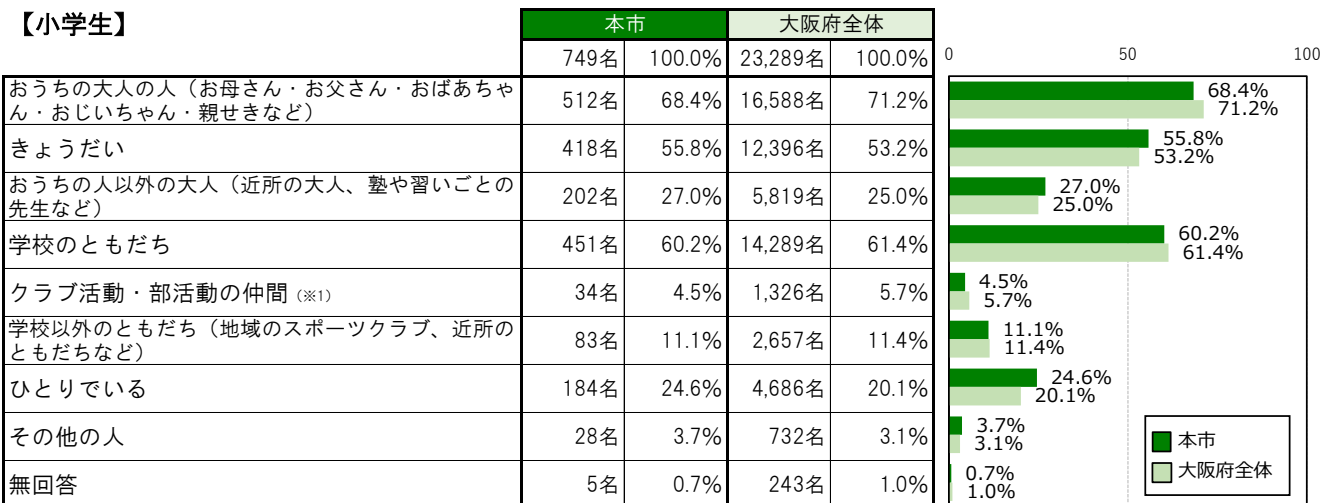
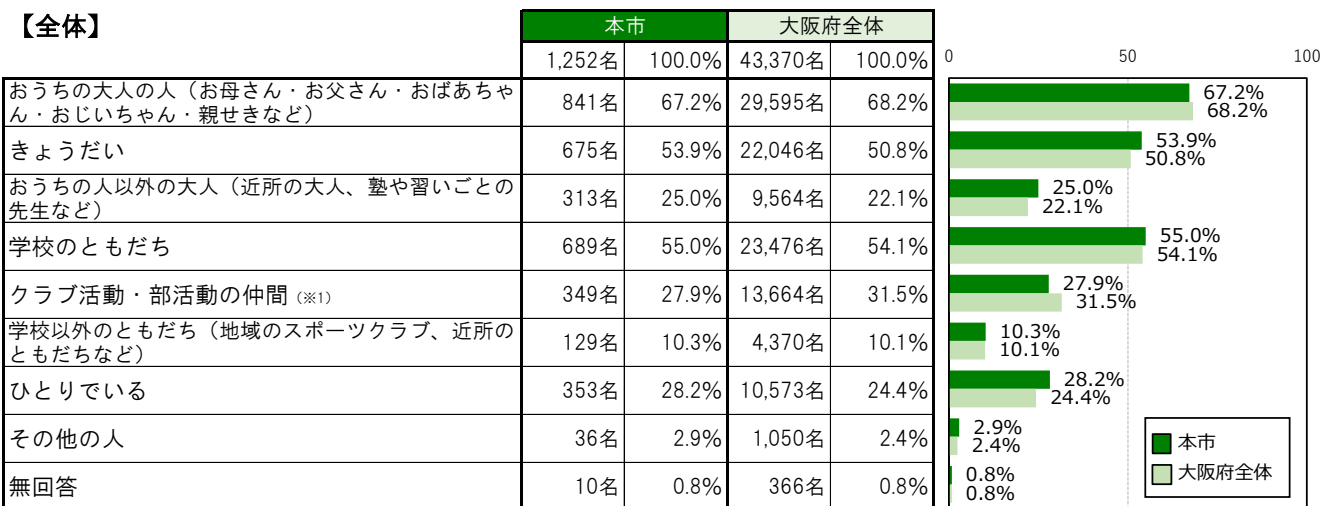
ふだんの生活のことについて

問10 放課後を一緒に過ごす人

全体は、「おうちの大人の人(お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど)」が67.2%で最も多く、次いで「学校のともだち」が55.0%、「きょうだい」が53.9%、「ひとりでいる」が28.2%となっている。

小学生は、「おうちの大人の人(お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど)」が68.4%で最も多く、次いで「学校のともだち」が60.2%、「きょうだい」が55.8%、「おうちの人以外の大人(近所の大人、塾や習いごとの先生など)」が27.0%となっている。

中学生は、「おうちの大人の人(お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど)」が65.1%で最も多く、次いで「クラブ活動・部活動の仲間」が63.1%、「きょうだい」が50.8%、「学校のともだち」が47.0%となっている。



※1 2016年調査では「クラブ活動の仲間」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「ひとりである」が10.6ポイント高いが、「クラブ活動・部活動の仲間」（2016年調査では「クラブ活動の仲間」）が12.2ポイント低くなっている。

小学生は、「クラブ活動・部活動の仲間」が11.5ポイント低くなっている。

中学生は、「ひとりである」が16.6ポイント高いが、「クラブ活動・部活動の仲間」が7.5ポイント低くなっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

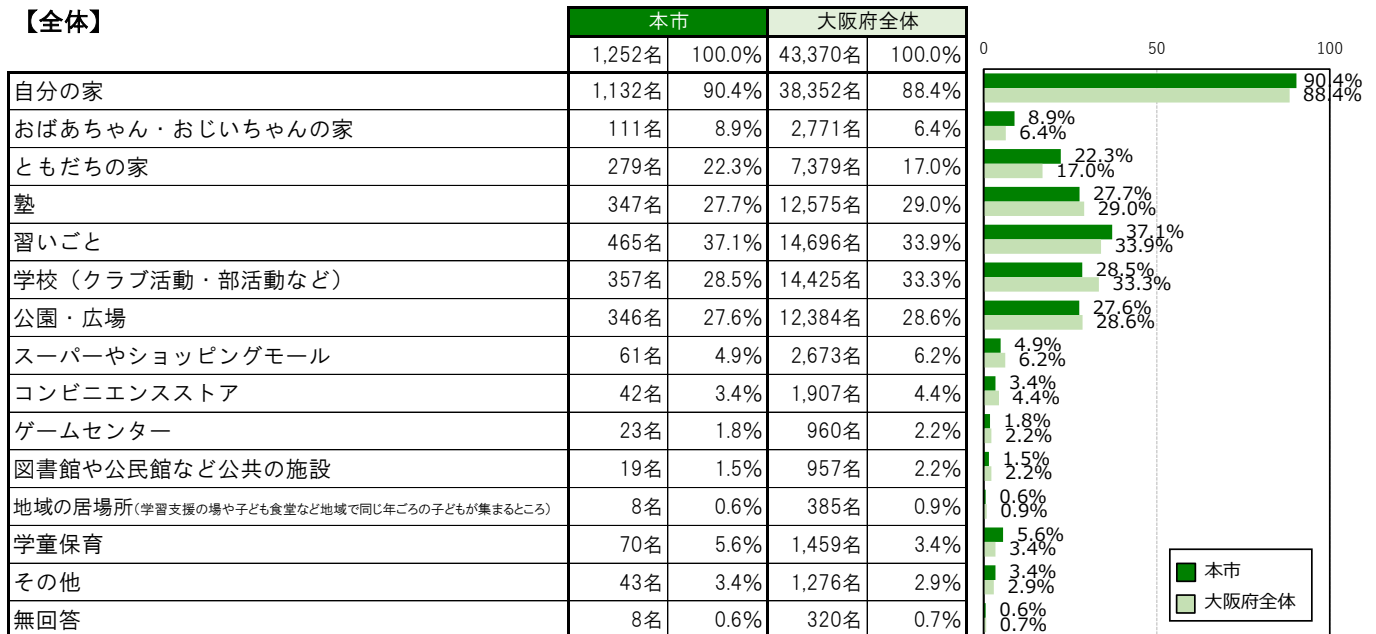
問11 放課後を過ごす場所

全体は、「自分の家」が90.4%で最も多く、次いで「習いごと」が37.1%、「学校（クラブ活動・部活動など）」が28.5%、「塾」が27.7%となっている。

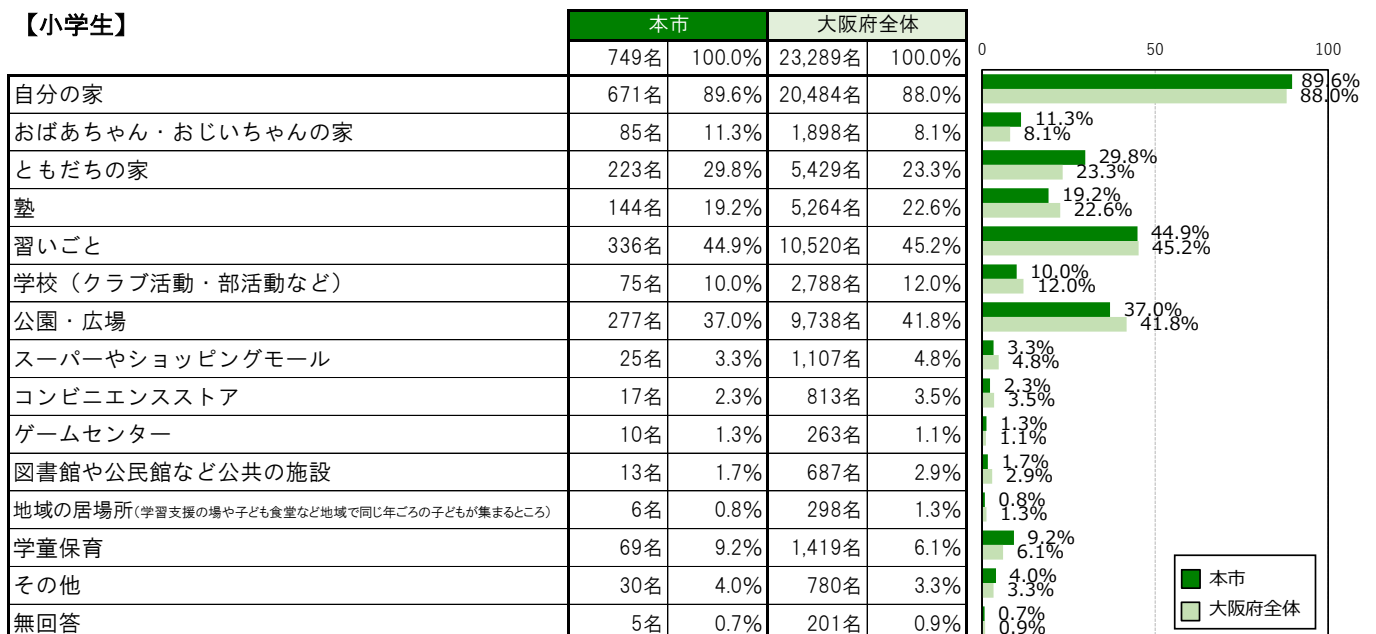
小学生は、「自分の家」が89.6%で最も多く、次いで「習いごと」が44.9%、「公園・広場」が37.0%、「ともだちの家」が29.8%となっている。

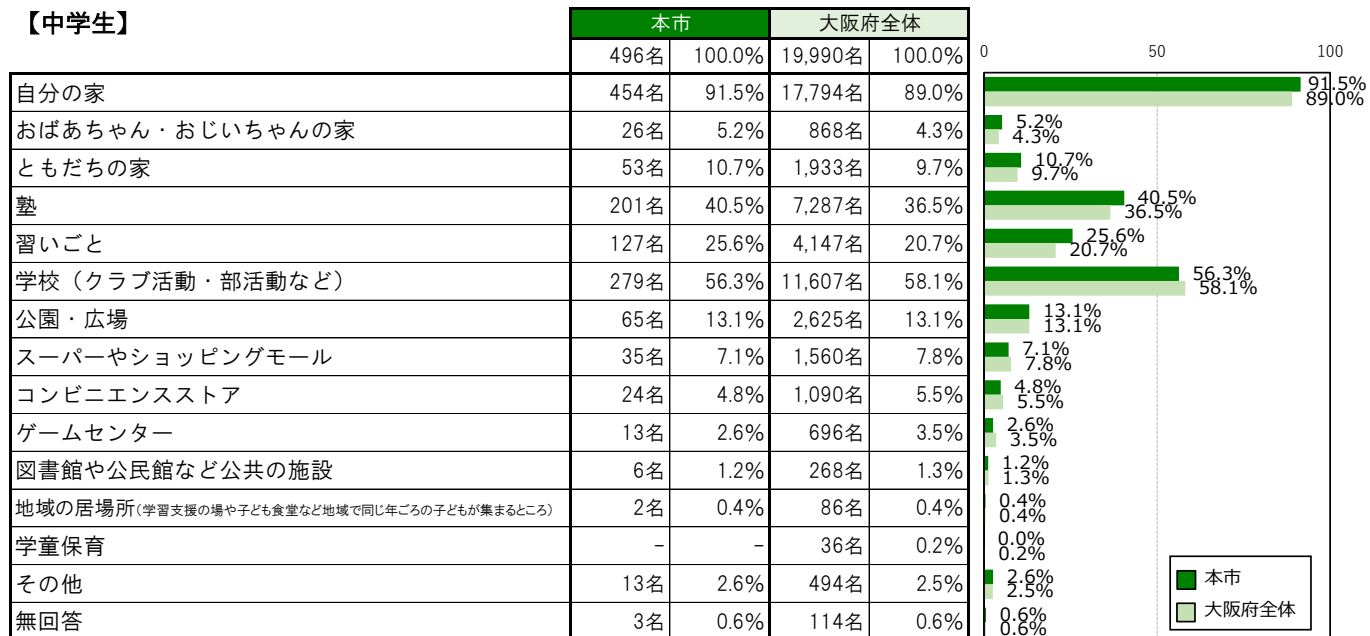
中学生は、「自分の家」が91.5%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が56.3%、「塾」が40.5%、「習いごと」が25.6%となっている。

【全体】



【小学生】





ふだんの生活のことについて

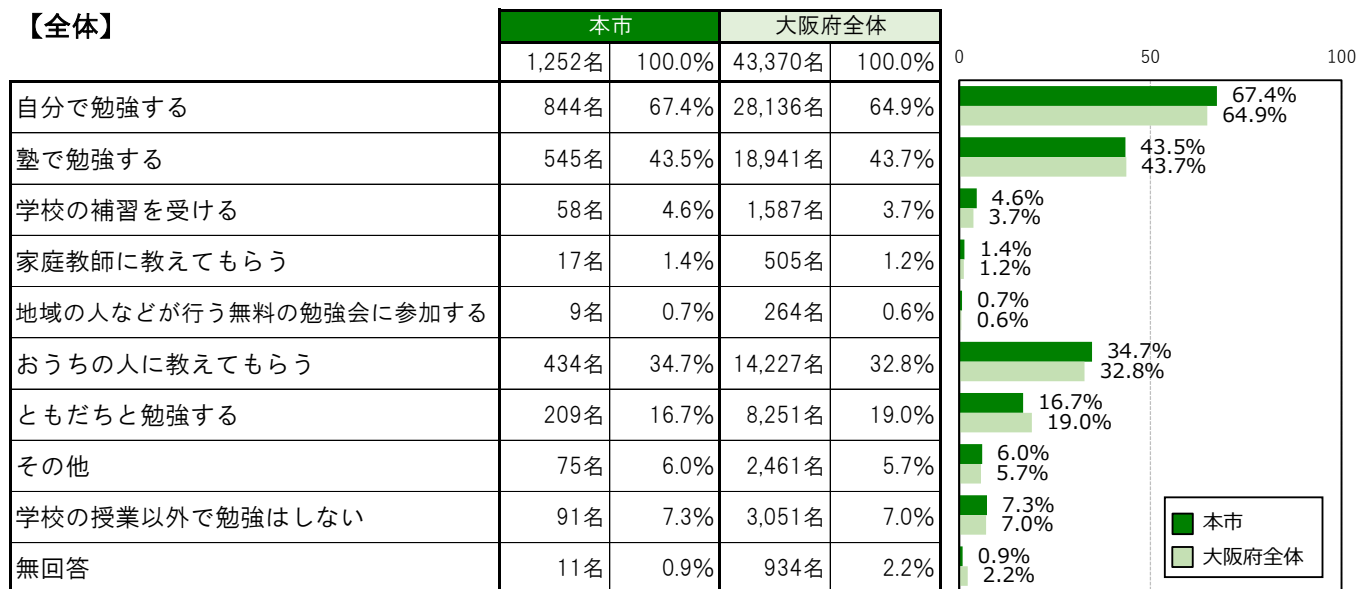
問12 授業以外の勉強状況

全体は、「自分で勉強する」が67.4%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が43.5%、「おうちの人に教えてもらう」が34.7%、「ともだちと勉強する」が16.7%となっている。

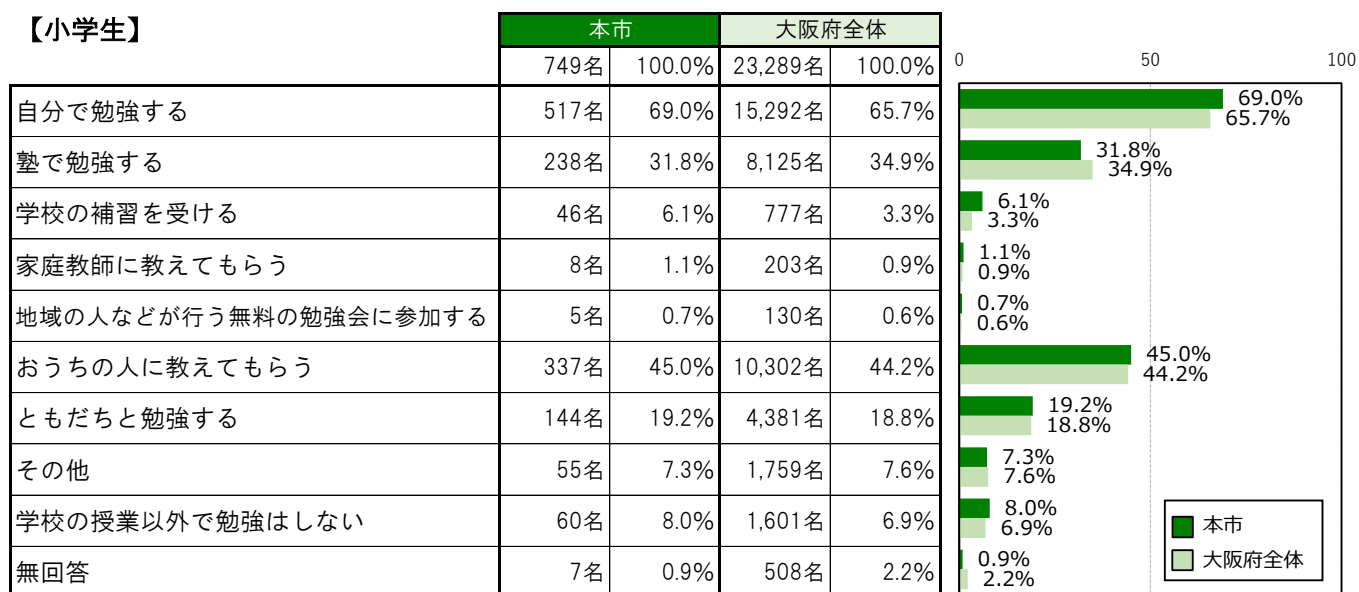
小学生は、「自分で勉強する」が69.0%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が45.0%、「塾で勉強する」が31.8%、「ともだちと勉強する」が19.2%となっている。

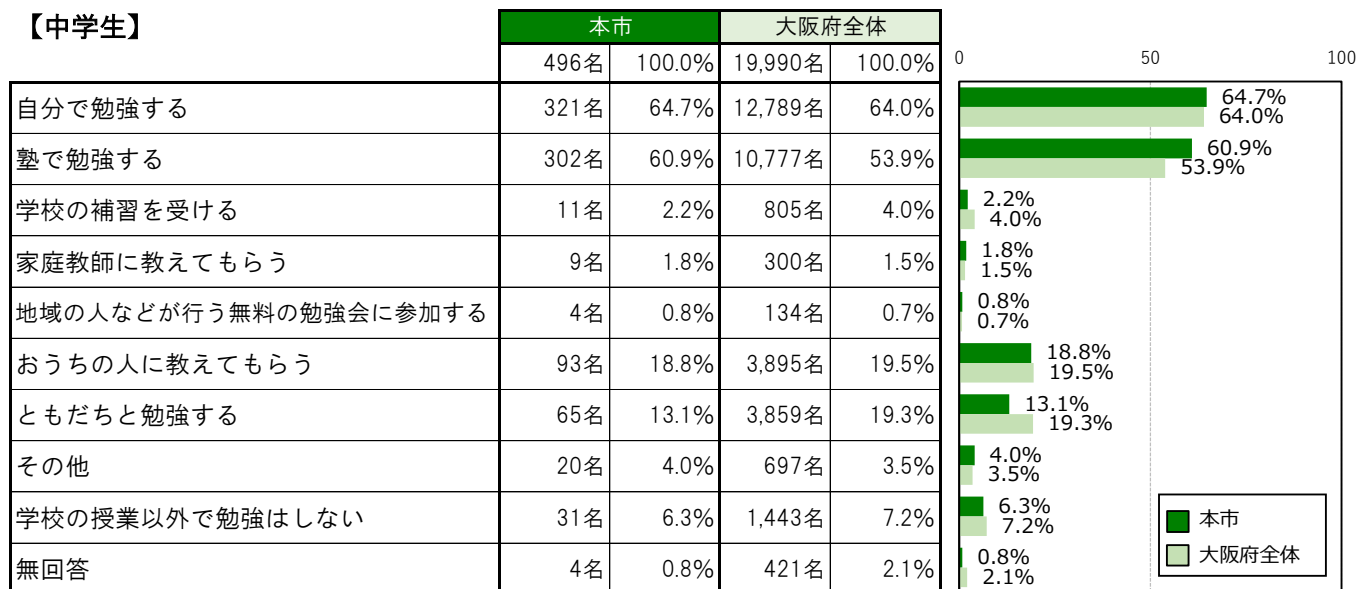
中学生は、「自分で勉強する」が64.7%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が60.9%、「おうちの人に教えてもらう」が18.8%、「ともだちと勉強する」が13.1%となっている。

【全体】



【小学生】





ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）

全体は、「30分以上、1時間より少ない」が27.2%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が24.2%、「30分より少ない」が18.0%となっている。

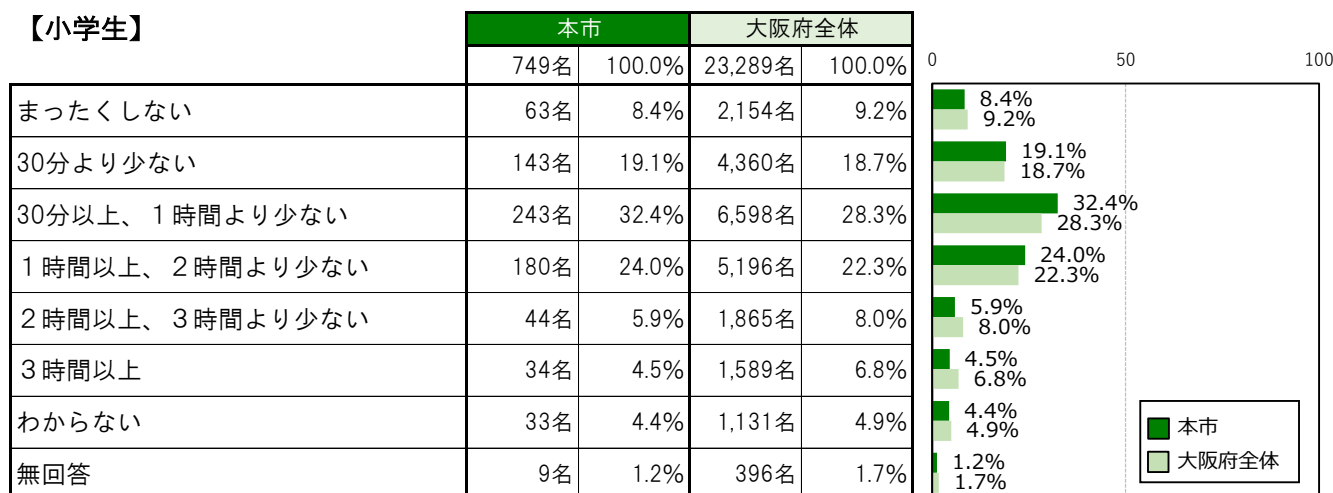
小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が32.4%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が24.0%、「30分より少ない」が19.1%となっている。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が24.2%で最も多く、次いで「2時間以上、3時間より少ない」が19.8%、「30分以上、1時間より少ない」が18.8%となっている。

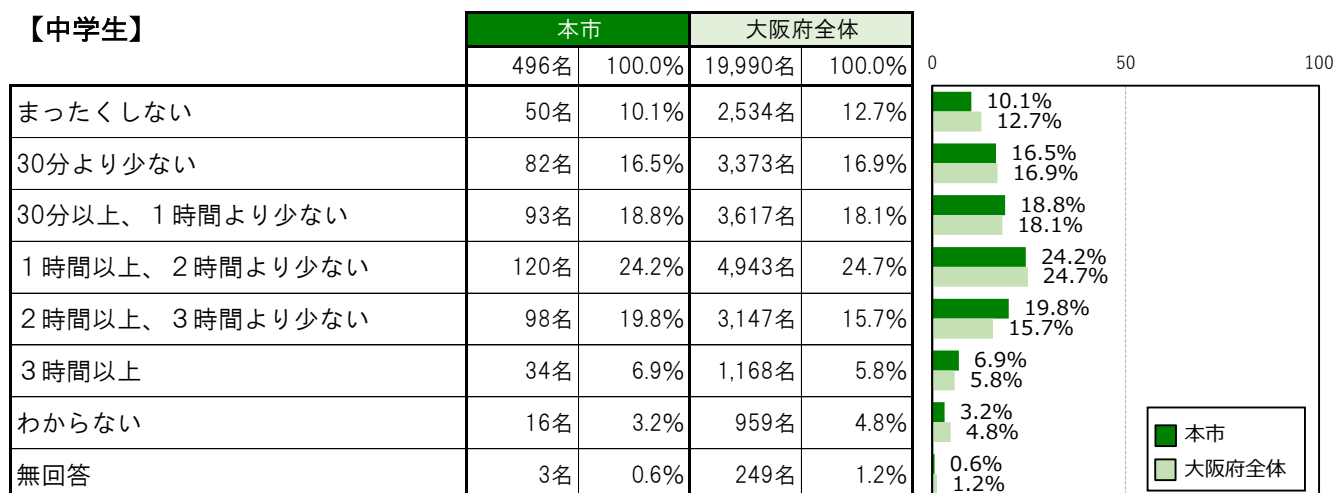
【全体】



【小学生】



【中学生】



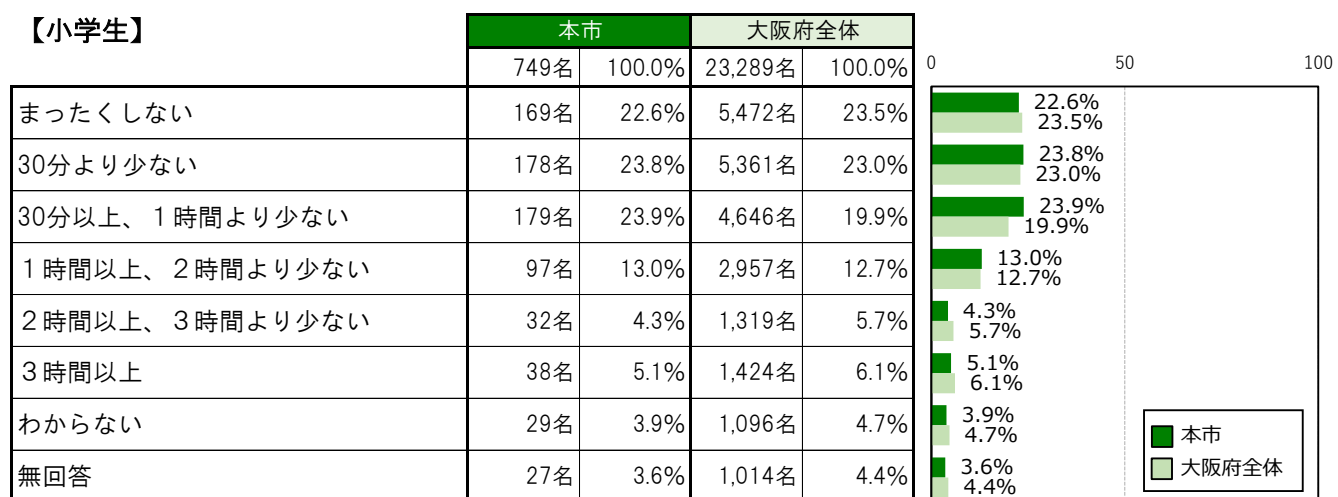
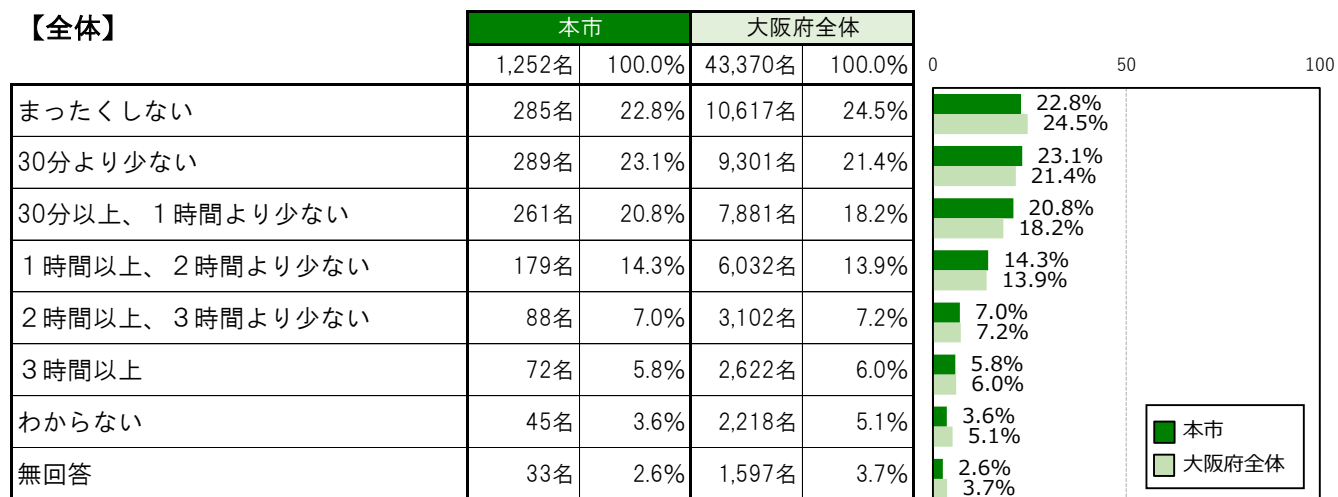
ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「30分より少ない」が23.1%で最も多く、次いで「まったくしない」が22.8%、「30分以上、1時間より少ない」が20.8%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が23.9%で最も多く、次いで「30分より少ない」が23.8%、「まったくしない」が22.6%となっている。

中学生は、「まったくしない」が23.2%で最も多く、次いで「30分より少ない」が22.0%、「30分以上、1時間より少ない」が16.3%、「1時間以上、2時間より少ない」がそれぞれ16.3%となっている。



ふだんの生活のことについて

問14（１）学校の勉強で気持ちに近いもの

全体は、「だいたいわかる」が57.7%で最も多く、次いで「よくわかる」が28.1%、「あまりわからない」が10.8%となっている。

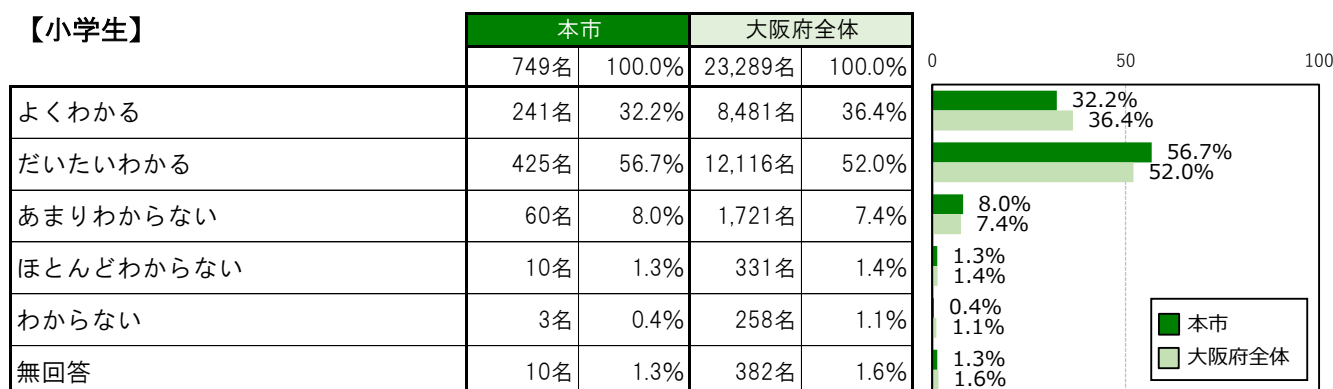
小学生は、「だいたいわかる」が56.7%で最も多く、次いで「よくわかる」が32.2%、「あまりわからない」が8.0%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が59.1%で最も多く、次いで「よくわかる」が22.0%、「あまりわからない」が15.1%となっている。

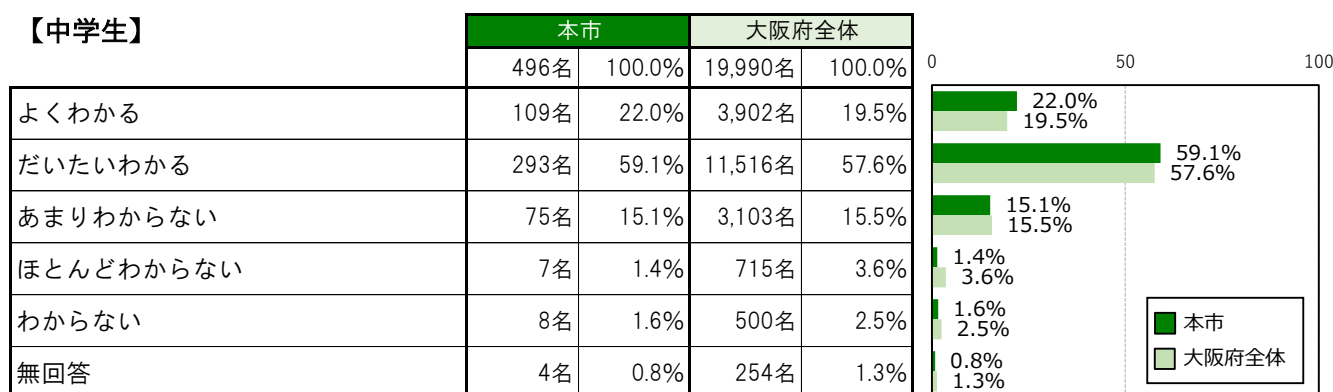
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問14（2）授業がわからなくなった時期

全体は、「中学1年生のころ」が29.4%で最も多く、次いで「小学3・4年生のころ」が22.7%、「小学5年生になってから」が16.0%、「中学2年生になってから」が12.9%となっている。

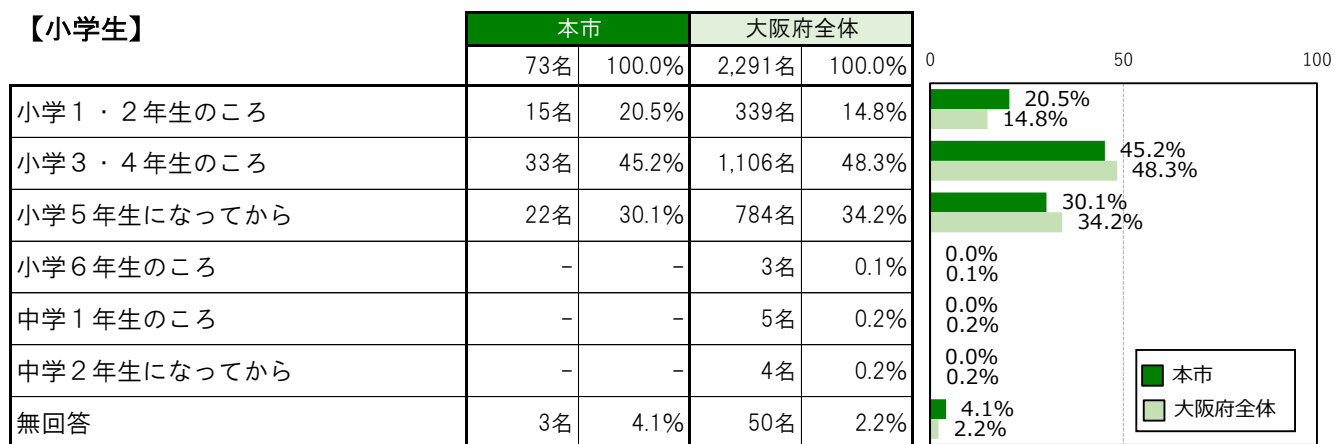
小学生は、「小学3・4年生のころ」が45.2%で最も多く、次いで「小学5年生になってから」が30.1%となっている。

中学生は、「中学1年生のころ」が53.3%で最も多く、次いで「中学2年生になってから」が23.3%、「小学6年生のころ」が11.1%、「小学3・4年生のころ」、「小学5年生になってから」がそれぞれ4.4%となっている。

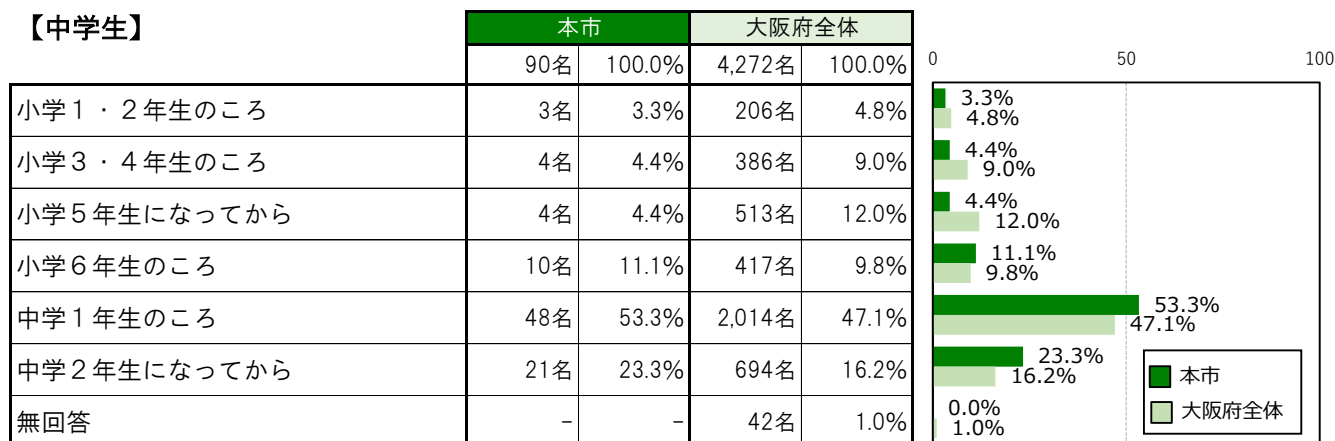
【全体】



【小学生】



【中学生】



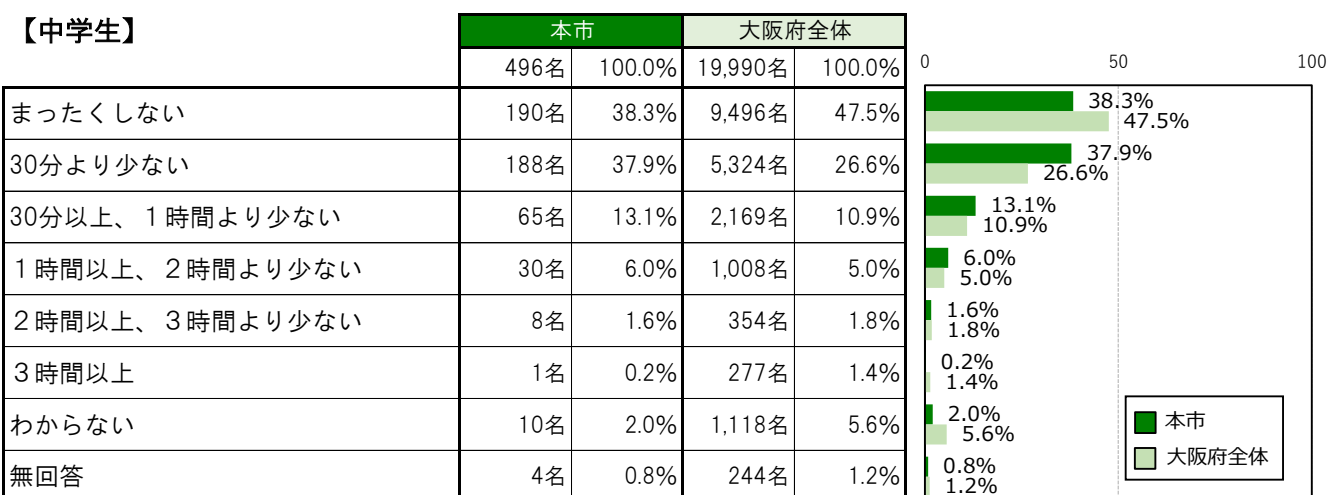
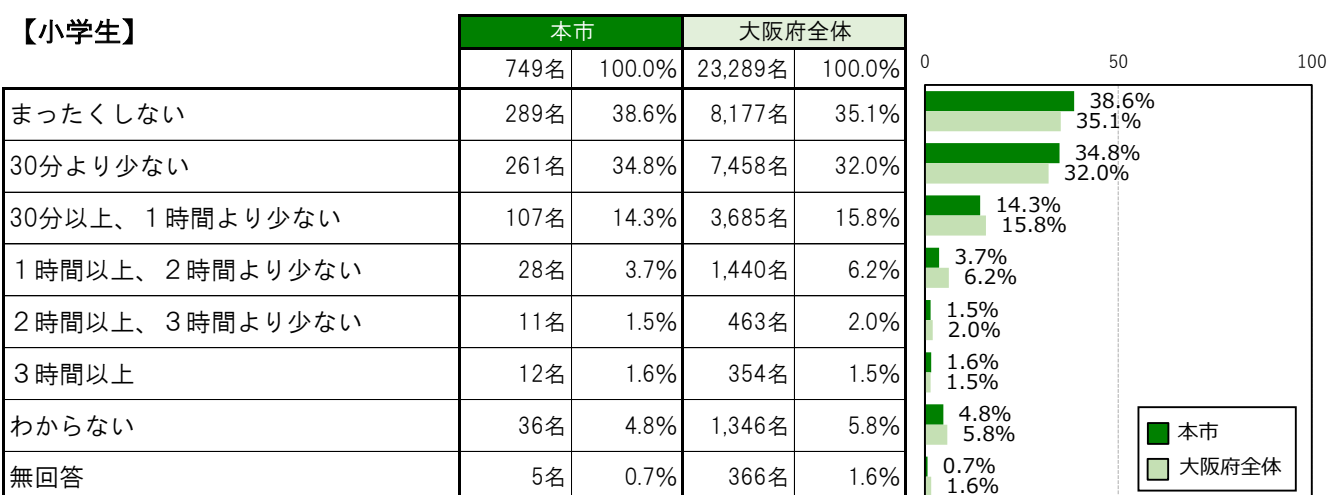
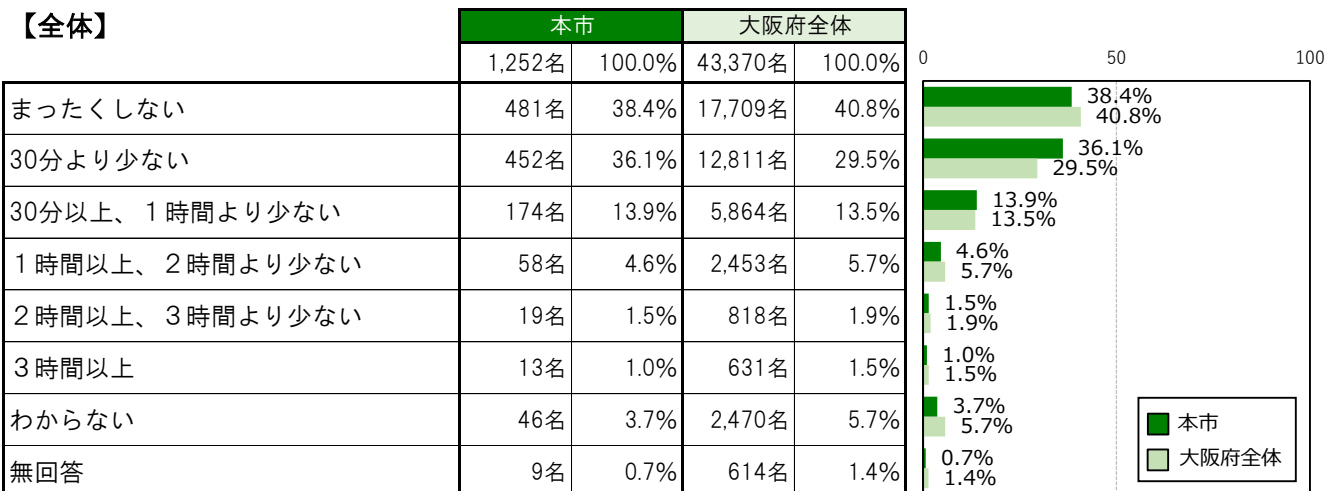
ふだんの生活のことについて

問15 授業以外の読書時間

全体は、「まったくしない」が38.4%で最も多く、次いで「30分より少ない」が36.1%、「30分以上、1時間より少ない」が13.9%、「1時間以上、2時間より少ない」が4.6%となっている。

小学生は、「まったくしない」が38.6%で最も多く、次いで「30分より少ない」が34.8%、「30分以上、1時間より少ない」が14.3%、「1時間以上、2時間より少ない」が3.7%となっている。

中学生は、「まったくしない」が38.3%で最も多く、次いで「30分より少ない」が37.9%、「30分以上、1時間より少ない」が13.1%、「1時間以上、2時間より少ない」が6.0%となっている。



ふだんの生活のことについて

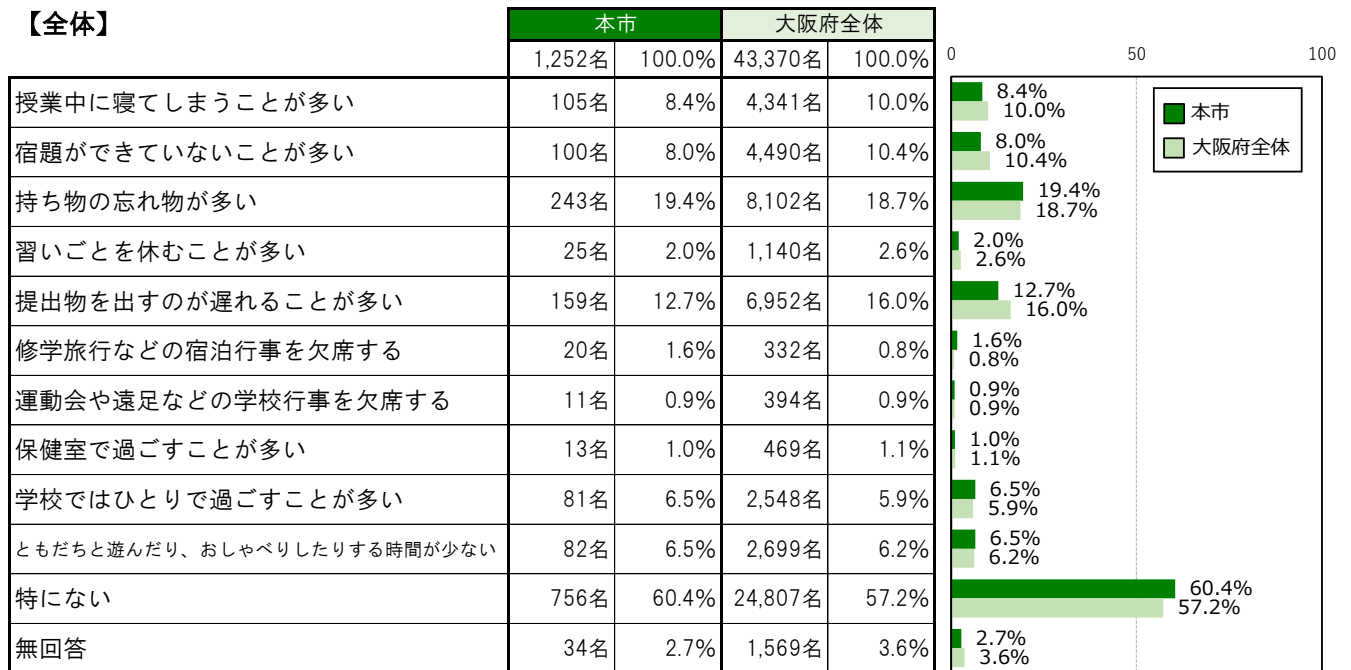
問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「持ち物の忘れ物が多い」が19.4%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が12.7%、「授業中に寝てしまうことが多い」が8.4%、「宿題ができていないことが多い」が8.0%となっている。

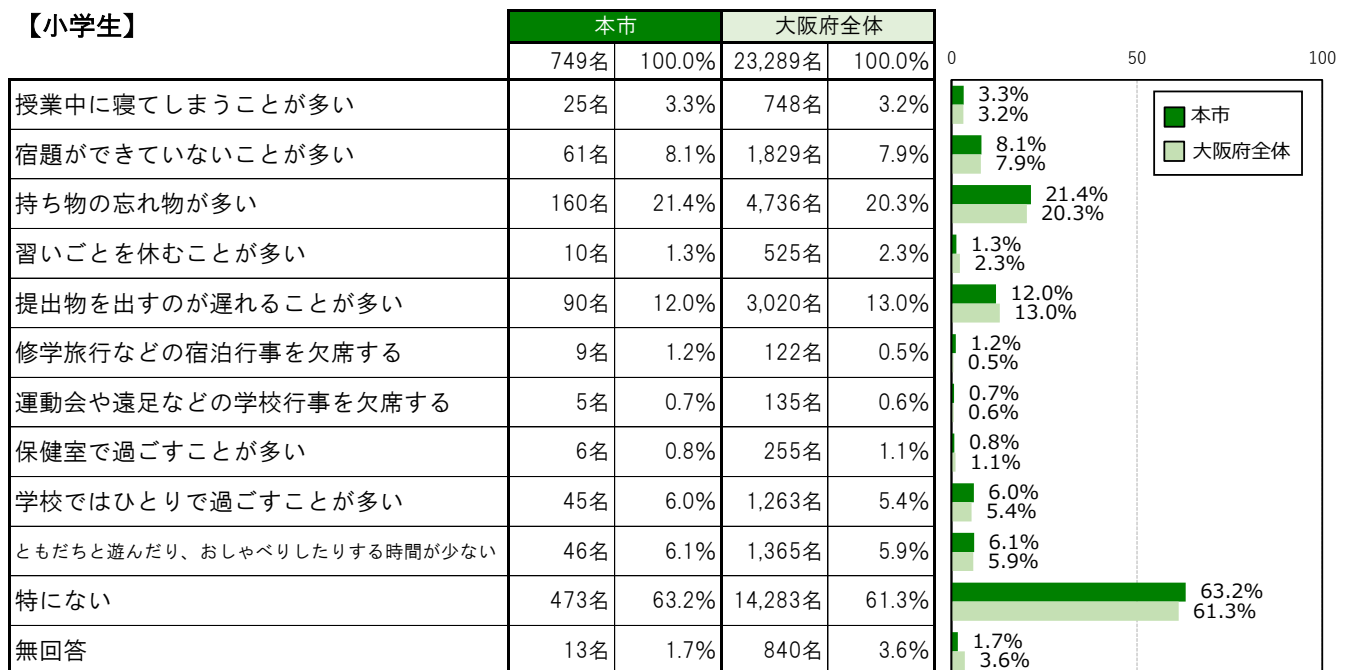
小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が21.4%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が12.0%、「宿題ができていないことが多い」が8.1%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が6.1%となっている。

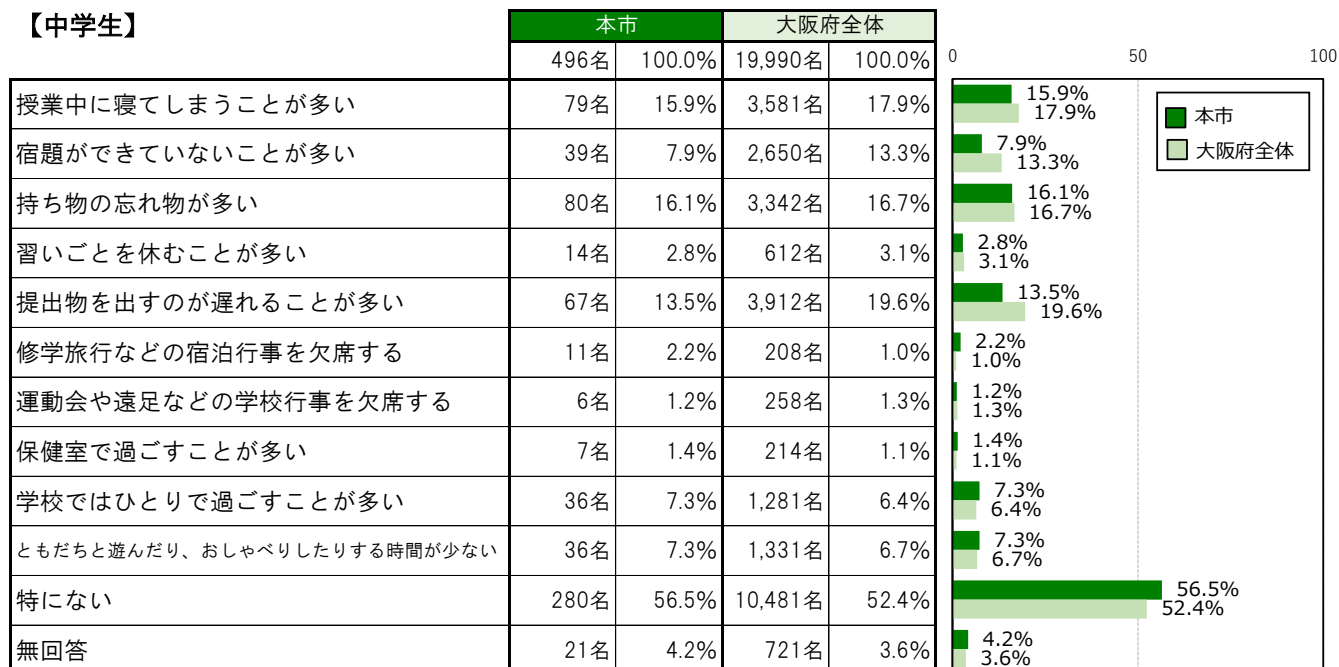
中学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が16.1%で最も多く、次いで「授業中に寝てしまうことが多い」が15.9%、「提出物を出すのが遅れることが多い」が13.5%、「宿題ができていないことが多い」が7.9%となっている。

【全体】



【小学生】





ふだんの生活のことについて

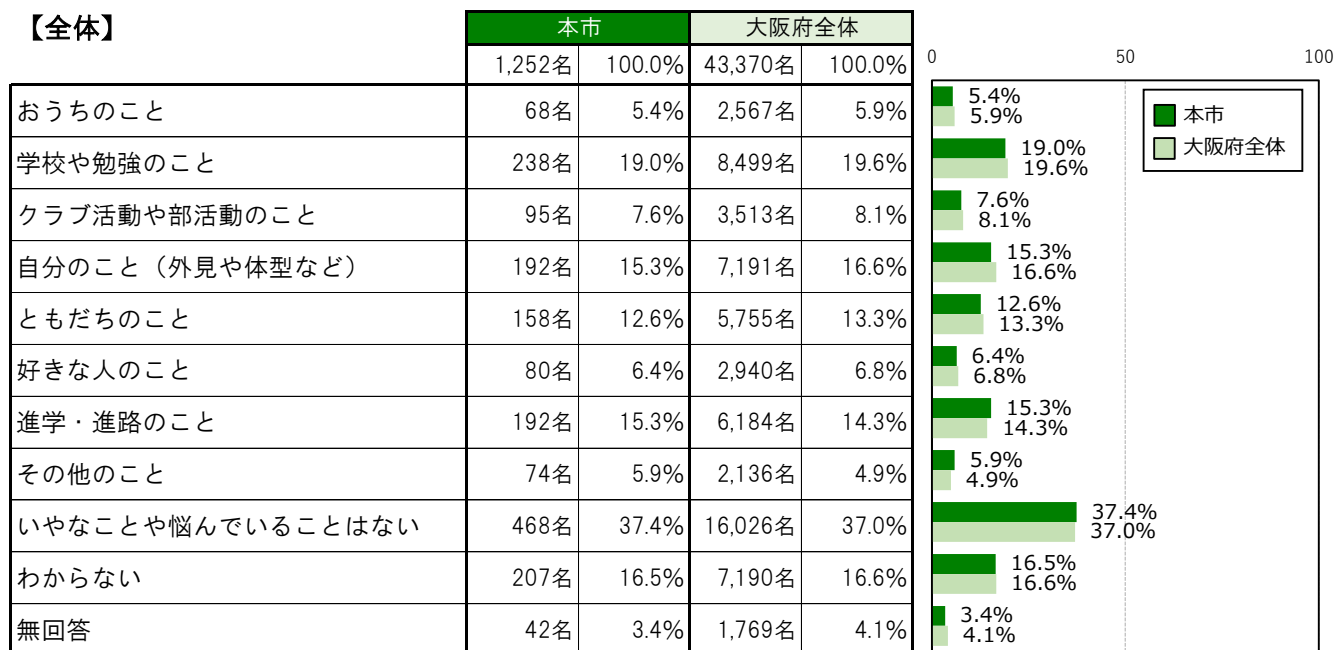
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が37.4%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が19.0%となっている。

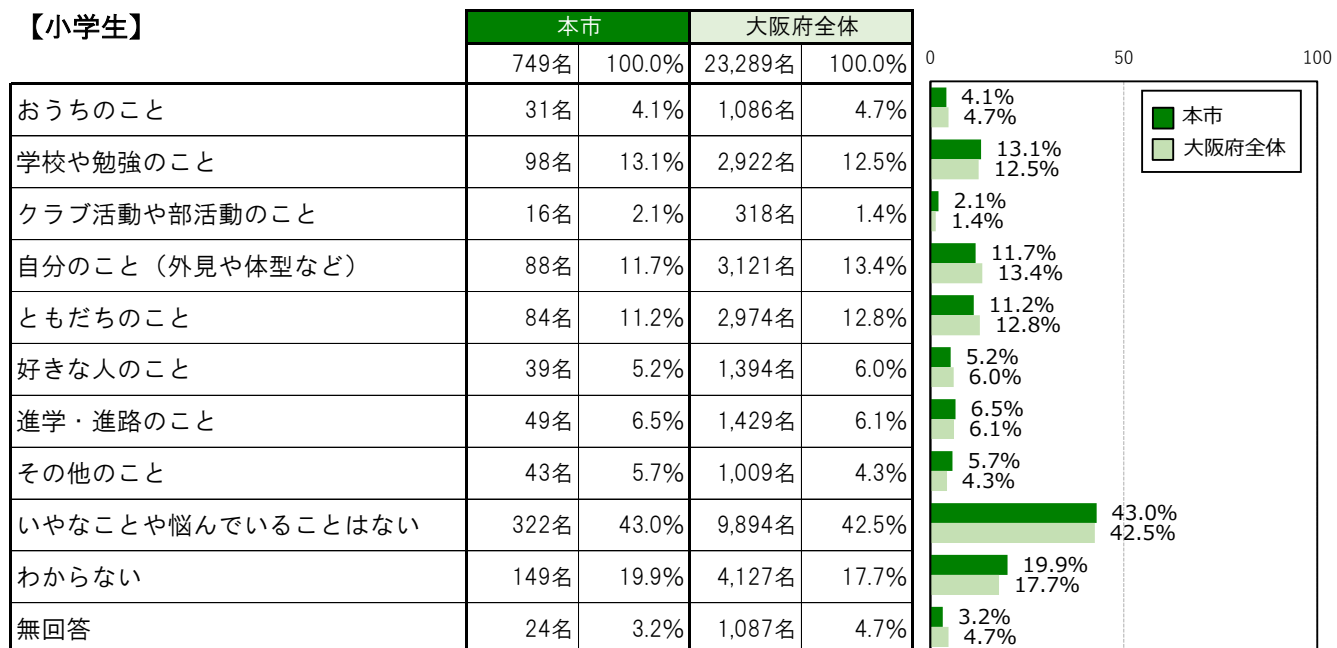
小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が43.0%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が13.1%となっている。

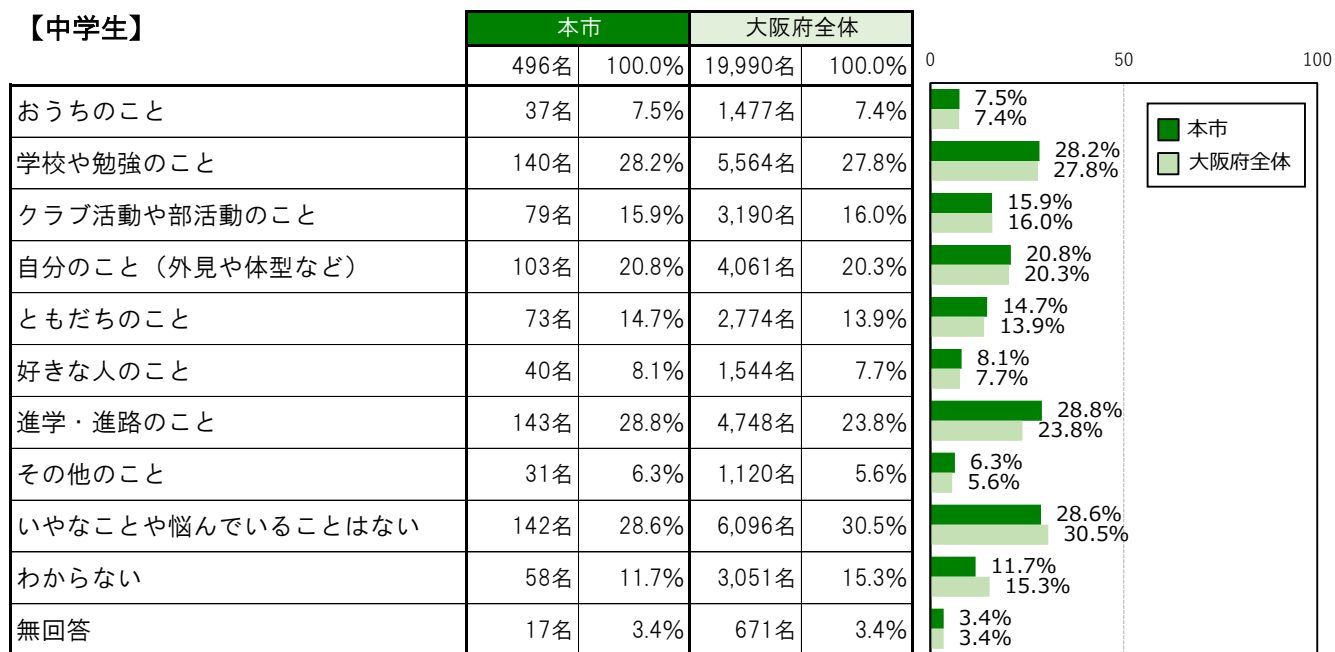
中学生は、「進学・進路のこと」が28.8%で最も多く、次いで「いやなことや悩んでいることはない」が28.6%となっている。

【全体】



【小学生】





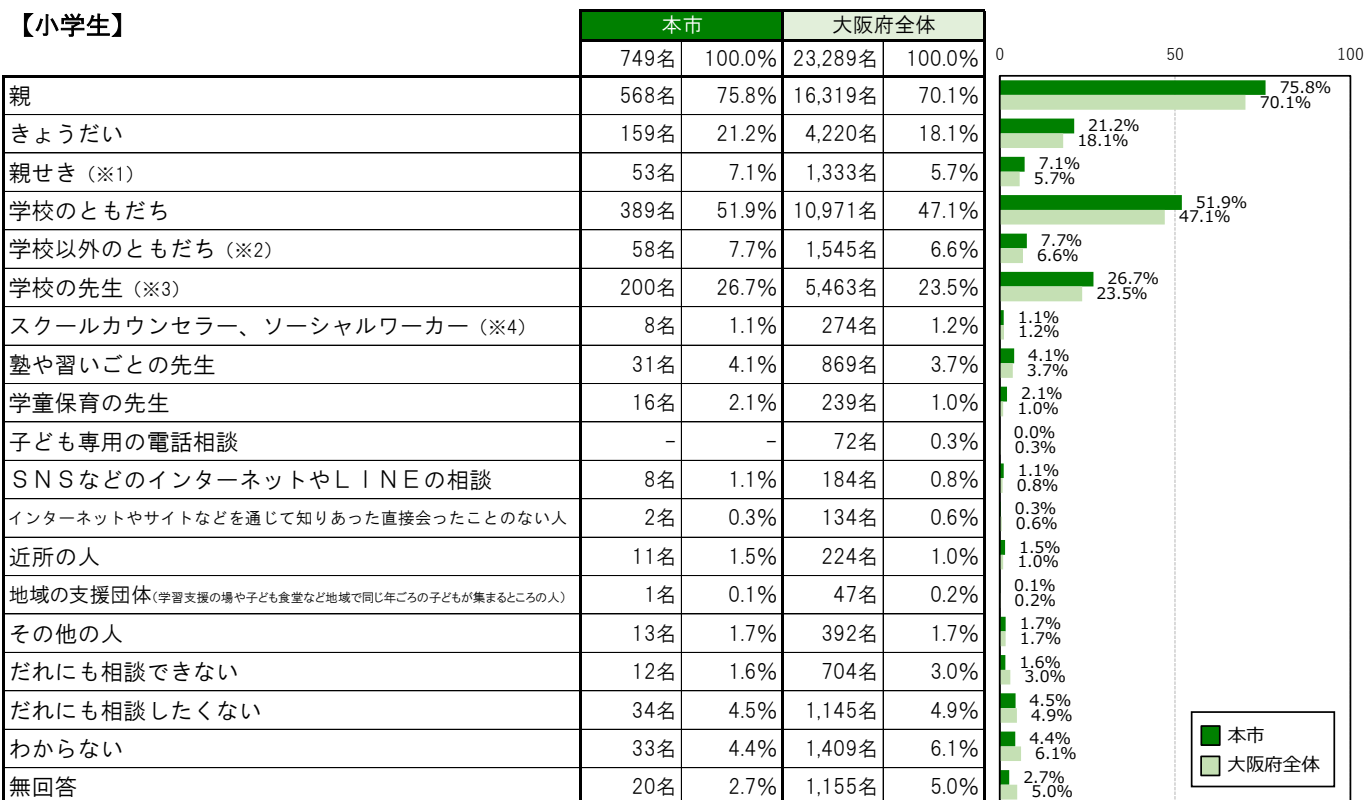
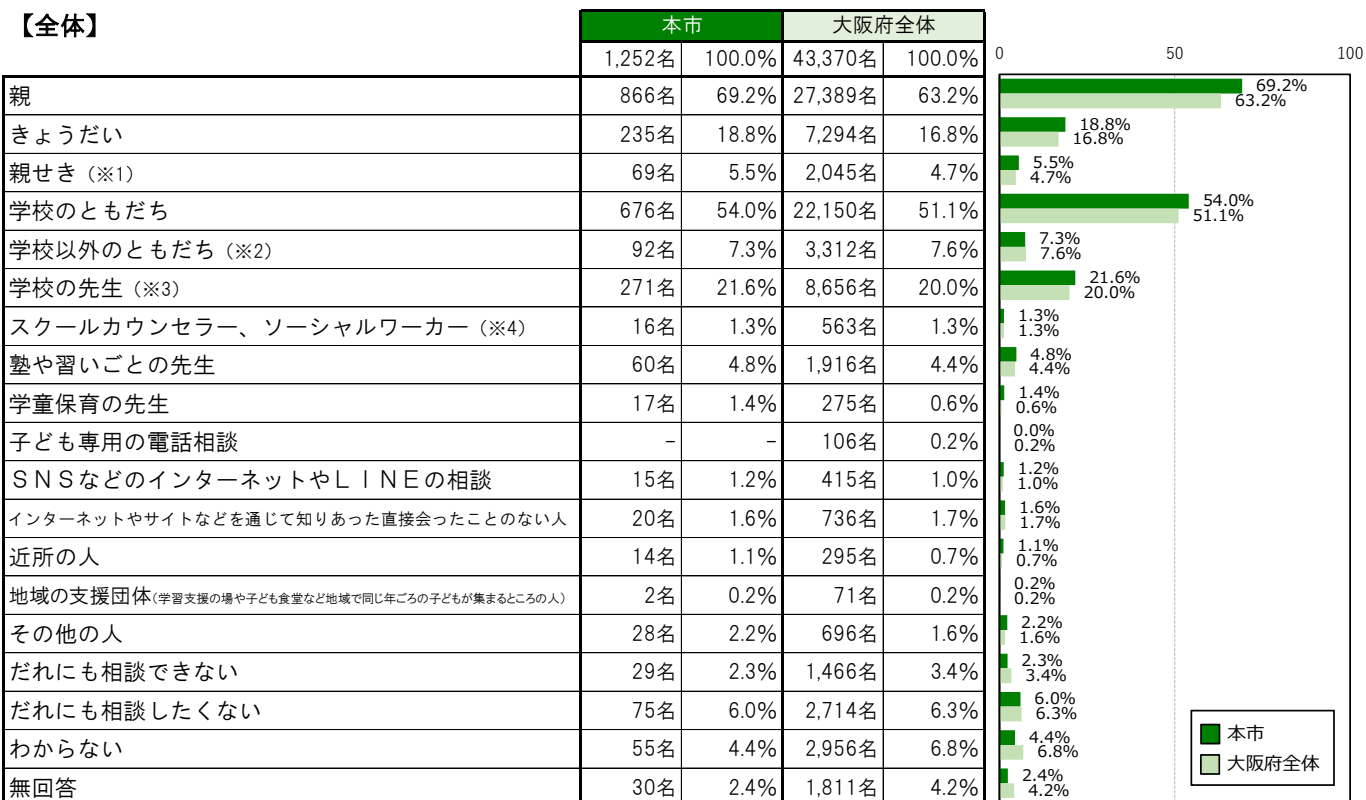
ふだんの生活のことについて

問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

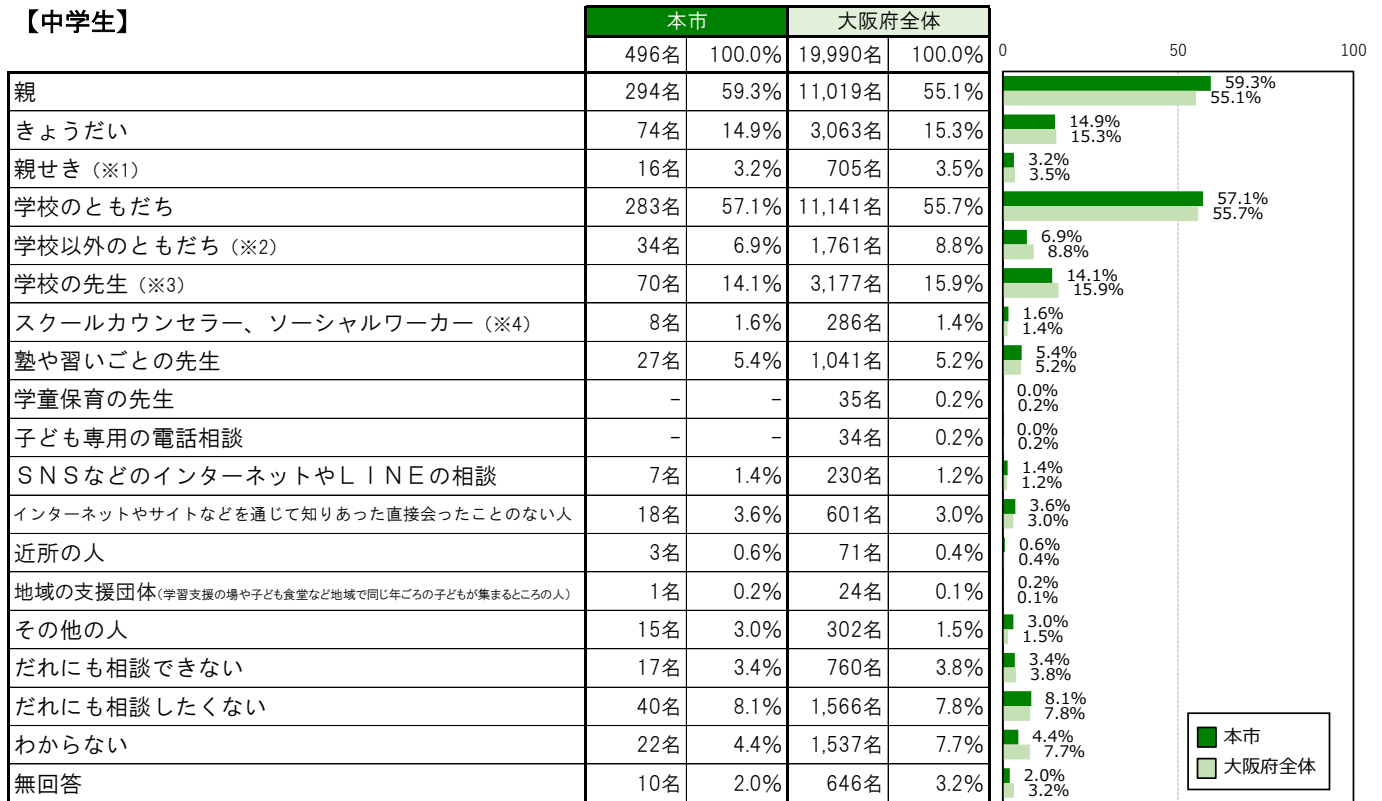
全体は、「親」が69.2%で最も多く、次いで「学校のともだち」が54.0%、「学校の先生」が21.6%、「きょうだい」が18.8%となっている。

小学生は、「親」が75.8%で最も多く、次いで「学校のともだち」が51.9%、「学校の先生」が26.7%、「きょうだい」が21.2%となっている。

中学生は、「親」が59.3%で最も多く、次いで「学校のともだち」が57.1%、「きょうだい」が14.9%、「学校の先生」が14.1%となっている。



【中学生】



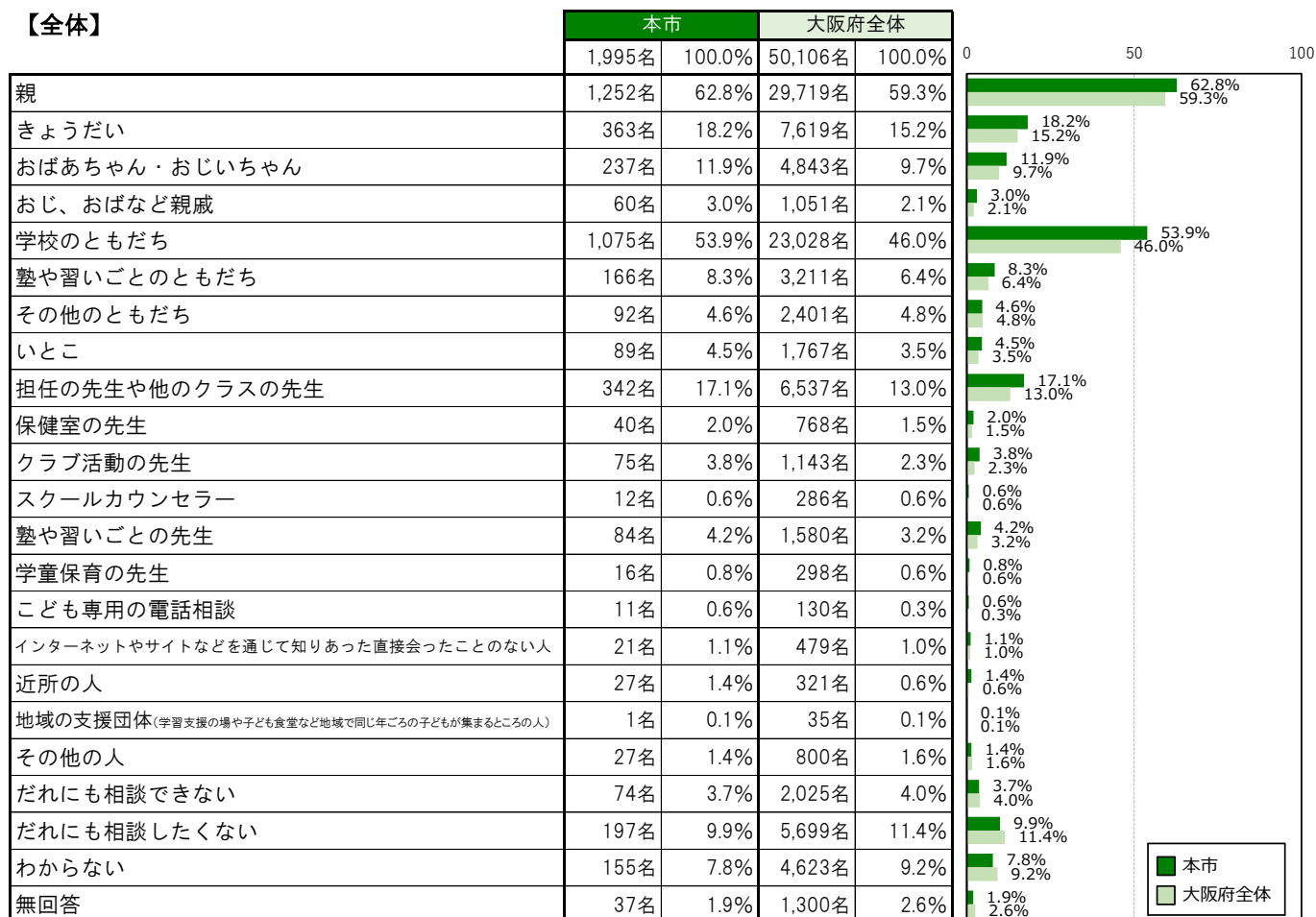
- ※1 2016年調査では「おじ、おばなど親戚」
 ※2 2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」
 ※3 2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」
 ※4 2016年調査では「スクールカウンセラー」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

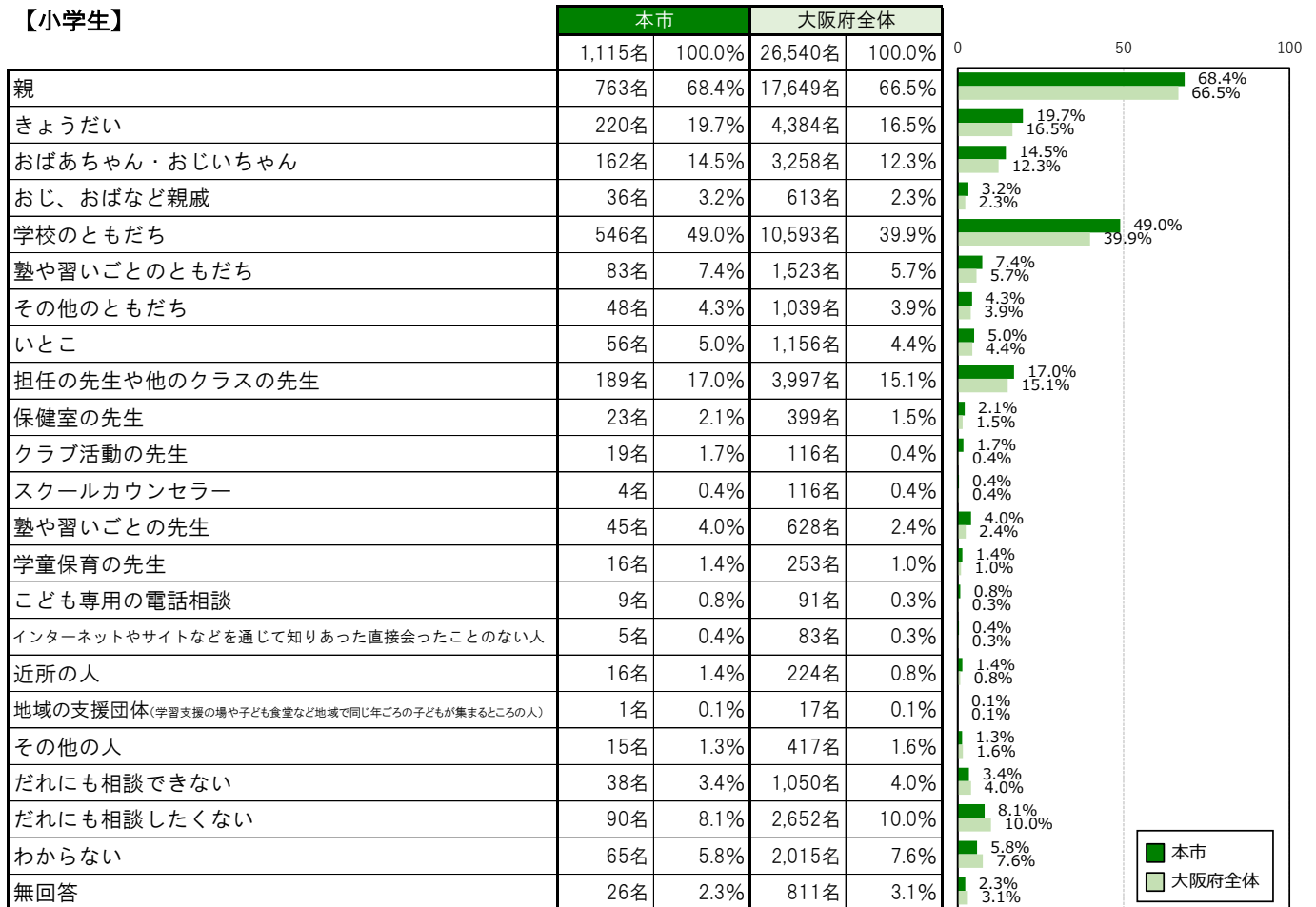
2016年度調査と比較すると、全体は、「親」が6.4ポイント高いが、「学校以外のともだち」（2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」をあわせた割合）が5.6ポイント低くなっている

小学生は、「学校の先生」（2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」をあわせた割合）が7.6ポイント、「親」が7.4ポイント、それぞれ高くなっている。

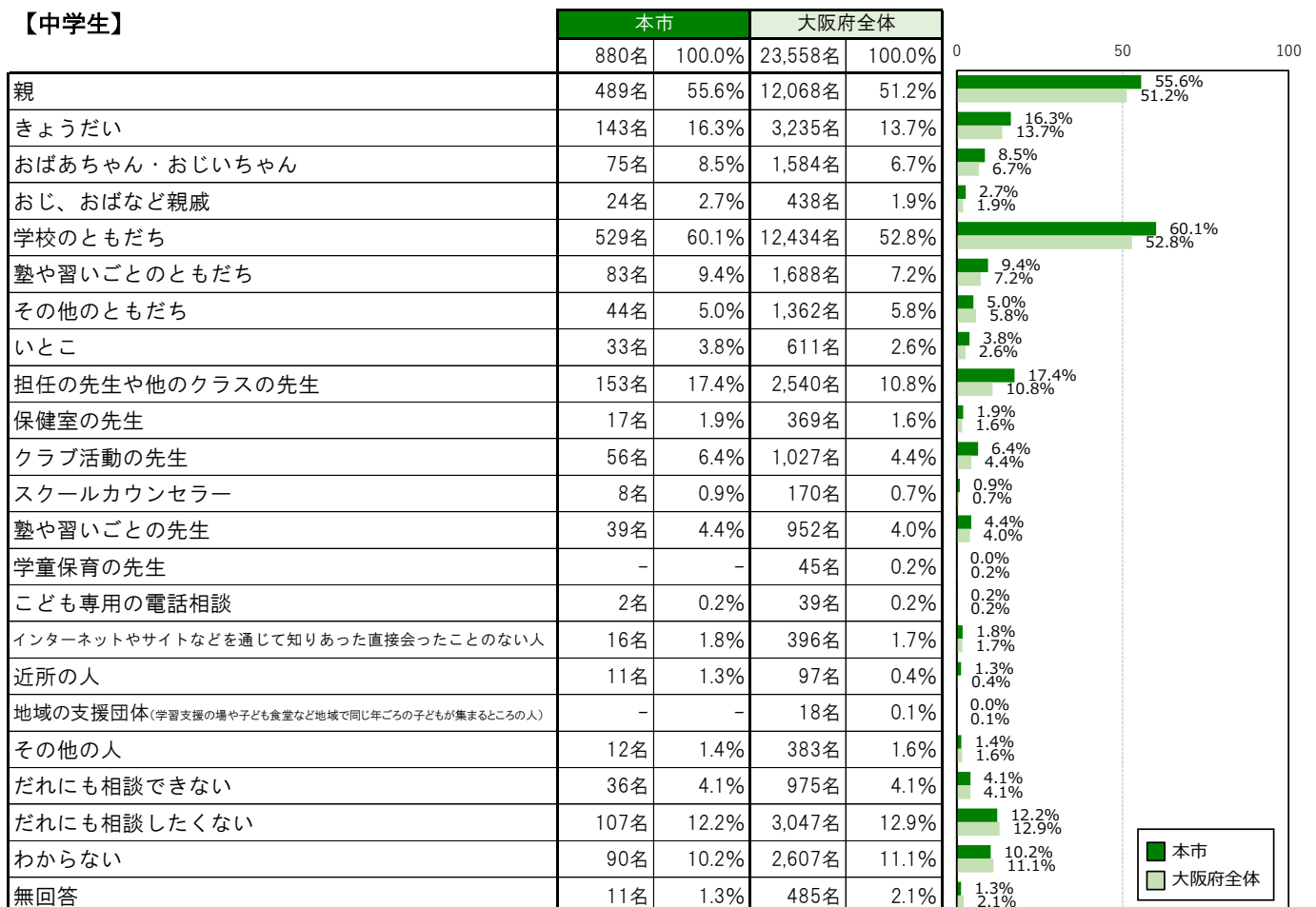
中学生は、「学校以外のともだち」が7.5ポイント、「学校の先生」が5.2ポイント、それぞれ低くなっている。



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

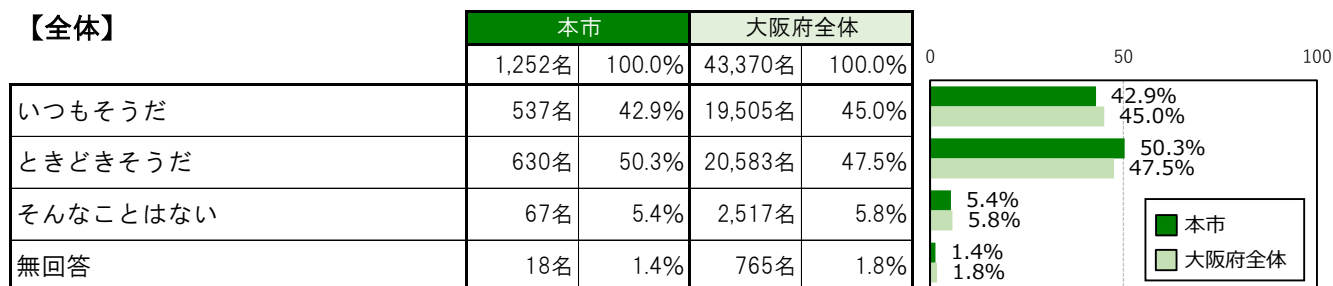
問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

全体は、「ときどきそうだ」が50.3%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が42.9%、「そんなことはない」が5.4%となっている。

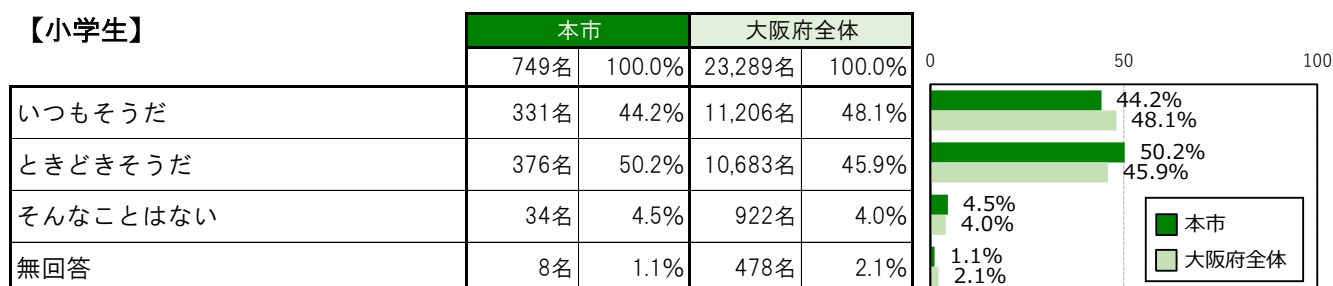
小学生は、「ときどきそうだ」が50.2%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が44.2%、「そんなことはない」が4.5%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が51.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が40.3%、「そんなことはない」が6.7%となっている。

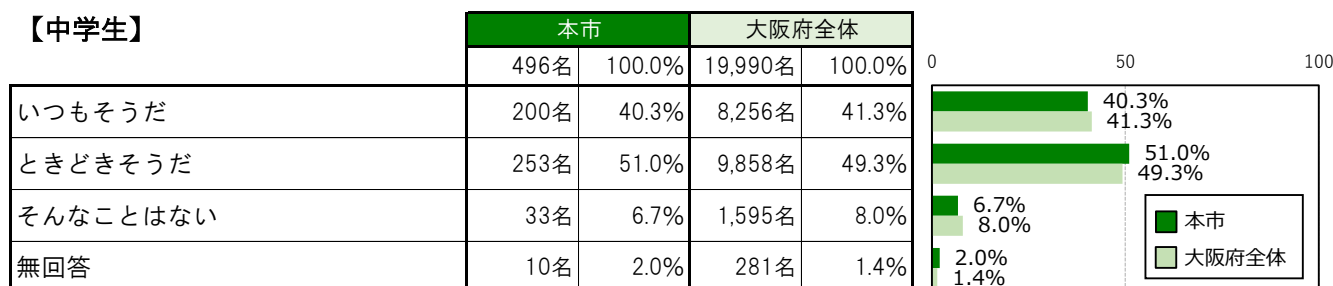
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

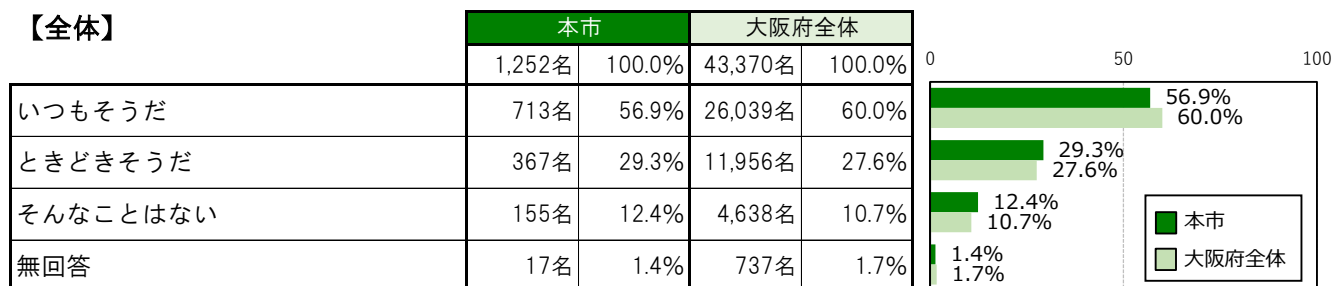
問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

全体は、「いつもそうだ」が56.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が29.3%、「そんなことはない」が12.4%となっている。

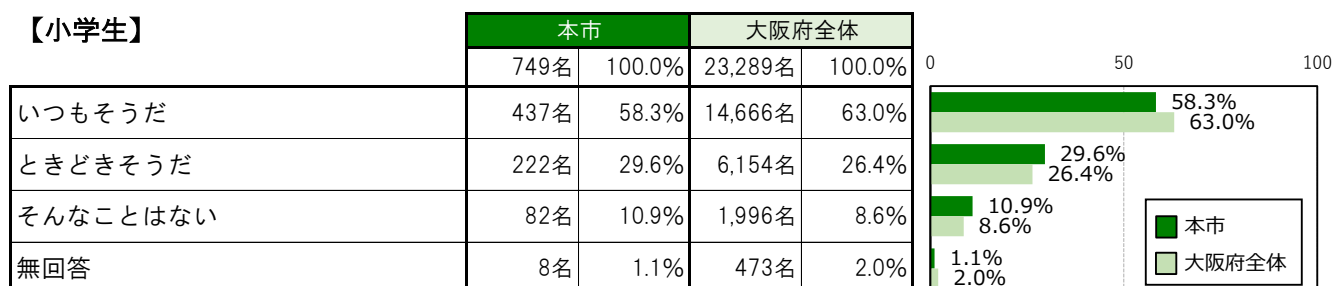
小学生は、「いつもそうだ」が58.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が29.6%、「そんなことはない」が10.9%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が54.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が29.0%、「そんなことはない」が14.7%となっている。

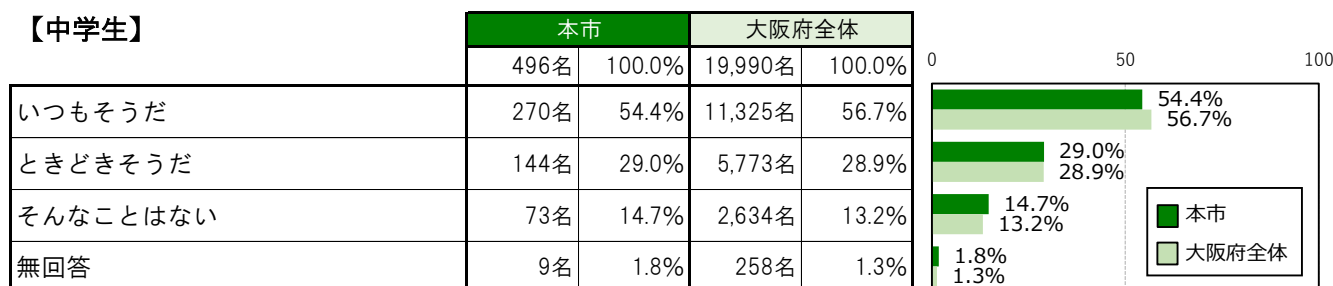
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

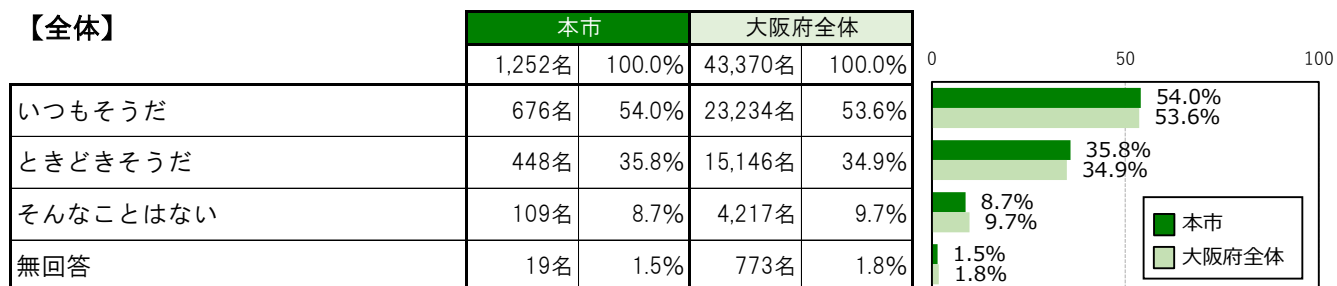
問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

全体は、「いつもそうだ」が54.0%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が35.8%、「そんなことはない」が8.7%となっている。

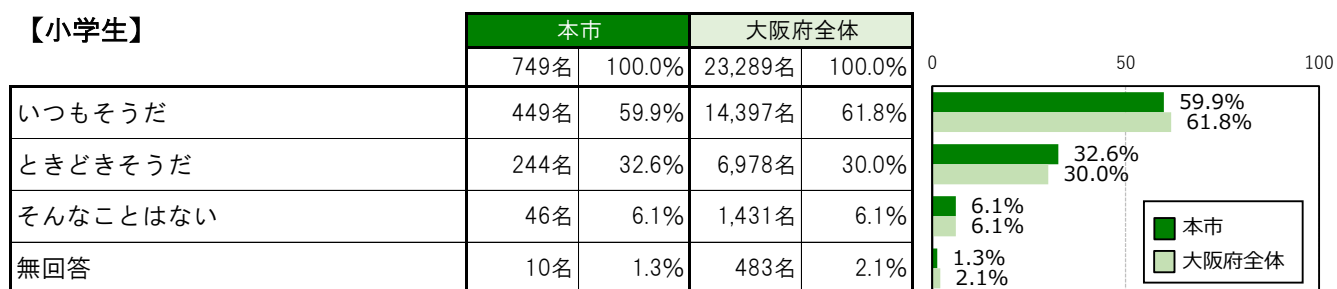
小学生は、「いつもそうだ」が59.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が32.6%、「そんなことはない」が6.1%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が44.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が40.7%、「そんなことはない」が12.7%となっている。

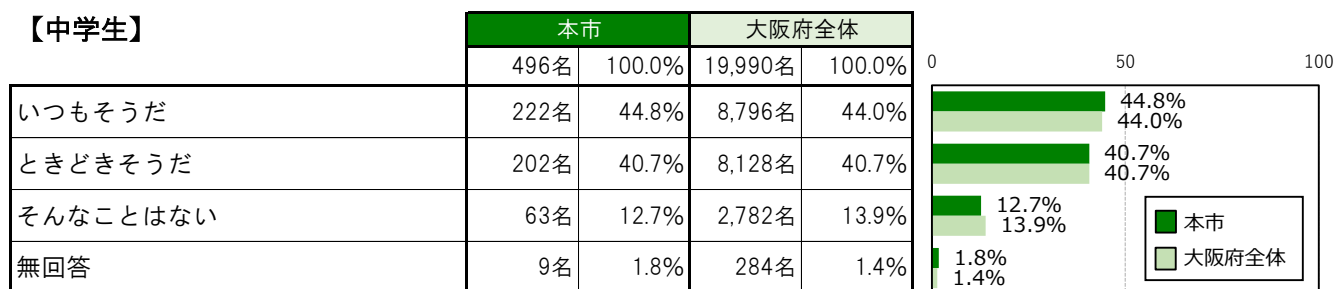
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

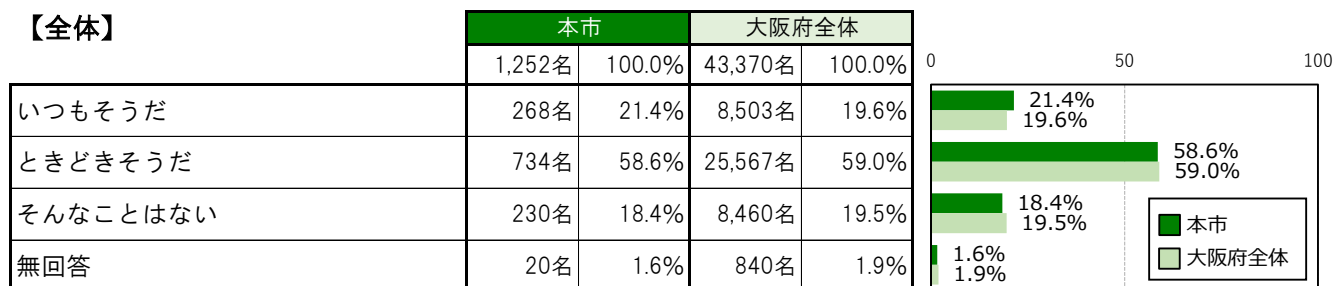
問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

全体は、「ときどきそうだ」が58.6%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が21.4%、「そんなことはない」が18.4%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が61.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が23.6%、「そんなことはない」が14.0%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が55.0%で最も多く、次いで「そんなことはない」が25.0%、「いつもそうだ」が17.9%となっている。

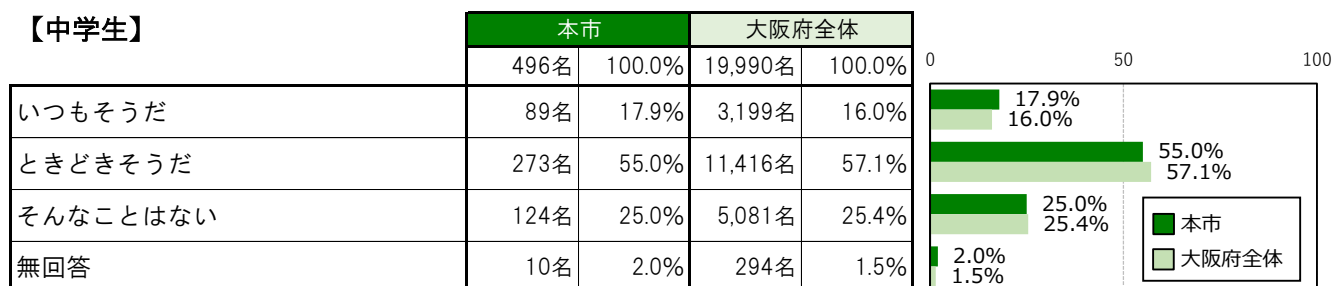
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

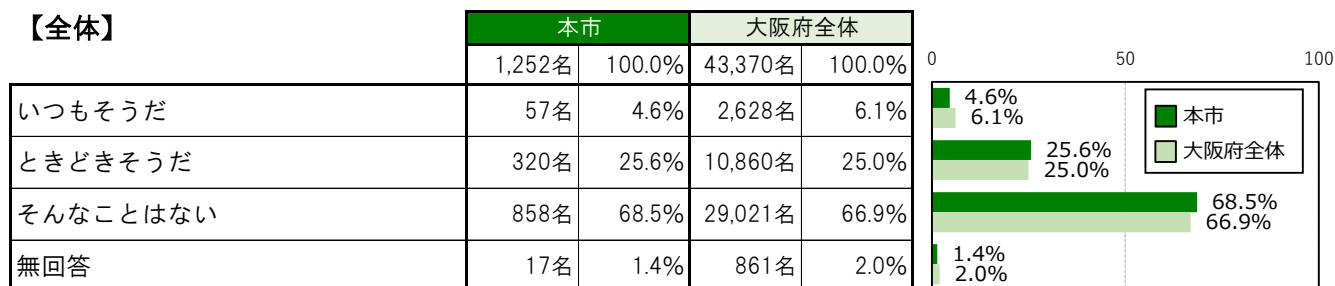
問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

全体は、「そんなことはない」が68.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が25.6%、「いつもそうだ」が4.6%となっている。

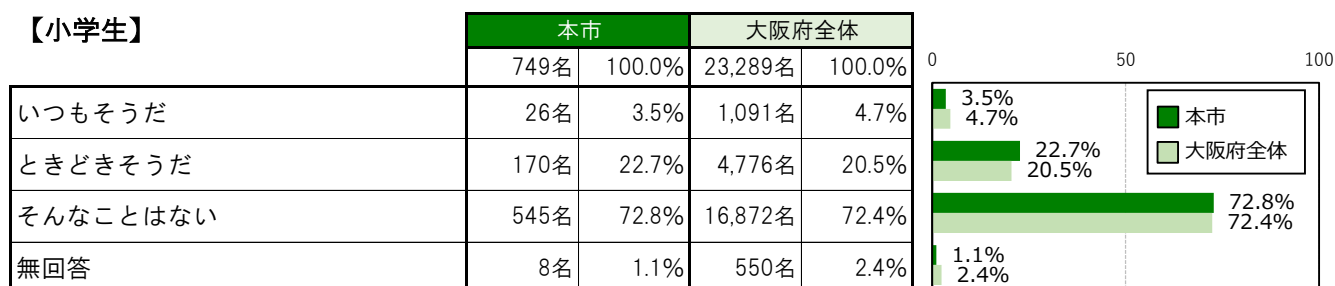
小学生は、「そんなことはない」が72.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が22.7%、「いつもそうだ」が3.5%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が61.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が30.0%、「いつもそうだ」が6.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

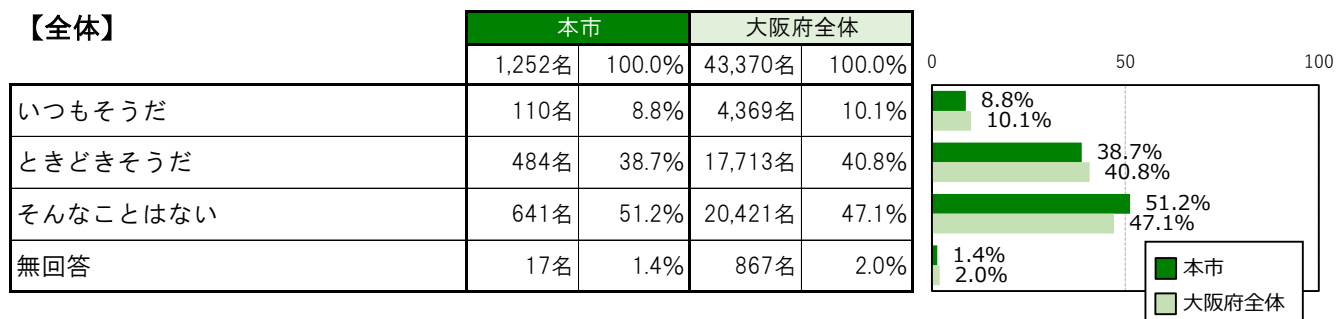
問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

全体は、「そんなことはない」が51.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が38.7%、「いつもそうだ」が8.8%となっている。

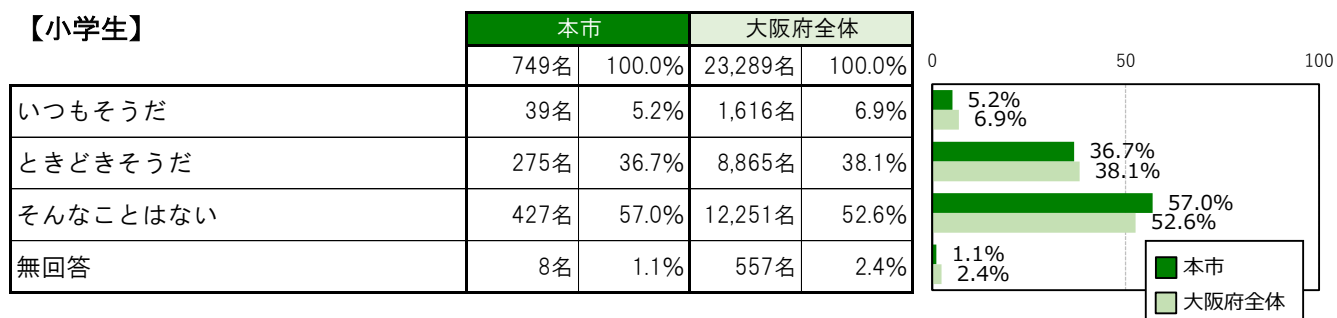
小学生は、「そんなことはない」が57.0%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.7%、「いつもそうだ」が5.2%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が42.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が41.7%、「いつもそうだ」が14.3%となっている。

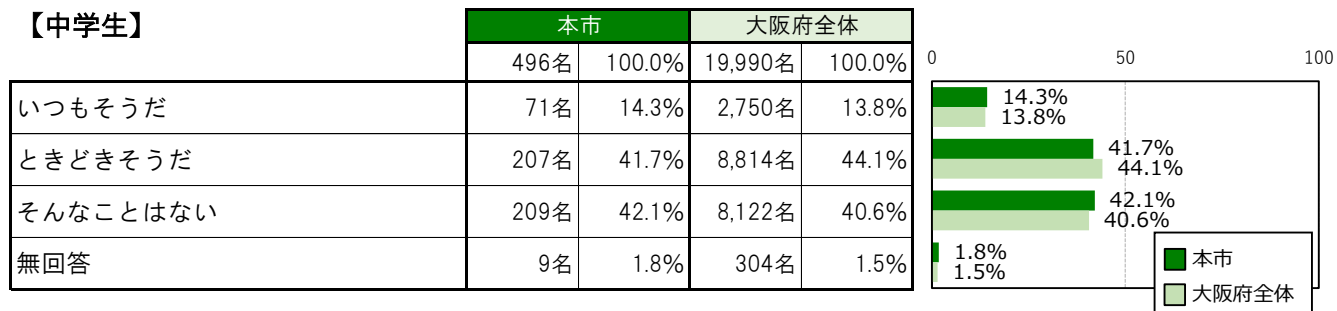
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

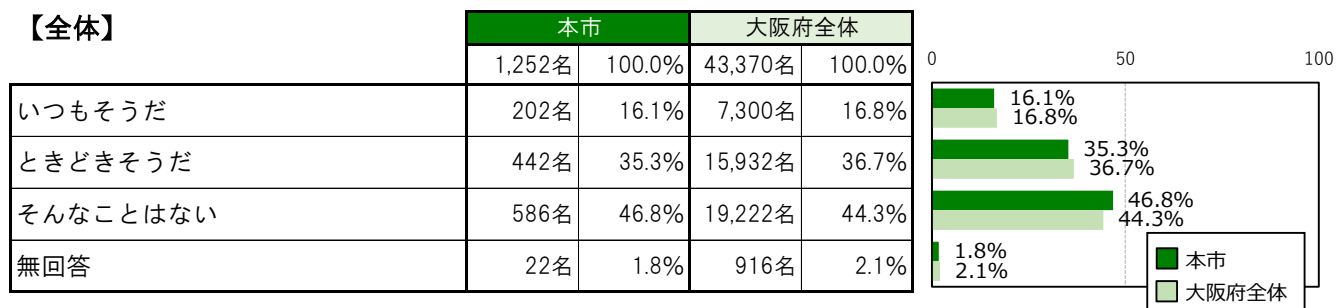
問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

全体は、「そんなことはない」が46.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が35.3%、「いつもそうだ」が16.1%となっている。

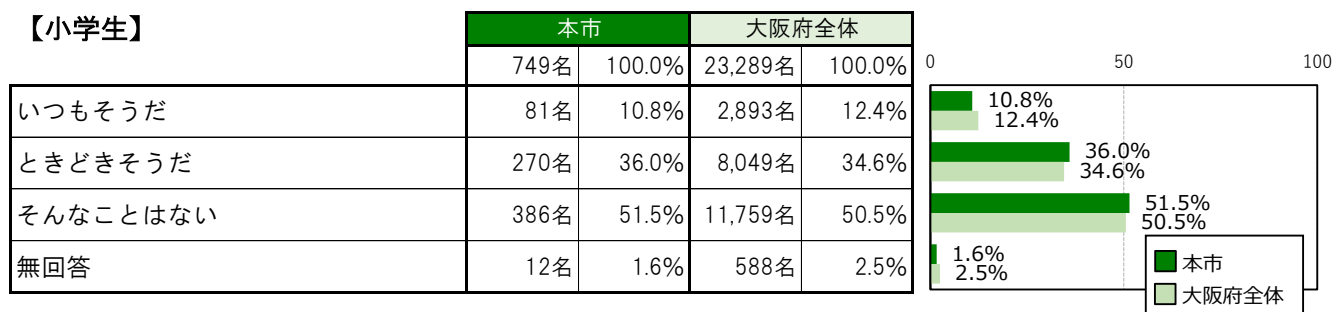
小学生は、「そんなことはない」が51.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.0%、「いつもそうだ」が10.8%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が39.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が34.1%、「いつもそうだ」が24.2%となっている。

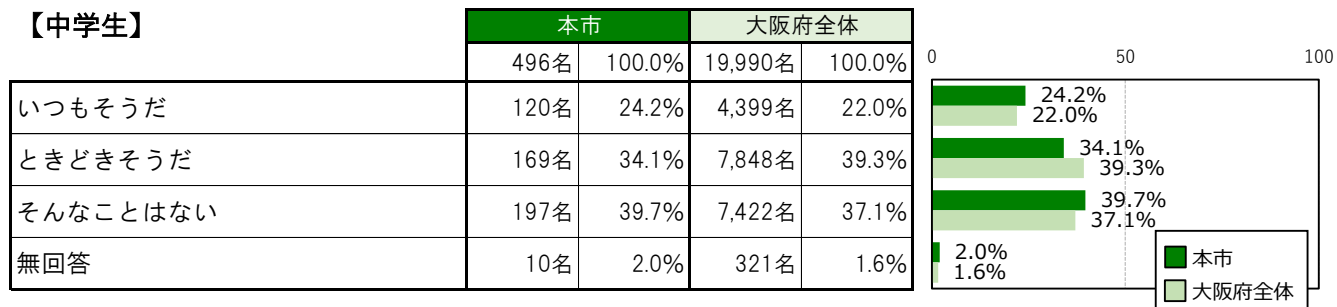
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

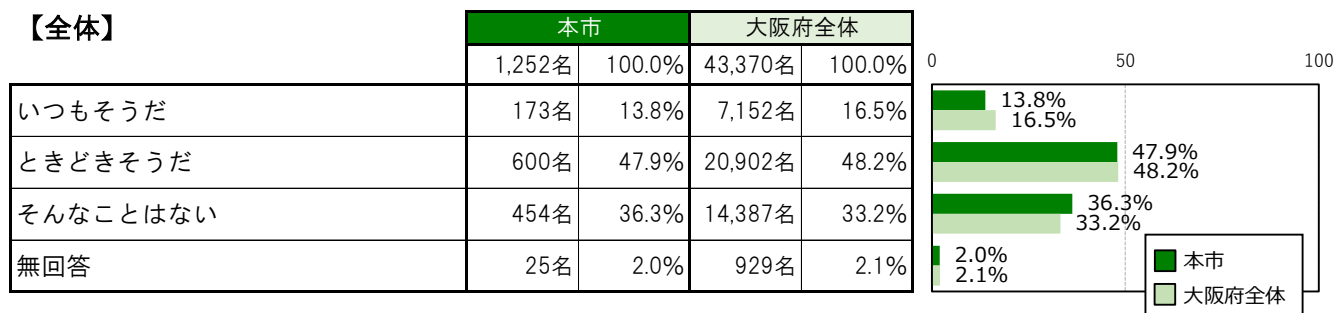
問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

全体は、「ときどきそうだ」が47.9%で最も多く、次いで「そんなことはない」が36.3%、「いつもそうだ」が13.8%となっている。

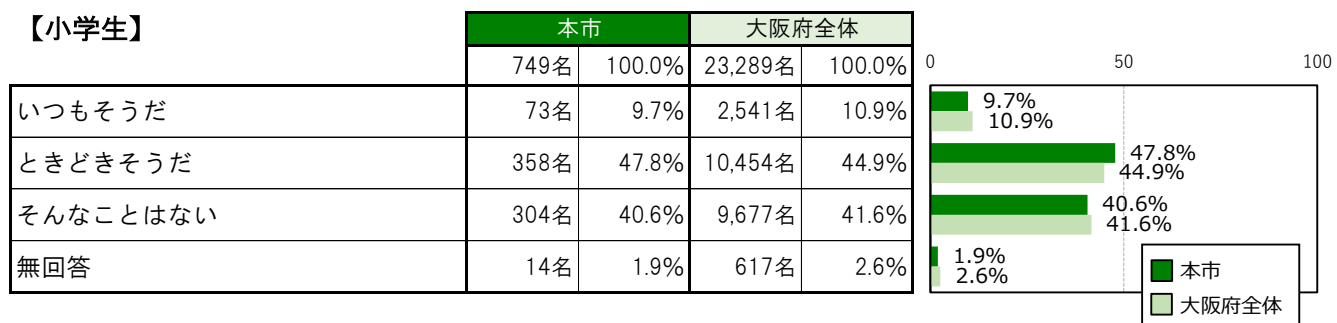
小学生は、「ときどきそうだ」が47.8%で最も多く、次いで「そんなことはない」が40.6%、「いつもそうだ」が9.7%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が47.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が30.0%、「いつもそうだ」が20.2%となっている。

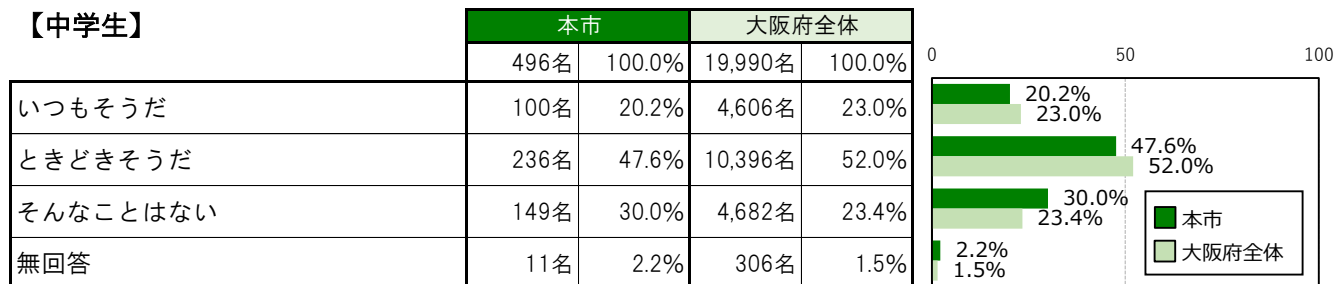
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

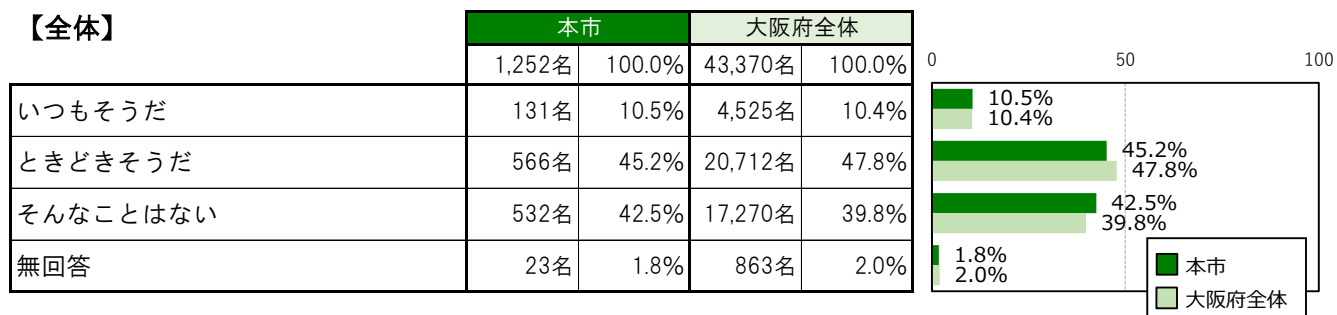
問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

全体は、「ときどきそうだ」が45.2%で最も多く、次いで「そんなことはない」が42.5%、「いつもそうだ」が10.5%となっている。

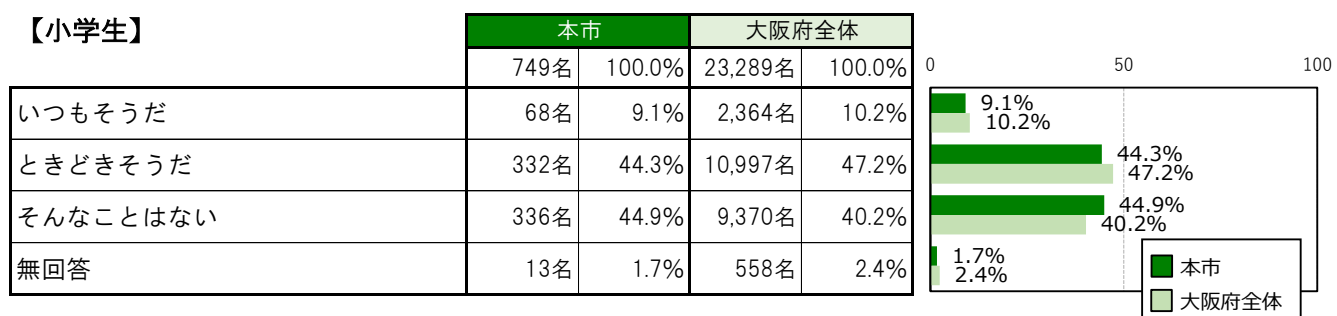
小学生は、「そんなことはない」が44.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が44.3%、「いつもそうだ」が9.1%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が46.0%で最も多く、次いで「そんなことはない」が39.3%、「いつもそうだ」が12.7%となっている。

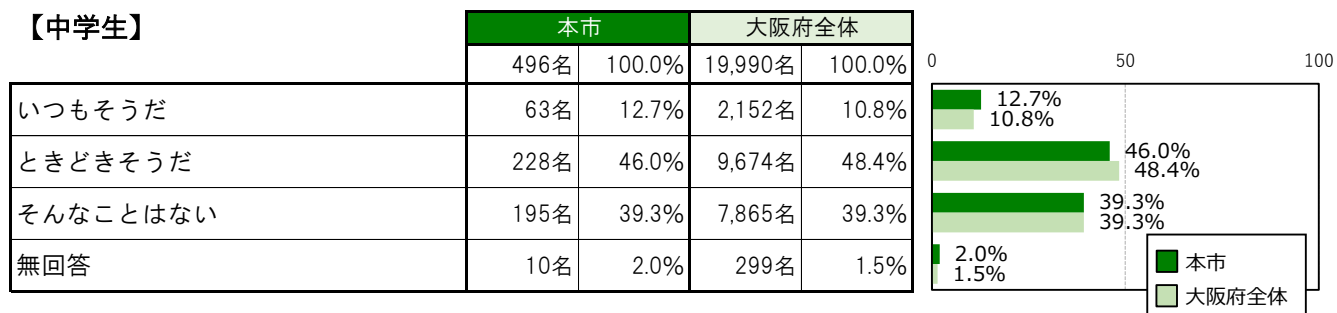
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

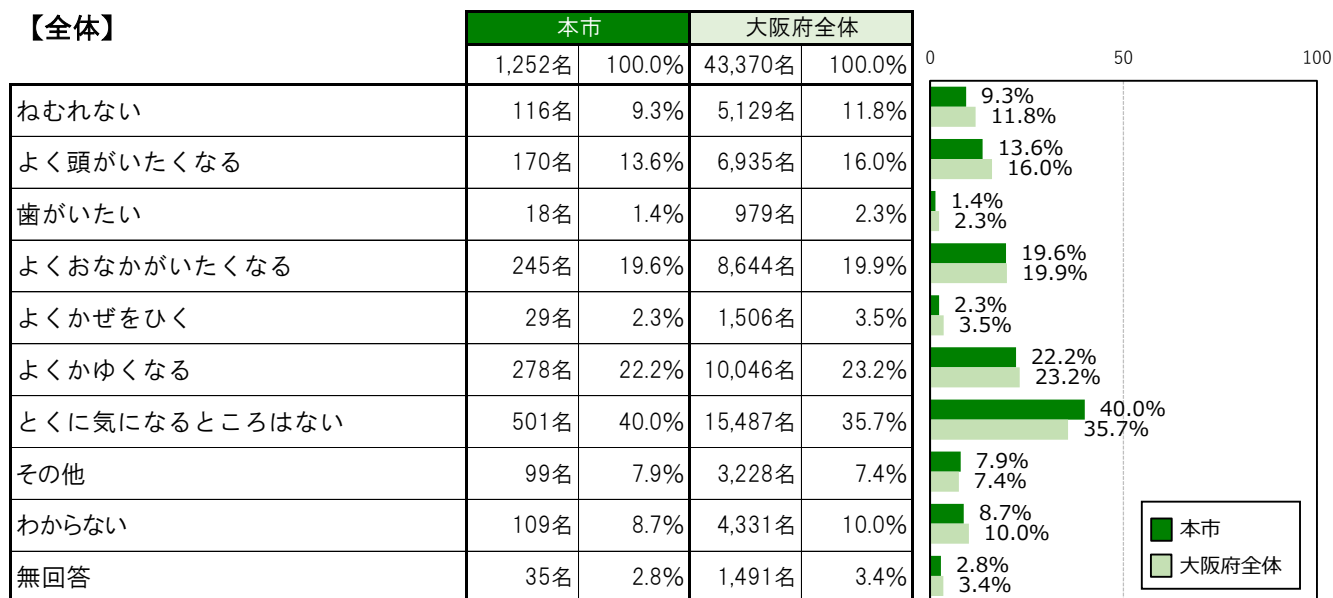
問20 自分の体の状態で気になること

全体は、「とくに気になるところはない」が40.0%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が22.2%、「よくおなかがいたくなる」が19.6%、「よく頭がいたくなる」が13.6%となっている。

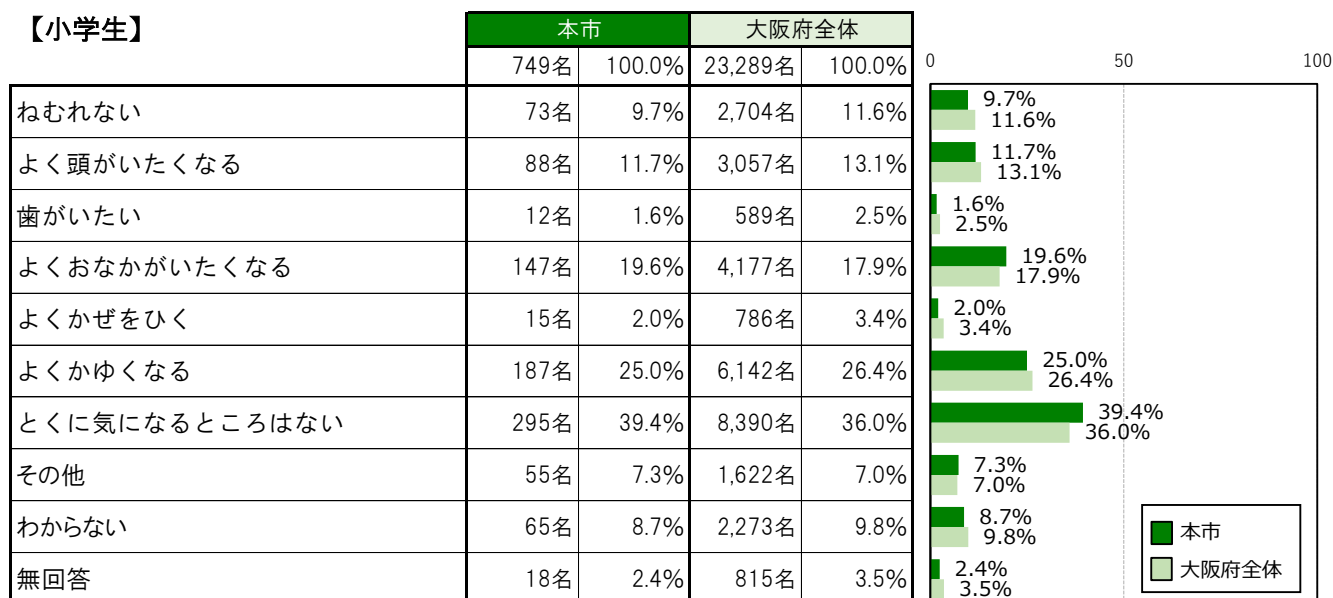
小学生は、「とくに気になるところはない」が39.4%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が25.0%、「よくおなかがいたくなる」が19.6%、「よく頭がいたくなる」が11.7%となっている。

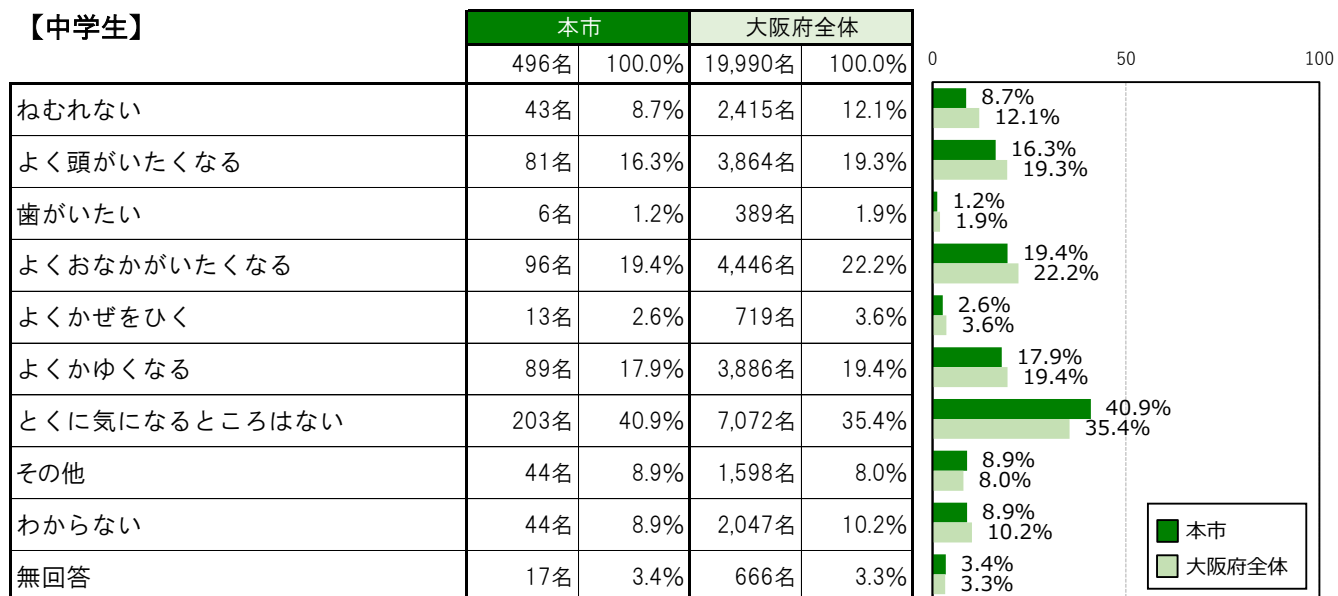
中学生は、「とくに気になるところはない」が40.9%で最も多く、次いで「よくおなかがいたくなる」が19.4%、「よくかゆくなる」が17.9%、「よく頭がいたくなる」が16.3%となっている。

【全体】



【小学生】





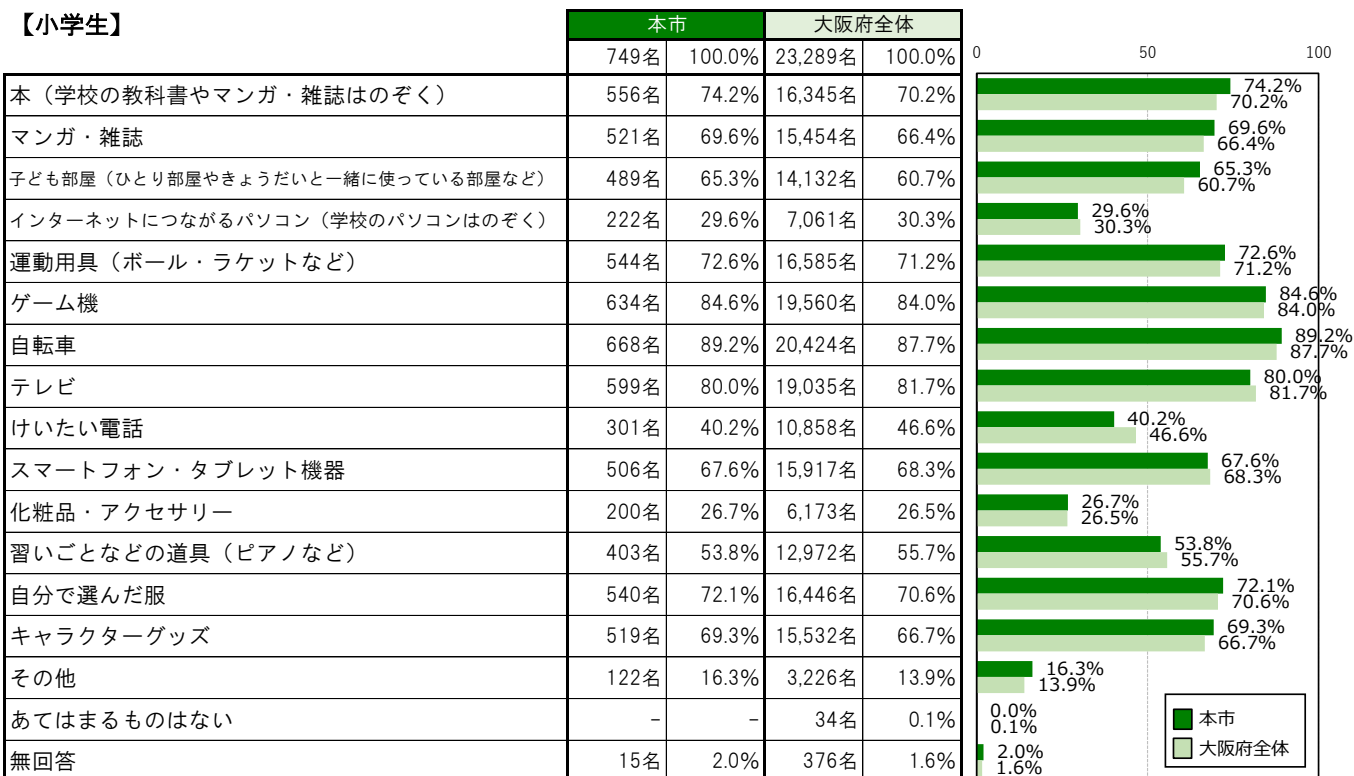
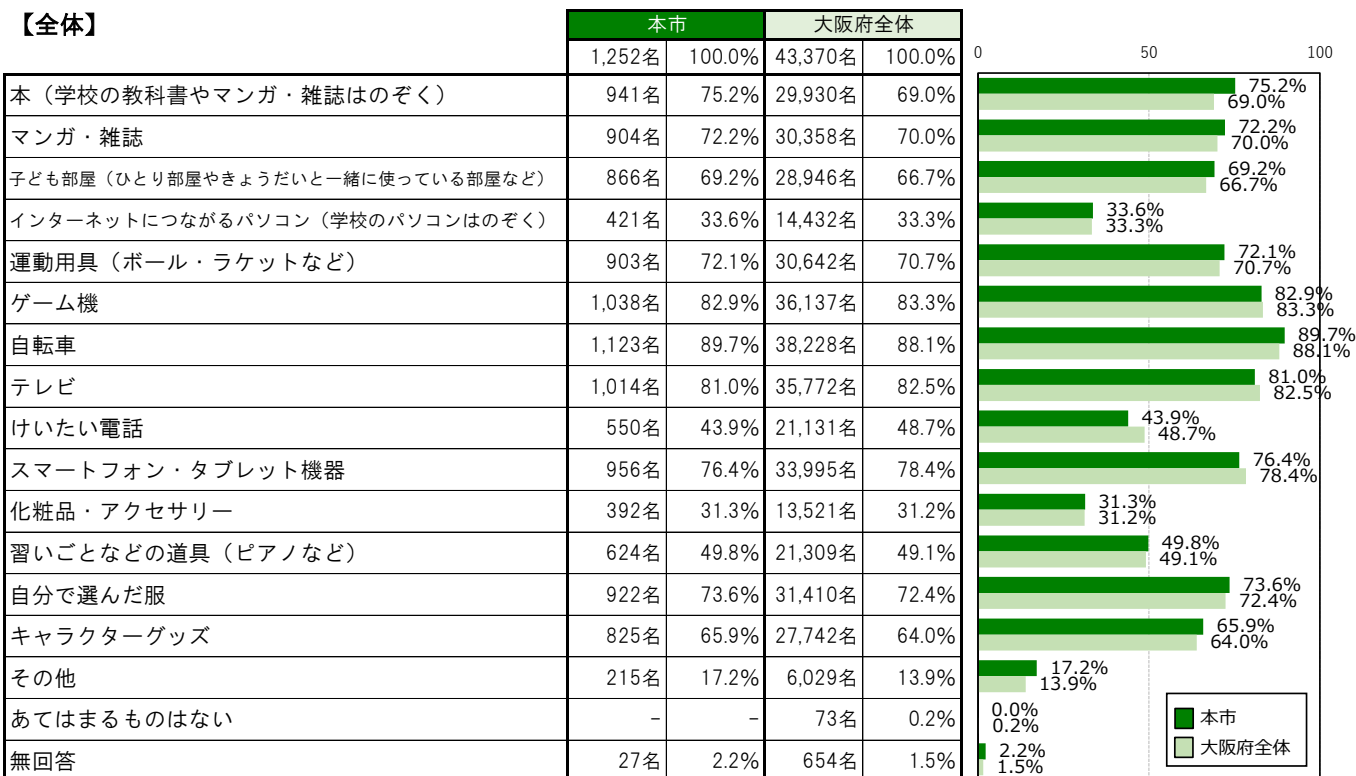
ふだんの生活のことについて

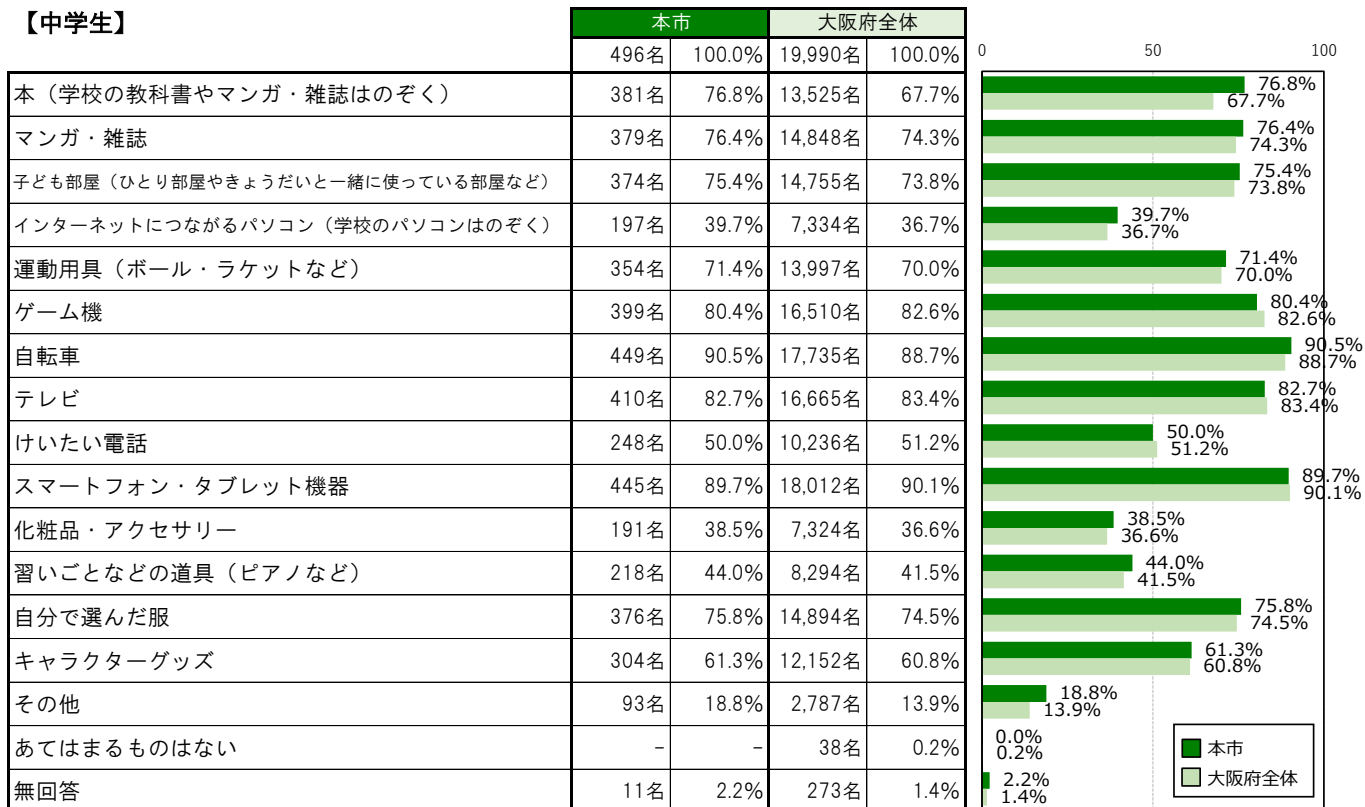
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「自転車」が89.7%で最も多く、次いで「ゲーム機」が82.9%、「テレビ」が81.0%、「スマートフォン・タブレット機器」が76.4%となっている。

小学生は、「自転車」が89.2%で最も多く、次いで「ゲーム機」が84.6%、「テレビ」が80.0%、「本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）」が74.2%となっている。

中学生は、「自転車」が90.5%で最も多く、次いで「スマートフォン・タブレット機器」が89.7%、「テレビ」が82.7%、「ゲーム機」が80.4%となっている。



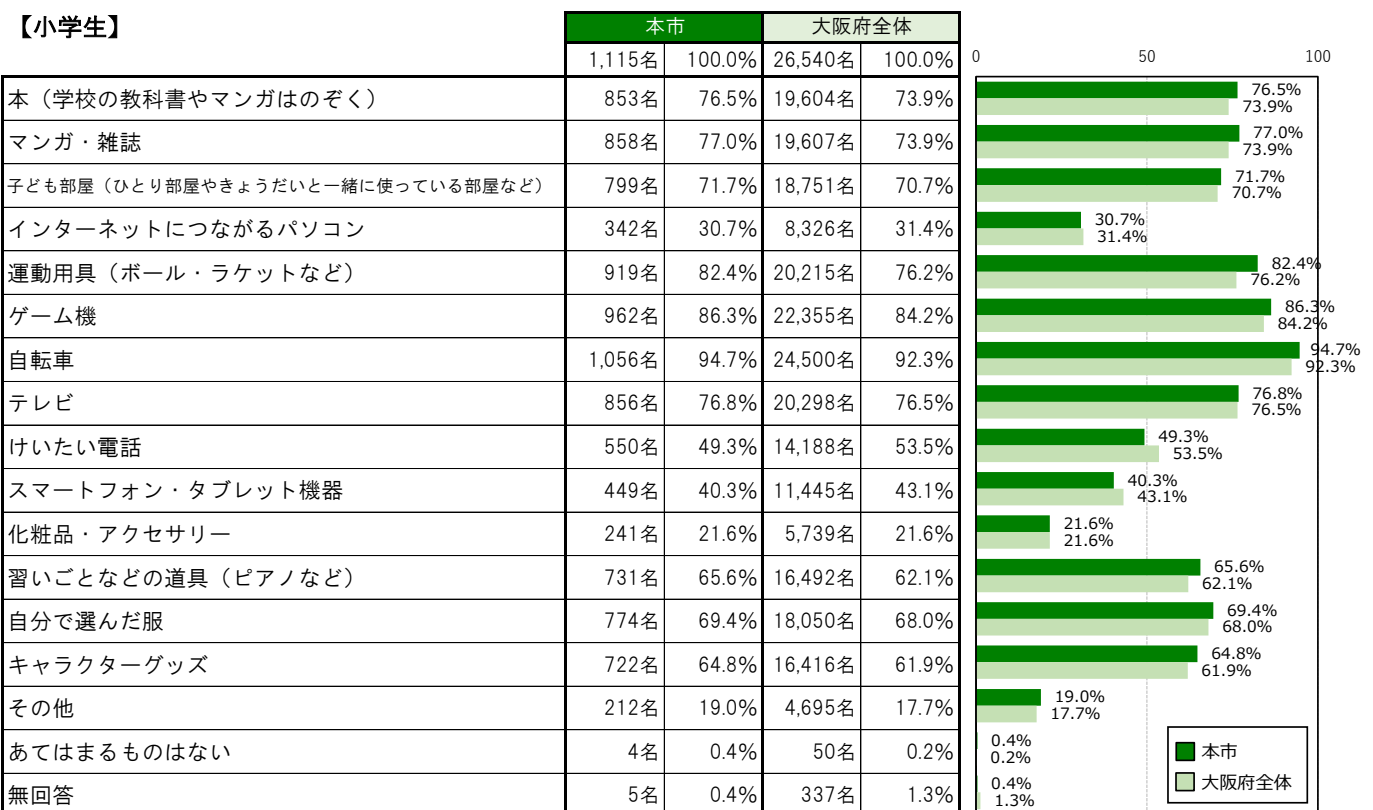
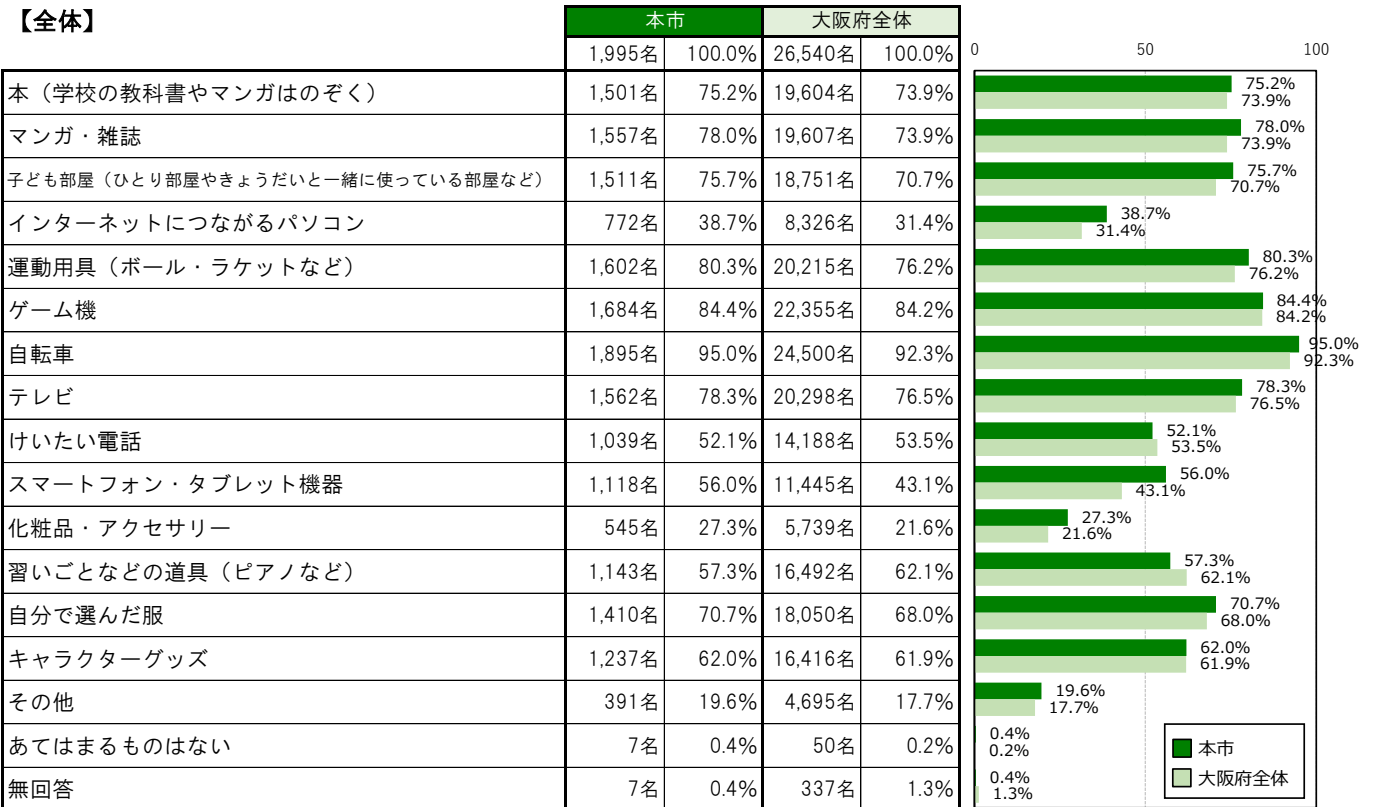


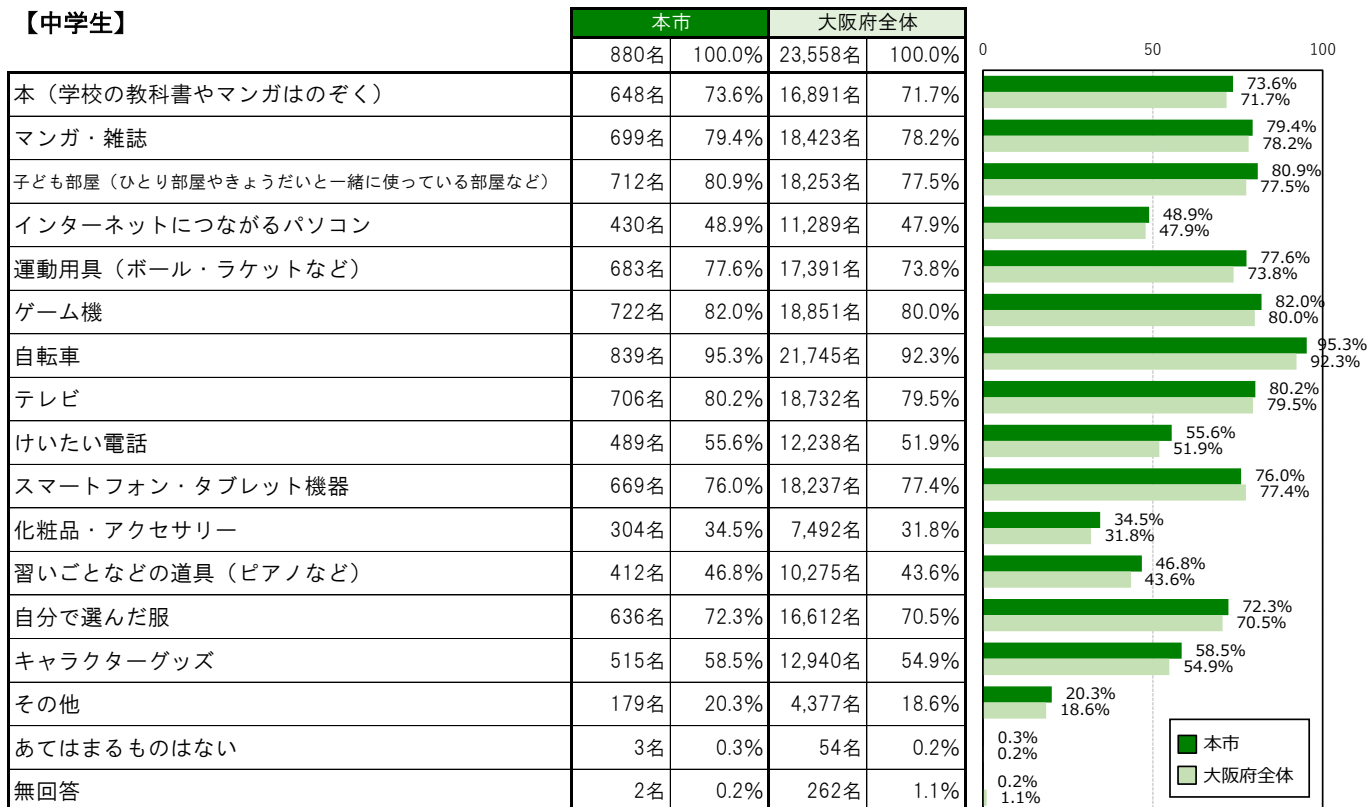
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「スマートフォン・タブレット機器」が20.4ポイント高いが、「運動用具（ボール・ラケットなど）」、「けいたい電話」がそれぞれ8.2ポイント低くなっている。

小学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は27.3ポイント高いが、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」は11.8ポイント低くなっている。

中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は13.7ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」は9.2ポイント低くなっている。





ふだん考えていることについて

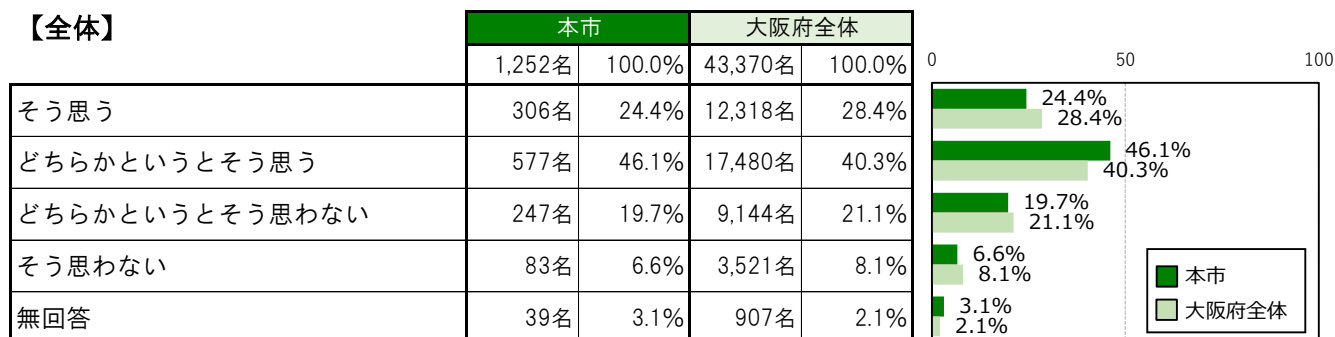
問22 すぐに立ち直ることができる

全体は、「どちらかというと思う」が46.1%で最も多く、次いで「そう思う」が24.4%、「どちらかというと思わない」が19.7%、「そう思わない」が6.6%となっている。

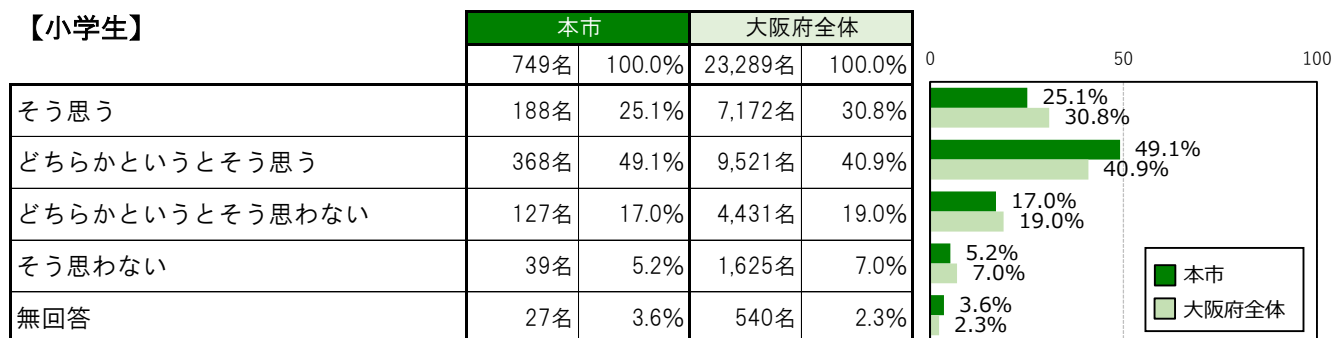
小学生は、「どちらかというと思う」が49.1%で最も多く、次いで「そう思う」が25.1%、「どちらかというと思わない」が17.0%、「そう思わない」が5.2%となっている。

中学生は、「どちらかというと思う」が41.5%で最も多く、次いで「どちらかというと思わない」が24.2%、「そう思う」が23.2%、「そう思わない」が8.9%となっている。

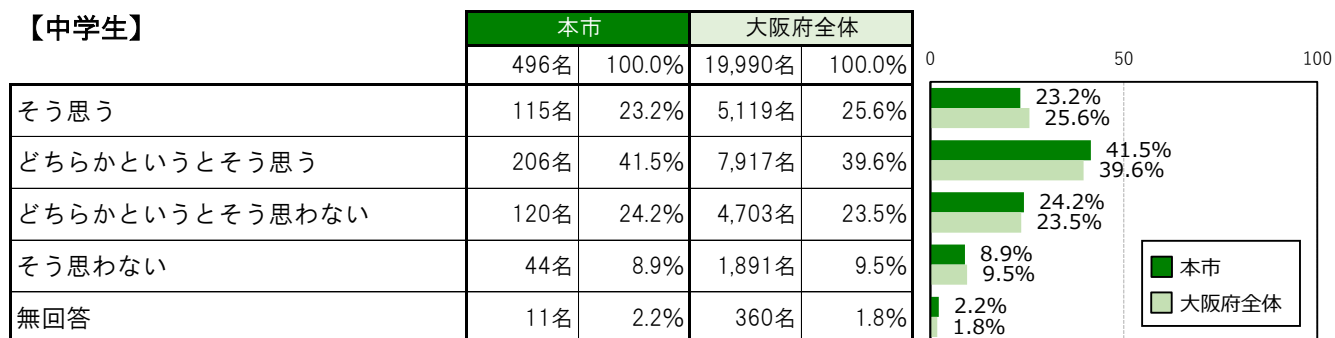
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだん考えていることについて

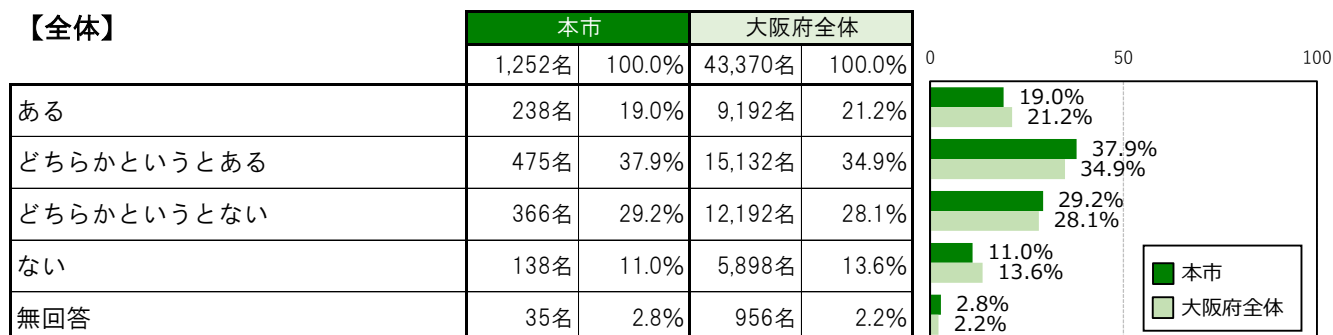
問23 ふだん考えていること（１）自分に自信がある

全体は、「どちらかというところがある」が37.9%で最も多く、次いで「どちらかというところがない」が29.2%、「ある」が19.0%、「ない」が11.0%となっている。

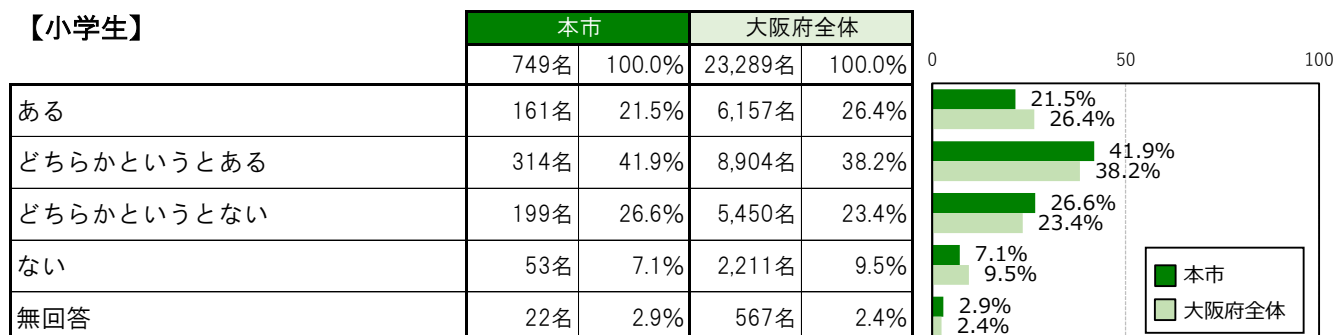
小学生は、「どちらかというところがある」が41.9%で最も多く、次いで「どちらかというところがない」が26.6%、「ある」が21.5%、「ない」が7.1%となっている。

中学生は、「どちらかというところがない」が33.1%で最も多く、次いで「どちらかというところがある」が32.3%、「ない」が17.1%、「ある」が15.1%となっている。

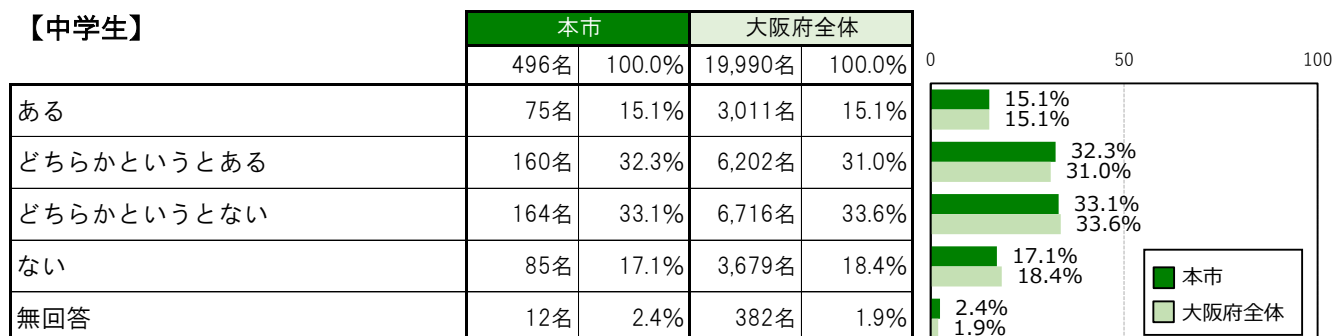
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだん考えていることについて

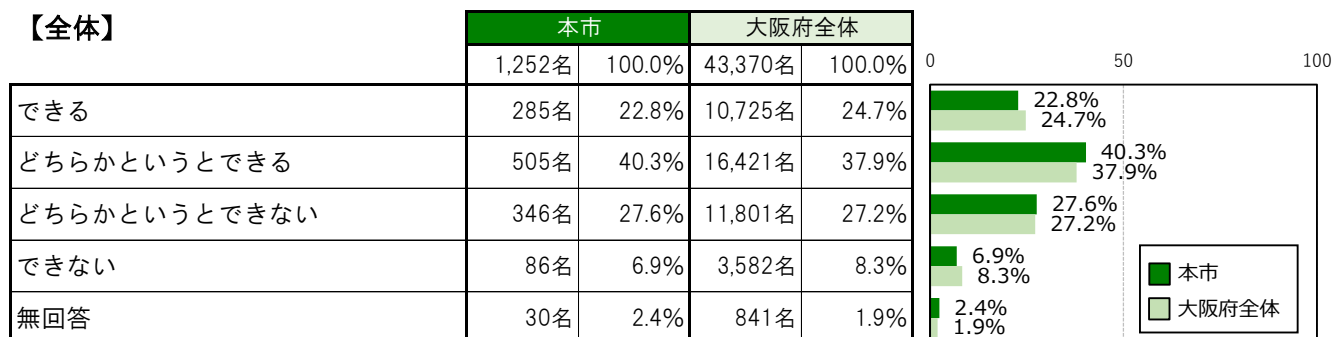
問23 ふだん考えていること（２）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

全体は、「どちらかというとできる」が40.3%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が27.6%、「できる」が22.8%、「できない」が6.9%となっている。

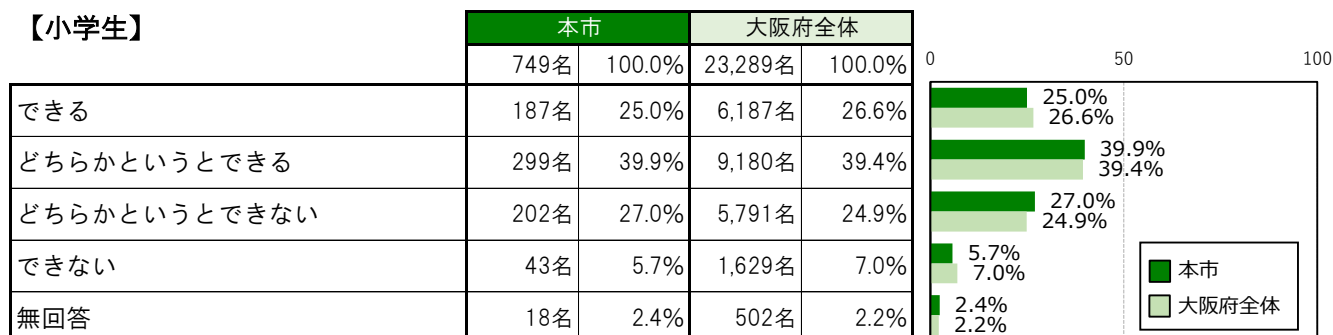
小学生は、「どちらかというとできる」が39.9%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が27.0%、「できる」が25.0%、「できない」が5.7%となっている。

中学生は、「どちらかというとできる」が41.1%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が28.8%、「できる」が19.4%、「できない」が8.5%となっている。

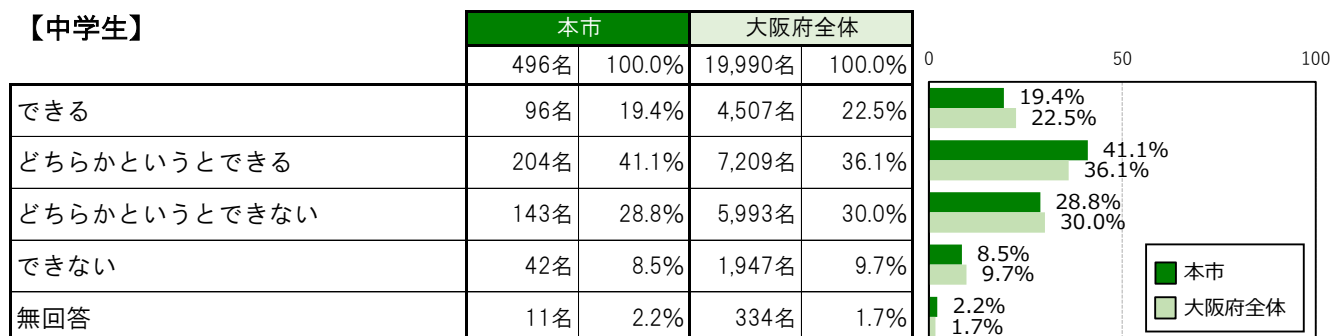
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだん考えていることについて

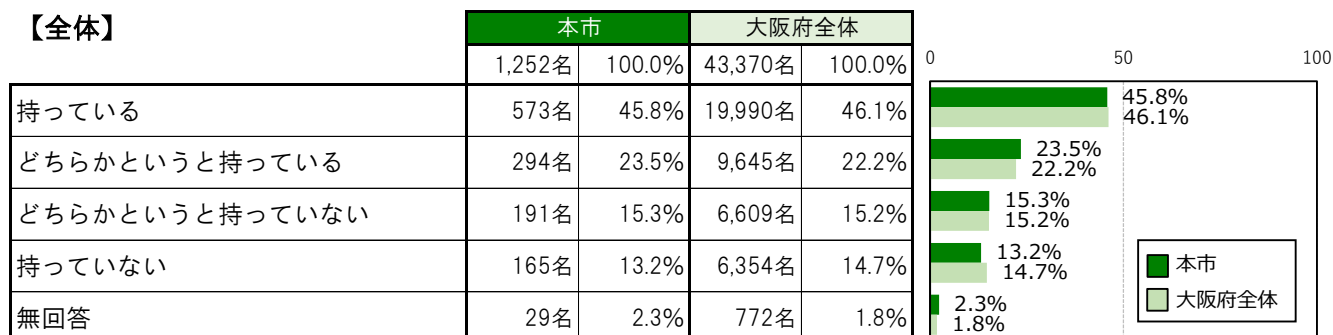
問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

全体は、「持っている」が45.8%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が23.5%、「どちらかというを持っていない」が15.3%、「持っていない」が13.2%となっている。

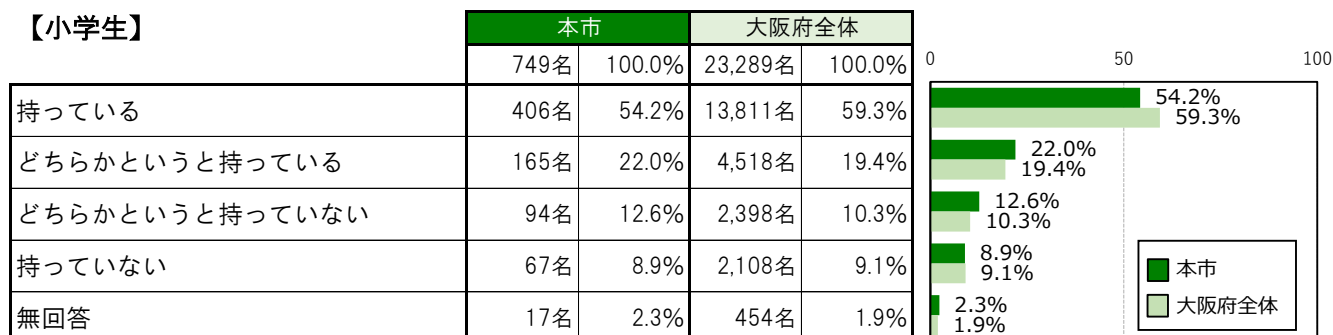
小学生は、「持っている」が54.2%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が22.0%、「どちらかというを持っていない」が12.6%、「持っていない」が8.9%となっている。

中学生は、「持っている」が33.1%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が26.0%、「どちらかというを持っていない」が19.4%、「持っていない」が19.4%となっている。

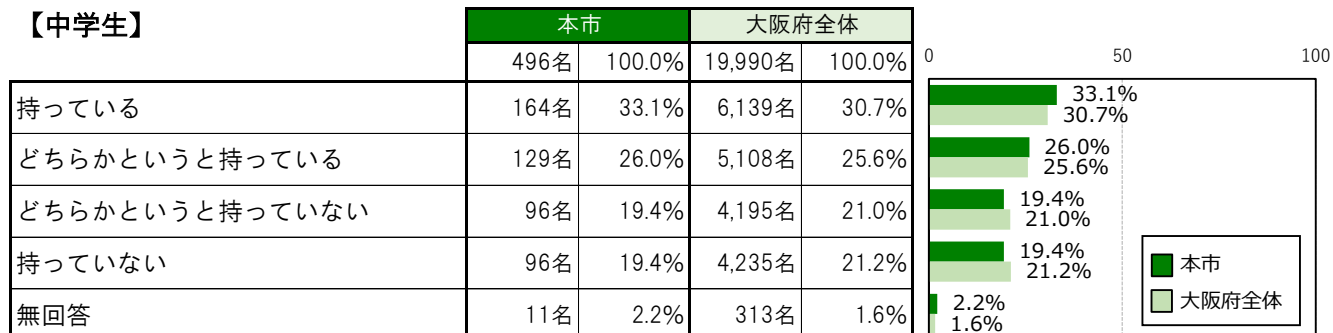
【全体】



【小学生】



【中学生】



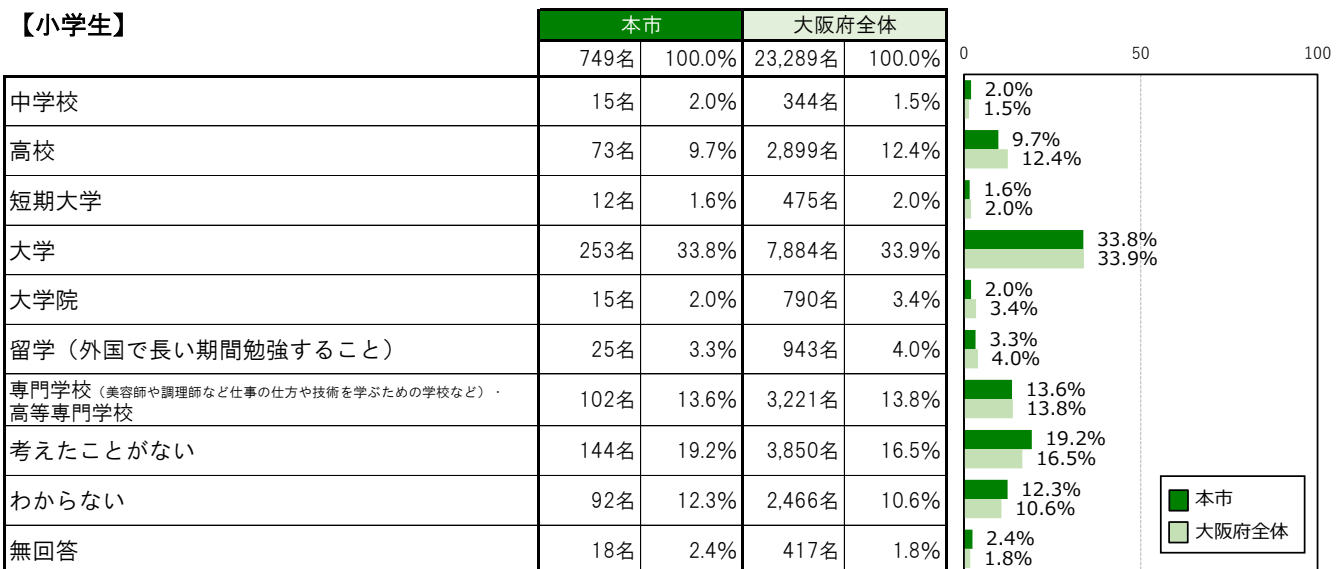
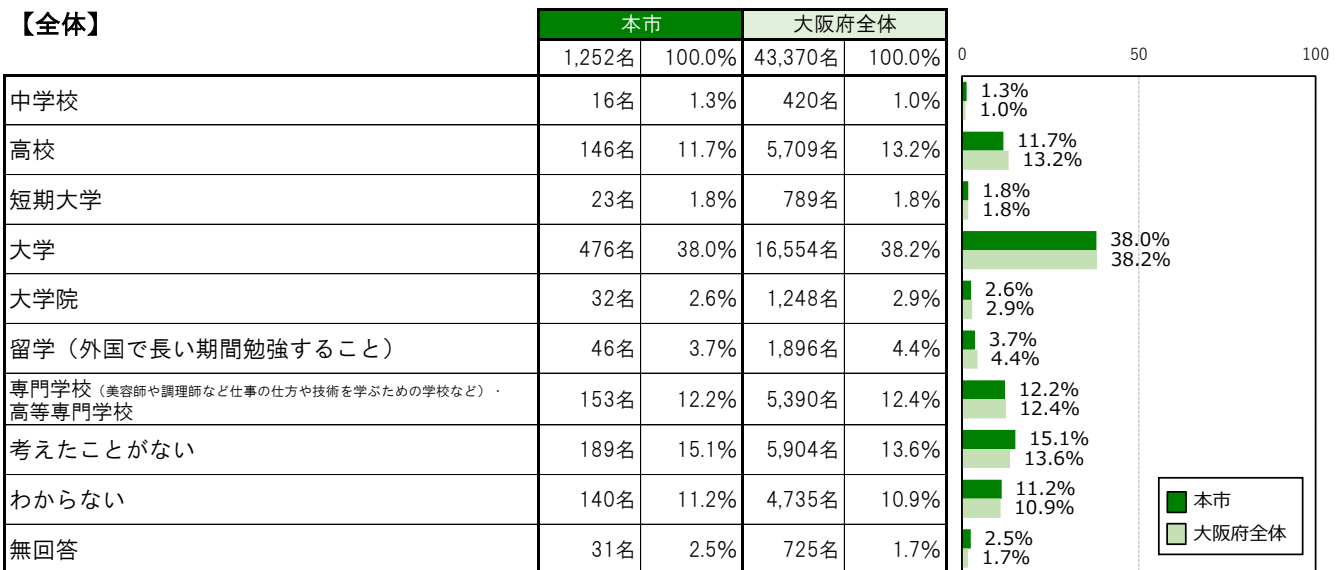
ふだん考えていることについて

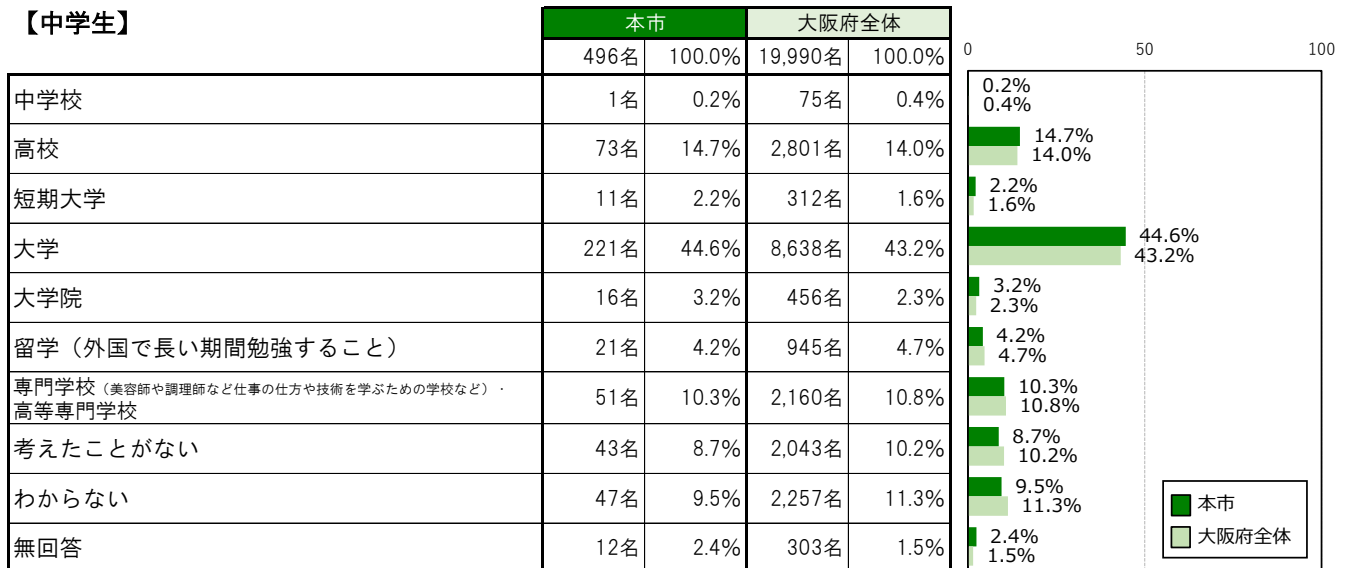
問24 希望する進学先

全体は、「大学」が38.0%で最も多く、次いで「考えたことがない」が15.1%、「専門学校・高等専門学校」が12.2%、「高校」が11.7%となっている。

小学生は、「大学」が33.8%で最も多く、次いで「考えたことがない」が19.2%、「専門学校・高等専門学校」が13.6%、「高校」が9.7%となっている。

中学生は、「大学」が44.6%で最も多く、次いで「高校」が14.7%、「専門学校・高等専門学校」が10.3%、「考えたことがない」が8.7%となっている。





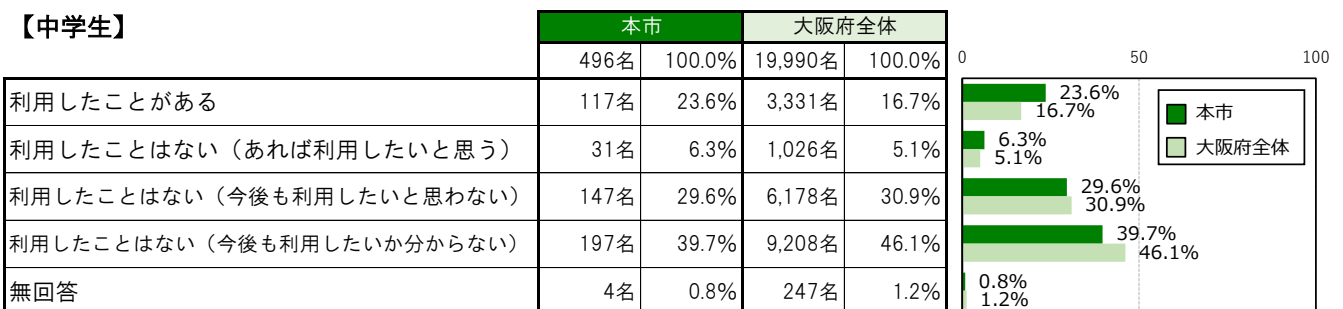
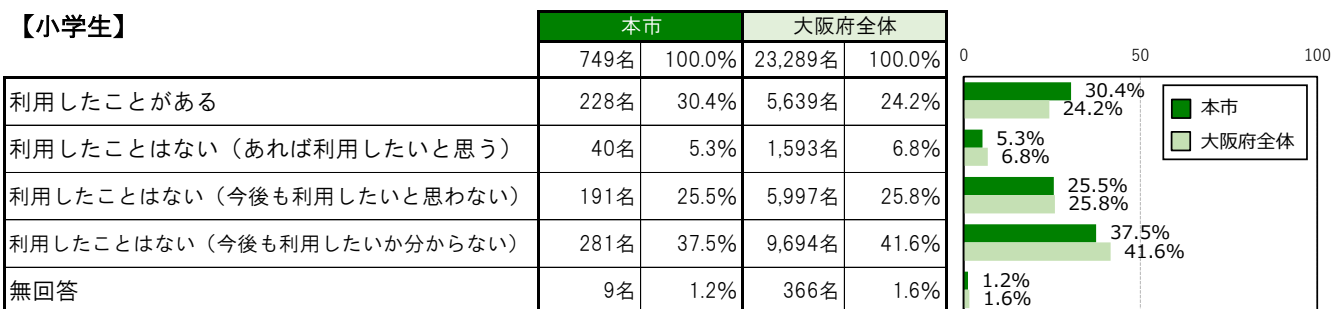
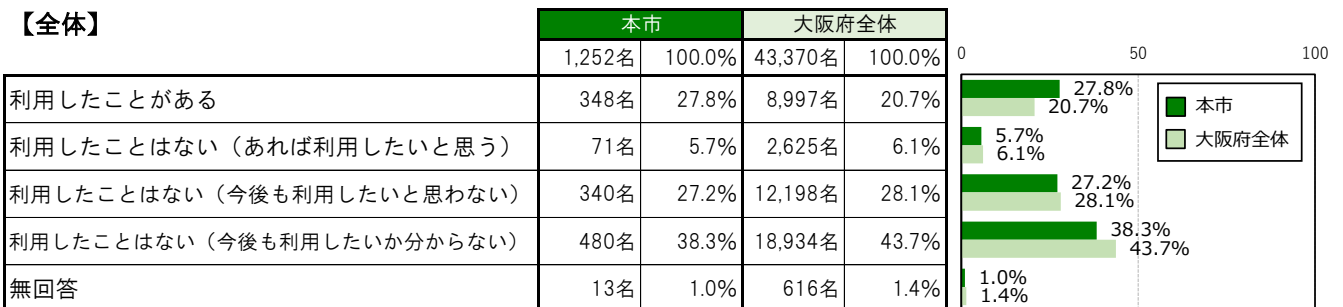
あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が38.3%で最も多く、次いで「利用したことがある」が27.8%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.2%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が37.5%で最も多く、次いで「利用したことがある」が30.4%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.5%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が39.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.6%、「利用したことがある」が23.6%となっている。



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が22.9%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が19.9%となっている。

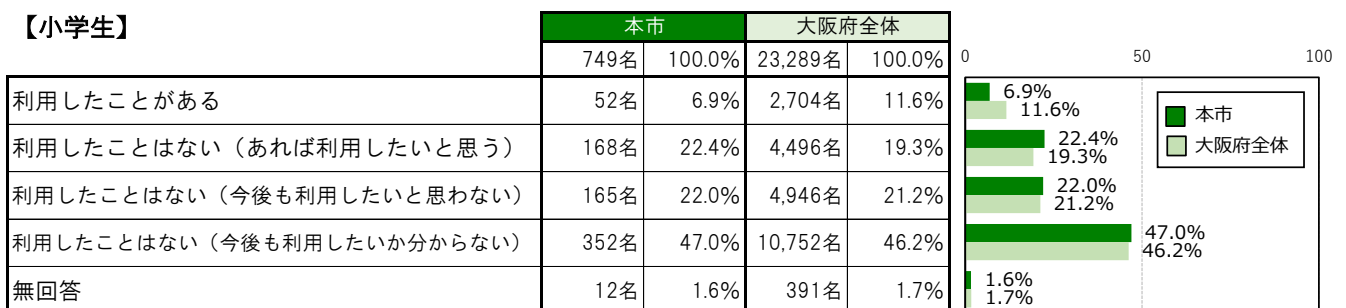
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が47.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が22.4%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が22.0%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.6%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が24.0%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が16.3%となっている。

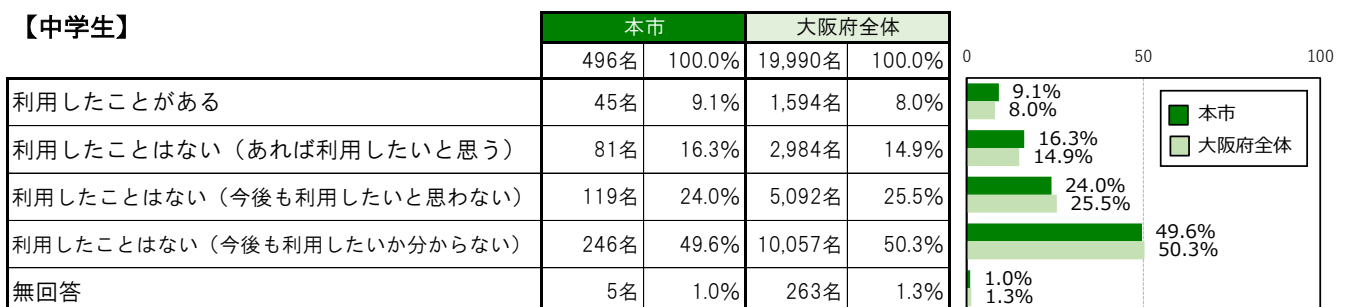
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

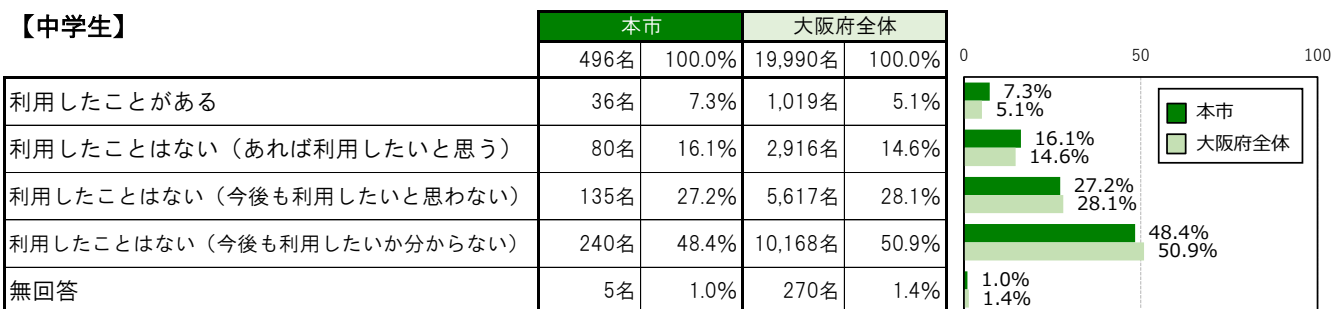
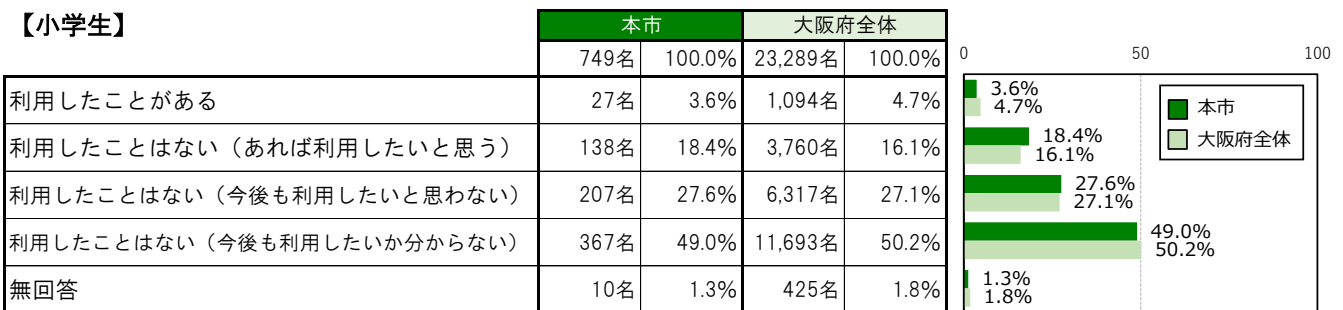
問25（１）子どもの居場所の利用状況

③勉強を無料か安い料金でみてる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.4%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.4%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.4%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が16.1%となっている。



あなたのことについて

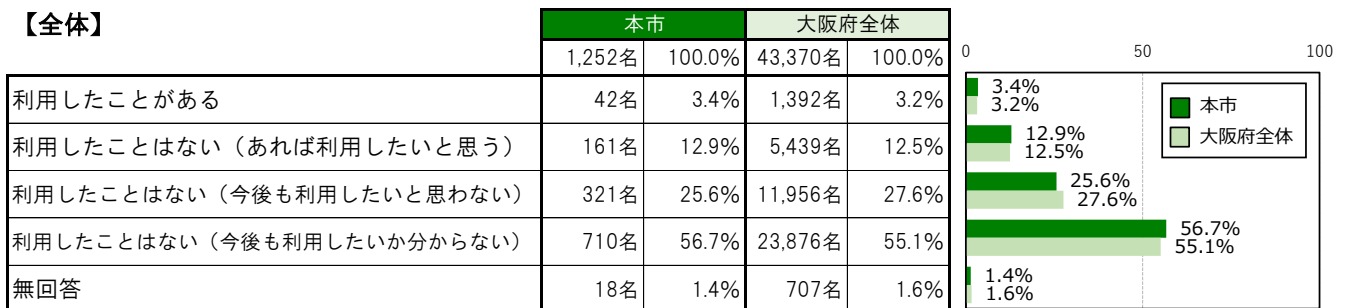
問25（１）子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が56.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が12.9%となっている。

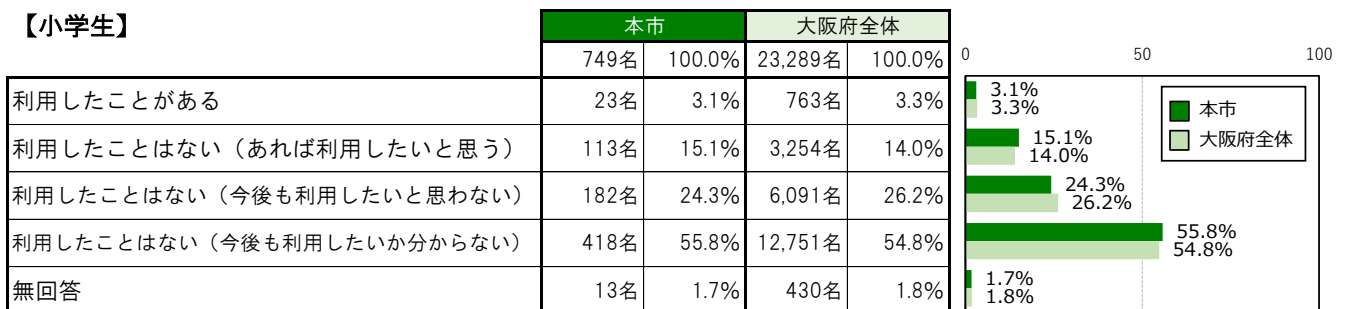
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が55.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が24.3%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が15.1%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が58.1%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が9.7%となっている。

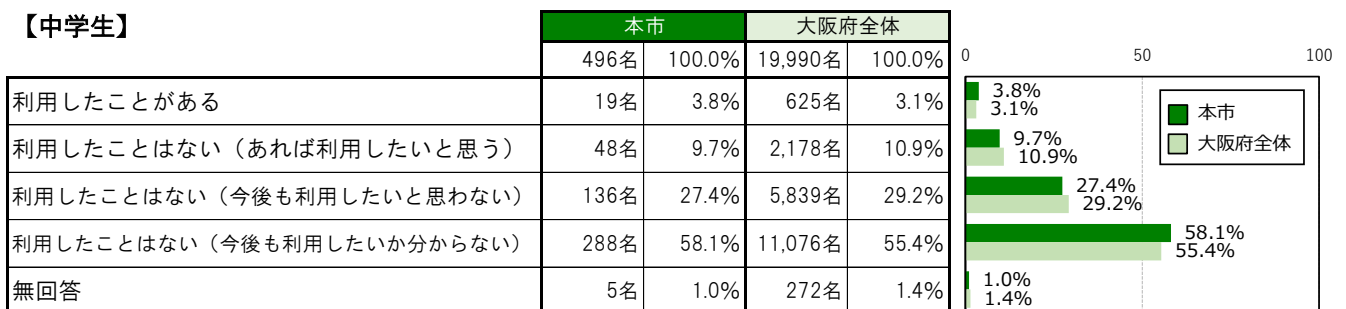
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

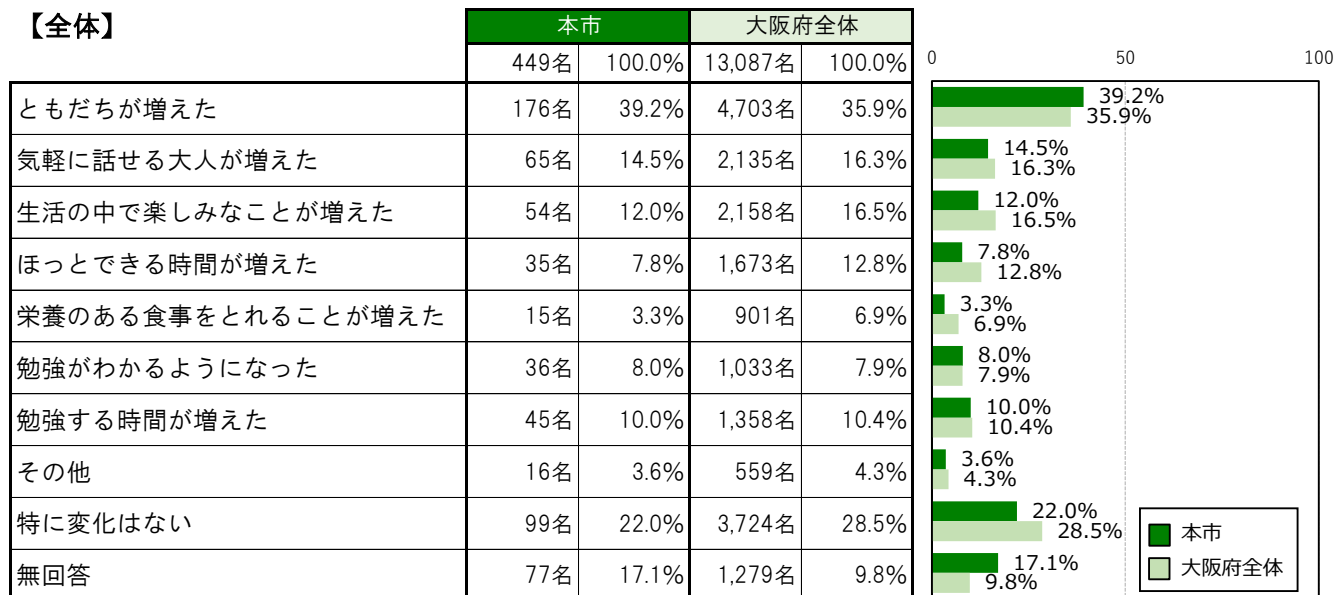
問25（２）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が39.2%で最も多く、次いで「気軽に話せる大人が増えた」が14.5%、「生活の中で楽しいことが増えた」が12.0%、「勉強する時間が増えた」が10.0%となっている。

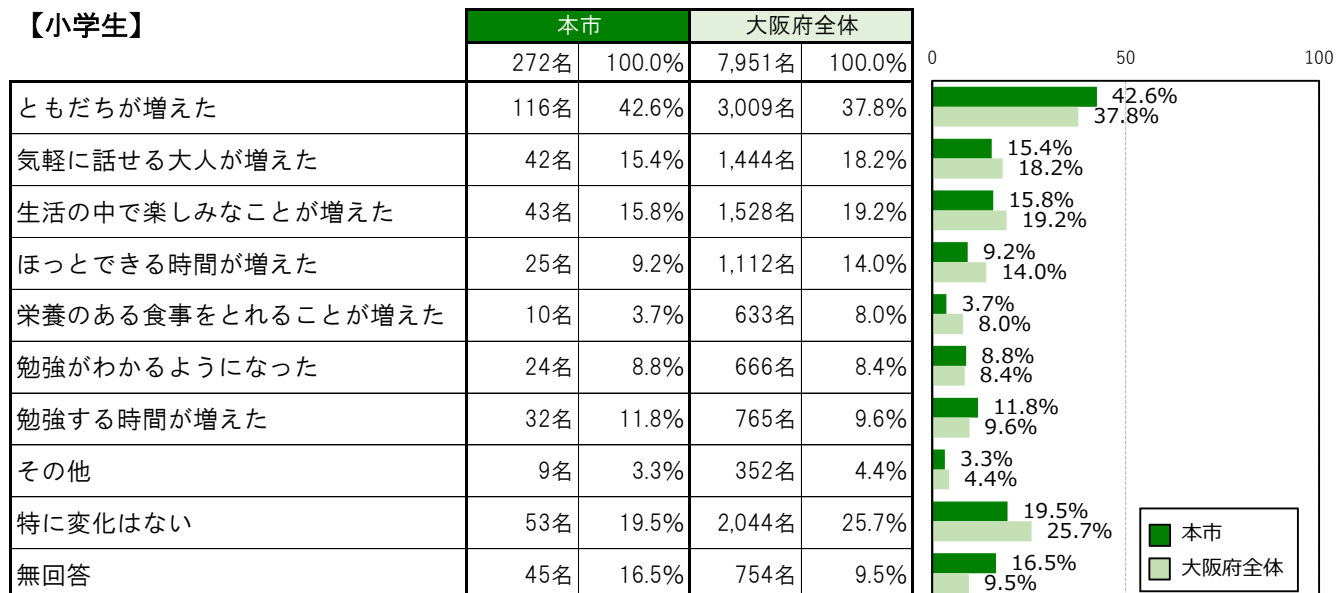
小学生は、「ともだちが増えた」が42.6%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が15.8%、「気軽に話せる大人が増えた」が15.4%、「勉強する時間が増えた」が11.8%となっている。

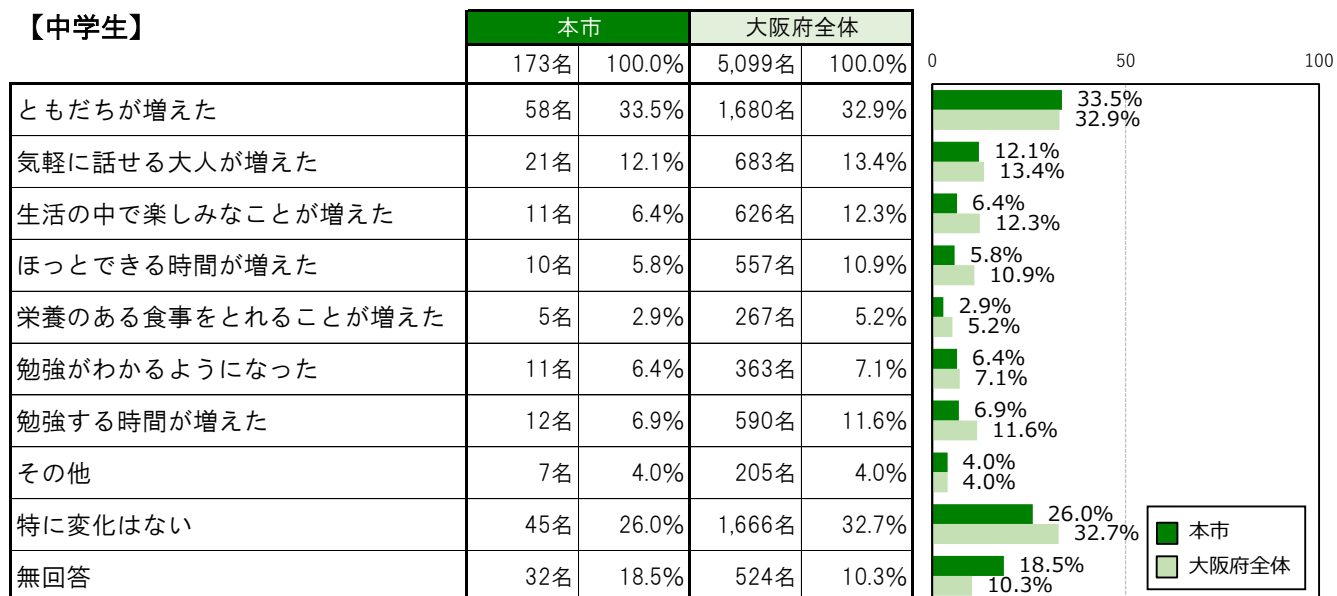
中学生は、「ともだちが増えた」が33.5%で最も多く、次いで「気軽に話せる大人が増えた」が12.1%、「勉強する時間が増えた」が6.9%、「生活の中で楽しいことが増えた」、「勉強がわかるようになった」がそれぞれ6.4%となっている。

【全体】



【小学生】





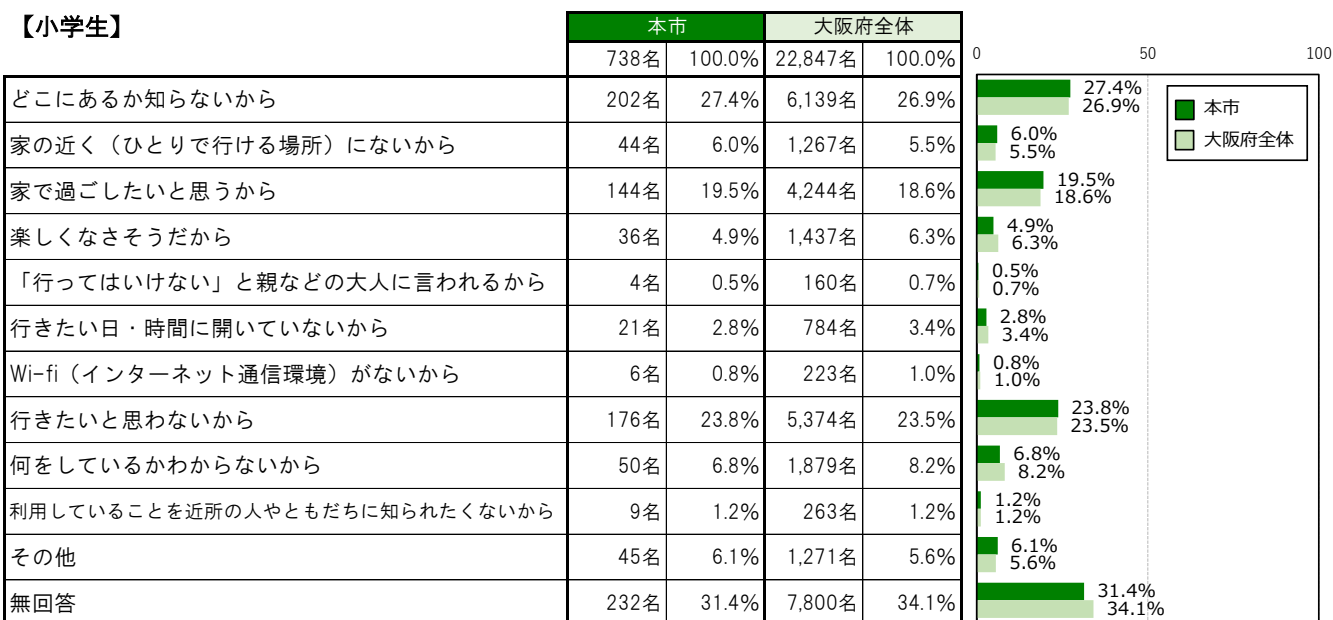
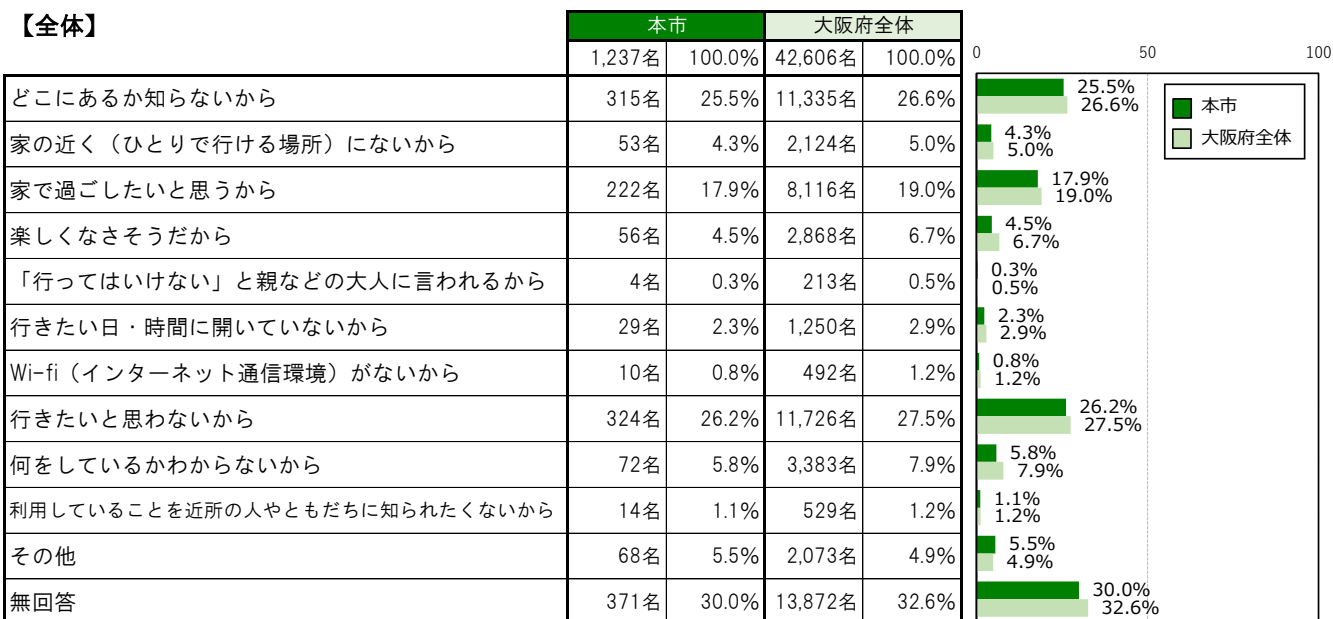
あなたのことについて

問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由

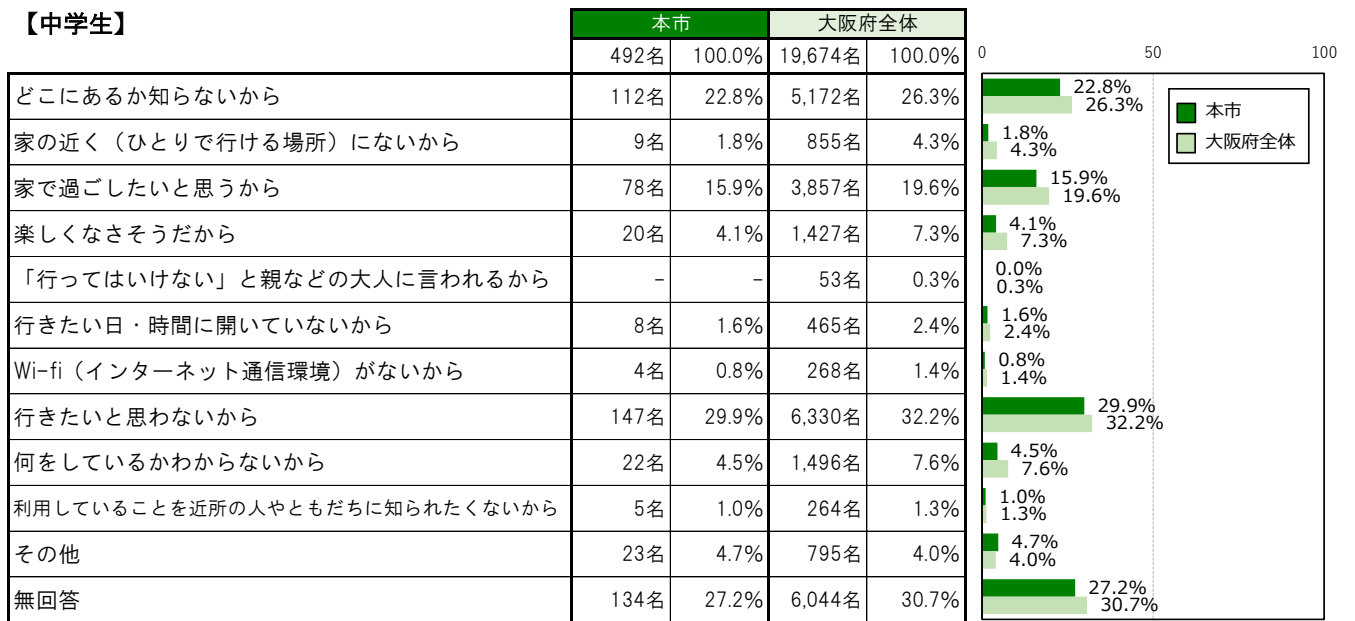
全体は、「行きたいと思わないから」が26.2%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が25.5%、「家で過ごしたいと思うから」が17.9%、「何をしているかわからないから」が5.8%となっている。

小学生は、「どこにあるか知らないから」が27.4%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が23.8%、「家で過ごしたいと思うから」が19.5%、「何をしているかわからないから」が6.8%となっている。

中学生は、「行きたいと思わないから」が29.9%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が22.8%、「家で過ごしたいと思うから」が15.9%、「何をしているかわからないから」が4.5%となっている。



【中学生】



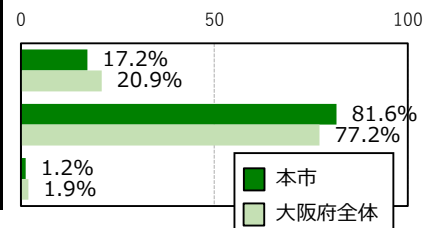
あなたのことについて

問26（１）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が17.2%、「いない」が81.6%となっている。
 小学生は、「いる」が21.0%、「いない」が77.6%となっている。
 中学生は、「いる」が11.3%、「いない」が87.9%となっている。

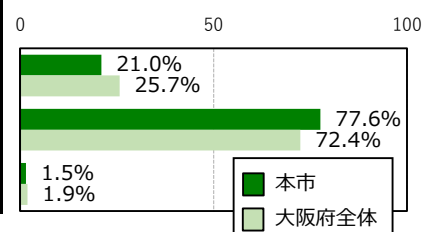
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,252名	100.0%	43,370名	100.0%
いる	215名	17.2%	9,054名	20.9%
いない	1,022名	81.6%	33,476名	77.2%
無回答	15名	1.2%	840名	1.9%



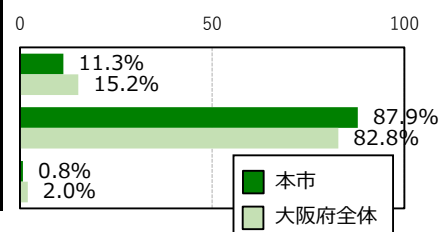
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	749名	100.0%	23,289名	100.0%
いる	157名	21.0%	5,988名	25.7%
いない	581名	77.6%	16,856名	72.4%
無回答	11名	1.5%	445名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	496名	100.0%	19,990名	100.0%
いる	56名	11.3%	3,045名	15.2%
いない	436名	87.9%	16,553名	82.8%
無回答	4名	0.8%	392名	2.0%



あなたのことについて

問26（2）世話をしている相手

全体は、「きょうだい」が69.3%で最も多く、次いで「お母さん」が39.1%、「お父さん」が23.7%、「おばあちゃん」が13.5%となっている。

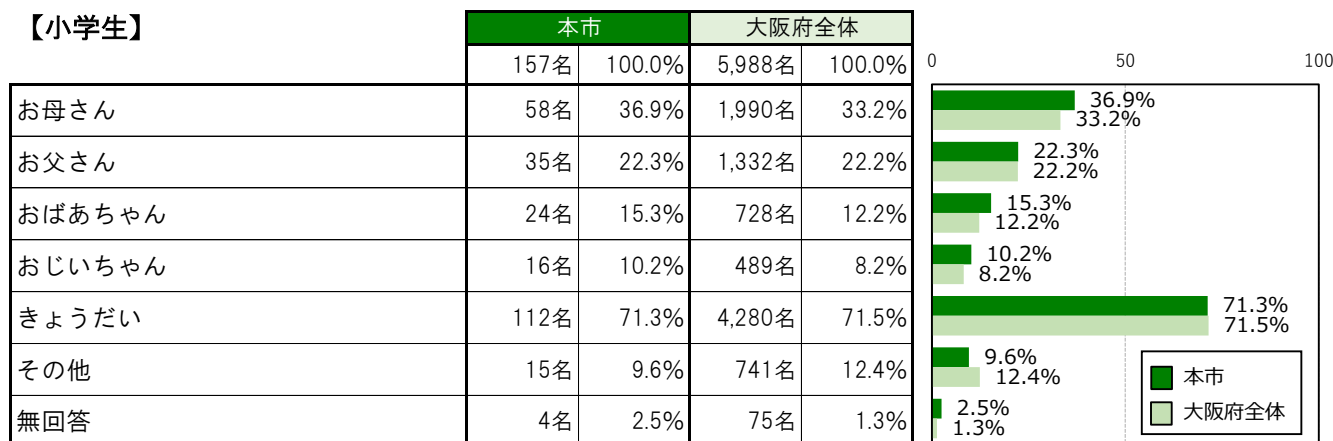
小学生は、「きょうだい」が71.3%で最も多く、次いで「お母さん」が36.9%、「お父さん」が22.3%、「おばあちゃん」が15.3%となっている。

中学生は、「きょうだい」が66.1%で最も多く、次いで「お母さん」が44.6%、「お父さん」が28.6%、「おばあちゃん」が8.9%となっている。

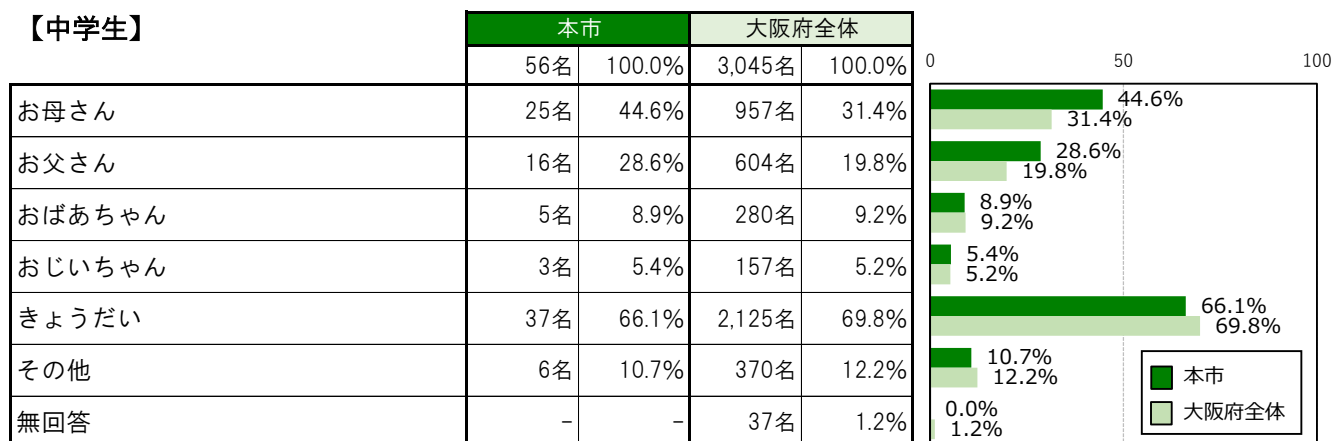
【全体】



【小学生】



【中学生】



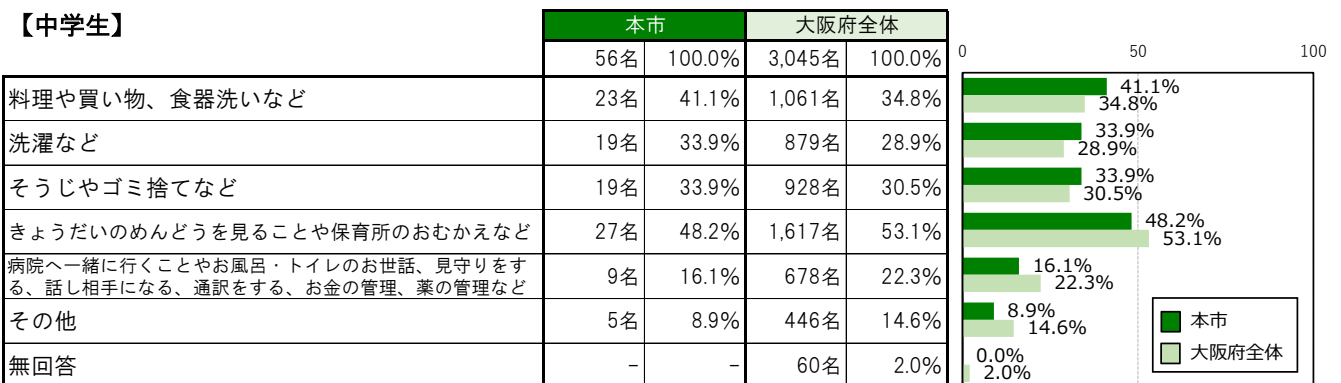
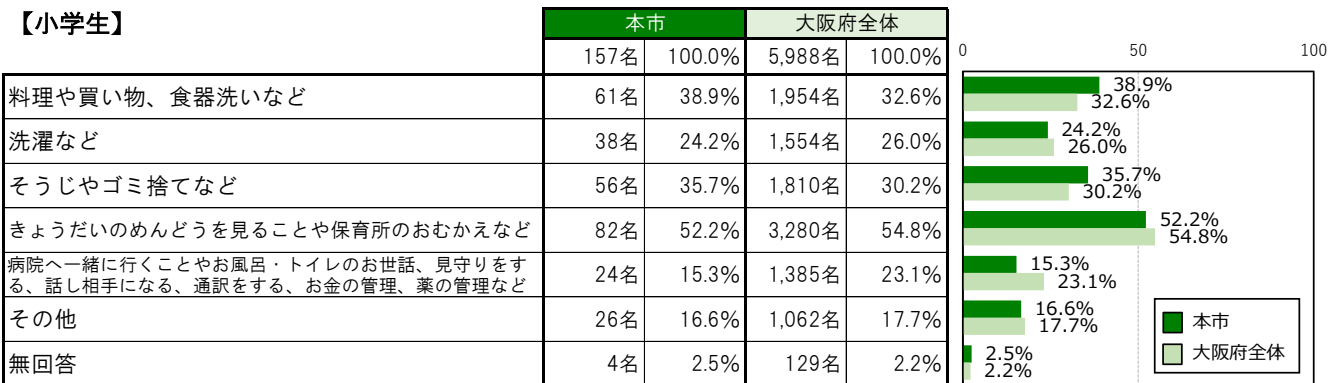
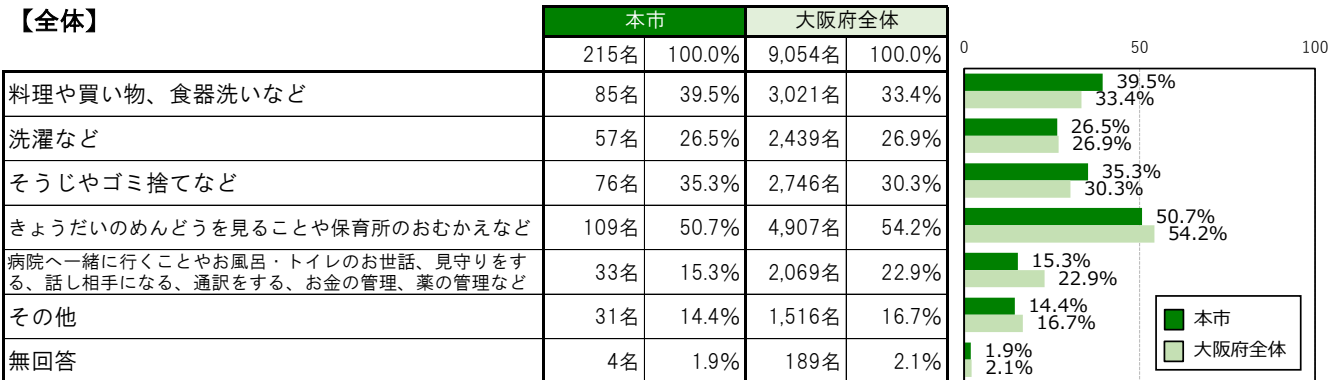
あなたのことについて

問26（3）世話をしている内容

全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が50.7%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が39.5%、「そうじやゴミ捨てなど」が35.3%、「洗濯など」が26.5%となっている。

小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が52.2%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が38.9%、「そうじやゴミ捨てなど」が35.7%、「洗濯など」が24.2%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が48.2%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が41.1%、「洗濯など」、「そうじやゴミ捨てなど」がそれぞれ33.9%となっている。



あなたのことについて

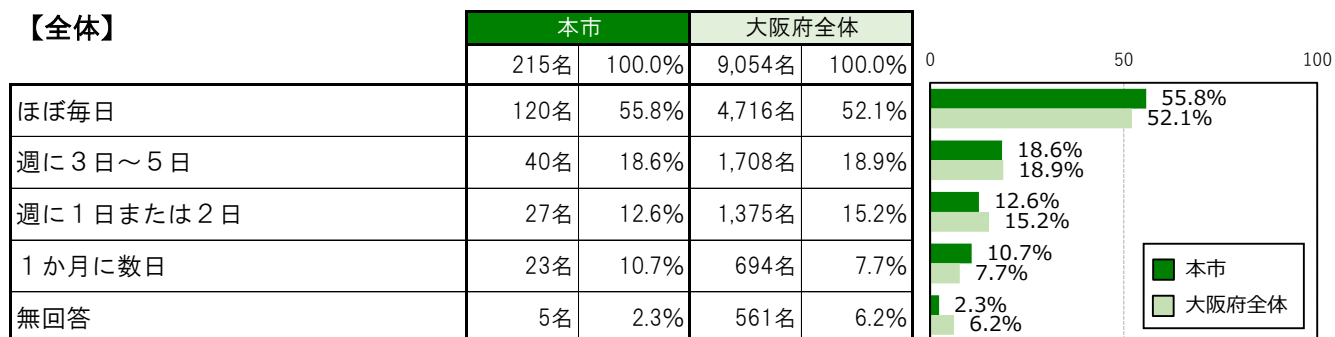
問26（５）世話をする頻度

全体は、「ほぼ毎日」が55.8%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が18.6%、「週に1日または2日」が12.6%となっている。

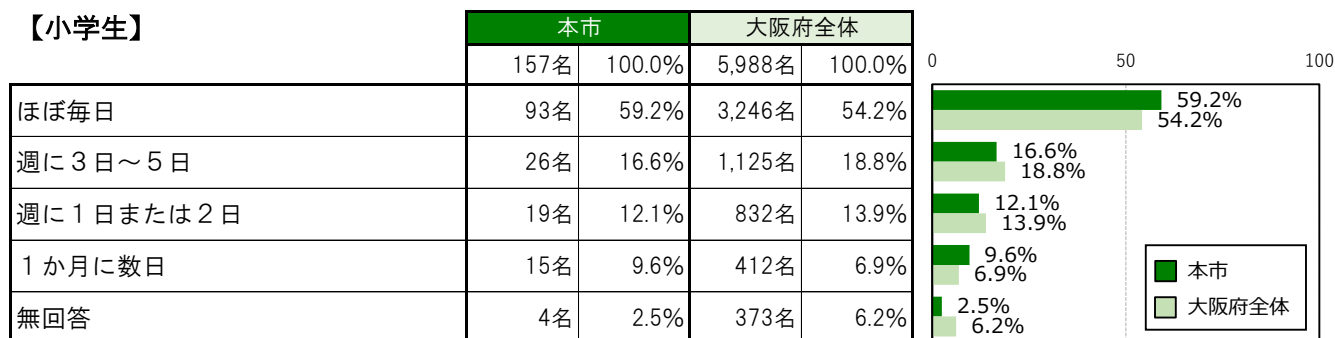
小学生は、「ほぼ毎日」が59.2%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が16.6%、「週に1日または2日」が12.1%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が46.4%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が25.0%、「1か月に数日」が14.3%となっている。

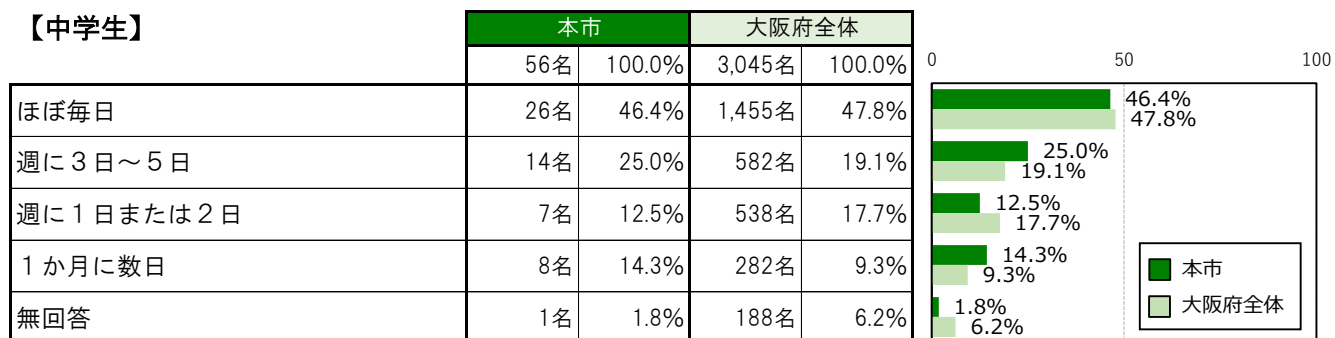
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

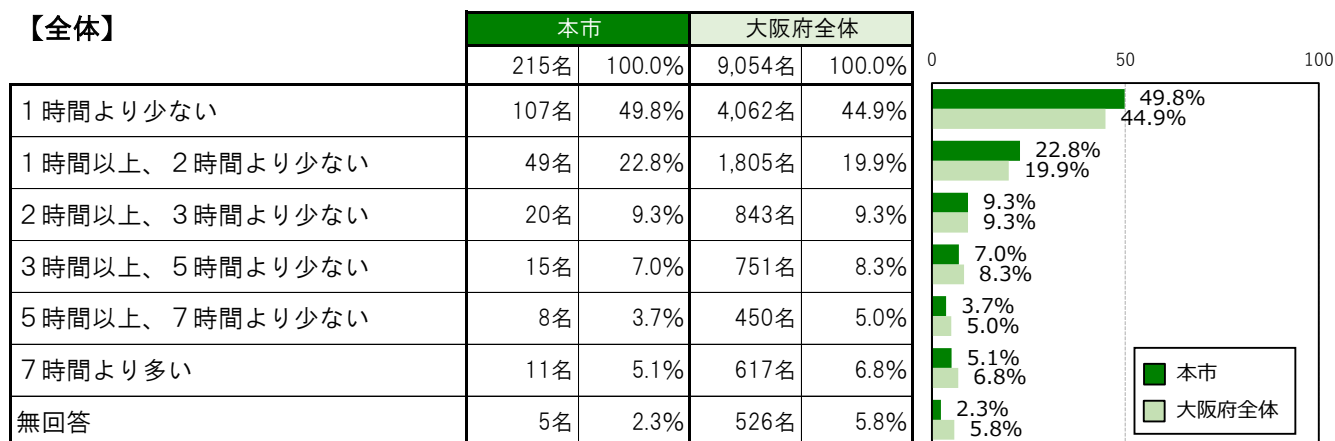
問26（6）学校がある日に世話をする1日の時間

全体は、「1時間より少ない」が49.8%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が22.8%、「2時間以上、3時間より少ない」が9.3%、「3時間以上、5時間より少ない」が7.0%となっている。

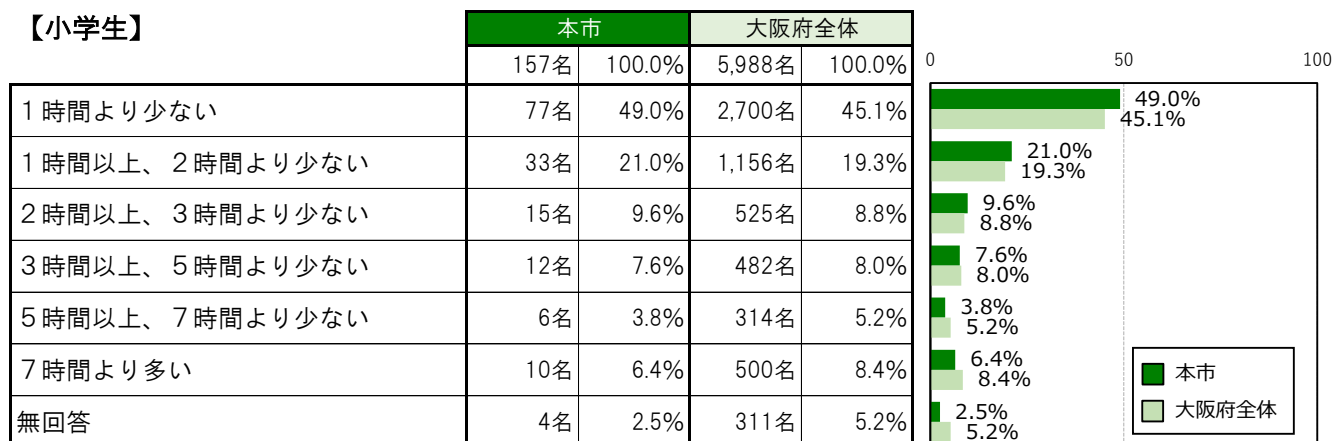
小学生は、「1時間より少ない」が49.0%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.0%、「2時間以上、3時間より少ない」が9.6%、「3時間以上、5時間より少ない」が7.6%となっている。

中学生は、「1時間より少ない」が51.8%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が26.8%、「2時間以上、3時間より少ない」が8.9%、「3時間以上、5時間より少ない」が5.4%となっている。

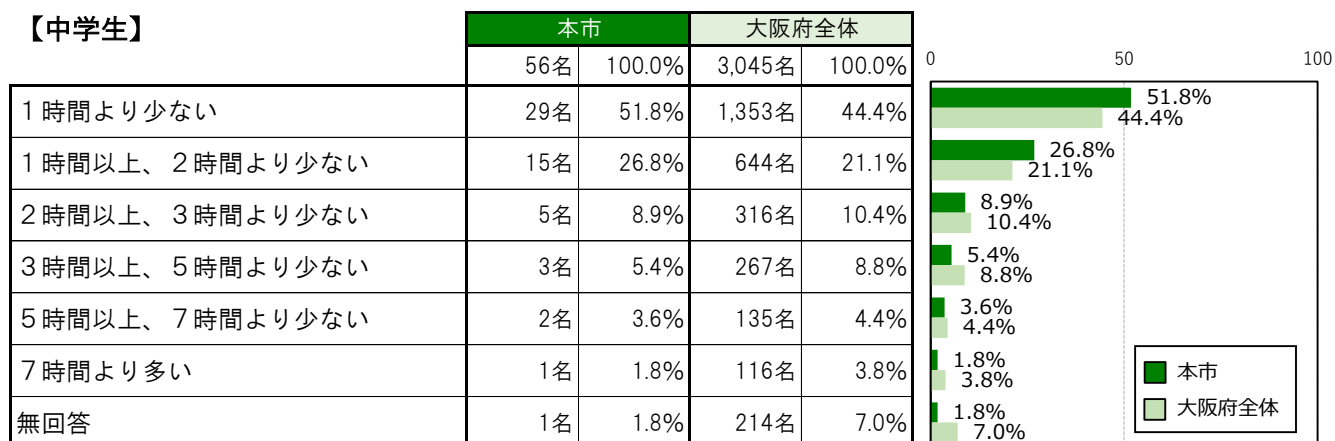
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

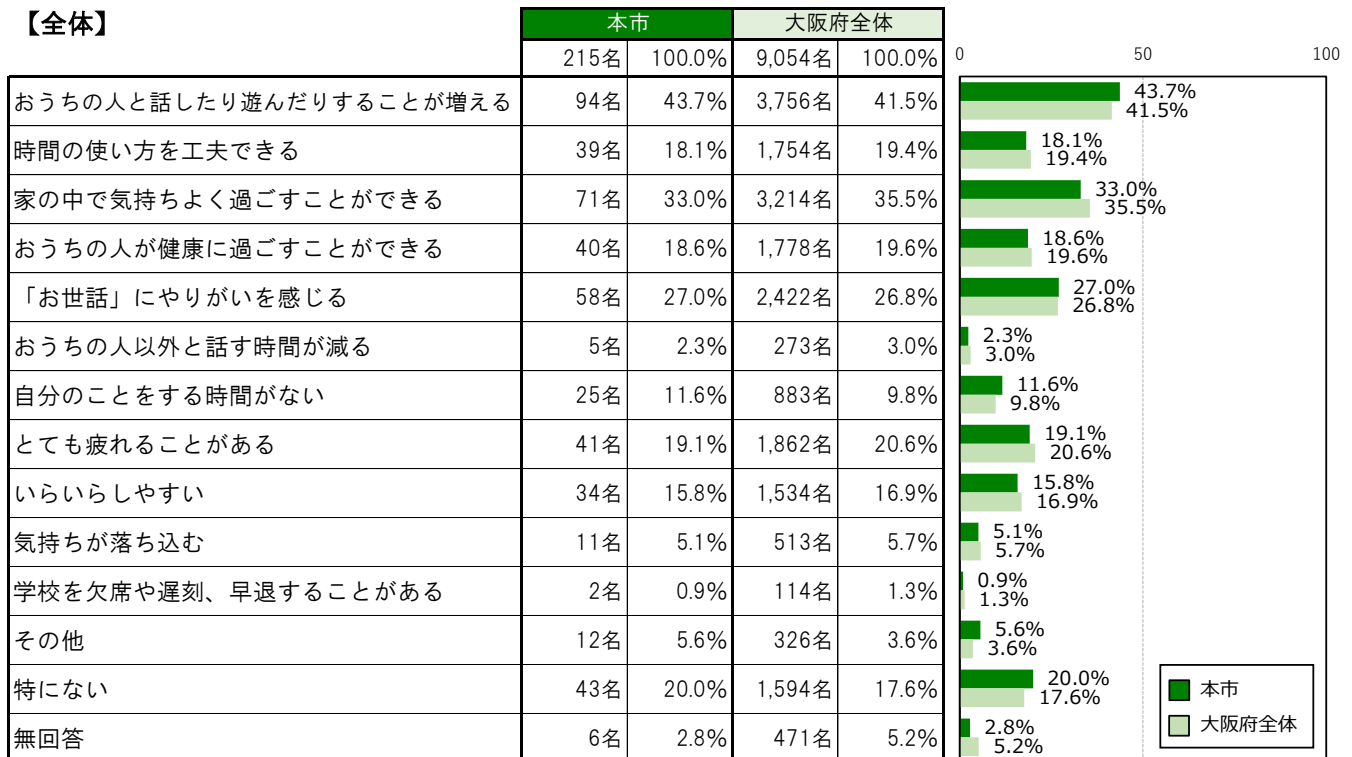
問26（7）世話をしていることの影響

全体は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が43.7%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が33.0%、「「お世話」にやりがいを感じる」が27.0%、「とても疲れることがある」が19.1%となっている。

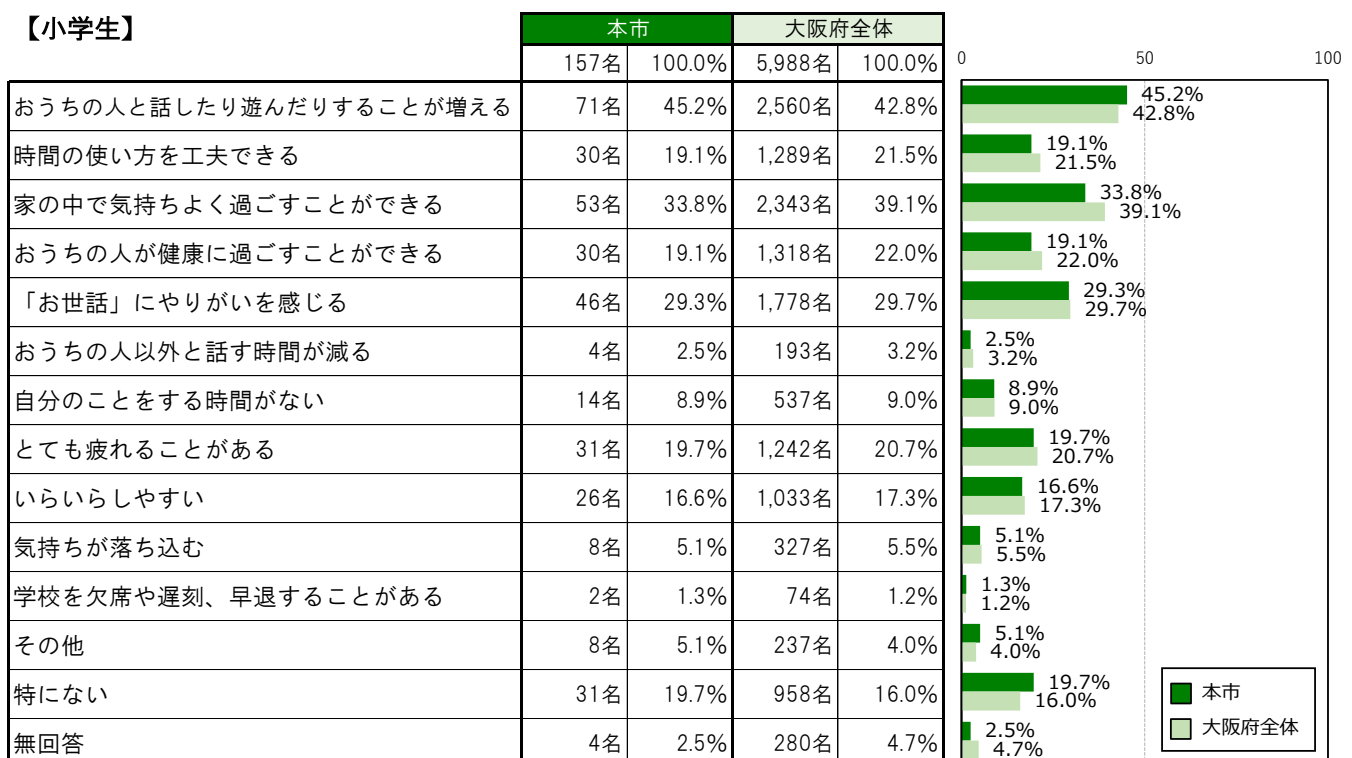
小学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が45.2%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が33.8%、「「お世話」にやりがいを感じる」が29.3%、「とても疲れることがある」が19.7%となっている。

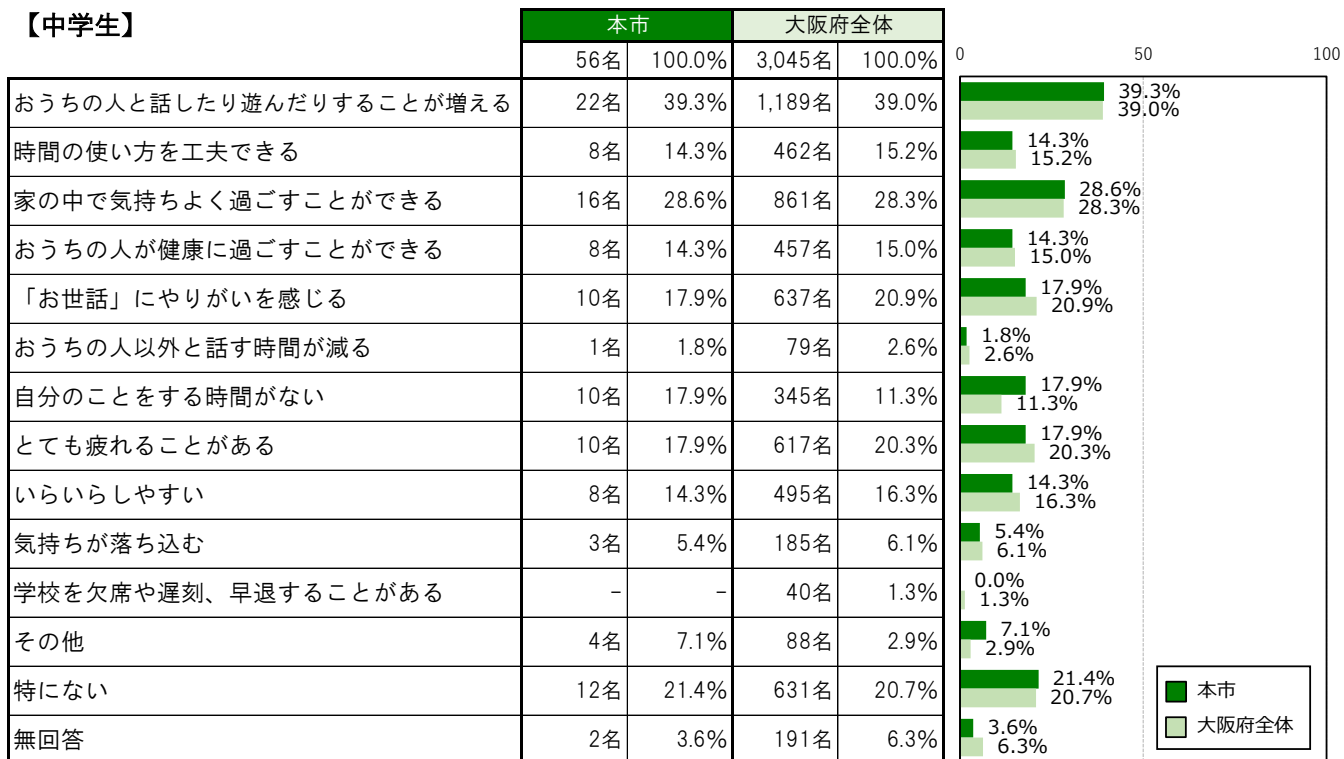
中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が39.3%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が28.6%、「「お世話」にやりがいを感じる」、「自分のことをする時間がない」、「とても疲れることがある」がそれぞれ17.9%となっている。

【全体】



【小学生】





2. 単純集計結果〔保護者〕

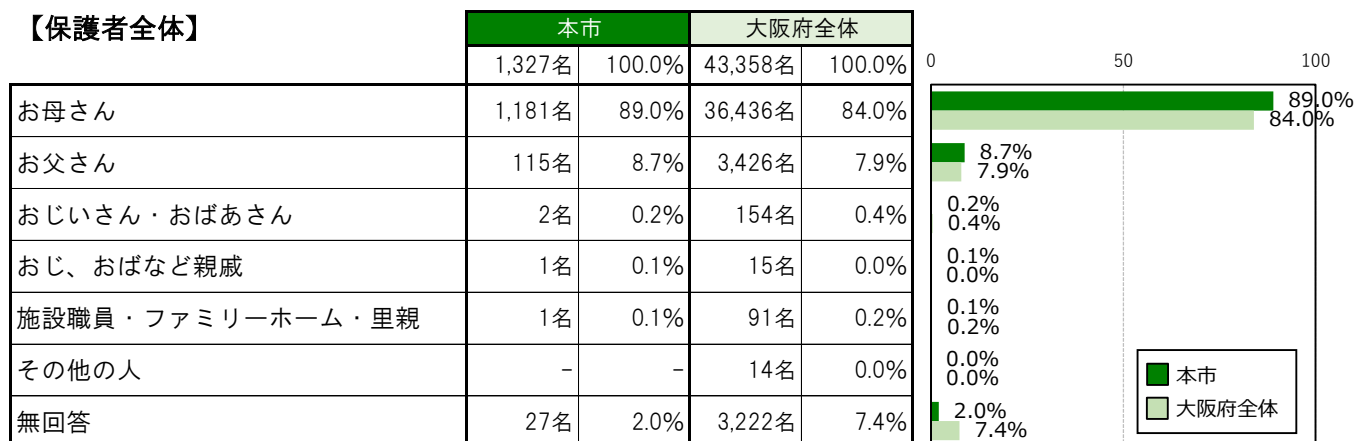
八尾市

子どもとの関係について

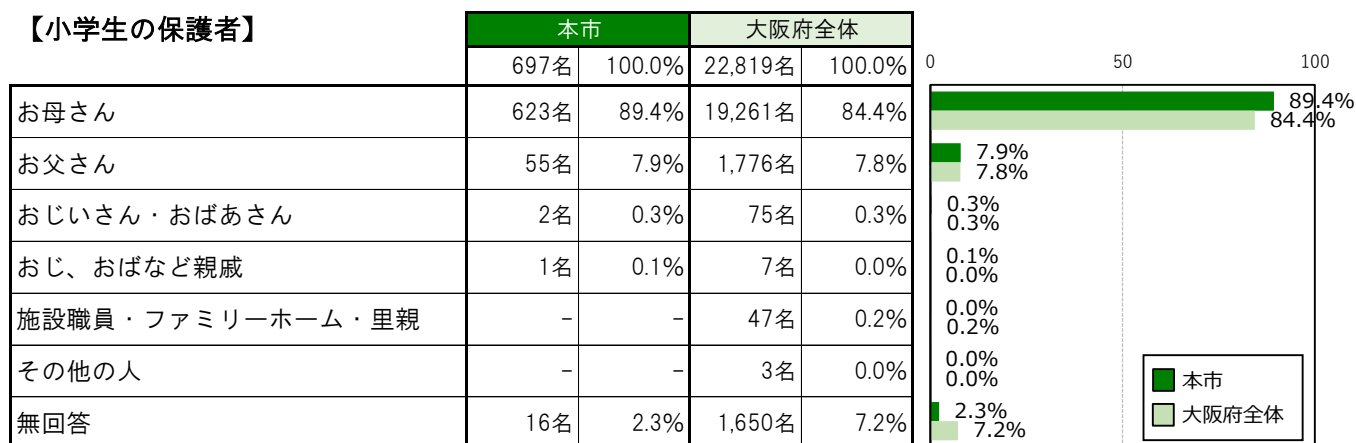
問1 子どもとの続柄

保護者全体は、「お母さん」が89.0%で最も多く、次いで「お父さん」が8.7%となっている。
小学生の保護者は、「お母さん」が89.4%で最も多く、次いで「お父さん」が7.9%となっている。
中学生の保護者は、「お母さん」が88.4%で最も多く、次いで「お父さん」が9.6%となっている。

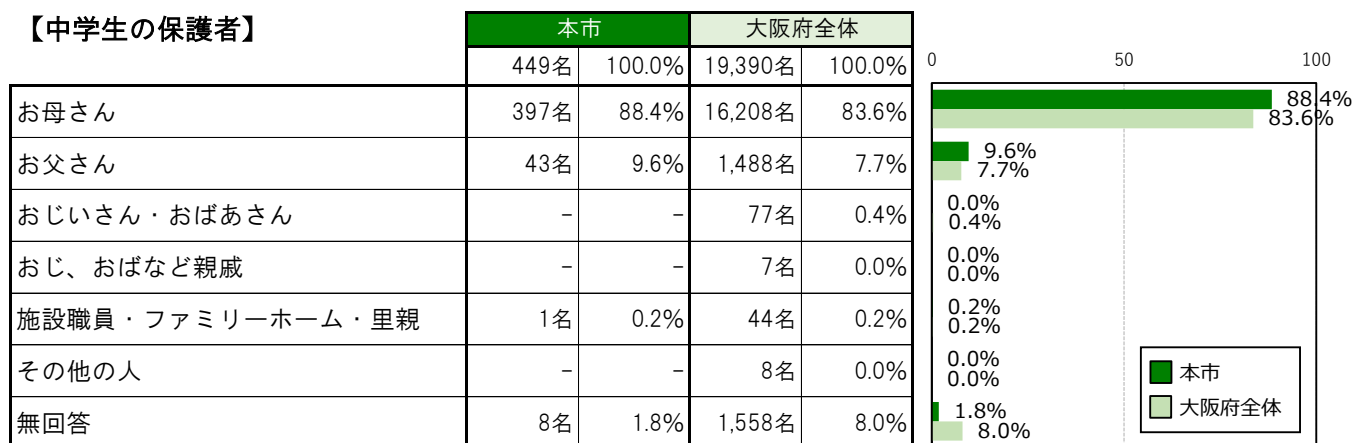
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

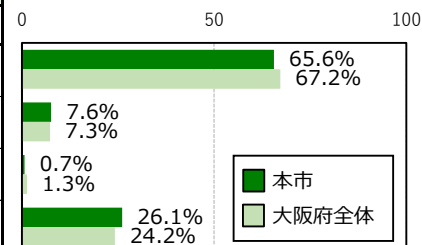
保護者全体は、「いない」が65.6%で最も多く、次いで「1人」が7.6%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が68.4%で最も多く、次いで「1人」が8.8%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が64.8%で最も多く、次いで「1人」が6.7%、「2人」が1.1%となっている。

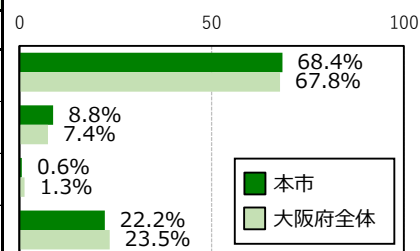
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	871名	65.6%	29,081名	67.2%
1人	101名	7.6%	3,181名	7.3%
2人	9名	0.7%	555名	1.3%
無回答	346名	26.1%	10,483名	24.2%



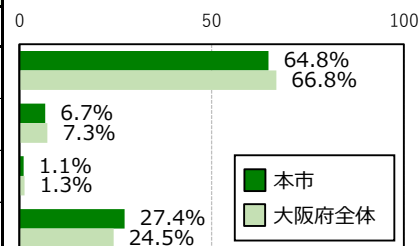
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	477名	68.4%	15,456名	67.8%
1人	61名	8.8%	1,681名	7.4%
2人	4名	0.6%	286名	1.3%
無回答	155名	22.2%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	291名	64.8%	12,942名	66.8%
1人	30名	6.7%	1,422名	7.3%
2人	5名	1.1%	257名	1.3%
無回答	123名	27.4%	4,744名	24.5%



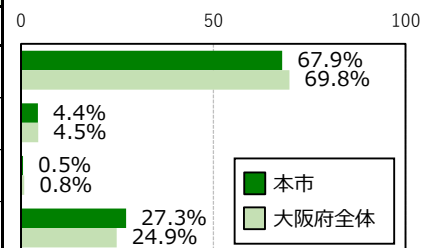
世帯の状況について

問2 世帯構成 ②おじいさん

保護者全体は、「いない」が67.9%で最も多く、次いで「1人」が4.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が70.9%で最も多く、次いで「1人」が5.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が67.0%で最も多く、次いで「1人」が3.8%となっている。

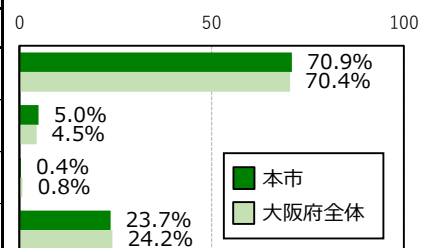
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	901名	67.9%	30,230名	69.8%
1人	58名	4.4%	1,932名	4.5%
2人	6名	0.5%	340名	0.8%
無回答	362名	27.3%	10,798名	24.9%



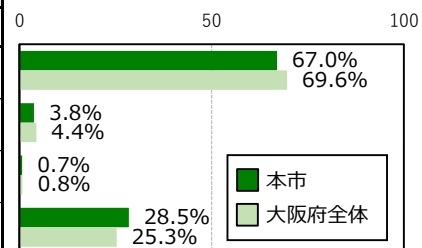
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	494名	70.9%	16,050名	70.4%
1人	35名	5.0%	1,031名	4.5%
2人	3名	0.4%	186名	0.8%
無回答	165名	23.7%	5,519名	24.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	301名	67.0%	13,474名	69.6%
1人	17名	3.8%	853名	4.4%
2人	3名	0.7%	148名	0.8%
無回答	128名	28.5%	4,890名	25.3%



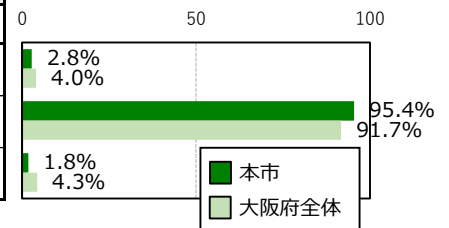
世帯の状況について

問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「いない」が2.8%、「1人」が95.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が2.2%、「1人」が96.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が4.2%、「1人」が93.8%となっている。

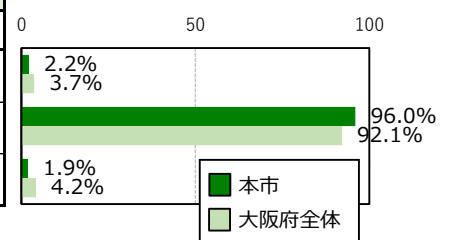
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	37名	2.8%	1,729名	4.0%
1人	1,266名	95.4%	39,706名	91.7%
無回答	24名	1.8%	1,865名	4.3%



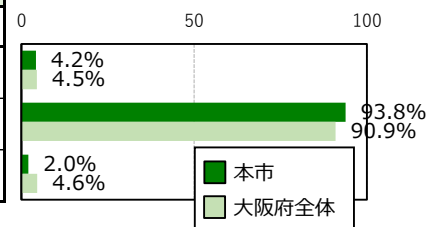
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	15名	2.2%	841名	3.7%
1人	669名	96.0%	20,990名	92.1%
無回答	13名	1.9%	955名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	19名	4.2%	872名	4.5%
1人	421名	93.8%	17,597名	90.9%
無回答	9名	2.0%	896名	4.6%



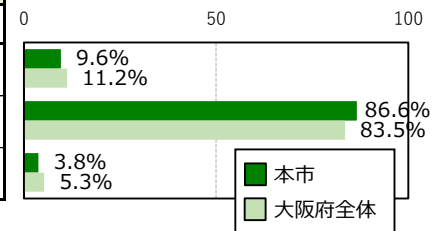
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「いない」が9.6%、「1人」が86.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が9.8%、「1人」が87.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が9.8%、「1人」が84.6%となっている。

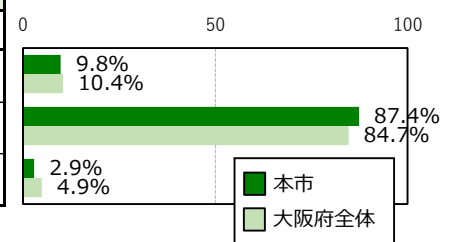
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	128名	9.6%	4,852名	11.2%
1人	1,149名	86.6%	36,166名	83.5%
無回答	50名	3.8%	2,282名	5.3%



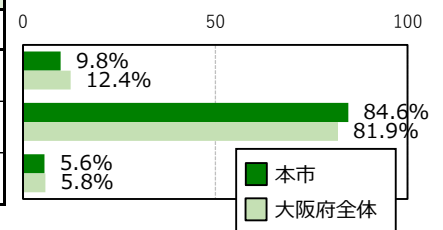
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	68名	9.8%	2,372名	10.4%
1人	609名	87.4%	19,301名	84.7%
無回答	20名	2.9%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	44名	9.8%	2,394名	12.4%
1人	380名	84.6%	15,852名	81.9%
無回答	25名	5.6%	1,119名	5.8%



世帯の状況について

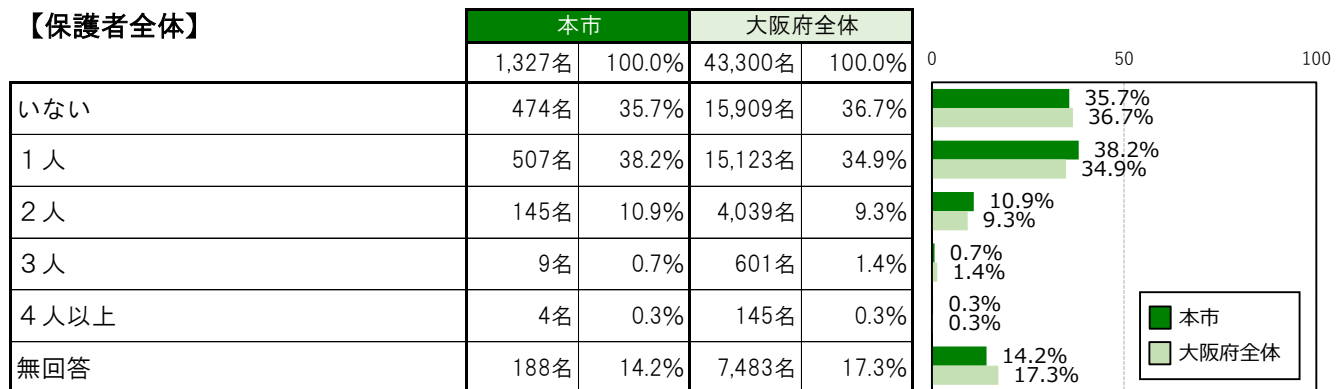
問2 世帯構成 ⑤姉・兄

保護者全体は、「1人」が38.2%で最も多く、次いで「いない」が35.7%、「2人」が10.9%となっている。

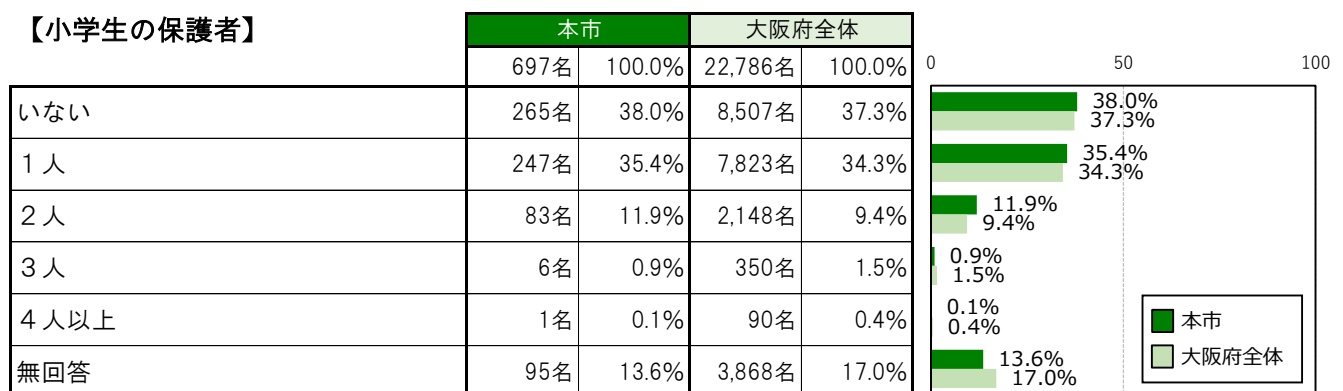
小学生の保護者は、「いない」が38.0%で最も多く、次いで「1人」が35.4%、「2人」が11.9%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が40.1%で最も多く、次いで「いない」が34.5%、「2人」が9.6%となっている。

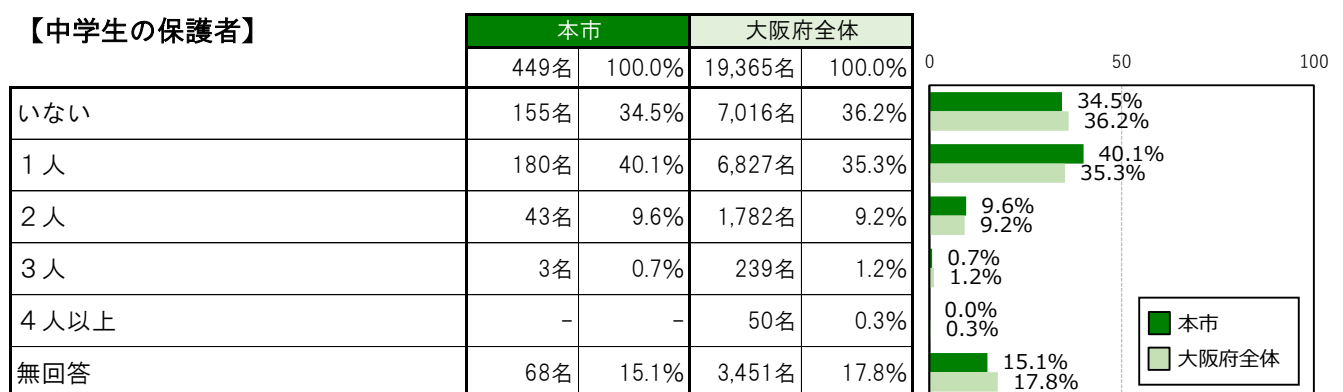
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

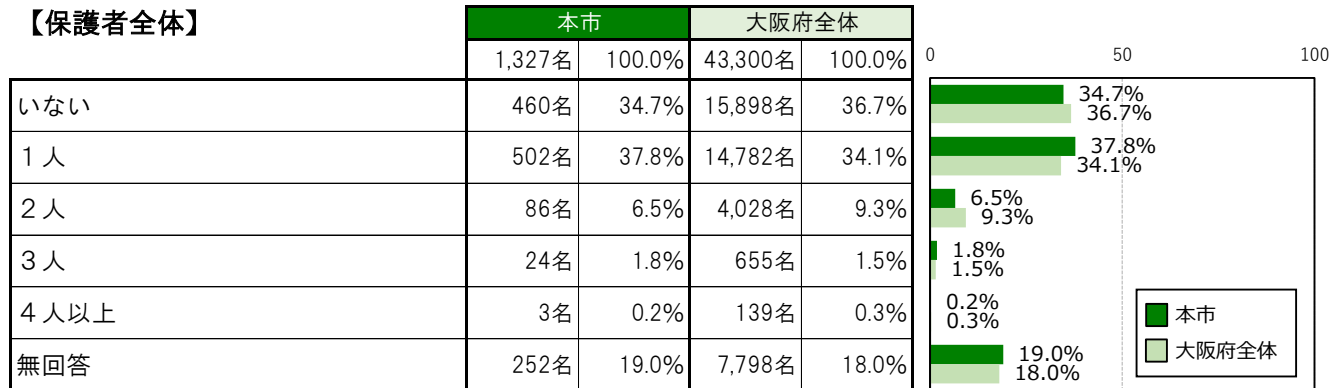
問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「1人」が37.8%で最も多く、次いで「いない」が34.7%、「2人」が6.5%、「3人」が1.8%となっている。

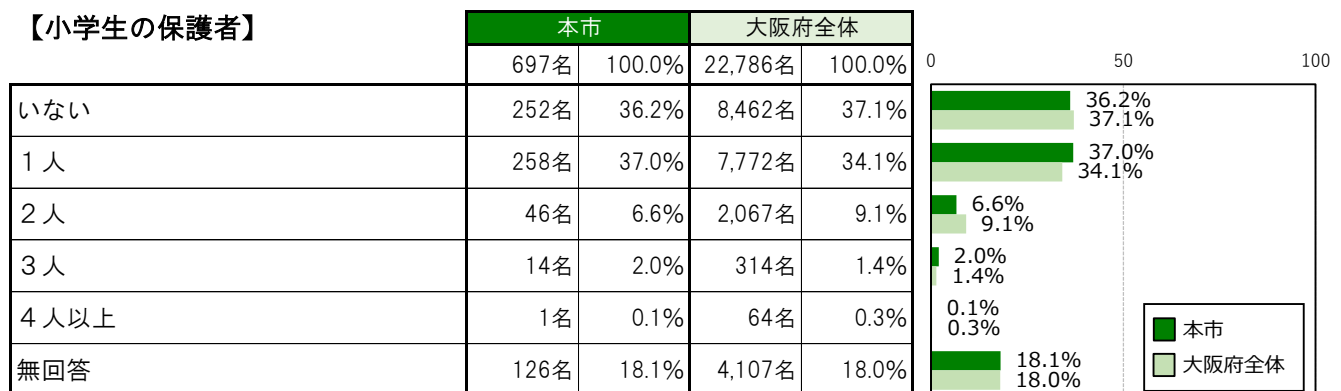
小学生の保護者は、「1人」が37.0%で最も多く、次いで「いない」が36.2%、「2人」が6.6%、「3人」が2.0%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が39.0%で最も多く、次いで「いない」が33.4%、「2人」が5.1%、「3人」が1.6%となっている。

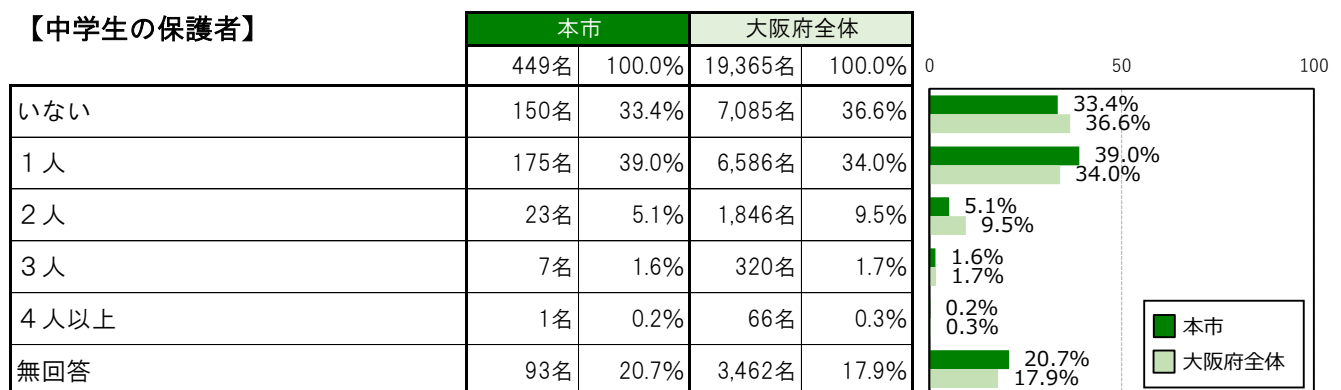
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

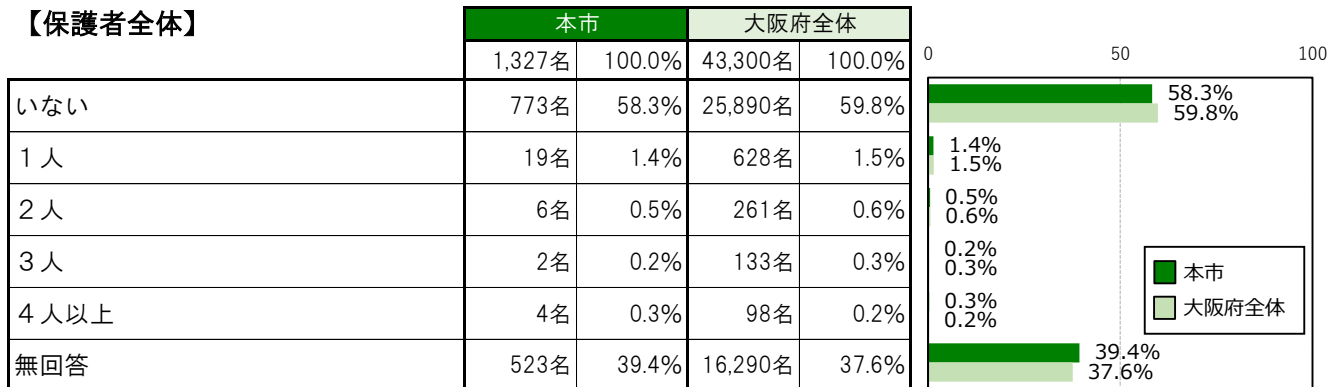


世帯の状況について

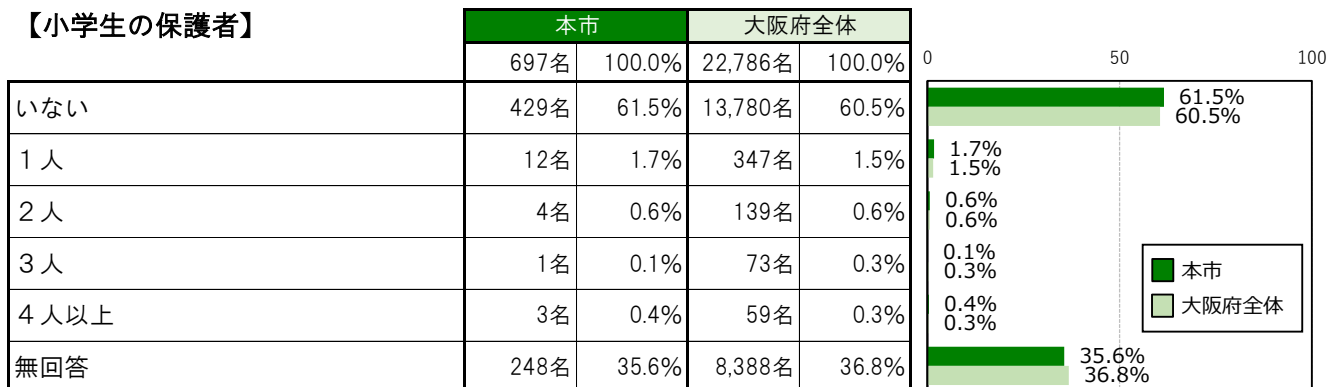
問2 世帯構成 ⑦その他

保護者全体は、「いない」が58.3%で最も多く、次いで「1人」が1.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が61.5%で最も多く、次いで「1人」が1.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が57.7%で最も多く、次いで「1人」が0.7%となっている。

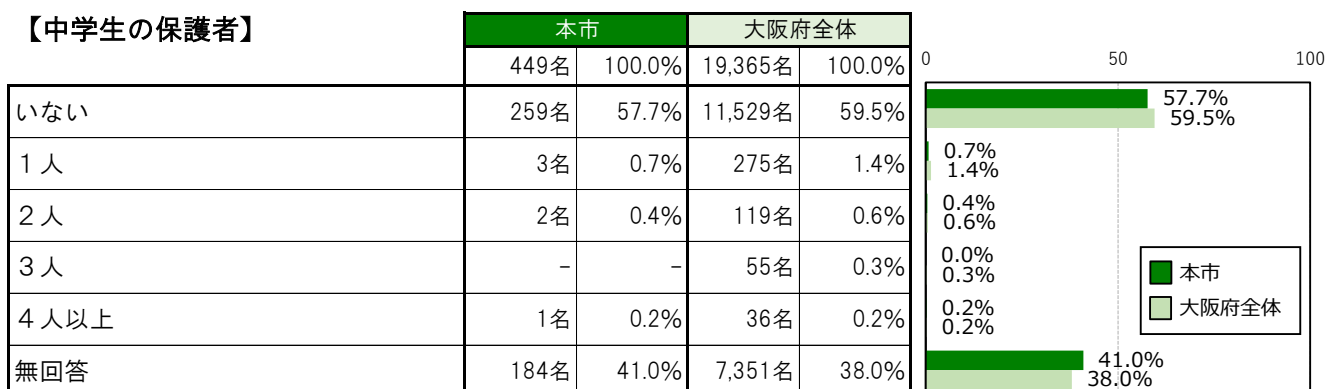
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問2 世帯構成 <世帯員の続柄>

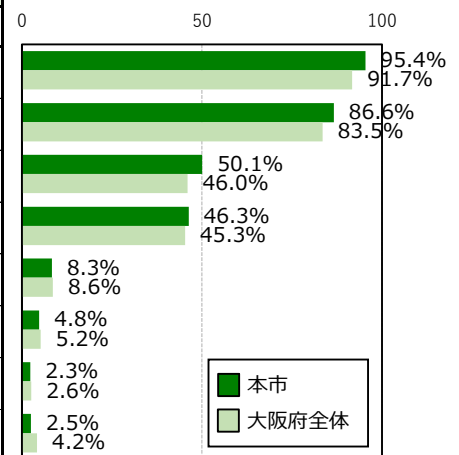
保護者全体は、「お母さん」が95.4%で最も多く、次いで「お父さん」が86.6%、「姉・兄」が50.1%、「妹・弟」が46.3%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が96.0%で最も多く、次いで「お父さん」が87.4%、「姉・兄」が48.4%、「妹・弟」が45.8%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が93.8%で最も多く、次いで「お父さん」が84.6%、「姉・兄」が50.3%、「妹・弟」が45.9%となっている。

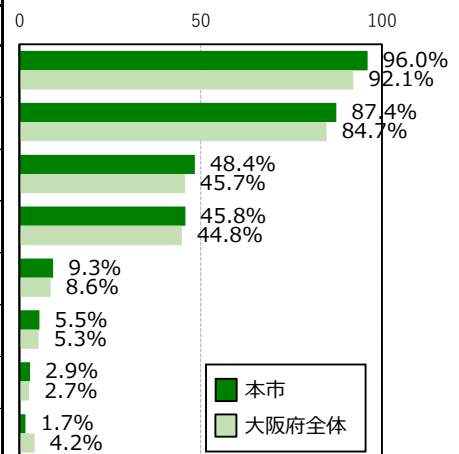
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
お母さん	1,266名	95.4%	39,706名	91.7%
お父さん	1,149名	86.6%	36,166名	83.5%
姉・兄	665名	50.1%	19,908名	46.0%
妹・弟	615名	46.3%	19,604名	45.3%
おばあさん	110名	8.3%	3,736名	8.6%
おじいさん	64名	4.8%	2,272名	5.2%
その他	31名	2.3%	1,120名	2.6%
無回答	33名	2.5%	1,839名	4.2%



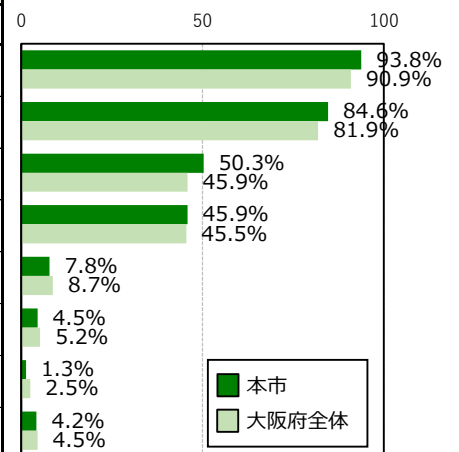
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
お母さん	669名	96.0%	20,990名	92.1%
お父さん	609名	87.4%	19,301名	84.7%
姉・兄	337名	48.4%	10,411名	45.7%
妹・弟	319名	45.8%	10,217名	44.8%
おばあさん	65名	9.3%	1,967名	8.6%
おじいさん	38名	5.5%	1,217名	5.3%
その他	20名	2.9%	618名	2.7%
無回答	12名	1.7%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
お母さん	421名	93.8%	17,597名	90.9%
お父さん	380名	84.6%	15,852名	81.9%
姉・兄	226名	50.3%	8,898名	45.9%
妹・弟	206名	45.9%	8,818名	45.5%
おばあさん	35名	7.8%	1,679名	8.7%
おじいさん	20名	4.5%	1,001名	5.2%
その他	6名	1.3%	485名	2.5%
無回答	19名	4.2%	876名	4.5%



世帯の状況について

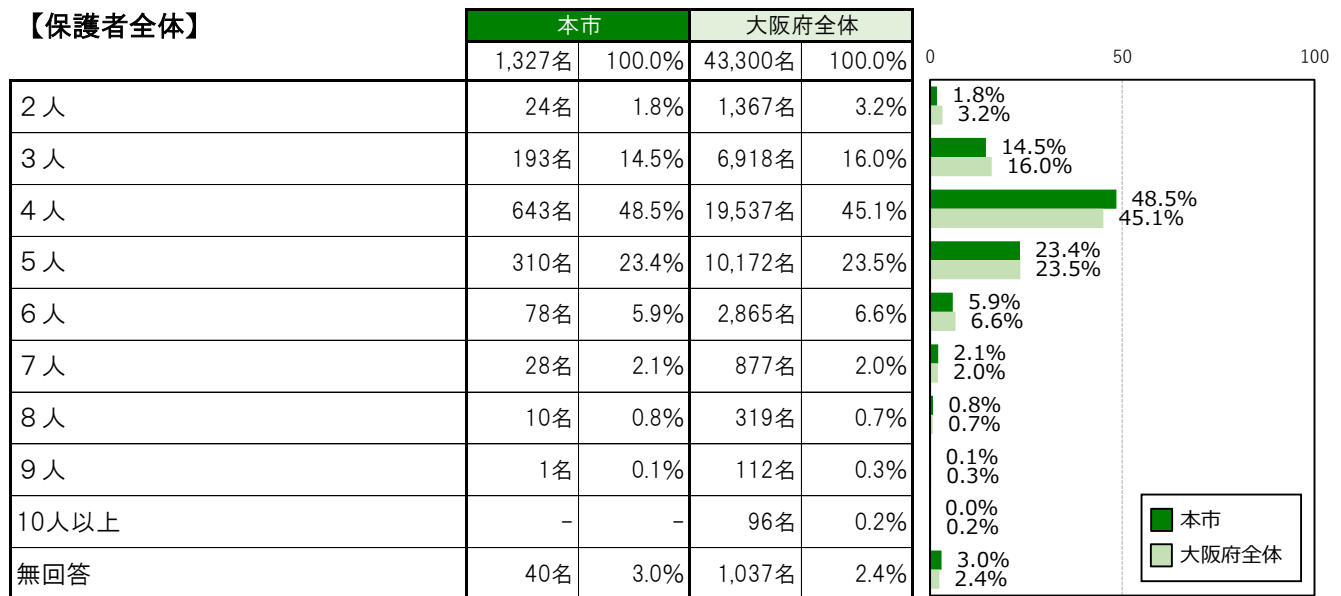
問2 世帯構成 ⑧世帯人数

保護者全体は、「4人」が48.5%で最も多く、次いで「5人」が23.4%、「3人」が14.5%、「6人」が5.9%となっている。

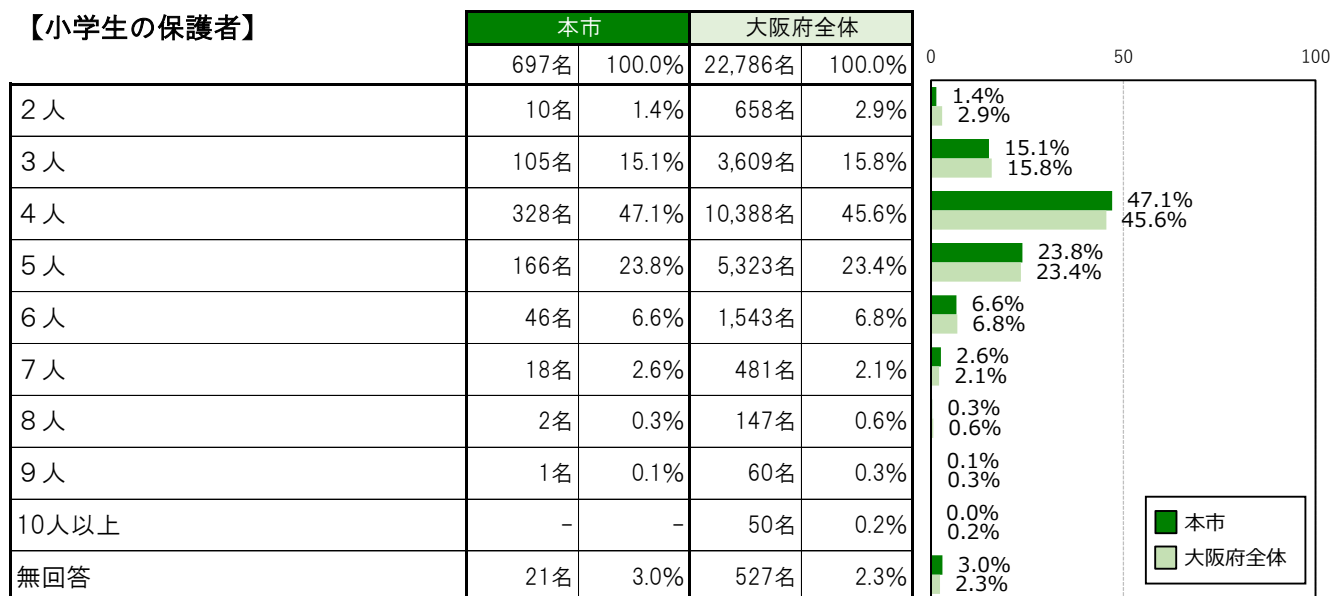
小学生の保護者は、「4人」が47.1%で最も多く、次いで「5人」が23.8%、「3人」が15.1%、「6人」が6.6%となっている。

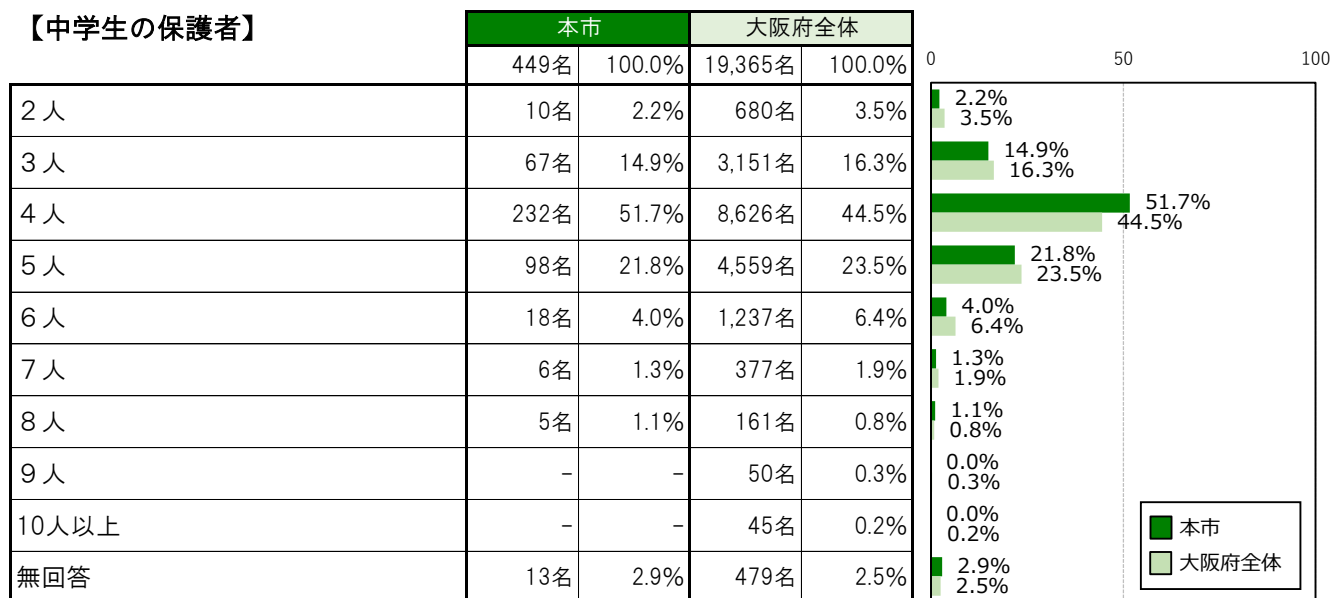
中学生の保護者は、「4人」が51.7%で最も多く、次いで「5人」が21.8%、「3人」が14.9%、「6人」が4.0%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





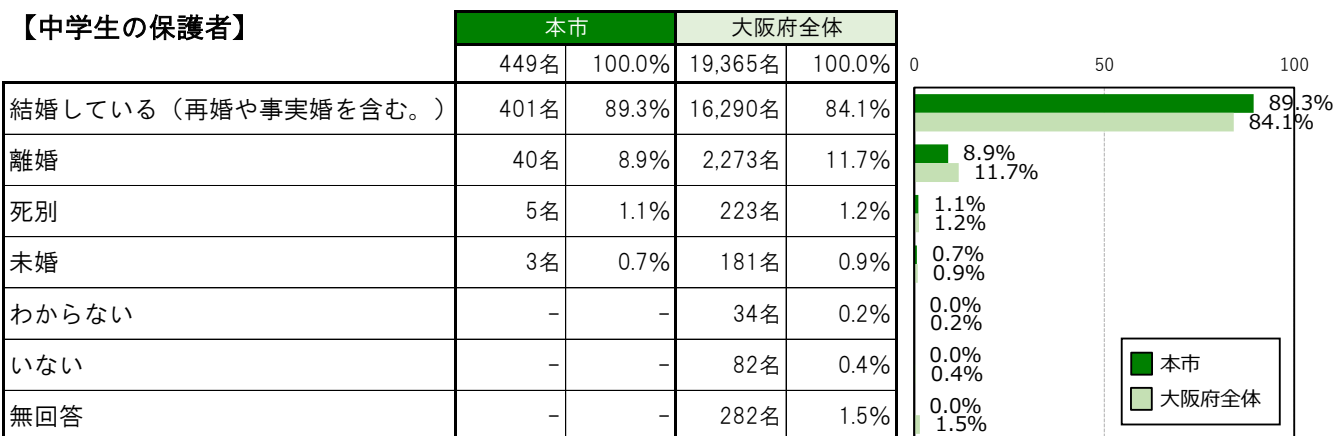
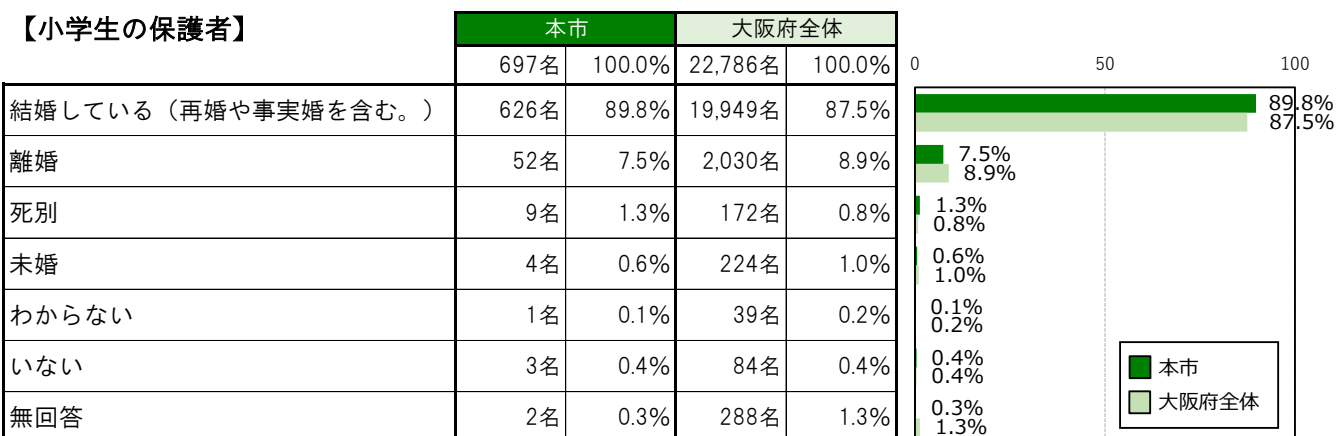
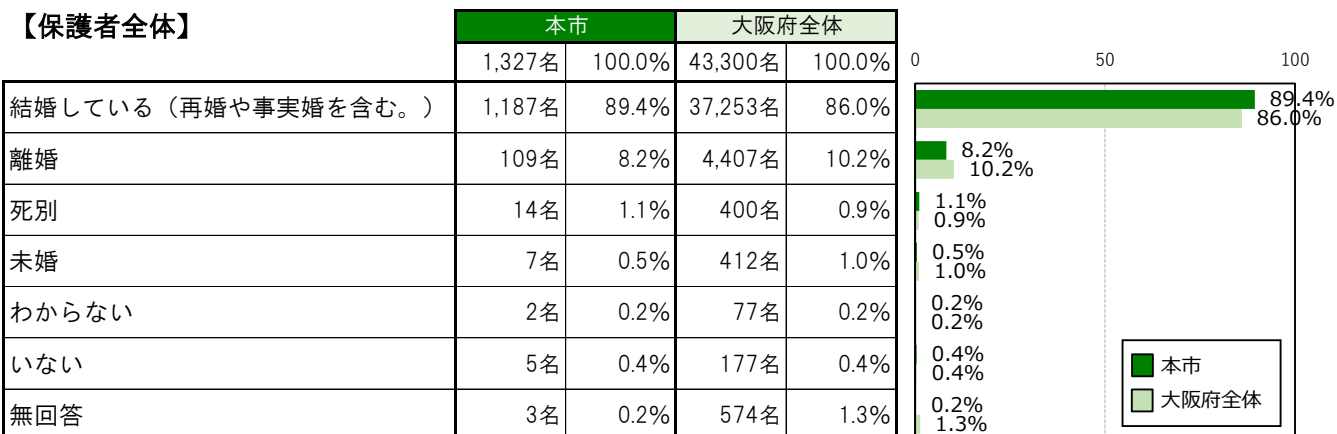
世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が89.4%で最も多く、次いで「離婚」が8.2%、「死別」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が89.8%で最も多く、次いで「離婚」が7.5%、「死別」が1.3%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が89.3%で最も多く、次いで「離婚」が8.9%、「死別」が1.1%となっている。



世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

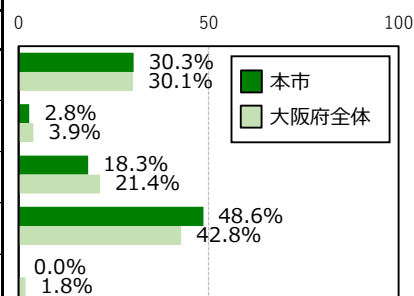
保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が48.6%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が30.3%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が18.3%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が51.9%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が28.8%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が45.0%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が32.5%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が15.0%となっている。

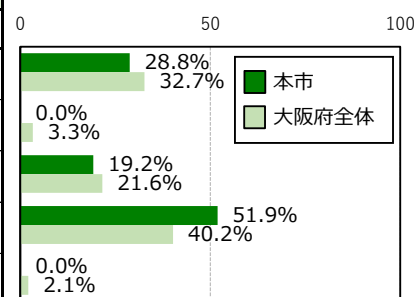
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	109名	100.0%	4,407名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	33名	30.3%	1,325名	30.1%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	3名	2.8%	174名	3.9%
取り決めをしているが、受け取っていない	20名	18.3%	941名	21.4%
取り決めをしておらず、受け取っていない	53名	48.6%	1,888名	42.8%
無回答	-	-	79名	1.8%



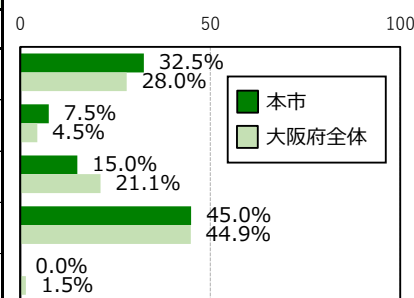
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	52名	100.0%	2,030名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	15名	28.8%	664名	32.7%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	-	-	68名	3.3%
取り決めをしているが、受け取っていない	10名	19.2%	438名	21.6%
取り決めをしておらず、受け取っていない	27名	51.9%	817名	40.2%
無回答	-	-	43名	2.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	40名	100.0%	2,273名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	13名	32.5%	636名	28.0%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	3名	7.5%	103名	4.5%
取り決めをしているが、受け取っていない	6名	15.0%	479名	21.1%
取り決めをしておらず、受け取っていない	18名	45.0%	1,020名	44.9%
無回答	-	-	35名	1.5%



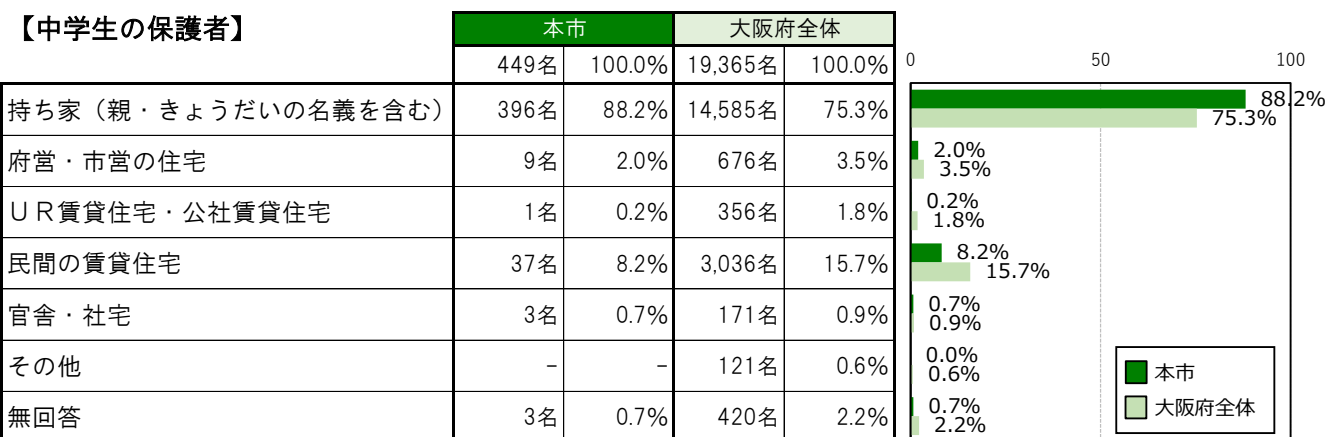
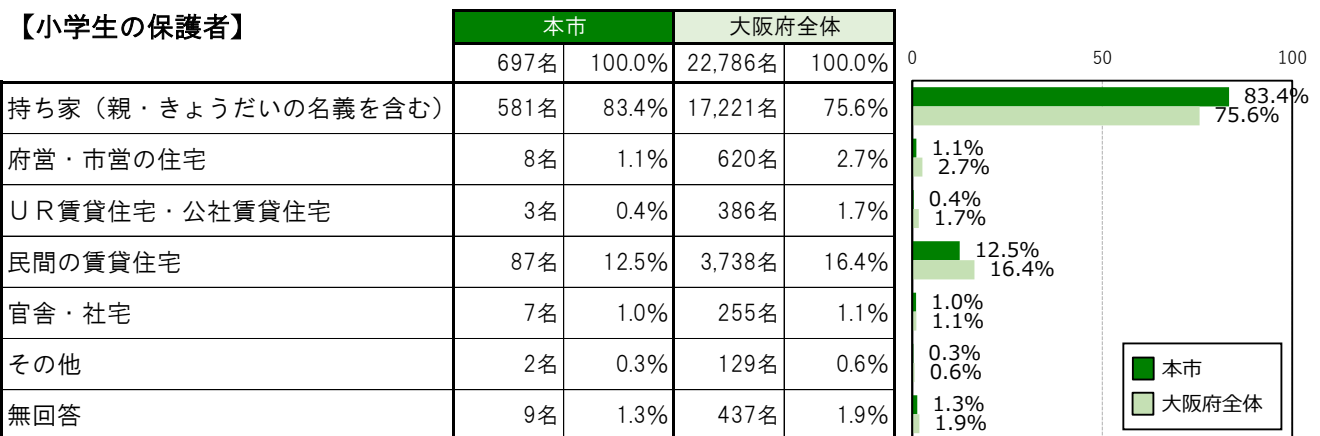
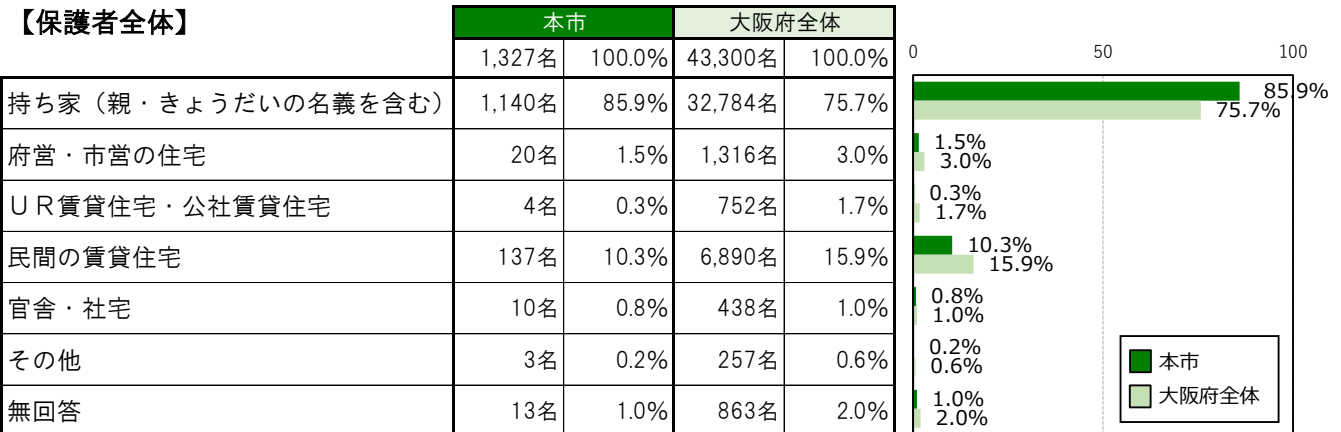
世帯の状況について

問5 住居形態

保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が85.9%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が10.3%、「府営・市営の住宅」が1.5%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が83.4%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が12.5%、「府営・市営の住宅」が1.1%、「官舎・社宅」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が88.2%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が8.2%、「府営・市営の住宅」が2.0%となっている。



世帯の状況について

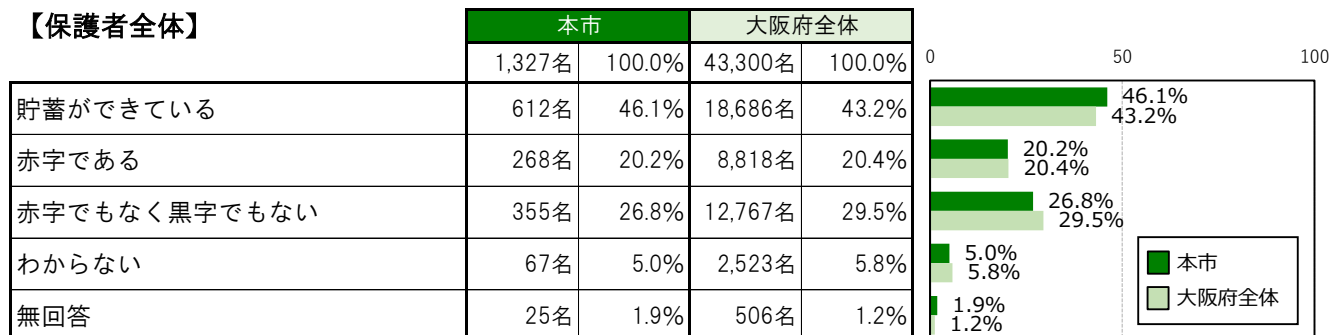
問6（1）家計の状況

保護者全体は、「貯蓄ができています」が46.1%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が26.8%、「赤字である」が20.2%となっている。

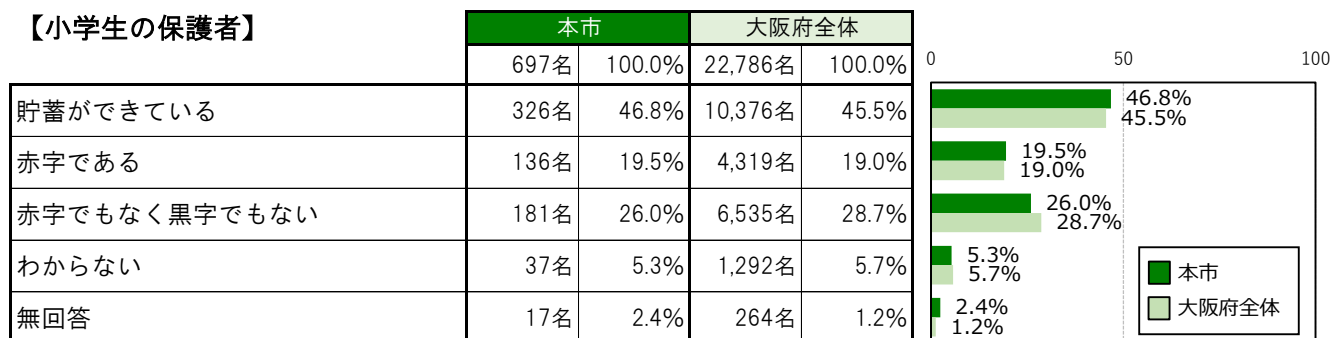
小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が46.8%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が26.0%、「赤字である」が19.5%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄ができています」が44.3%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が28.3%、「赤字である」が20.5%となっている。

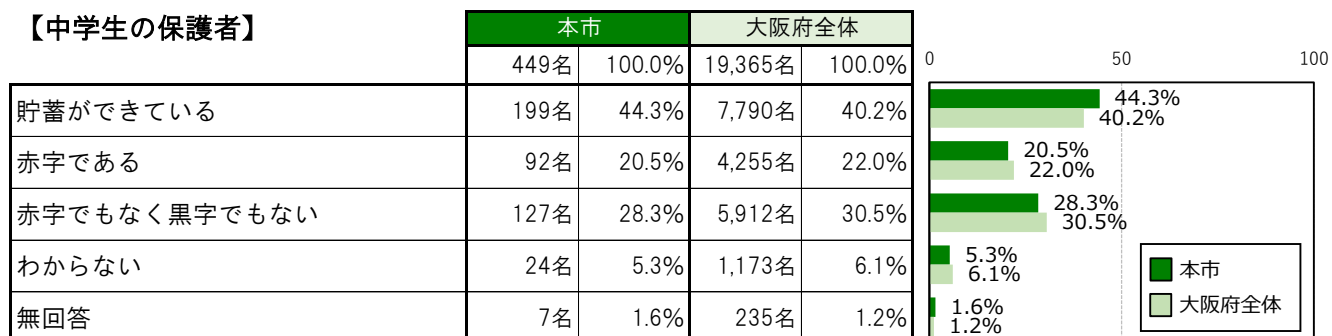
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

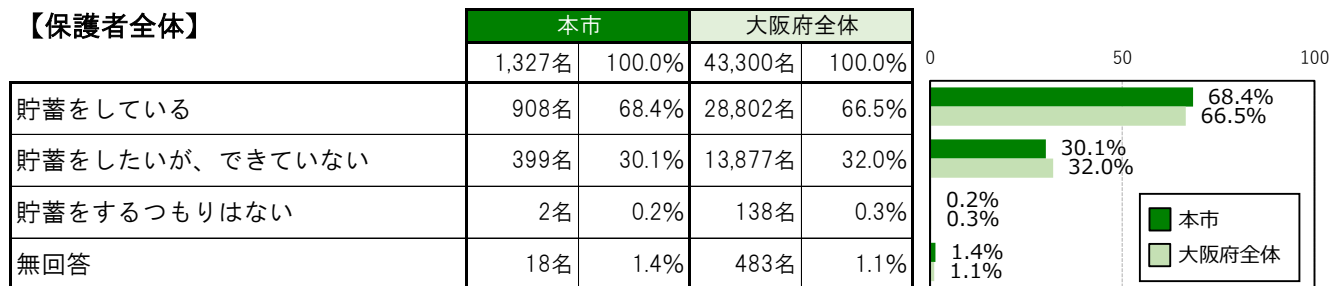
問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況

保護者全体は、「貯蓄をしている」が68.4%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が30.1%となっている。

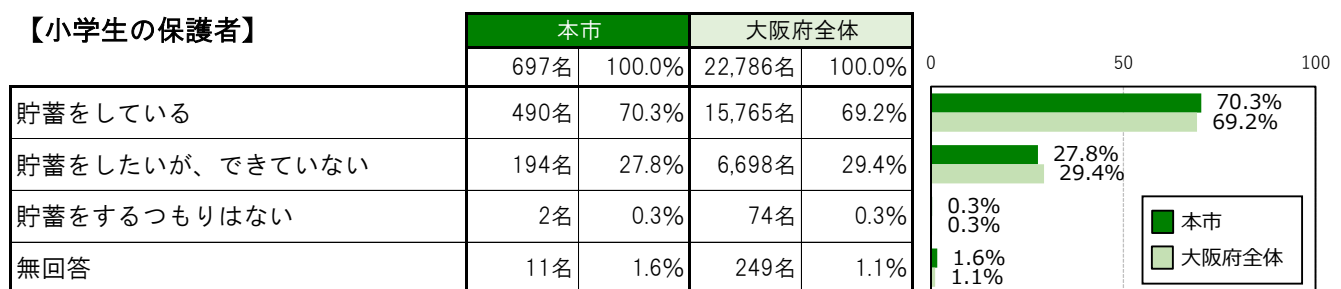
小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が70.3%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が27.8%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が66.4%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が32.3%となっている。

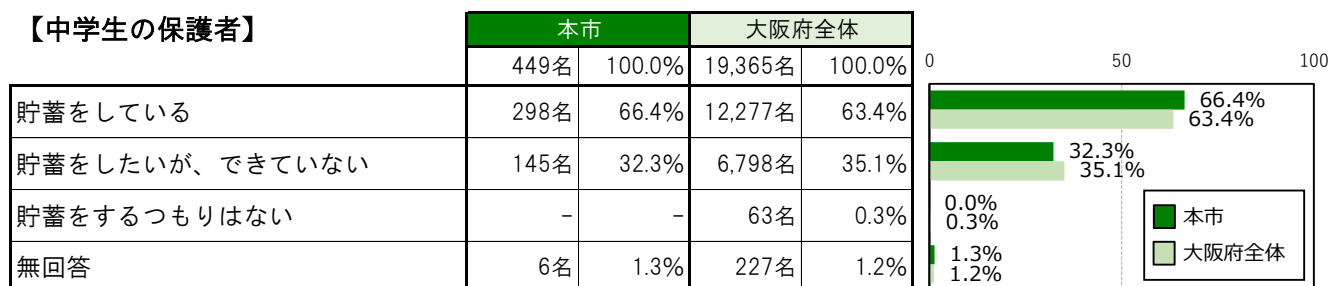
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

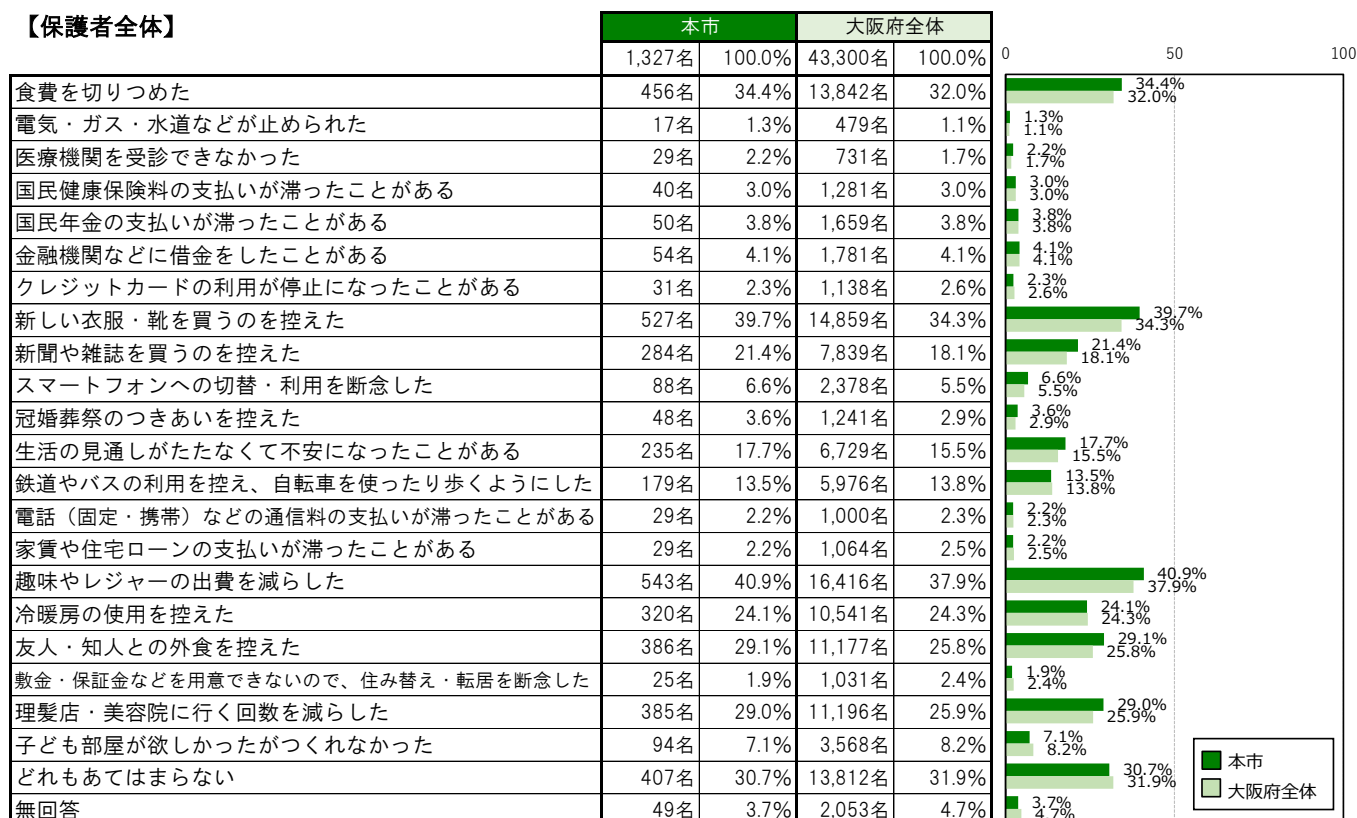
問7 経済的な理由による経験

保護者全体は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が40.9%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が39.7%、「食費を切りつめた」が34.4%、「どれもあてはまらない」が30.7%となっている。

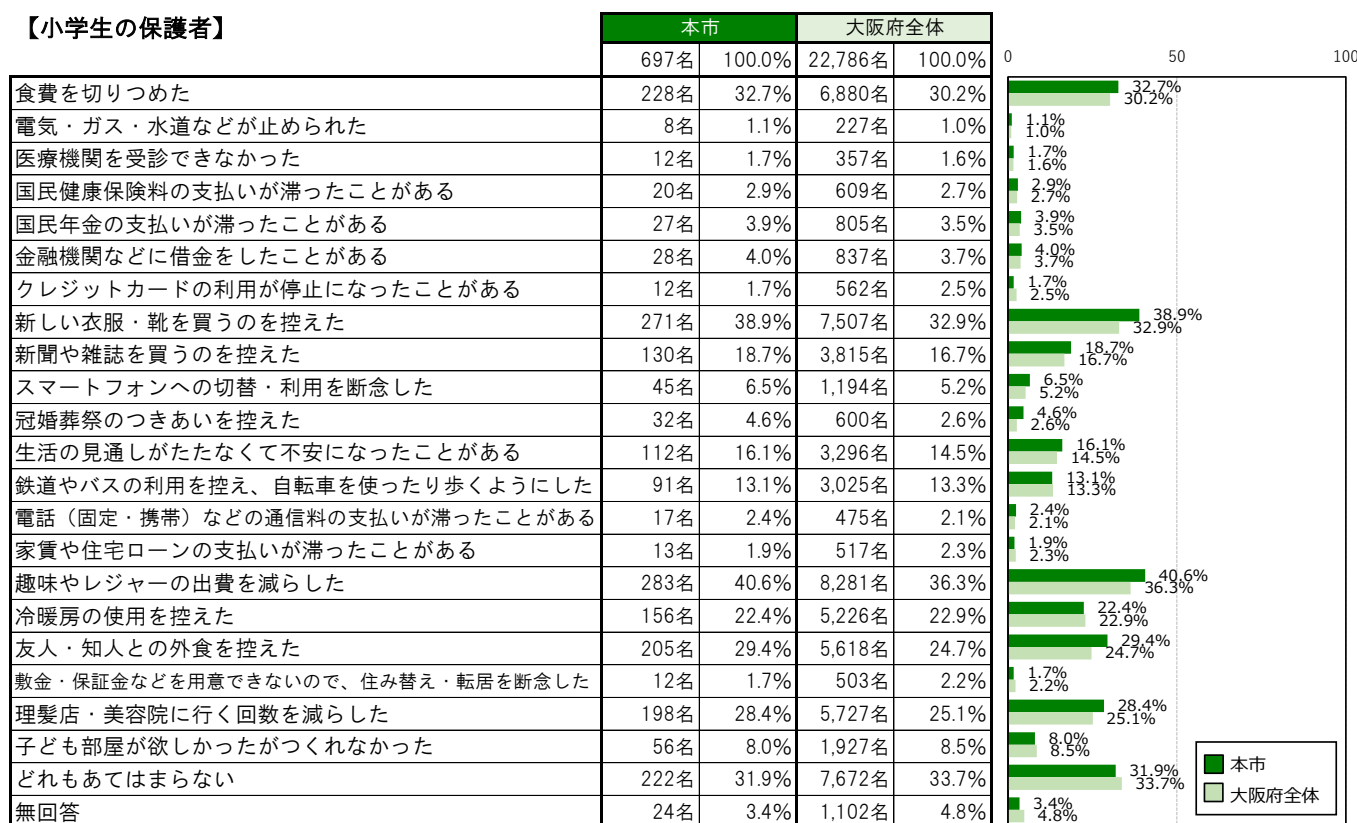
小学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が40.6%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が38.9%、「食費を切りつめた」が32.7%、「どれもあてはまらない」が31.9%となっている。

中学生の保護者は、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」、「趣味やレジャーの出費を減らした」がそれぞれ41.9%で最も多く、次いで「食費を切りつめた」が38.3%、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が30.3%となっている。

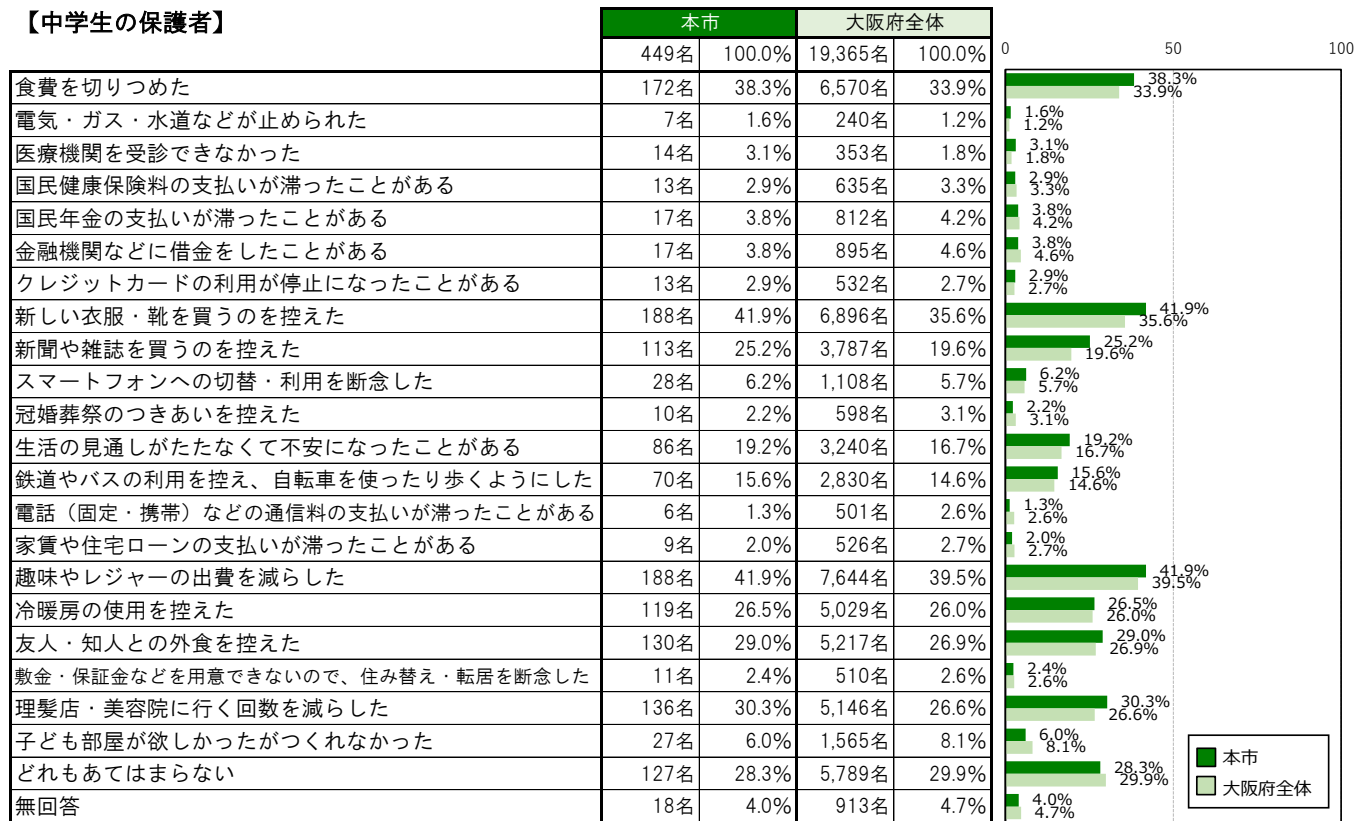
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

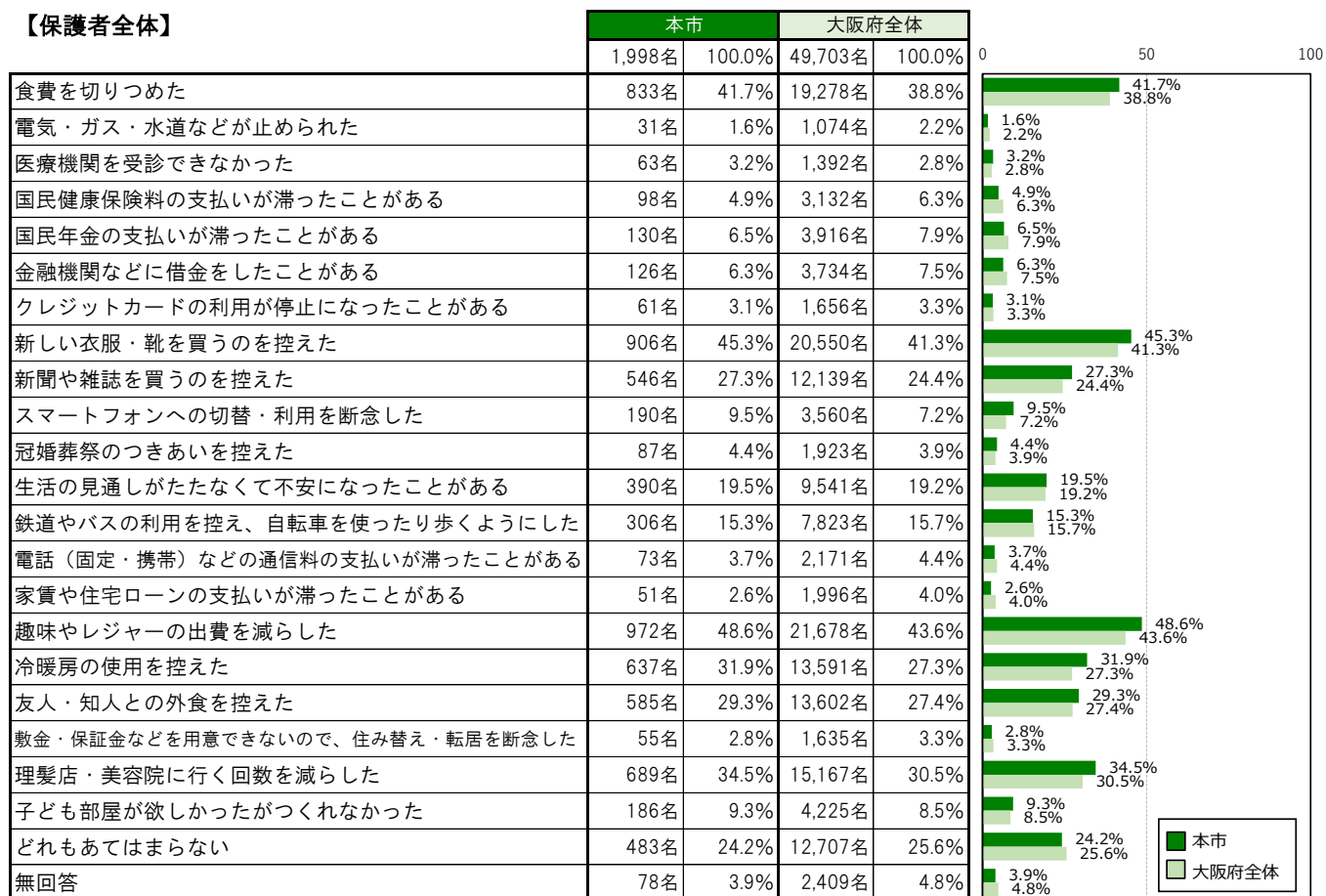


●2016年度 調査結果〔参考データ〕

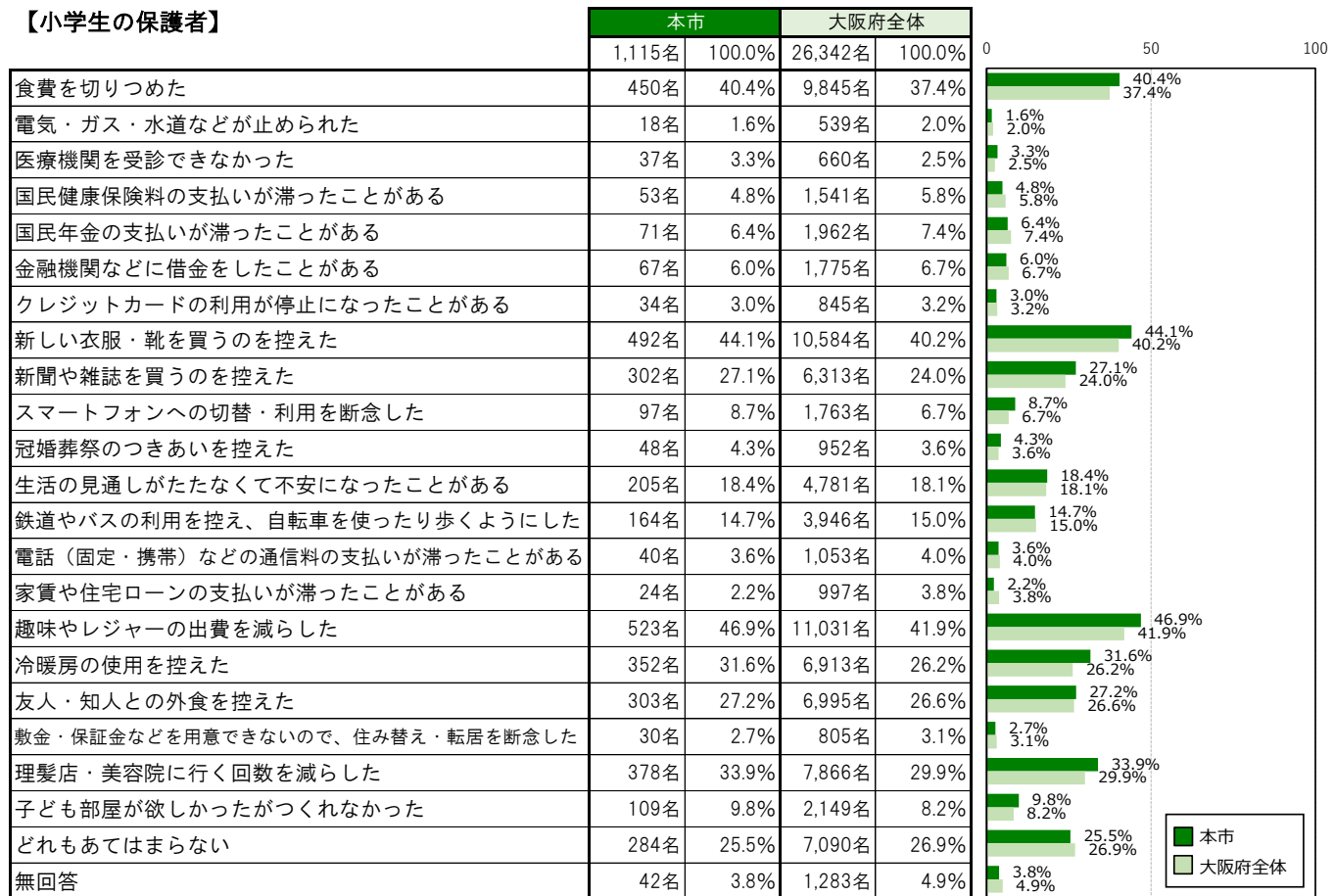
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「冷暖房の使用を抑えた」が7.8ポイント、「趣味やレジャーの出費を減らした」が7.7ポイント、「食費を切りつめた」が7.3ポイント、それぞれ低くなっている。

小学生の保護者は、「冷暖房の使用を抑えた」が9.2ポイント、「新聞や雑誌を買うのを抑えた」が8.4ポイント、それぞれ低くなっている。

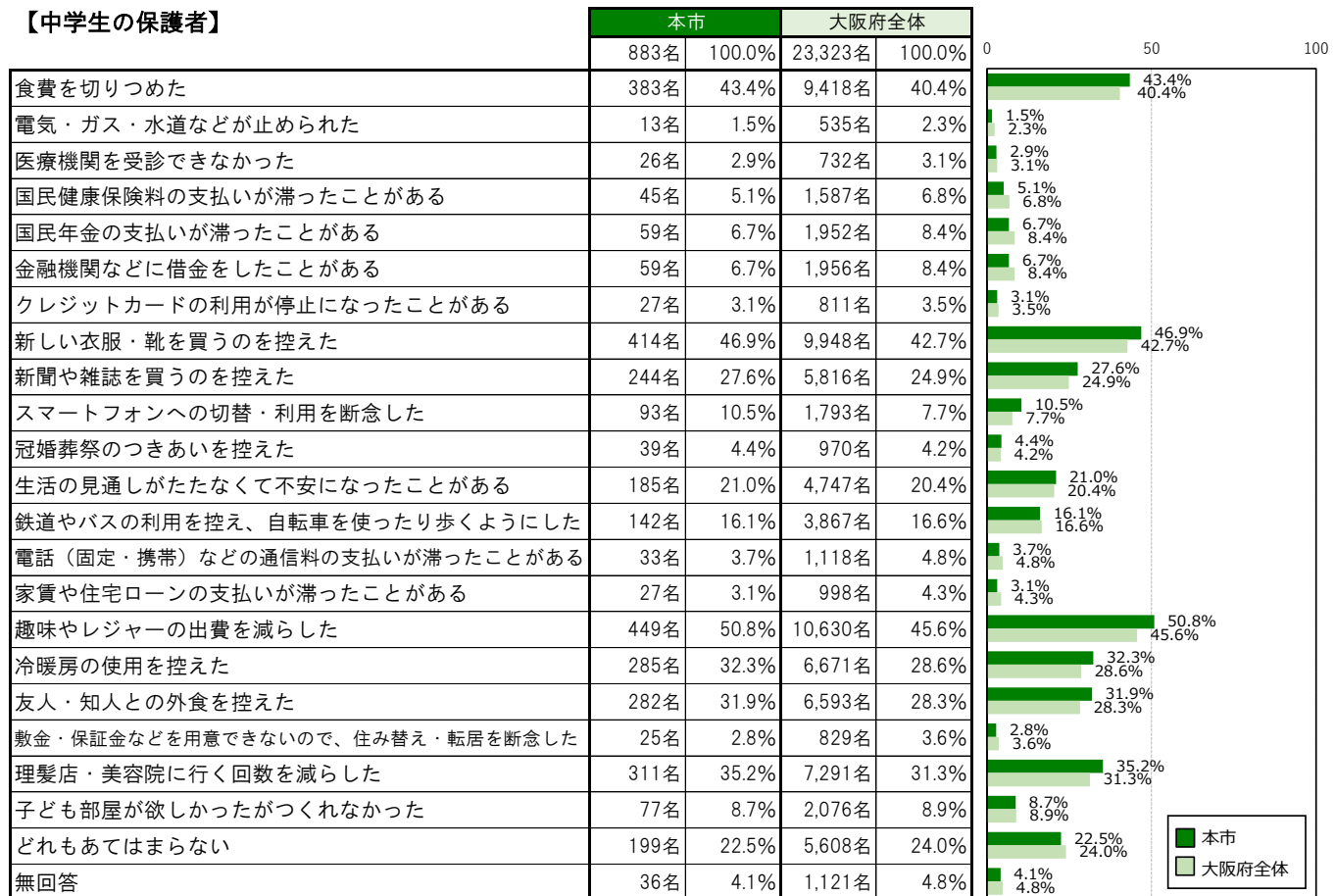
中学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が8.9ポイント低くなっている。



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

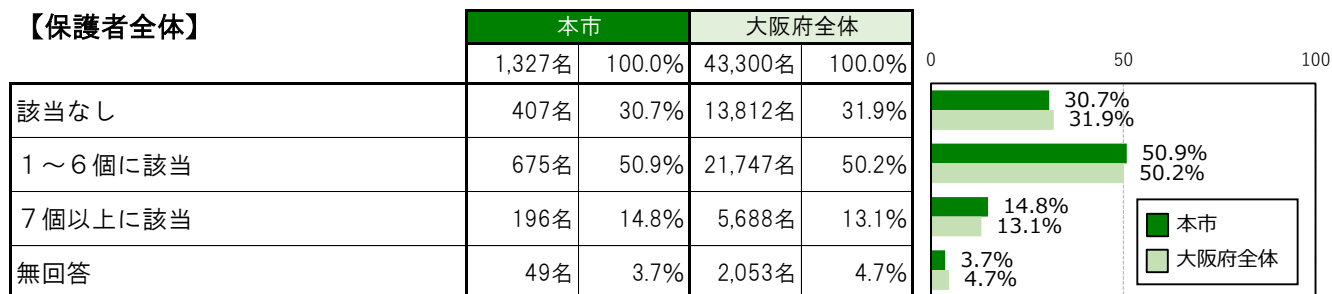
問 7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

保護者全体は、「1～6個に該当」が50.9%で最も多く、次いで「該当なし」が30.7%、「7個以上に該当」が14.8%となっている。

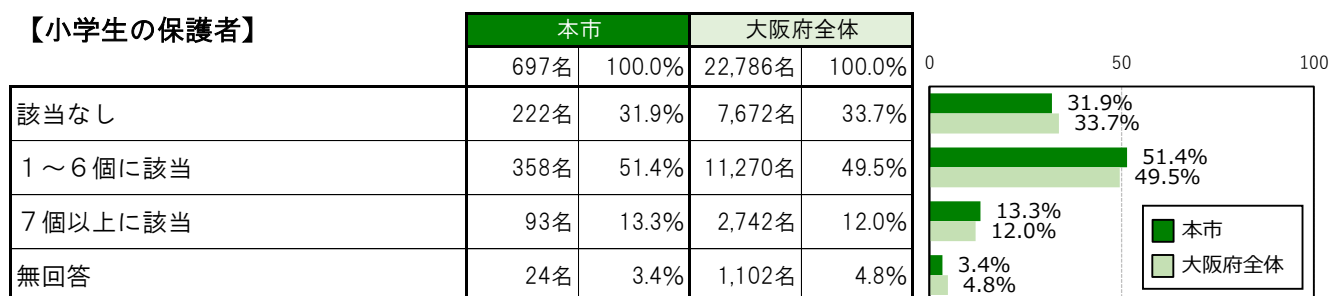
小学生の保護者は、「1～6個に該当」が51.4%で最も多く、次いで「該当なし」が31.9%、「7個以上に該当」が13.3%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が51.0%で最も多く、次いで「該当なし」が28.3%、「7個以上に該当」が16.7%となっている。

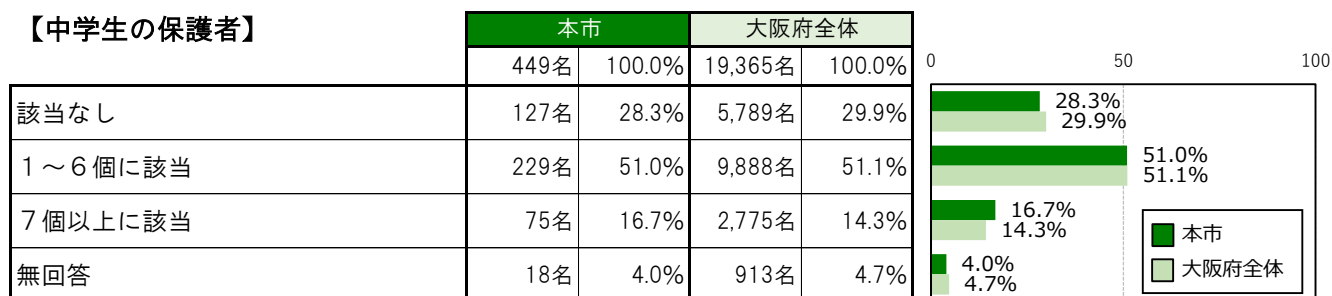
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

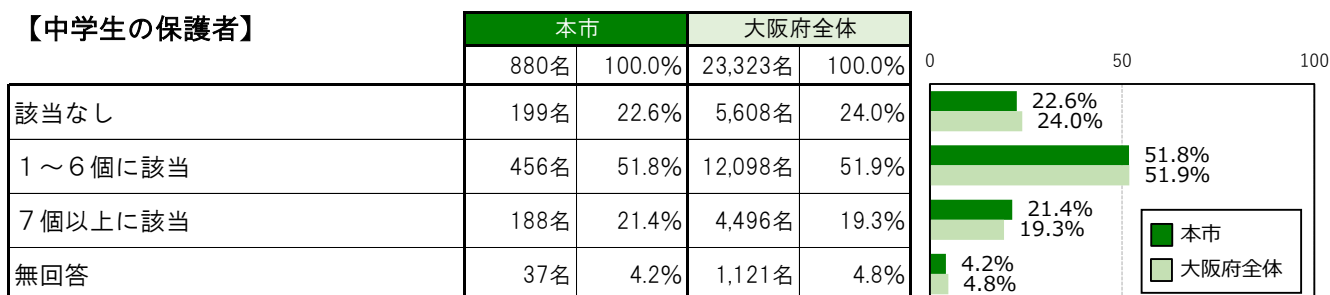
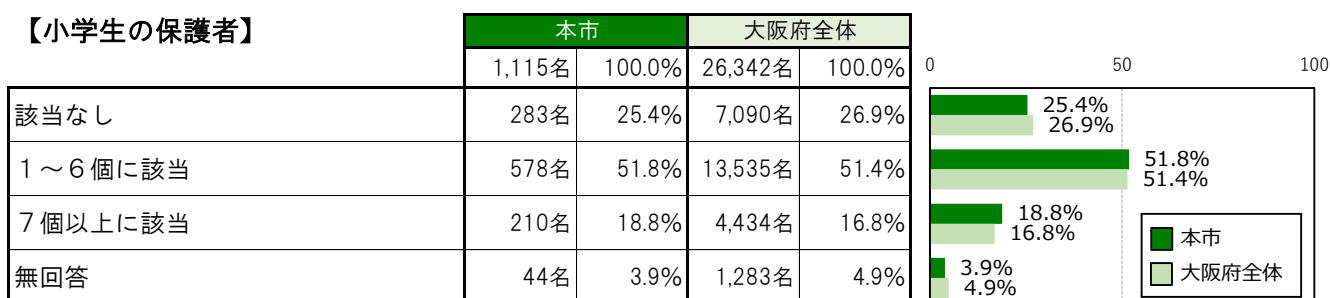
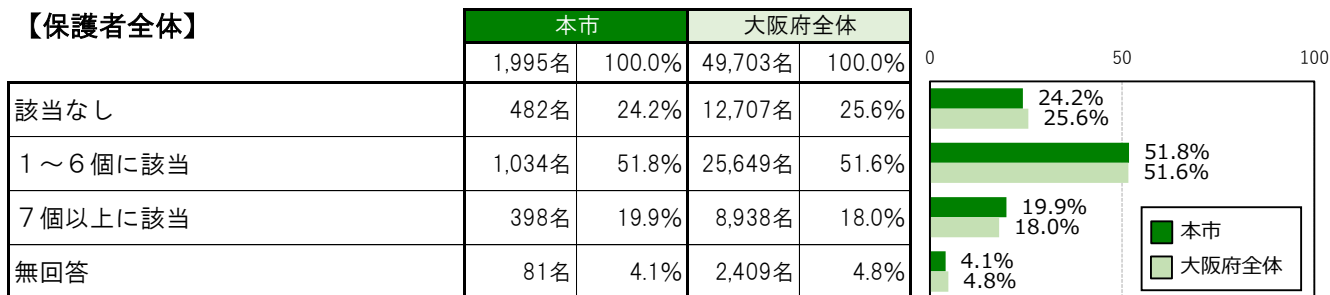


●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「該当なし」が6.5ポイント高いが、「7個以上に該当」が5.1ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「該当なし」が6.5ポイント高いが、「7個以上に該当」が5.5ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「該当なし」が5.7ポイント高いが、「7個以上に該当」が4.7ポイント低くなっている。



世帯の状況について

問8 お母さんの最終学歴

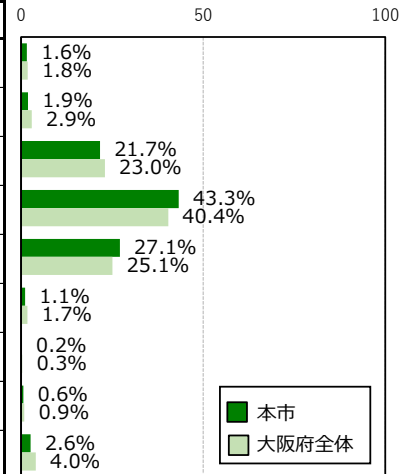
保護者全体は、「高専、短大、専門学校等卒業」が43.3%で最も多く、次いで「大学卒業」が27.1%、「高等学校卒業」が21.7%、「高等学校中途退学」が1.9%となっている。

小学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が43.9%で最も多く、次いで「大学卒業」が29.8%、「高等学校卒業」が18.9%、「高等学校中途退学」が2.0%となっている。

中学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が43.0%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が25.8%、「大学卒業」が22.7%、「高等学校中途退学」が2.0%となっている。

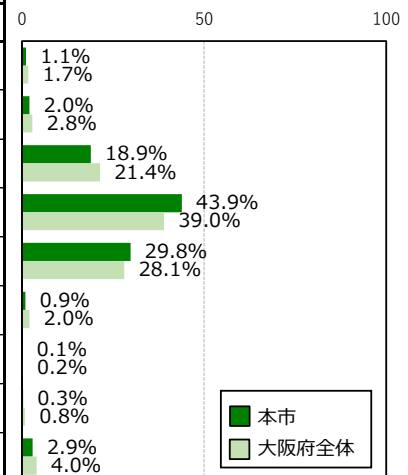
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	41,472名	100.0%
中学校卒業	21名	1.6%	729名	1.8%
高等学校中途退学	25名	1.9%	1,211名	2.9%
高等学校卒業	288名	21.7%	9,539名	23.0%
高専、短大、専門学校等卒業	575名	43.3%	16,755名	40.4%
大学卒業	359名	27.1%	10,392名	25.1%
大学院修了	14名	1.1%	703名	1.7%
その他の教育機関卒業	3名	0.2%	116名	0.3%
答えたくない	8名	0.6%	376名	0.9%
無回答	34名	2.6%	1,651名	4.0%



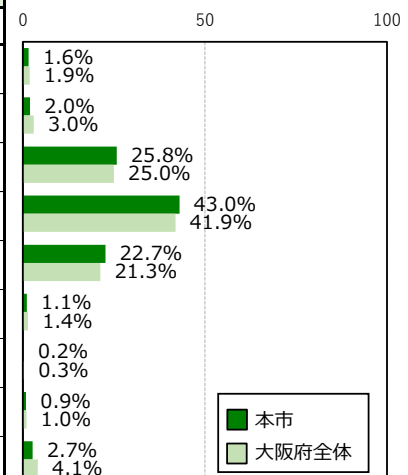
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	21,824名	100.0%
中学校卒業	8名	1.1%	365名	1.7%
高等学校中途退学	14名	2.0%	620名	2.8%
高等学校卒業	132名	18.9%	4,673名	21.4%
高専、短大、専門学校等卒業	306名	43.9%	8,501名	39.0%
大学卒業	208名	29.8%	6,142名	28.1%
大学院修了	6名	0.9%	433名	2.0%
その他の教育機関卒業	1名	0.1%	53名	0.2%
答えたくない	2名	0.3%	170名	0.8%
無回答	20名	2.9%	867名	4.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	18,499名	100.0%
中学校卒業	7名	1.6%	349名	1.9%
高等学校中途退学	9名	2.0%	560名	3.0%
高等学校卒業	116名	25.8%	4,623名	25.0%
高専、短大、専門学校等卒業	193名	43.0%	7,751名	41.9%
大学卒業	102名	22.7%	3,947名	21.3%
大学院修了	5名	1.1%	255名	1.4%
その他の教育機関卒業	1名	0.2%	60名	0.3%
答えたくない	4名	0.9%	194名	1.0%
無回答	12名	2.7%	760名	4.1%



世帯の状況について

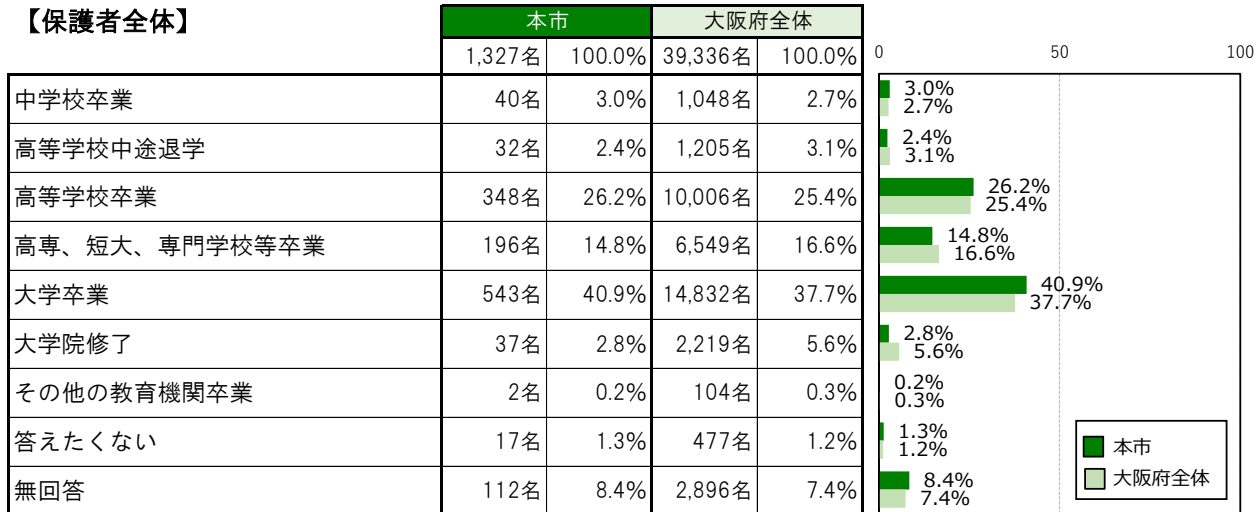
問8 お父さんの最終学歴

保護者全体は、「大学卒業」が40.9%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が26.2%、「高専、短大、専門学校等卒業」が14.8%、「中学校卒業」が3.0%となっている。

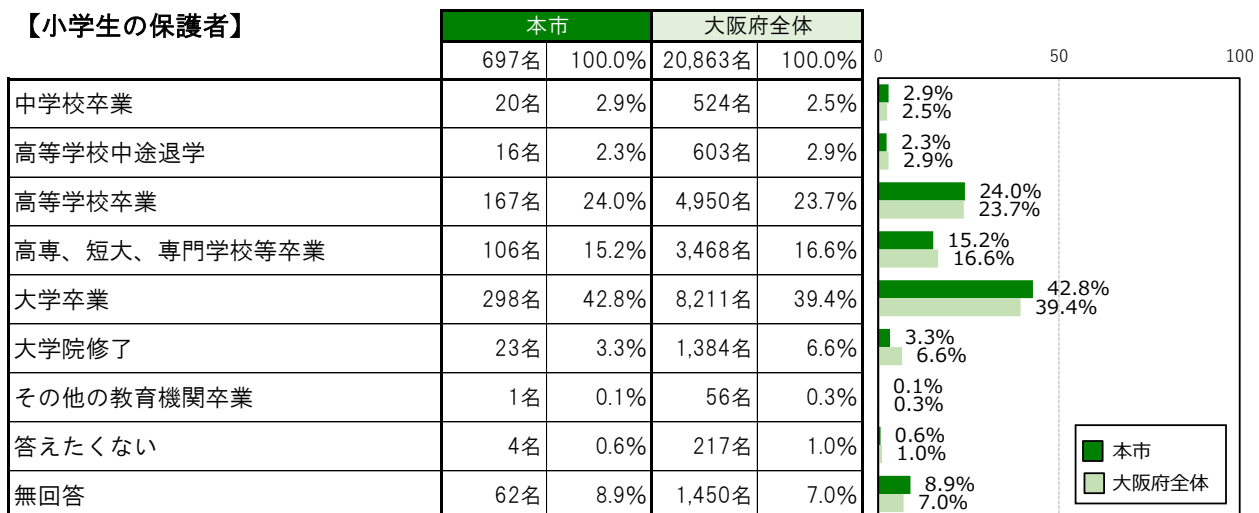
小学生の保護者は、「大学卒業」が42.8%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が24.0%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.2%、「大学院修了」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「大学卒業」が37.4%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が29.4%、「高専、短大、専門学校等卒業」が14.9%、「中学校卒業」が2.9%となっている。

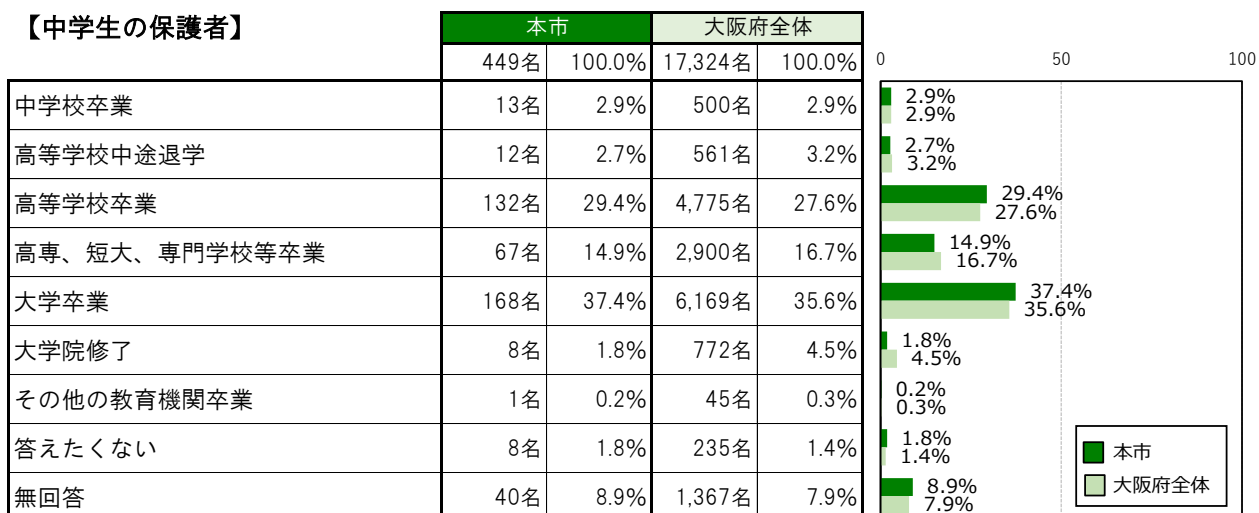
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



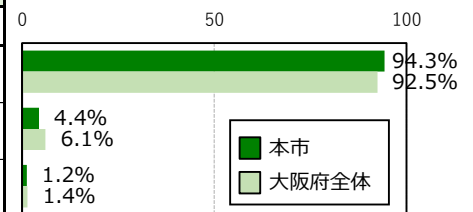
世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が94.3%、「いない」が4.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が94.0%、「いない」が4.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が94.0%、「いない」が5.6%となっている。

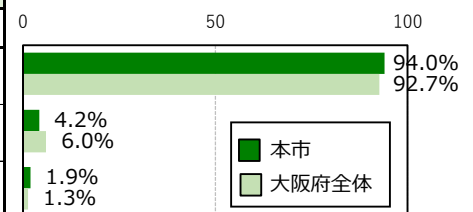
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,252名	94.3%	40,053名	92.5%
いない	59名	4.4%	2,634名	6.1%
無回答	16名	1.2%	613名	1.4%



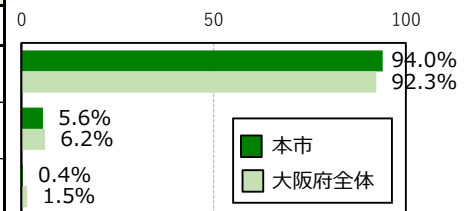
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	655名	94.0%	21,115名	92.7%
いない	29名	4.2%	1,368名	6.0%
無回答	13名	1.9%	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	422名	94.0%	17,877名	92.3%
いない	25名	5.6%	1,192名	6.2%
無回答	2名	0.4%	296名	1.5%



世帯の状況について

問9 お母さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が48.2%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が27.2%、「仕事を探していない」が8.9%、「自営業・家業」が7.2%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が47.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が26.4%、「仕事を探していない」が10.4%、「自営業・家業」が6.4%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が50.2%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が27.7%、「仕事を探していない」が7.1%、「自営業・家業」が6.9%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



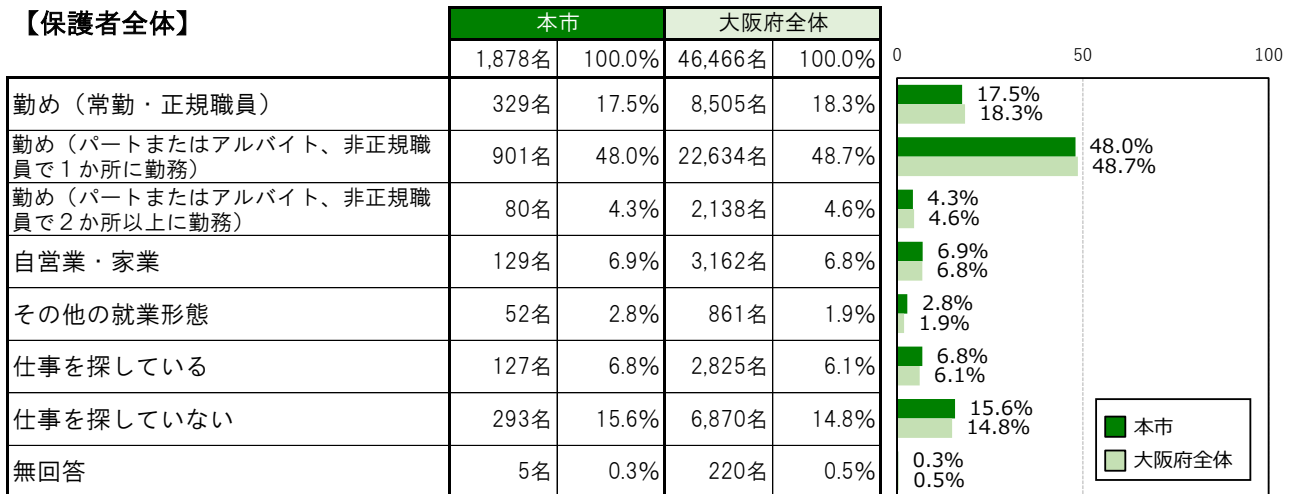
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」は9.7ポイント高いが、「仕事を探していない」は6.7ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は7.9ポイント高いが、「仕事を探していない」は5.9ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は11.5ポイント高いが、「仕事を探していない」は7.5ポイント低くなっている。

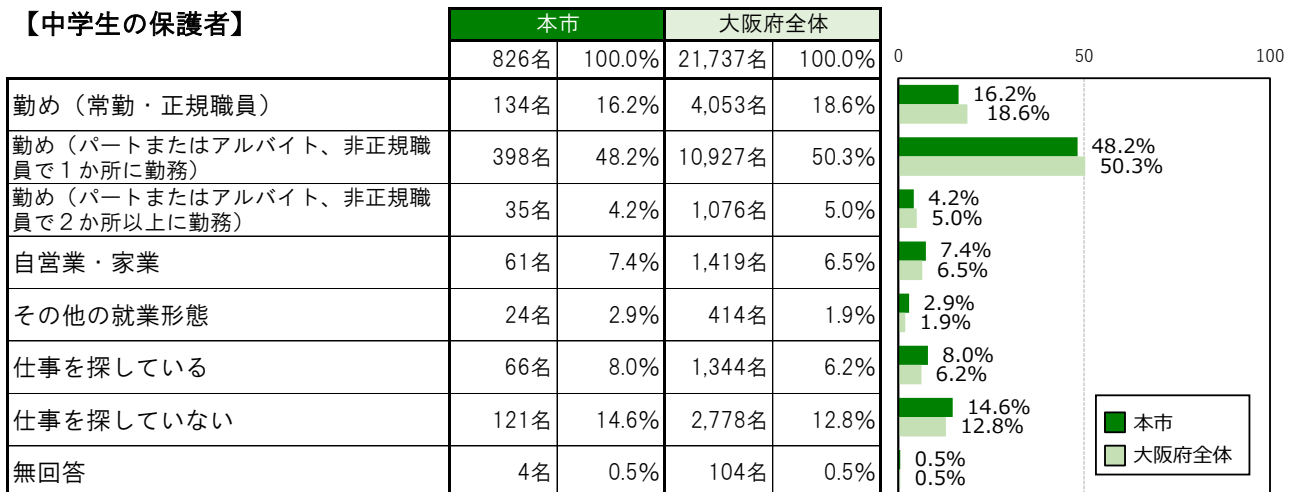
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

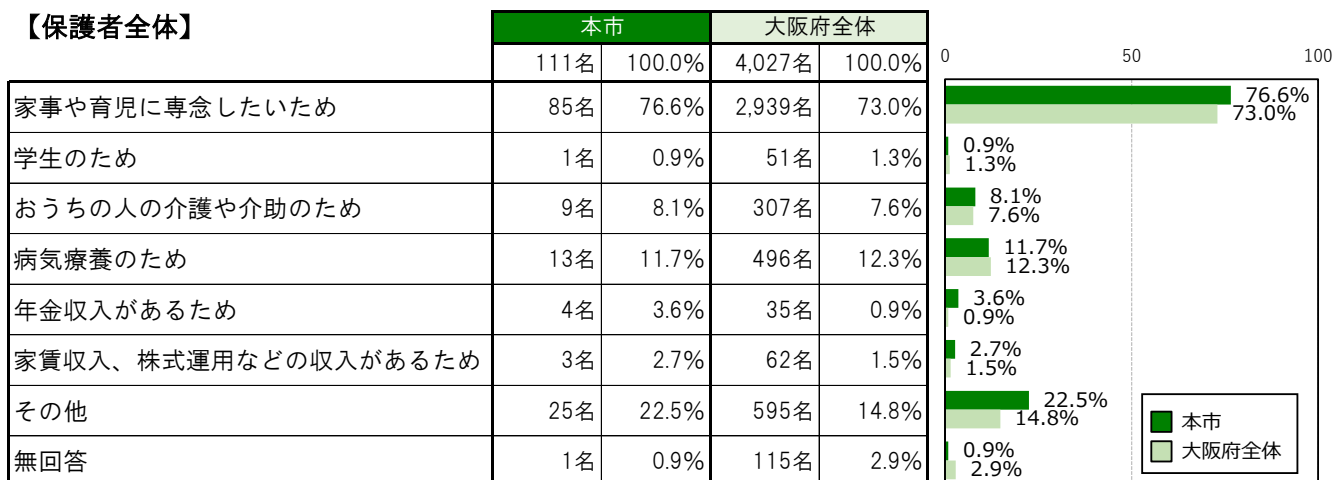
問9 お母さんが仕事を探していない理由

保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が76.6%で最も多く、次いで「病気療養のため」が11.7%、「おうちの人の介護や介助のため」が8.1%、「年金収入があるため」が3.6%となっている。

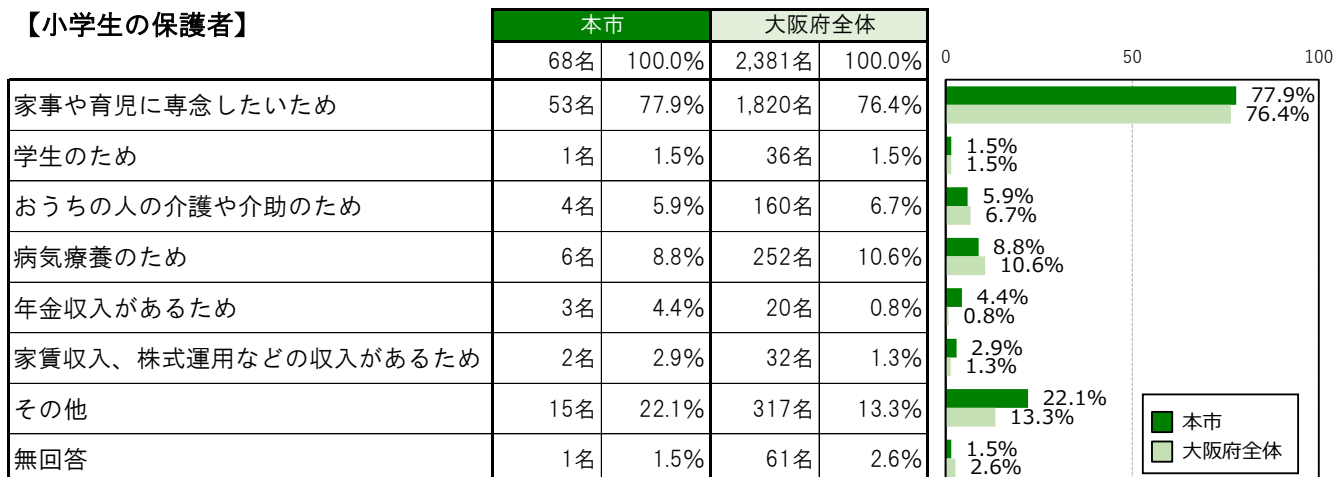
小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が77.9%で最も多く、次いで「病気療養のため」が8.8%、「おうちの人の介護や介助のため」が5.9%、「年金収入があるため」が4.4%となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が76.7%で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が10.0%、「病気療養のため」が6.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



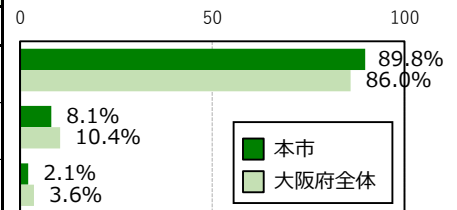
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が89.8%、「いない」が8.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が88.8%、「いない」が9.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が90.6%、「いない」が7.3%となっている。

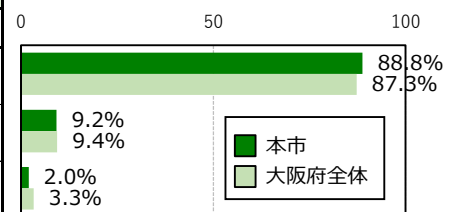
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	1,192名	89.8%	37,256名	86.0%
いない	107名	8.1%	4,504名	10.4%
無回答	28名	2.1%	1,540名	3.6%



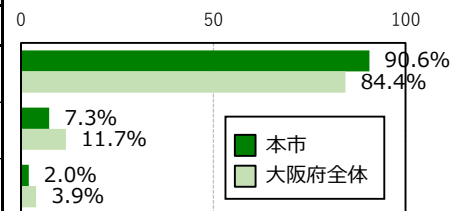
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	619名	88.8%	19,882名	87.3%
いない	64名	9.2%	2,149名	9.4%
無回答	14名	2.0%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	407名	90.6%	16,352名	84.4%
いない	33名	7.3%	2,261名	11.7%
無回答	9名	2.0%	752名	3.9%



世帯の状況について

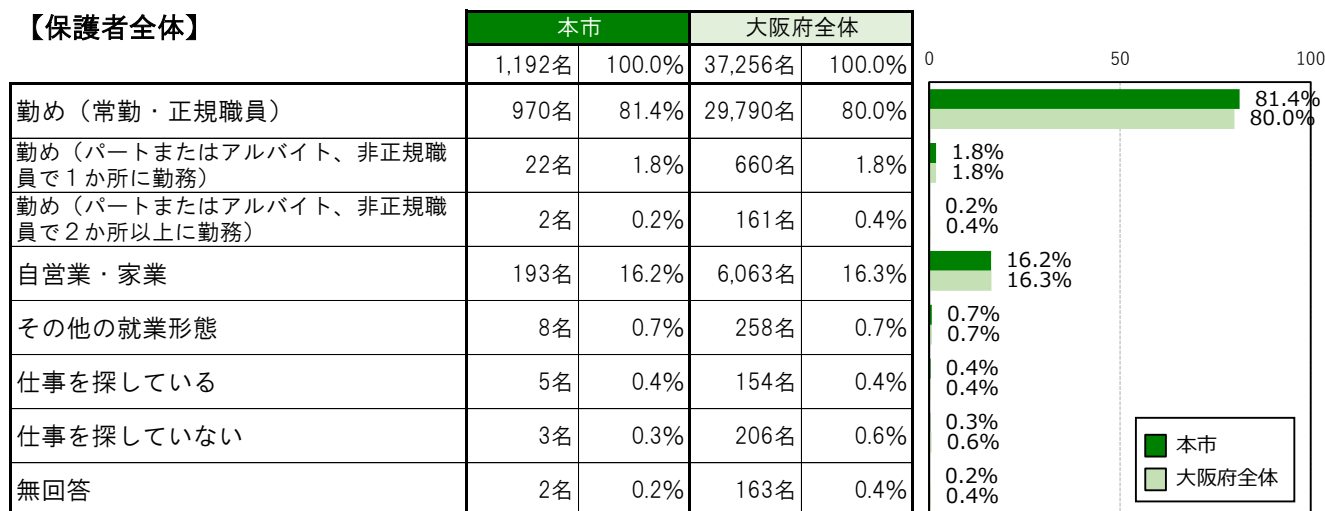
問9 お父さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が81.4%で最も多く、次いで「自営業・家業」が16.2%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.8%となっている。

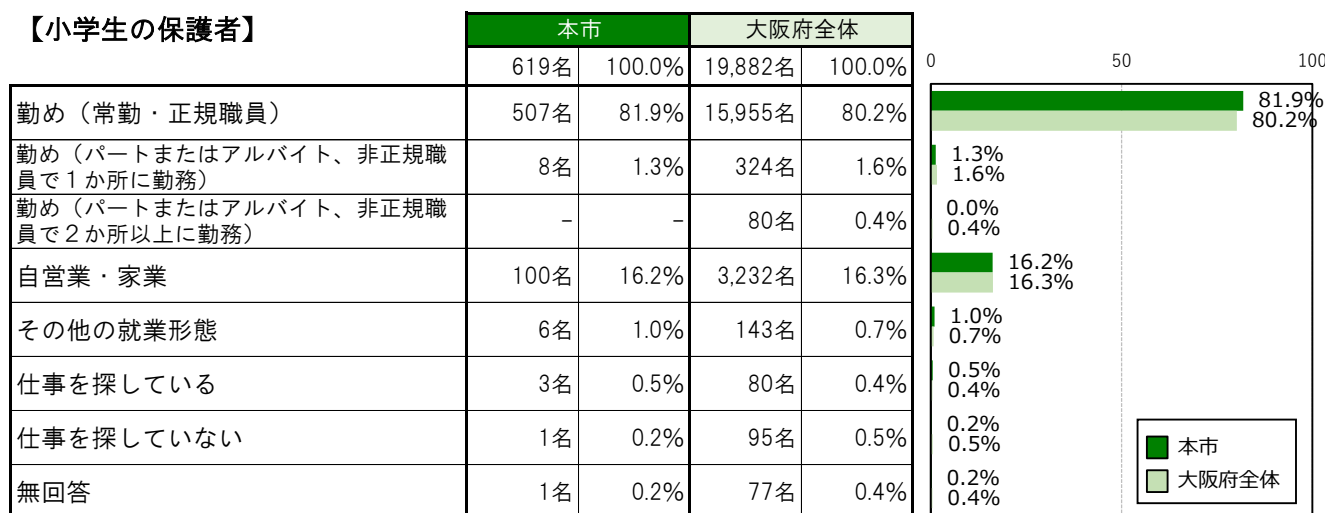
小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が81.9%で最も多く、次いで「自営業・家業」が16.2%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.3%、「その他の就業形態」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が81.3%で最も多く、次いで「自営業・家業」が15.5%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が2.2%となっている。

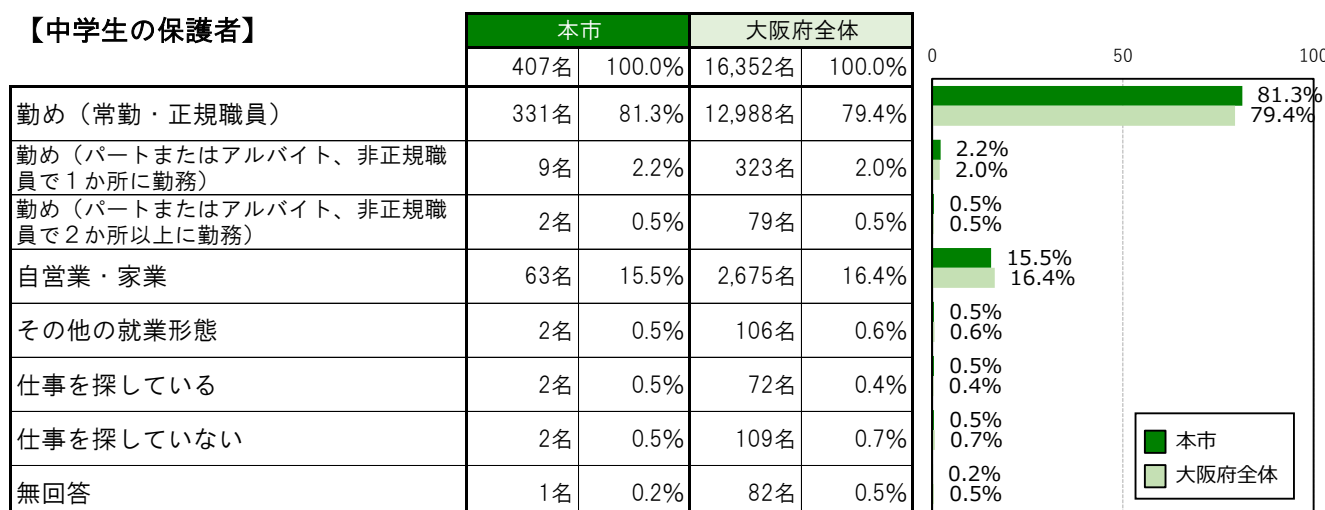
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

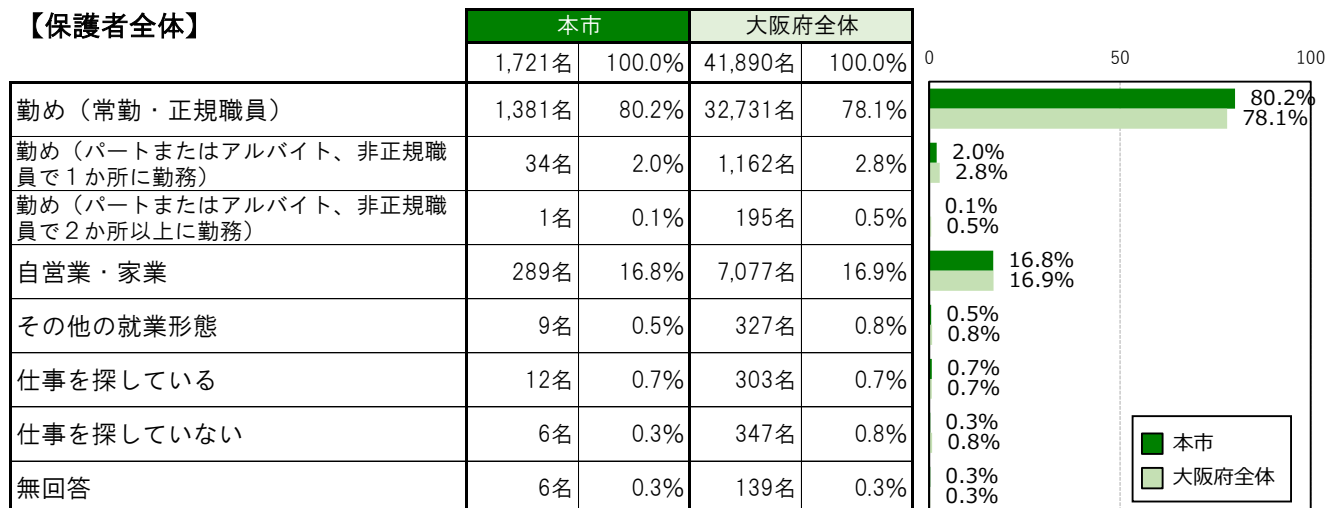


●2016年度 調査結果〔参考データ〕

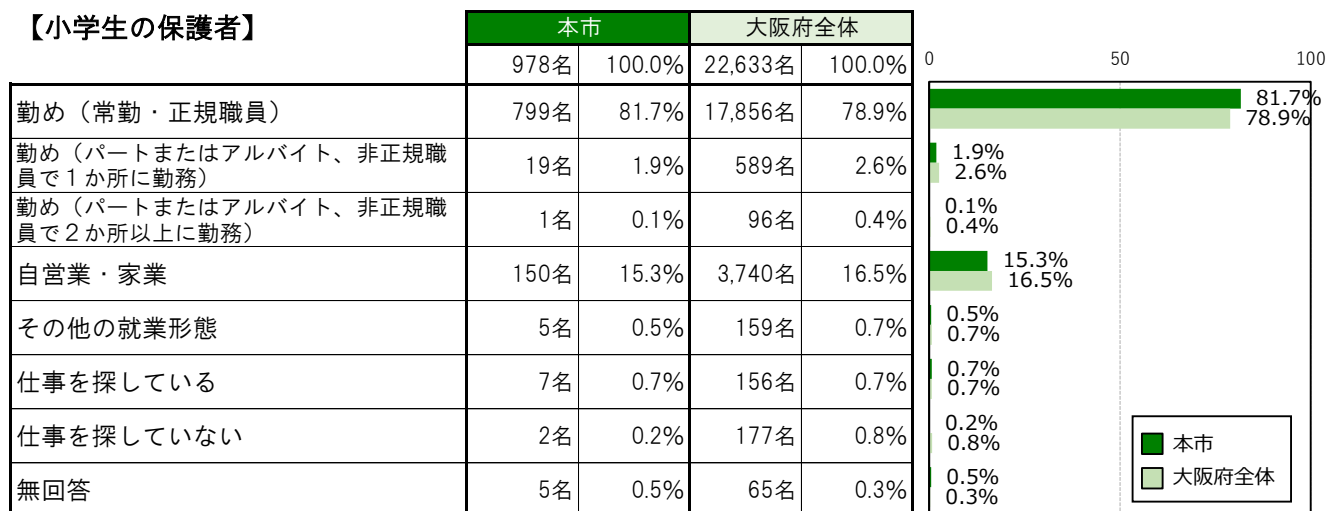
2016年度調査と比較すると、保護者全体、小学生の保護者は、大きな差はみられない。

中学生の保護者は、「自営業・家業」は3.2ポイント低い、「勤め（常勤・正規職員）」は3.0ポイント高くなっている。

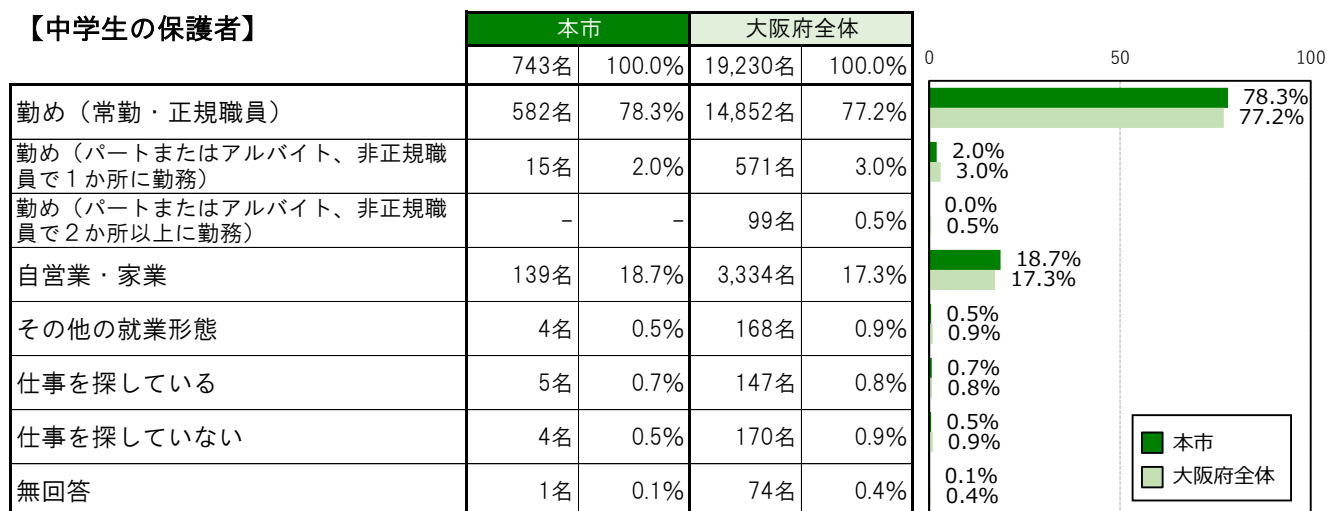
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

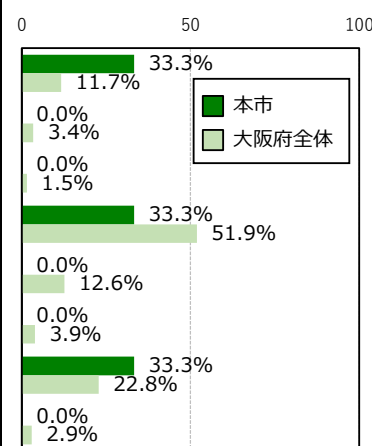
保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」、「病気療養のため」がそれぞれ33.3%（1名）となっている。

小学生の保護者は、「病気療養のため」が100.0%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が50.0%（1名）となっている。

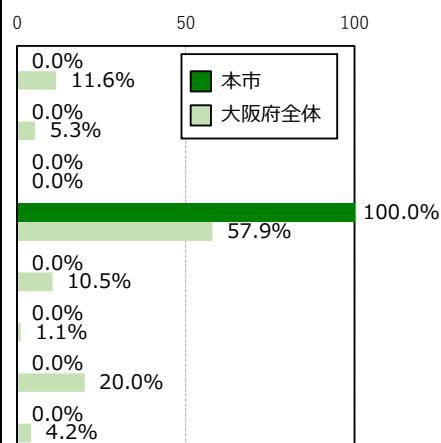
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	3名	100.0%	206名	100.0%
家事や育児に専念したいため	1名	33.3%	24名	11.7%
学生のため	-	-	7名	3.4%
おうちの人の介護や介助のため	-	-	3名	1.5%
病気療養のため	1名	33.3%	107名	51.9%
年金収入があるため	-	-	26名	12.6%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	8名	3.9%
その他	1名	33.3%	47名	22.8%
無回答	-	-	6名	2.9%



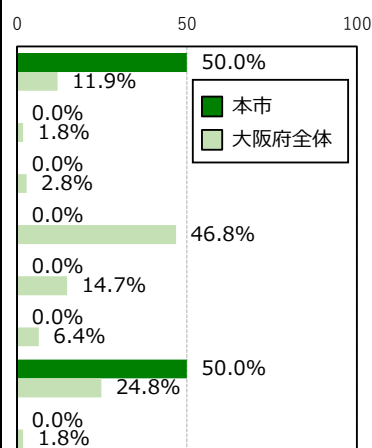
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1名	100.0%	95名	100.0%
家事や育児に専念したいため	-	-	11名	11.6%
学生のため	-	-	5名	5.3%
おうちの人の介護や介助のため	-	-	-	-
病気療養のため	1名	100.0%	55名	57.9%
年金収入があるため	-	-	10名	10.5%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	1名	1.1%
その他	-	-	19名	20.0%
無回答	-	-	4名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	2名	100.0%	109名	100.0%
家事や育児に専念したいため	1名	50.0%	13名	11.9%
学生のため	-	-	2名	1.8%
おうちの人の介護や介助のため	-	-	3名	2.8%
病気療養のため	-	-	51名	46.8%
年金収入があるため	-	-	16名	14.7%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	7名	6.4%
その他	1名	50.0%	27名	24.8%
無回答	-	-	2名	1.8%



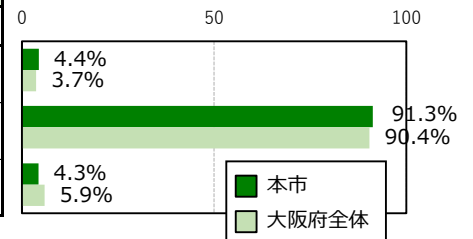
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が4.4%、「いない」が91.3%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が5.0%、「いない」が91.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が3.8%、「いない」が91.5%となっている。

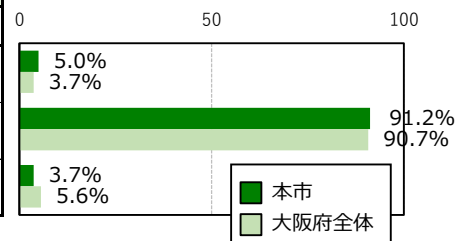
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	58名	4.4%	1,611名	3.7%
いない	1,212名	91.3%	39,140名	90.4%
無回答	57名	4.3%	2,549名	5.9%



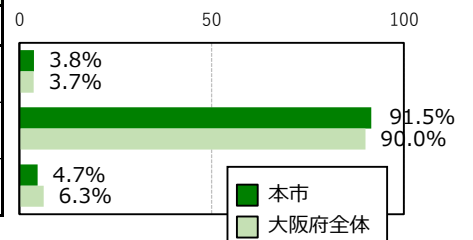
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	35名	5.0%	854名	3.7%
いない	636名	91.2%	20,666名	90.7%
無回答	26名	3.7%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	17名	3.8%	718名	3.7%
いない	411名	91.5%	17,432名	90.0%
無回答	21名	4.7%	1,215名	6.3%



世帯の状況について

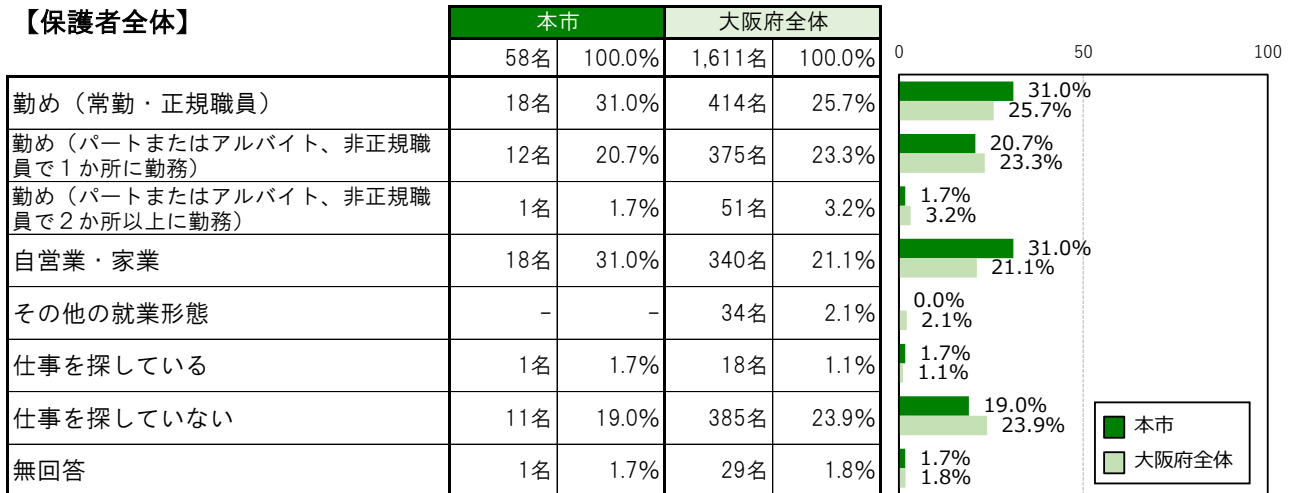
問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」、「自営業・家業」がそれぞれ31.0%で最も多く、次いで「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が20.7%、「仕事を探していない」が19.0%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が40.0%で最も多く、次いで「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が25.7%、「自営業・家業」が22.9%、「仕事を探していない」が17.1%となっている。

中学生の保護者は、「自営業・家業」が47.1%で最も多く、次いで「仕事を探していない」が23.5%、「勤め（常勤・正規職員）」、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」がそれぞれ11.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



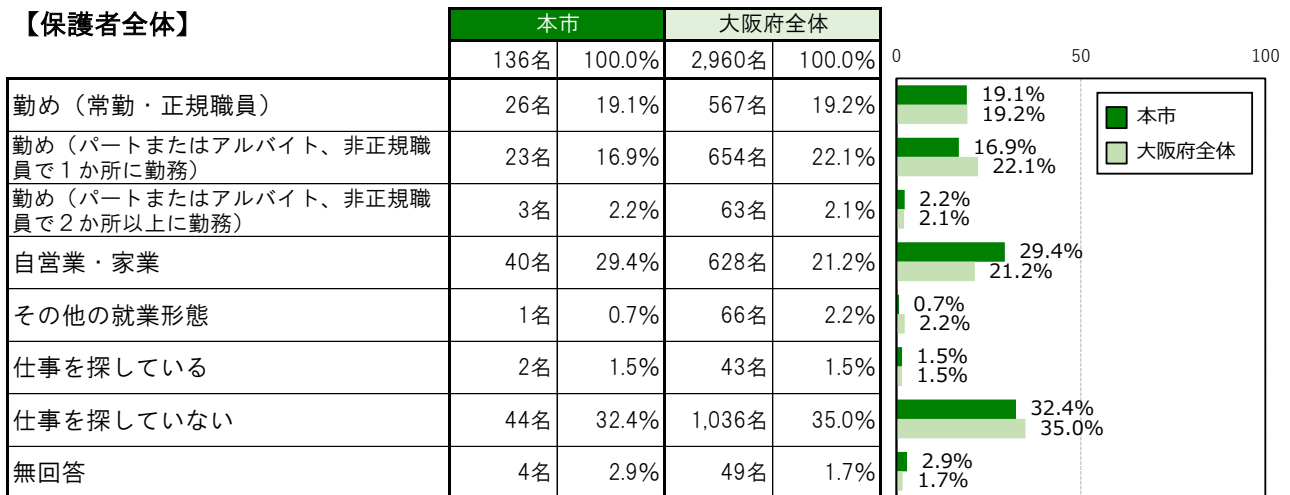
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、母数が少ないため一概には言えないが、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」は11.9ポイント高いが、「仕事を探していない」が13.4ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は20.0ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「自営業・家業」は20.3ポイント高くなっている。

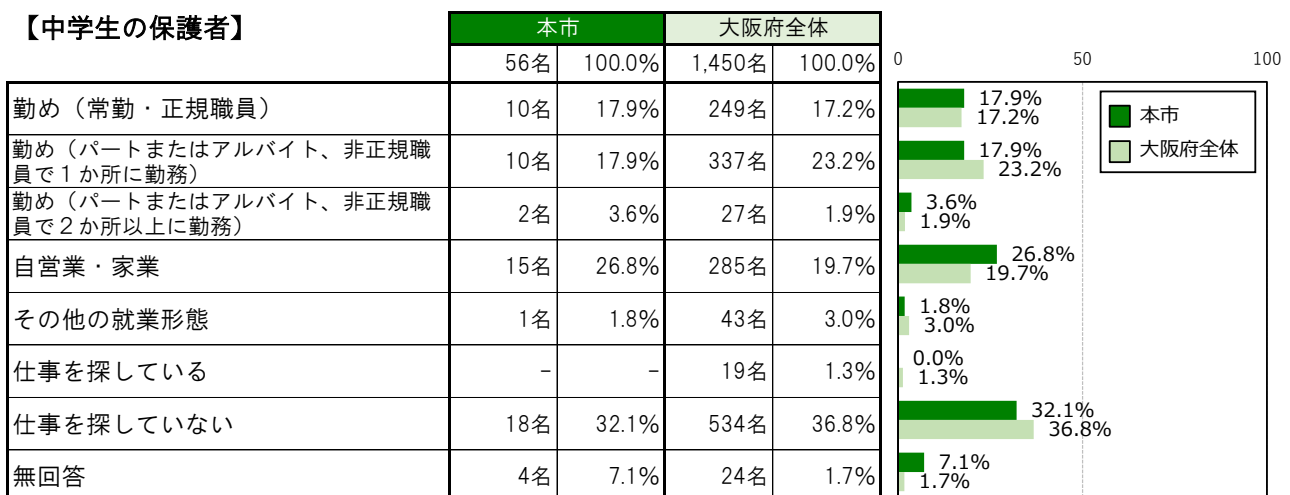
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

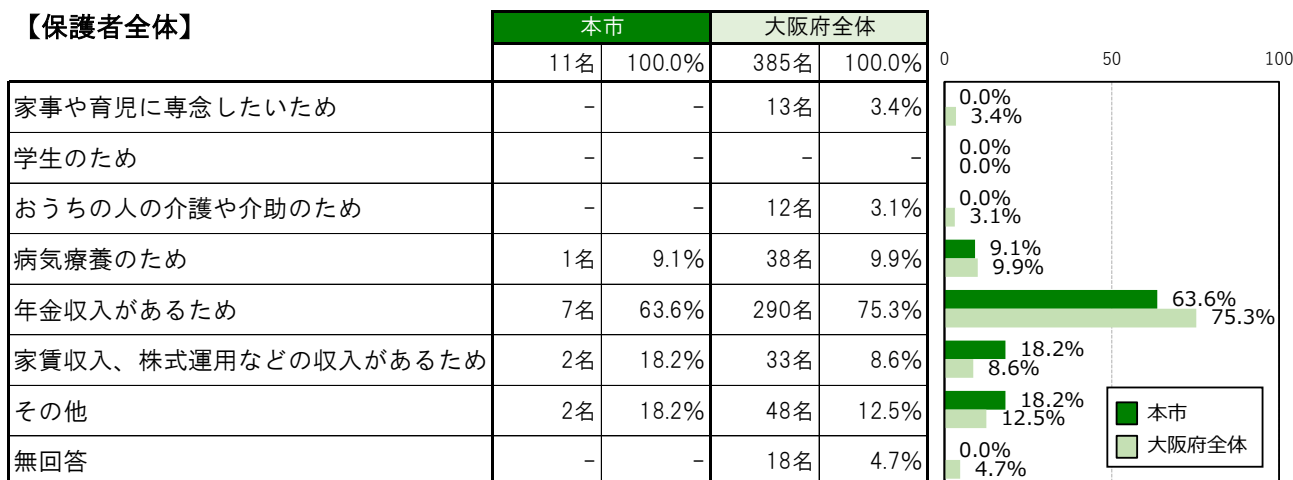
問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が63.6%（7名）で最も多く、次いで「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が18.2%（2名）となっている。

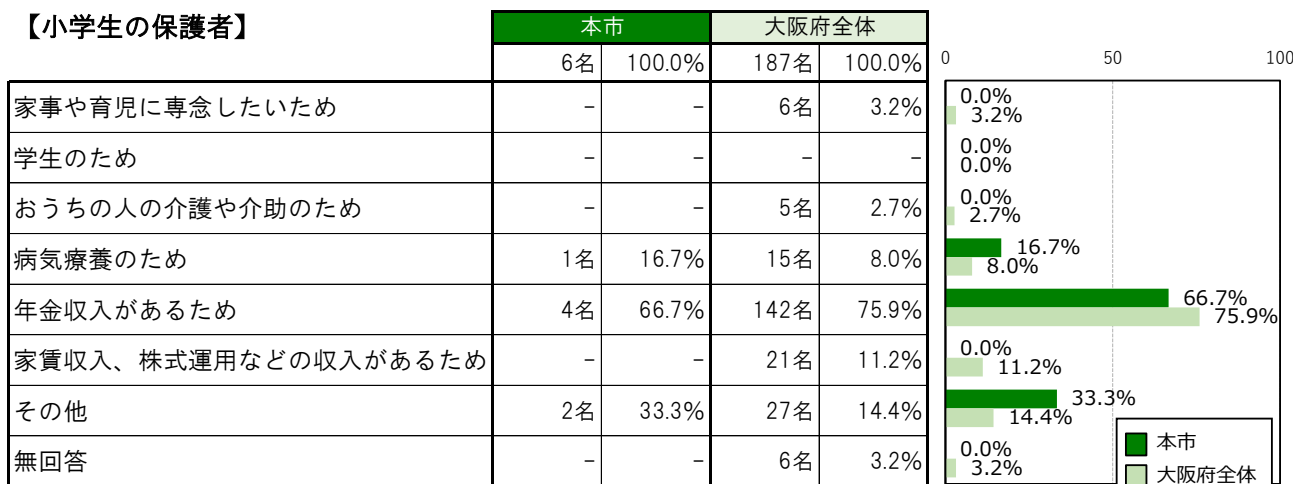
小学生の保護者は、「年金収入があるため」が66.7%（4名）で最も多く、次いで「病気療養のため」が16.7%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「年金収入があるため」が75.0%（3名）で最も多く、次いで「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が25.0%（1名）となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が51.1%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が41.0%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が4.1%、「帰宅時間が決まっていない」が2.4%となっている。

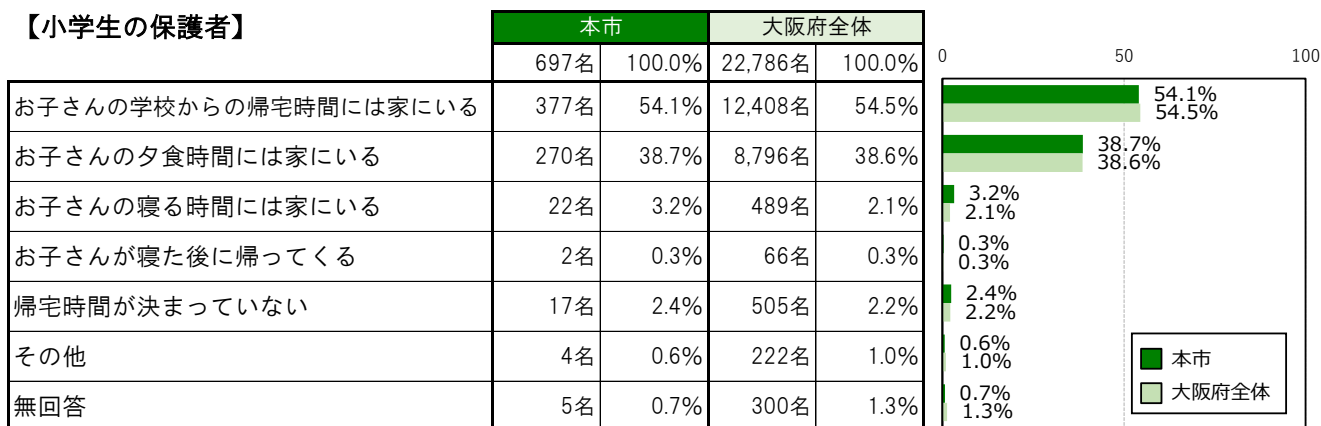
小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が54.1%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が38.7%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が3.2%、「帰宅時間が決まっていない」が2.4%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が47.7%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が43.9%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が4.7%、「帰宅時間が決まっていない」が2.4%となっている。

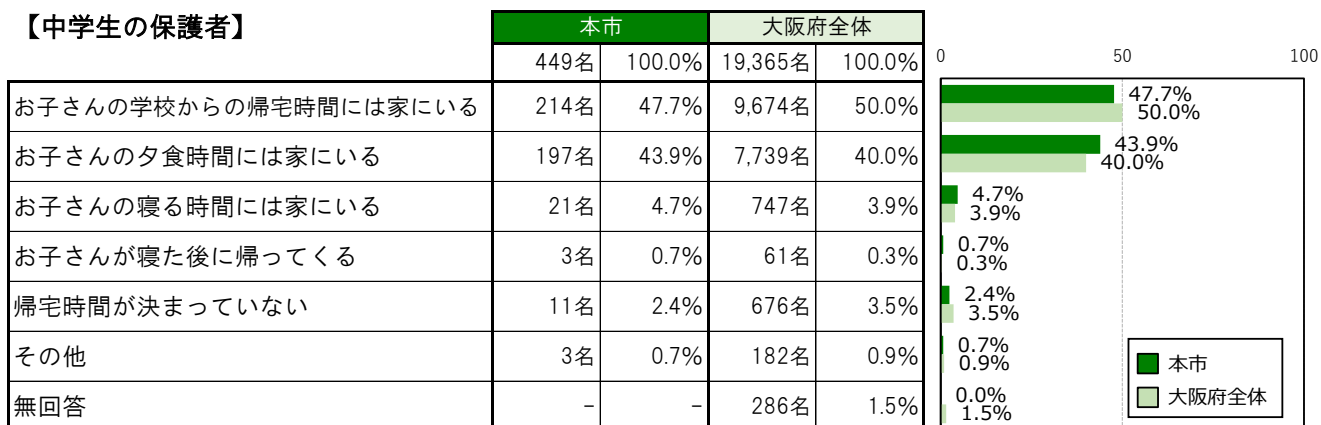
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

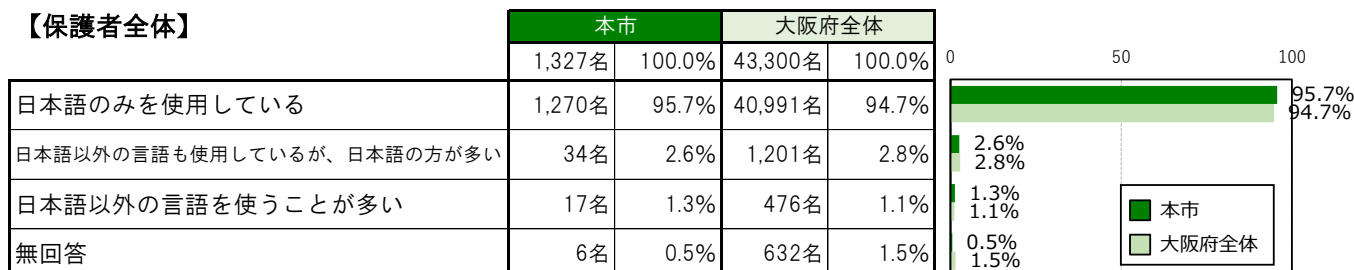
問11 日本語以外の言語の使用状況

保護者全体は、「日本語のみを使用している」が95.7%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.6%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が1.3%となっている。

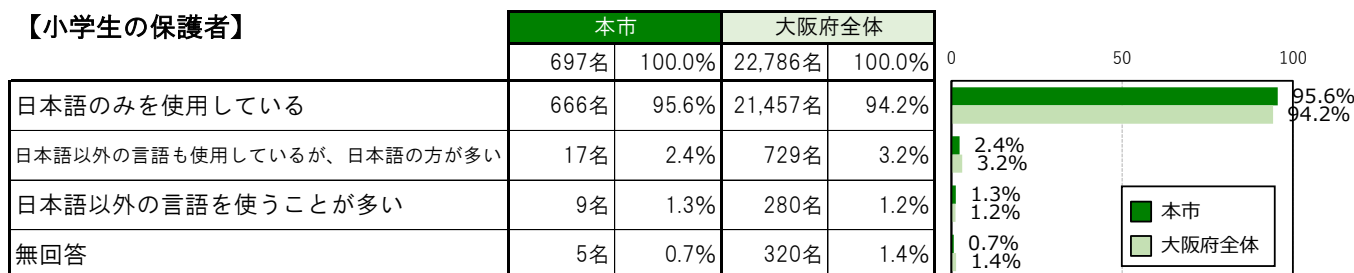
小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が95.6%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.4%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が1.3%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が95.8%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が3.1%となっている。

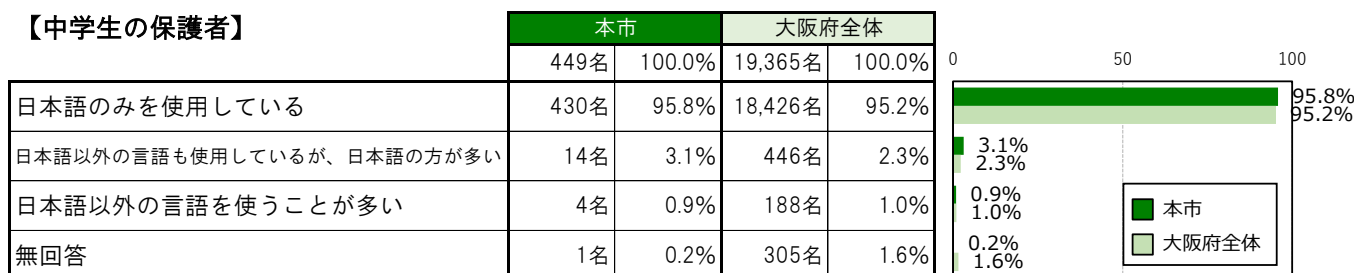
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



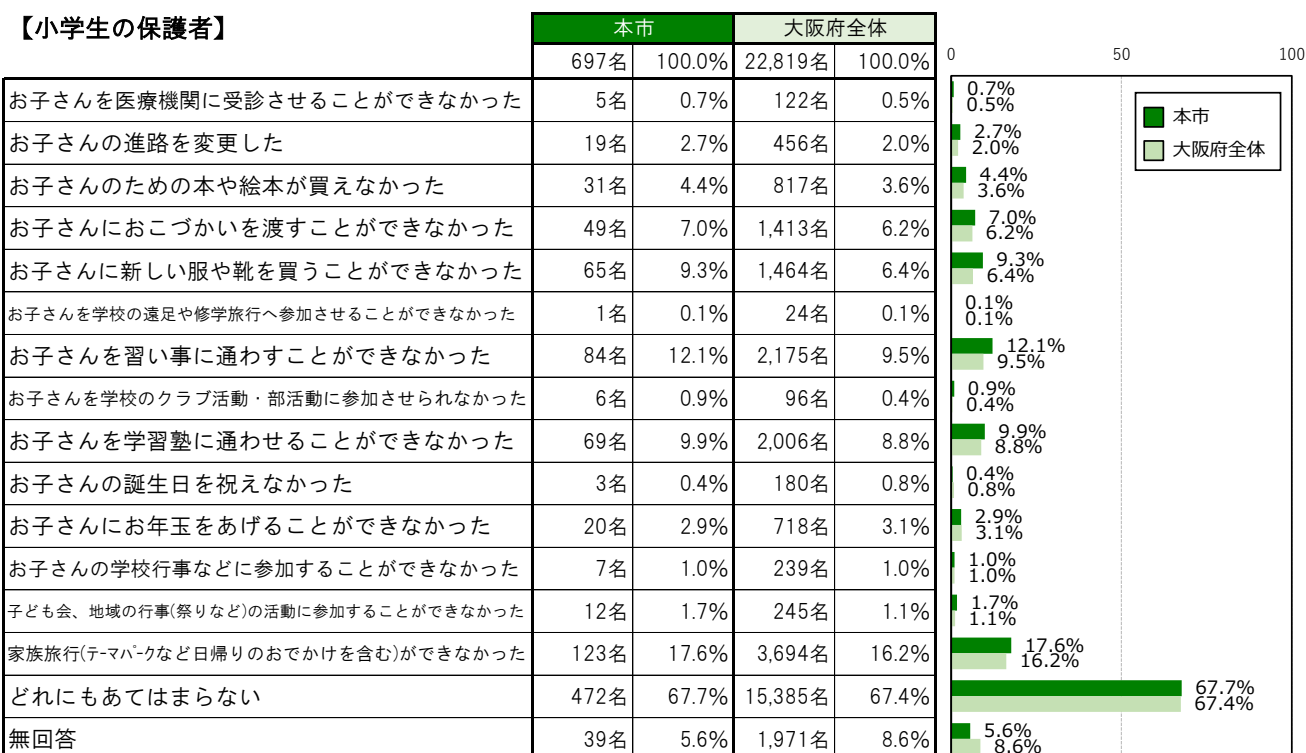
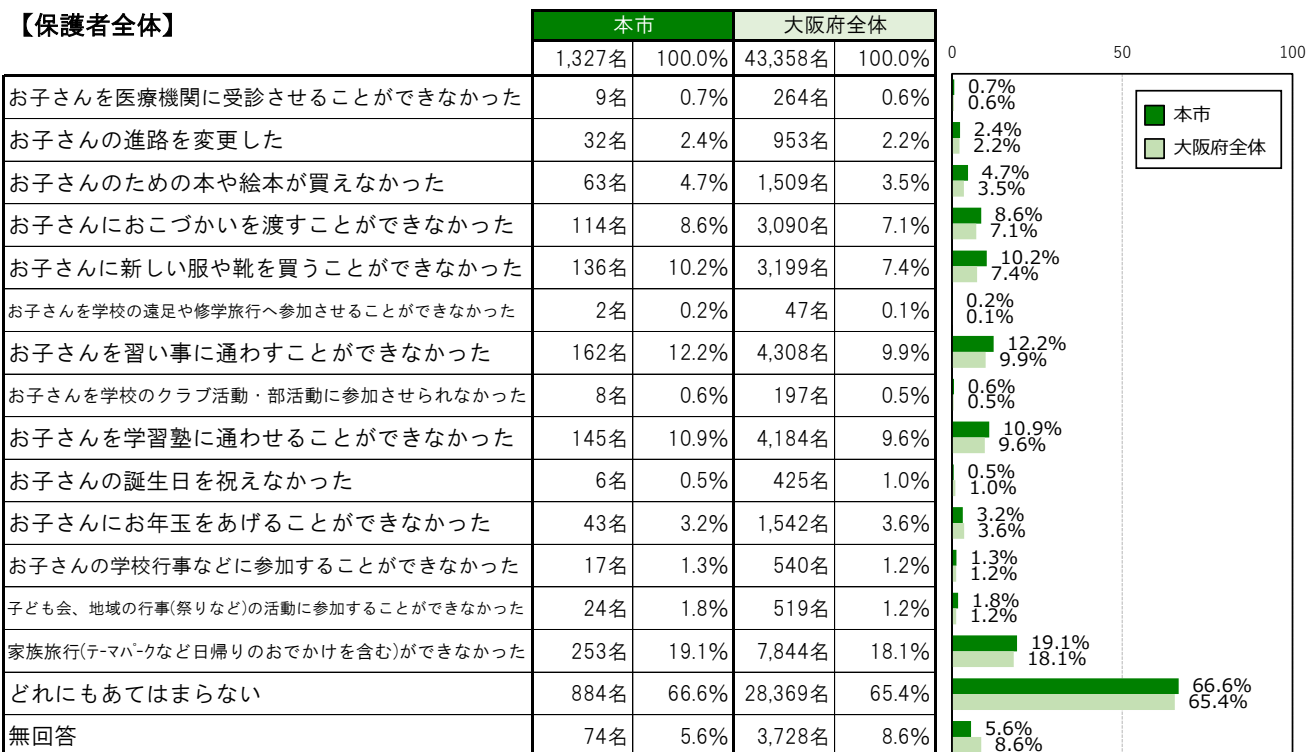
子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

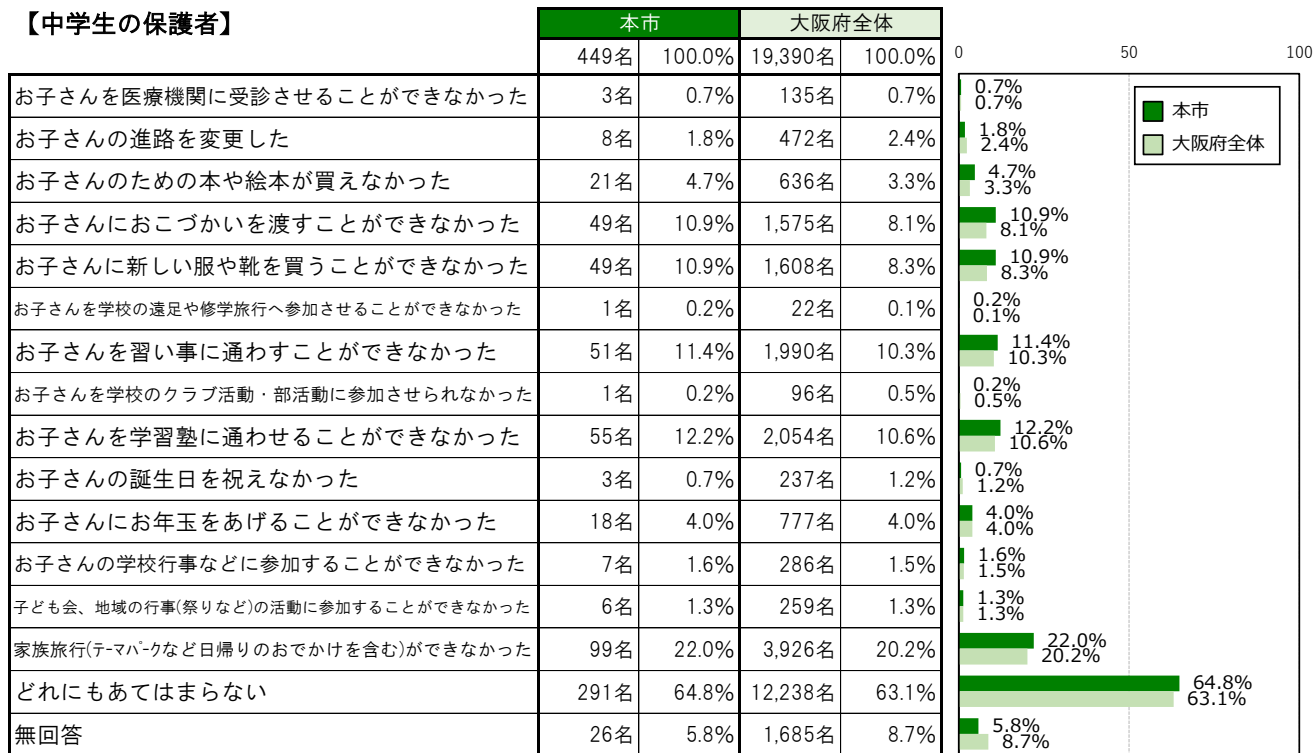
保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が66.6%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が19.1%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が12.2%となっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が67.7%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が17.6%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が12.1%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が64.8%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が22.0%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が12.2%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が11.4%となっている。

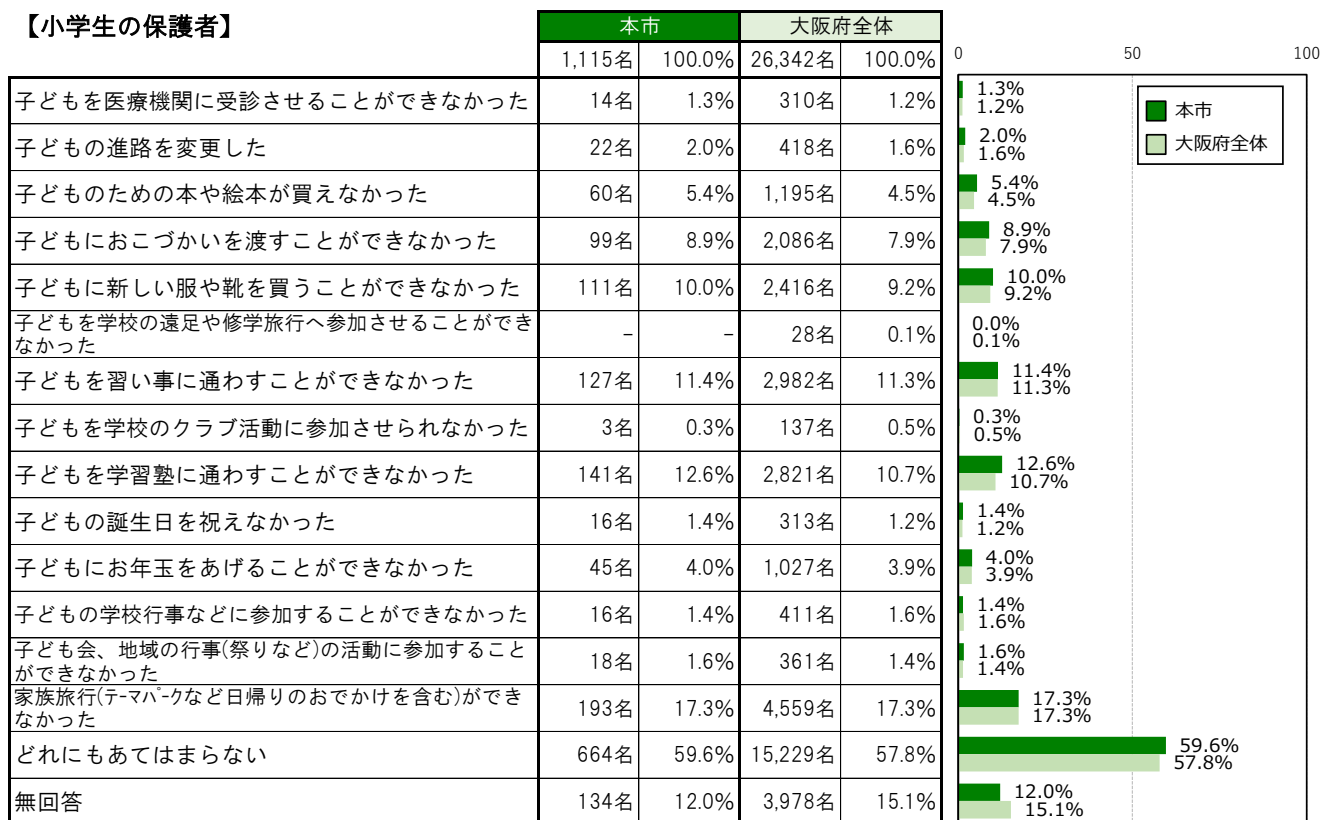
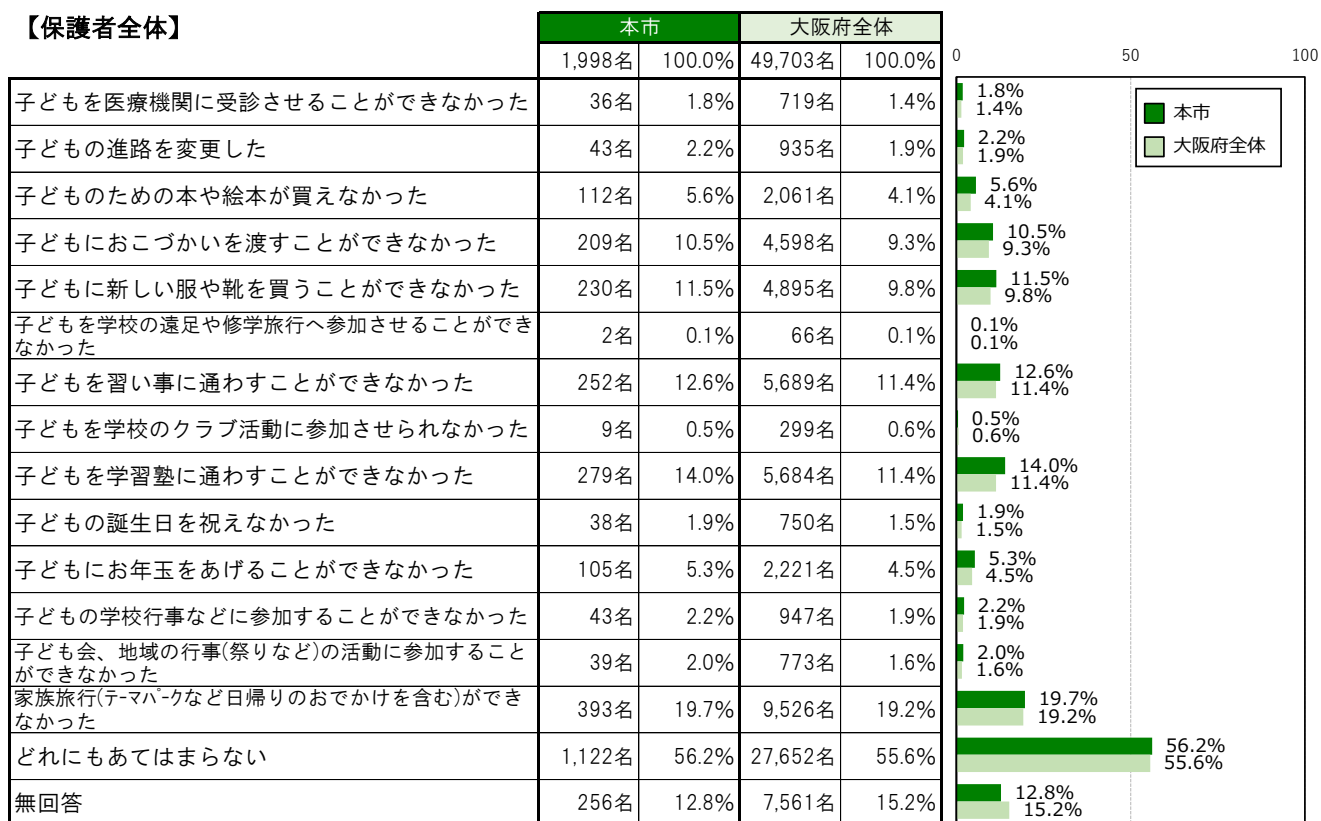


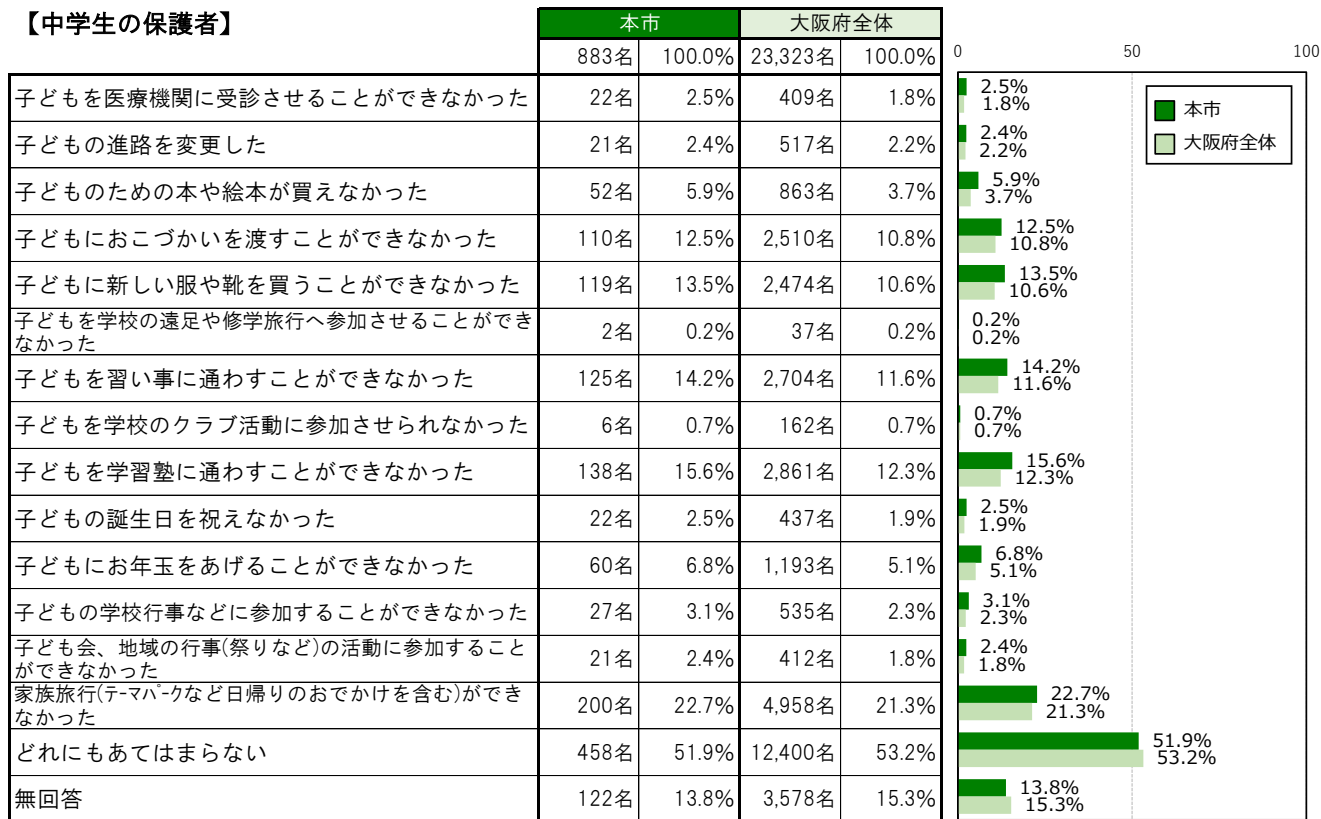
【中学生の保護者】



●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が10.4ポイント高くなっている。
 小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が8.1ポイント高くなっている。
 中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が12.9ポイント高くなっている。





子どもに関することについて

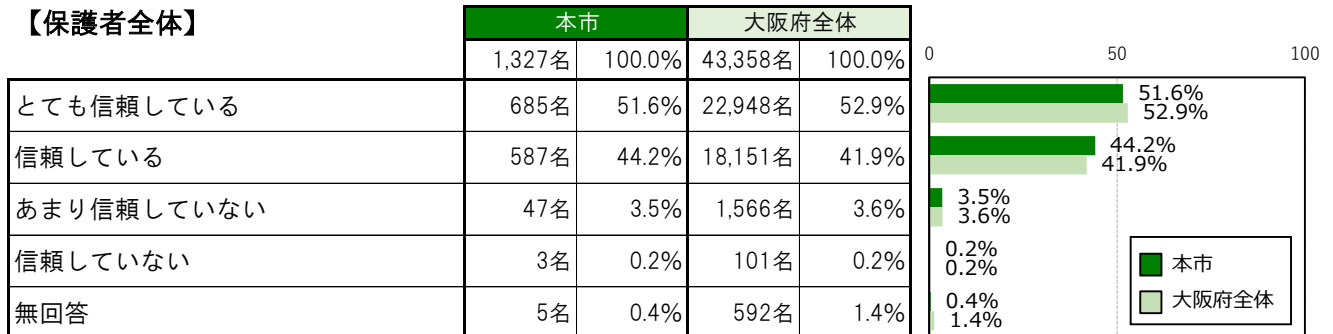
問13（１）子どもへの信頼度

保護者全体は、「とても信頼している」が51.6%で最も多く、次いで「信頼している」が44.2%、「あまり信頼していない」が3.5%となっている。

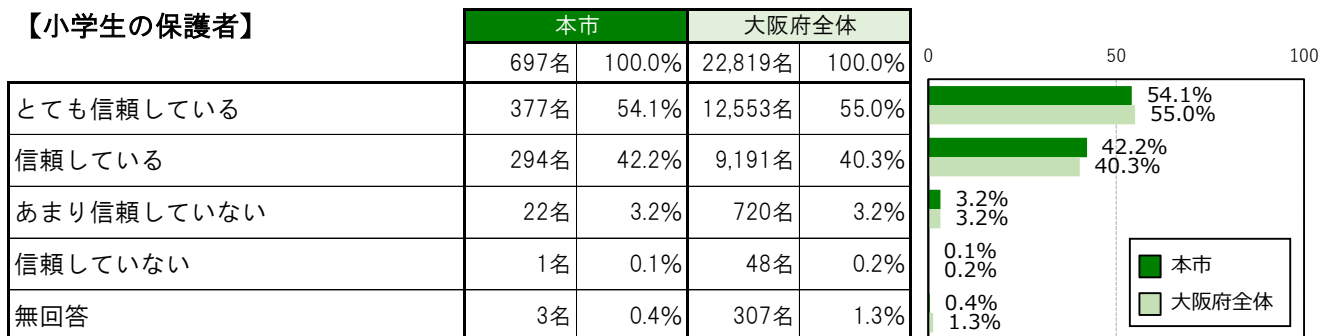
小学生の保護者は、「とても信頼している」が54.1%で最も多く、次いで「信頼している」が42.2%、「あまり信頼していない」が3.2%となっている。

中学生の保護者は、「とても信頼している」が49.0%で最も多く、次いで「信頼している」が46.1%、「あまり信頼していない」が4.0%となっている。

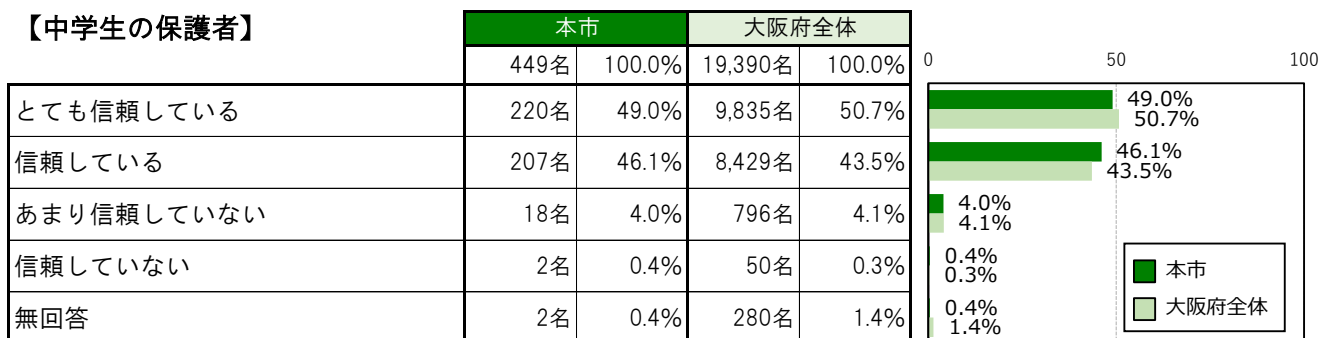
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（2）子どもとの会話頻度

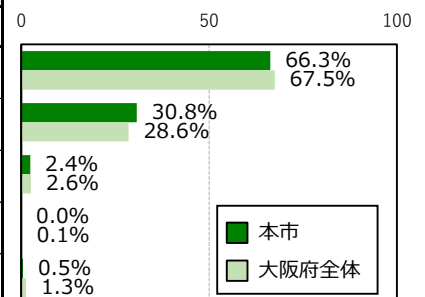
保護者全体は、「よくする」が66.3%で最も多く、次いで「する」が30.8%、「あまりしない」が2.4%となっている。

小学生の保護者は、「よくする」が70.4%で最も多く、次いで「する」が28.0%、「あまりしない」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「よくする」が61.2%で最も多く、次いで「する」が34.3%、「あまりしない」が3.8%となっている。

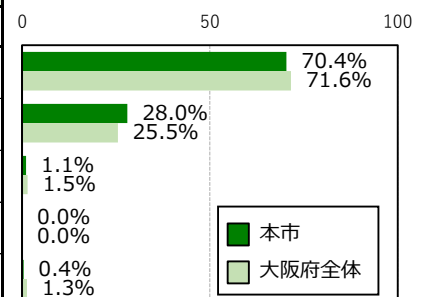
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,358名	100.0%
よくする	880名	66.3%	29,262名	67.5%
する	409名	30.8%	12,391名	28.6%
あまりしない	32名	2.4%	1,110名	2.6%
しない	-	-	30名	0.1%
無回答	6名	0.5%	565名	1.3%



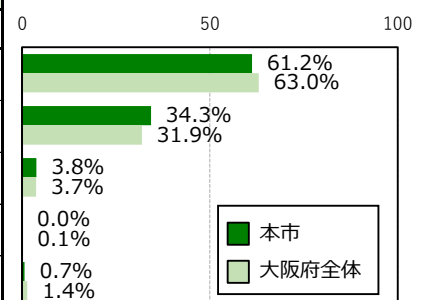
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,819名	100.0%
よくする	491名	70.4%	16,345名	71.6%
する	195名	28.0%	5,827名	25.5%
あまりしない	8名	1.1%	337名	1.5%
しない	-	-	10名	0.0%
無回答	3名	0.4%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,390名	100.0%
よくする	275名	61.2%	12,214名	63.0%
する	154名	34.3%	6,176名	31.9%
あまりしない	17名	3.8%	719名	3.7%
しない	-	-	19名	0.1%
無回答	3名	0.7%	262名	1.4%



子どもに関することについて

問13（３）平日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「１時間～２時間未満」が27.2%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が20.9%、「２時間～３時間未満」が18.3%となっている。

小学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が24.4%で最も多く、次いで「２時間～３時間未満」が20.5%、「30分～１時間未満」が18.7%となっている。

中学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が29.6%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が24.3%、「２時間～３時間未満」が16.3%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（３）休日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「２時間～４時間未満」が22.2%で最も多く、次いで「２時間未満」が18.2%、「４時間～６時間未満」が16.7%となっている。

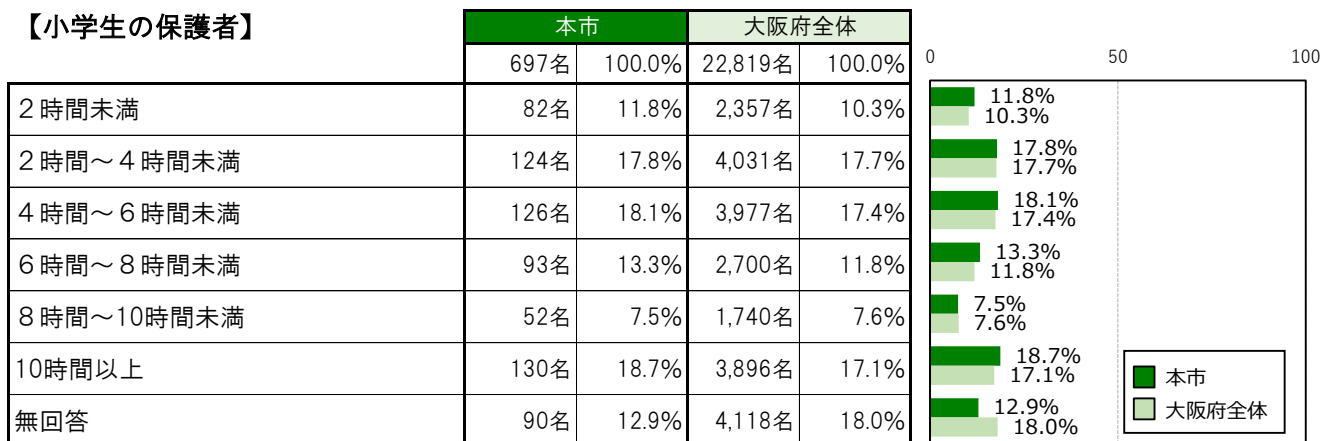
小学生の保護者は、「10時間以上」が18.7%で最も多く、次いで「４時間～６時間未満」が18.1%、「２時間～４時間未満」が17.8%となっている。

中学生の保護者は、「２時間～４時間未満」が26.3%で最も多く、次いで「２時間未満」が25.6%、「４時間～６時間未満」が14.3%となっている。

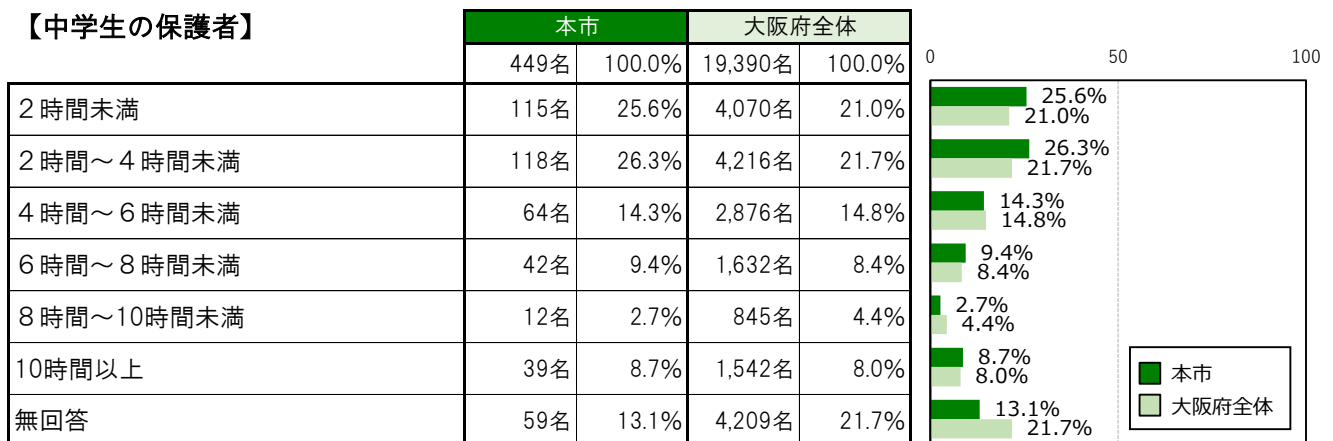
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

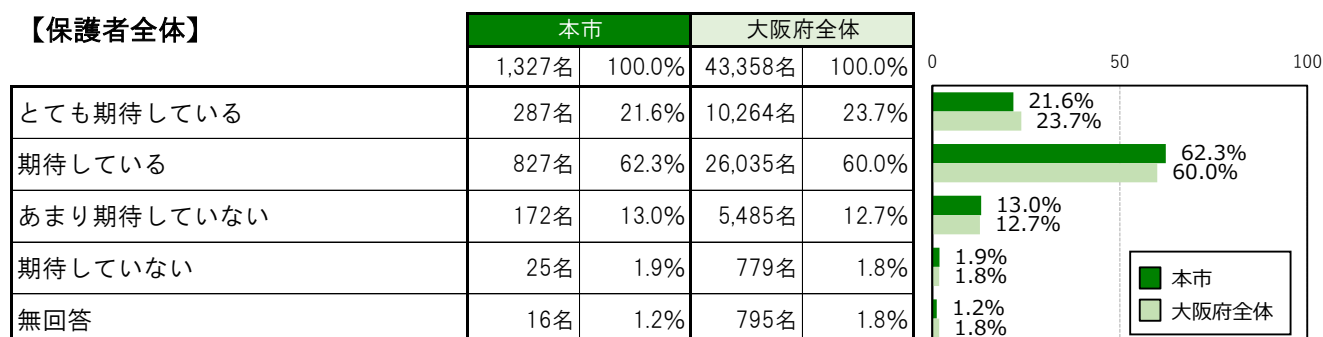
問13（４）子どもの将来への期待度

保護者全体は、「期待している」が62.3%で最も多く、次いで「とても期待している」が21.6%、「あまり期待していない」が13.0%となっている。

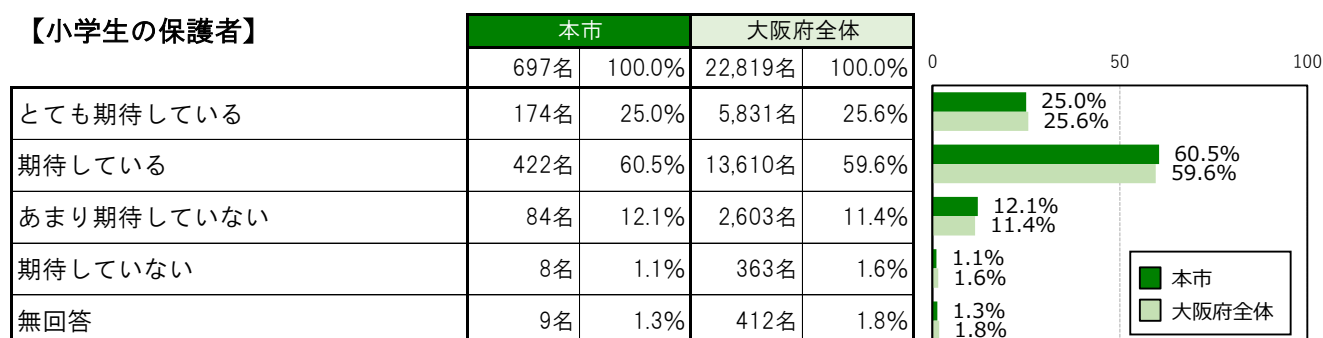
小学生の保護者は、「期待している」が60.5%で最も多く、次いで「とても期待している」が25.0%、「あまり期待していない」が12.1%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が64.4%で最も多く、次いで「とても期待している」が18.3%、「あまり期待していない」が12.9%となっている。

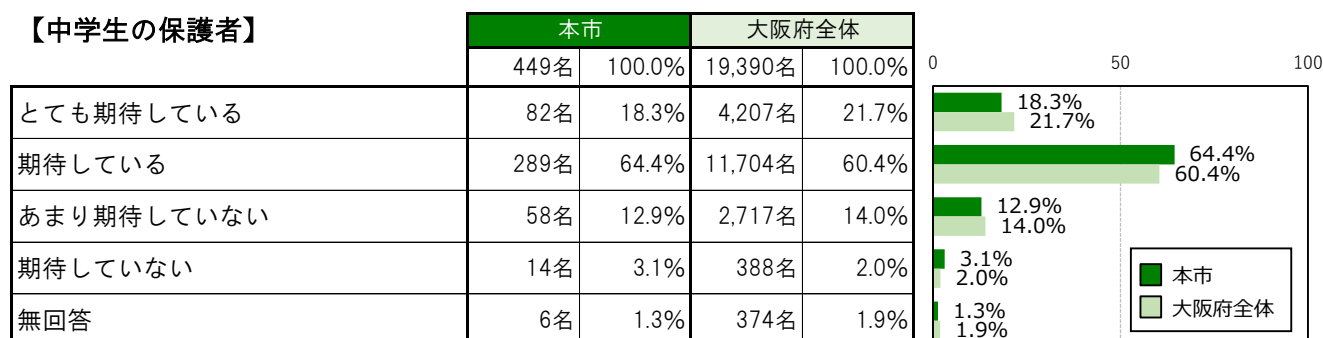
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（５）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

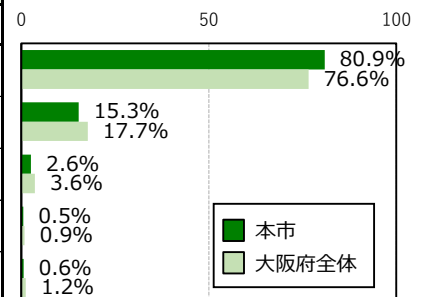
保護者全体は、「よく参加している」が80.9%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が15.3%、「あまり参加していない」が2.6%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が87.8%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が10.2%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が71.9%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が21.6%、「あまり参加していない」が4.9%となっている。

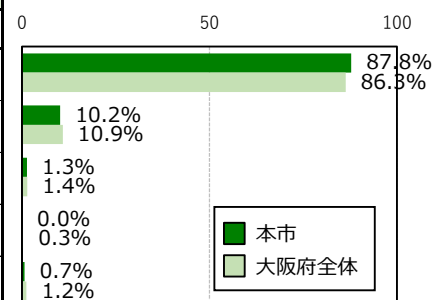
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	1,074名	80.9%	33,215名	76.6%
ときどき参加している	203名	15.3%	7,691名	17.7%
あまり参加していない	35名	2.6%	1,550名	3.6%
まったく参加していない	7名	0.5%	376名	0.9%
無回答	8名	0.6%	526名	1.2%



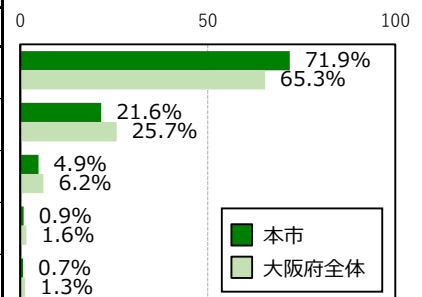
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	612名	87.8%	19,697名	86.3%
ときどき参加している	71名	10.2%	2,477名	10.9%
あまり参加していない	9名	1.3%	309名	1.4%
まったく参加していない	-	-	58名	0.3%
無回答	5名	0.7%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	323名	71.9%	12,665名	65.3%
ときどき参加している	97名	21.6%	4,975名	25.7%
あまり参加していない	22名	4.9%	1,202名	6.2%
まったく参加していない	4名	0.9%	304名	1.6%
無回答	3名	0.7%	244名	1.3%



子どもに関することについて

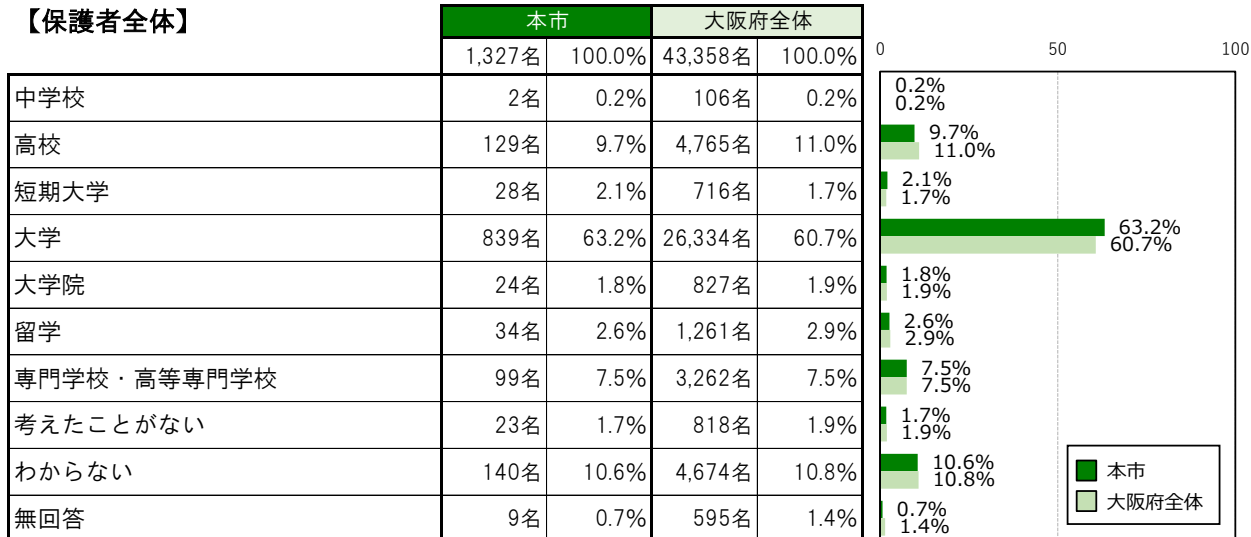
問14 子どもに希望する進学

保護者全体は、「大学」が63.2%で最も多く、次いで「高校」が9.7%、「専門学校・高等専門学校」が7.5%、「留学」が2.6%となっている。

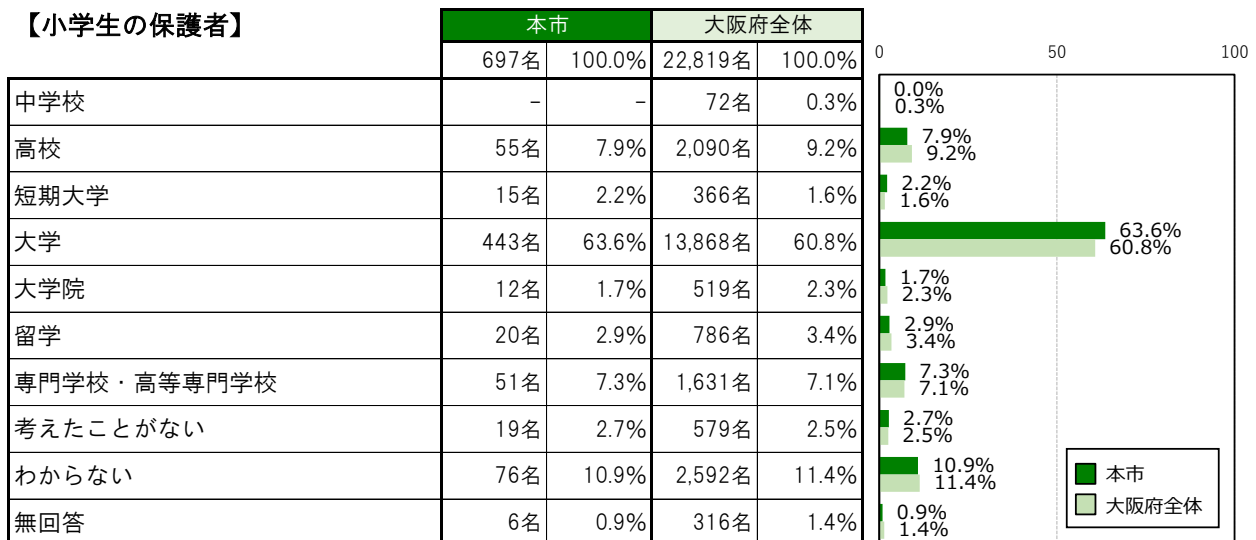
小学生の保護者は、「大学」が63.6%で最も多く、次いで「高校」が7.9%、「専門学校・高等専門学校」が7.3%、「留学」が2.9%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が61.7%で最も多く、次いで「高校」が12.2%、「専門学校・高等専門学校」が7.6%、「留学」が2.4%となっている。

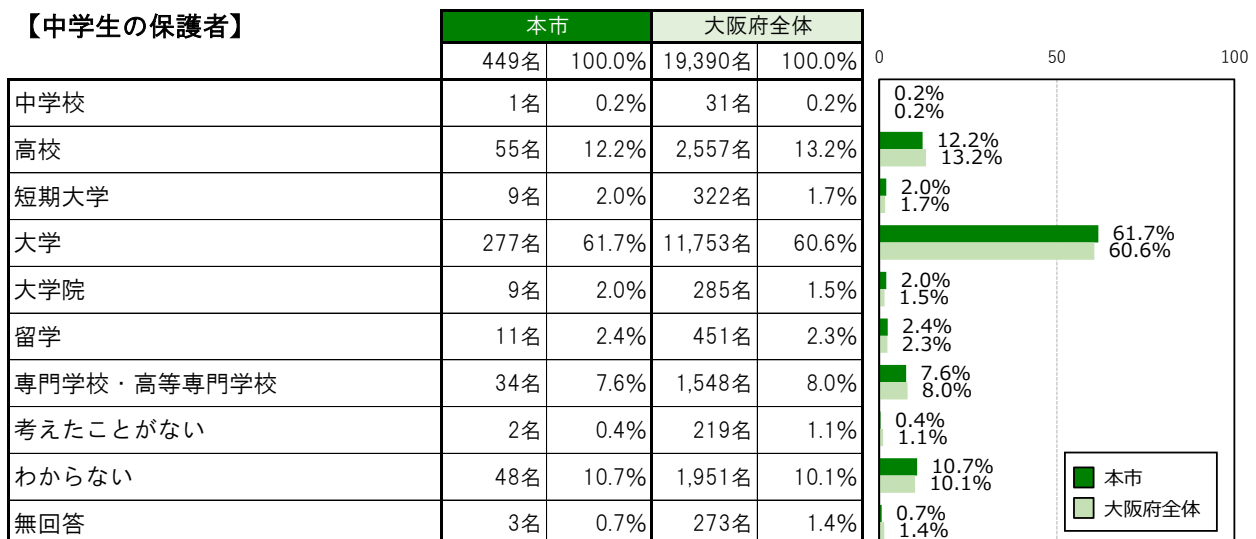
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

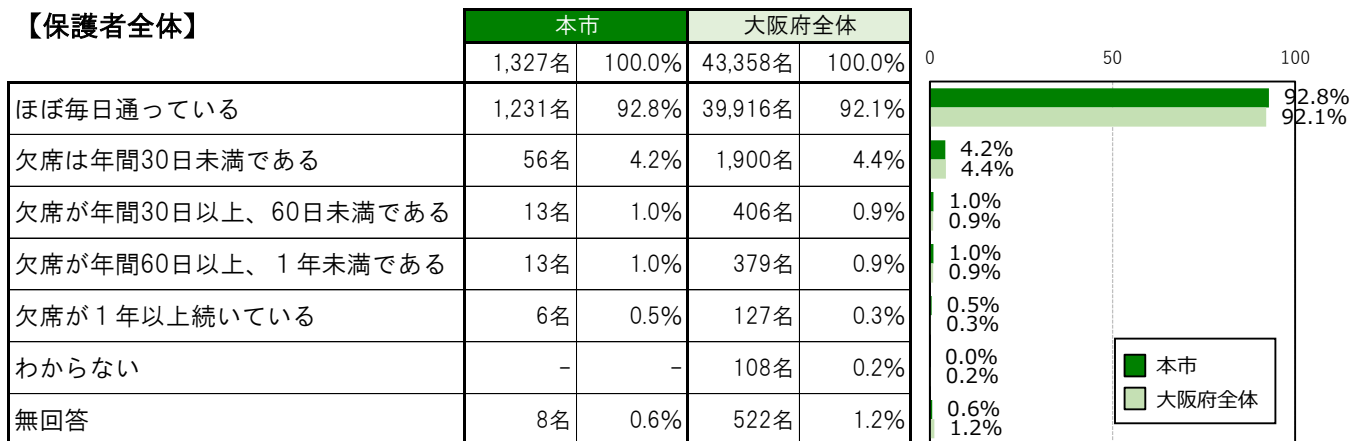
問15 子どもの通学状況

保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が92.8%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が4.2%となっている。

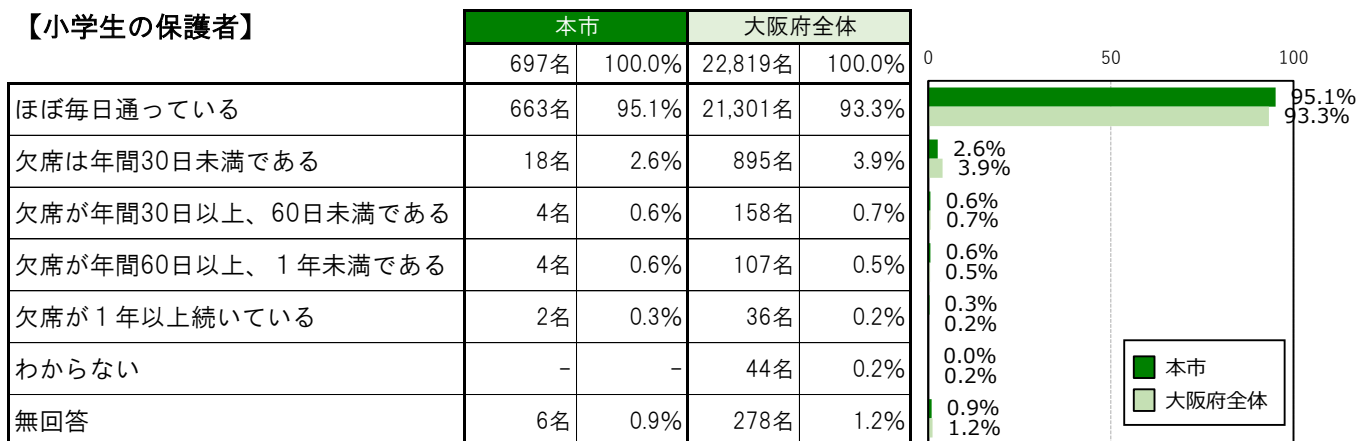
小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が95.1%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が2.6%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が89.1%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が6.9%となっている。

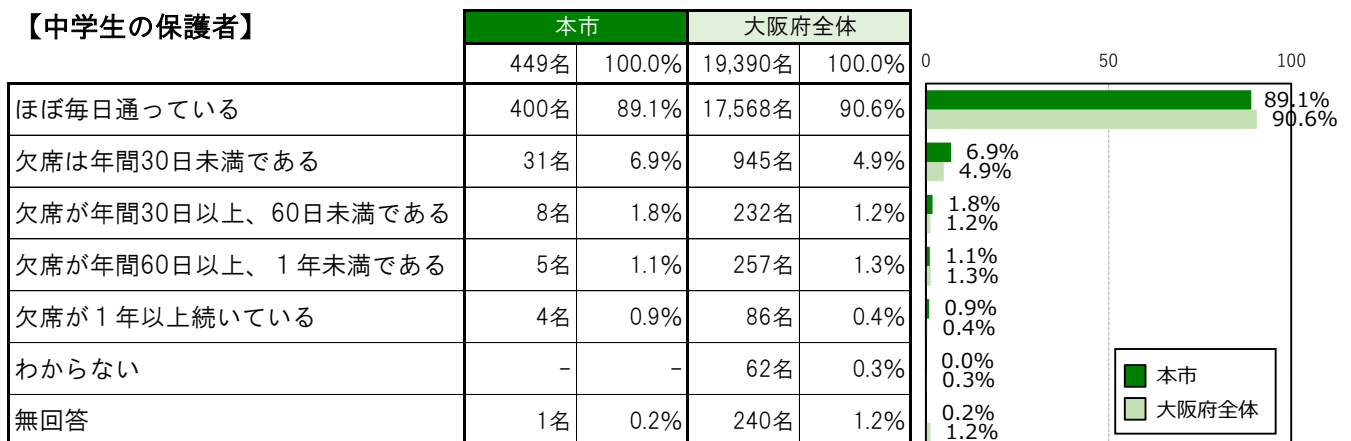
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問16（１）子どもの居場所の利用経験

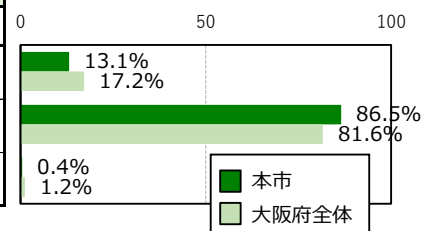
保護者全体は、「利用したことがある」が13.1%、「利用したことがない」が86.5%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがある」が13.6%、「利用したことがない」が85.9%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがある」が12.2%、「利用したことがない」が87.3%となっている。

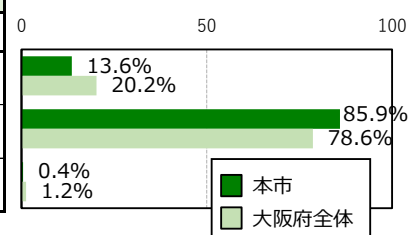
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,358名	100.0%
利用したことがある	174名	13.1%	7,459名	17.2%
利用したことがない	1,148名	86.5%	35,367名	81.6%
無回答	5名	0.4%	532名	1.2%



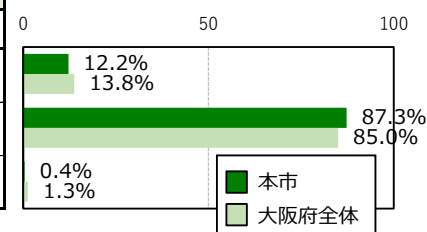
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,819名	100.0%
利用したことがある	95名	13.6%	4,599名	20.2%
利用したことがない	599名	85.9%	17,945名	78.6%
無回答	3名	0.4%	275名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,390名	100.0%
利用したことがある	55名	12.2%	2,667名	13.8%
利用したことがない	392名	87.3%	16,472名	85.0%
無回答	2名	0.4%	251名	1.3%



子どもに関することについて

問16（２）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

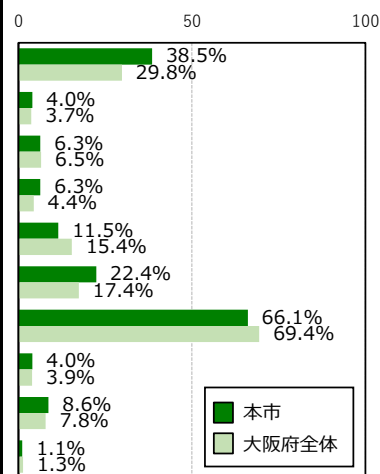
保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が66.1%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が38.5%、「宿題など勉強を見てくれるから」が22.4%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が11.5%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が71.6%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が36.8%、「宿題など勉強を見てくれるから」が18.9%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が58.2%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が40.0%、「宿題など勉強を見てくれるから」が23.6%、「お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから」が9.1%となっている。

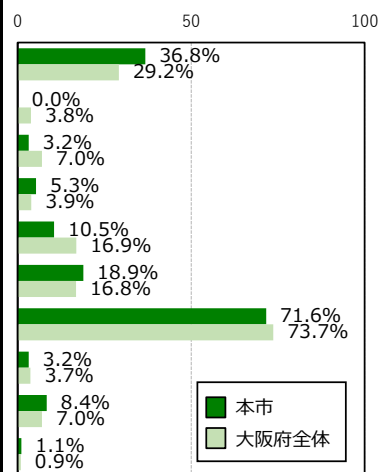
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	174名	100.0%	7,459名	100.0%
地域の人とつながれるから	67名	38.5%	2,226名	29.8%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	7名	4.0%	275名	3.7%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	11名	6.3%	484名	6.5%
運営者が相談に乗ってくれるから	11名	6.3%	329名	4.4%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	20名	11.5%	1,152名	15.4%
宿題など勉強を見てくれるから	39名	22.4%	1,301名	17.4%
お子さんが楽しんでいるから	115名	66.1%	5,178名	69.4%
特になし	7名	4.0%	291名	3.9%
その他	15名	8.6%	579名	7.8%
無回答	2名	1.1%	95名	1.3%



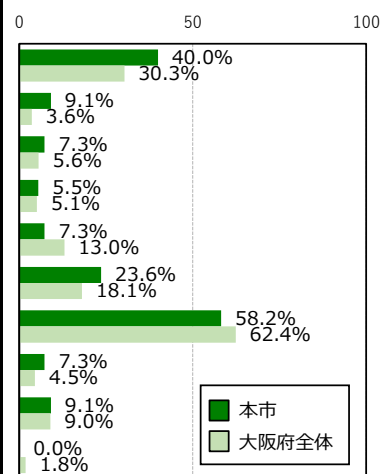
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	95名	100.0%	4,599名	100.0%
地域の人とつながれるから	35名	36.8%	1,344名	29.2%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	-	-	173名	3.8%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	3名	3.2%	322名	7.0%
運営者が相談に乗ってくれるから	5名	5.3%	180名	3.9%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	10名	10.5%	778名	16.9%
宿題など勉強を見てくれるから	18名	18.9%	773名	16.8%
お子さんが楽しんでいるから	68名	71.6%	3,388名	73.7%
特になし	3名	3.2%	168名	3.7%
その他	8名	8.4%	324名	7.0%
無回答	1名	1.1%	43名	0.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	55名	100.0%	2,667名	100.0%
地域の人とつながれるから	22名	40.0%	808名	30.3%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	5名	9.1%	97名	3.6%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	4名	7.3%	150名	5.6%
運営者が相談に乗ってくれるから	3名	5.5%	136名	5.1%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	4名	7.3%	348名	13.0%
宿題など勉強を見てくれるから	13名	23.6%	482名	18.1%
お子さんが楽しんでいるから	32名	58.2%	1,664名	62.4%
特になし	4名	7.3%	120名	4.5%
その他	5名	9.1%	241名	9.0%
無回答	-	-	47名	1.8%



子どもに関することについて

問16（３）子どもの居場所を利用しない理由

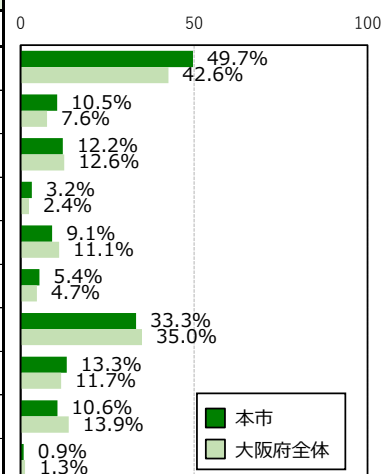
保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が49.7%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が33.3%、「何をしているかわからないから」が13.3%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が51.9%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が31.2%、「何をしているかわからないから」が14.4%、「家の近く（小学校区内）にないから」、「家で過ごしてほしいと思うから」がそれぞれ12.2%となっている。

中学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が46.4%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が36.2%、「何をしているかわからないから」が14.3%となっている。

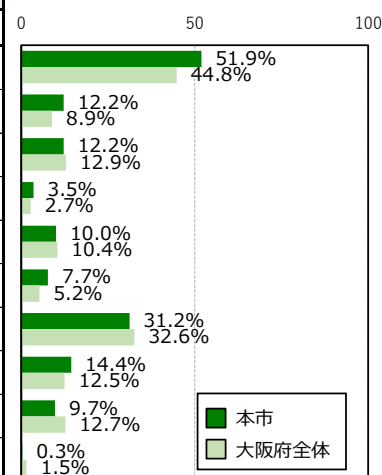
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,148名	100.0%	35,367名	100.0%
どこにあるか知らないから	571名	49.7%	15,060名	42.6%
家の近く（小学校区内）にないから	120名	10.5%	2,697名	7.6%
家で過ごしてほしいと思うから	140名	12.2%	4,452名	12.6%
居場所のイメージがよくないから	37名	3.2%	862名	2.4%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	105名	9.1%	3,936名	11.1%
行きたい日・時間に開いていないから	62名	5.4%	1,647名	4.7%
利用したいと思わないから	382名	33.3%	12,386名	35.0%
何をしているかわからないから	153名	13.3%	4,149名	11.7%
その他	122名	10.6%	4,908名	13.9%
無回答	10名	0.9%	473名	1.3%



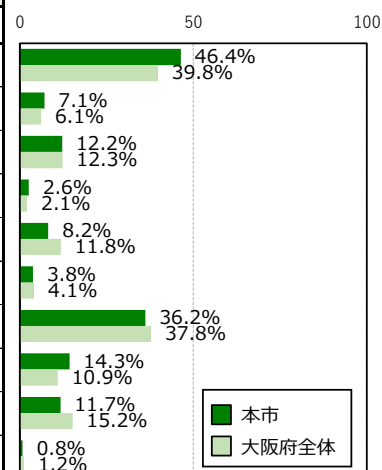
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	599名	100.0%	17,945名	100.0%
どこにあるか知らないから	311名	51.9%	8,048名	44.8%
家の近く（小学校区内）にないから	73名	12.2%	1,594名	8.9%
家で過ごしてほしいと思うから	73名	12.2%	2,318名	12.9%
居場所のイメージがよくないから	21名	3.5%	476名	2.7%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	60名	10.0%	1,873名	10.4%
行きたい日・時間に開いていないから	46名	7.7%	936名	5.2%
利用したいと思わないから	187名	31.2%	5,849名	32.6%
何をしているかわからないから	86名	14.4%	2,243名	12.5%
その他	58名	9.7%	2,278名	12.7%
無回答	2名	0.3%	261名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	392名	100.0%	16,472名	100.0%
どこにあるか知らないから	182名	46.4%	6,563名	39.8%
家の近く（小学校区内）にないから	28名	7.1%	1,006名	6.1%
家で過ごしてほしいと思うから	48名	12.2%	2,030名	12.3%
居場所のイメージがよくないから	10名	2.6%	347名	2.1%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	32名	8.2%	1,950名	11.8%
行きたい日・時間に開いていないから	15名	3.8%	673名	4.1%
利用したいと思わないから	142名	36.2%	6,227名	37.8%
何をしているかわからないから	56名	14.3%	1,797名	10.9%
その他	46名	11.7%	2,509名	15.2%
無回答	3名	0.8%	195名	1.2%



保護者のことについて

問17 初めて親となった年齢

保護者全体は、「27～30歳」が32.8%で最も多く、次いで「31～34歳」が24.5%、「24～26歳」が15.6%、「35～39歳」が12.1%となっている。

小学生の保護者は、「27～30歳」が32.9%で最も多く、次いで「31～34歳」が26.8%、「24～26歳」が12.6%、「35～39歳」が12.3%となっている。

中学生の保護者は、「27～30歳」が32.5%で最も多く、次いで「31～34歳」が24.9%、「24～26歳」が15.4%、「35～39歳」が13.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

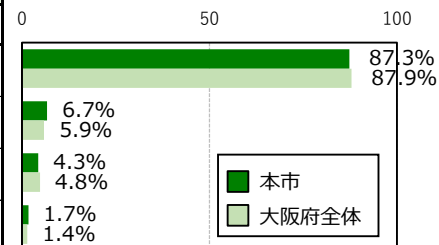
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が87.3%、「いない」が6.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が86.9%、「いない」が7.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が87.5%、「いない」が6.2%となっている。

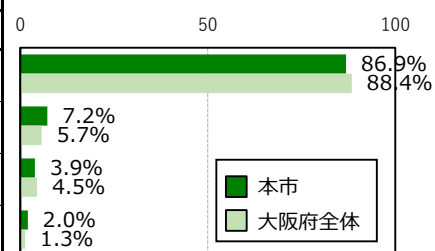
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,158名	87.3%	38,049名	87.9%
いない	89名	6.7%	2,548名	5.9%
わからない	57名	4.3%	2,099名	4.8%
無回答	23名	1.7%	604名	1.4%



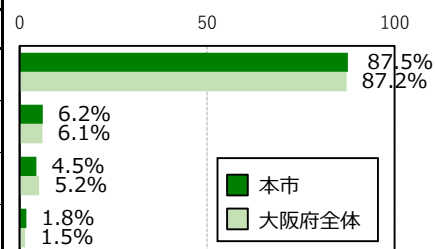
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	606名	86.9%	20,150名	88.4%
いない	50名	7.2%	1,304名	5.7%
わからない	27名	3.9%	1,026名	4.5%
無回答	14名	2.0%	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	393名	87.5%	16,885名	87.2%
いない	28名	6.2%	1,173名	6.1%
わからない	20名	4.5%	1,016名	5.2%
無回答	8名	1.8%	291名	1.5%



保護者のことについて

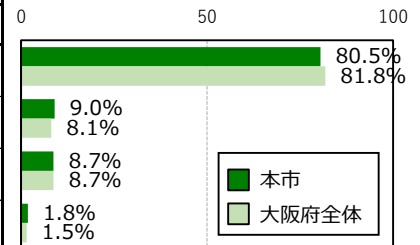
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が80.5%、「いない」が9.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が79.9%、「いない」が9.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が80.8%、「いない」が8.2%となっている。

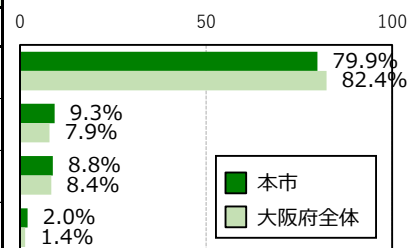
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,068名	80.5%	35,406名	81.8%
いない	119名	9.0%	3,491名	8.1%
わからない	116名	8.7%	3,748名	8.7%
無回答	24名	1.8%	655名	1.5%



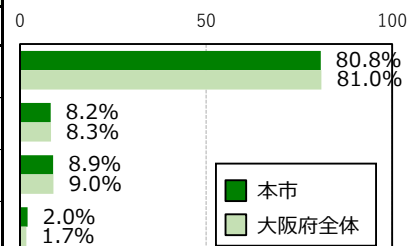
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	557名	79.9%	18,767名	82.4%
いない	65名	9.3%	1,791名	7.9%
わからない	61名	8.8%	1,904名	8.4%
無回答	14名	2.0%	324名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	363名	80.8%	15,691名	81.0%
いない	37名	8.2%	1,610名	8.3%
わからない	40名	8.9%	1,741名	9.0%
無回答	9名	2.0%	323名	1.7%



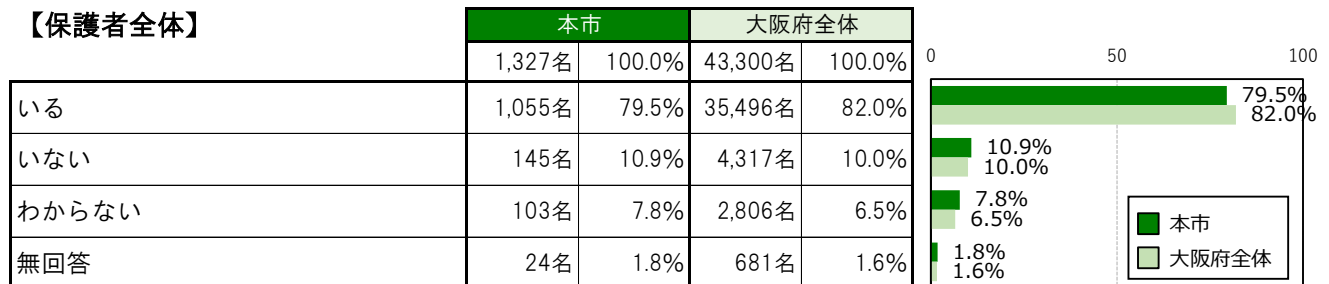
保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

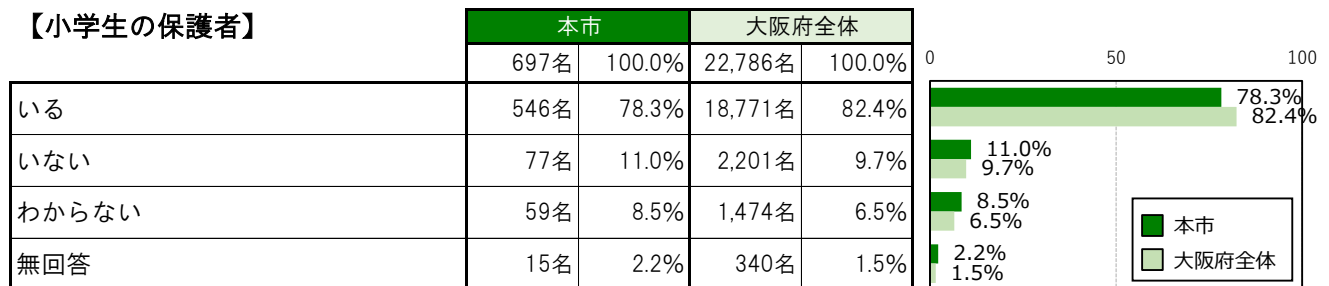
③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が79.5%、「いない」が10.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が78.3%、「いない」が11.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が82.2%、「いない」が10.0%となっている。

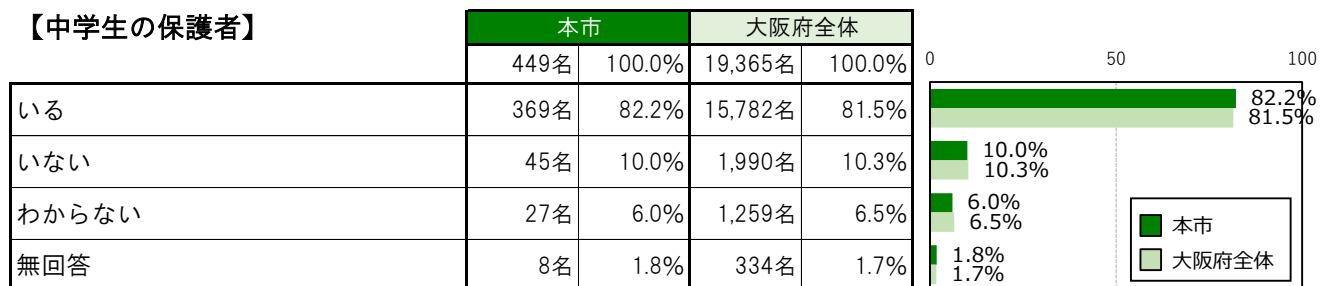
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

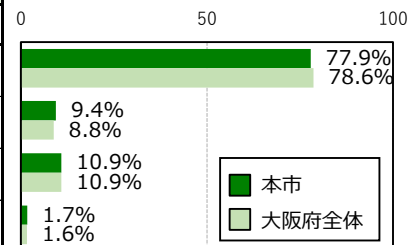
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が77.9%、「いない」が9.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が76.8%、「いない」が9.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が78.8%、「いない」が9.4%となっている。

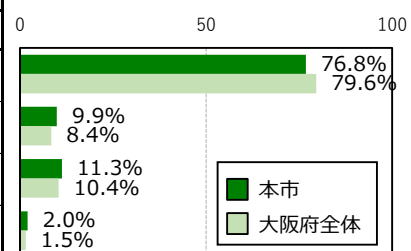
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	1,034名	77.9%	34,034名	78.6%
いない	125名	9.4%	3,824名	8.8%
わからない	145名	10.9%	4,731名	10.9%
無回答	23名	1.7%	711名	1.6%



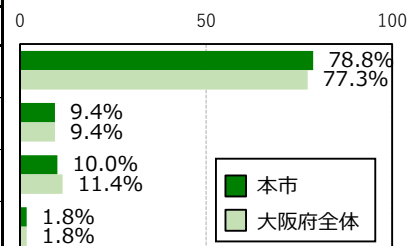
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	535名	76.8%	18,149名	79.6%
いない	69名	9.9%	1,912名	8.4%
わからない	79名	11.3%	2,381名	10.4%
無回答	14名	2.0%	344名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	354名	78.8%	14,966名	77.3%
いない	42名	9.4%	1,826名	9.4%
わからない	45名	10.0%	2,217名	11.4%
無回答	8名	1.8%	356名	1.8%



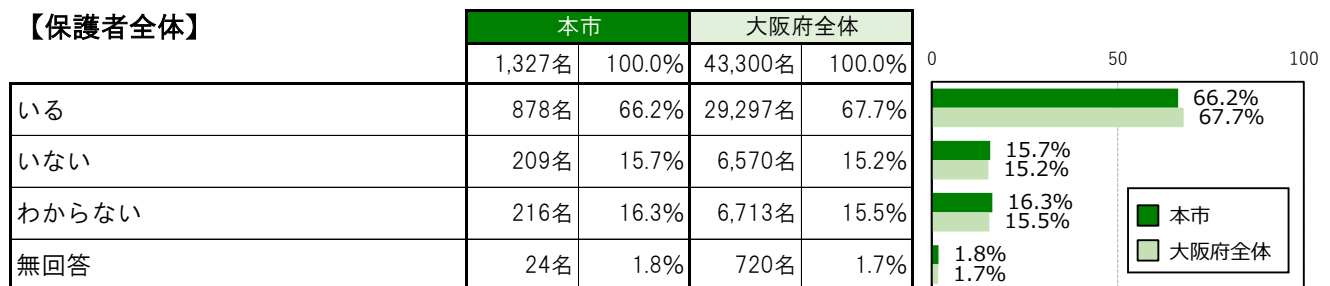
保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

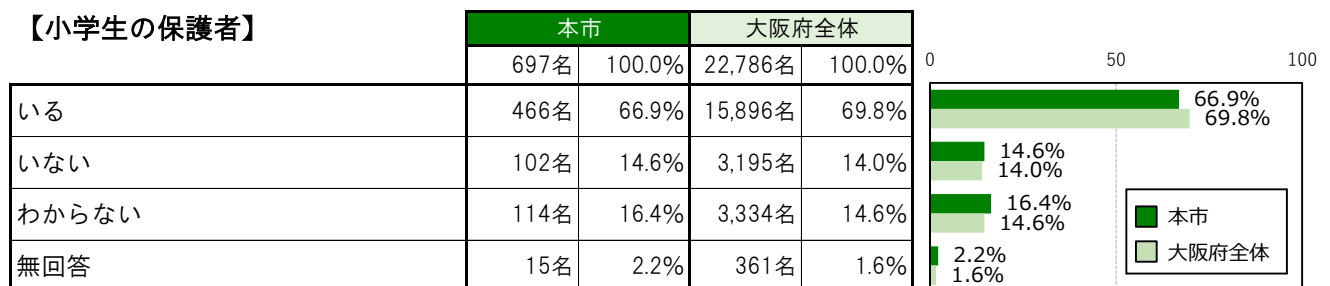
⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が66.2%、「いない」が15.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が66.9%、「いない」が14.6%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が63.9%、「いない」が18.3%となっている。

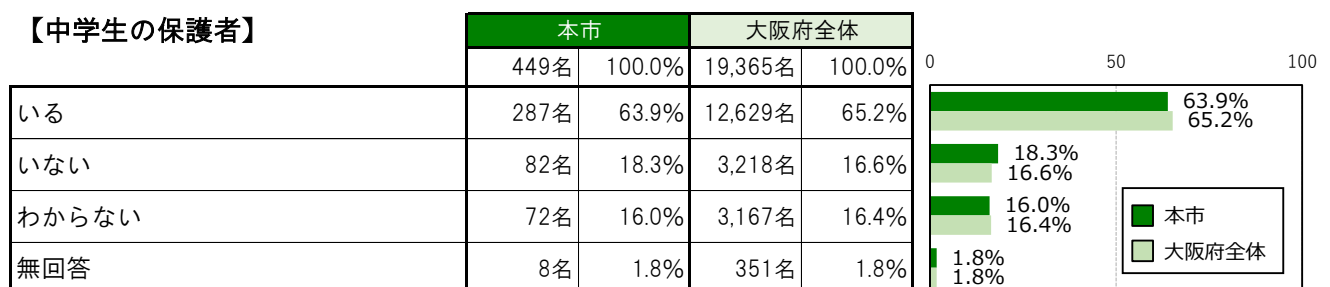
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

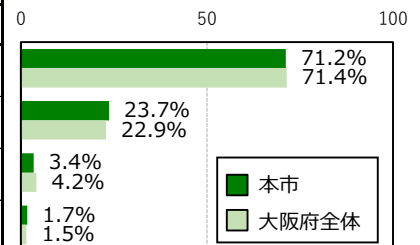
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が71.2%、「いない」が23.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が71.3%、「いない」が23.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が69.5%、「いない」が24.7%となっている。

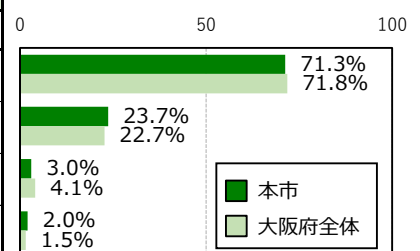
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	945名	71.2%	30,902名	71.4%
いない	315名	23.7%	9,922名	22.9%
わからない	45名	3.4%	1,822名	4.2%
無回答	22名	1.7%	654名	1.5%



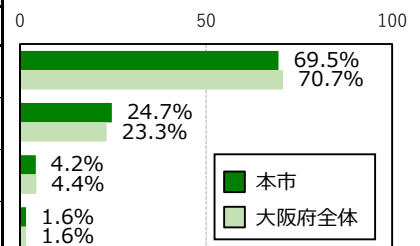
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	497名	71.3%	16,360名	71.8%
いない	165名	23.7%	5,164名	22.7%
わからない	21名	3.0%	930名	4.1%
無回答	14名	2.0%	332名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	312名	69.5%	13,687名	70.7%
いない	111名	24.7%	4,519名	23.3%
わからない	19名	4.2%	850名	4.4%
無回答	7名	1.6%	309名	1.6%



保護者のことについて

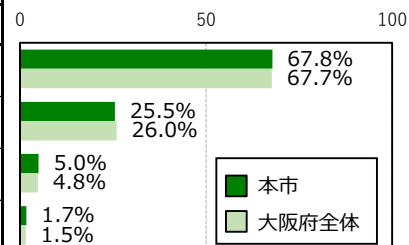
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が67.8%、「いない」が25.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が67.7%、「いない」が25.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が66.6%、「いない」が26.9%となっている。

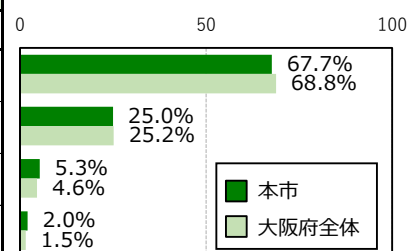
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	900名	67.8%	29,312名	67.7%
いない	338名	25.5%	11,256名	26.0%
わからない	67名	5.0%	2,066名	4.8%
無回答	22名	1.7%	666名	1.5%



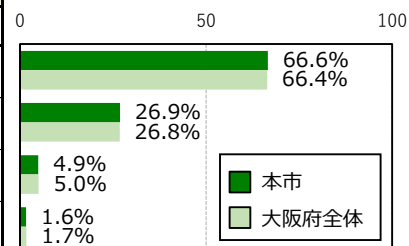
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	472名	67.7%	15,668名	68.8%
いない	174名	25.0%	5,746名	25.2%
わからない	37名	5.3%	1,037名	4.6%
無回答	14名	2.0%	335名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	299名	66.6%	12,868名	66.4%
いない	121名	26.9%	5,198名	26.8%
わからない	22名	4.9%	977名	5.0%
無回答	7名	1.6%	322名	1.7%



保護者のことについて

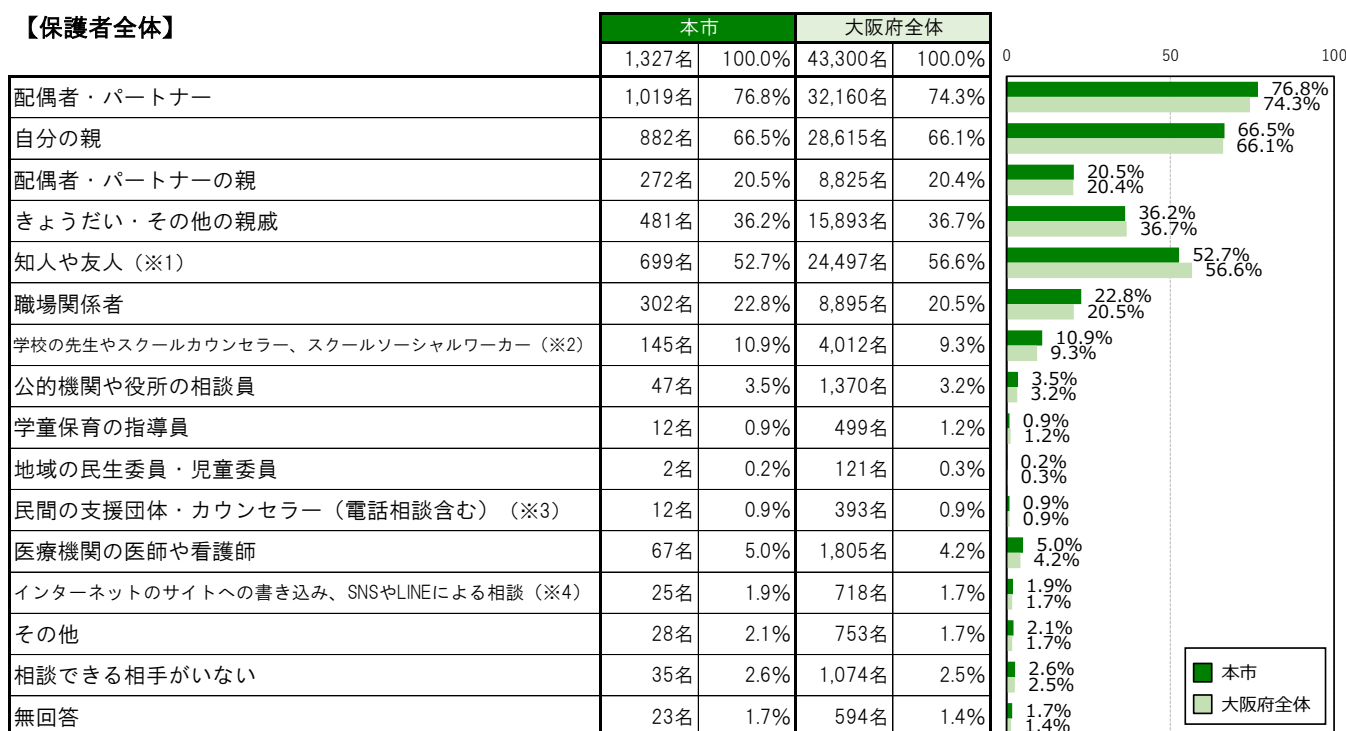
問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が76.8%で最も多く、次いで「自分の親」が66.5%、「知人や友人」が52.7%、「きょうだい・その他の親戚」が36.2%となっている。

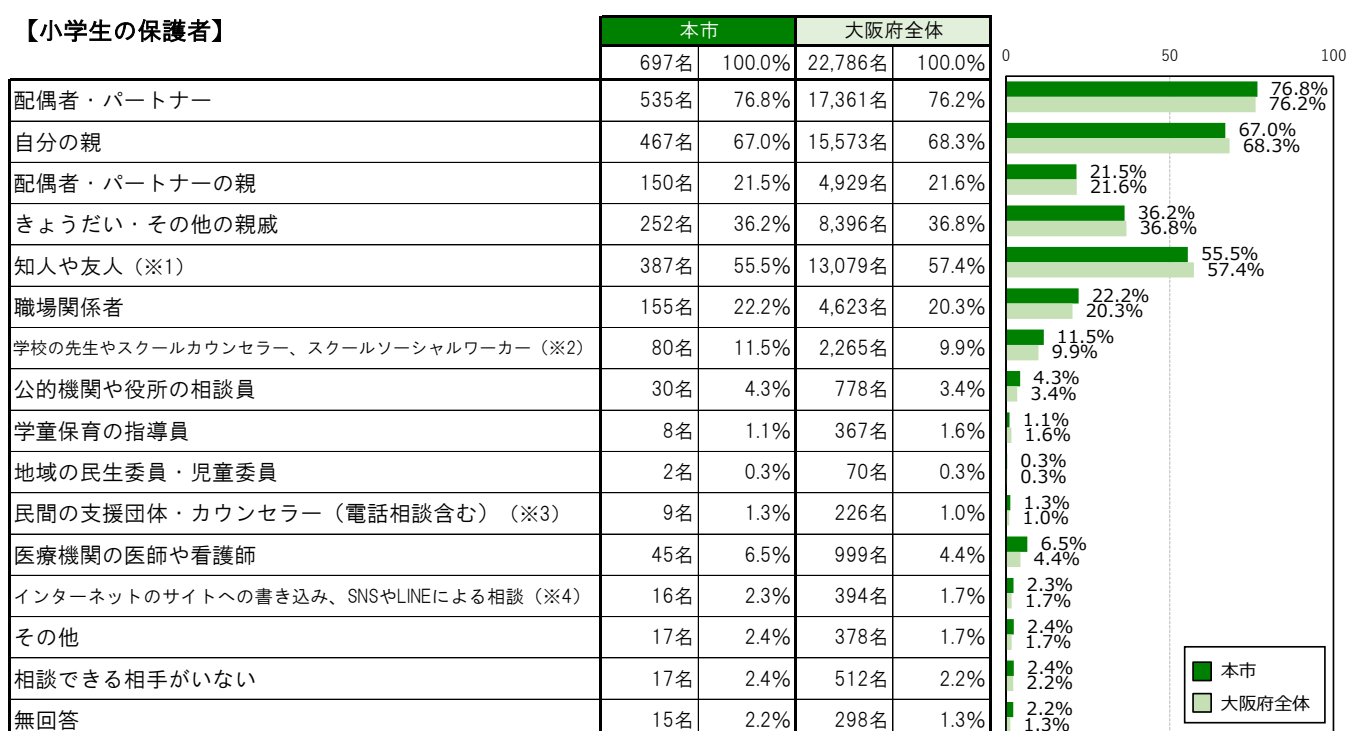
小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が76.8%で最も多く、次いで「自分の親」が67.0%、「知人や友人」が55.5%、「きょうだい・その他の親戚」が36.2%となっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が76.2%で最も多く、次いで「自分の親」が65.0%、「知人や友人」が49.7%、「きょうだい・その他の親戚」が35.6%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



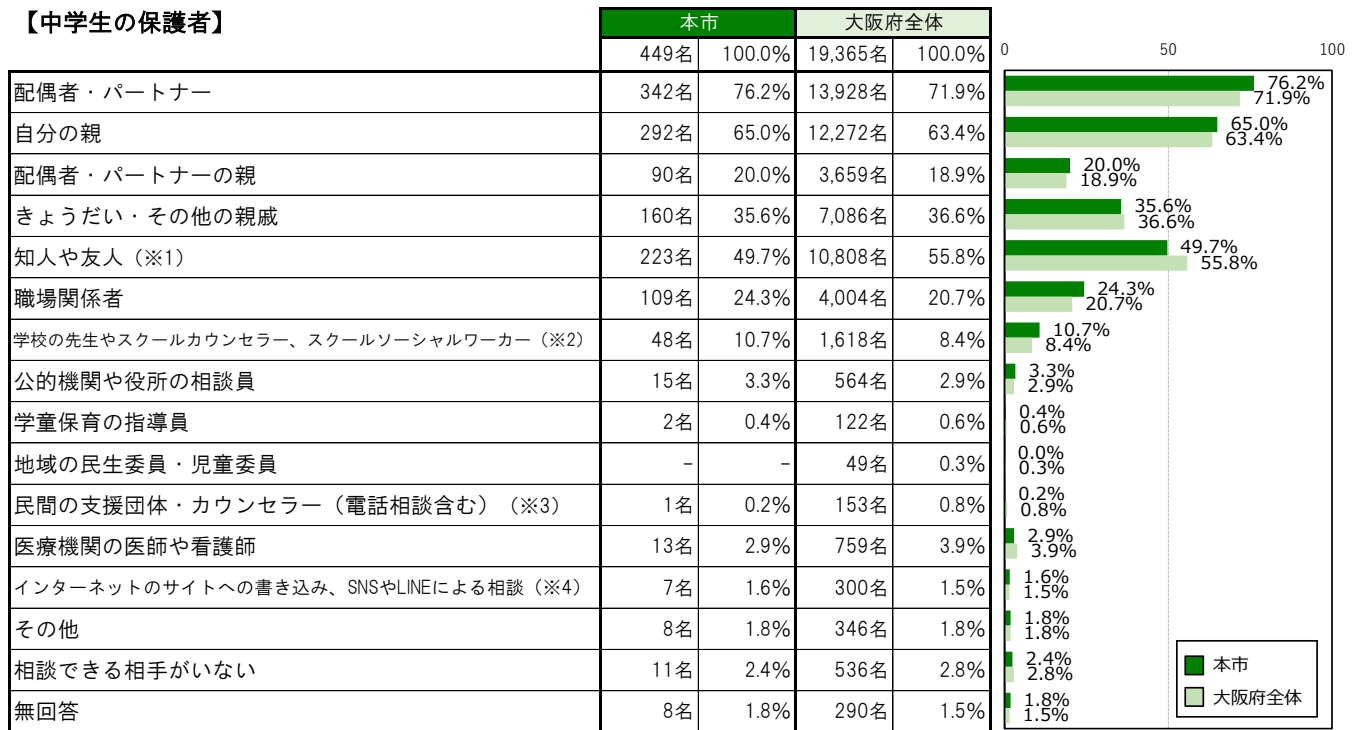
※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

【中学生の保護者】



※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

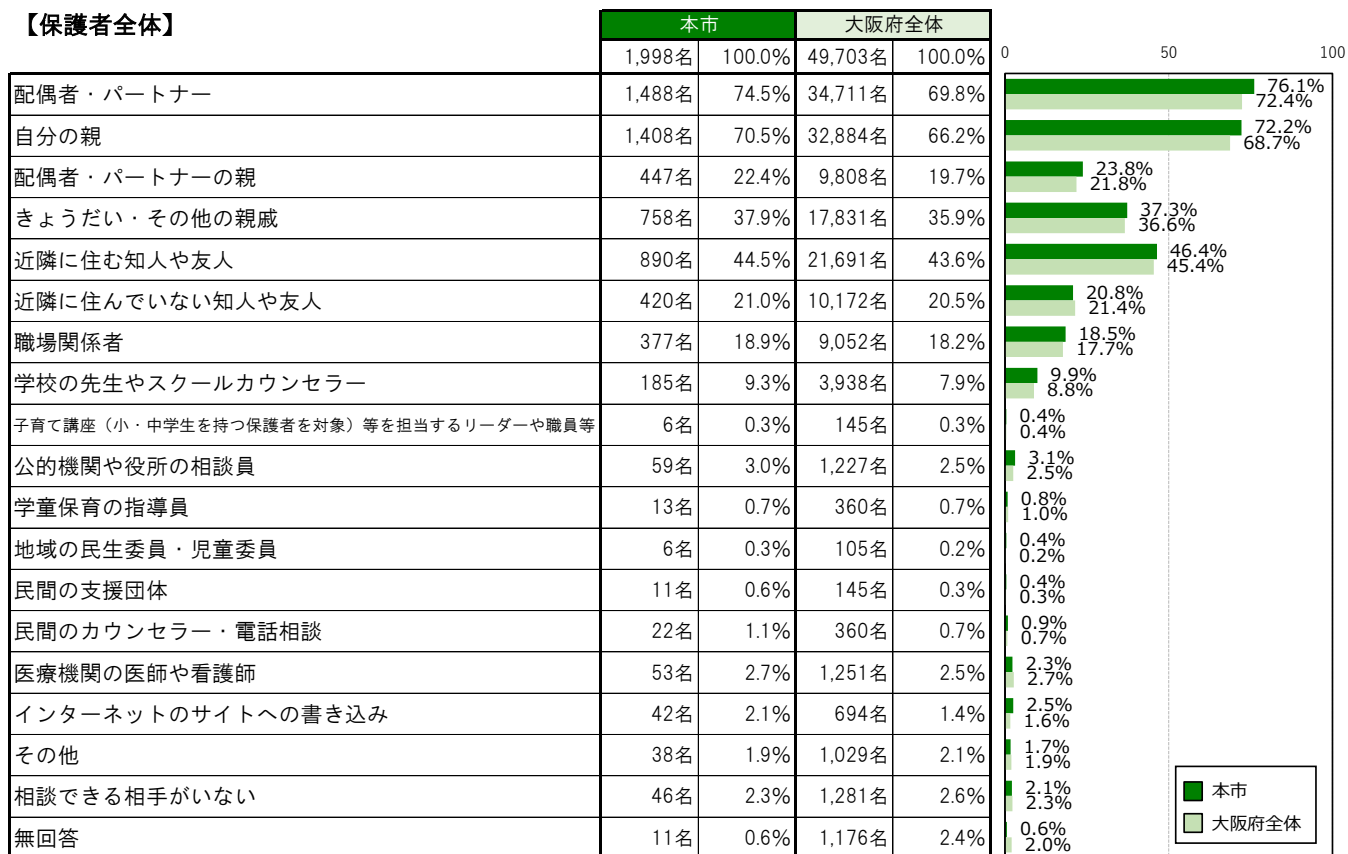
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「知人や友人」（2016年度は「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」の合計）が12.8ポイント低くなっている。

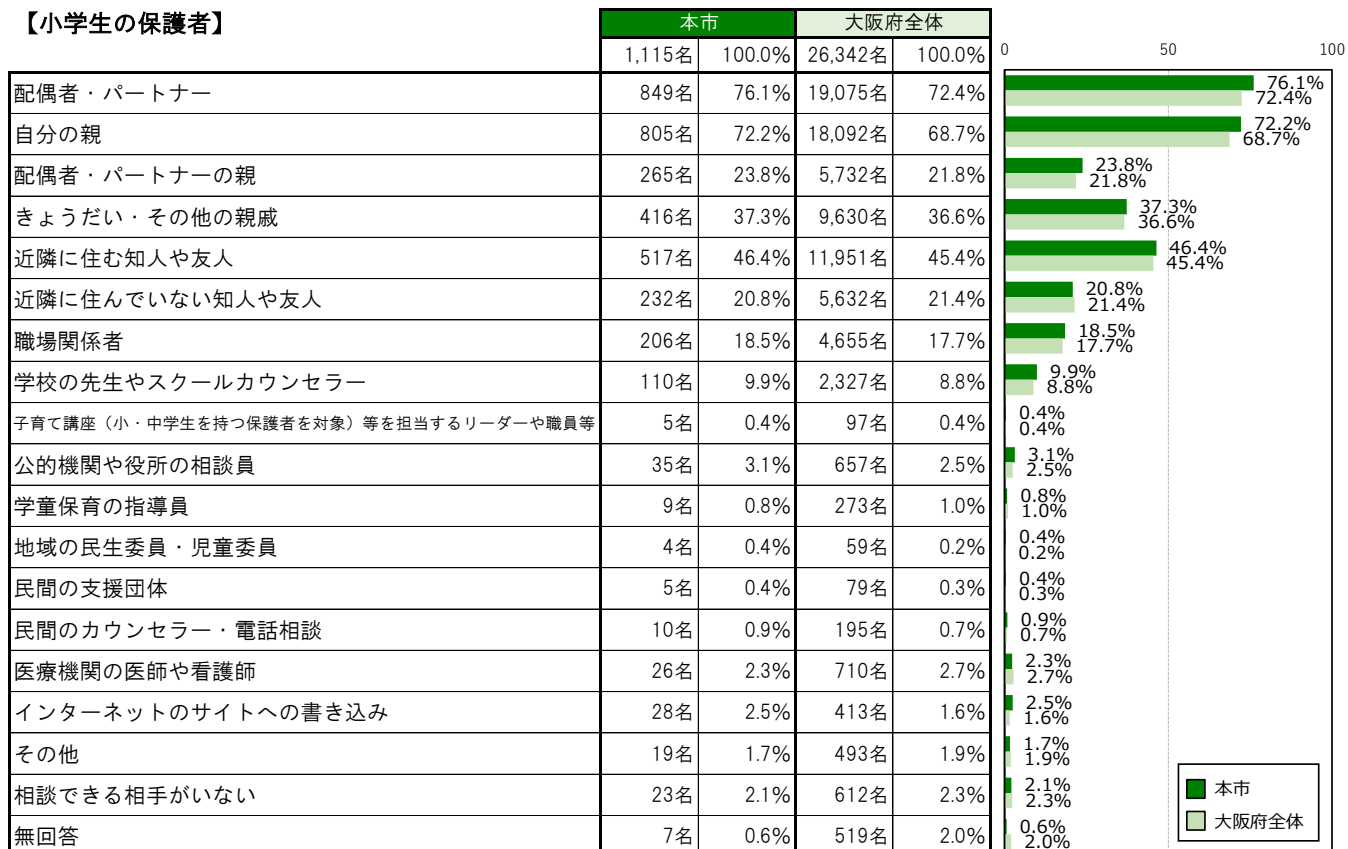
小学生の保護者は、「知人や友人」が11.7ポイント低いが、「医療機関の医師や看護師」が4.2ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「知人や友人」が13.8ポイント低いが、「職場関係者」は4.9ポイント高くなっている。

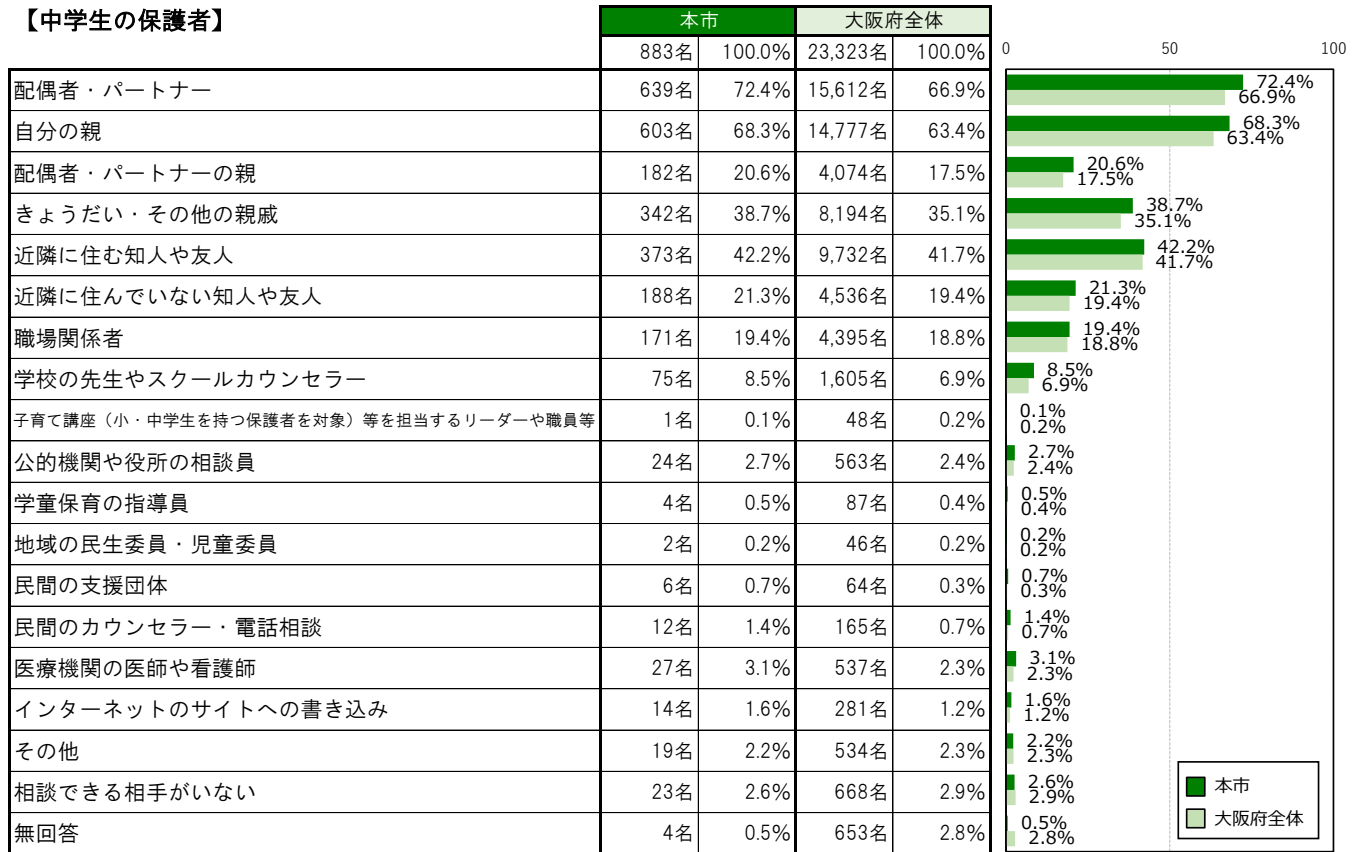
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

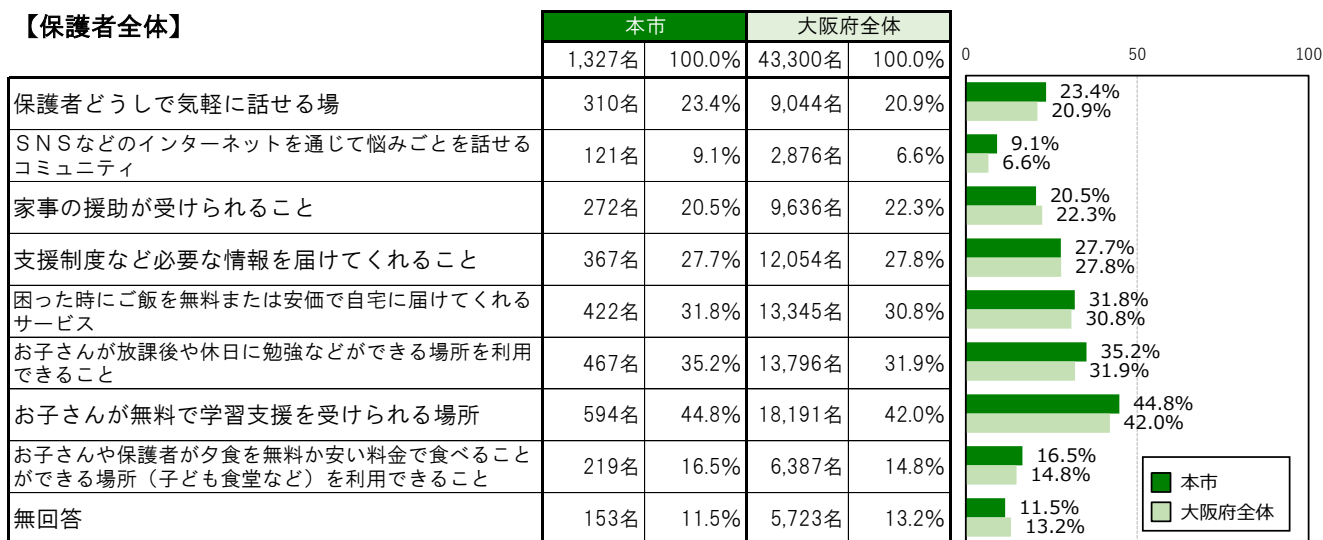
問20 身近にあるといいと思うこと

保護者全体は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が44.8%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が35.2%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が31.8%となっている。

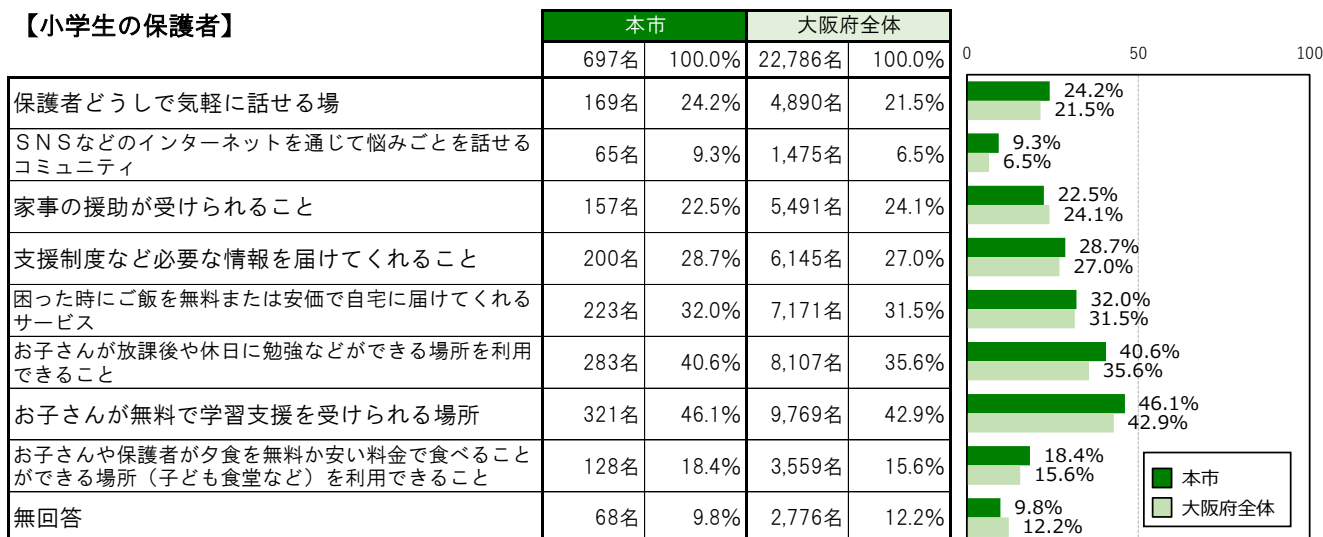
小学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が46.1%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が40.6%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が32.0%となっている。

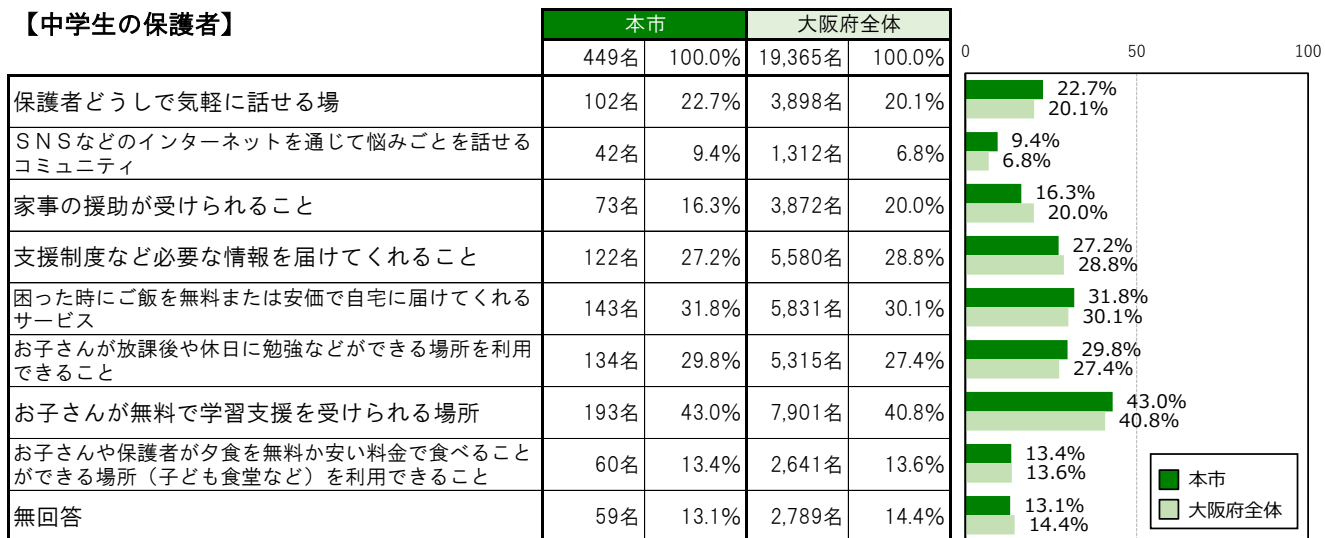
中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が43.0%で最も多く、次いで「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が31.8%、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が29.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





保護者のことについて

問21（１）生活を楽しんでいるか

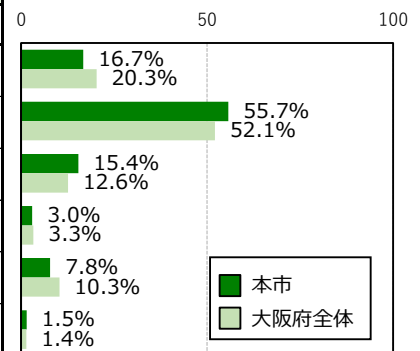
保護者全体は、「楽しんでいる」が55.7%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が16.7%、「あまり楽しんでいない」が15.4%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が54.9%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が17.9%、「あまり楽しんでいない」が13.6%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が55.5%で最も多く、次いで「あまり楽しんでいない」が17.1%、「とても楽しんでいる」が14.7%となっている。

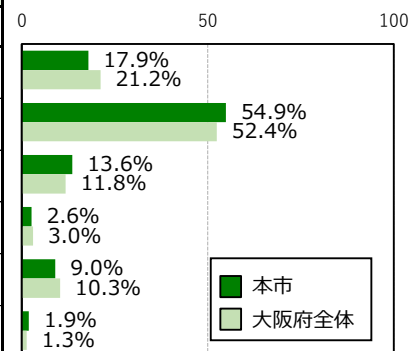
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
とても楽しんでいる	221名	16.7%	8,791名	20.3%
楽しんでいる	739名	55.7%	22,555名	52.1%
あまり楽しんでいない	204名	15.4%	5,466名	12.6%
楽しんでいない	40名	3.0%	1,411名	3.3%
わからない	103名	7.8%	4,473名	10.3%
無回答	20名	1.5%	604名	1.4%



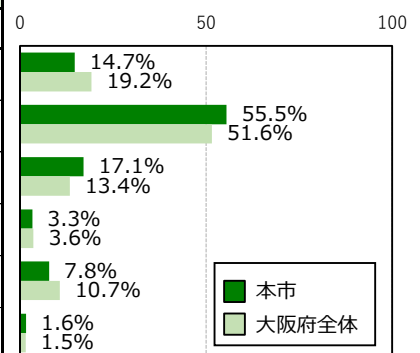
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
とても楽しんでいる	125名	17.9%	4,835名	21.2%
楽しんでいる	383名	54.9%	11,934名	52.4%
あまり楽しんでいない	95名	13.6%	2,699名	11.8%
楽しんでいない	18名	2.6%	680名	3.0%
わからない	63名	9.0%	2,340名	10.3%
無回答	13名	1.9%	298名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
とても楽しんでいる	66名	14.7%	3,719名	19.2%
楽しんでいる	249名	55.5%	9,994名	51.6%
あまり楽しんでいない	77名	17.1%	2,592名	13.4%
楽しんでいない	15名	3.3%	690名	3.6%
わからない	35名	7.8%	2,070名	10.7%
無回答	7名	1.6%	300名	1.5%



保護者のことについて

問21（2）将来に対して希望を持っているか

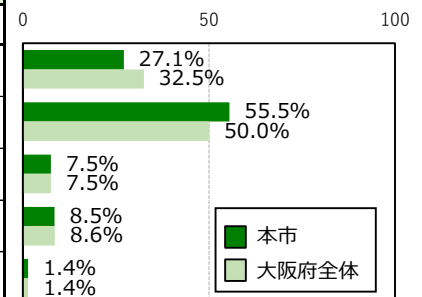
保護者全体は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が55.5%で最も多く、次いで「希望が持てる」が27.1%、「希望が持てない」が7.5%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が55.8%で最も多く、次いで「希望が持てる」が27.4%、「希望が持てない」が8.0%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が55.9%で最も多く、次いで「希望が持てる」が24.5%、「希望が持てない」が6.2%となっている。

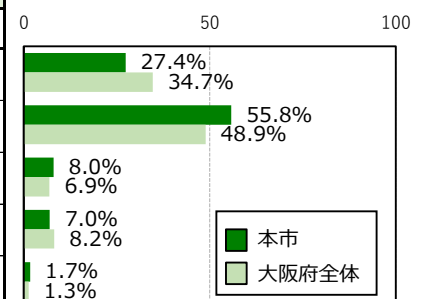
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
希望が持てる	360名	27.1%	14,080名	32.5%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	736名	55.5%	21,662名	50.0%
希望が持てない	99名	7.5%	3,239名	7.5%
わからない	113名	8.5%	3,718名	8.6%
無回答	19名	1.4%	601名	1.4%



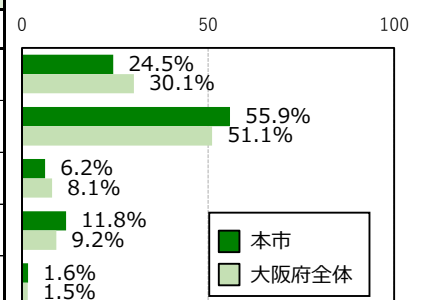
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
希望が持てる	191名	27.4%	7,896名	34.7%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	389名	55.8%	11,142名	48.9%
希望が持てない	56名	8.0%	1,575名	6.9%
わからない	49名	7.0%	1,874名	8.2%
無回答	12名	1.7%	299名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
希望が持てる	110名	24.5%	5,831名	30.1%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	251名	55.9%	9,890名	51.1%
希望が持てない	28名	6.2%	1,574名	8.1%
わからない	53名	11.8%	1,774名	9.2%
無回答	7名	1.6%	296名	1.5%



保護者のことについて

問21（3）ストレスを発散できるものがあるか

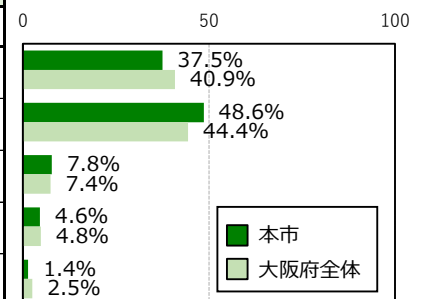
保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が48.6%で最も多く、次いで「ある」が37.5%、「ない」が7.8%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が45.6%で最も多く、次いで「ある」が38.9%、「ない」が9.3%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が51.0%で最も多く、次いで「ある」が36.5%、「ない」が6.2%となっている。

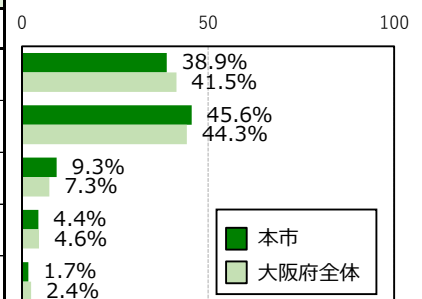
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
ある	498名	37.5%	17,707名	40.9%
あるときもあれば、ないときもある	645名	48.6%	19,240名	44.4%
ない	104名	7.8%	3,221名	7.4%
わからない	61名	4.6%	2,061名	4.8%
無回答	19名	1.4%	1,071名	2.5%



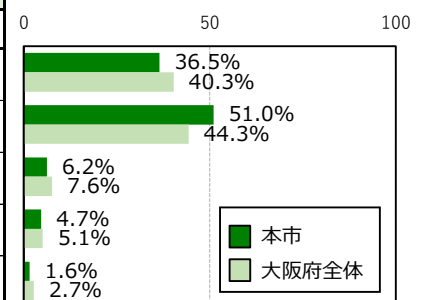
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
ある	271名	38.9%	9,455名	41.5%
あるときもあれば、ないときもある	318名	45.6%	10,090名	44.3%
ない	65名	9.3%	1,668名	7.3%
わからない	31名	4.4%	1,037名	4.6%
無回答	12名	1.7%	536名	2.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
ある	164名	36.5%	7,803名	40.3%
あるときもあれば、ないときもある	229名	51.0%	8,576名	44.3%
ない	28名	6.2%	1,467名	7.6%
わからない	21名	4.7%	990名	5.1%
無回答	7名	1.6%	529名	2.7%



保護者のことについて

問21（４）自分が幸せだと思うか

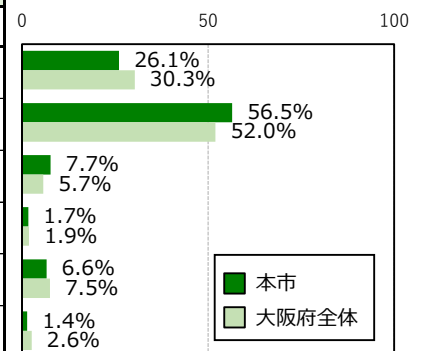
保護者全体は、「幸せだと思う」が56.5%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が26.1%、「あまり幸せだと思わない」が7.7%となっている。

小学生の保護者は、「幸せだと思う」が54.4%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が27.0%、「あまり幸せだと思わない」が8.0%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が58.1%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が24.3%、「あまり幸せだと思わない」が8.0%となっている。

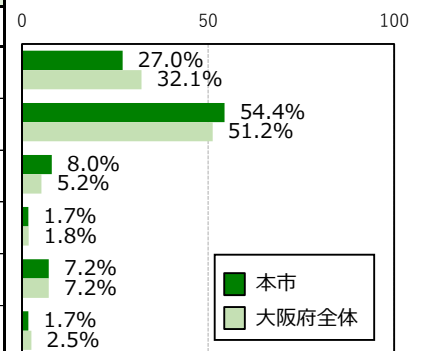
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
とても幸せだと思う	346名	26.1%	13,119名	30.3%
幸せだと思う	750名	56.5%	22,517名	52.0%
あまり幸せだと思わない	102名	7.7%	2,464名	5.7%
幸せだと思わない	23名	1.7%	819名	1.9%
わからない	87名	6.6%	3,246名	7.5%
無回答	19名	1.4%	1,135名	2.6%



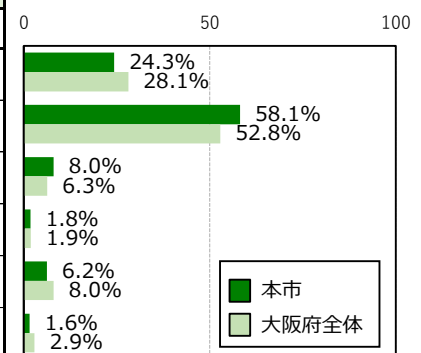
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
とても幸せだと思う	188名	27.0%	7,323名	32.1%
幸せだと思う	379名	54.4%	11,664名	51.2%
あまり幸せだと思わない	56名	8.0%	1,176名	5.2%
幸せだと思わない	12名	1.7%	413名	1.8%
わからない	50名	7.2%	1,640名	7.2%
無回答	12名	1.7%	570名	2.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
とても幸せだと思う	109名	24.3%	5,439名	28.1%
幸せだと思う	261名	58.1%	10,225名	52.8%
あまり幸せだと思わない	36名	8.0%	1,211名	6.3%
幸せだと思わない	8名	1.8%	376名	1.9%
わからない	28名	6.2%	1,555名	8.0%
無回答	7名	1.6%	559名	2.9%



保護者のことについて

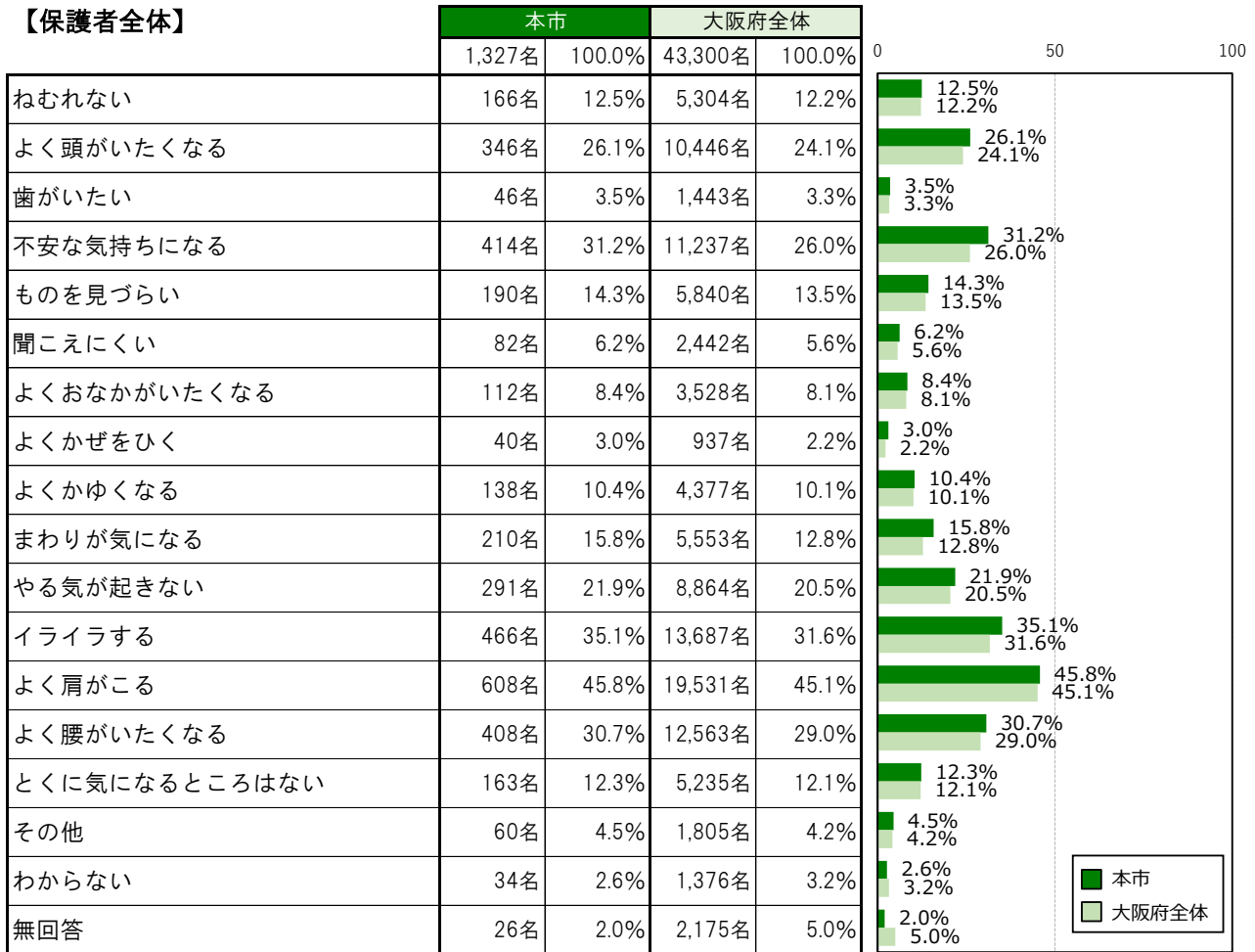
問22 自分の体や気持ちで気になること

保護者全体は、「よく肩がこる」が45.8%で最も多く、次いで「イライラする」が35.1%、「不安な気持ちになる」が31.2%、「よく腰がいたくなる」が30.7%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が46.6%で最も多く、次いで「イライラする」が35.9%、「不安な気持ちになる」が31.4%、「よく腰がいたくなる」が30.6%となっている。

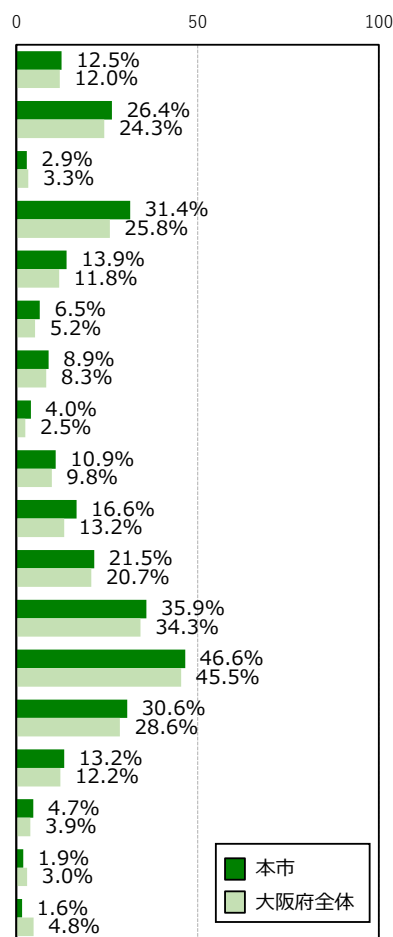
中学生の保護者は、「よく肩がこる」が43.9%で最も多く、次いで「イライラする」が33.4%、「よく腰がいたくなる」が32.7%、「不安な気持ちになる」が29.2%となっている。

【保護者全体】



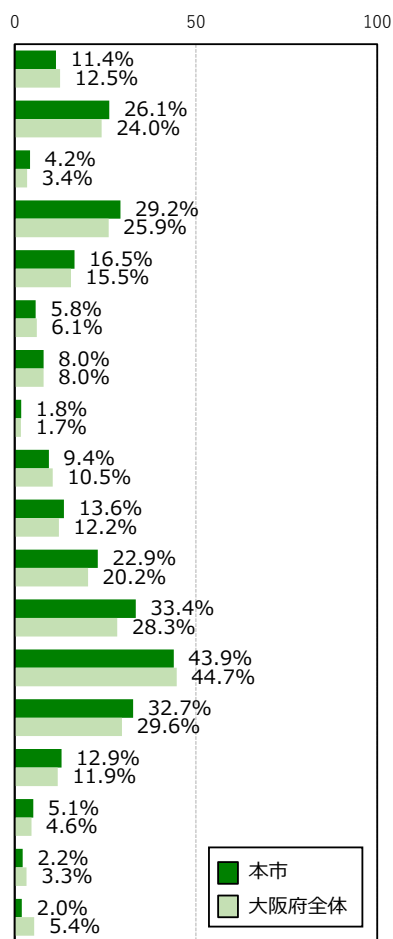
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
ねむれない	87名	12.5%	2,729名	12.0%
よく頭がいたくなる	184名	26.4%	5,527名	24.3%
歯がいたい	20名	2.9%	743名	3.3%
不安な気持ちになる	219名	31.4%	5,889名	25.8%
ものを見づらい	97名	13.9%	2,690名	11.8%
聞こえにくい	45名	6.5%	1,177名	5.2%
よくおなかがいたくなる	62名	8.9%	1,881名	8.3%
よくかぜをひく	28名	4.0%	579名	2.5%
よくかゆくなる	76名	10.9%	2,233名	9.8%
まわりが気になる	116名	16.6%	3,007名	13.2%
やる気が起きない	150名	21.5%	4,720名	20.7%
イライラする	250名	35.9%	7,824名	34.3%
よく肩がこる	325名	46.6%	10,371名	45.5%
よく腰がいたくなる	213名	30.6%	6,526名	28.6%
とくに気になるところはない	92名	13.2%	2,788名	12.2%
その他	33名	4.7%	886名	3.9%
わからない	13名	1.9%	684名	3.0%
無回答	11名	1.6%	1,097名	4.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
ねむれない	51名	11.4%	2,419名	12.5%
よく頭がいたくなる	117名	26.1%	4,640名	24.0%
歯がいたい	19名	4.2%	654名	3.4%
不安な気持ちになる	131名	29.2%	5,022名	25.9%
ものを見づらい	74名	16.5%	3,003名	15.5%
聞こえにくい	26名	5.8%	1,190名	6.1%
よくおなかがいたくなる	36名	8.0%	1,542名	8.0%
よくかぜをひく	8名	1.8%	331名	1.7%
よくかゆくなる	42名	9.4%	2,028名	10.5%
まわりが気になる	61名	13.6%	2,367名	12.2%
やる気が起きない	103名	22.9%	3,909名	20.2%
イライラする	150名	33.4%	5,480名	28.3%
よく肩がこる	197名	43.9%	8,655名	44.7%
よく腰がいたくなる	147名	32.7%	5,734名	29.6%
とくに気になるところはない	58名	12.9%	2,295名	11.9%
その他	23名	5.1%	889名	4.6%
わからない	10名	2.2%	646名	3.3%
無回答	9名	2.0%	1,038名	5.4%



保護者のことについて

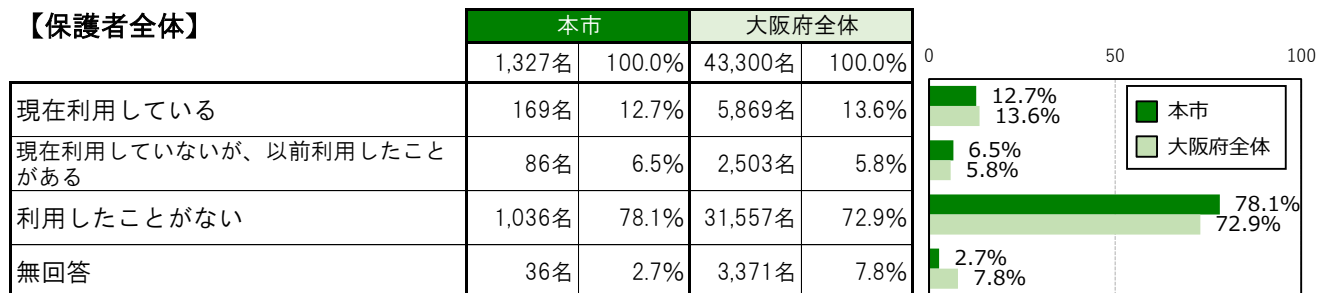
問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

保護者全体は、「利用したことがない」が78.1%で最も多く、次いで「現在利用している」が12.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が6.5%となっている。

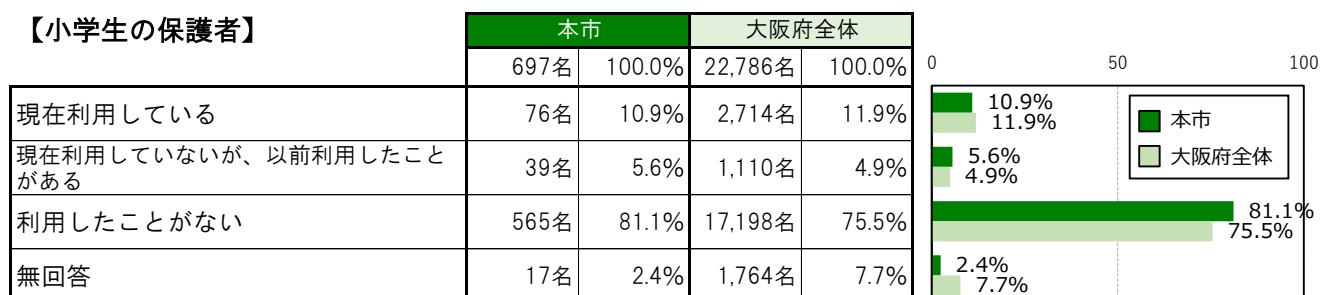
小学生の保護者は、「利用したことがない」が81.1%で最も多く、次いで「現在利用している」が10.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.6%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が74.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が14.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が6.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



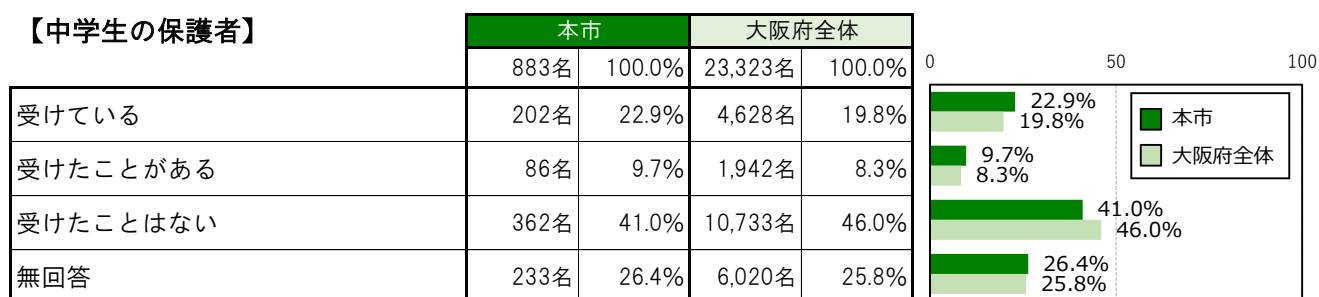
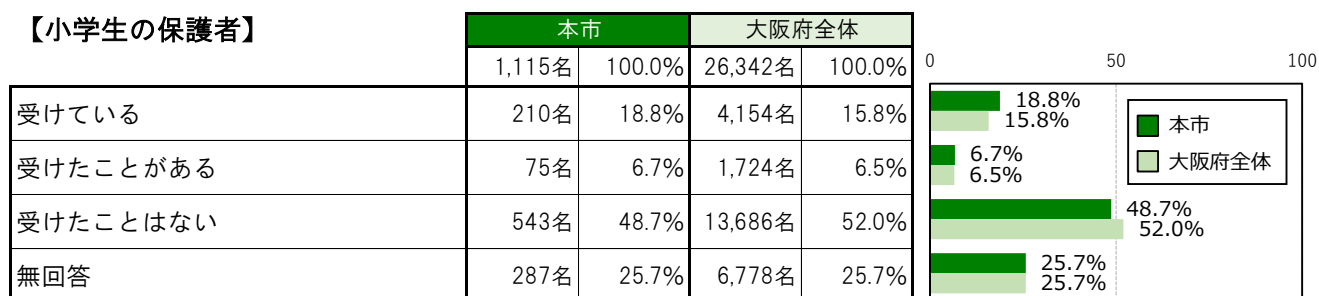
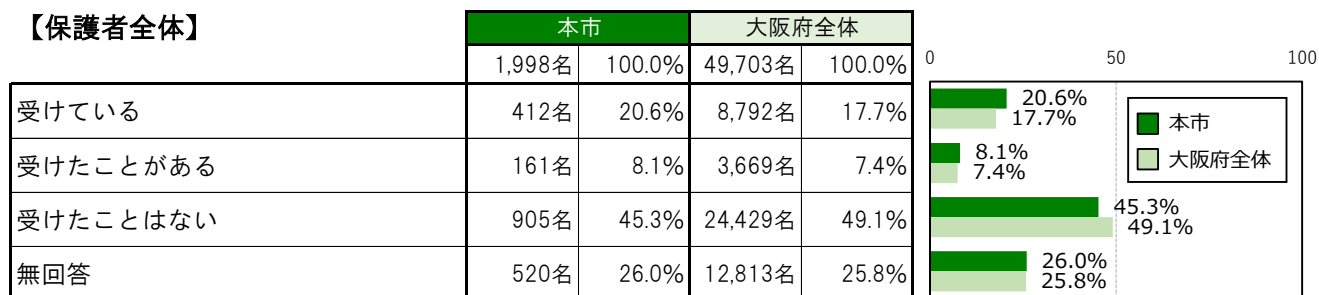
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはなし」）が32.8ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が32.4ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が33.6ポイント高くなっている。



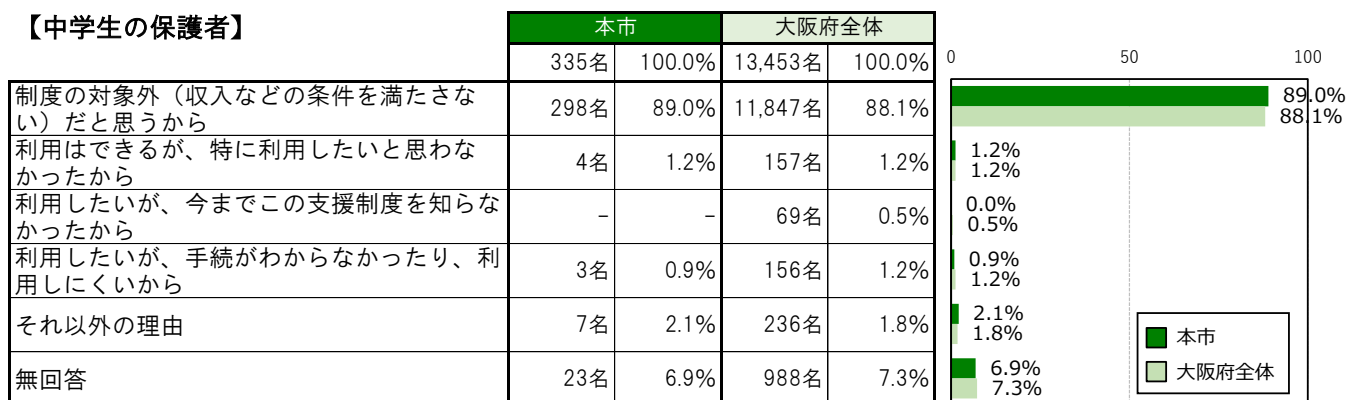
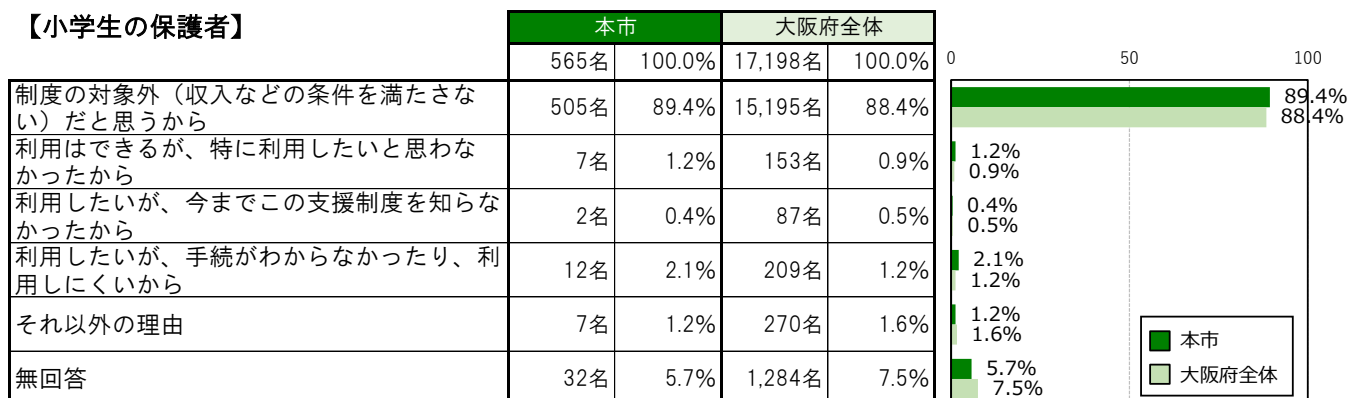
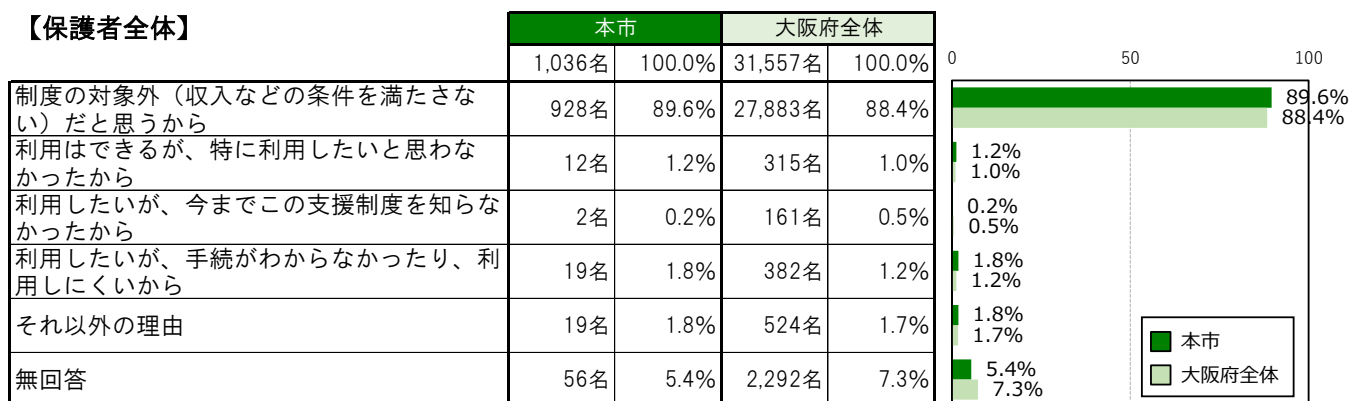
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.6%で最も多く、次いで「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」がそれぞれ1.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.4%で最も多く、次いで「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が2.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「それ以外の理由」がそれぞれ1.2%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.2%となっている。



保護者のことについて

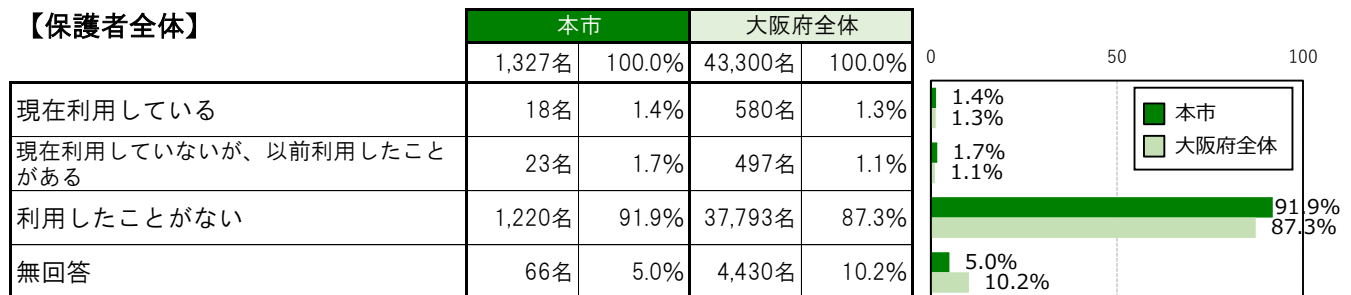
問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

保護者全体は、「利用したことがない」が91.9%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.7%、「現在利用している」が1.4%となっている。

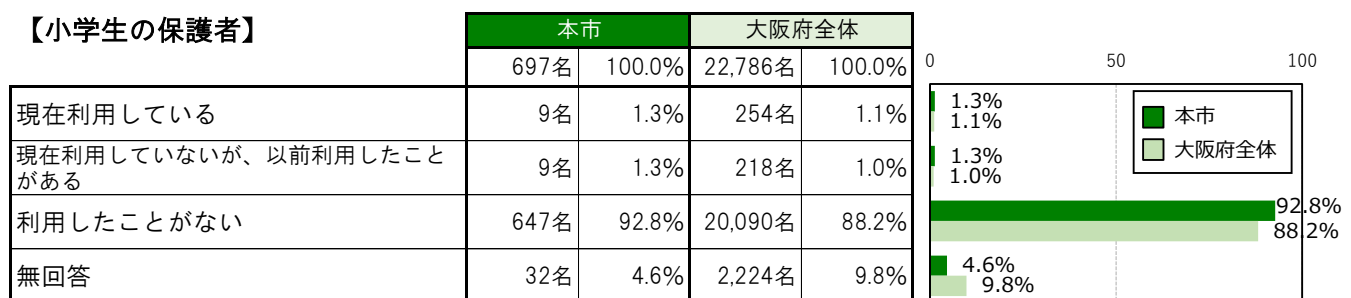
小学生の保護者は、「利用したことがない」が92.8%で最も多く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」がそれぞれ1.3%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が89.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.4%、「現在利用している」が1.6%となっている。

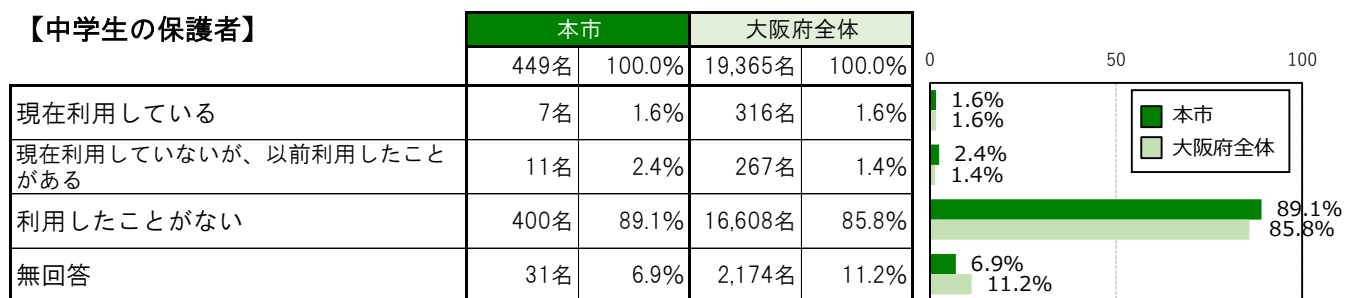
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

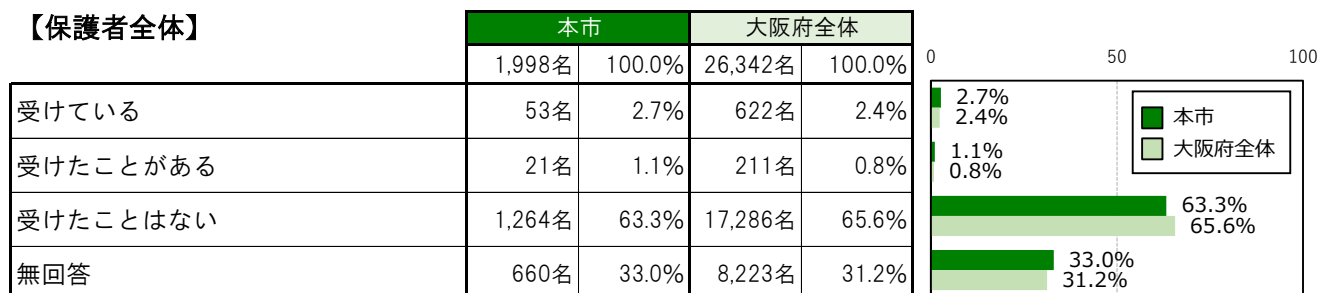
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が28.6ポイント高くなっている。

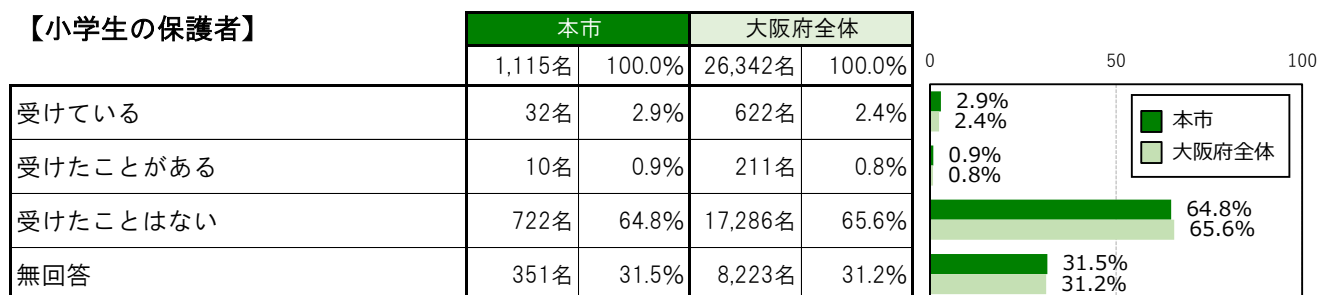
小学生の保護者は、「利用したことがない」が28.0ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が27.7ポイント高くなっている。

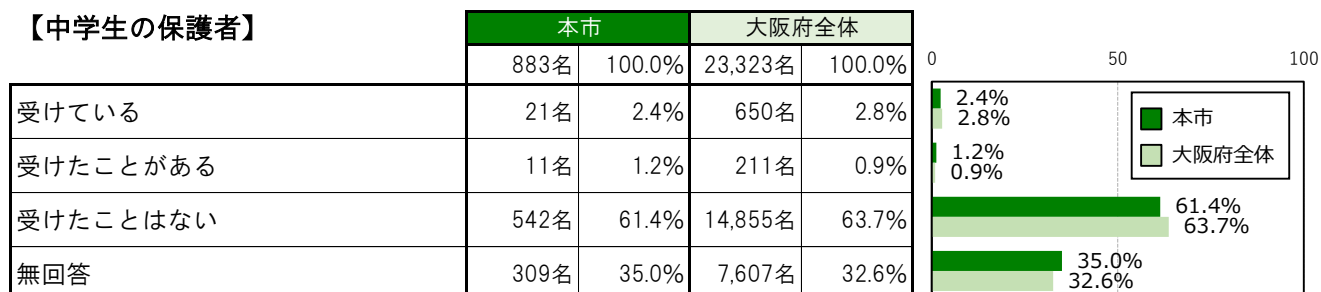
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

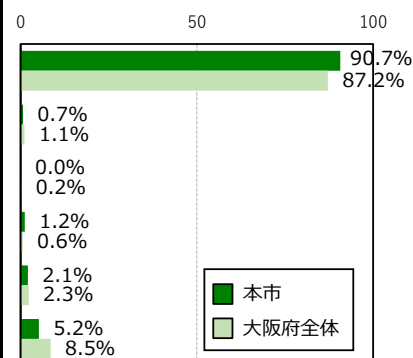
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.1%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.5%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.0%となっている。

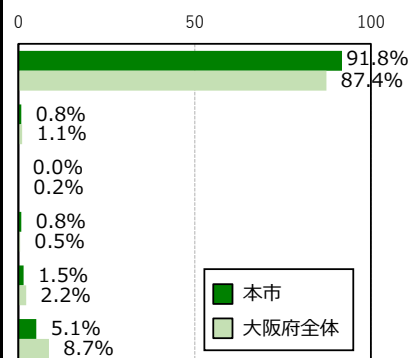
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,220名	100.0%	37,793名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,106名	90.7%	32,964名	87.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	9名	0.7%	434名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	73名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	15名	1.2%	230名	0.6%
それ以外の理由	26名	2.1%	867名	2.3%
無回答	64名	5.2%	3,225名	8.5%



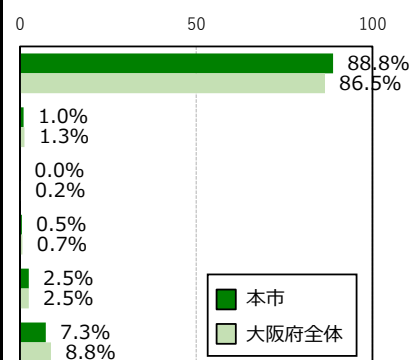
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	647名	100.0%	20,090名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	594名	91.8%	17,567名	87.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	5名	0.8%	211名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	31名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	0.8%	104名	0.5%
それ以外の理由	10名	1.5%	433名	2.2%
無回答	33名	5.1%	1,744名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	400名	100.0%	16,608名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	355名	88.8%	14,367名	86.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4名	1.0%	219名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	40名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.5%	117名	0.7%
それ以外の理由	10名	2.5%	411名	2.5%
無回答	29名	7.3%	1,454名	8.8%



保護者のことについて

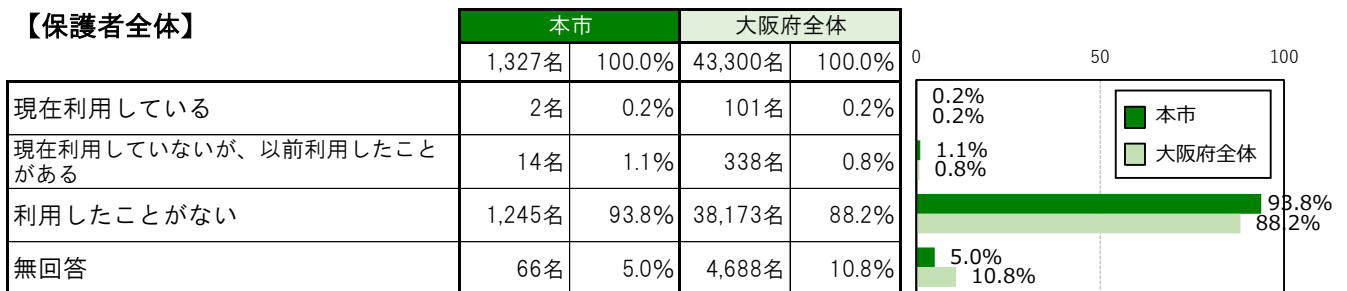
問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

保護者全体は、「利用したことがない」が93.8%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.1%となっている。

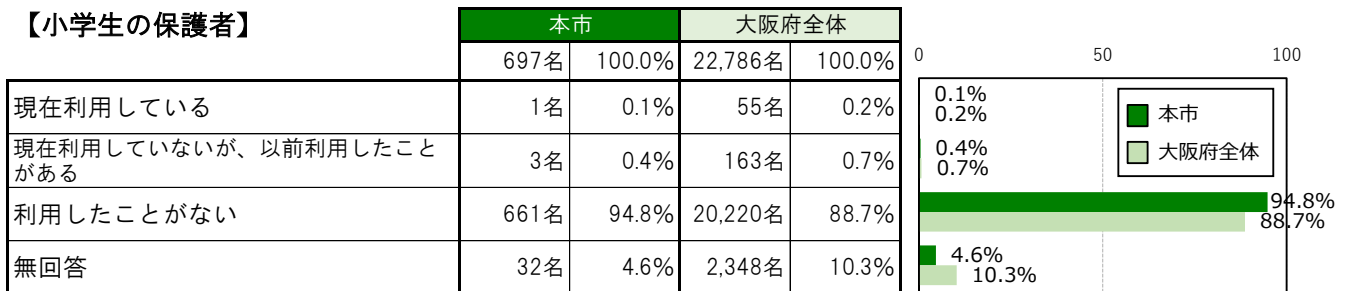
小学生の保護者は、「利用したことがない」が94.8%で最も多くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が90.9%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.8%となっている。

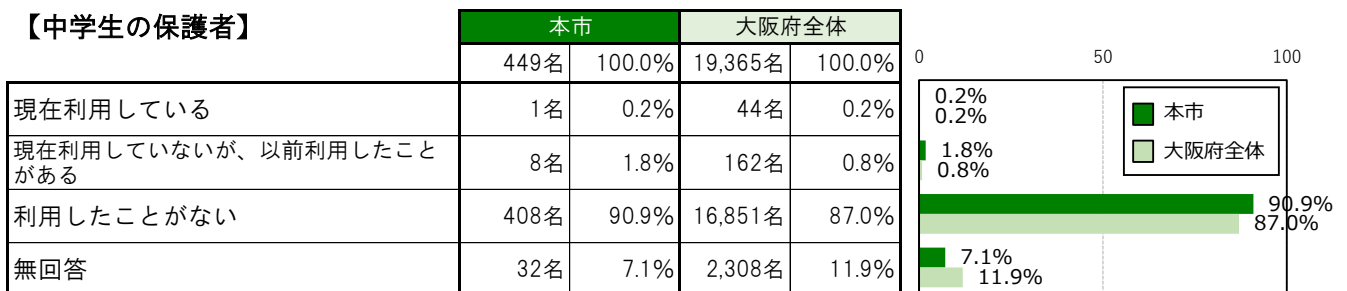
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

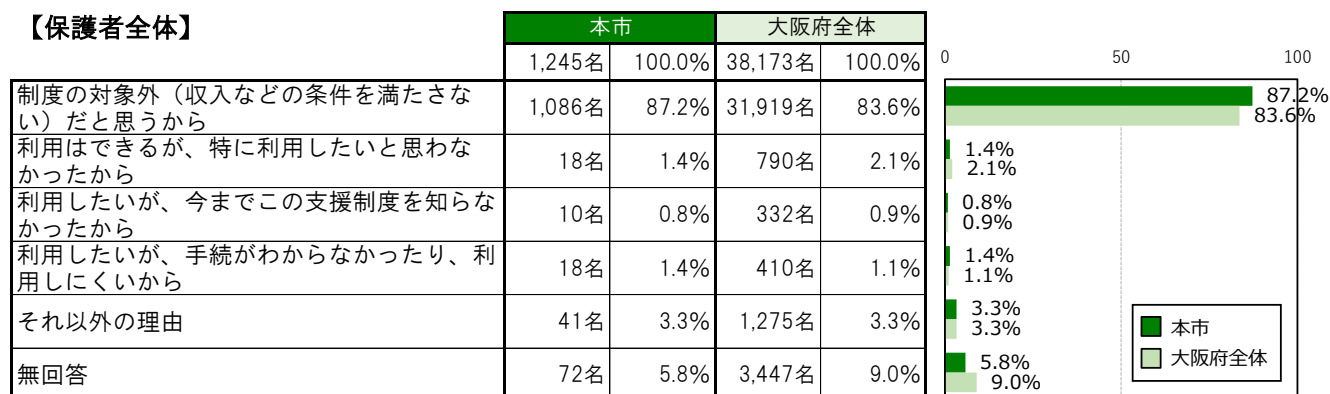
問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.3%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ1.4%となっている。

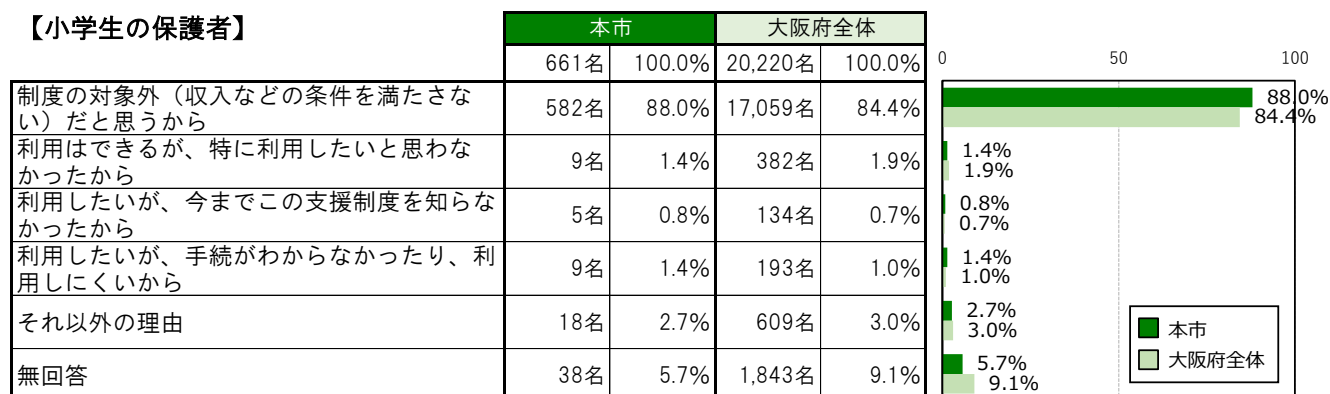
小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.7%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ1.4%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.7%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.2%となっている。

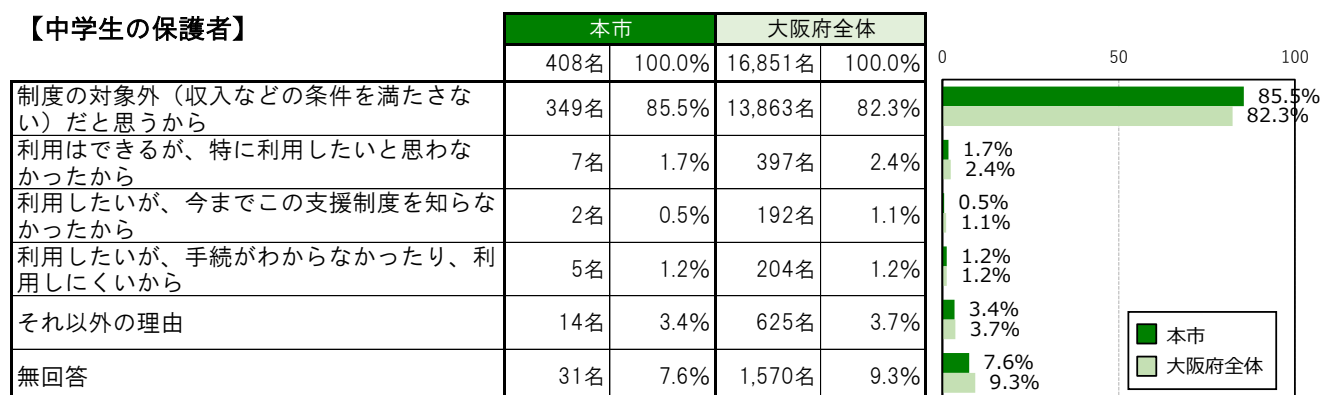
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



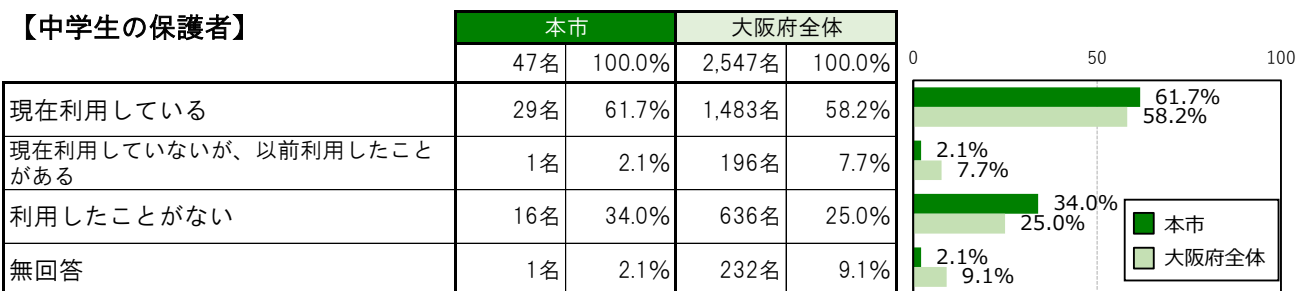
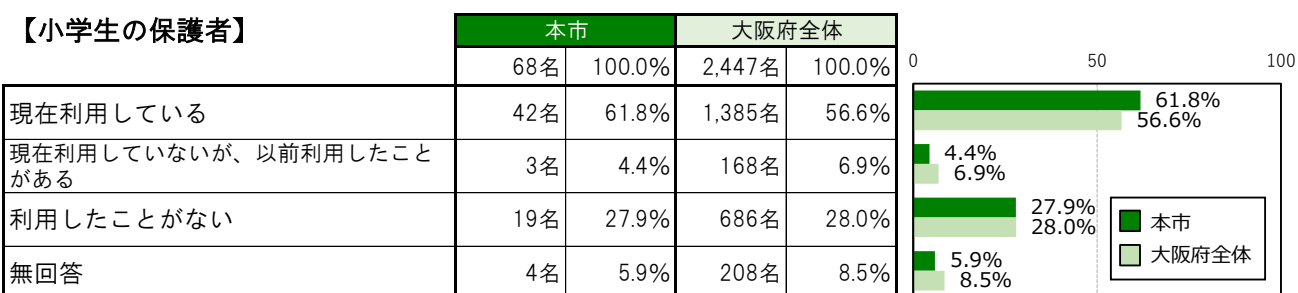
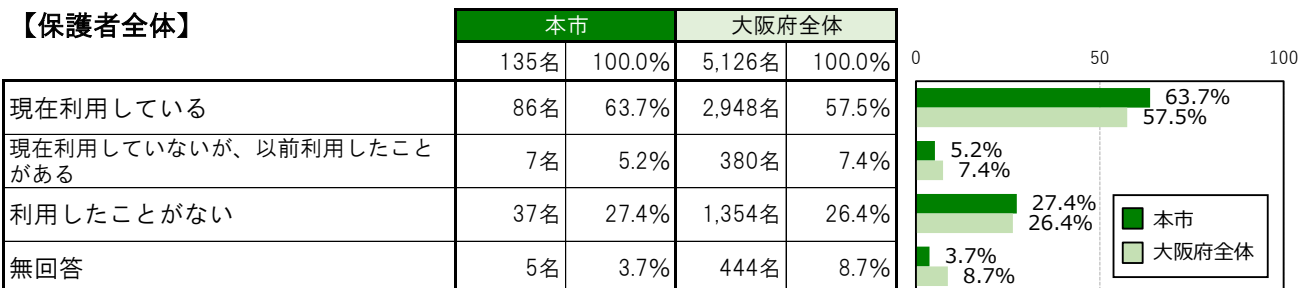
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

保護者全体は、「現在利用している」が63.7%で最も多く、次いで「利用したことがない」が27.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.2%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が61.8%で最も多く、次いで「利用したことがない」が27.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.4%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が61.7%で最も多く、次いで「利用したことがない」が34.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.1%となっている。



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

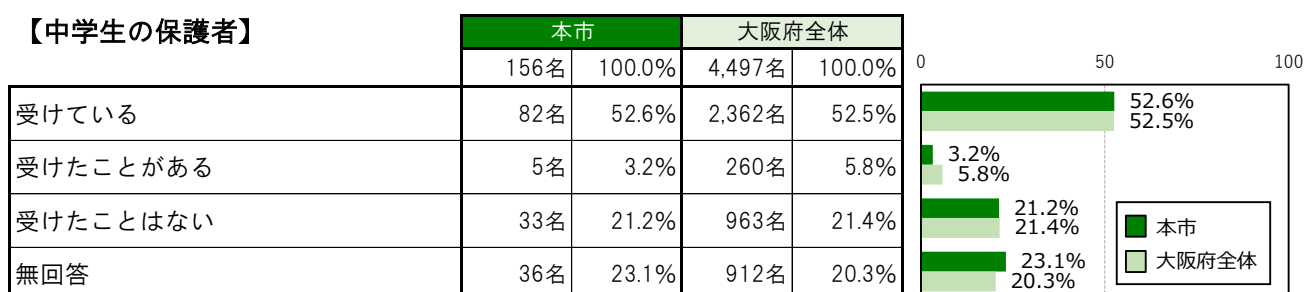
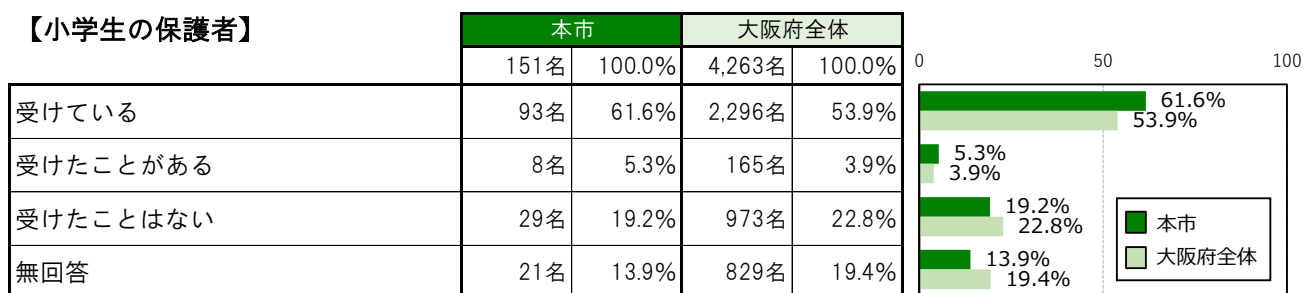
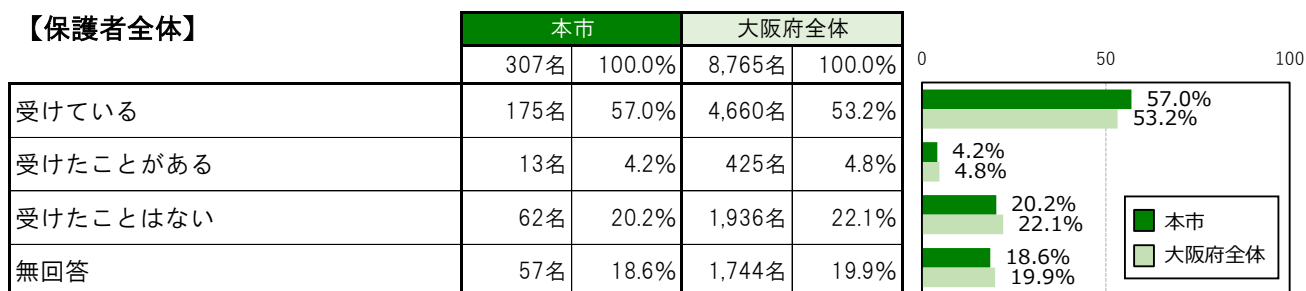
※ ひとり親世帯のみで集計。

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が7.2ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が8.7ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が12.8ポイント高くなっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

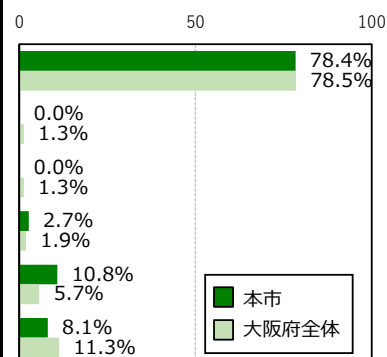
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が78.4%（29名）で最も多く、次いで「それ以外の理由」が10.8%（4名）となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.2%（16名）で最も多く、次いで「それ以外の理由」が10.5%（2名）となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が75.0%（12名）で最も多く、次いで「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」がそれぞれ6.3%（1名）となっている。

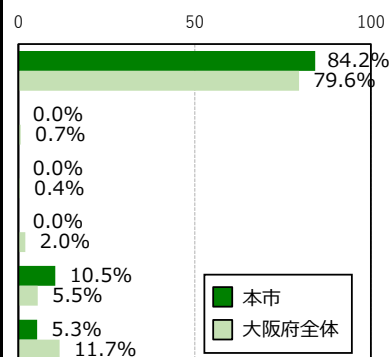
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	37名	100.0%	1,354名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	29名	78.4%	1,063名	78.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	17名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	18名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	2.7%	26名	1.9%
それ以外の理由	4名	10.8%	77名	5.7%
無回答	3名	8.1%	153名	11.3%



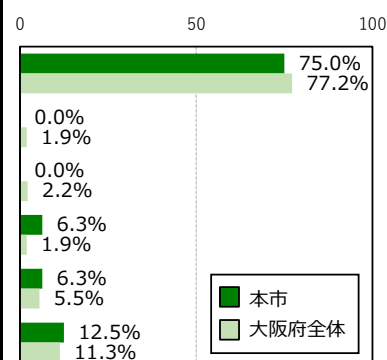
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	19名	100.0%	686名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	16名	84.2%	546名	79.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	5名	0.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	3名	0.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	-	-	14名	2.0%
それ以外の理由	2名	10.5%	38名	5.5%
無回答	1名	5.3%	80名	11.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	16名	100.0%	636名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	12名	75.0%	491名	77.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	12名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	14名	2.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	6.3%	12名	1.9%
それ以外の理由	1名	6.3%	35名	5.5%
無回答	2名	12.5%	72名	11.3%



※ ひとり親世帯のみで集計。

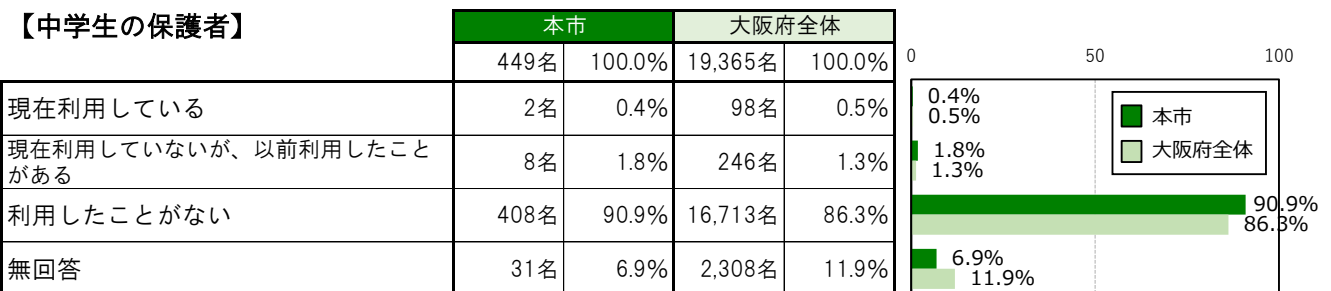
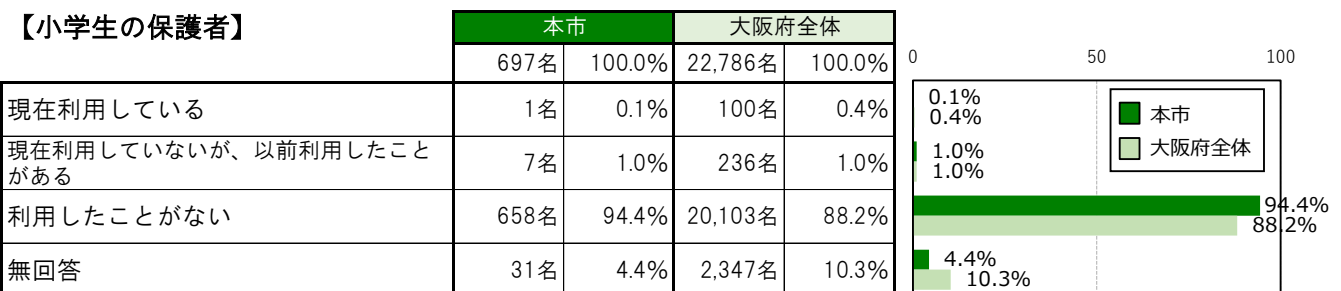
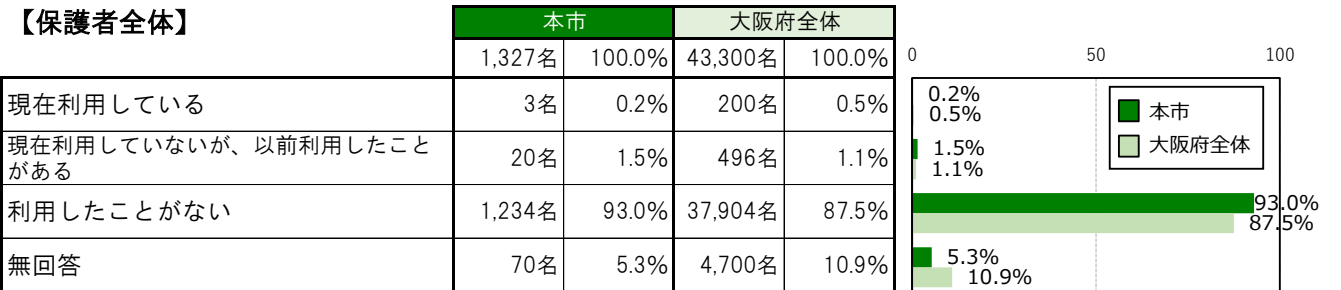
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が93.0%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.5%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が94.4%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が90.9%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.8%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

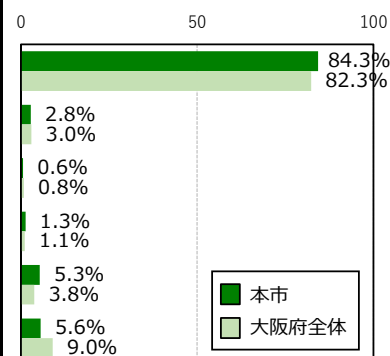
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.3%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.8%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.3%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.7%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が83.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.7%となっている。

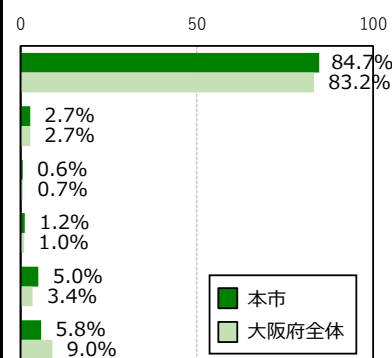
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,234名	100.0%	37,904名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,040名	84.3%	31,197名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	35名	2.8%	1,139名	3.0%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	8名	0.6%	316名	0.8%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	16名	1.3%	401名	1.1%
それ以外の理由	66名	5.3%	1,448名	3.8%
無回答	69名	5.6%	3,403名	9.0%



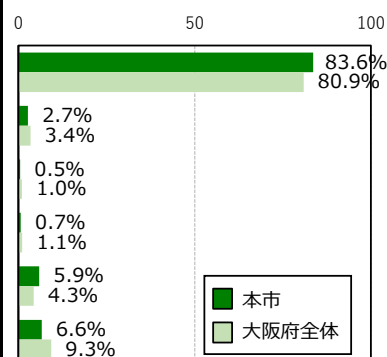
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	658名	100.0%	20,103名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	557名	84.7%	16,718名	83.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	18名	2.7%	540名	2.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	4名	0.6%	138名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	8名	1.2%	203名	1.0%
それ以外の理由	33名	5.0%	686名	3.4%
無回答	38名	5.8%	1,818名	9.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	408名	100.0%	16,713名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	341名	83.6%	13,516名	80.9%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	11名	2.7%	572名	3.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.5%	169名	1.0%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	0.7%	188名	1.1%
それ以外の理由	24名	5.9%	714名	4.3%
無回答	27名	6.6%	1,554名	9.3%



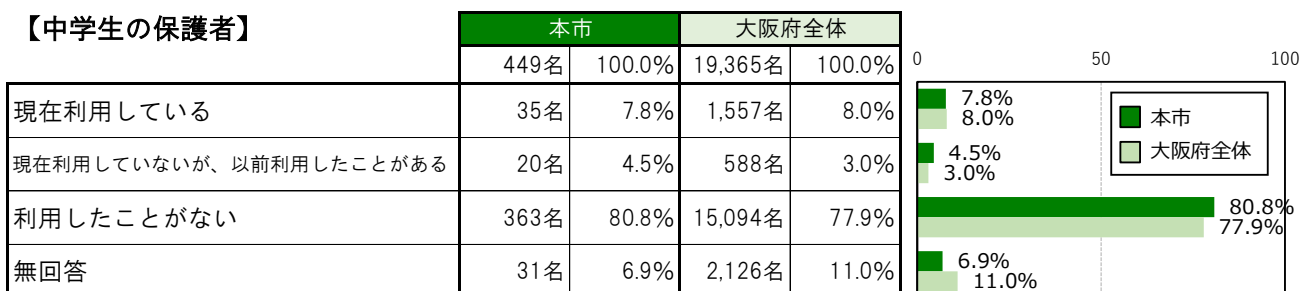
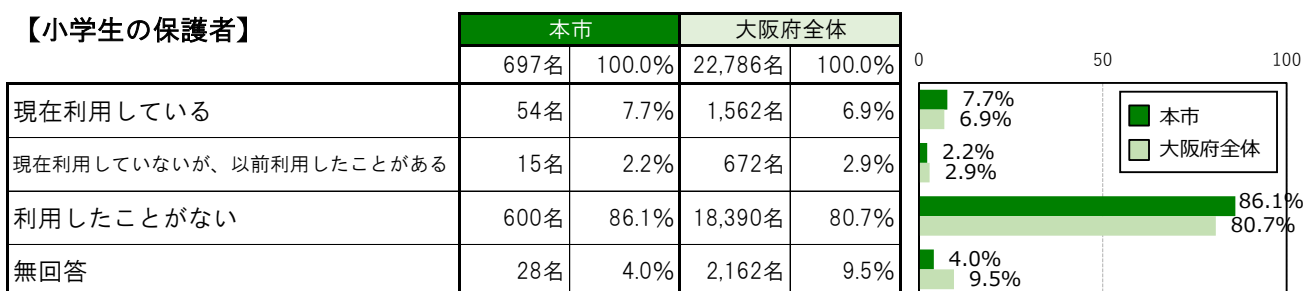
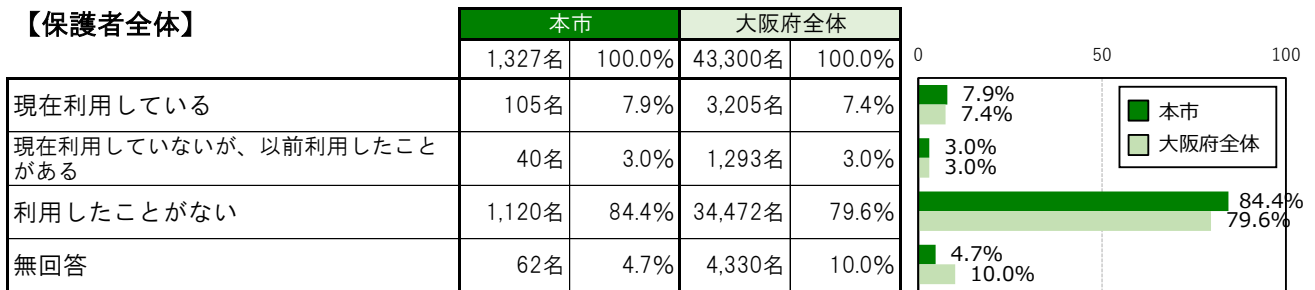
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

保護者全体は、「利用したことがない」が84.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.0%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が86.1%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.2%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が80.8%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.8%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.5%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金
＜利用したことがない理由＞

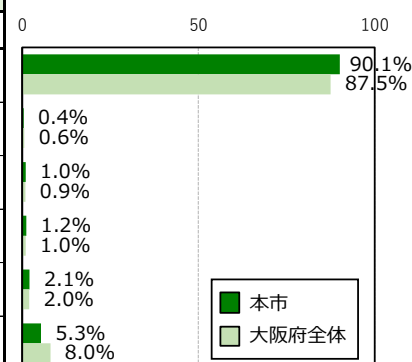
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.1%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.2%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.5%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.2%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.1%となっている。

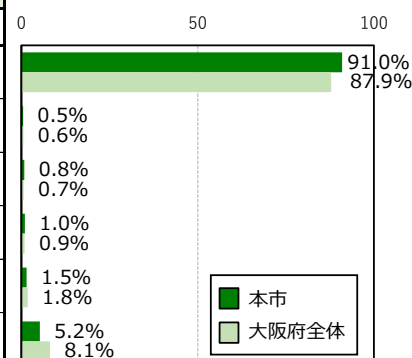
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,120名	100.0%	34,472名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,009名	90.1%	30,150名	87.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4名	0.4%	201名	0.6%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	11名	1.0%	322名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	13名	1.2%	336名	1.0%
それ以外の理由	24名	2.1%	696名	2.0%
無回答	59名	5.3%	2,767名	8.0%



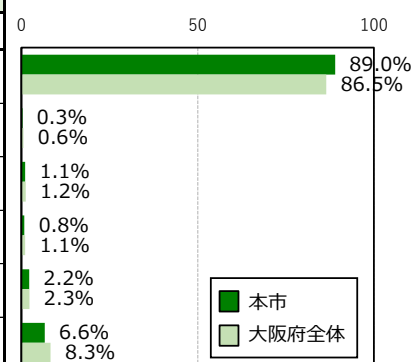
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	600名	100.0%	18,390名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	546名	91.0%	16,160名	87.9%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3名	0.5%	102名	0.6%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	5名	0.8%	133名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	6名	1.0%	168名	0.9%
それ以外の理由	9名	1.5%	338名	1.8%
無回答	31名	5.2%	1,489名	8.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	363名	100.0%	15,094名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	323名	89.0%	13,056名	86.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	1名	0.3%	98名	0.6%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	4名	1.1%	182名	1.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	0.8%	162名	1.1%
それ以外の理由	8名	2.2%	343名	2.3%
無回答	24名	6.6%	1,253名	8.3%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

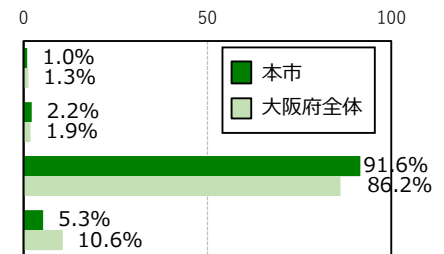
保護者全体は、「利用したことがない」が91.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.2%、「現在利用している」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が93.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が89.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.7%、「現在利用している」が1.3%となっている。

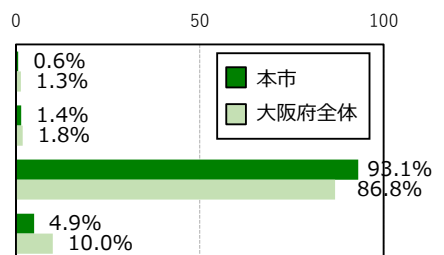
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,327名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	13名	1.0%	569名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	29名	2.2%	814名	1.9%
利用したことがない	1,215名	91.6%	37,313名	86.2%
無回答	70名	5.3%	4,604名	10.6%



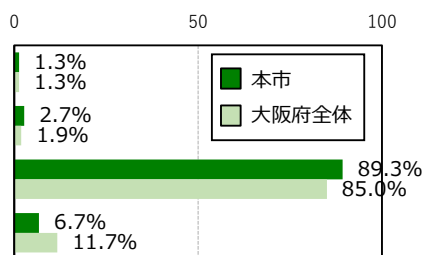
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	697名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	4名	0.6%	298名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	10名	1.4%	419名	1.8%
利用したことがない	649名	93.1%	19,782名	86.8%
無回答	34名	4.9%	2,287名	10.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	449名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	6名	1.3%	258名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	12名	2.7%	372名	1.9%
利用したことがない	401名	89.3%	16,467名	85.0%
無回答	30名	6.7%	2,268名	11.7%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）
＜利用したことがない理由＞

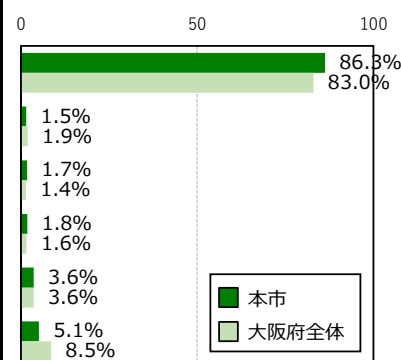
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.6%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.8%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.7%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.1%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ1.7%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」がそれぞれ2.0%となっている。

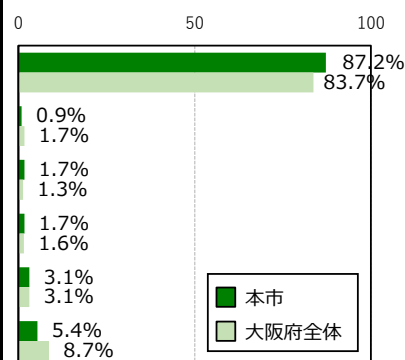
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,215名	100.0%	37,313名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,048名	86.3%	30,971名	83.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	18名	1.5%	708名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	21名	1.7%	529名	1.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	22名	1.8%	611名	1.6%
それ以外の理由	44名	3.6%	1,331名	3.6%
無回答	62名	5.1%	3,163名	8.5%



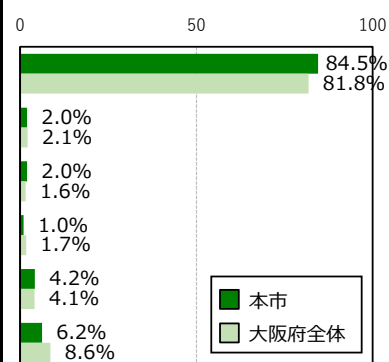
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	649名	100.0%	19,782名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	566名	87.2%	16,548名	83.7%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	6名	0.9%	343名	1.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	11名	1.7%	258名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	11名	1.7%	308名	1.6%
それ以外の理由	20名	3.1%	613名	3.1%
無回答	35名	5.4%	1,712名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	401名	100.0%	16,467名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	339名	84.5%	13,474名	81.8%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	8名	2.0%	350名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	8名	2.0%	263名	1.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	1.0%	284名	1.7%
それ以外の理由	17名	4.2%	675名	4.1%
無回答	25名	6.2%	1,421名	8.6%



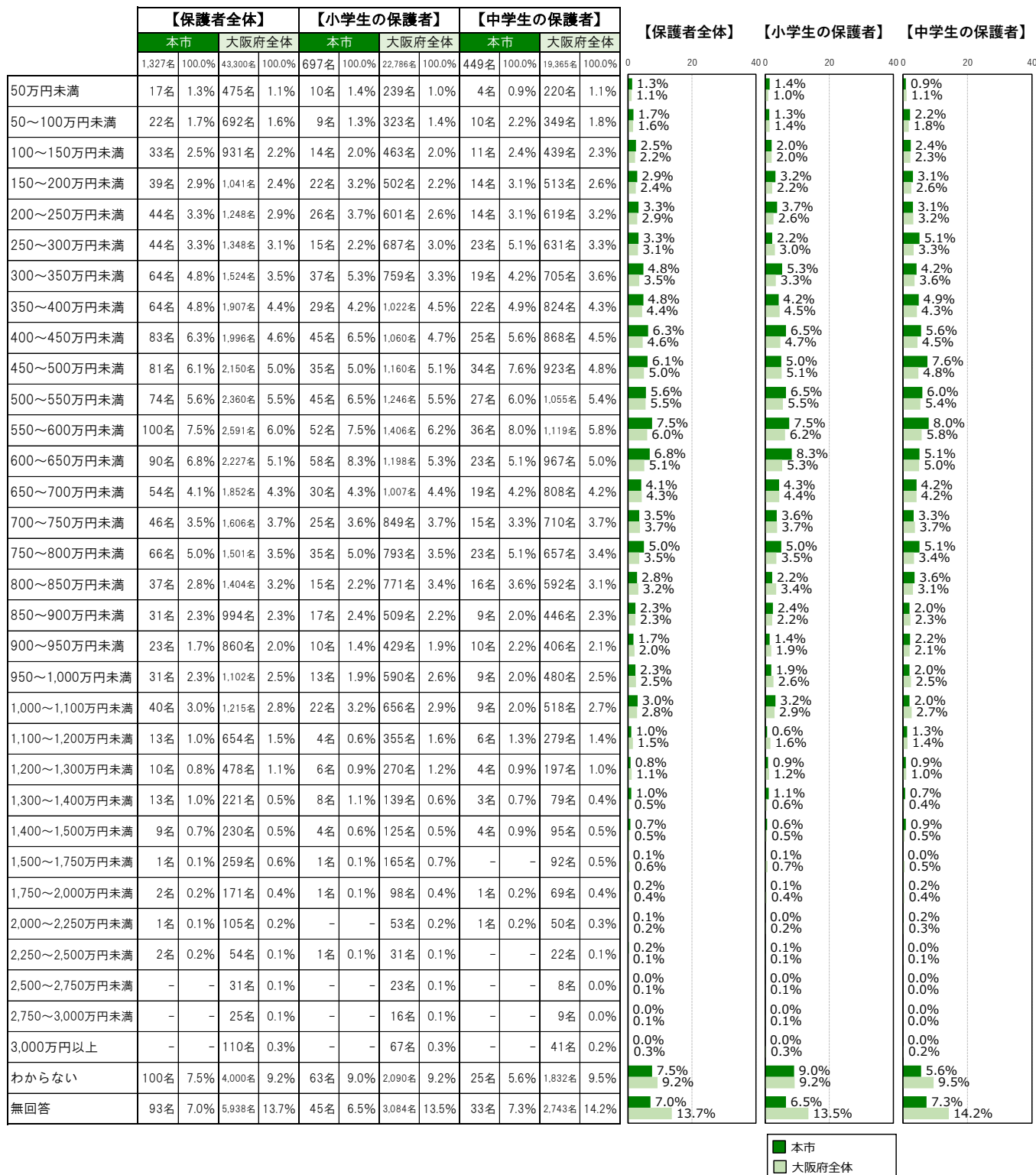
保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者全体は、「550～600万円未満」が7.5%で最も多く、次いで「600～650万円未満」が6.8%、「400～450万円未満」が6.3%、「450～500万円未満」が6.1%となっている。

小学生の保護者は、「600～650万円未満」が8.3%で最も多く、次いで「550～600万円未満」が7.5%、「400～450万円未満」、「500～550万円未満」がそれぞれ6.5%、「300～350万円未満」が5.3%となっている。

中学生の保護者は、「550～600万円未満」が8.0%で最も多く、次いで「450～500万円未満」が7.6%、「500～550万円未満」が6.0%、「400～450万円未満」が5.6%となっている。

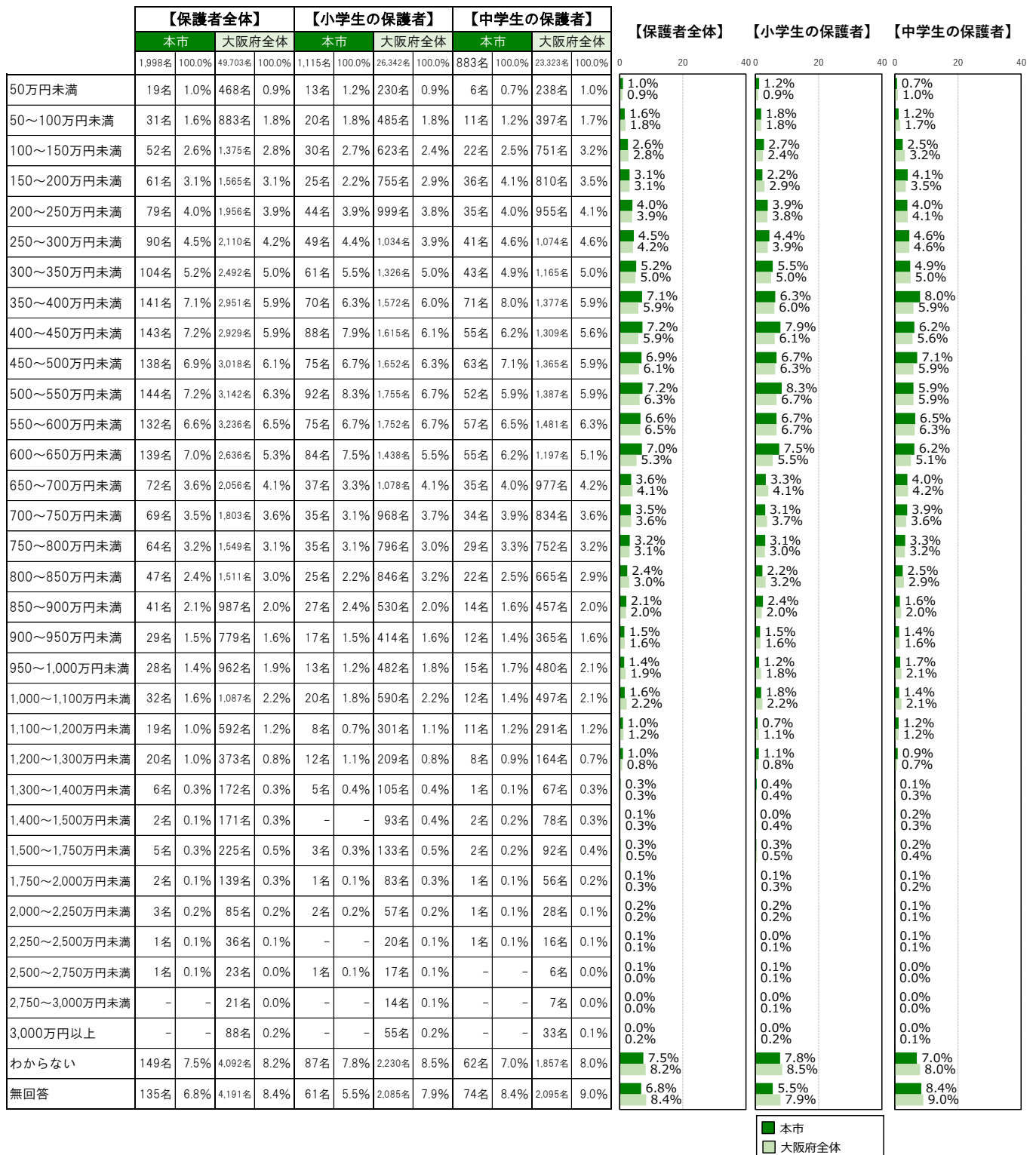


●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「350～400万円未満」は2.3ポイント低いが、「750～800万円未満」は1.8ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「250～300万円未満」は2.2ポイント低いが、「750～800万円未満」は1.9ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「350～400万円未満」は3.1ポイント低いが、「750～800万円未満」は1.8ポイント高くなっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

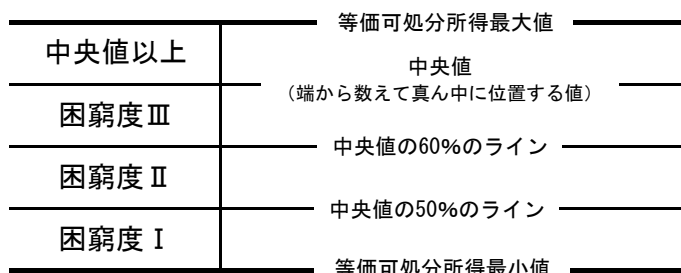
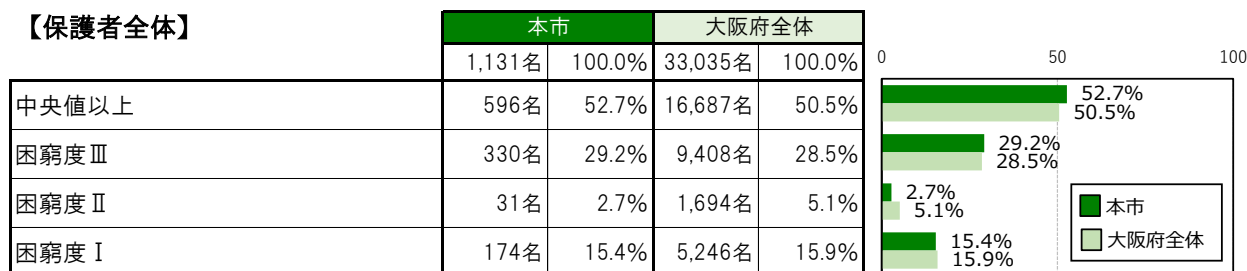


図 困窮度の分類と基準

中央値は263万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は15.4%であった。
なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

【保護者全体】



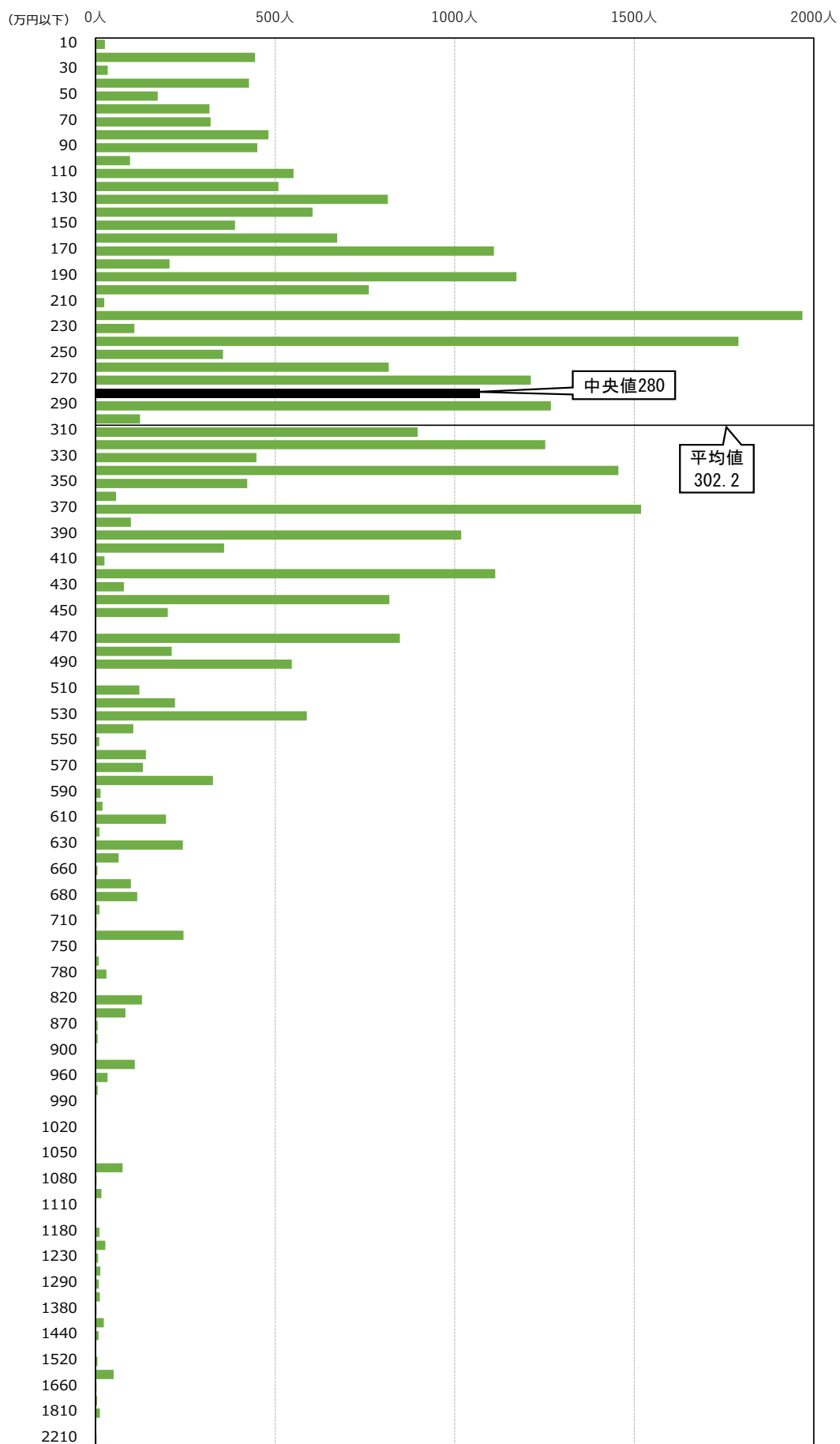
保護者全体は、「中央値以上」が52.7%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が29.2%、「困窮度Ⅰ」が15.4%、「困窮度Ⅱ」が2.7%となっている。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「困窮度Ⅱ」が3.6ポイント低く、「困窮度Ⅰ」が3.2ポイント高くなっている。

【保護者全体】





※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。

注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

保護者全体は、「いない」が29.8%で最も多く、次いで「1回」が17.4%、「2回」、「4回」がそれぞれ13.4%、「3回」が13.3%となっている。

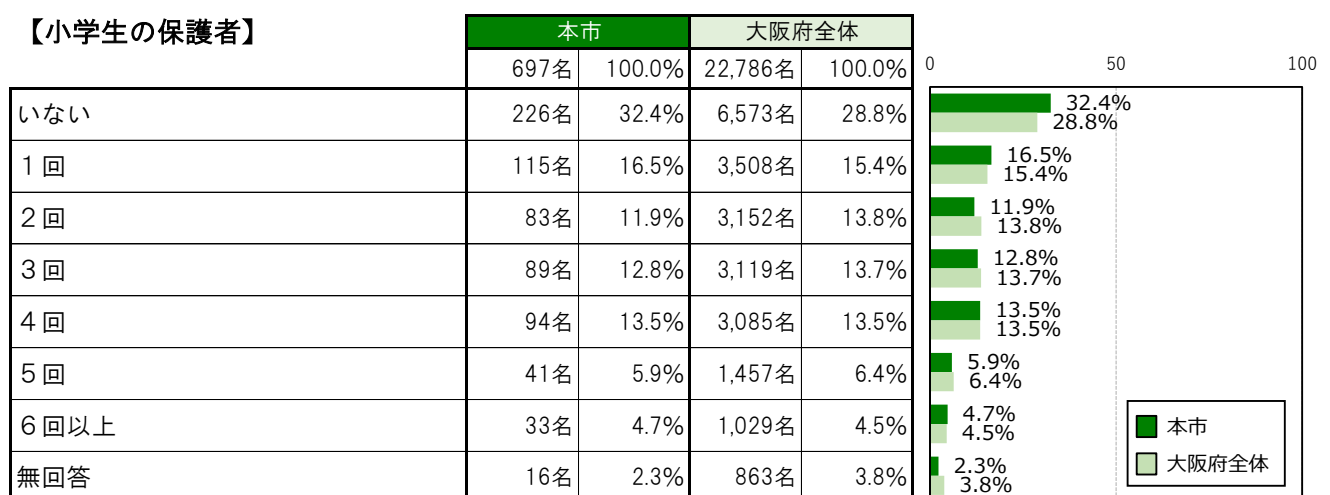
小学生の保護者は、「いない」が32.4%で最も多く、次いで「1回」が16.5%、「4回」が13.5%、「3回」が12.8%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が27.4%で最も多く、次いで「1回」が18.3%、「2回」、「3回」がそれぞれ14.0%、「4回」が12.9%となっている。

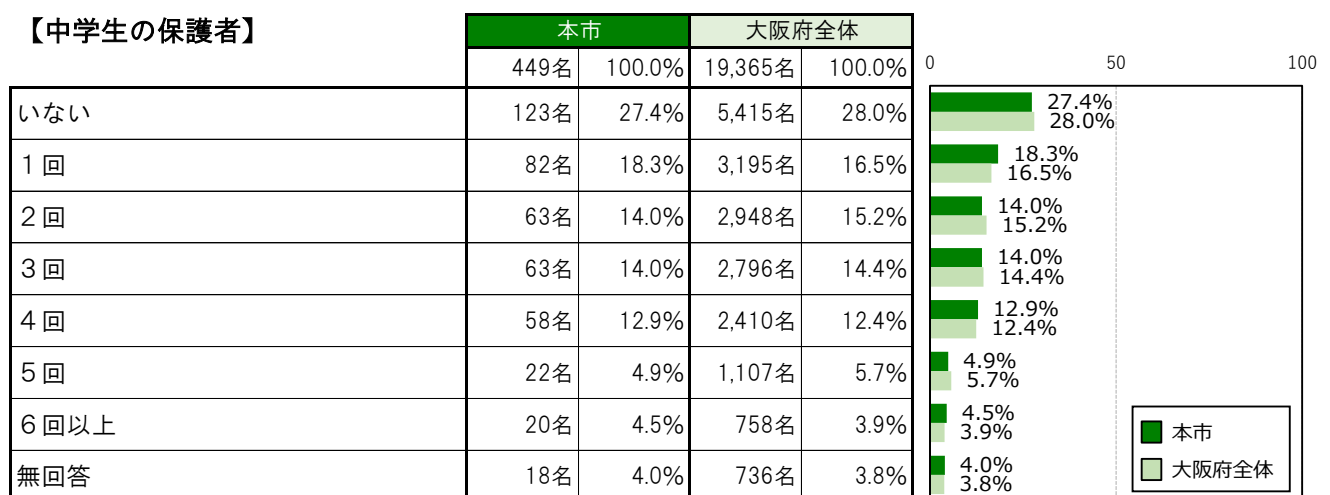
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

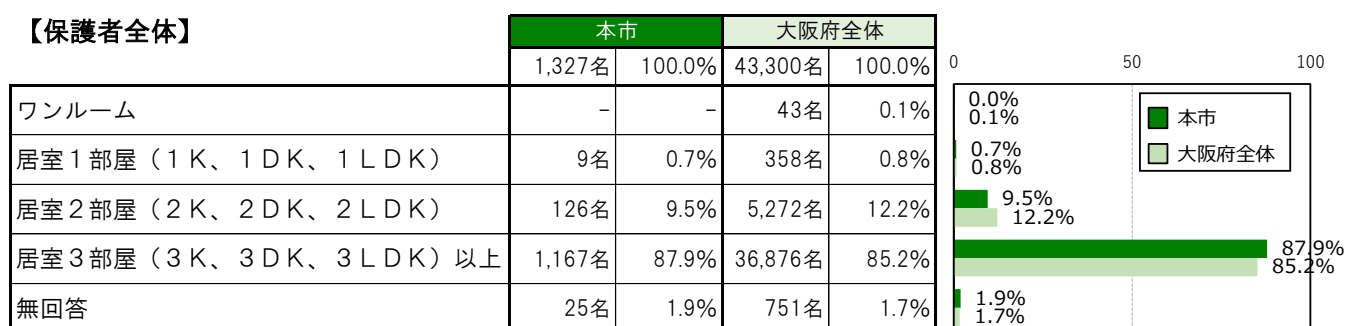
問26（１）住居の間取り

保護者全体は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が87.9%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が9.5%、「居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）」が0.7%となっている。

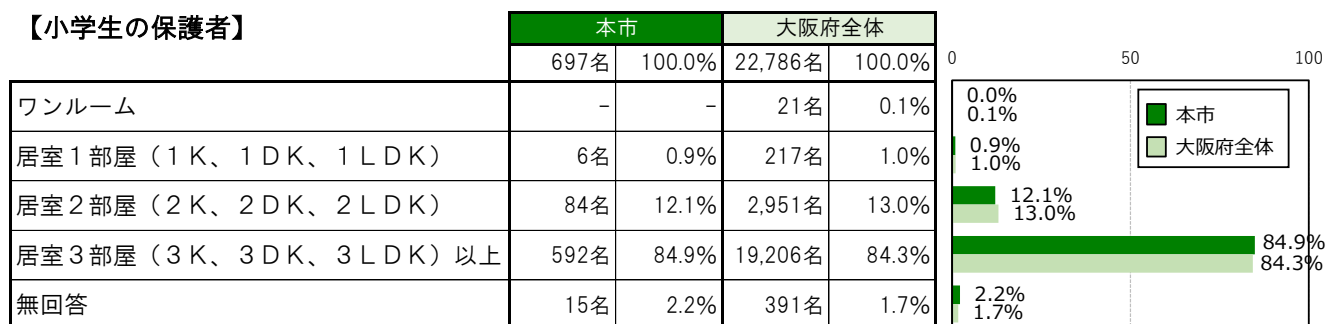
小学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が84.9%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が12.1%、「居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）」が0.9%となっている。

中学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が91.1%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が6.5%、「居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）」が0.4%となっている。

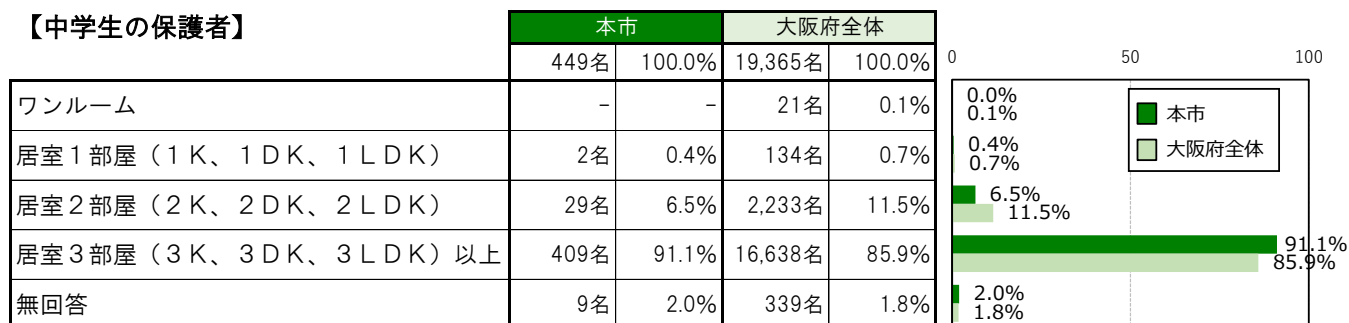
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

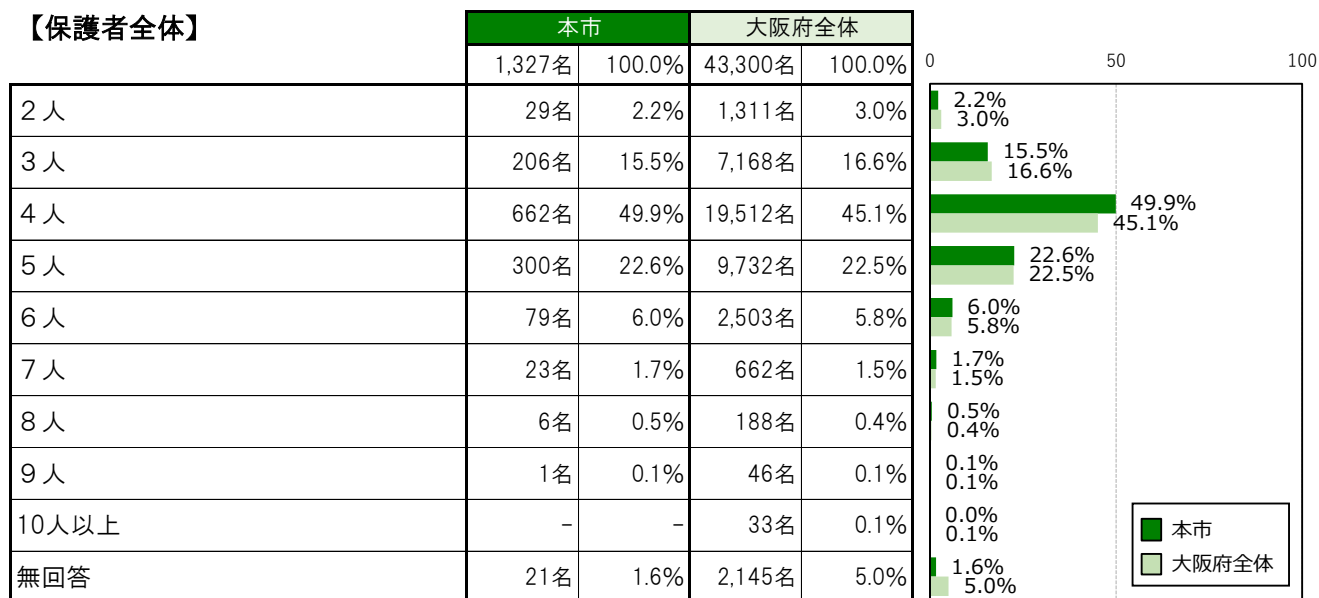
問26（2）同居人数

保護者全体は、「4人」が49.9%で最も多く、次いで「5人」が22.6%、「3人」が15.5%、「6人」が6.0%となっている。

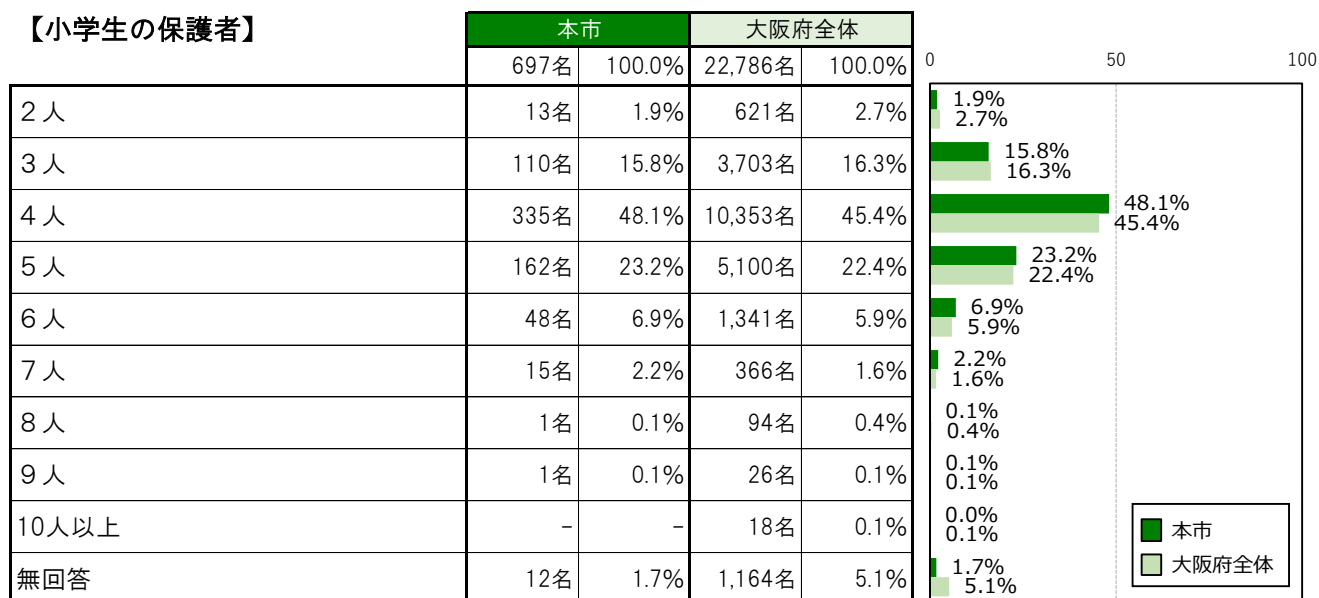
小学生の保護者は、「4人」が48.1%で最も多く、次いで「5人」が23.2%、「3人」が15.8%、「6人」が6.9%となっている。

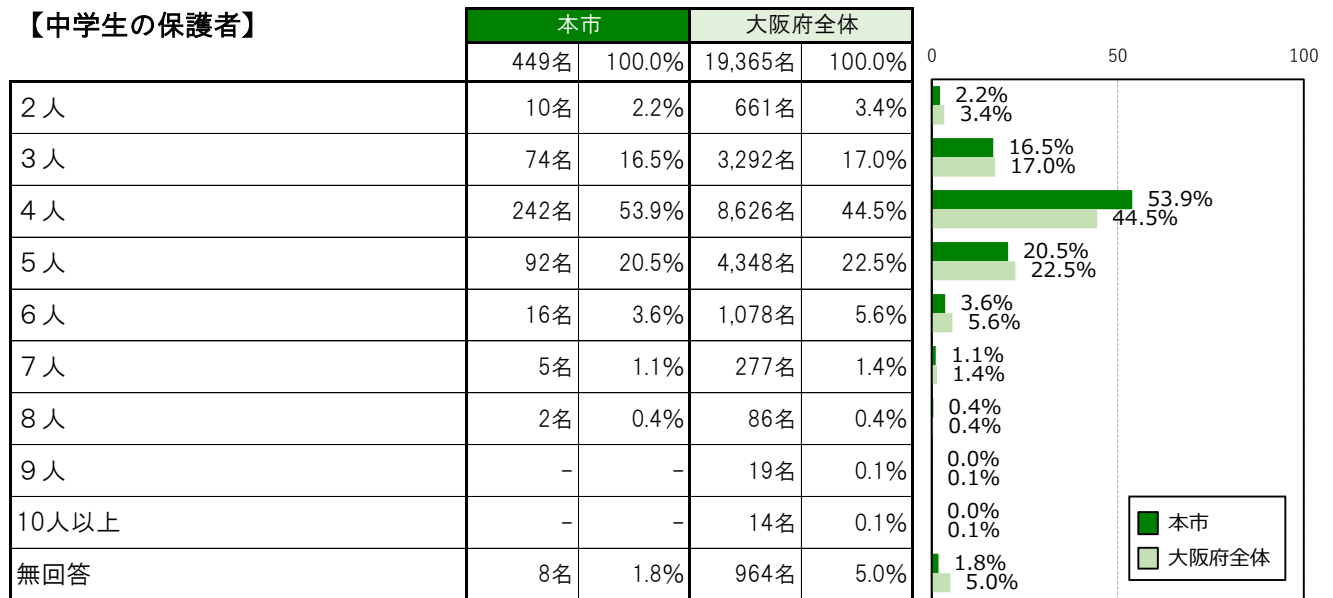
中学生の保護者は、「4人」が53.9%で最も多く、次いで「5人」が20.5%、「3人」が16.5%、「6人」が3.6%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





3. クロス集計および分析結果

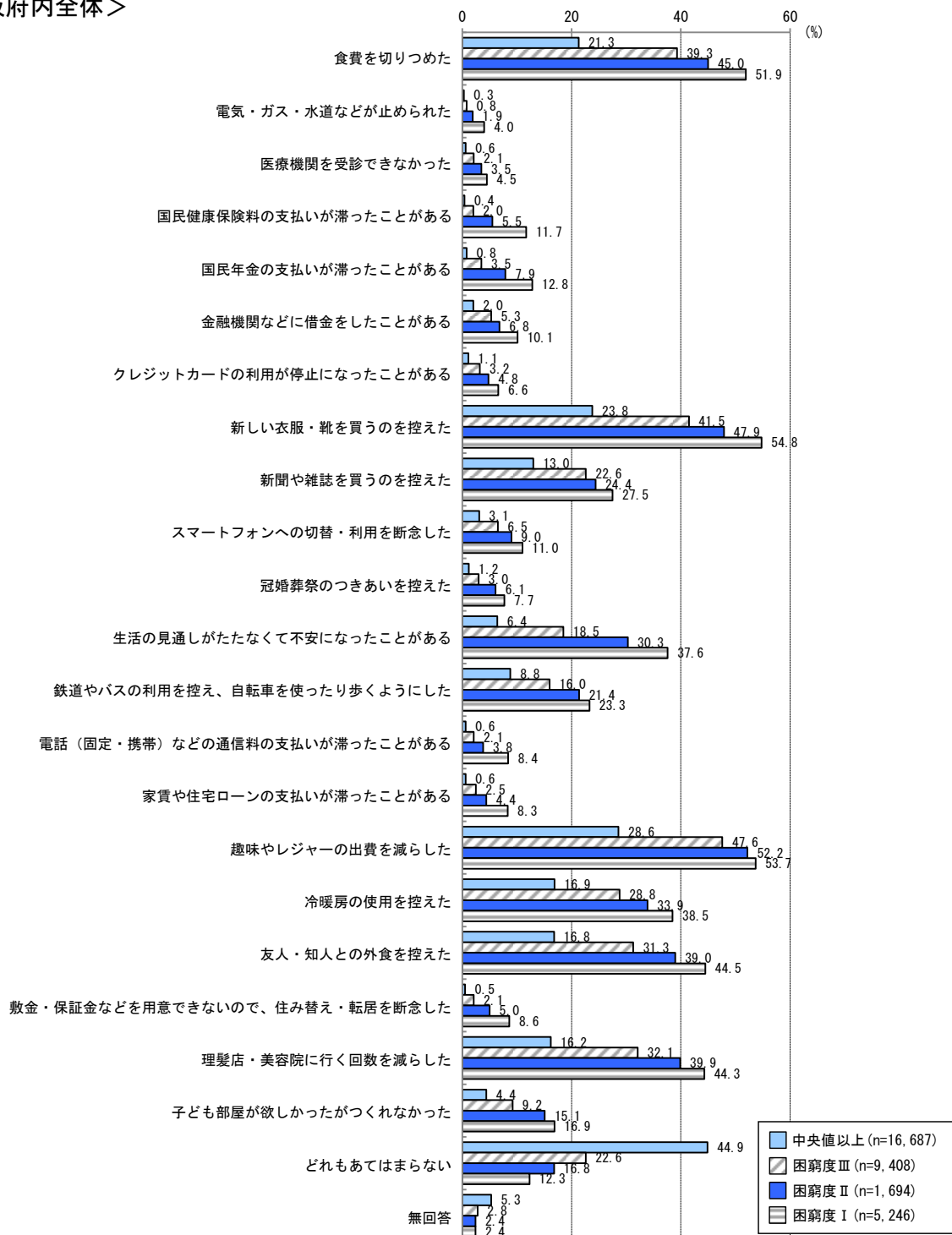
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

3-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

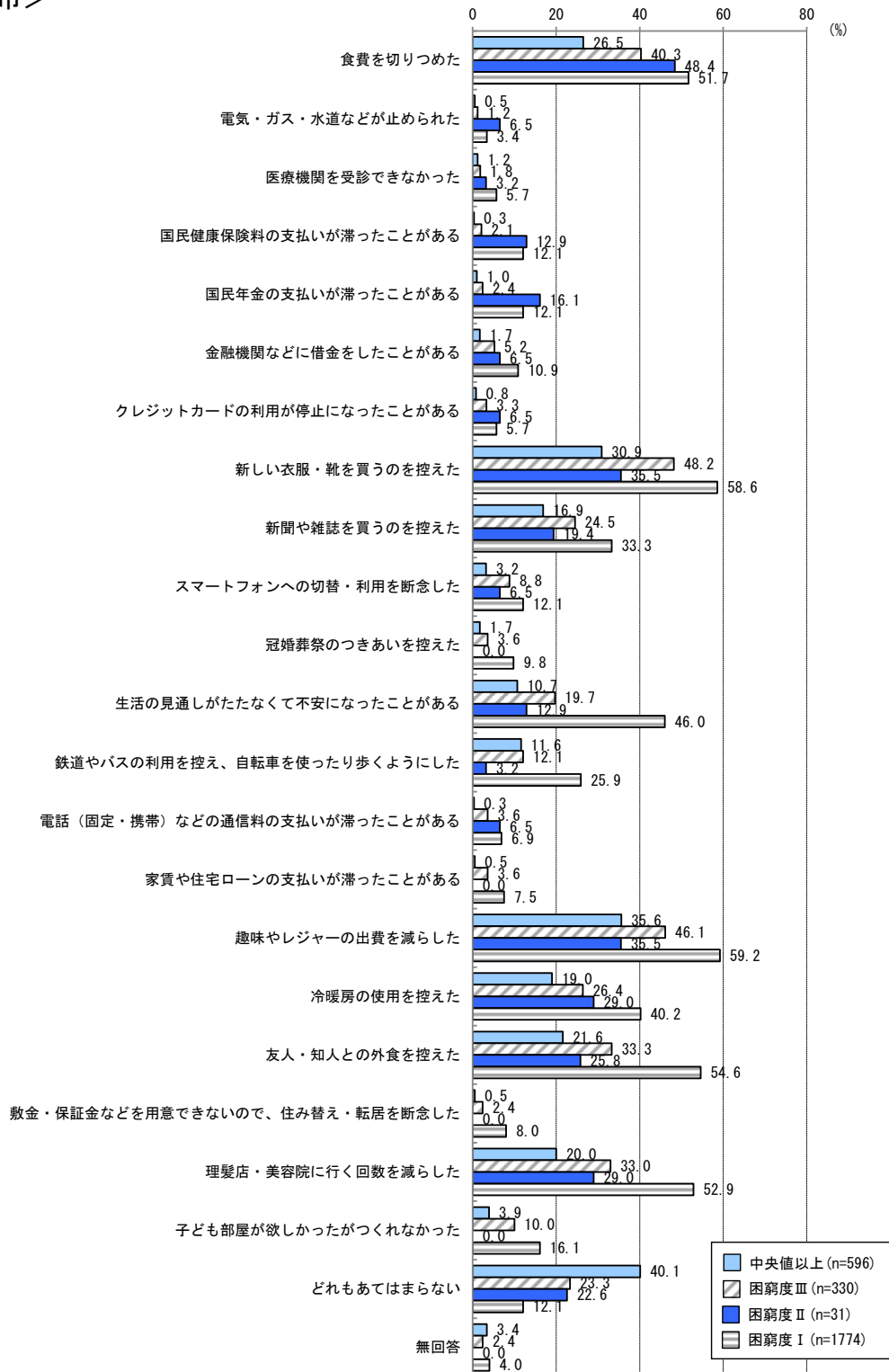
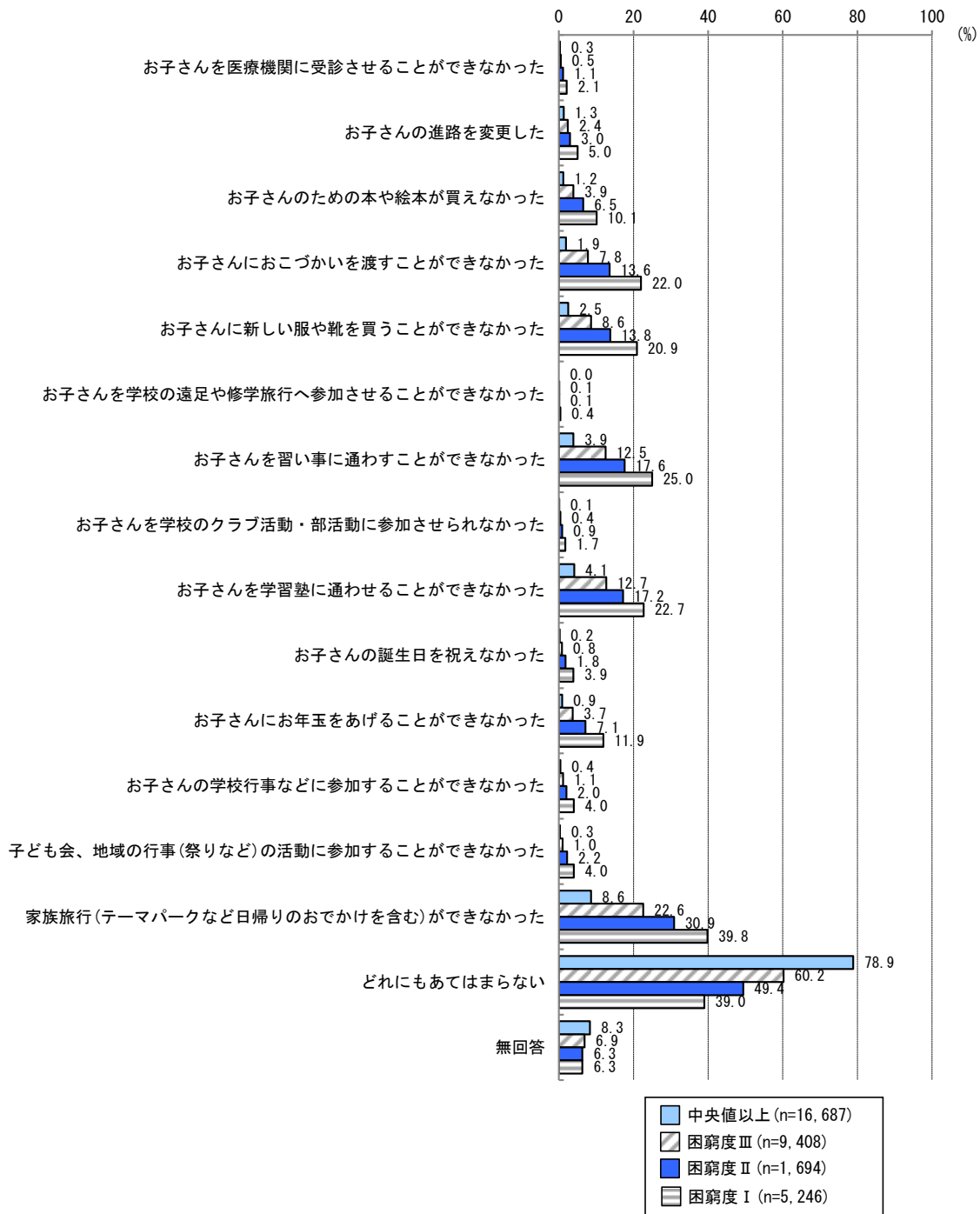


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群をみると、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が12.1%（中央値以上群に対して40.3倍）、「電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある」が6.9%（同じく23.0倍）、「敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した」が8.0%（同じく16.0倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で40.1%に対して、困窮度Ⅰ群において12.1%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<八尾市>

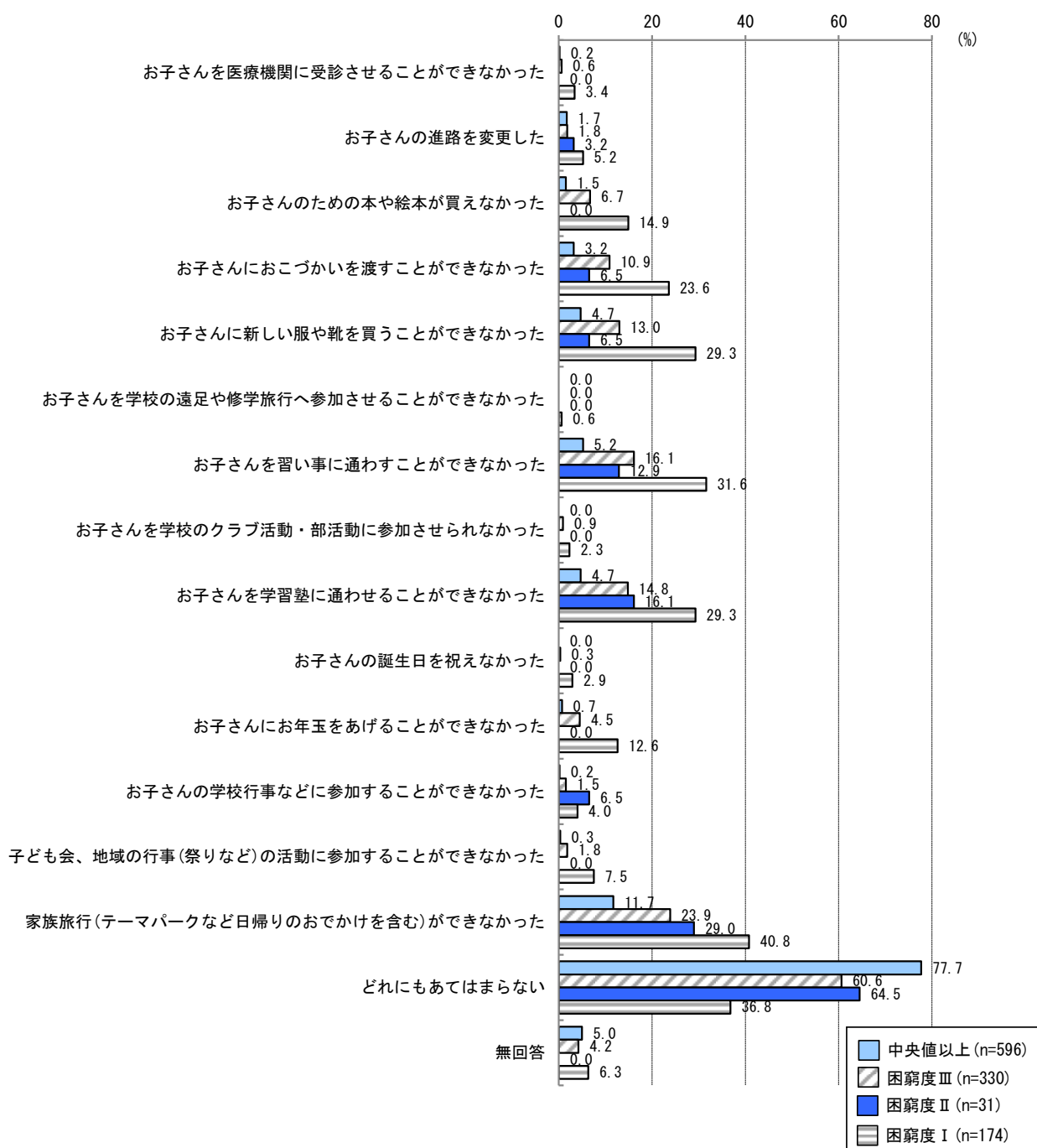


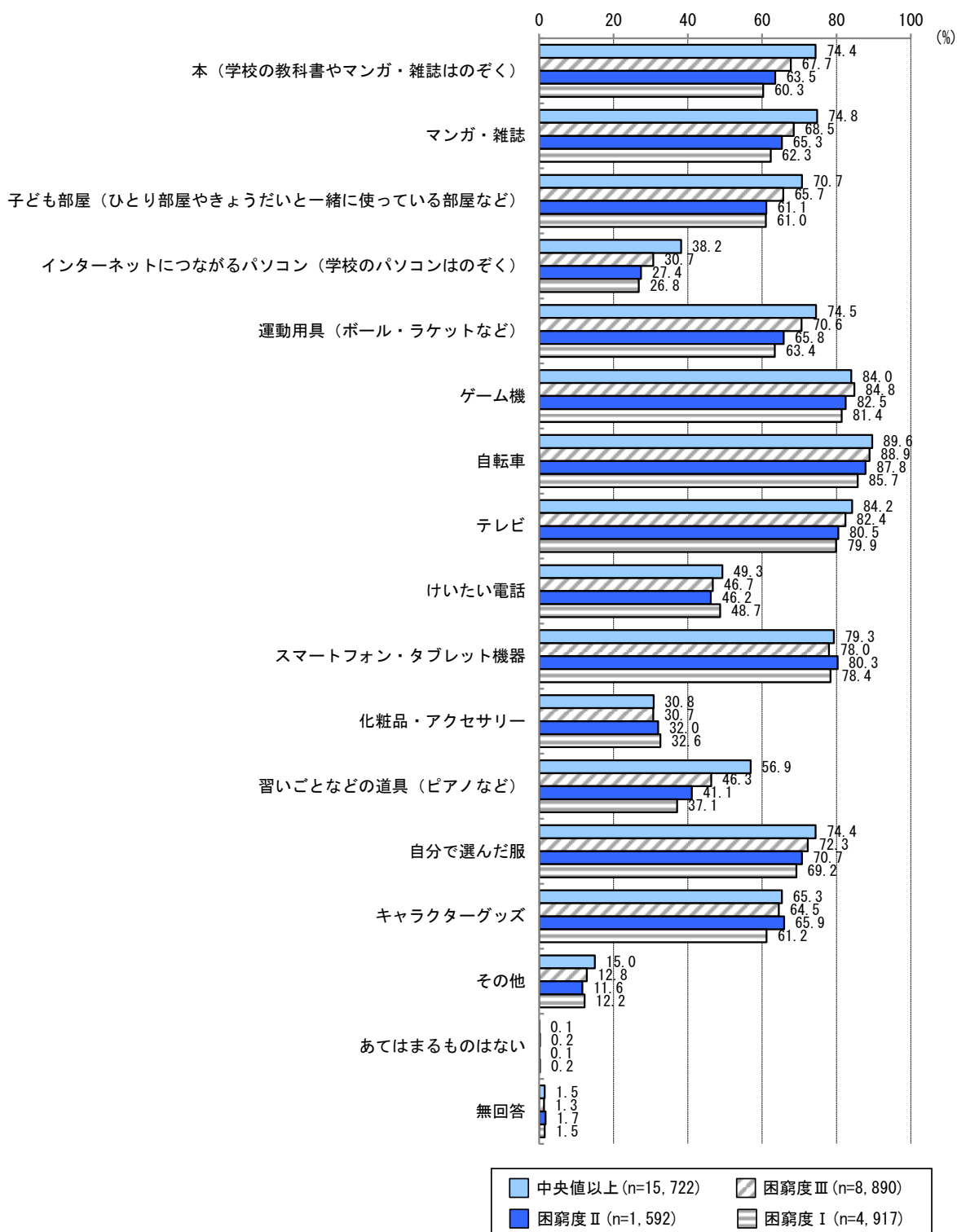
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「子ども会、地域の行事(祭りなど)の活動に参加することができなかった」が7.5%（中央値以上群に対して25.0倍）、「お子さんの学校行事などに参加することができなかった」が4.0%（同じく20.0倍）、「お子さんにお年玉をあげることができなかった」が12.6%（同じく18.0倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で77.7%に対して、困窮度Ⅰ群において36.8%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

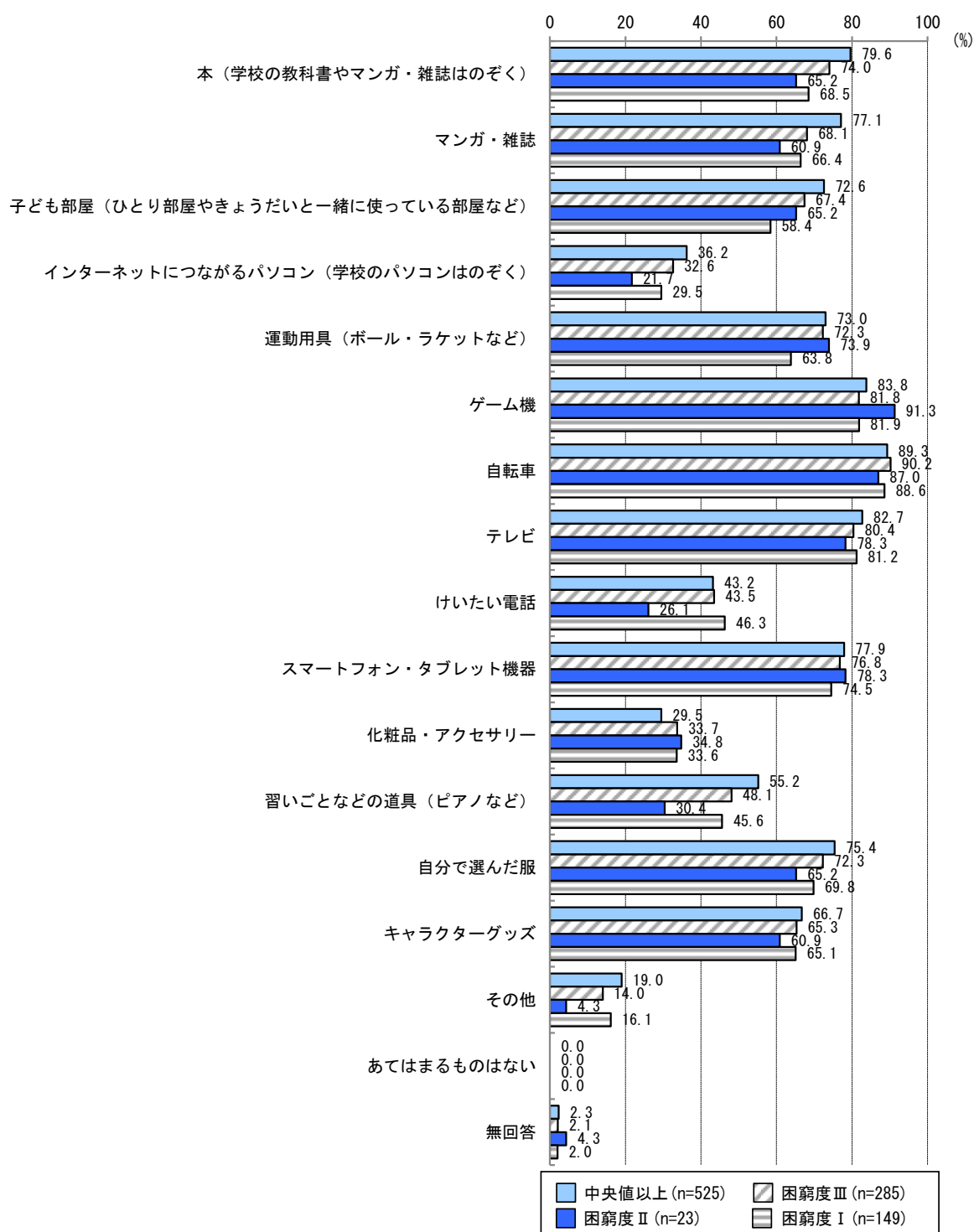
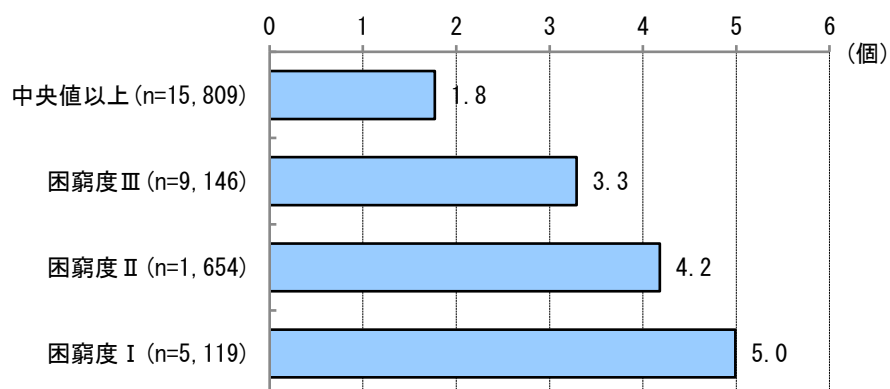


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）」が79.6%（困窮度Ⅰ群に対して1.2倍）、「マンガ・雑誌」が77.1%（同じく1.2倍）、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）」が72.6%（同じく1.2倍）となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度Ⅰ群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<八尾市>

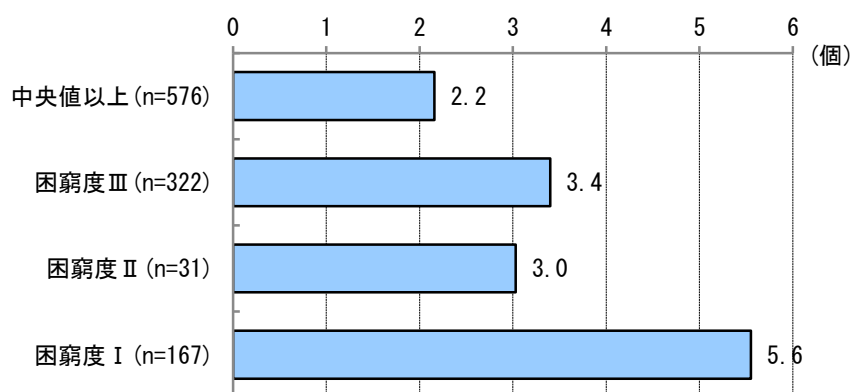


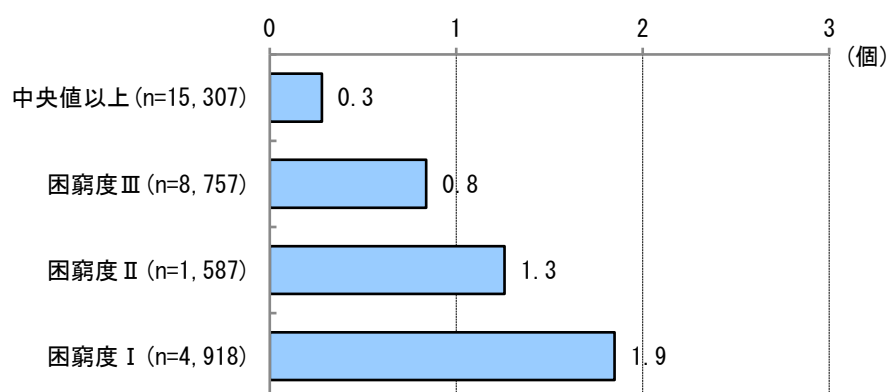
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、経済的な理由による経験の該当数は、困窮度Ⅰ群において5.6個と最も多く、中央値以上群においては2.2個と最も少なかった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<八尾市>

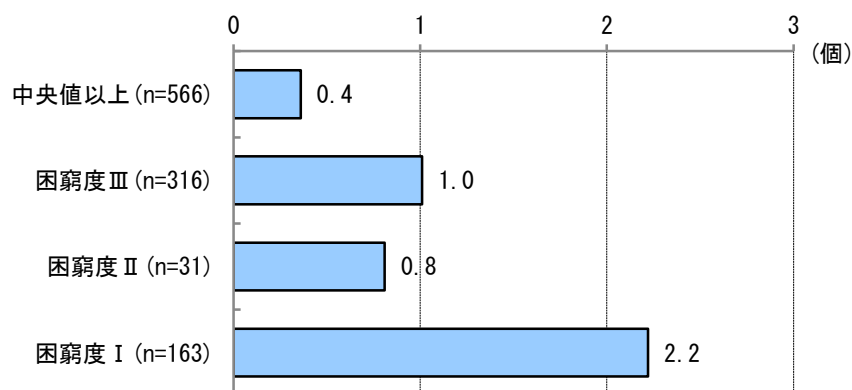


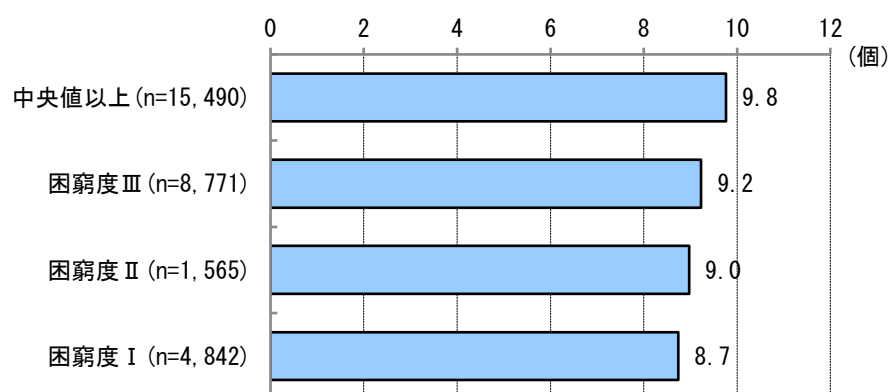
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度Ⅰ群において2.2個と最も多く、中央値以上群において0.4個と最も少なかった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<八尾市>

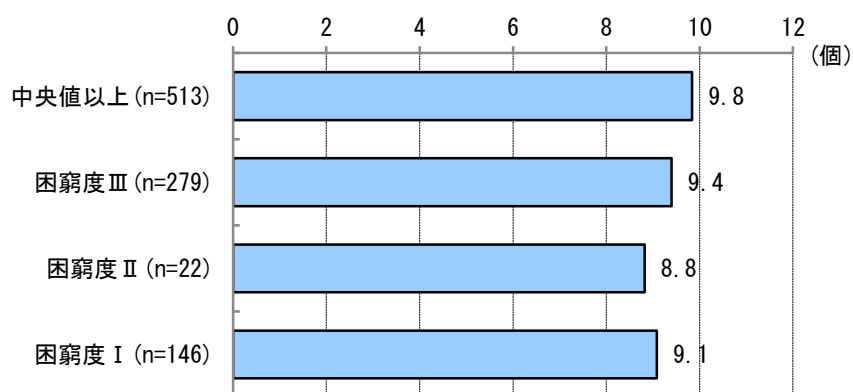


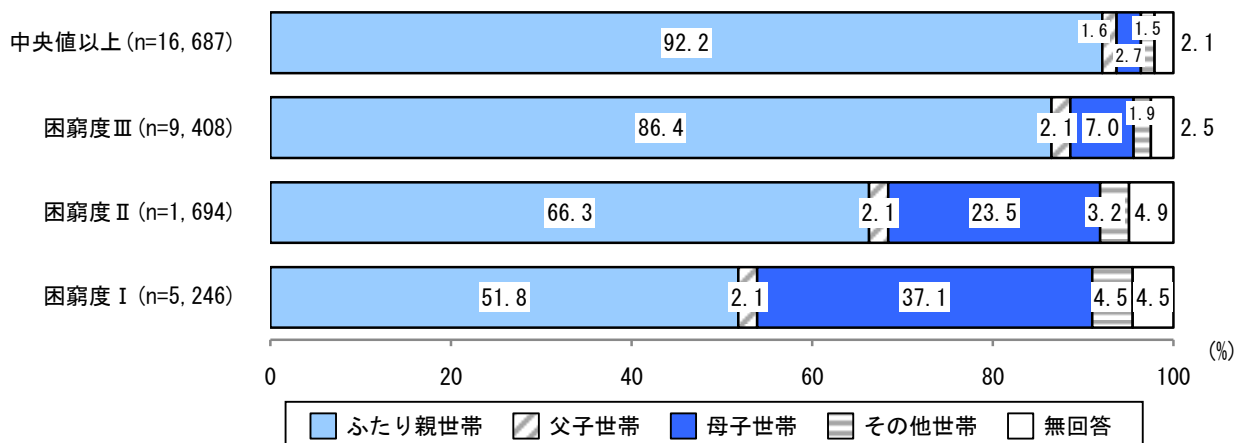
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度によって子どもの持ちもの、使えるものの該当数は、困窮度Ⅱ群が8.8個と、最も少なかった。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<八尾市>

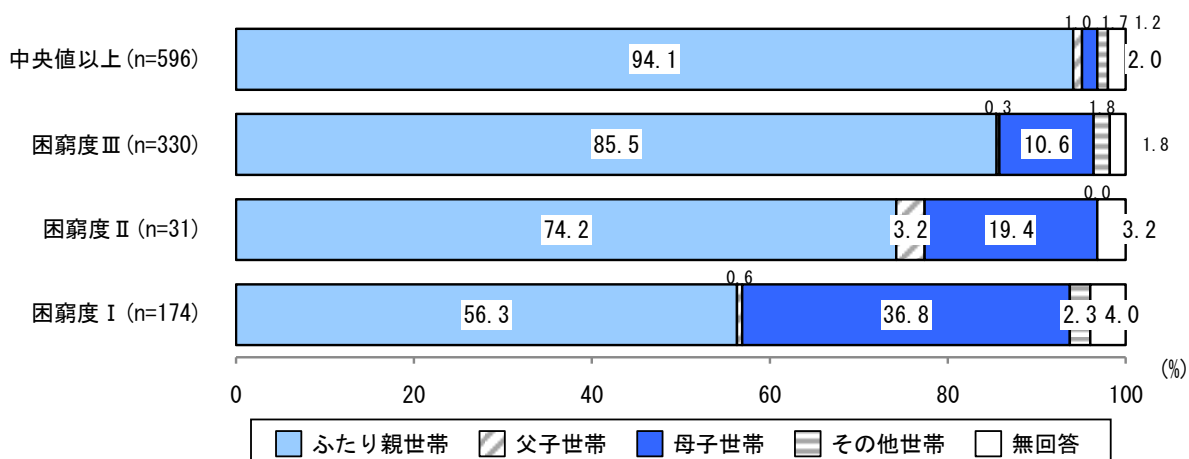


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が94.1%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は56.3%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が1.7%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は36.8%だった。

<2016年度調査との比較／八尾市>

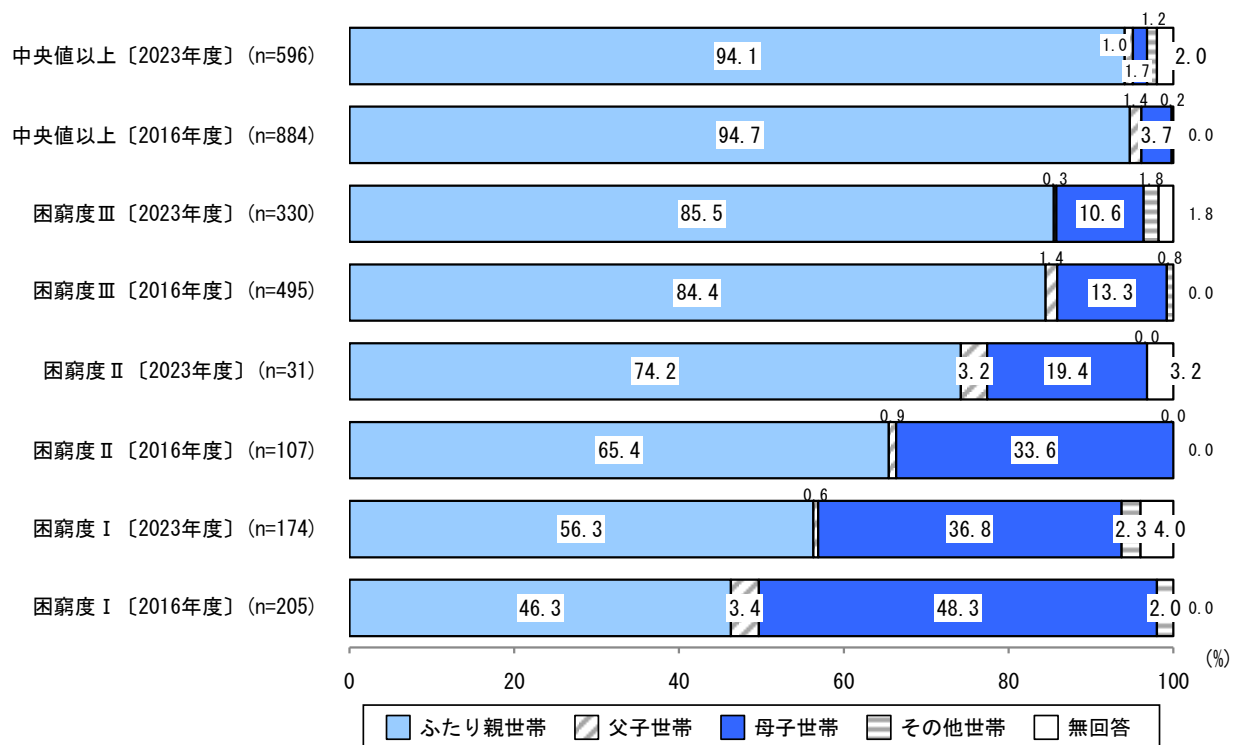
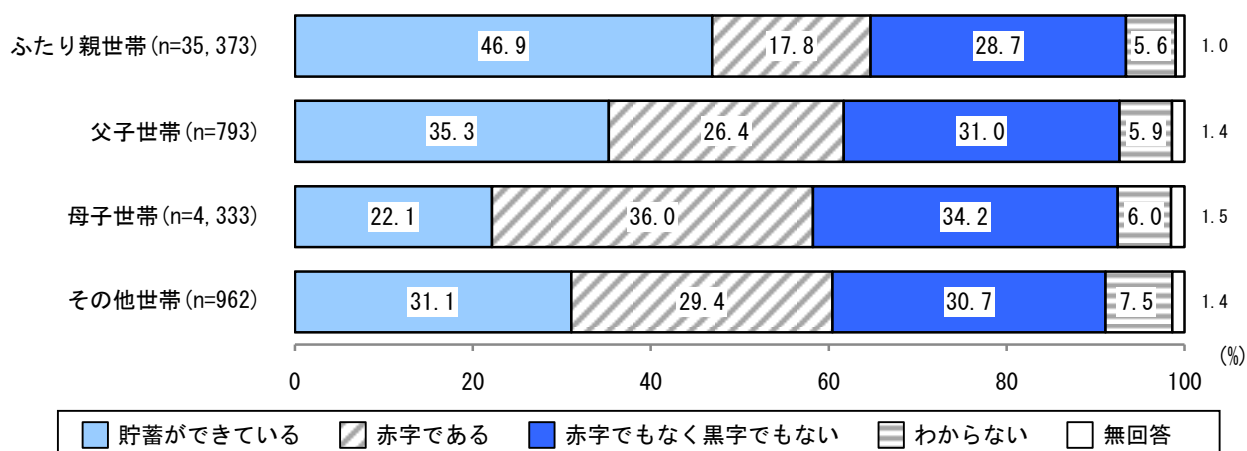


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、「母子世帯」は2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

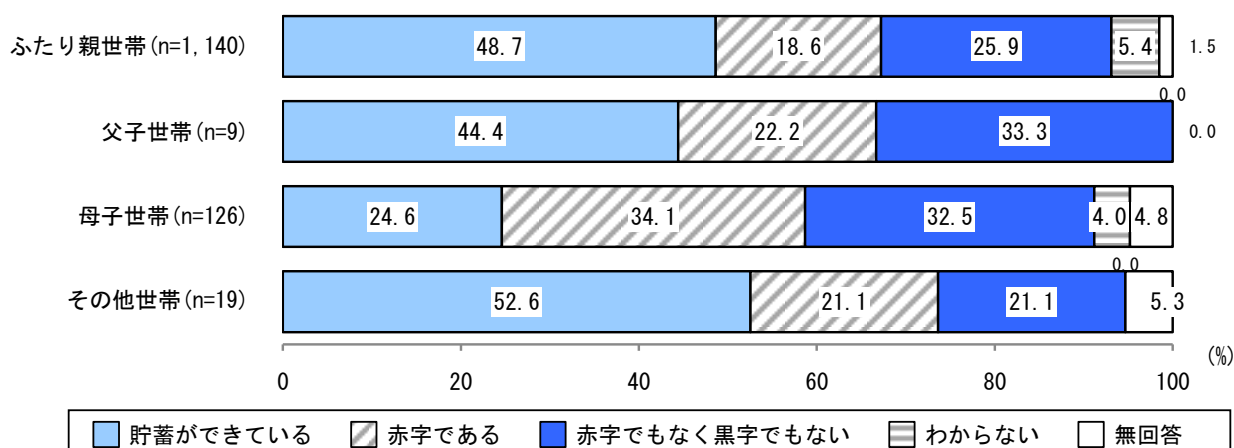
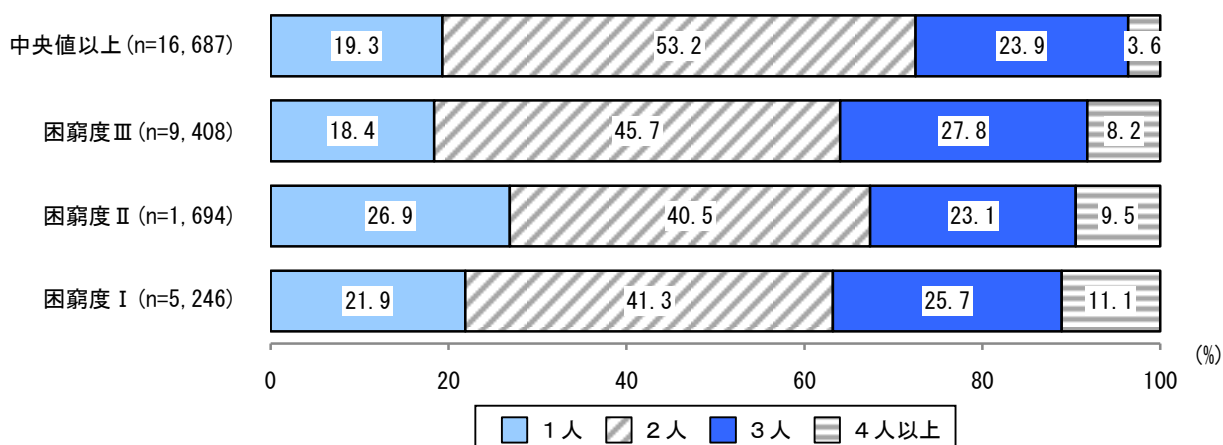


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が48.7%なのに対して、父子世帯44.4%、母子世帯24.6%だった。また、「赤字である」と回答した割合は、ふたり親世帯が18.6%なのに対して、父子世帯は22.2%、母子世帯は34.1%で最も割合が高かった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<八尾市>

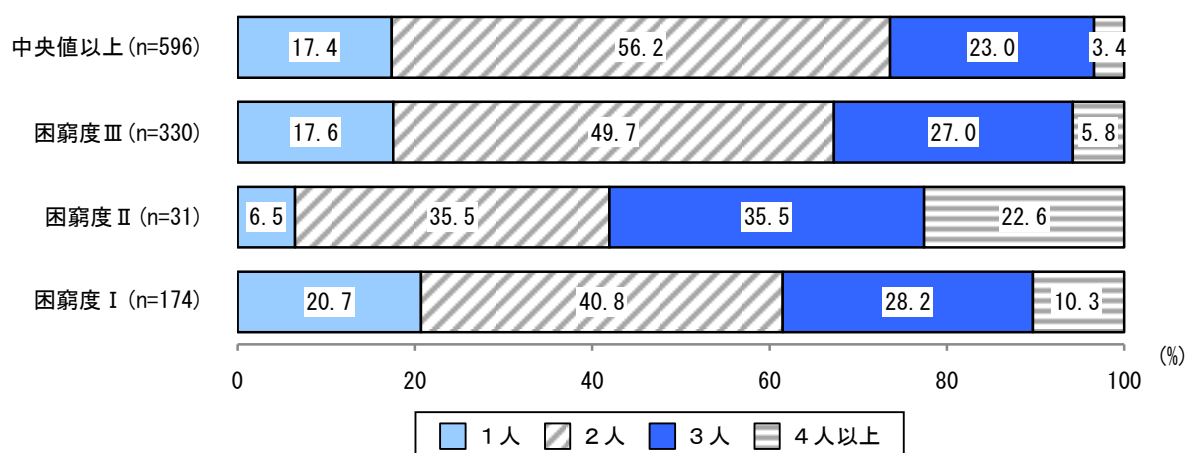
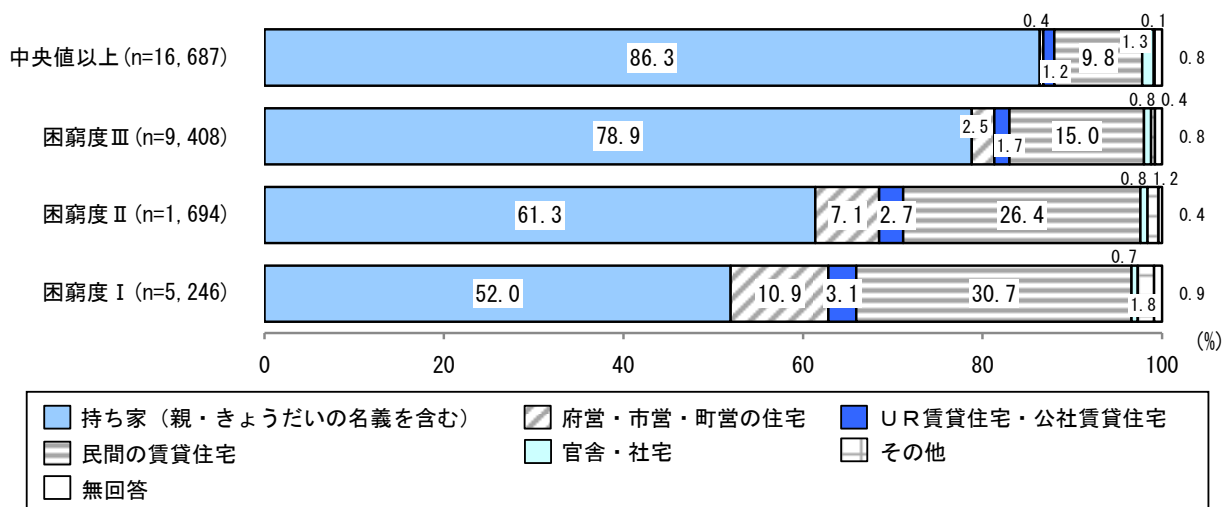


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が26.4%（「3人」23.0%、「4人以上」3.4%）であるのに対し、いずれの困窮度においても中央値以上群より3人以上の割合が高く、困窮度Ⅱ群では、3人以上が58.1%（「3人」35.5%、「4人以上」22.6%）と最も高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<八尾市>

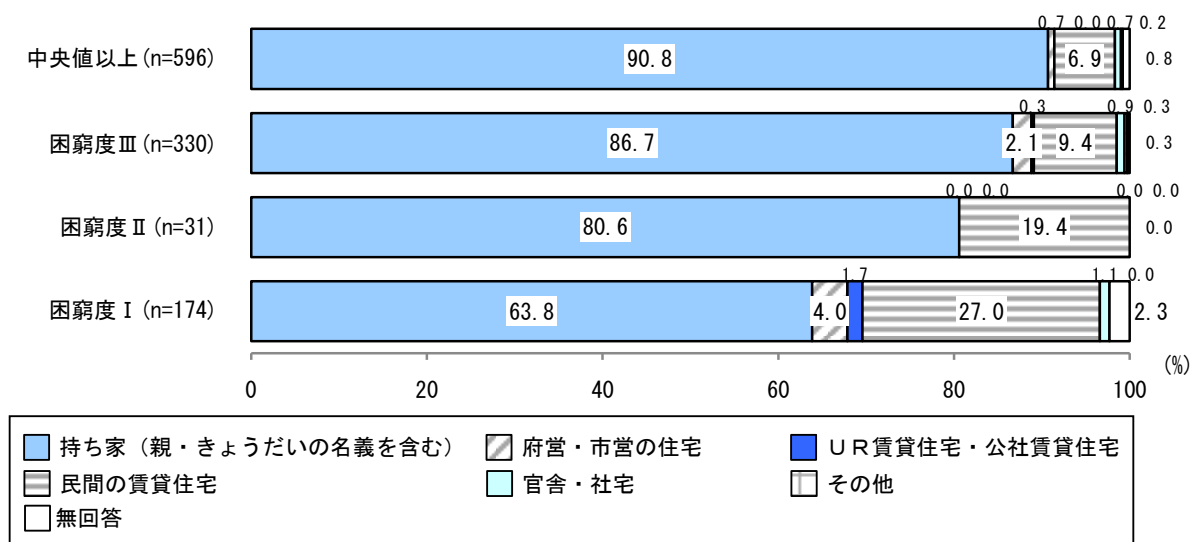
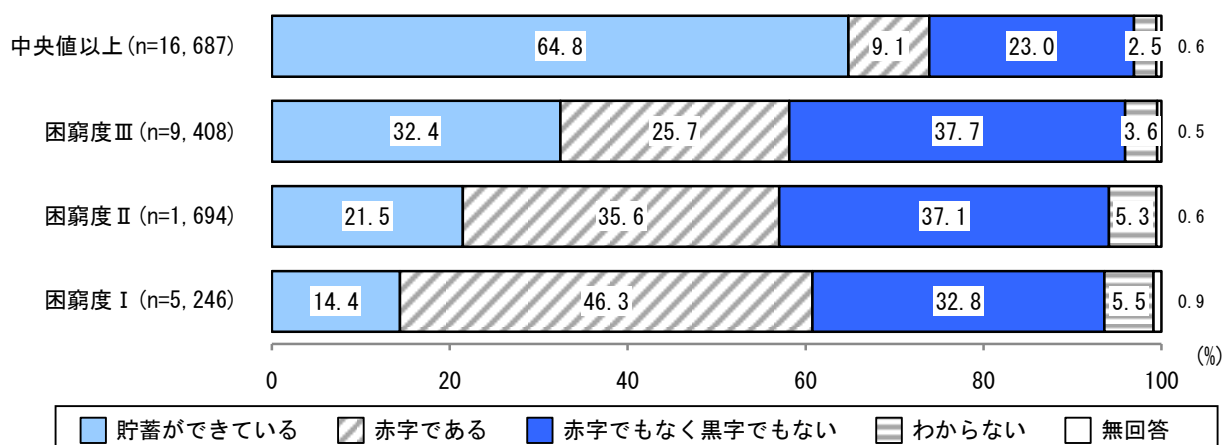


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、困窮度が高まるにつれ、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」の割合は低くなり、中央値以上群では、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」と回答した割合は90.8%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、63.8%と最も低い。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

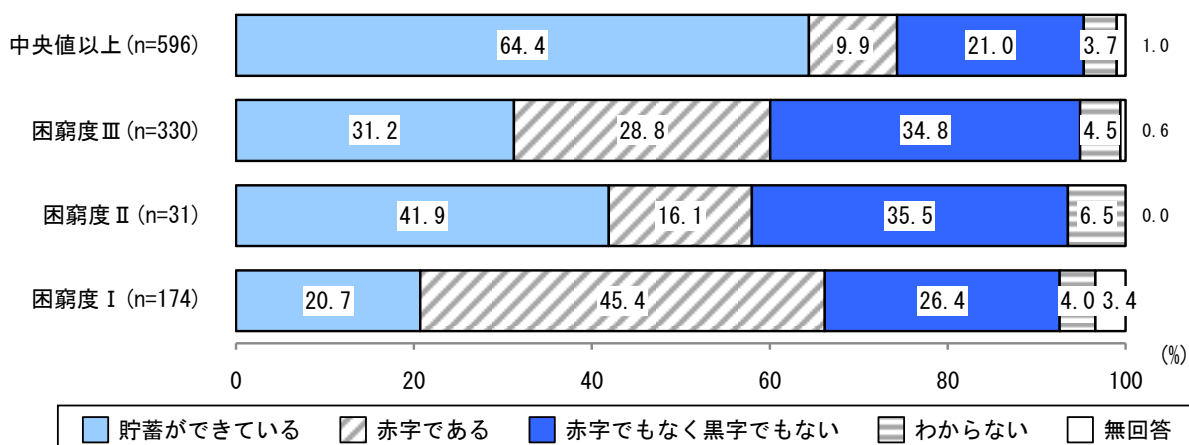
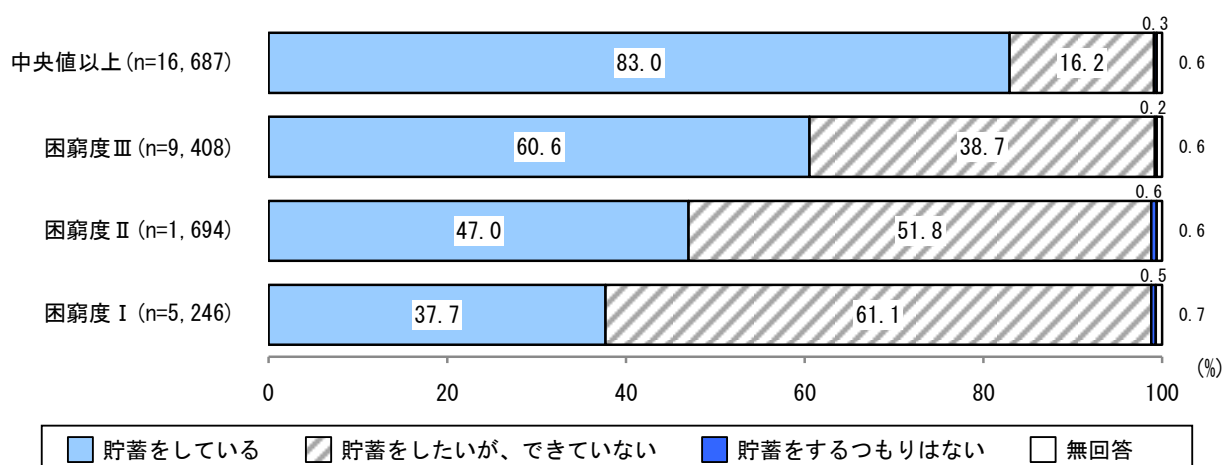


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができている」と回答した割合は、中央値以上が64.4%で最も高くなっている。また、「赤字である」と回答した割合は、中央値以上群では9.9%で最も低く、困窮度Ⅰ群では45.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

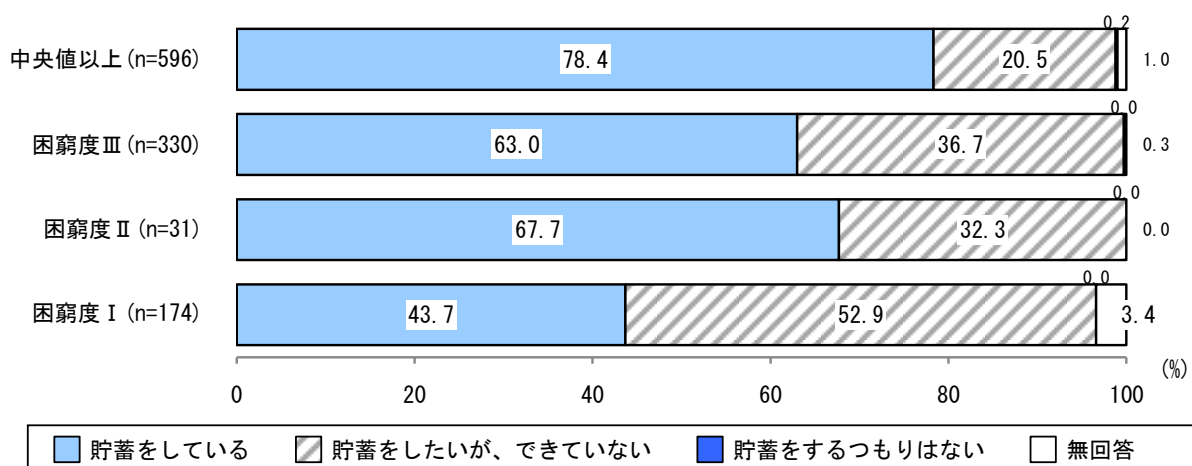
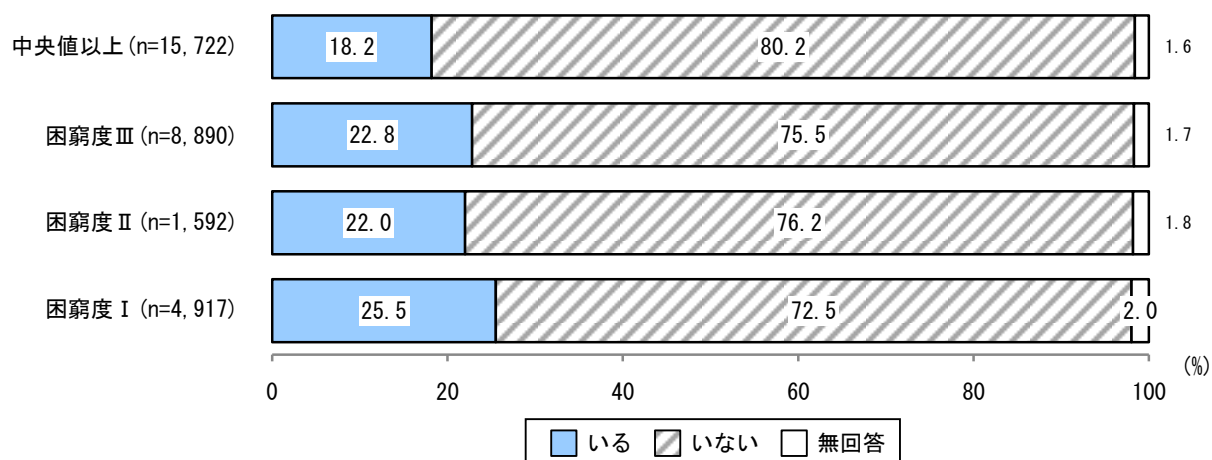


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、いずれの困窮度においても中央値以上群より「貯蓄をしたいが、できていない」という回答の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群では52.9%と最も高い。また、「貯蓄をしている」と回答する割合が中央値以上群で78.4%と最も高く、困窮度Ⅰ群では43.7%で最も低い。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

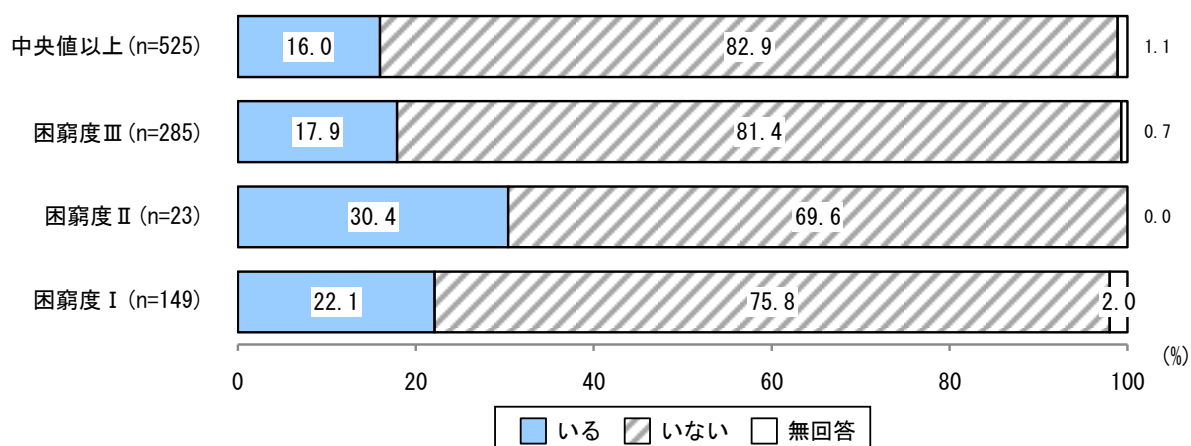


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で30.4%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答する割合が82.9%を占め、最も高くなっている。

＜経済状況に関する考察＞

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群で40.1%に対して、困窮度Ⅰ群では12.1%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「電気・ガス・水道などが止められた」(3.4%対0.5%)、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」(7.5%対0.5%)、「電話(固定・携帯)など通信料の支払いが滞ったことがある」(6.9%対0.3%)と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在している。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(12.1%対1.0%)と回答した割合が高くなっており、子どもの親(保護者)の将来(老後)の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」(46.0%対10.7%)と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんの進路を変更した」(5.2%対1.7%)、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(31.6%対5.2%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(29.3%対4.7%)と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行(日帰りのおでかけを含む)ができなかった」(40.8%対11.7%)といった経験に大きな差がある。その一方、「どれにもあてはまらない」が、中央値以上群では77.7%であり、困窮度Ⅰ群でも36.8%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」(78.4%対43.7%)と回答した割合が高くなっている。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」(52.9%対20.5%)と回答した割合が高くなっており、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク(病気や進路選択など)に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%（令和3年度実施）、中学2年生で5.7%（令和2年度実施）と報告されている（『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告（令和3年5月17日）』）。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

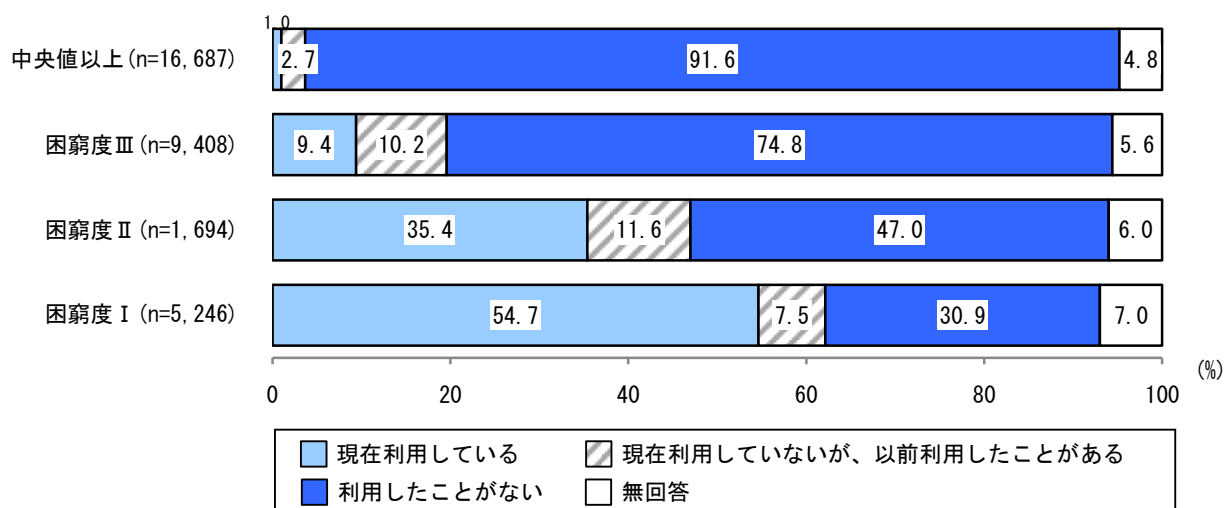
全国の状況を踏まえて、八尾市が令和5年に実施した、小学5年生、中学2年生を対象とする本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、全

体においては17.5%であるが、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べて「いる」(22.1%対16.0%)と答えた割合が高くなっている。これは、困窮度Ⅰ群では、回答した5人に1人程度が、中央値以上群では、6人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。全国調査と比較すると、八尾市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合が高く、特に経済的困難な家庭ではその割合が高いことが読み取れる。

（２）家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<八尾市>

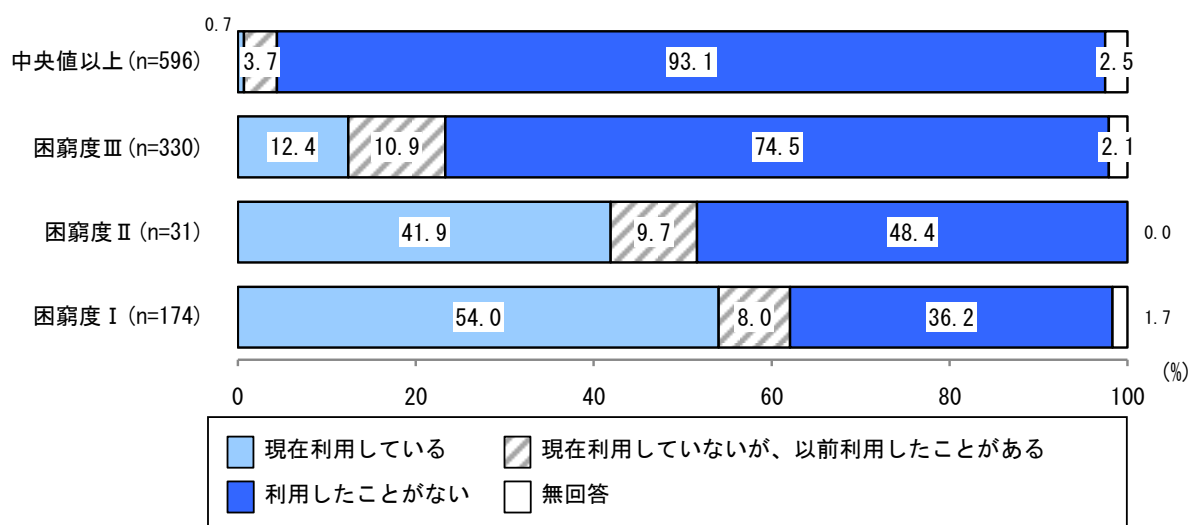
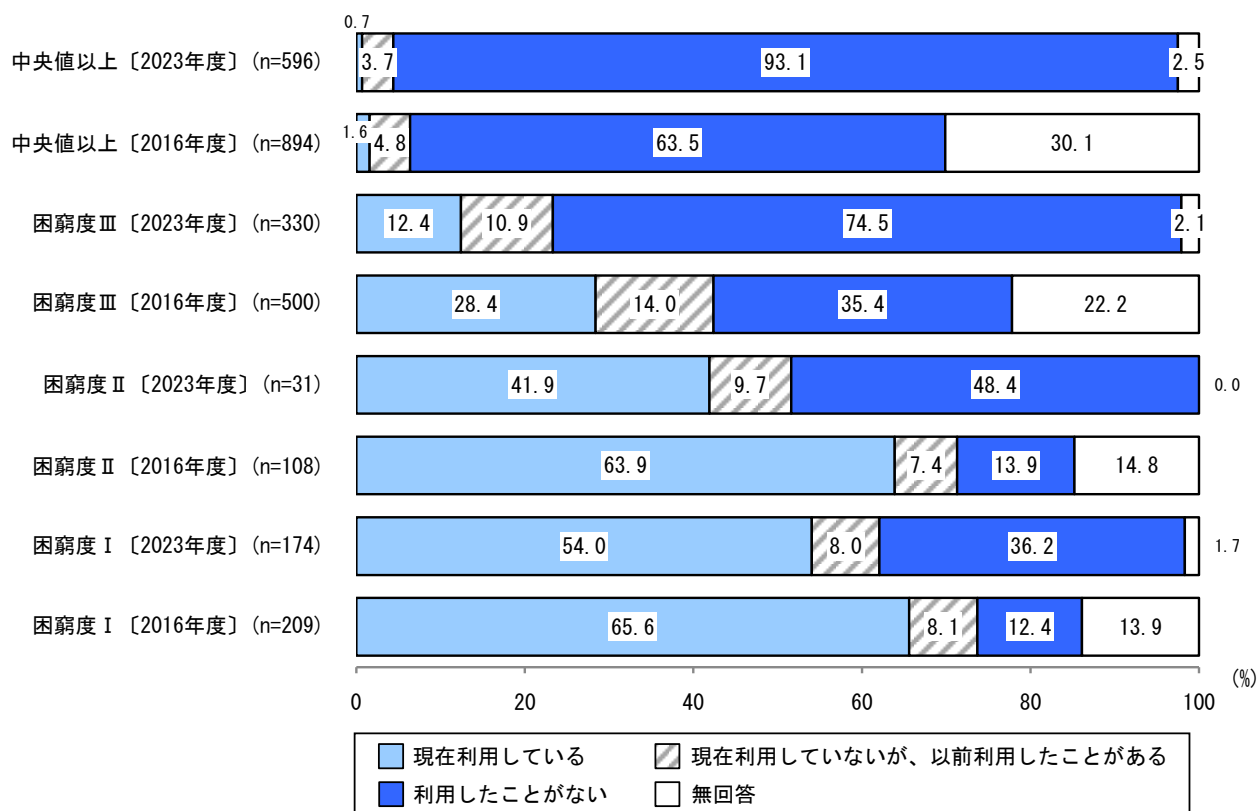


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「現在利用している」と回答した割合が54.0%と最も高い。

<2016年度調査との比較／八尾市>



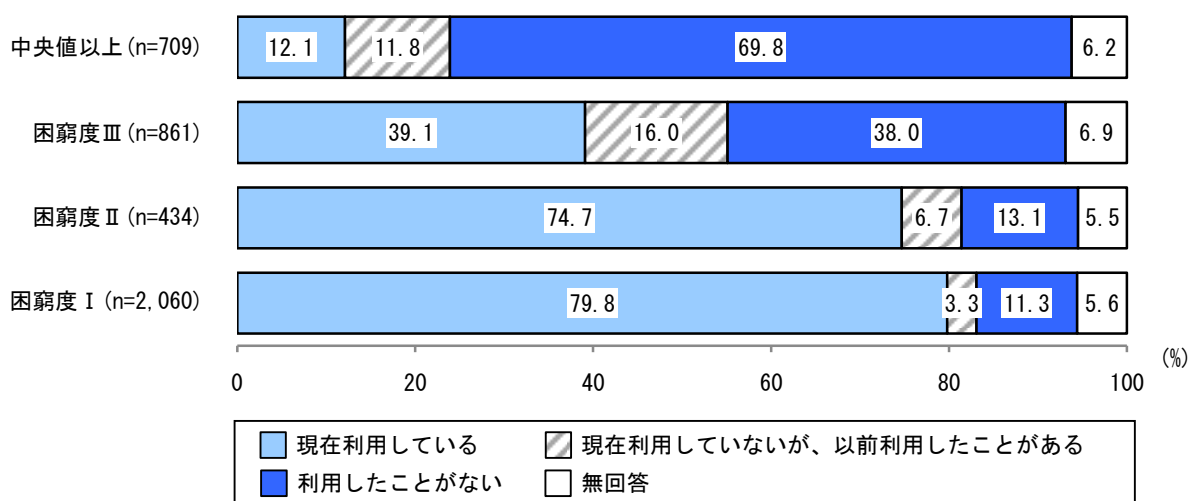
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっており、一方で、「利用したことがない」は2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<八尾市>

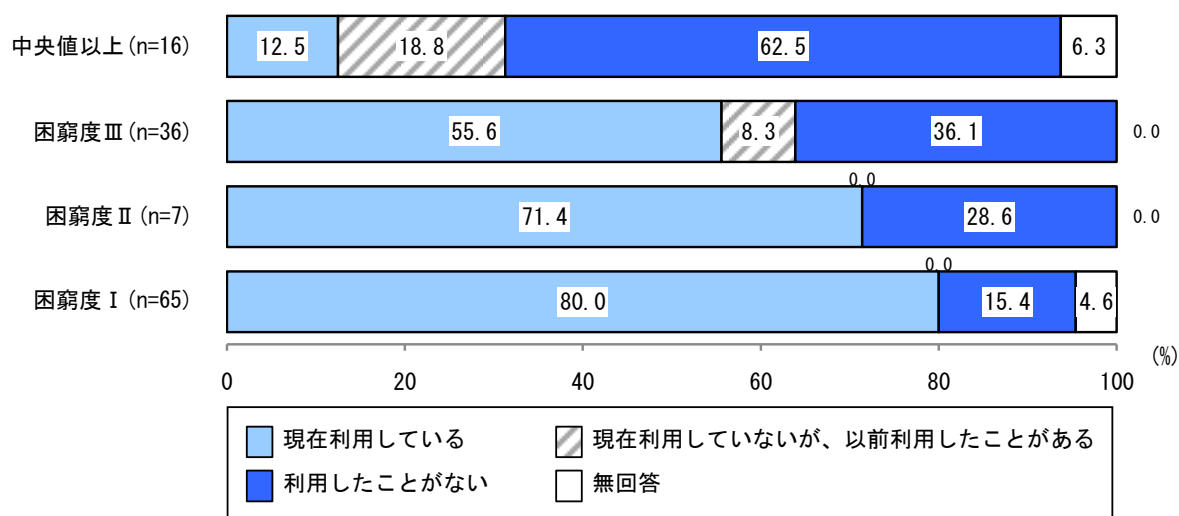


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなり、困窮度Ⅰ群では80.0%と最も高くなっている。

<2016年度調査との比較／八尾市>

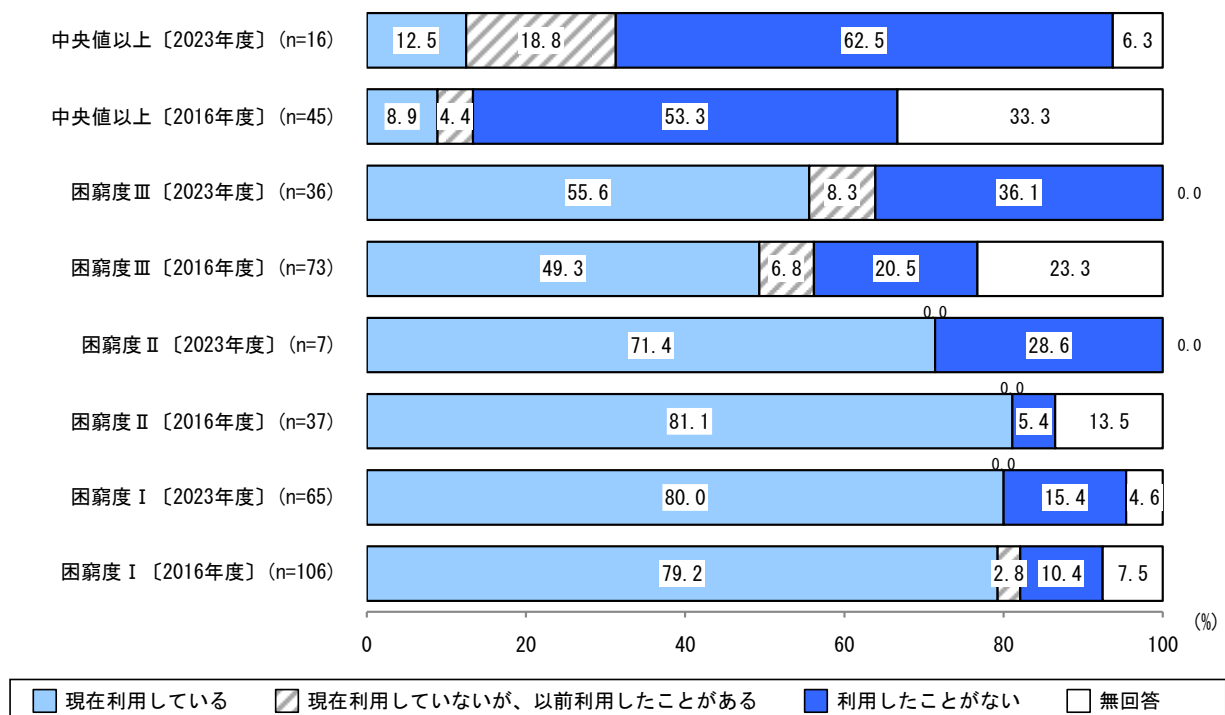
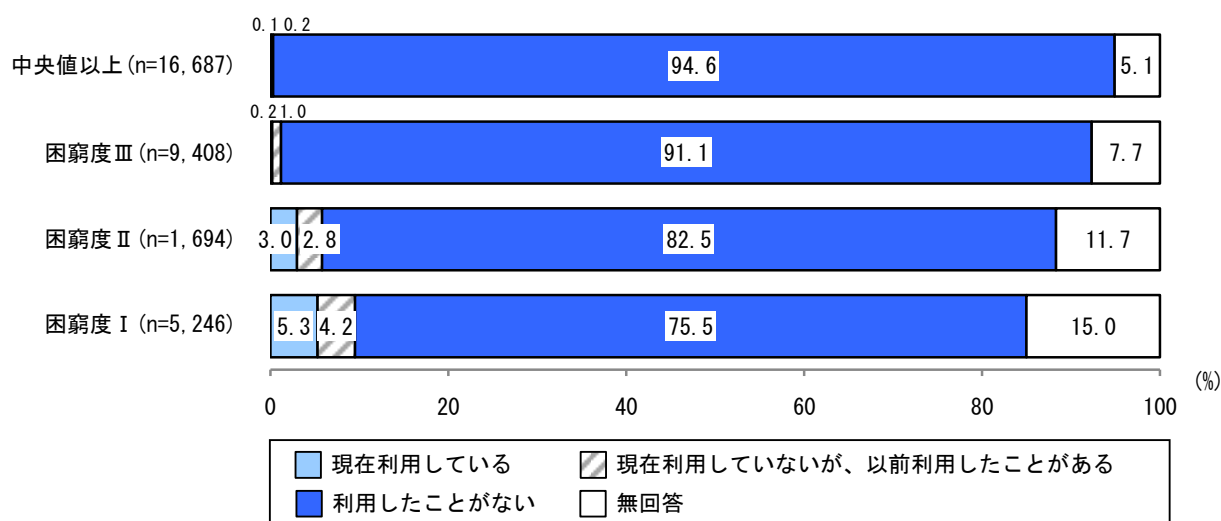


図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群では2016年度調査より割合が低い、それ以外の困窮度では2016年度調査よりも高くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<八尾市>

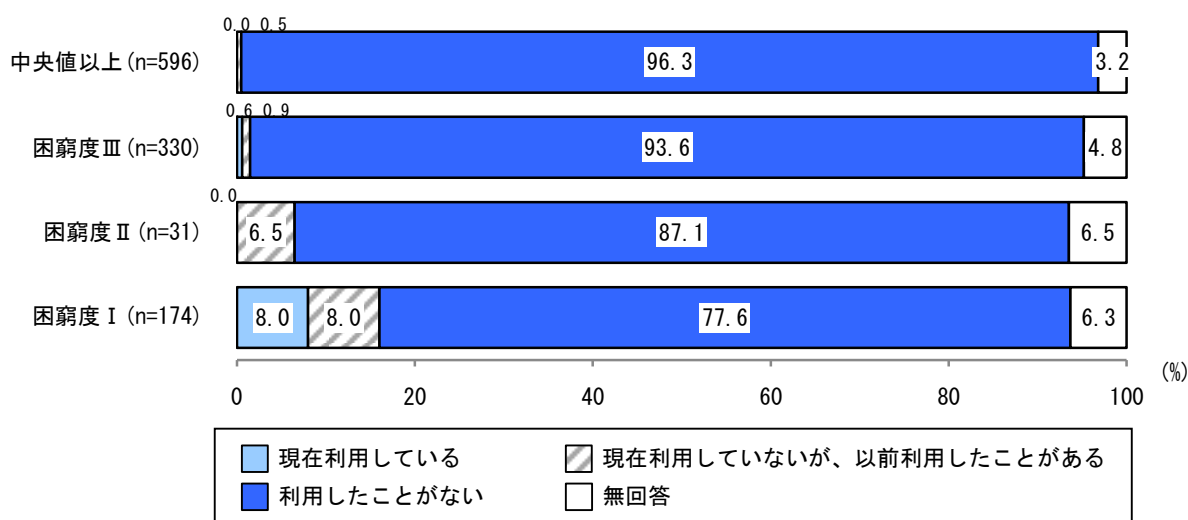


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群において8.0%で最も高くなっている。「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した割合も困窮度Ⅰ群が8.0%で最も高い。

<2016年度調査との比較／八尾市>

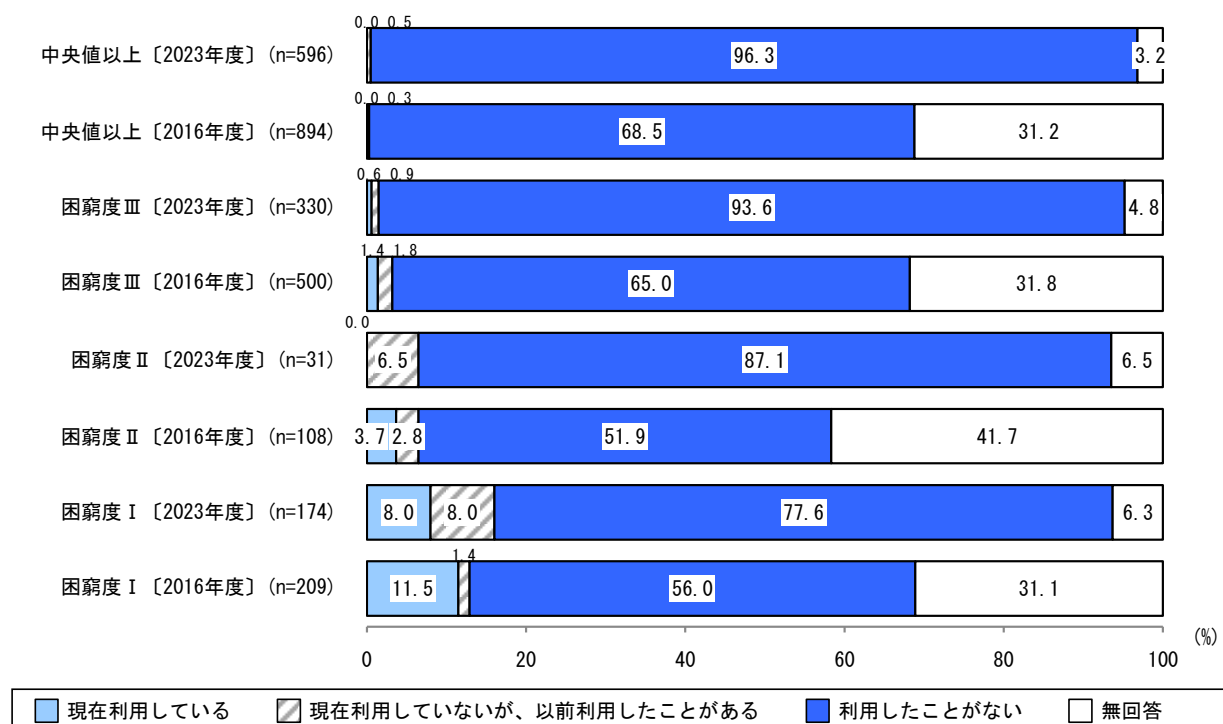
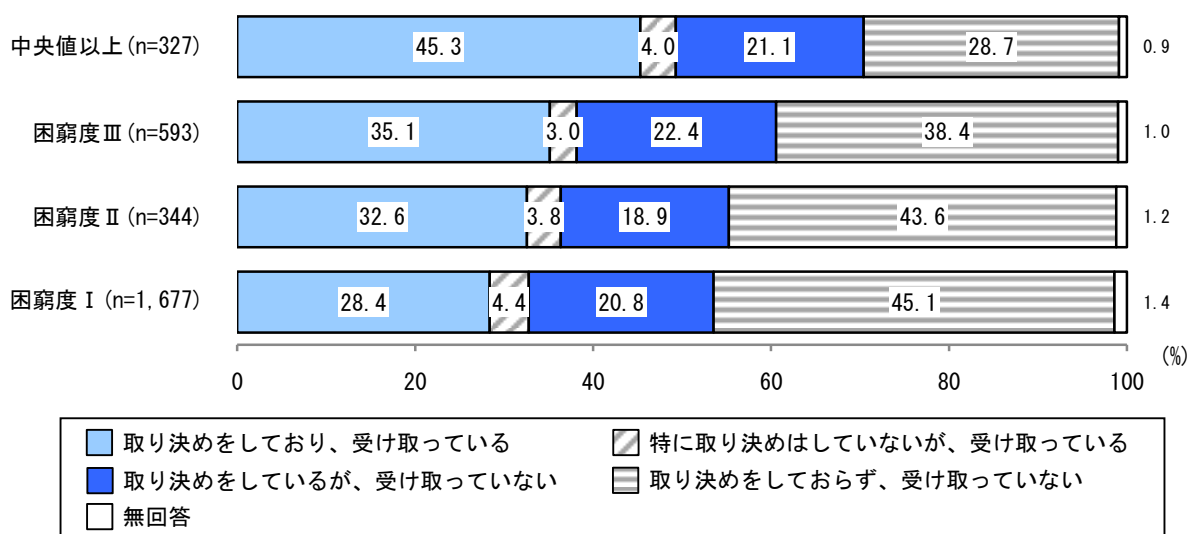


図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ群とも2016年度調査より割合が低くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<八尾市>

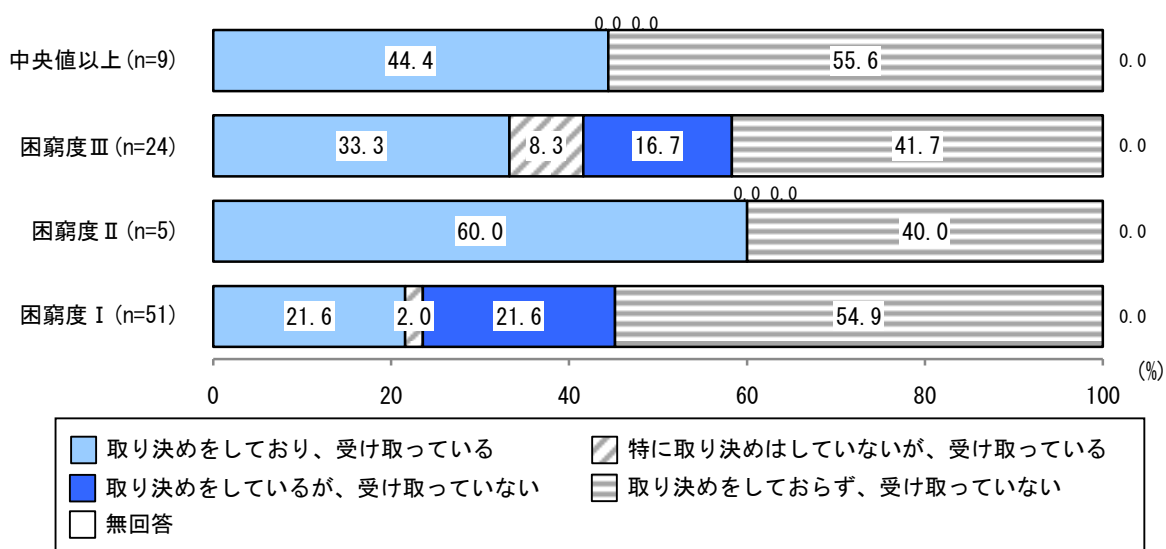
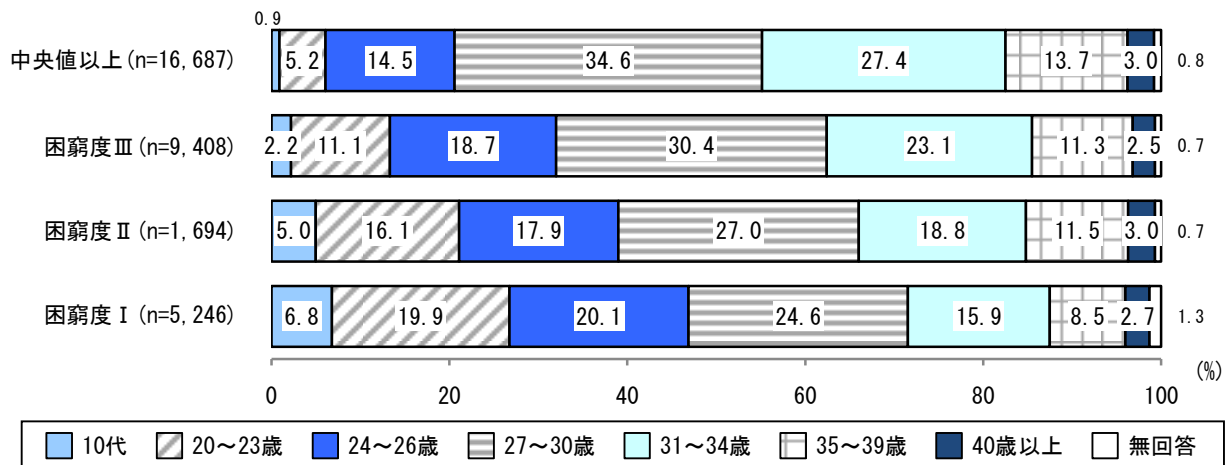


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は21.6%と最も低い。また、困窮度Ⅰ群では「取り決めをしておらず、受け取っていない」(54.9%)、「取り決めをしているが、受け取っていない」(21.6%)のなんらか養育費を受け取っていないと回答した割合をあわせると76.5%となり、最も高い。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<八尾市>

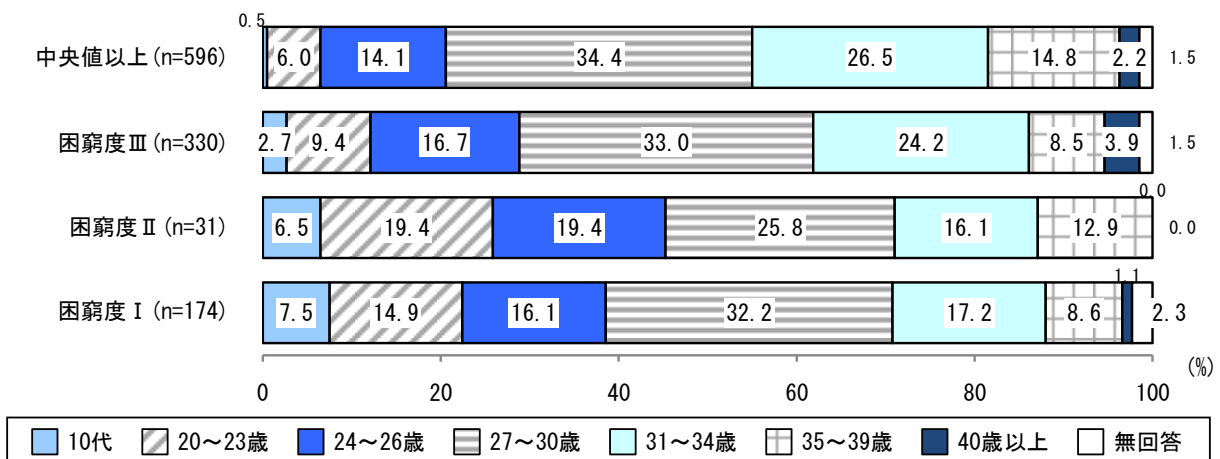
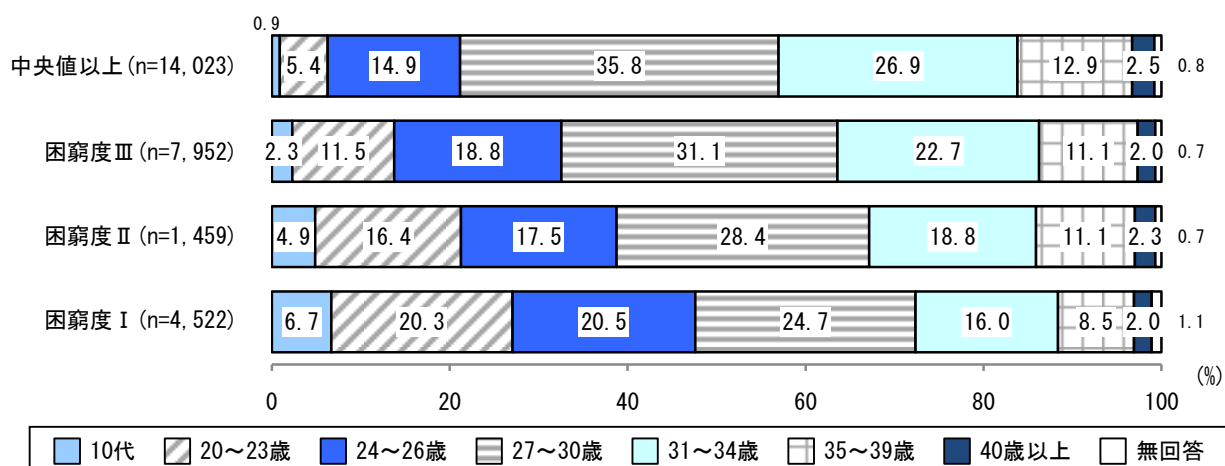


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「10代」で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<八尾市>

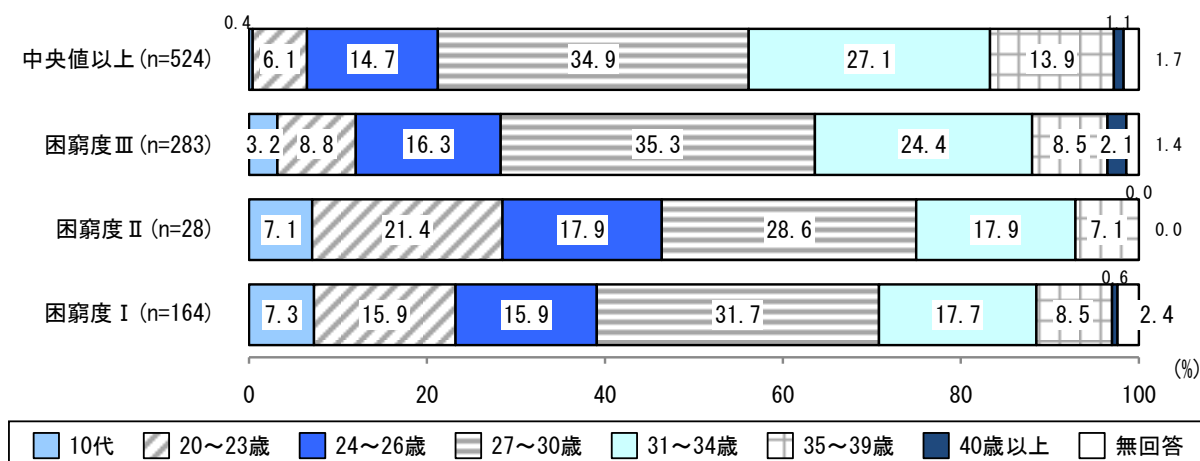
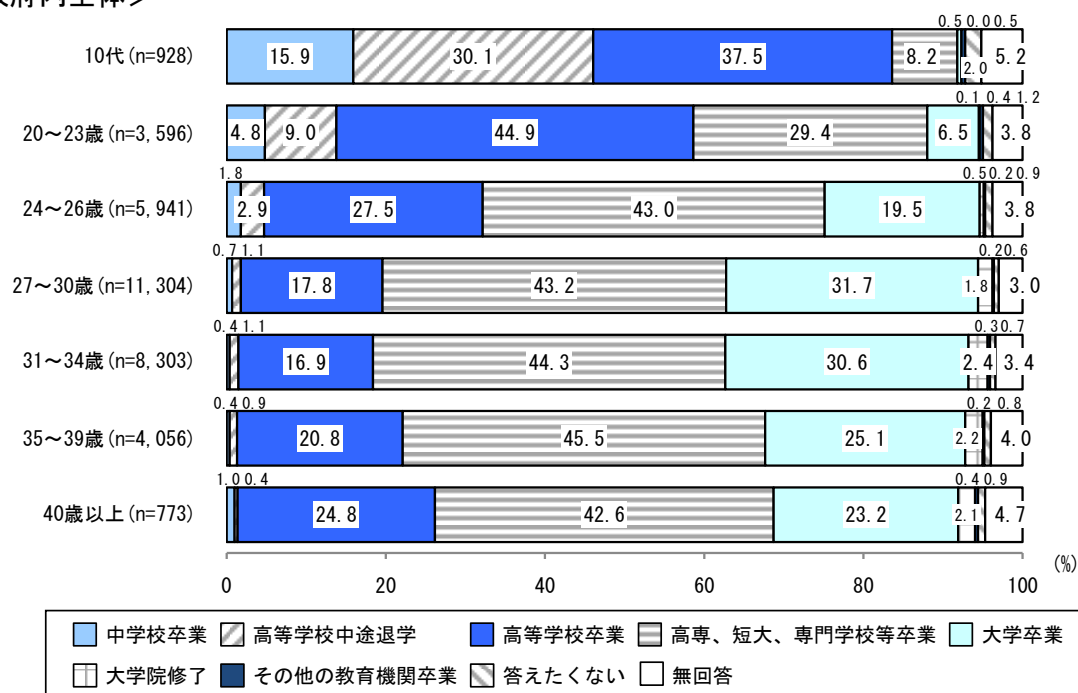


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「10代」で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<八尾市>

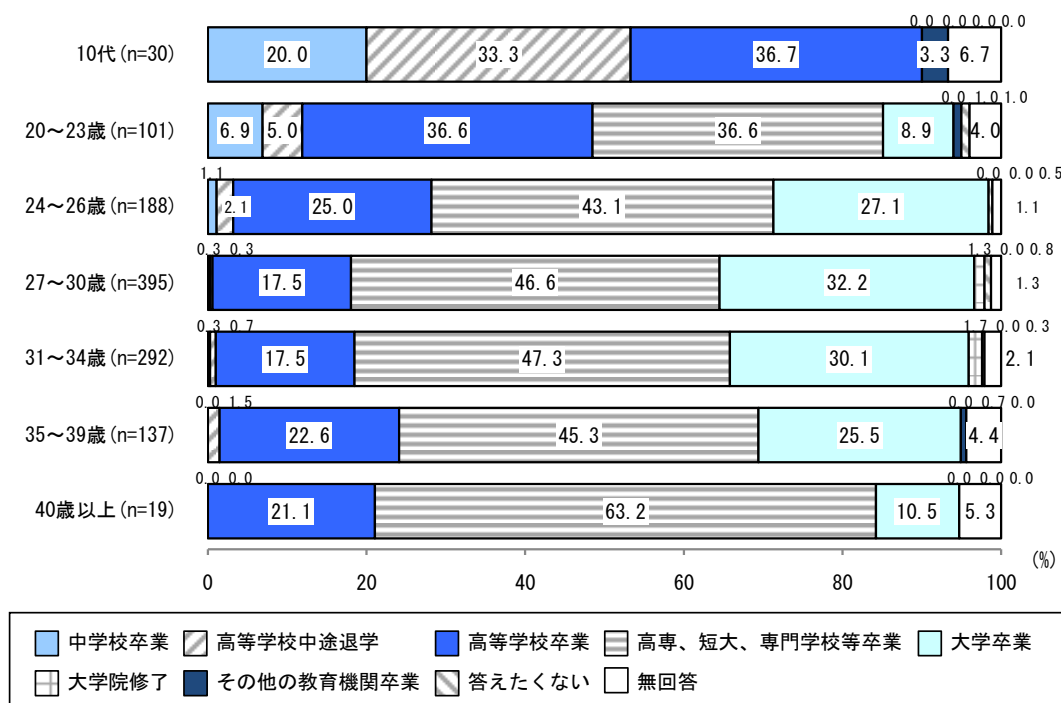
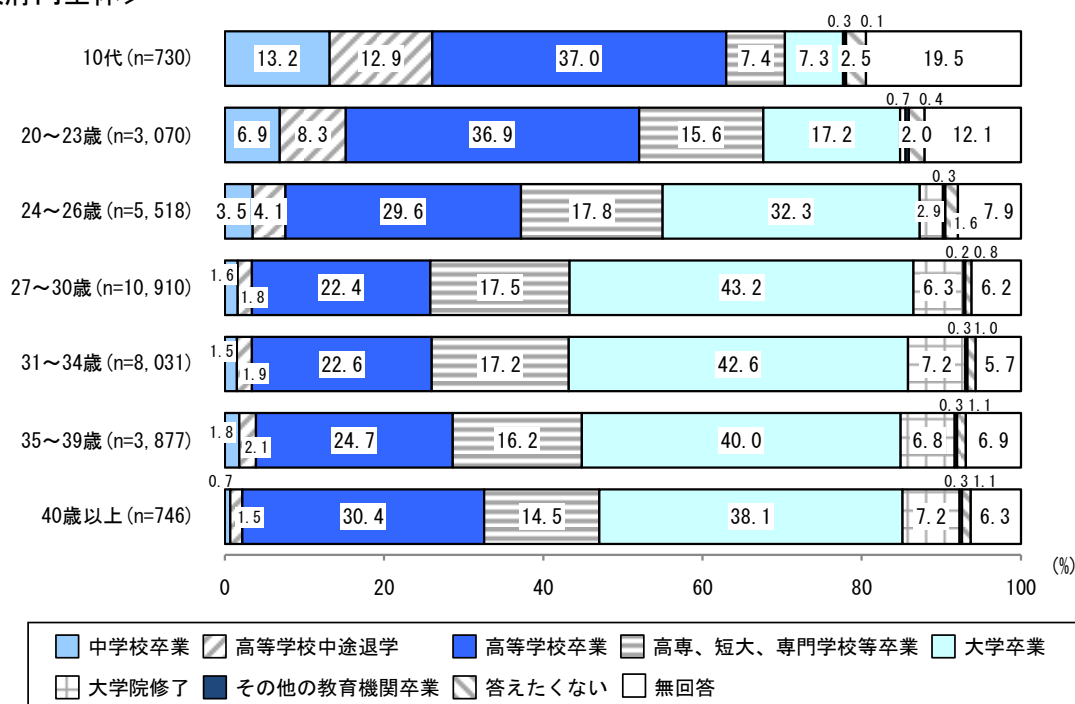


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（20.0%）または「高等学校中途退学」（33.3%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<八尾市>

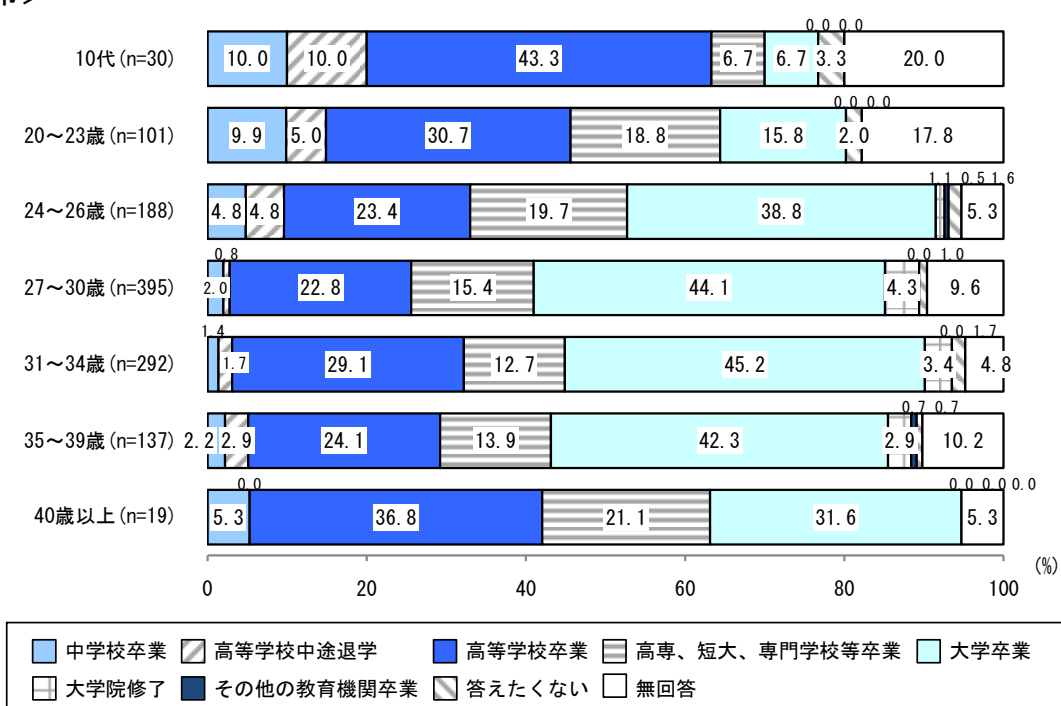
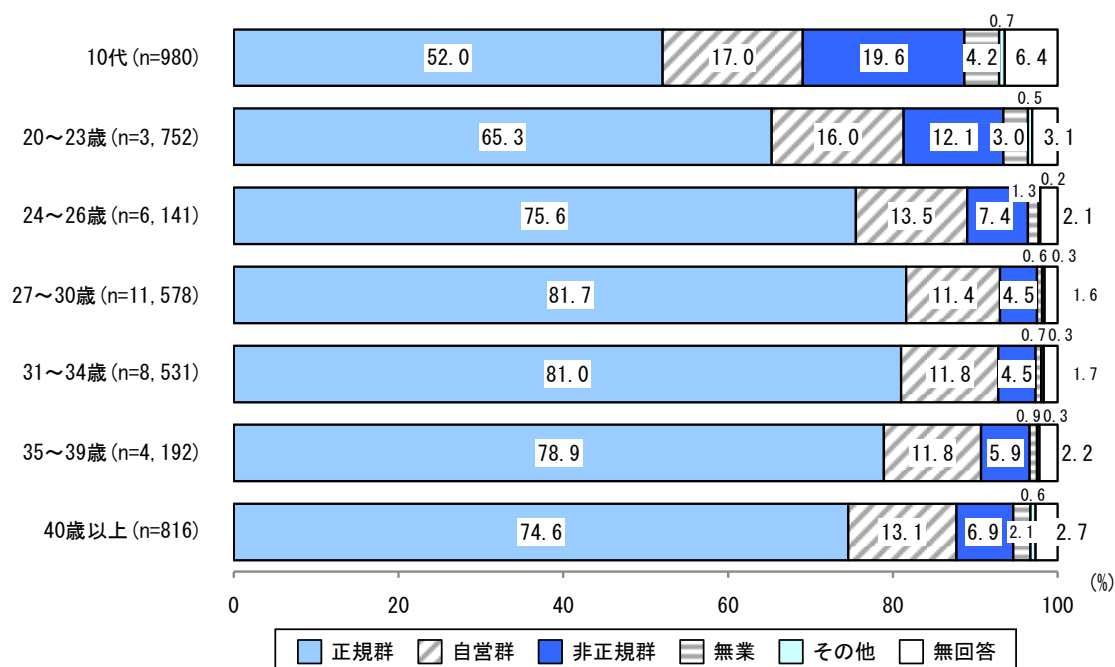


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（10.0%）、「高等学校中途退学」（10.0%）、「高等学校卒業」（43.3%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<八尾市>

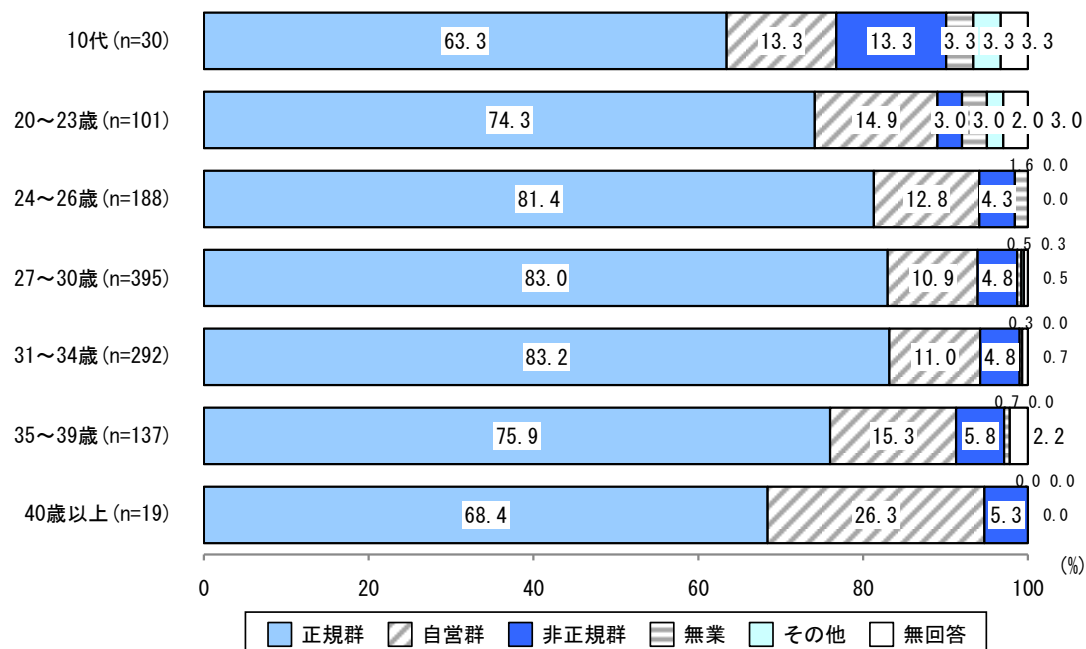
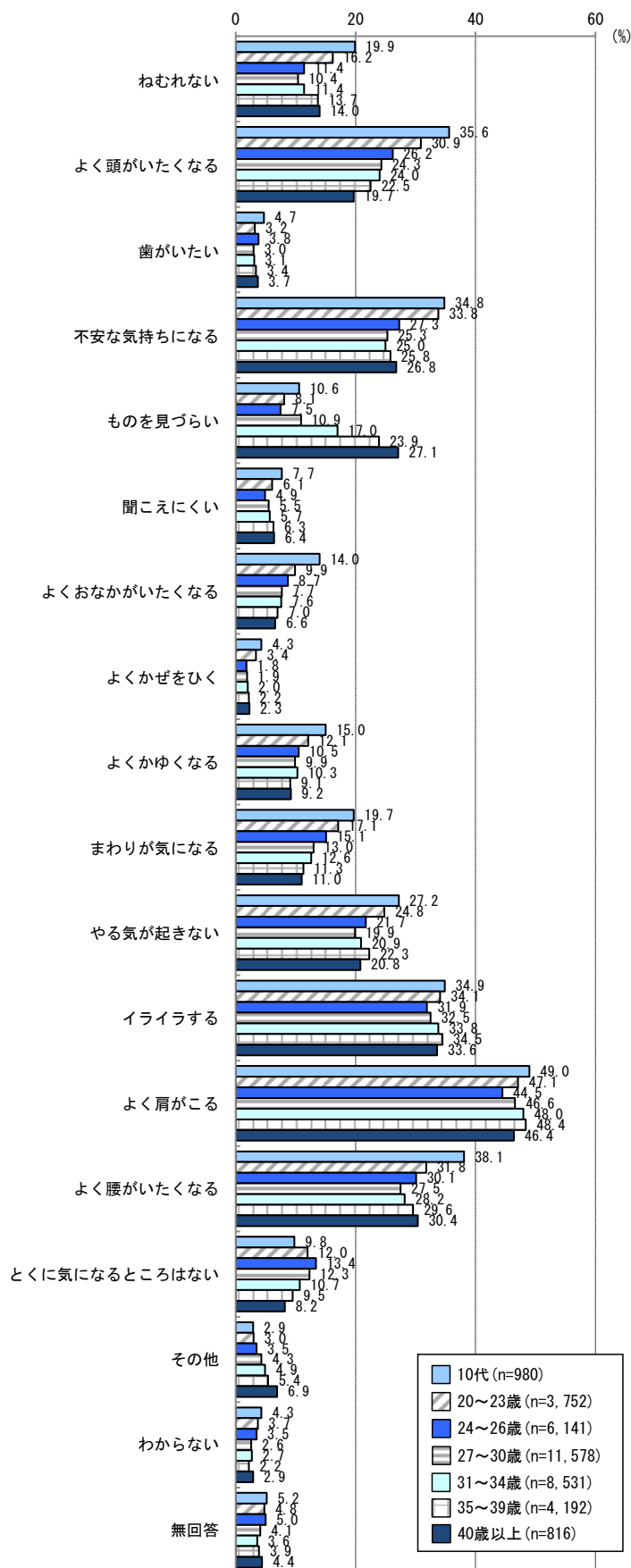


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

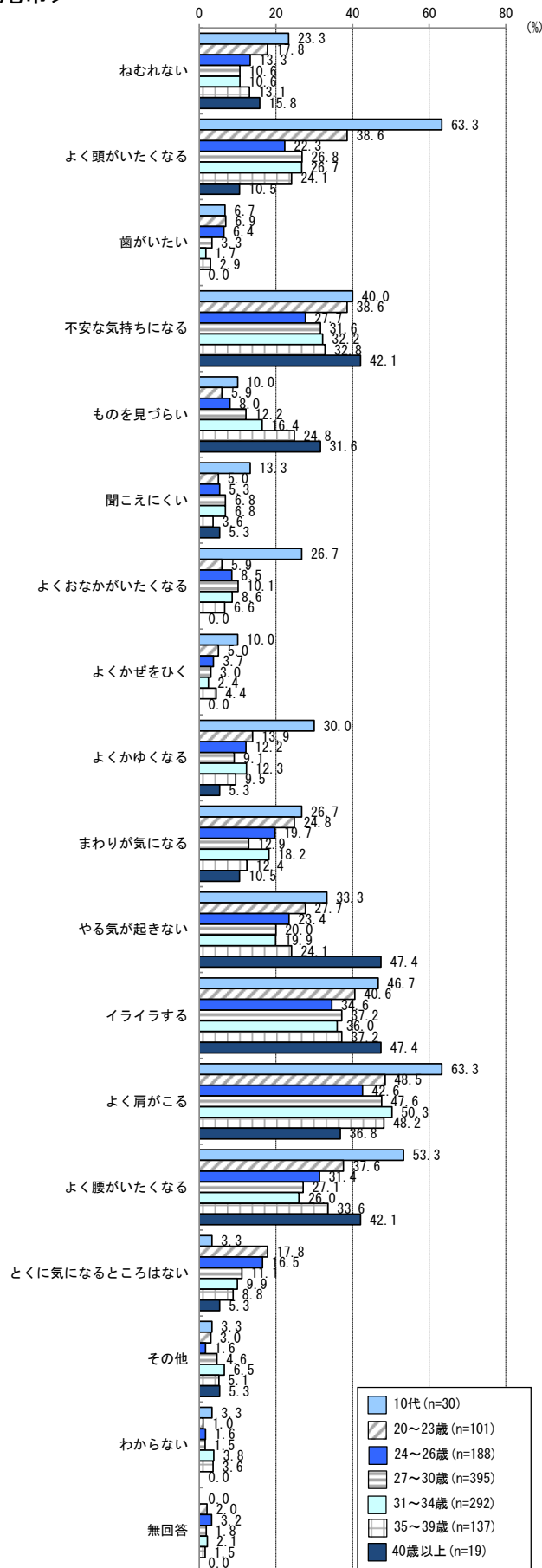
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の群と比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

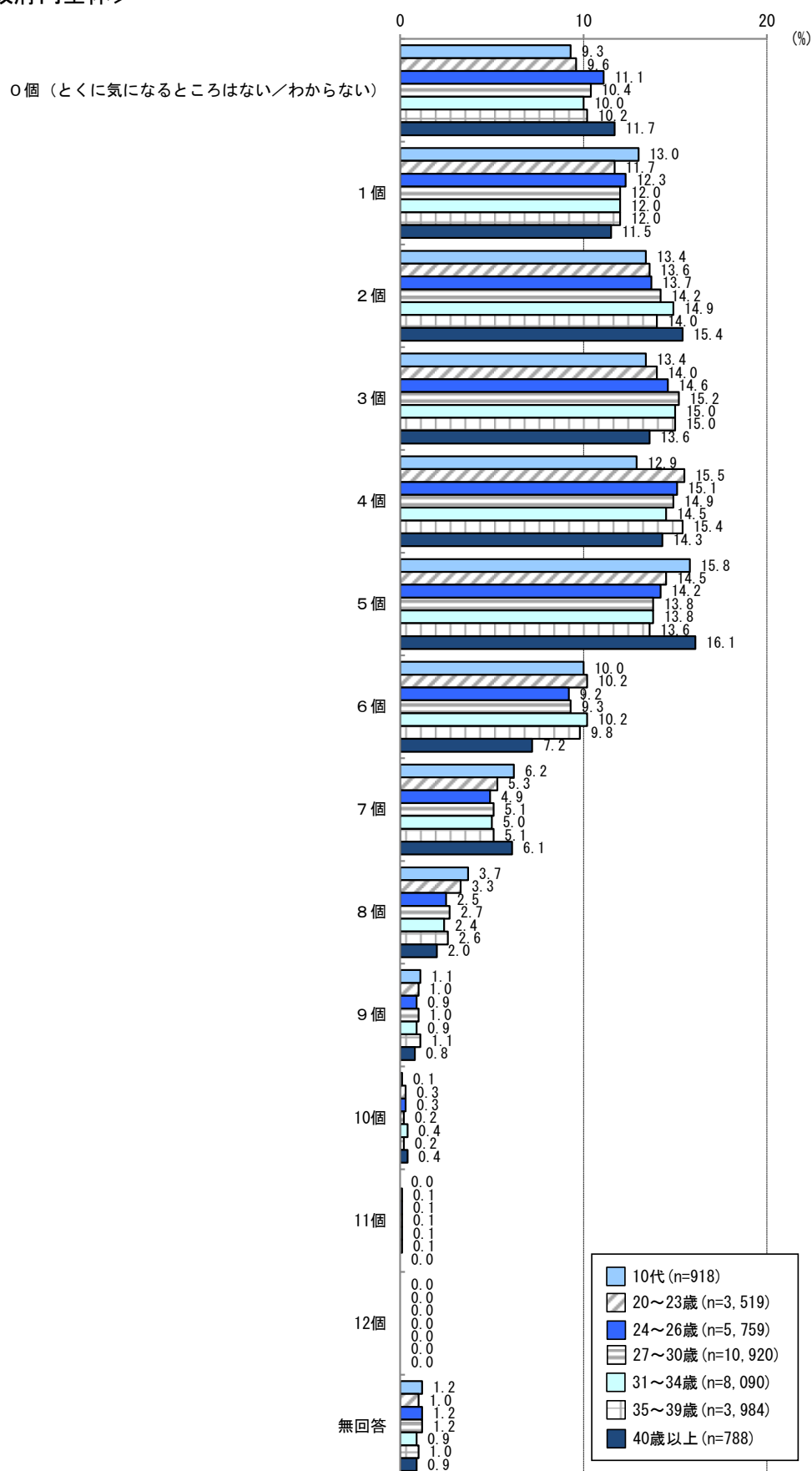


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、10代は他の年代と比較して「ねむれない」や「よく頭がいたくなる」、「聞こえにくい」、「よくおなかがいたくなる」、「よくかぜをひく」、「まわりが気になる」、「よく肩がこる」、「よく腰がいたくなる」の割合が高かった。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 17
× 子ども票問 19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<八尾市>

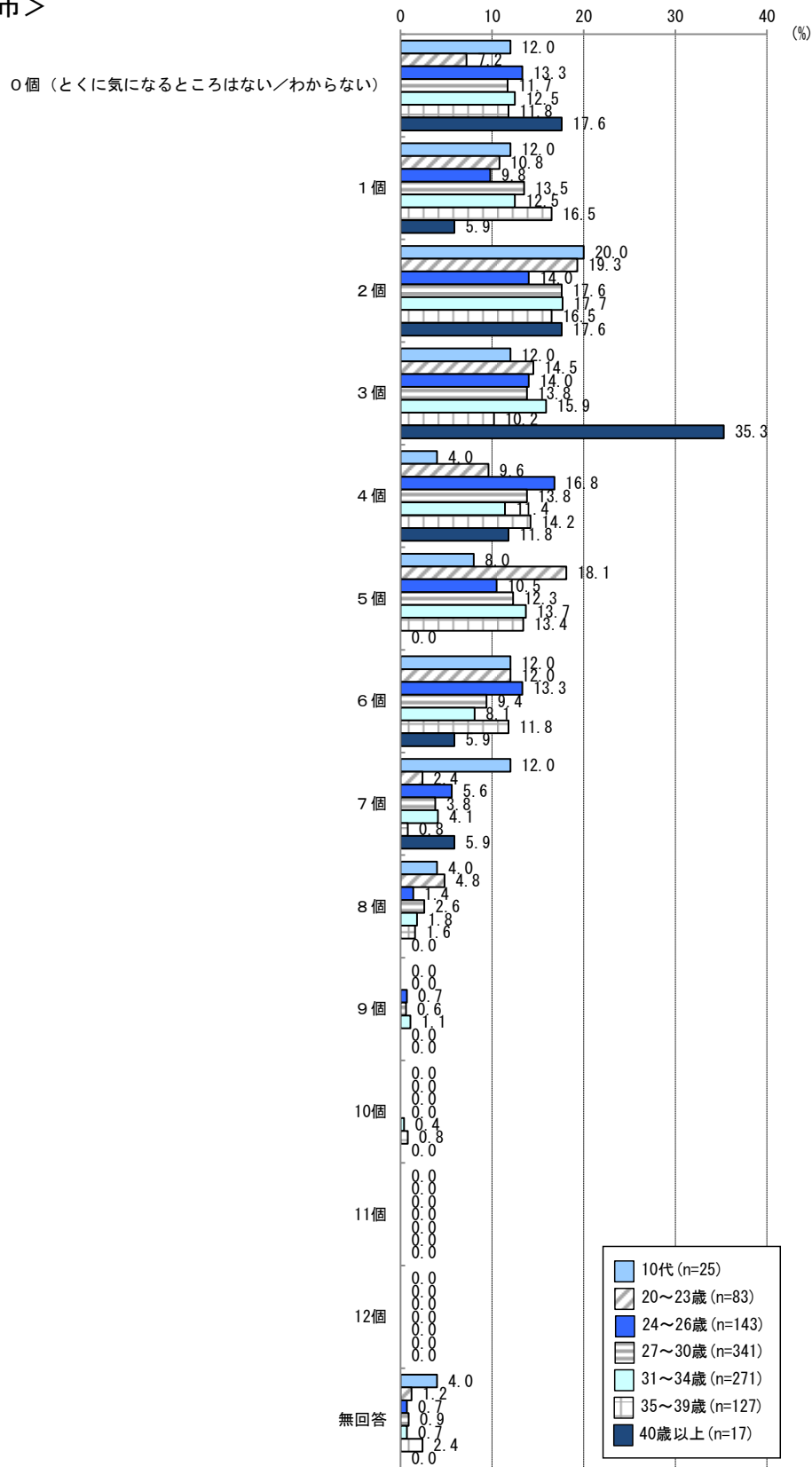
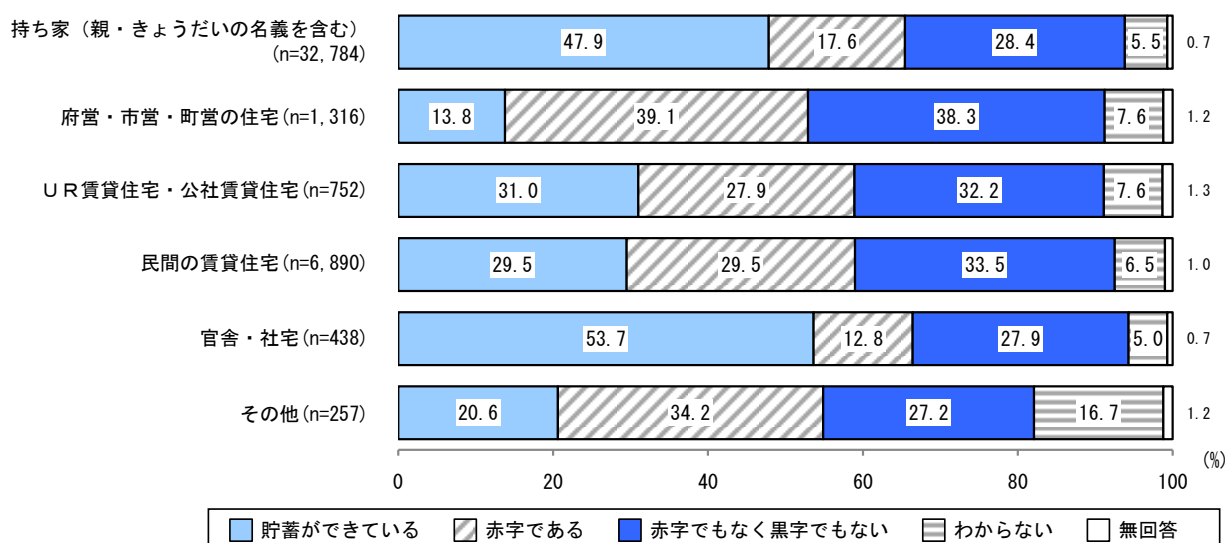


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年齢と比較して「2個」（20.0%）、「7個」（12.0%）の割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

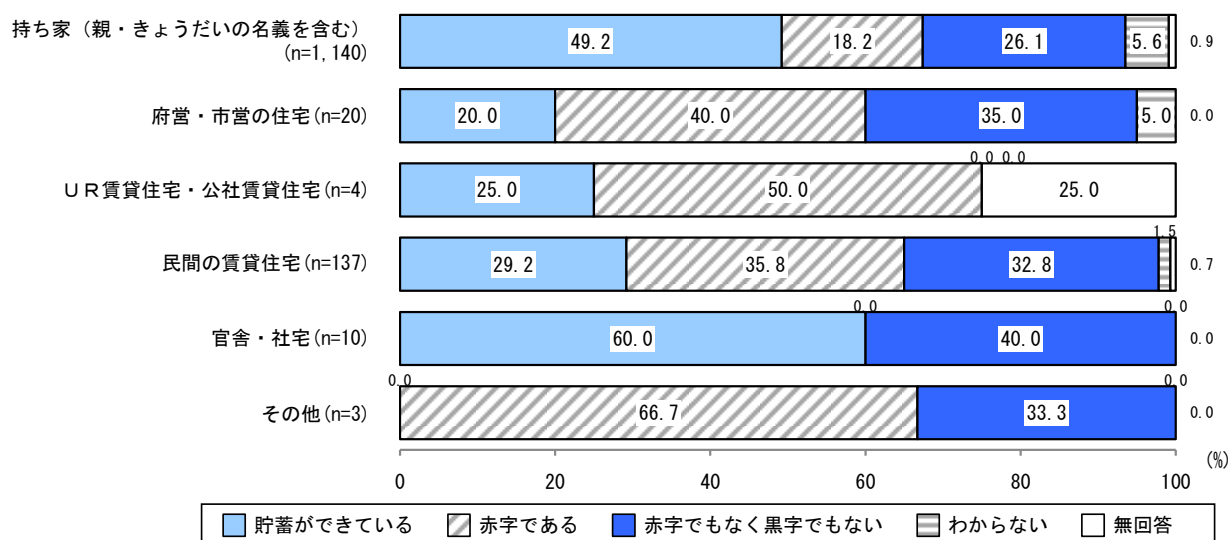
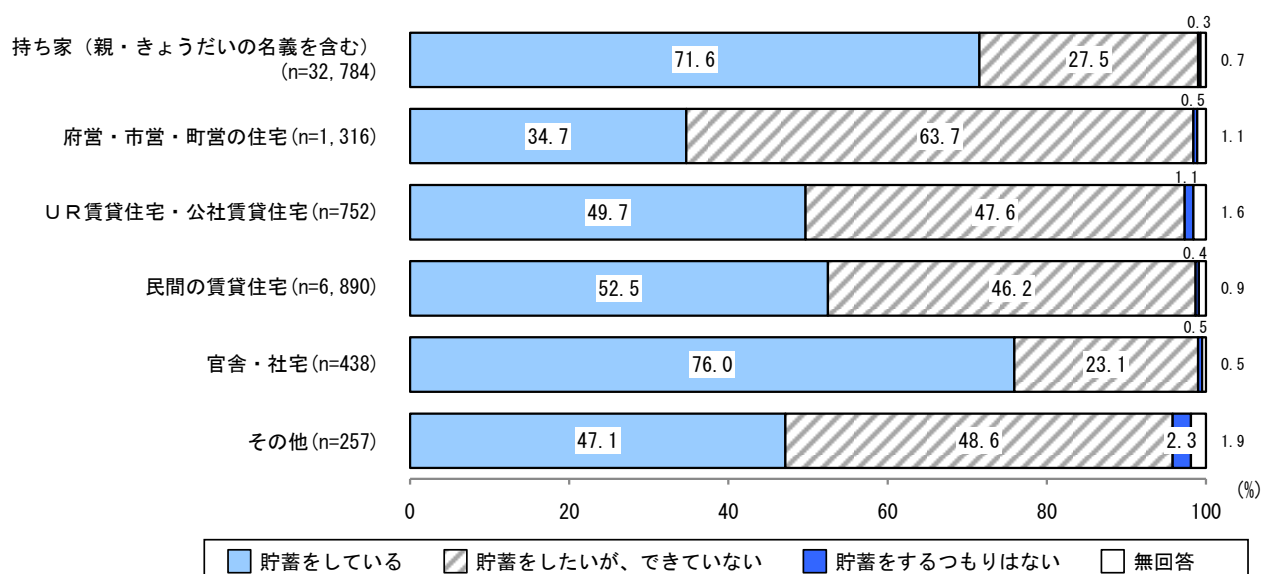


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別に家計状況を見ると、「赤字である」と回答した割合が、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅（50.0%）、府営・市営の住宅（40.0%）に住む人で高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は18.2%で最も低い。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

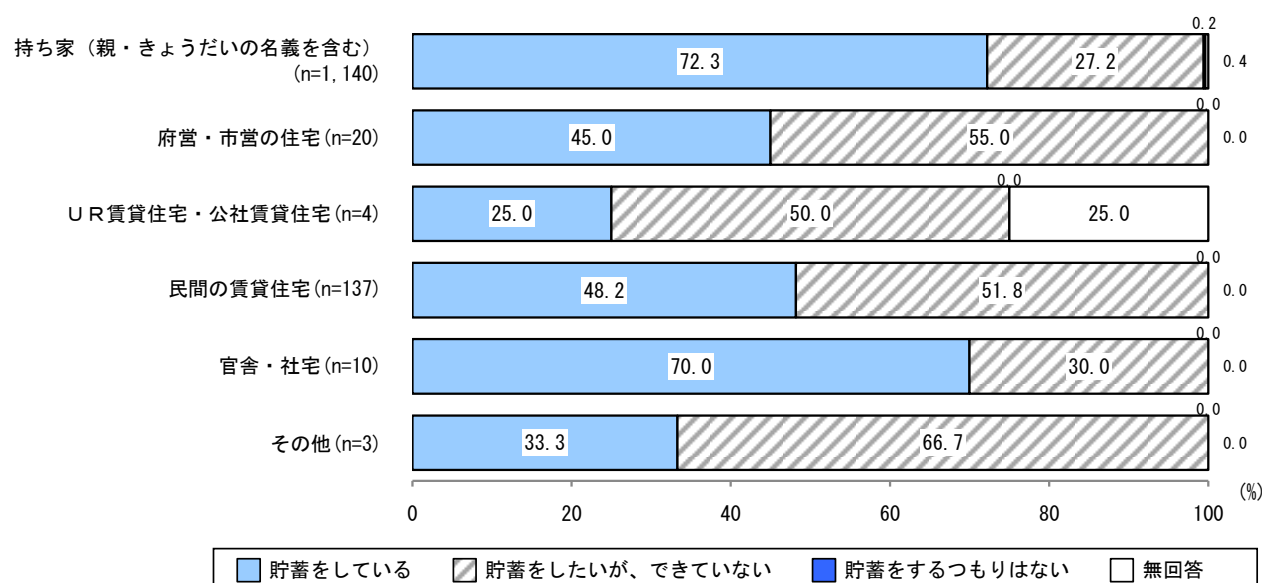
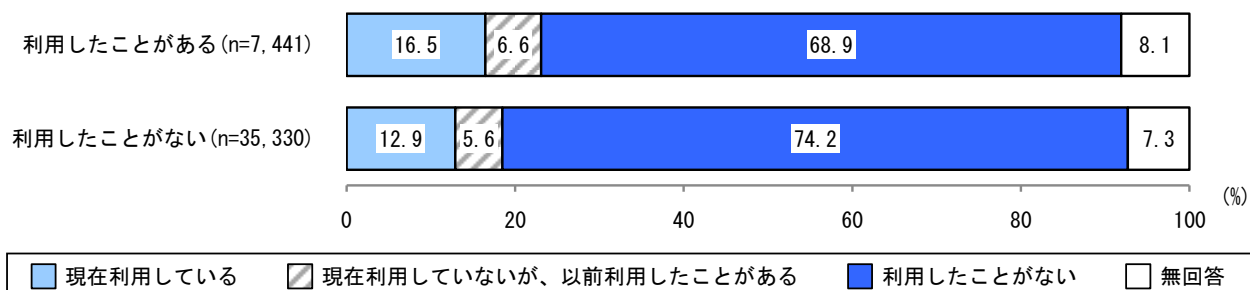


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が、府営・市営の住宅（55.0%）、民間の賃貸住宅（51.8%）、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅（50.0%）に住む人で高かった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<八尾市>

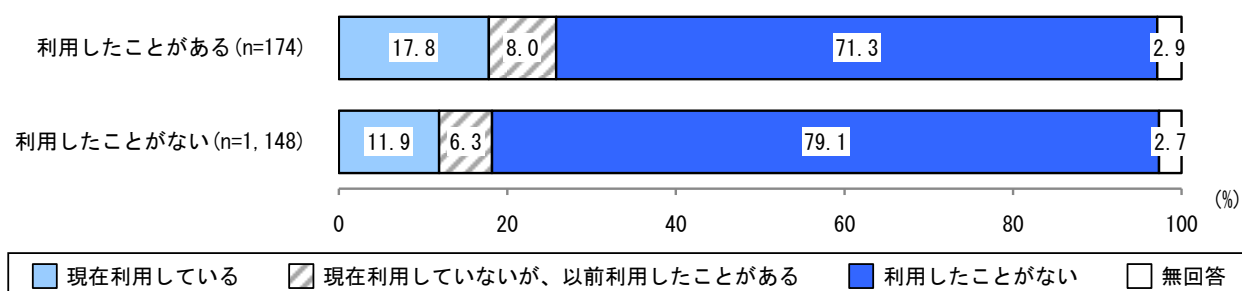
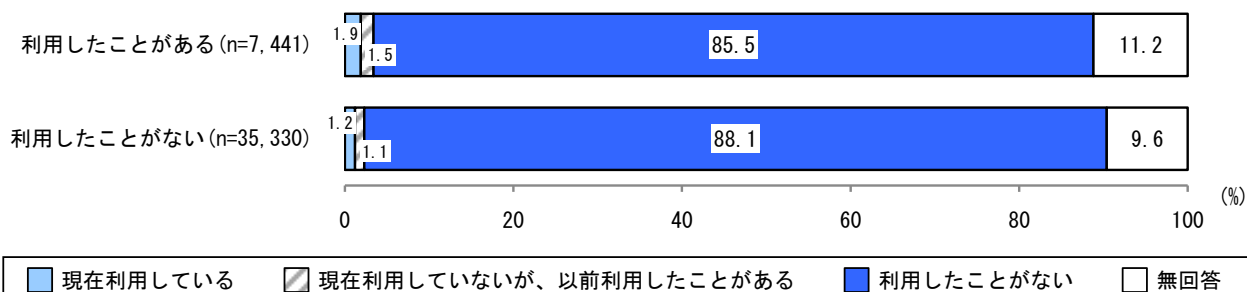


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがない人より利用したことがある人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<八尾市>

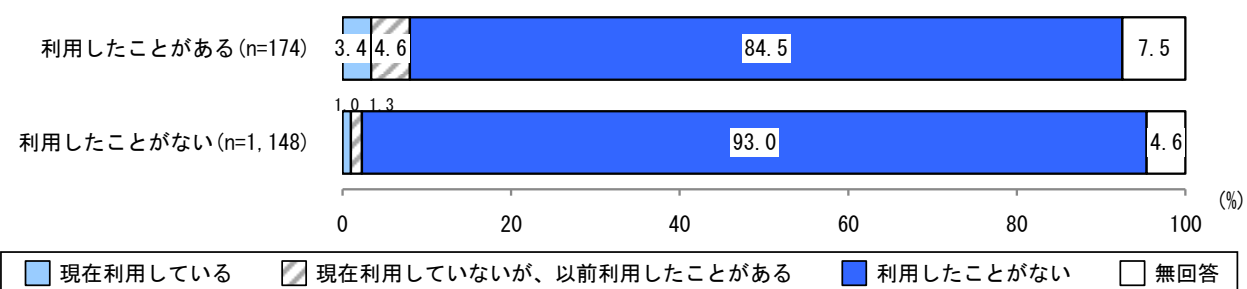
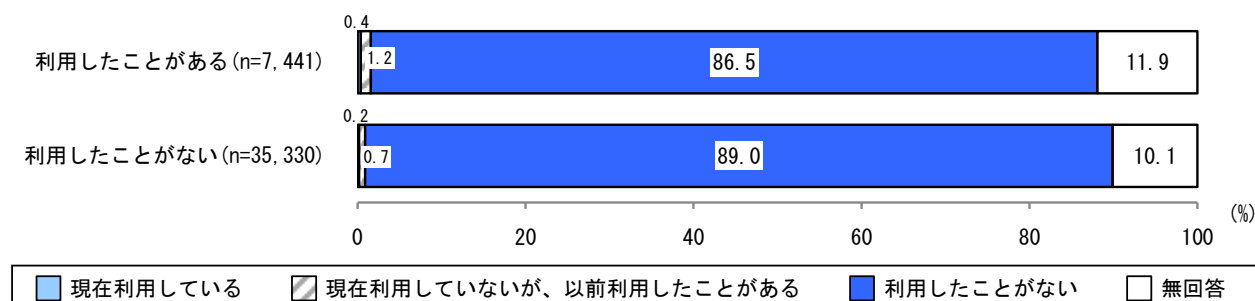


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<八尾市>

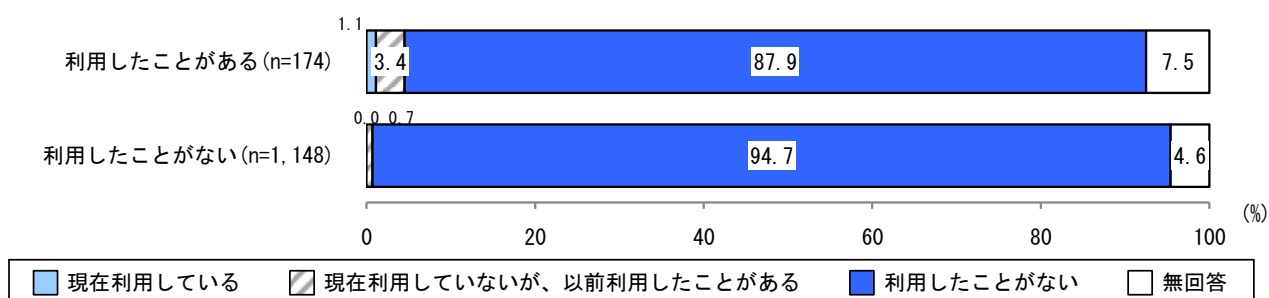
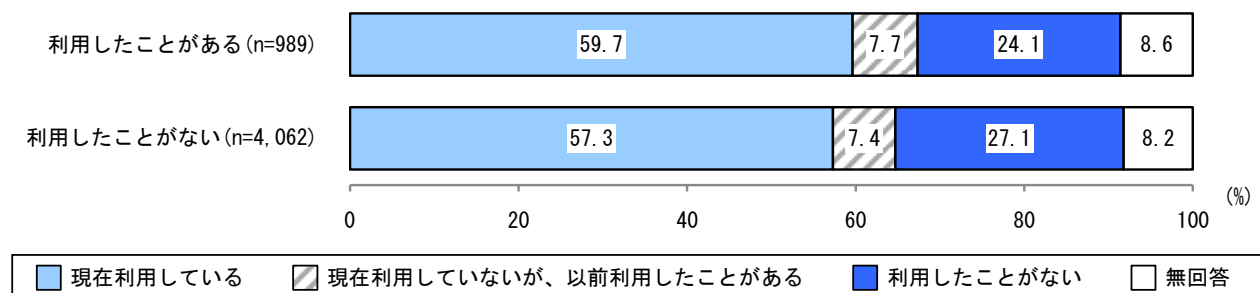


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<八尾市>

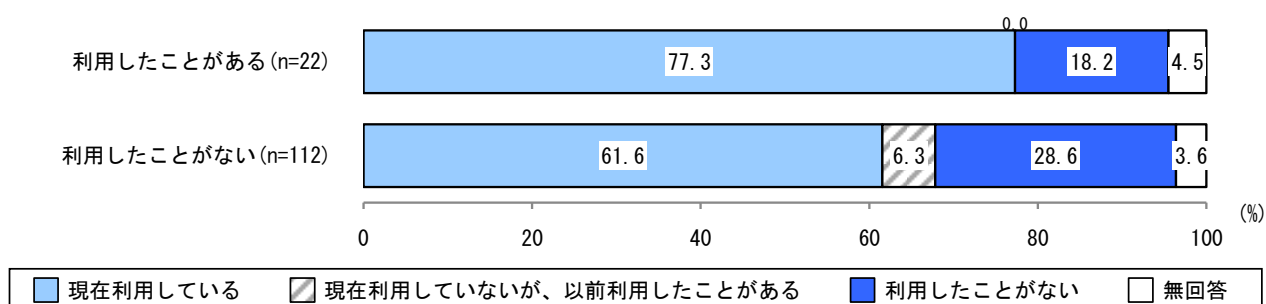
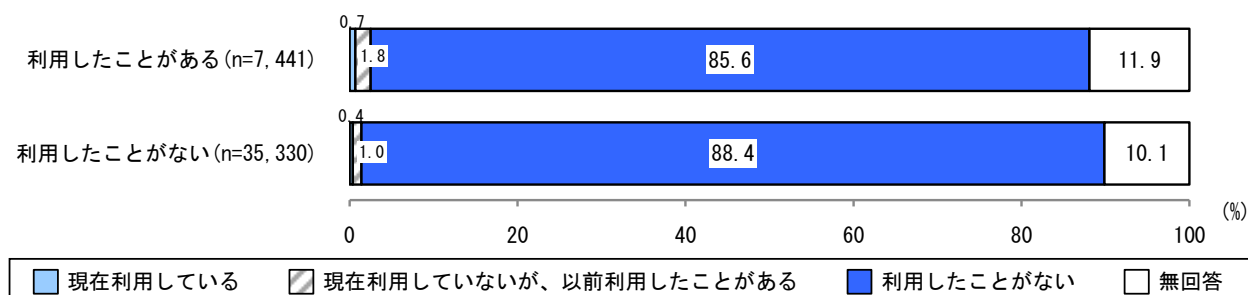


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがない人より利用したことがある人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<八尾市>

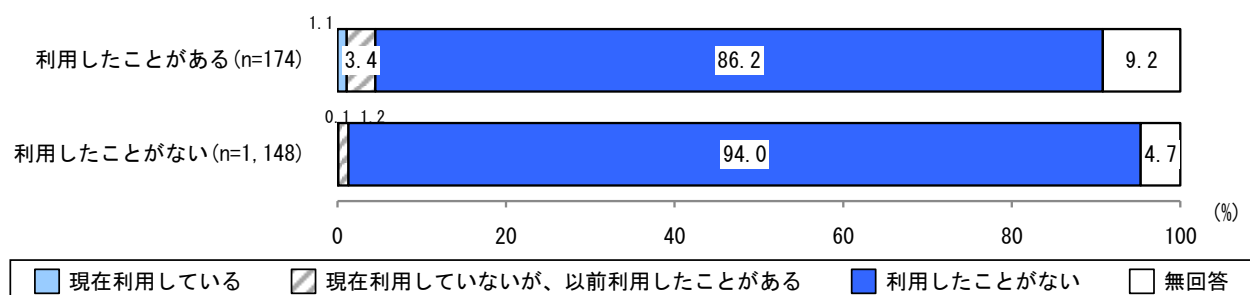
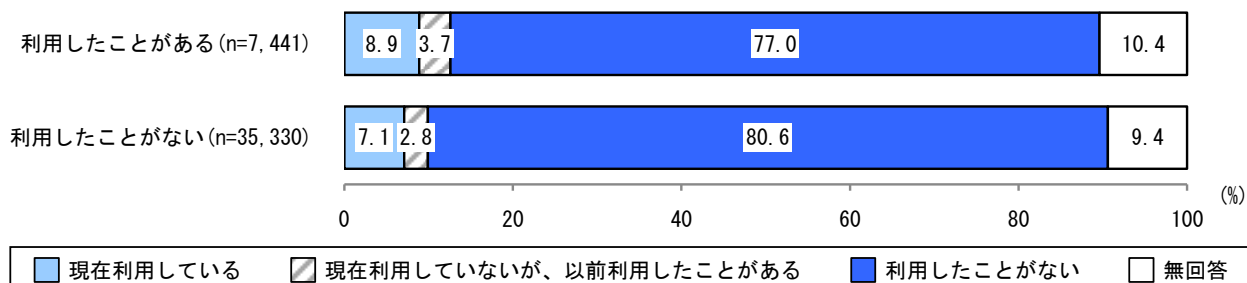


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが母子家庭等就業・自立支援センターを「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f)

<大阪府内全体>



<八尾市>

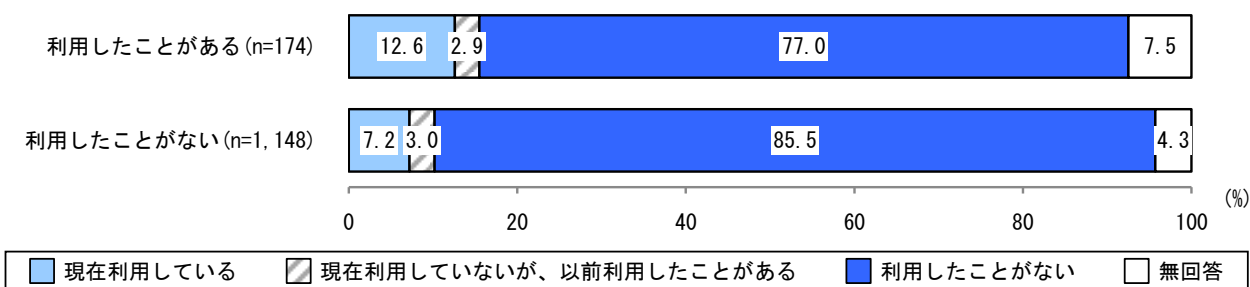
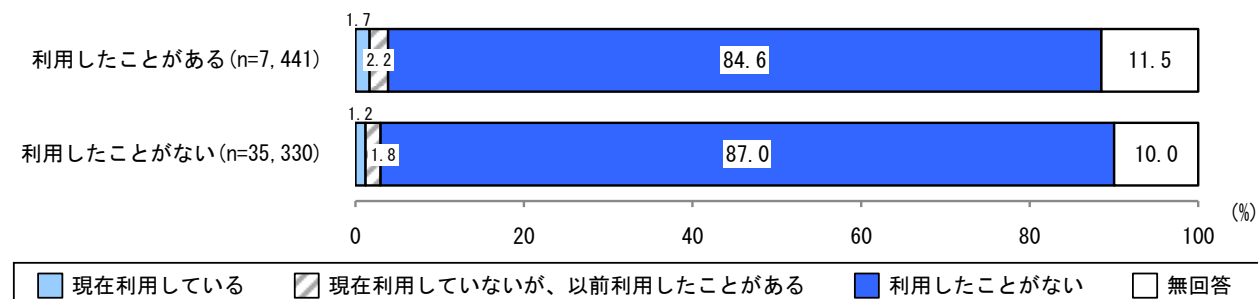


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<八尾市>

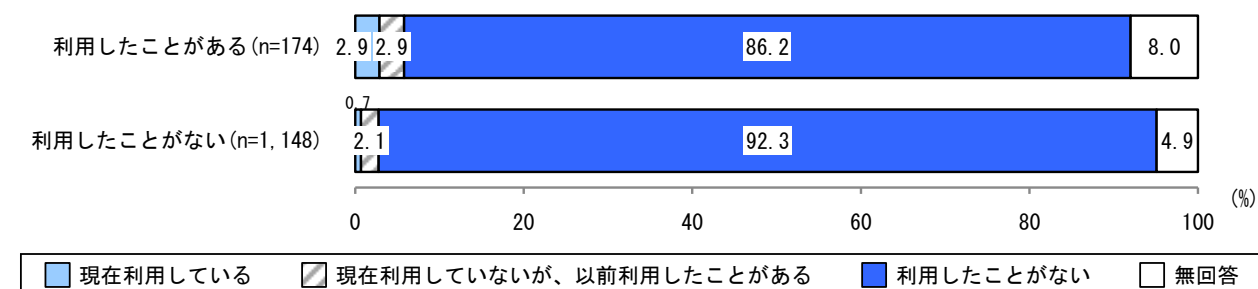
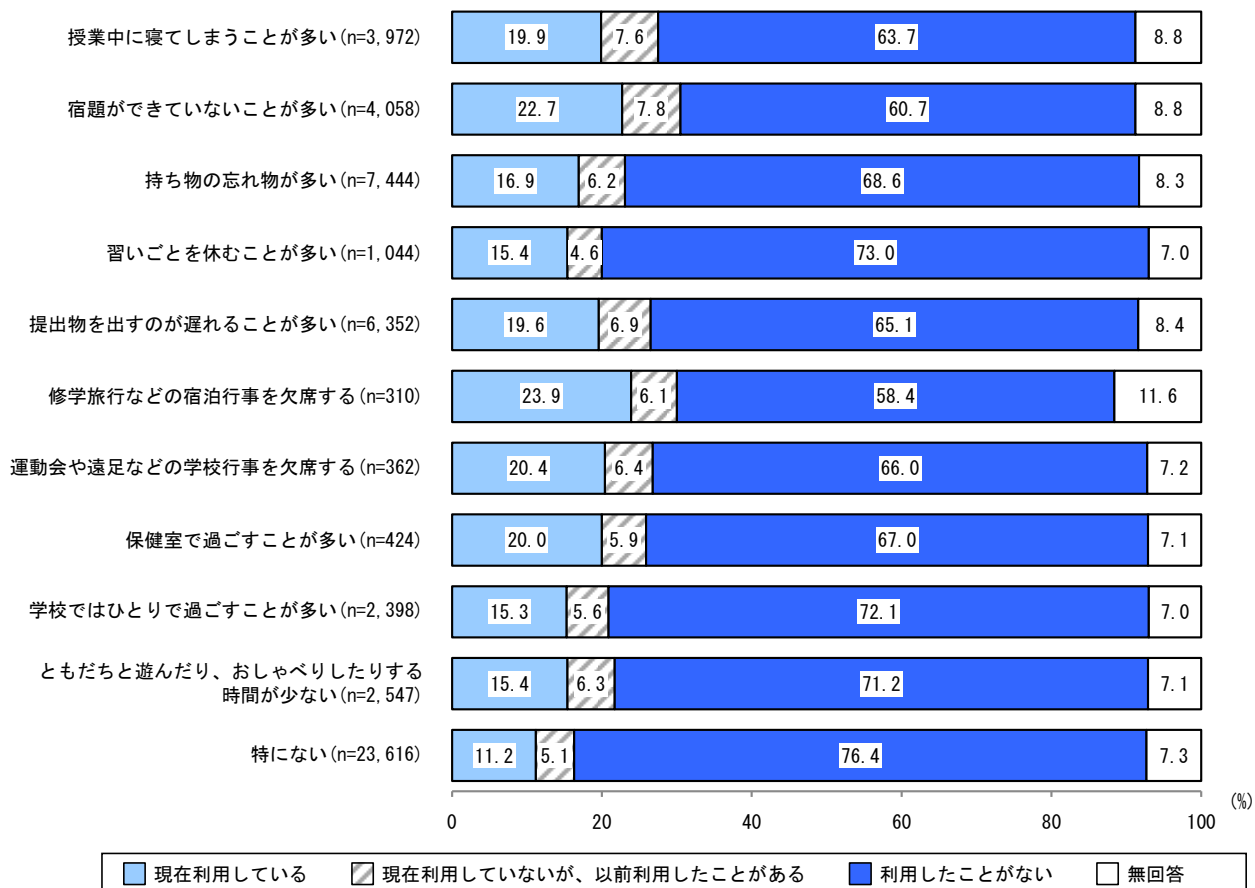


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<八尾市>

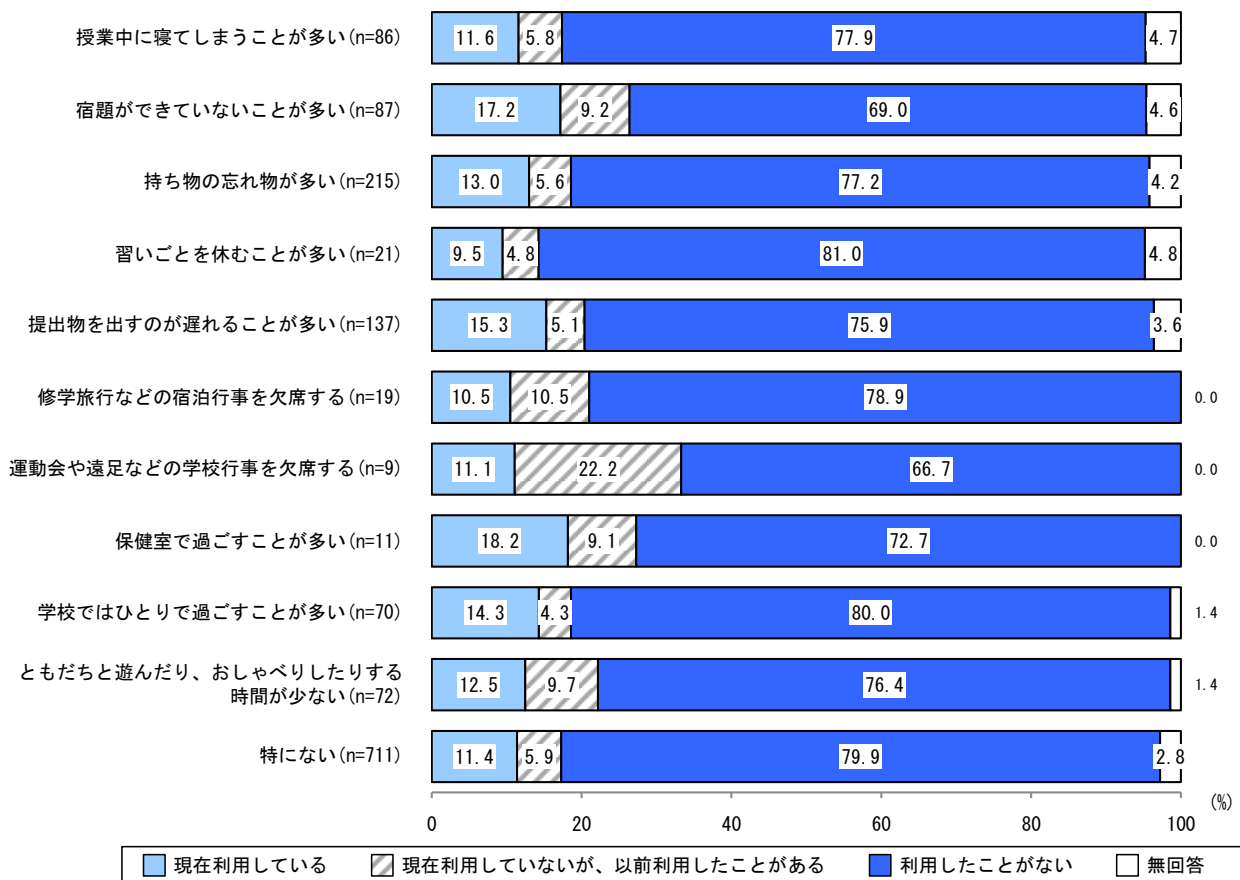
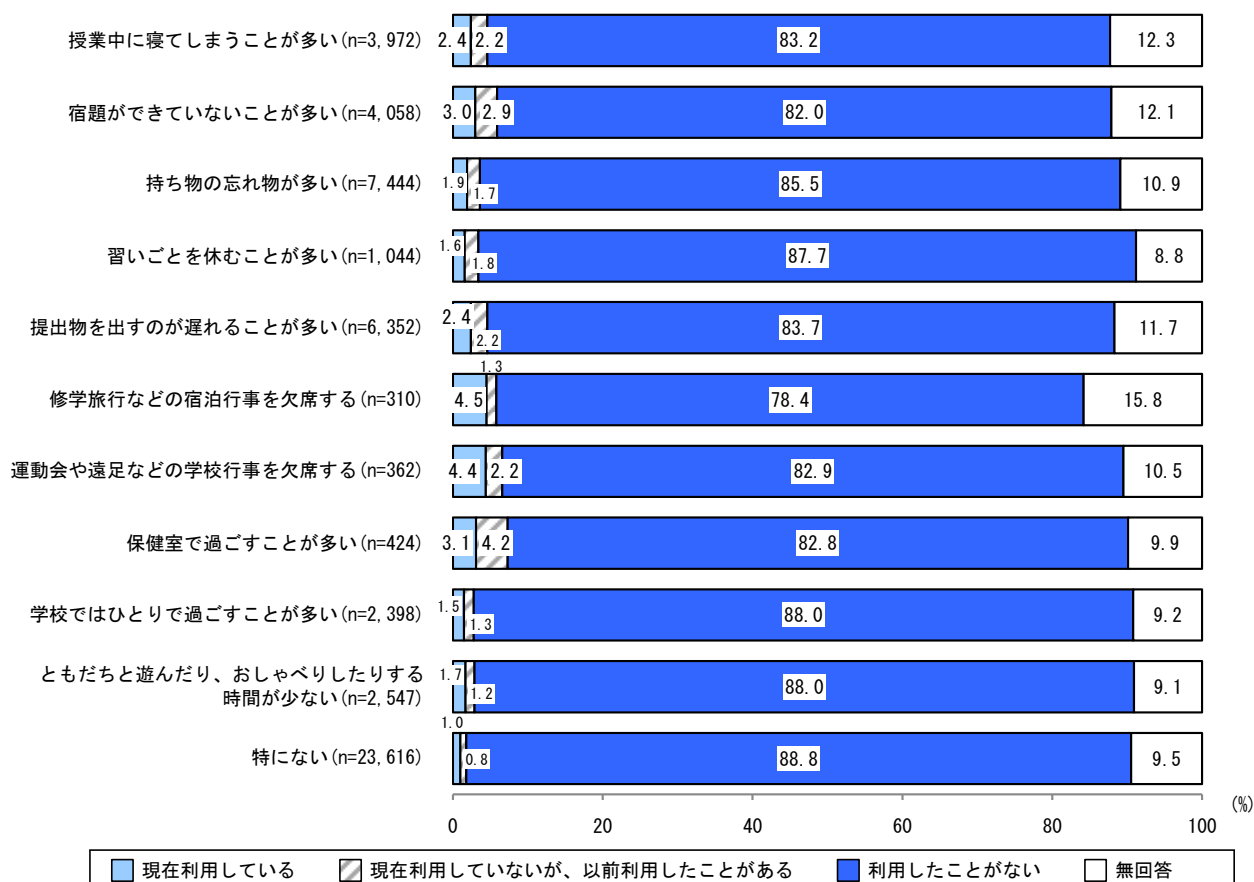


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が18.2%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<八尾市>

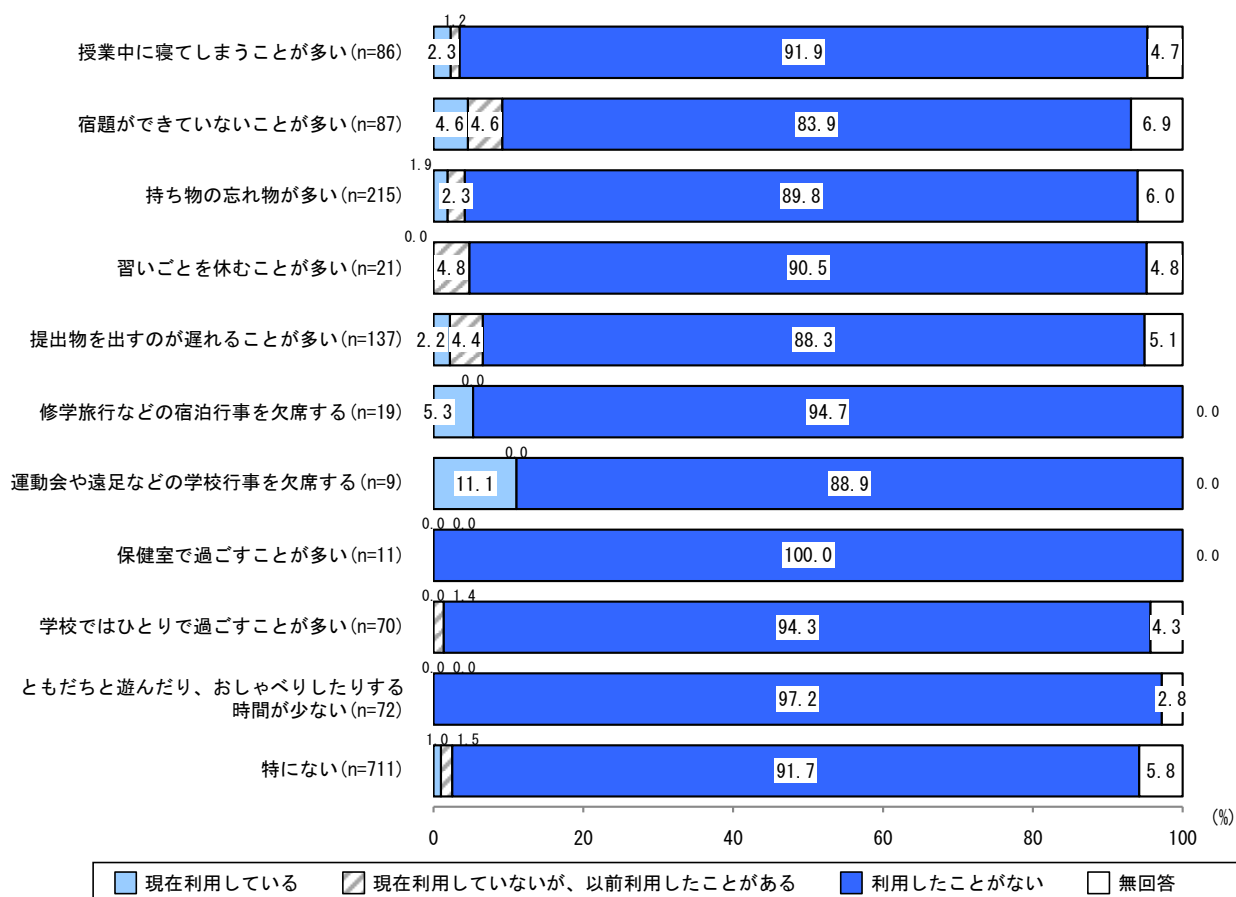
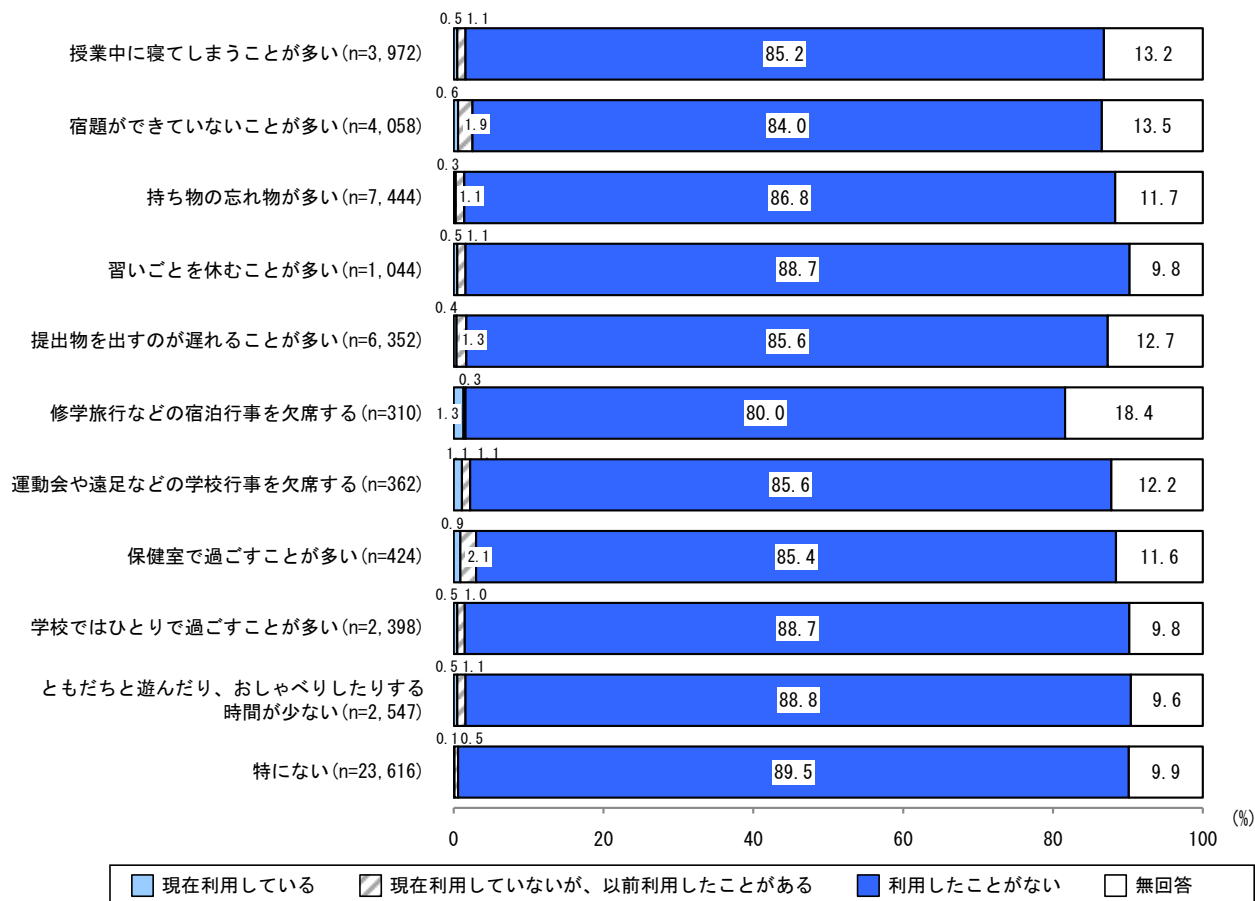


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した割合が11.1%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<八尾市>

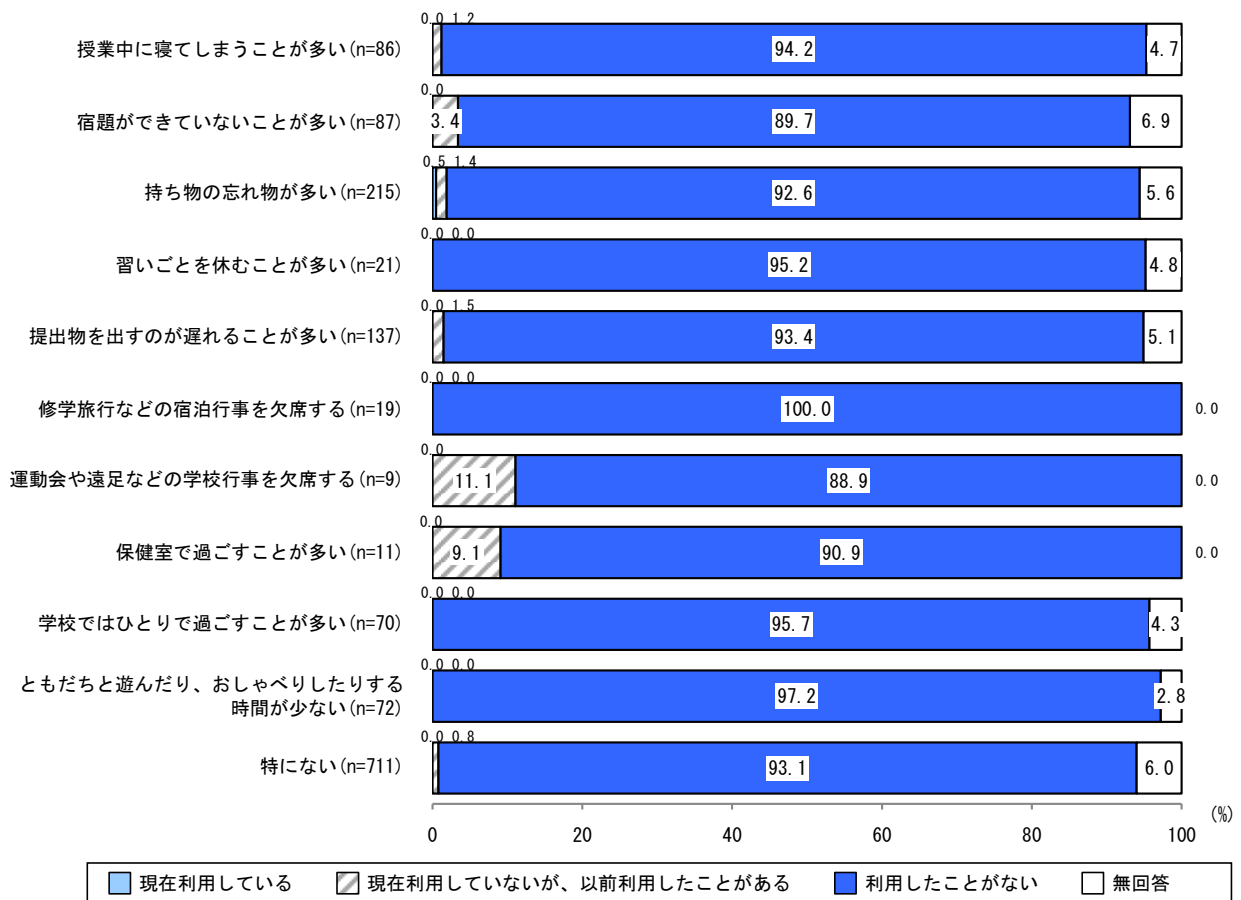
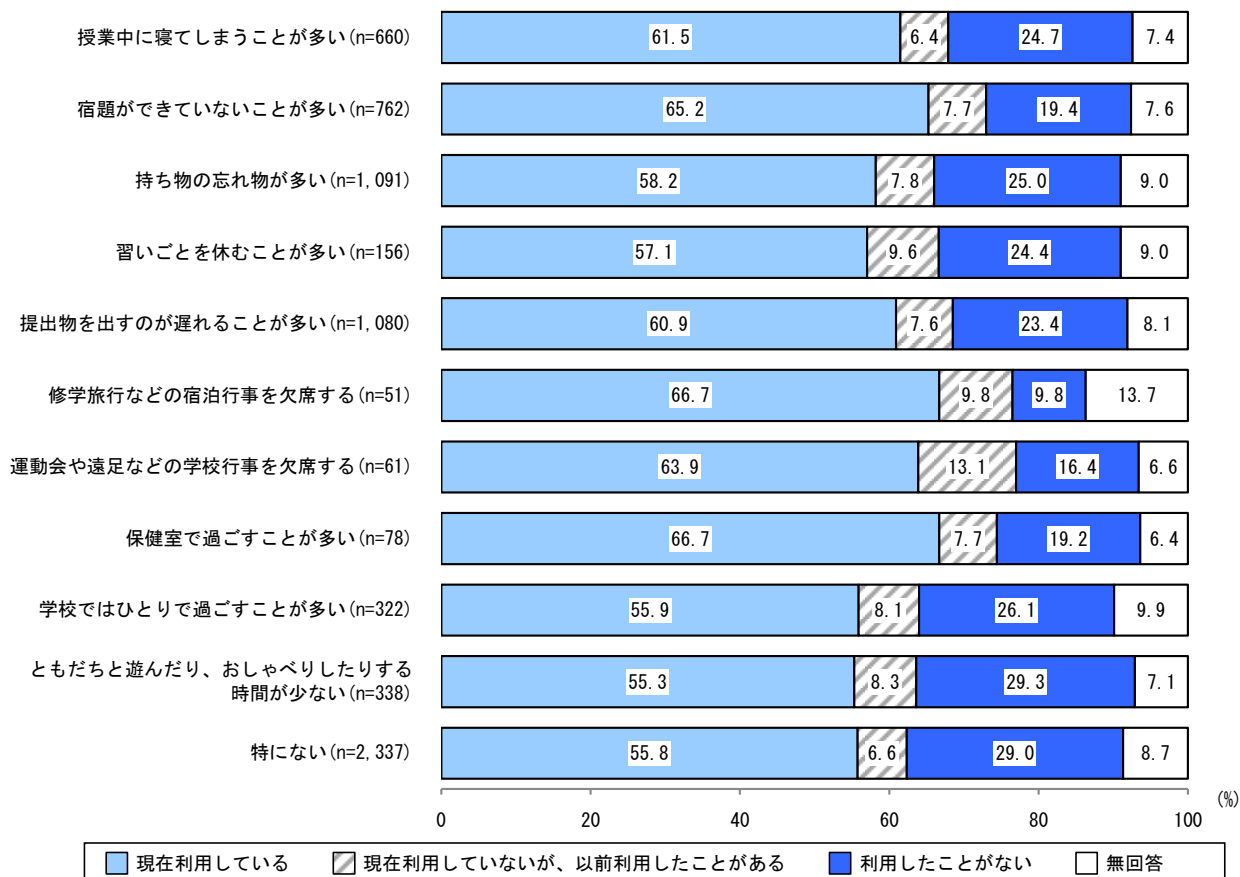


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」(11.1%)で最も高く、次いで「保健室で過ごすことが多い」(9.1%)となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<八尾市>

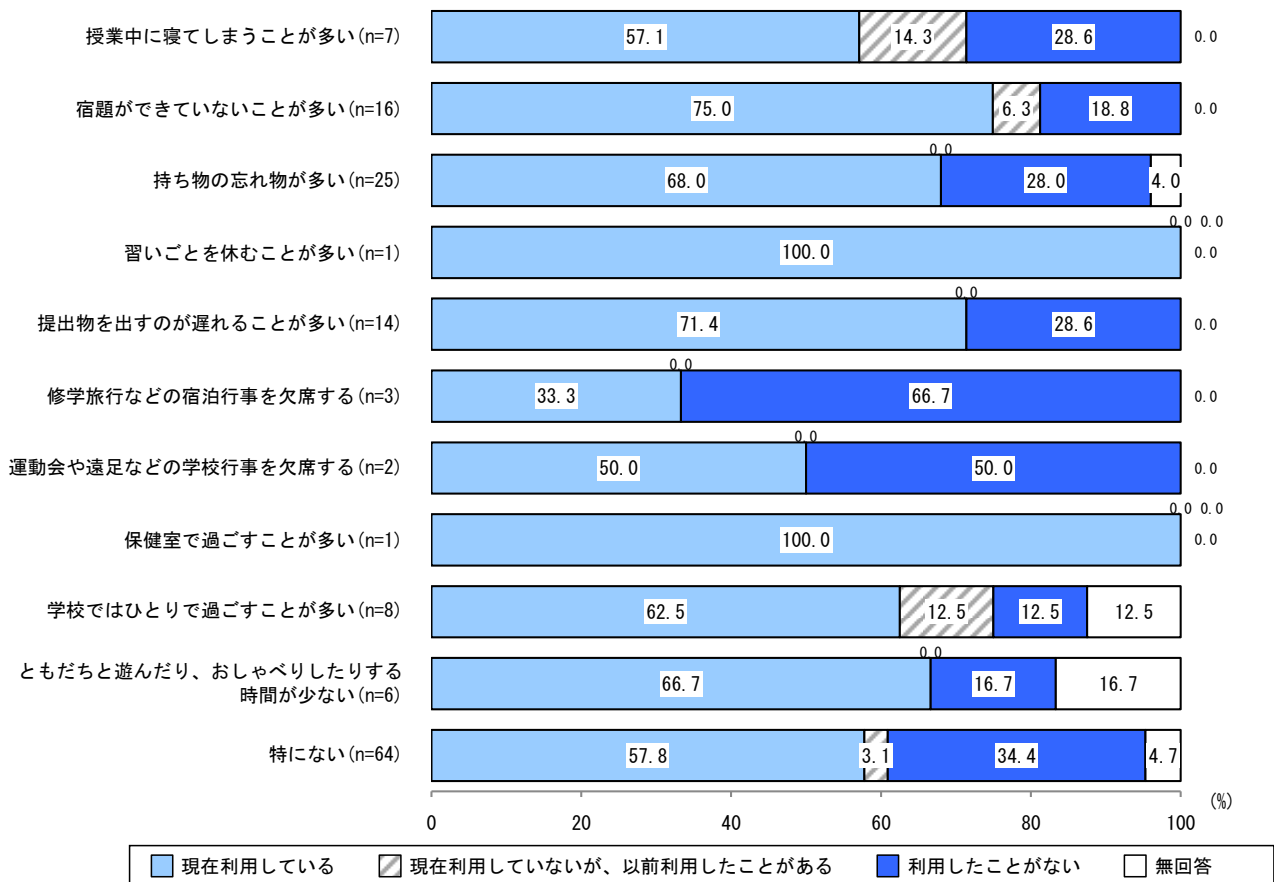
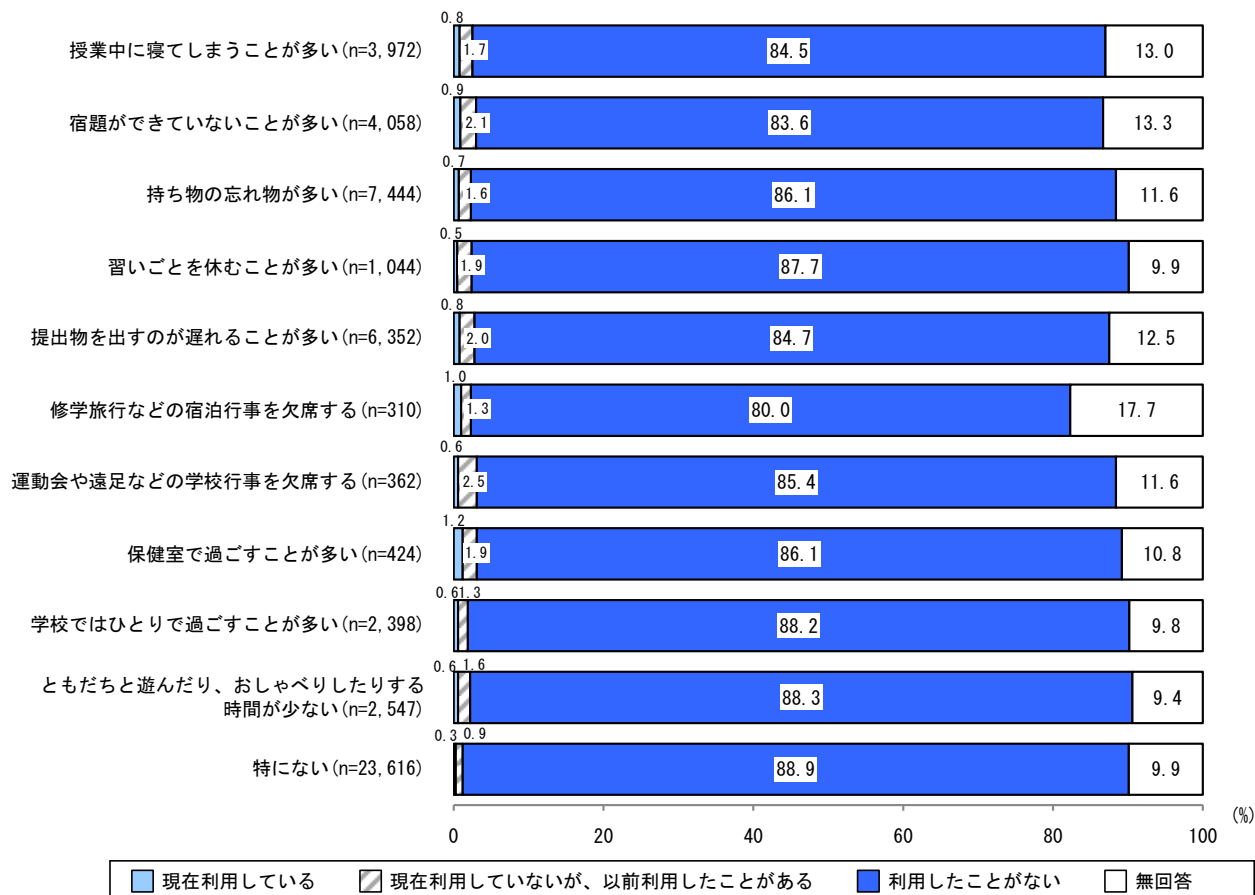


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が33.3%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<八尾市>

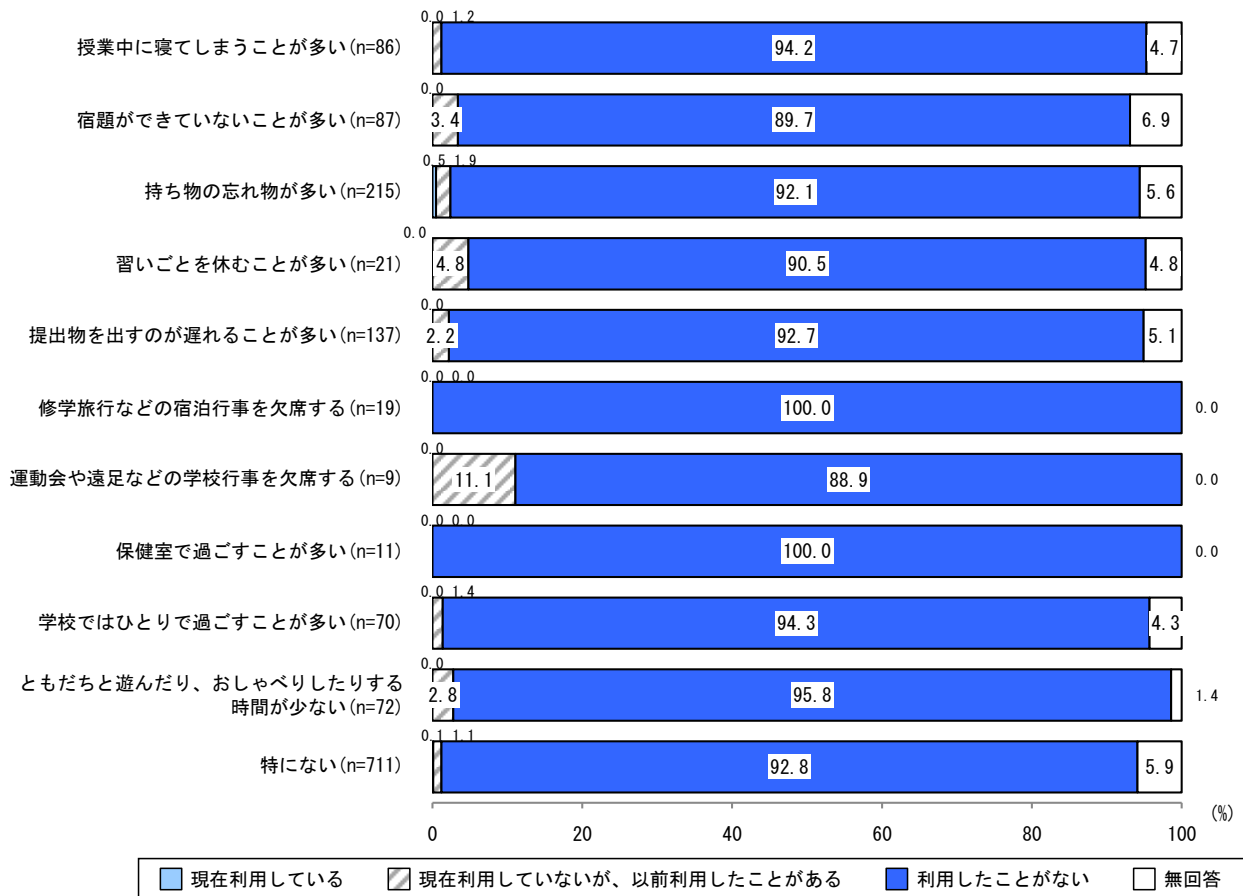
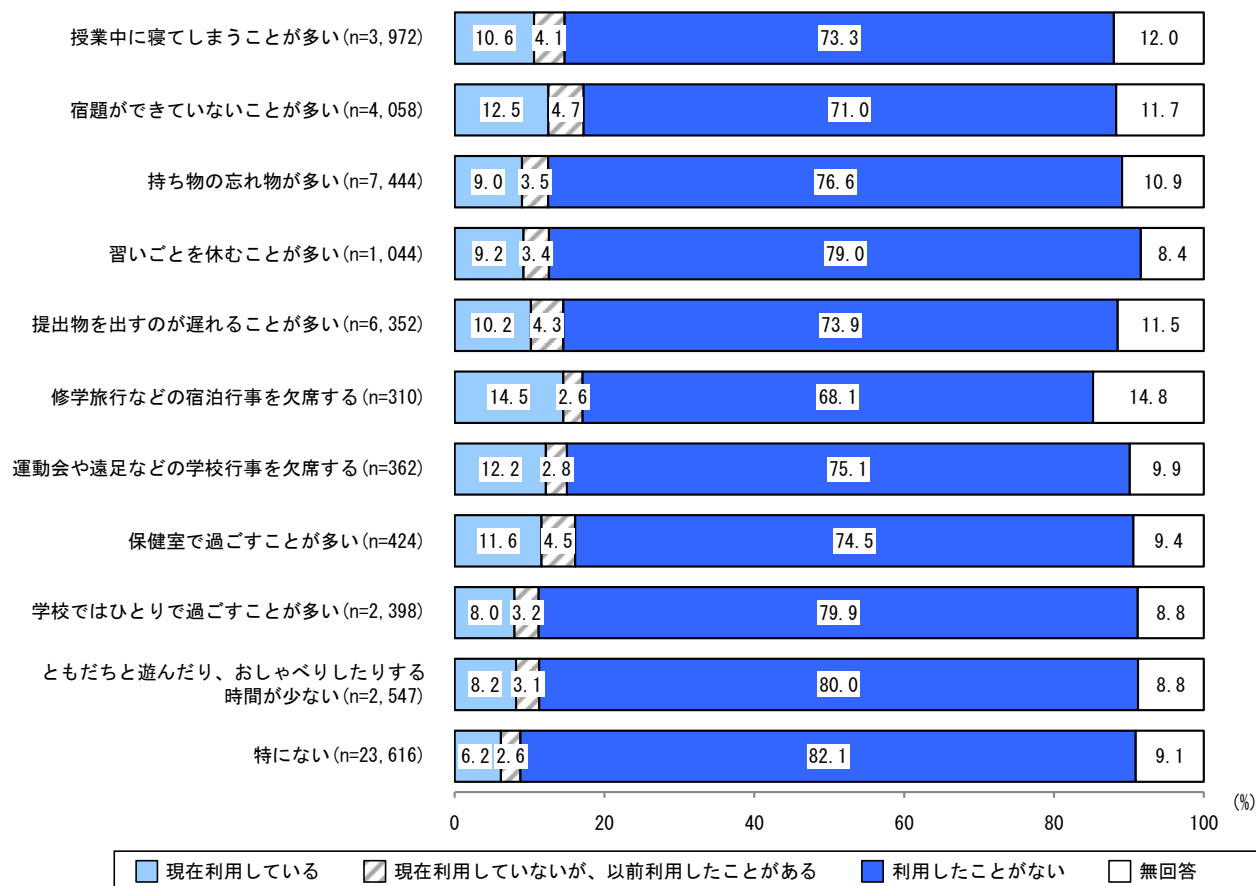


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した割合が11.1%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<八尾市>

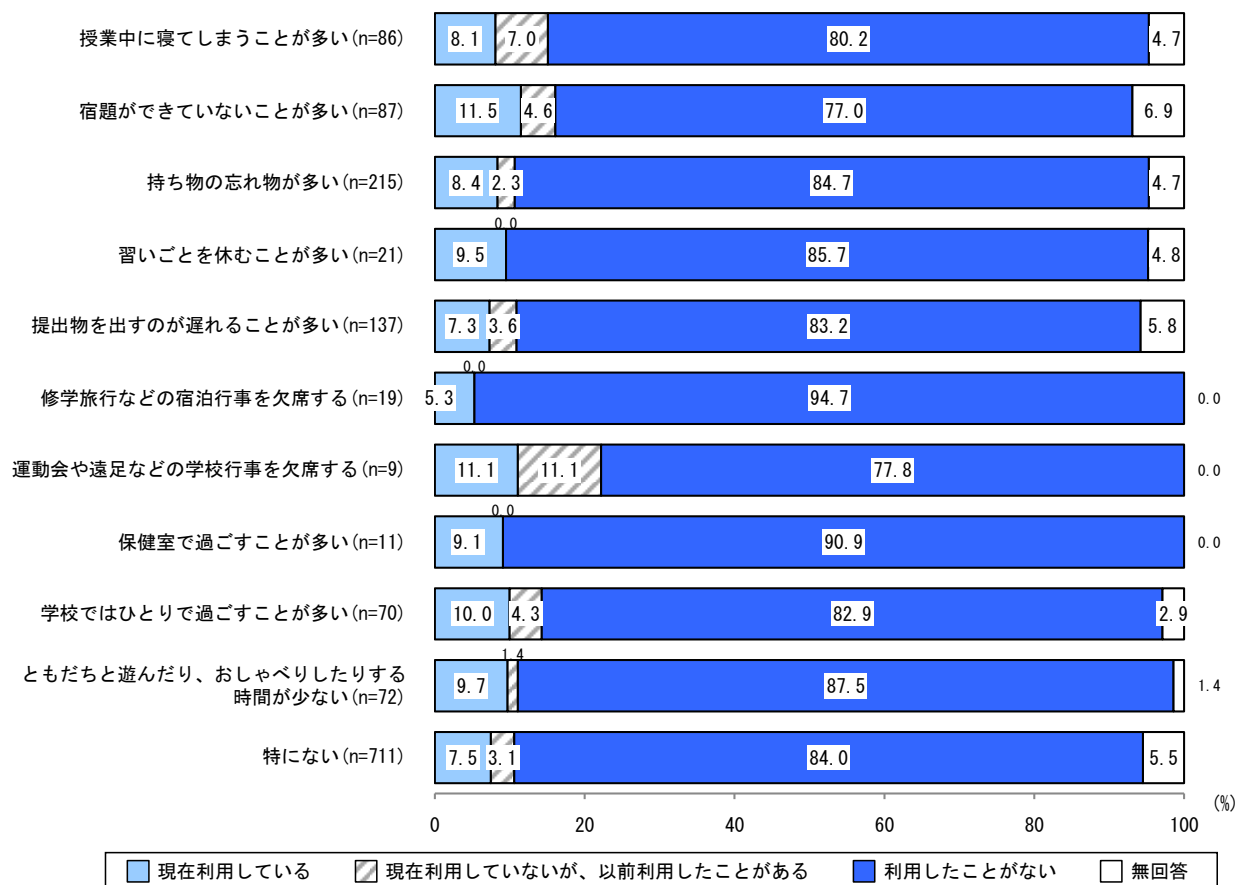
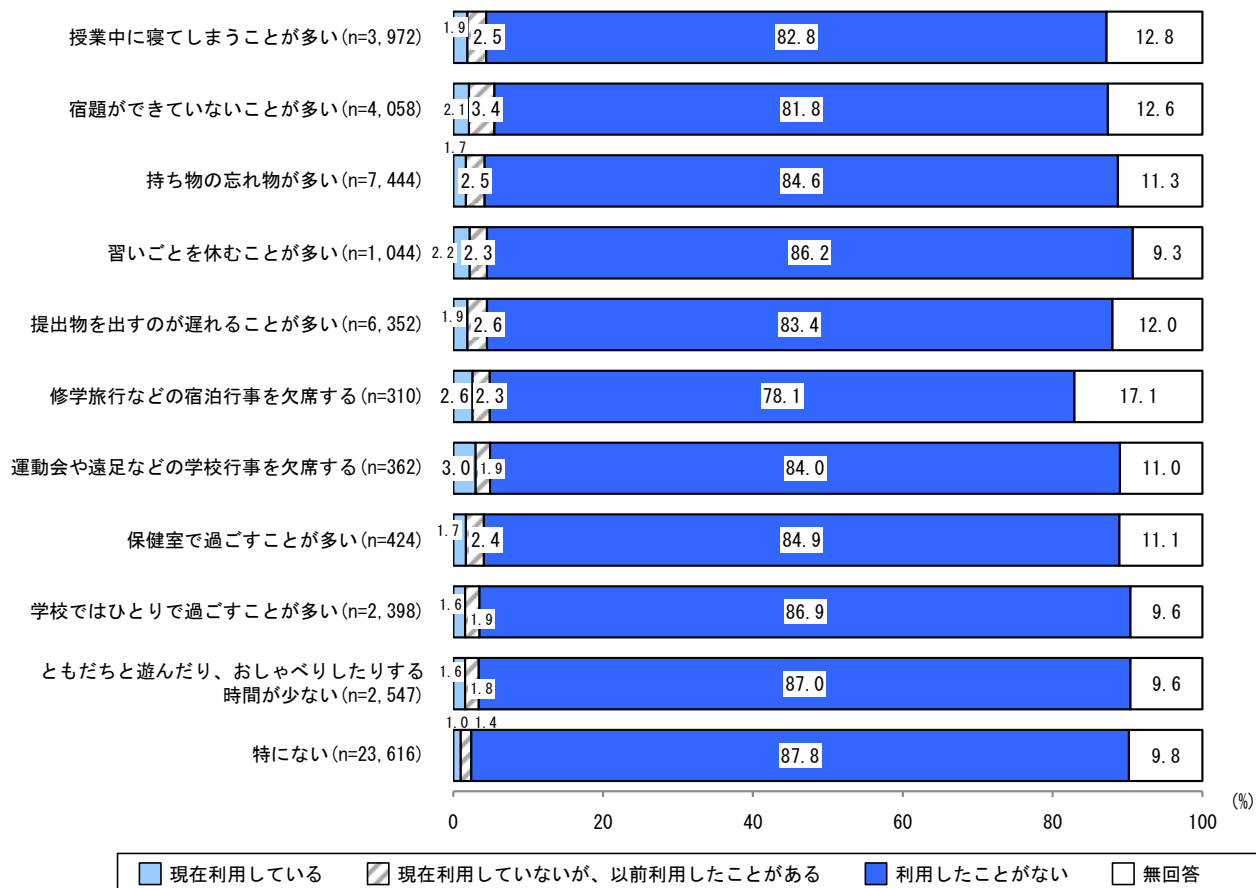


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が11.5%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

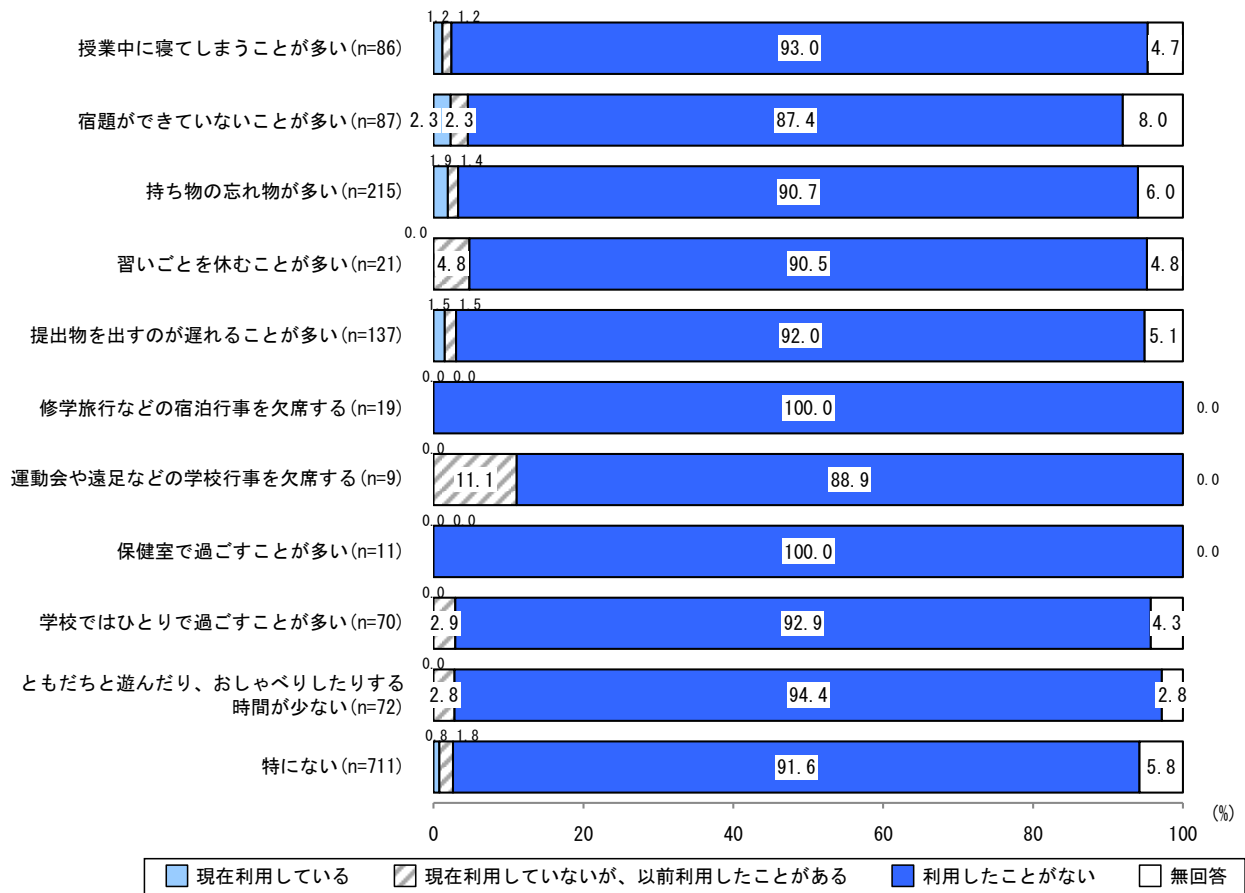
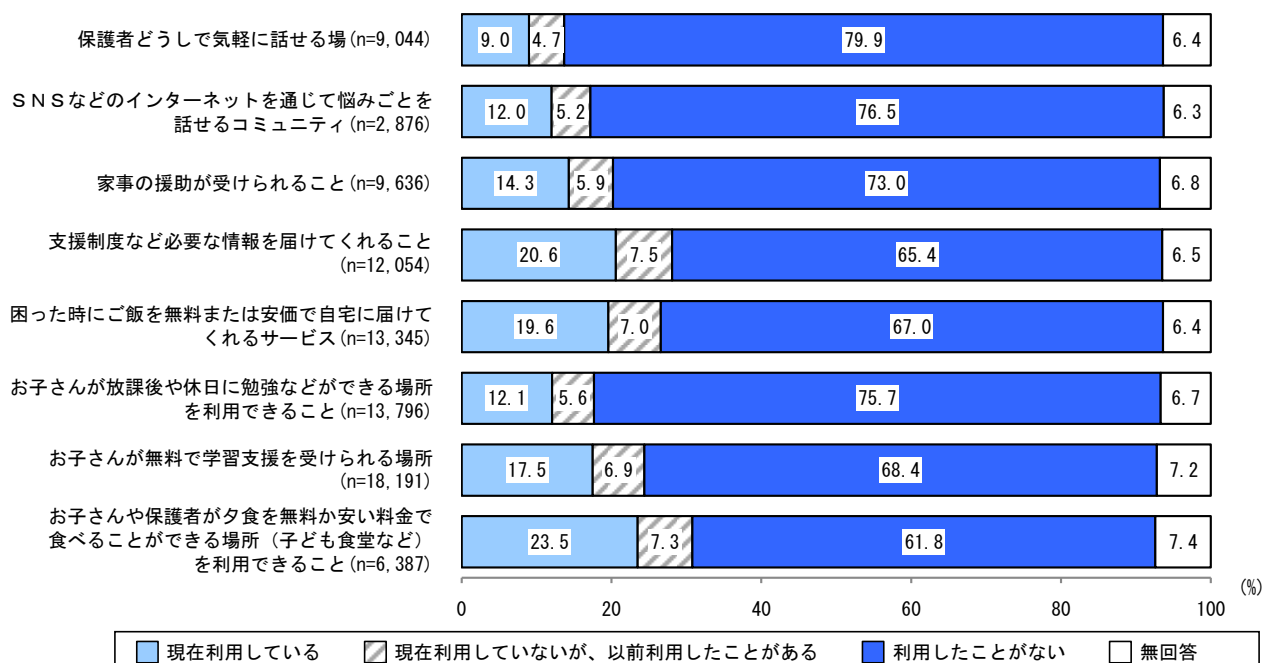


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が2.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<八尾市>

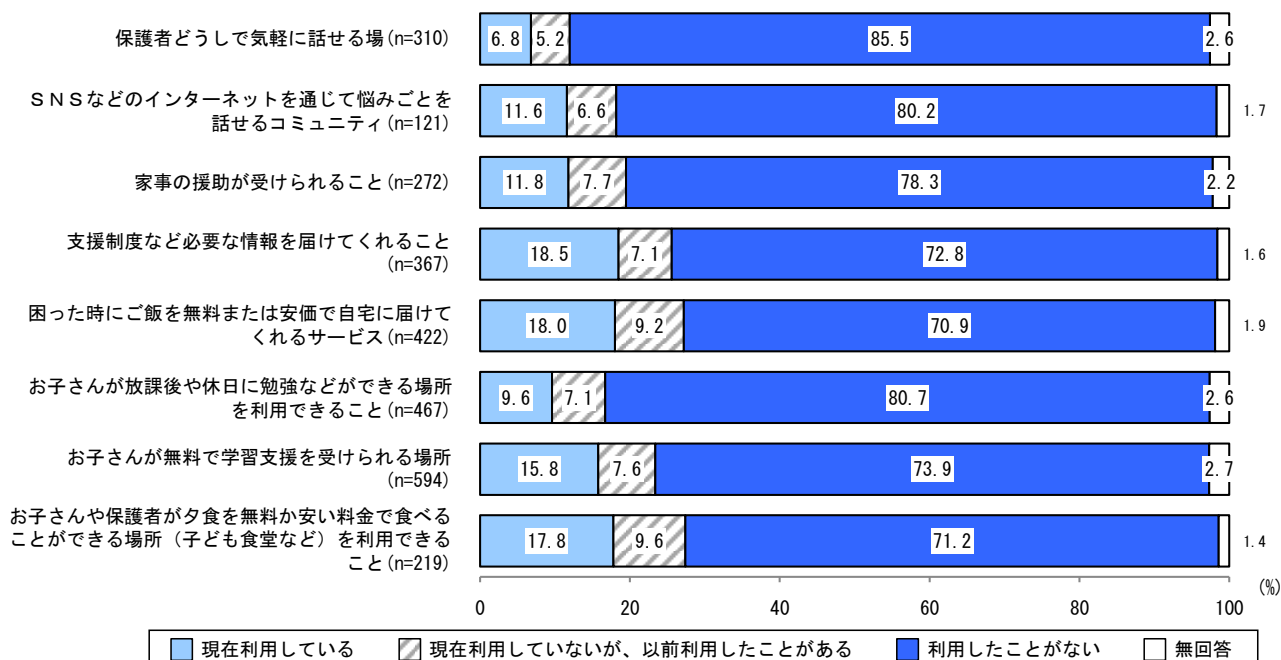
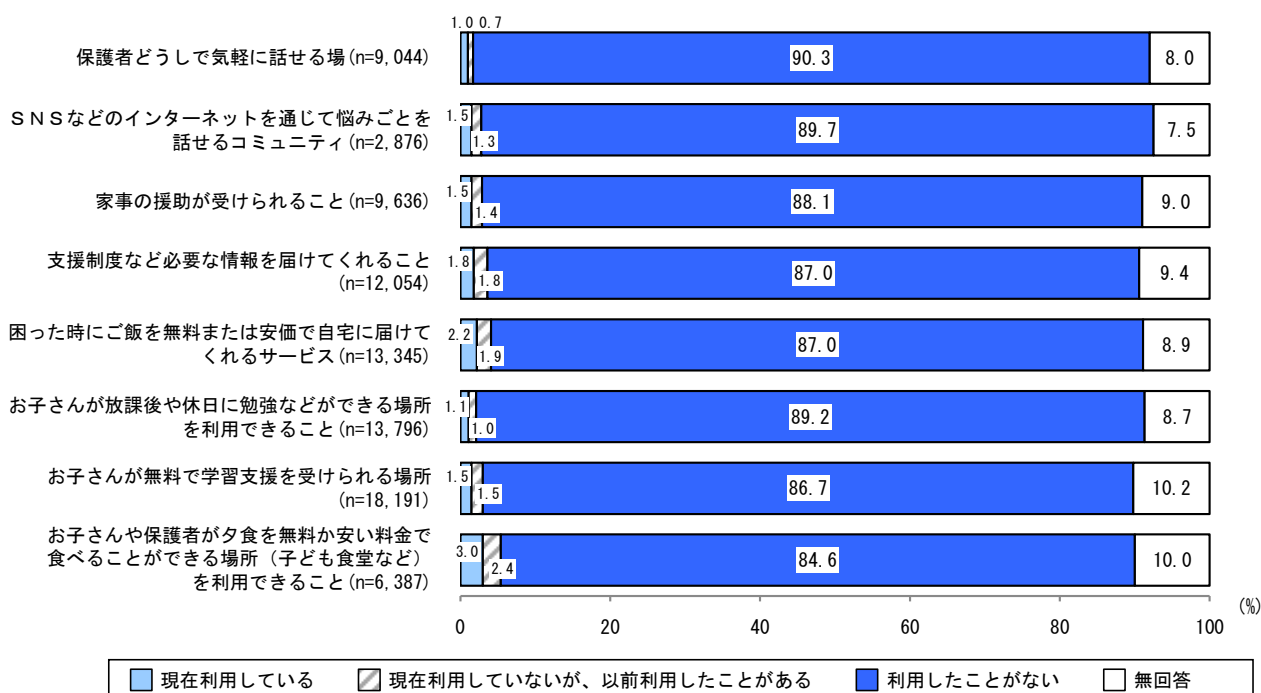


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」と回答した割合が18.5%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<八尾市>

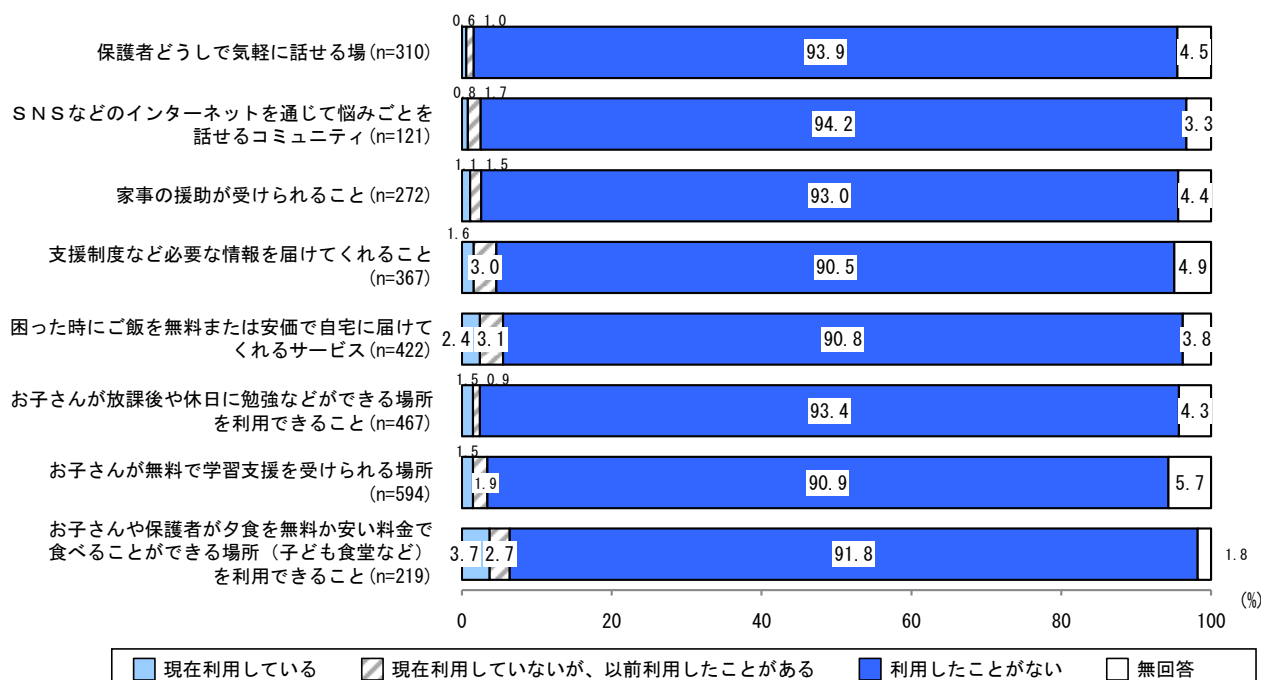
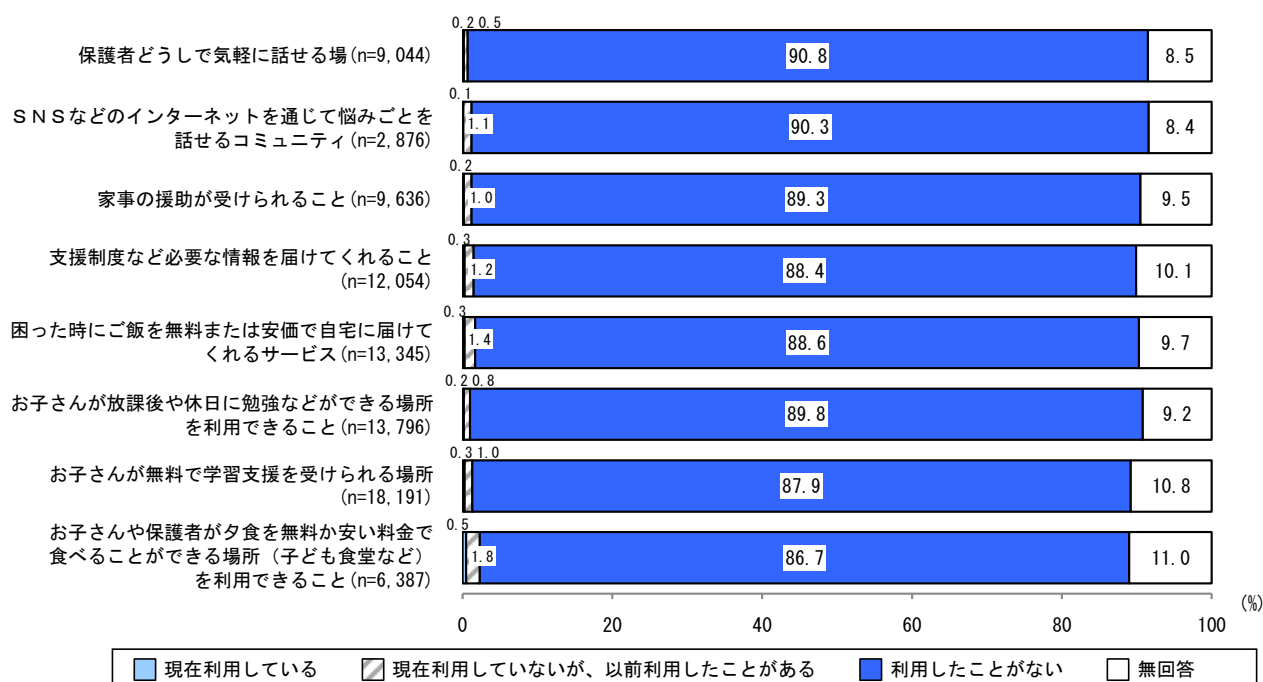


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が3.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<八尾市>

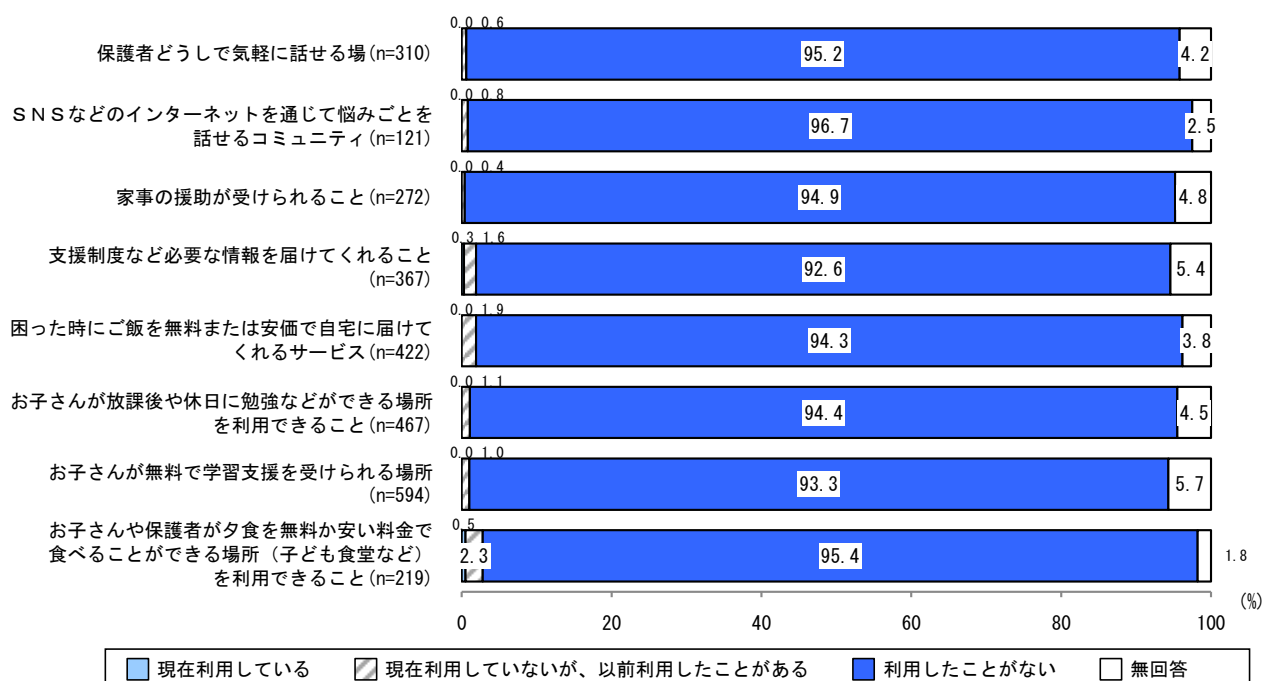
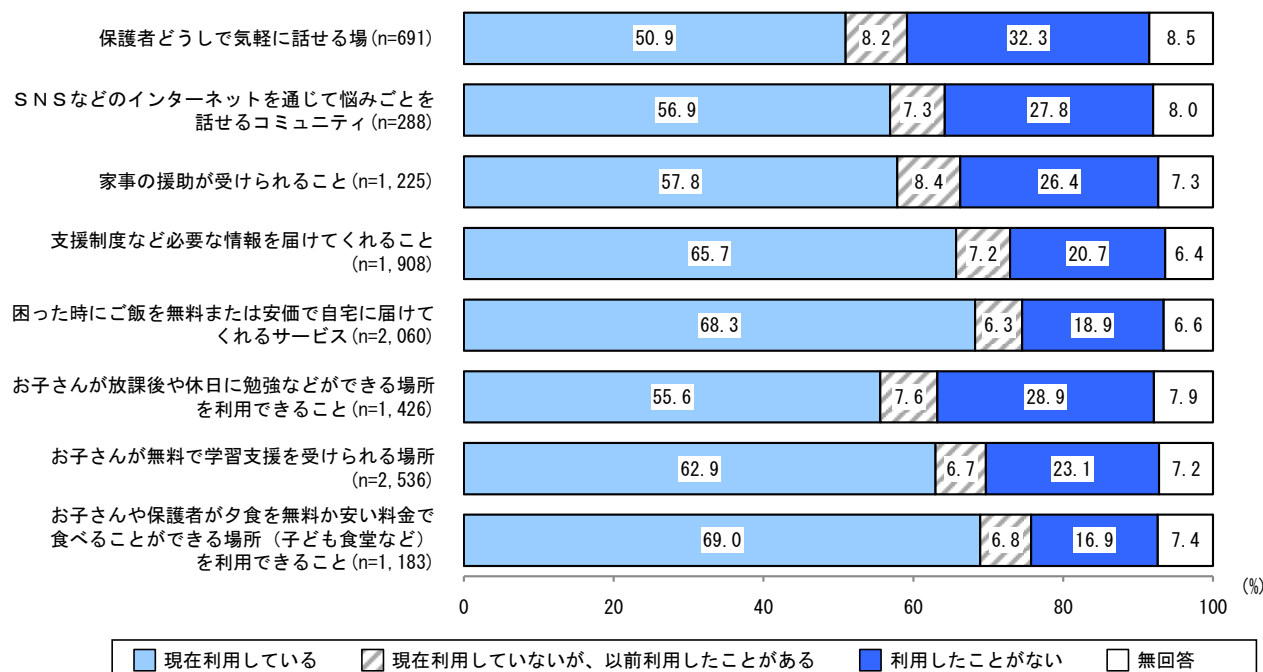


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<八尾市>

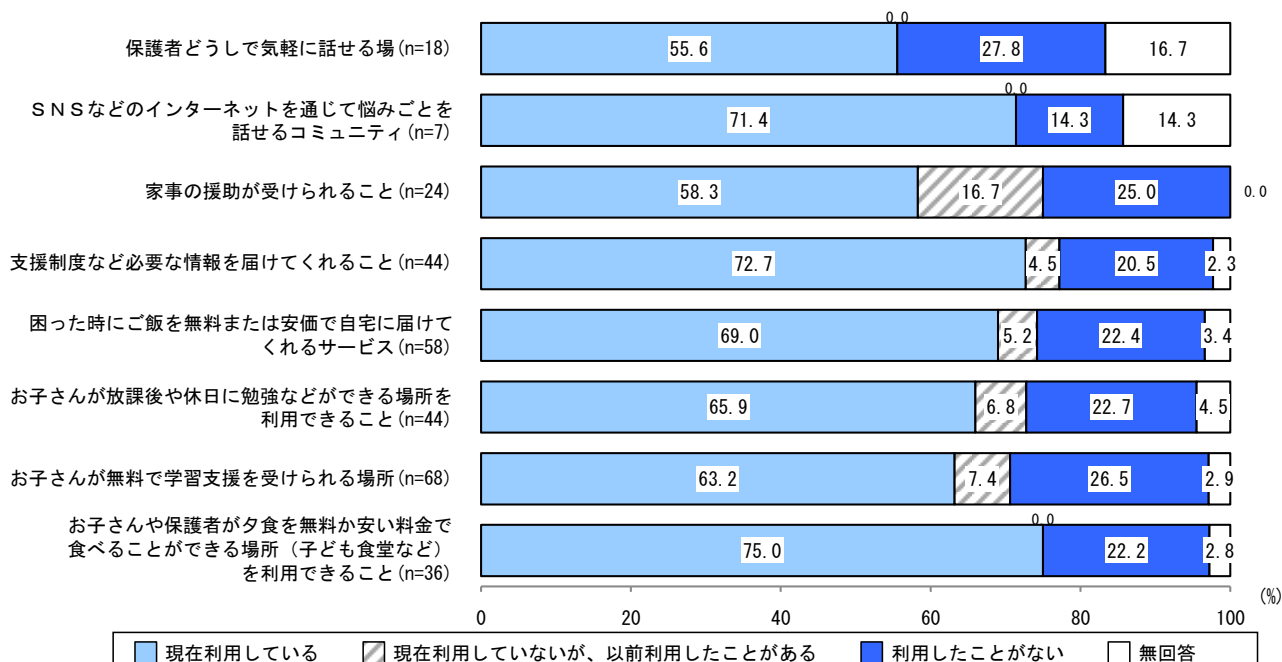
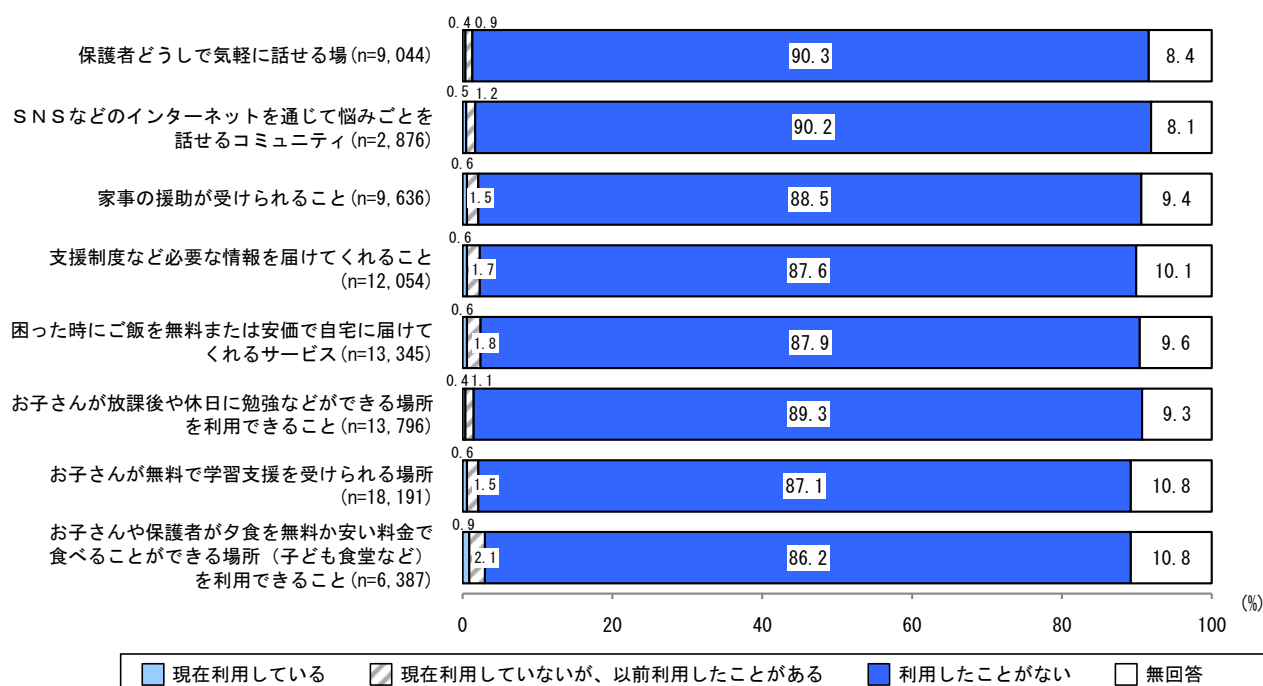


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が75.0%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<八尾市>

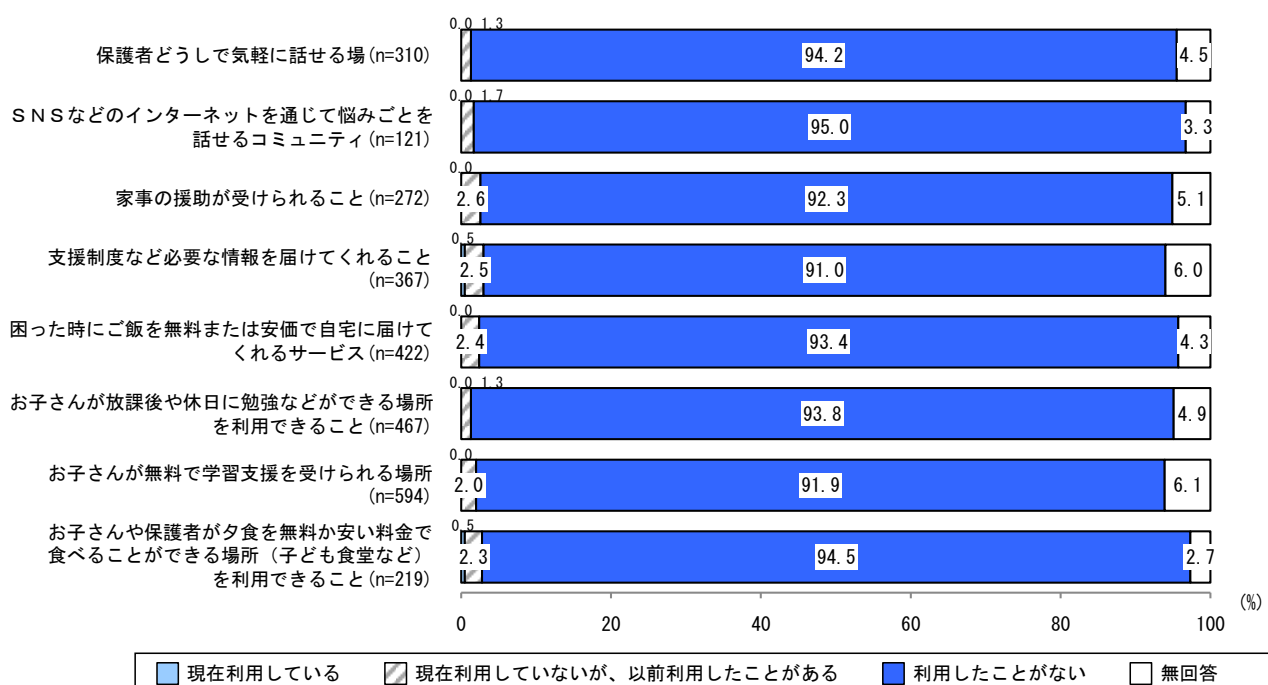
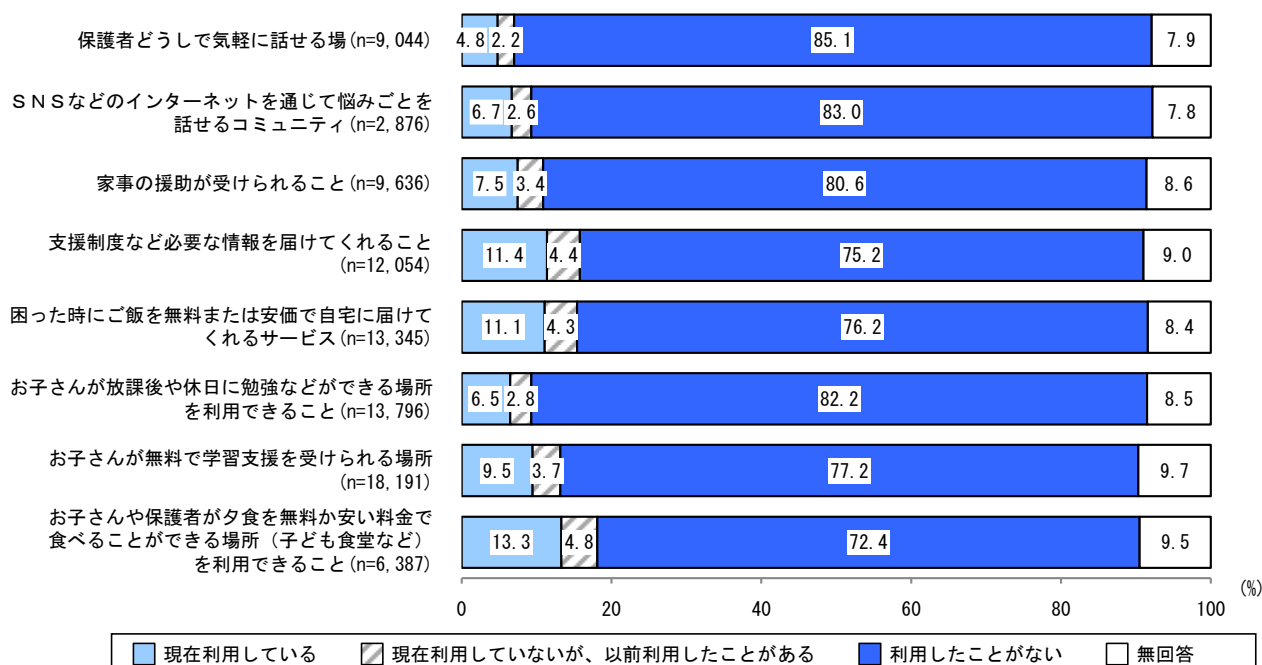


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<八尾市>

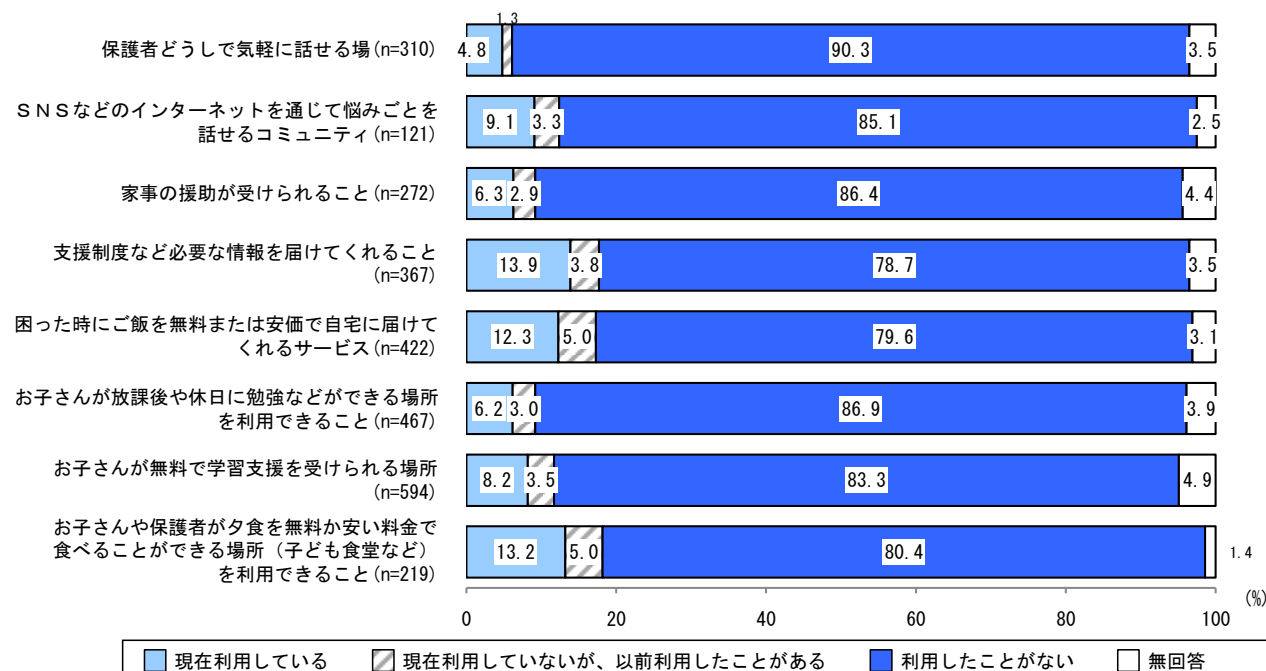
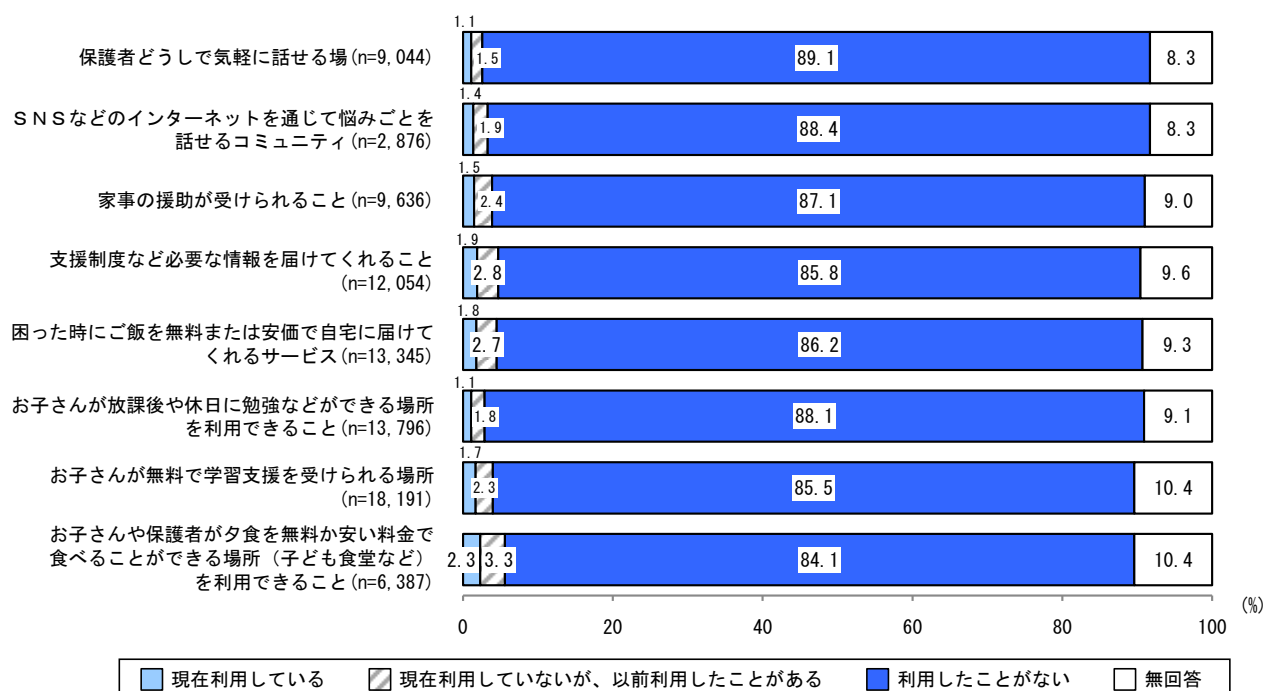


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」と回答した割合が13.9%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<八尾市>

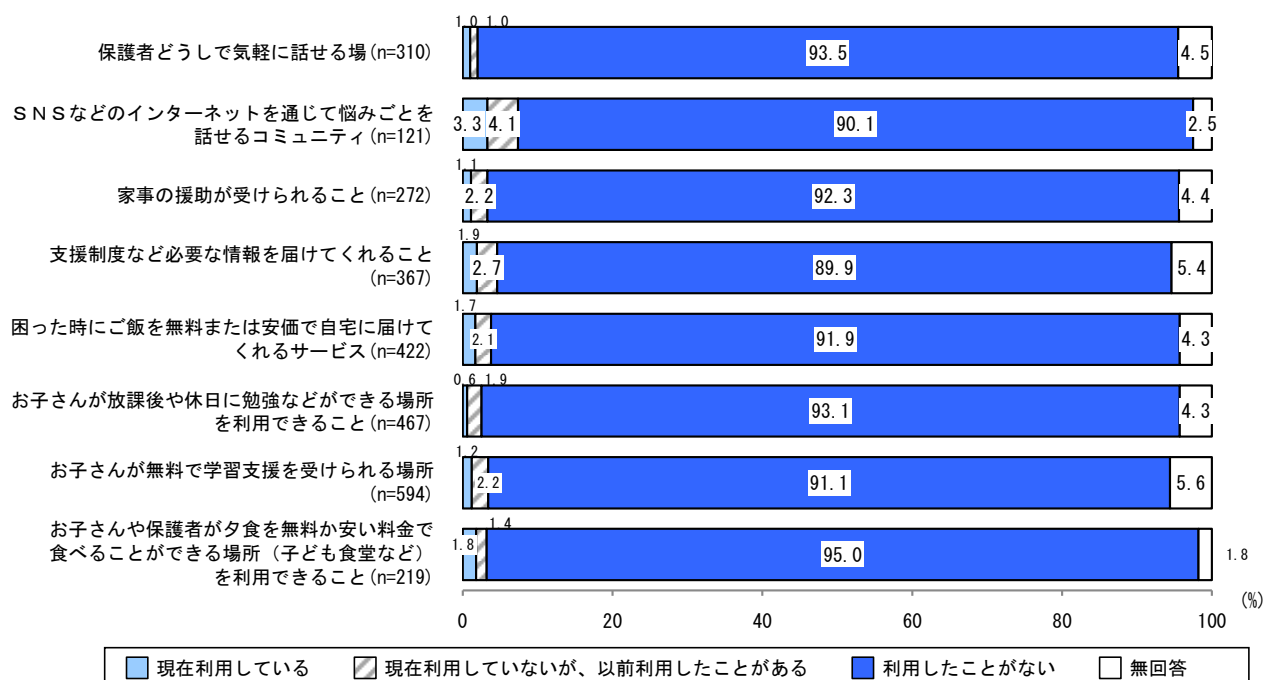


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が3.3%で最も高くなっている。

<家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が12.7%となっている。困窮度Ⅰ群では、54.0%、困窮度Ⅱ群では、41.9%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で63.7%、困窮度Ⅰ群で80.0%、困窮度Ⅱ群で71.4%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で1.4%と低水準にとどまっているが、困窮度Ⅰ群では8.0%となっている。今回調査の回答者から一定の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要とする世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で32.0%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で54.9%、困窮度Ⅱ群で40.0%、そして困窮度Ⅲ群で41.7%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が20.0%、高等学校中途退学が33.3%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

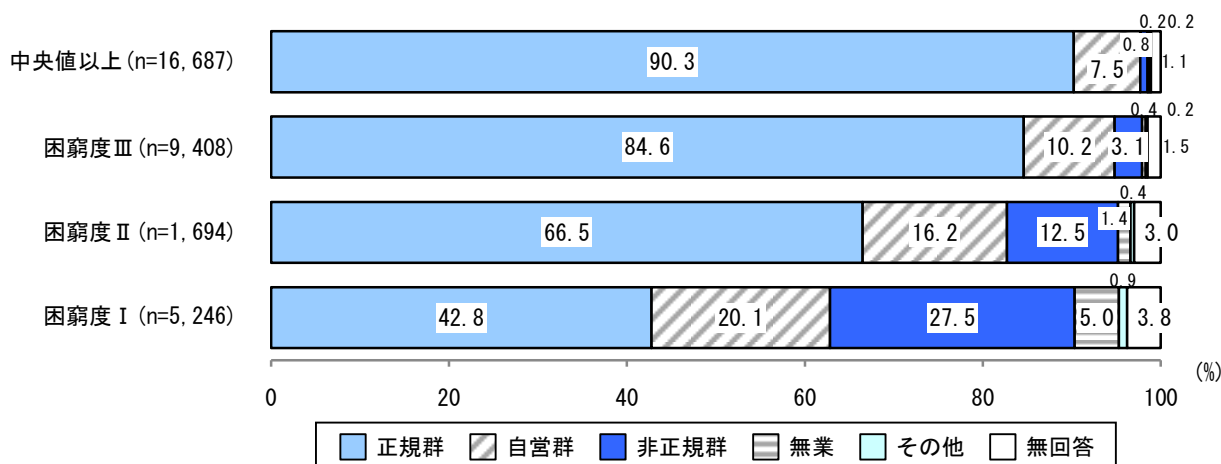
住宅形態別に家計の状況をみると、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が50.0%と半数を占める。同様に、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」については、「子どもの将来のための貯蓄状況」についても「貯蓄をしたいが、できていない」が50.0%と経済的余裕のなさが示されている。また、「府営、市営の住宅」においてはこの項目の値は55.0%、「民間の賃貸住宅」においても51.8%と高水準である。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

全般的に、公的な資金援助の受給は困窮度の高さにしたがって高い水準を示しており、母子世帯における養育費の受け取り世帯割合は十分ではない。また、若くして母親になった者への教育支援の必要性も示唆される。公共・民間の別を問わず、賃貸住宅の世帯が経済的な余裕を欠いている傾向も示されている。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<八尾市>

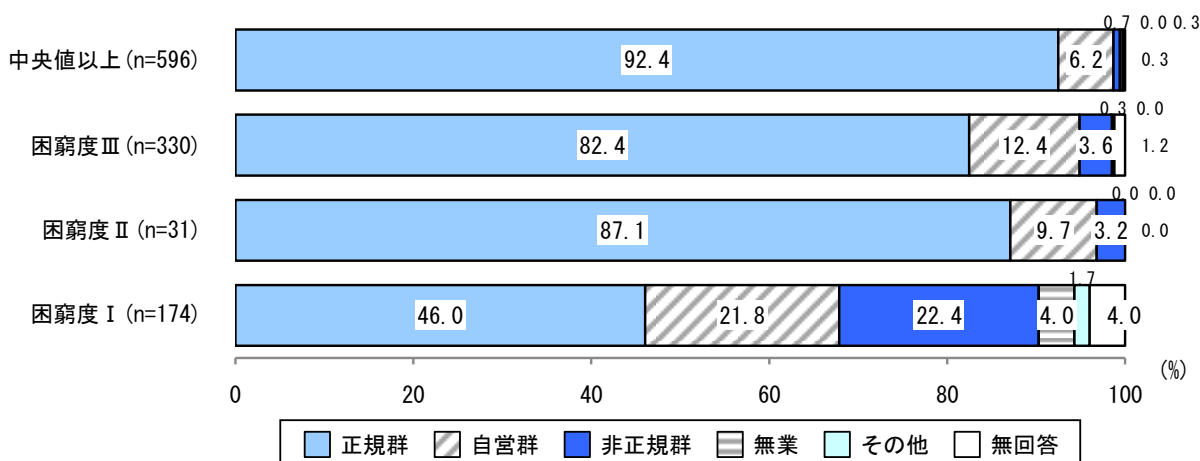


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、「正規群」の割合は困窮度Ⅰ群が46.0%で最も低く、困窮度Ⅰ群では「自営群」、「非正規群」、「無業」の割合が最も高く、「自営群」が21.8%、「非正規群」が22.4%、「無業」が4.0%となっている。

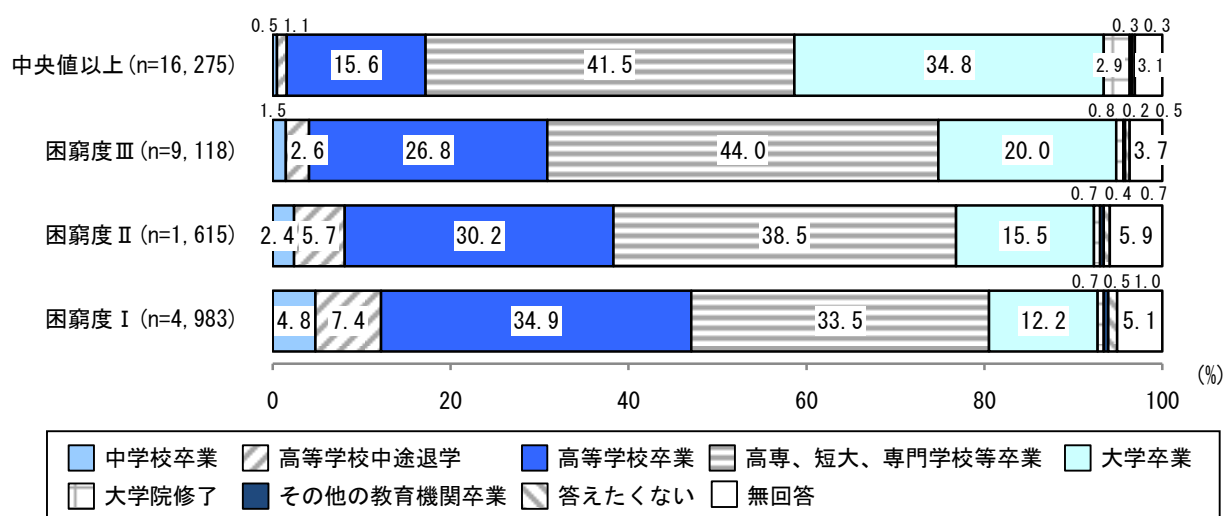
※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、
上記以外で、誰も働いていなければ「無業」（問9選択肢6、7）。
上記以外が「その他」となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 8）

<大阪府内全体>



<八尾市>

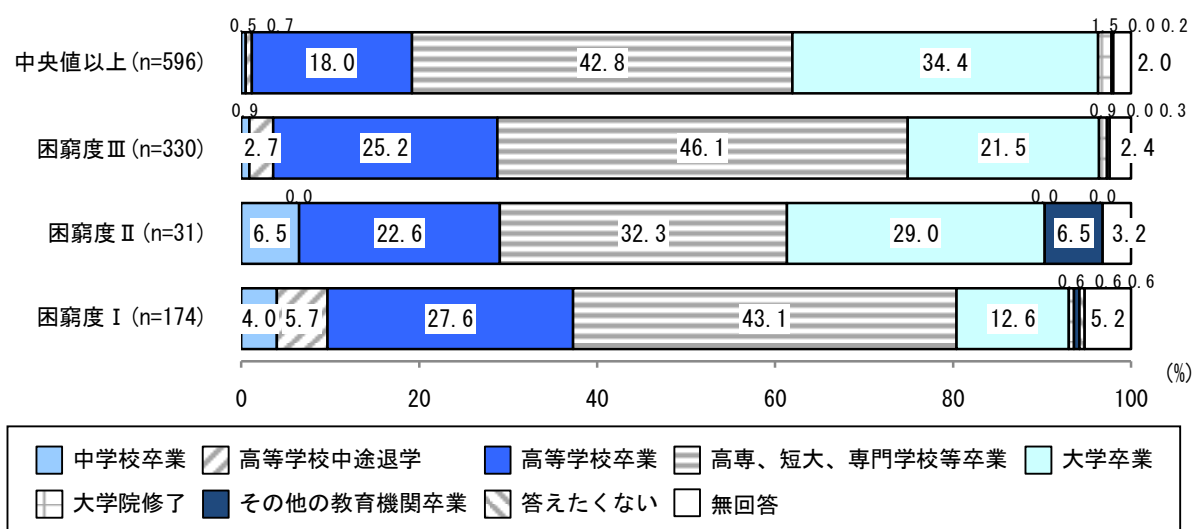
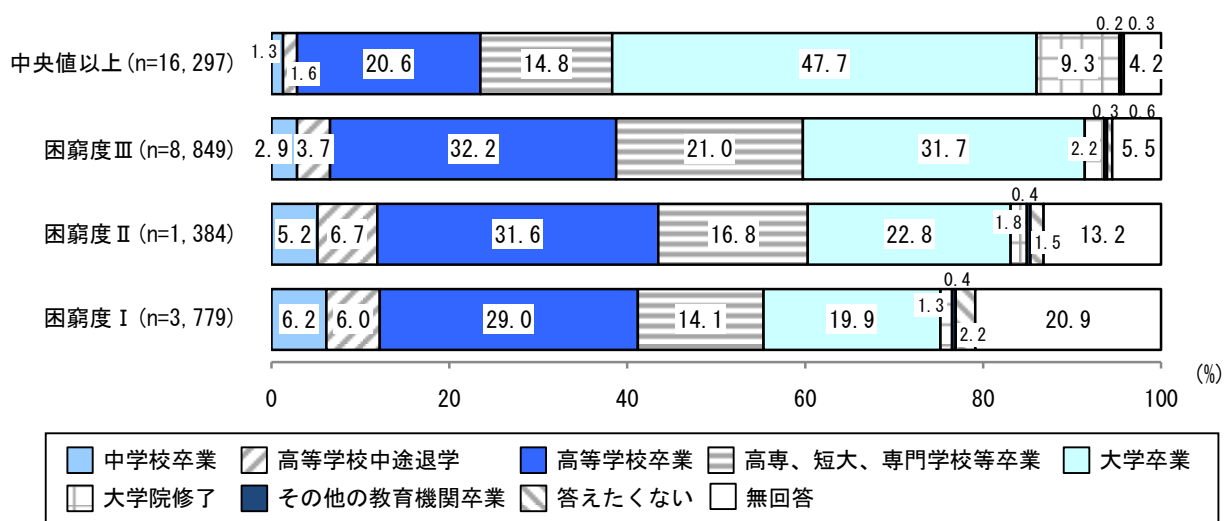


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、「中学校卒業」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が6.5%で最も高くなっている。困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低い。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<八尾市>

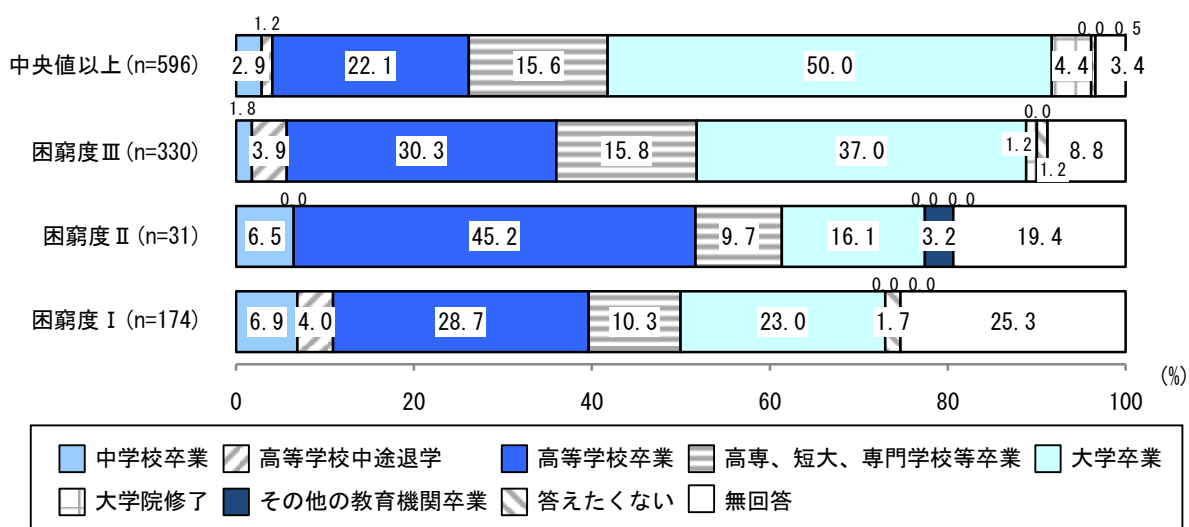
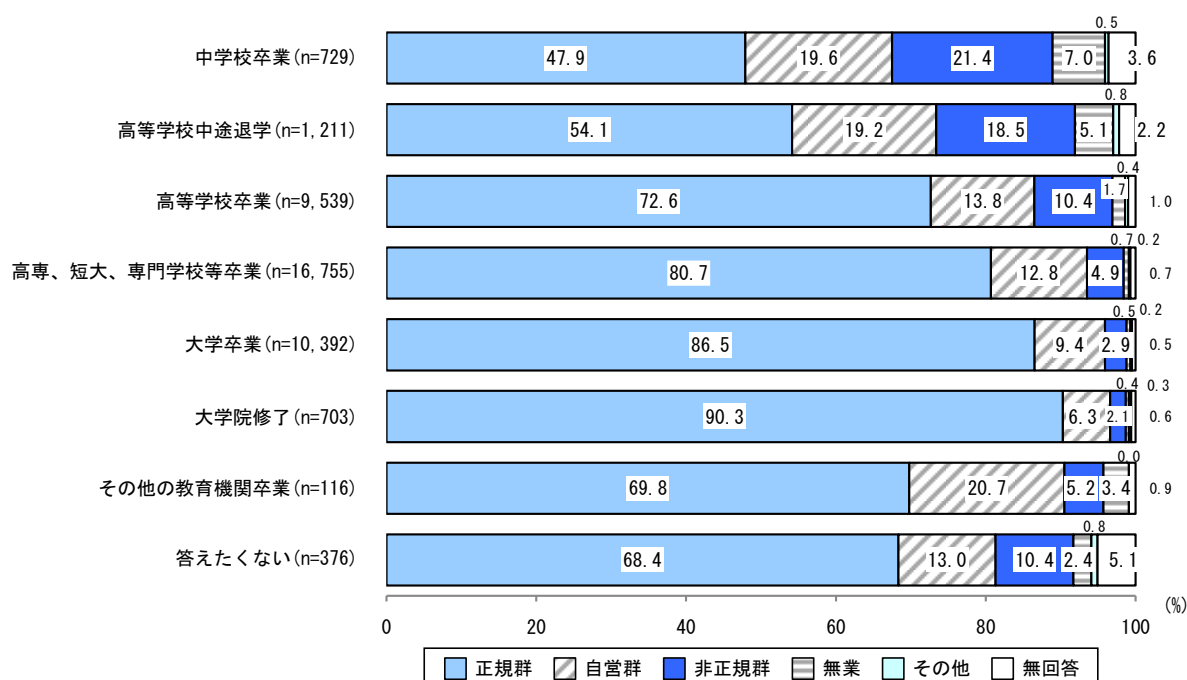


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ6.9%、4.0%で最も高くなっている。また、困窮度Ⅰ群では無回答（25.3%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<八尾市>

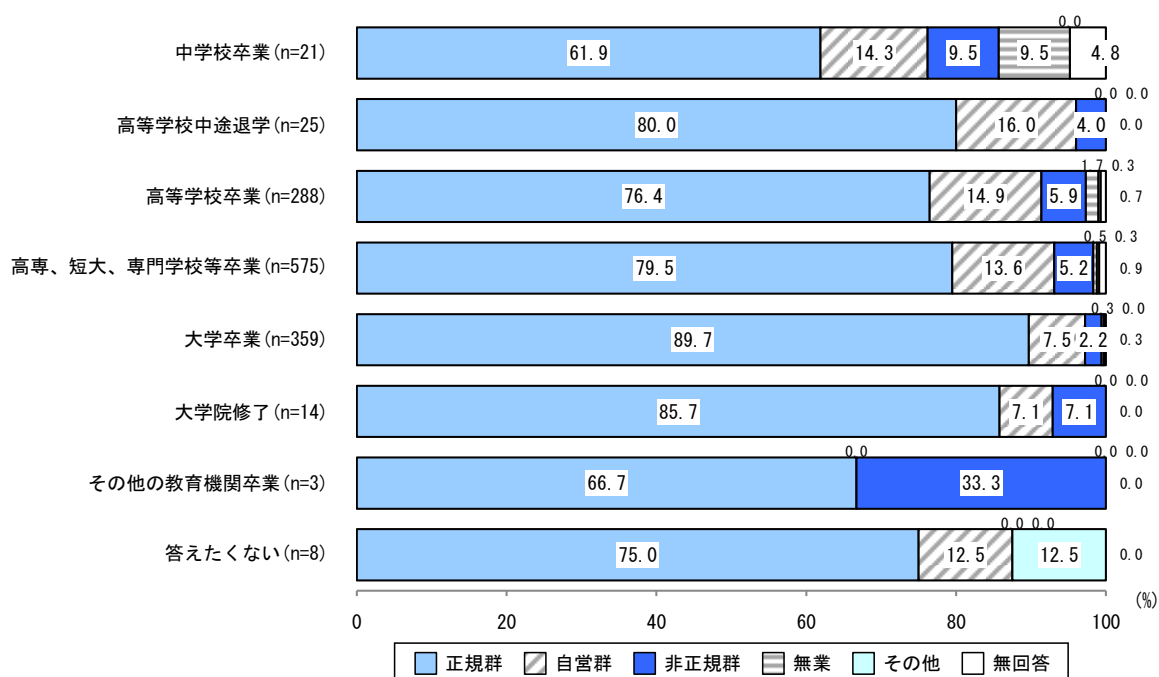
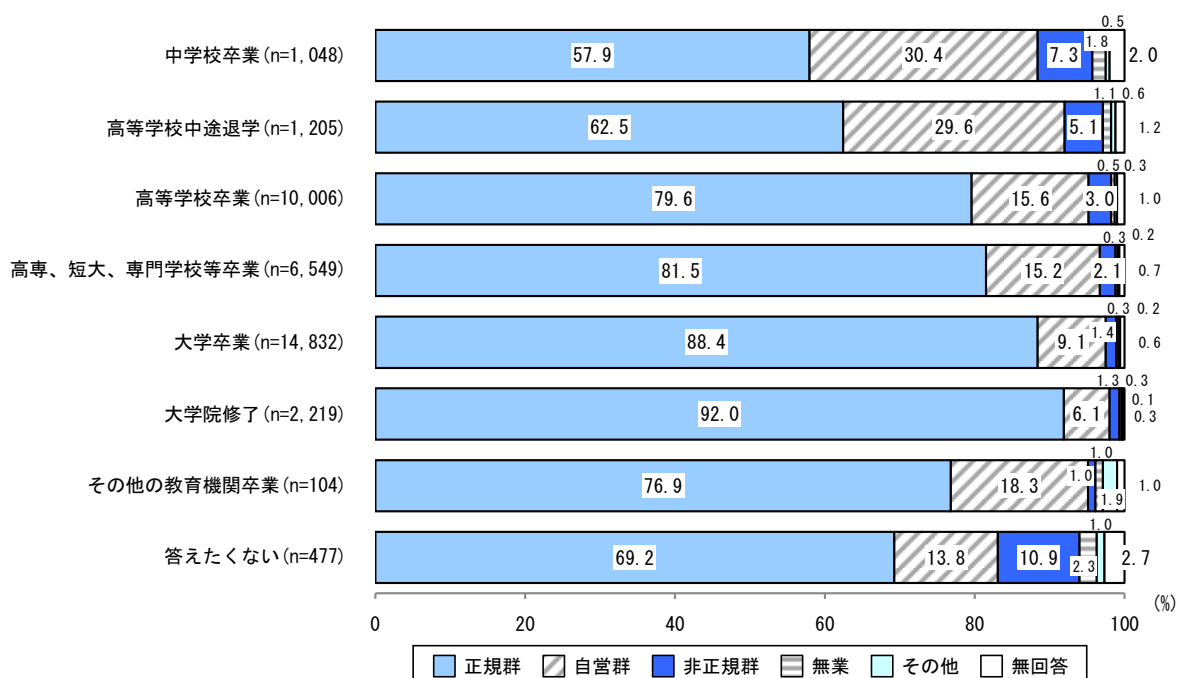


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、「正規群」の割合は大学卒業が89.7%で最も高く、次いで、大学院修了が85.7%となっている一方、中学校卒業が61.9%で最も低くなっている。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

＜大阪府内全体＞



＜八尾市＞

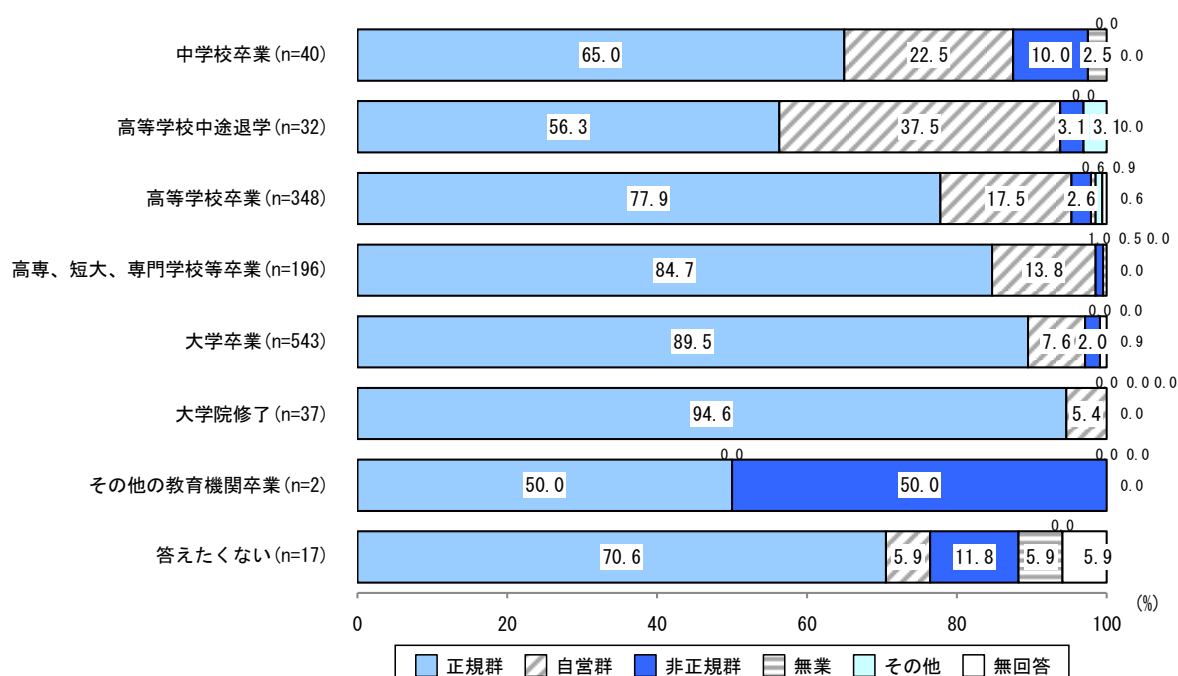
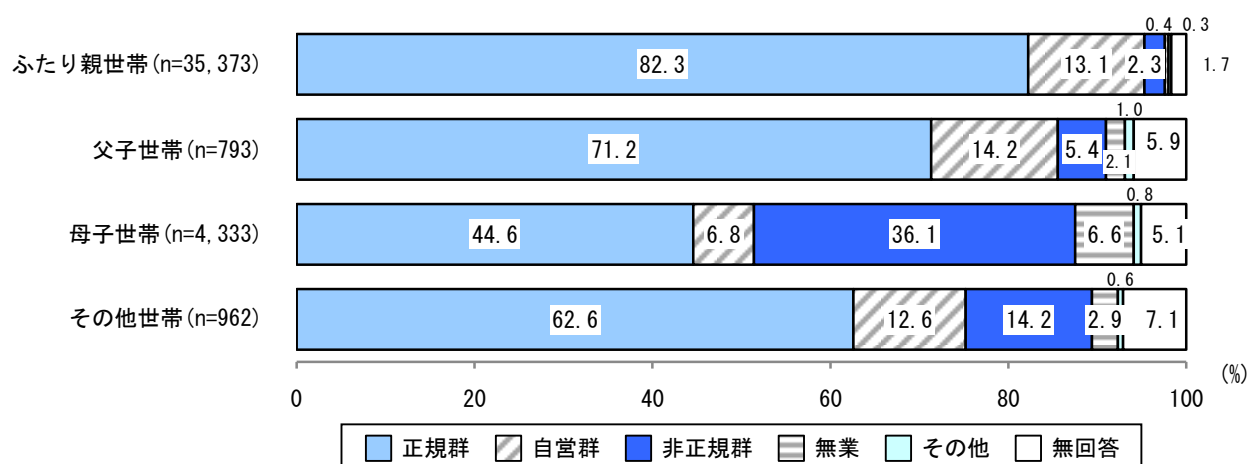


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、父親の最終学歴が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<八尾市>

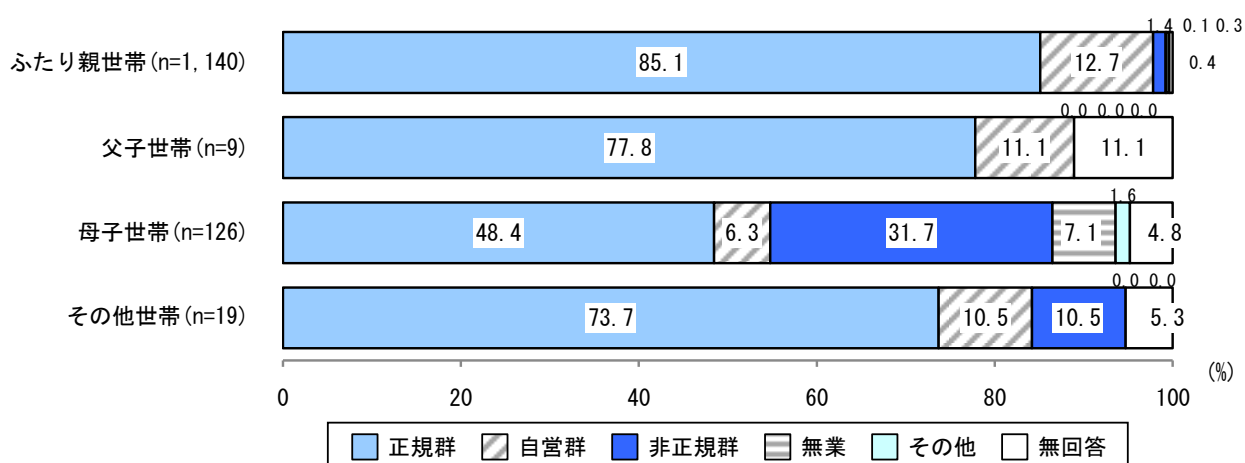
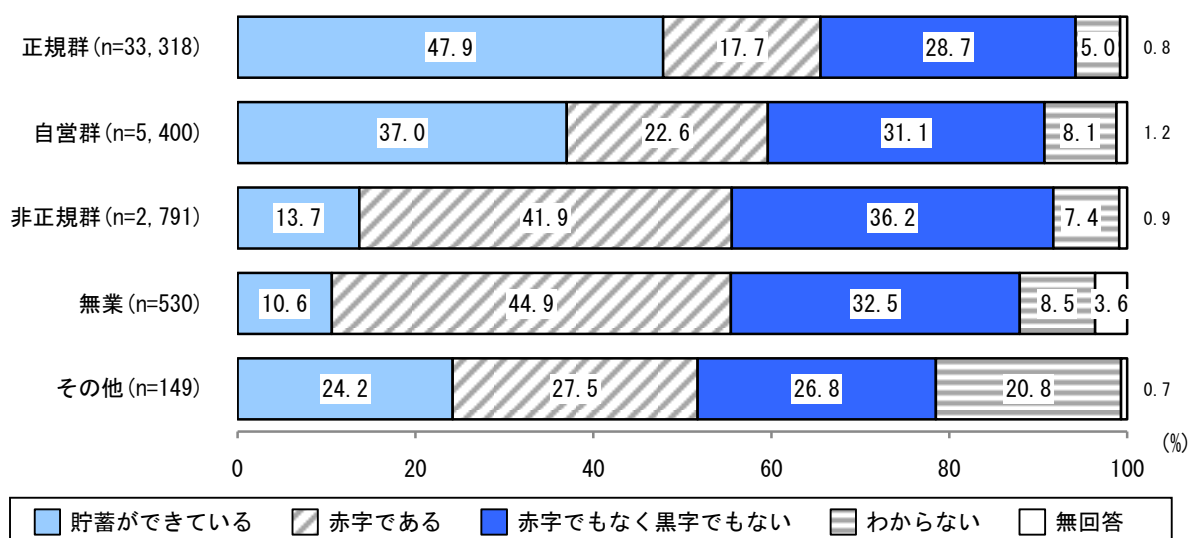


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、ふたり親世帯では「正規群」の割合が85.1%であるのに対し、父子世帯では77.8%、母子世帯では48.4%と低くなる。母子世帯では、「非正規群」の割合が31.7%となり、最も高い。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6（1））

<大阪府内全体>



<八尾市>

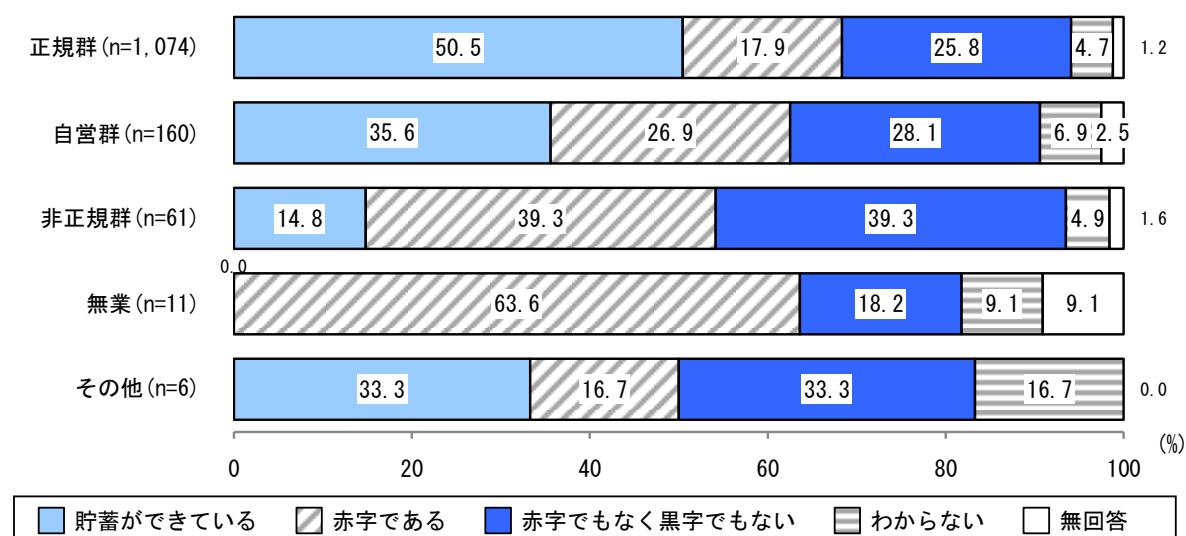


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、正規群では「貯蓄ができています」と回答した割合が50.5%と最も高く、次いで自営群が35.6%である。また、「赤字である」と回答した割合が無業では63.6%となり、最も高い。

＜雇用に関する考察＞

はじめに、困窮度別の保護者の就労状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間で差が大きい項目に着目して述べる。まず、親の就労状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規群」(92.4%対46.0%)が46ポイント以上高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規群」(22.4%対0.7%)が約20ポイント高くなっている。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、高学歴な「大学卒業」(34.4%対12.6%)が20ポイント以上高くなっている。他方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」(27.6%対18.0%)が約10ポイント高くなっている。同様に、父親の最終学歴においても、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、高学歴な「大学卒業」(50.0%対23.0%)が2倍以上である。困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」(28.7%対22.1%)は6ポイント以上高く、「高専、短大、専門学校等卒業」(10.3%対15.6%)は5ポイント以上低くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが示された。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。

次に、保護者の最終学歴別に就労状況を確認する。母親の最終学歴別に見ると、「中学校卒業」(61.9%)の正規雇用の割合は約6割程度に対して、それ以外では7～8割が「正規群」である。また父親の最終学歴別においても、「高等学校中途退学」および「中学校卒業」の正規雇用の比率は5～6割程度(56.3%、65.0%)にとどまっているのに対し、その他の群では7～9割を超えている。これらの結果から、学歴が高いほど正規雇用の割合が高いことを示唆している。

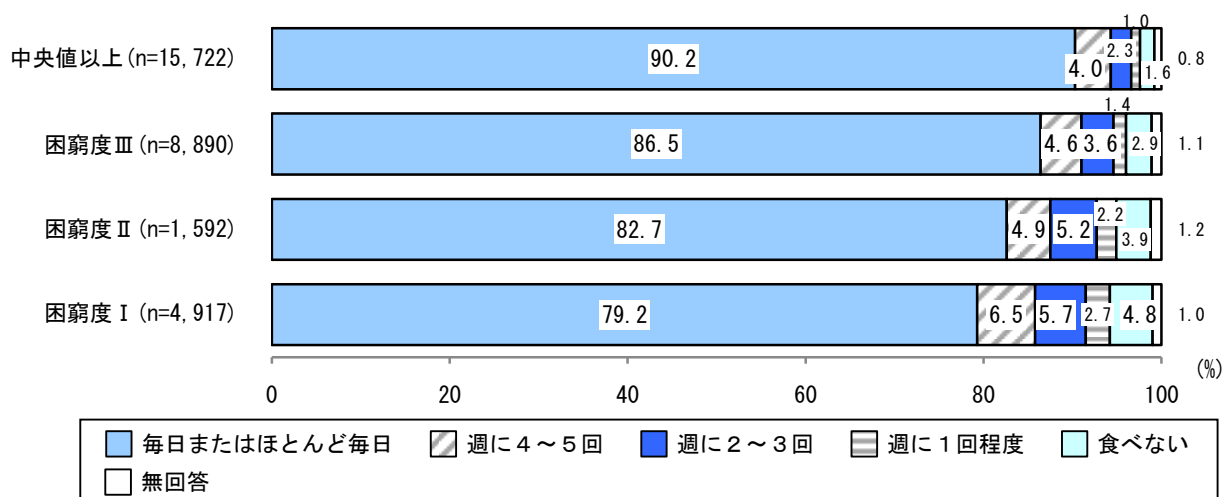
親の就労状況を世帯構成別に見ると、ふたり親世帯は母子世帯に比べ、「正規群」(85.1%対48.4%)が36ポイント以上高くなっている。また、父子世帯は母子世帯と比べ、「正規群」(77.8%対48.4%)が29ポイント以上高く、母子世帯の正規雇用の割合の低さが顕著である。さらに、母子世帯は「非正規群」(31.7%)の割合がその他の世帯構成に比べ非常に高くなっており、不安定な就労状況にあることを示唆している。

最後に、保護者の就労状況別に家計状況をみると、「正規群」は「非正規群」と比べ、「貯蓄が出来ている」(50.5%対14.8%)は3倍以上高くなっている。また、「非正規群」は「正規群」と比べ、家計状況が「赤字である」(39.3%対17.9%)が20ポイント以上高いという対照的な状況が示された。この結果から、保護者の就業状況により貯蓄ができるか否かなど生活の安定に大きな影響を及ぼしていることが示唆される。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

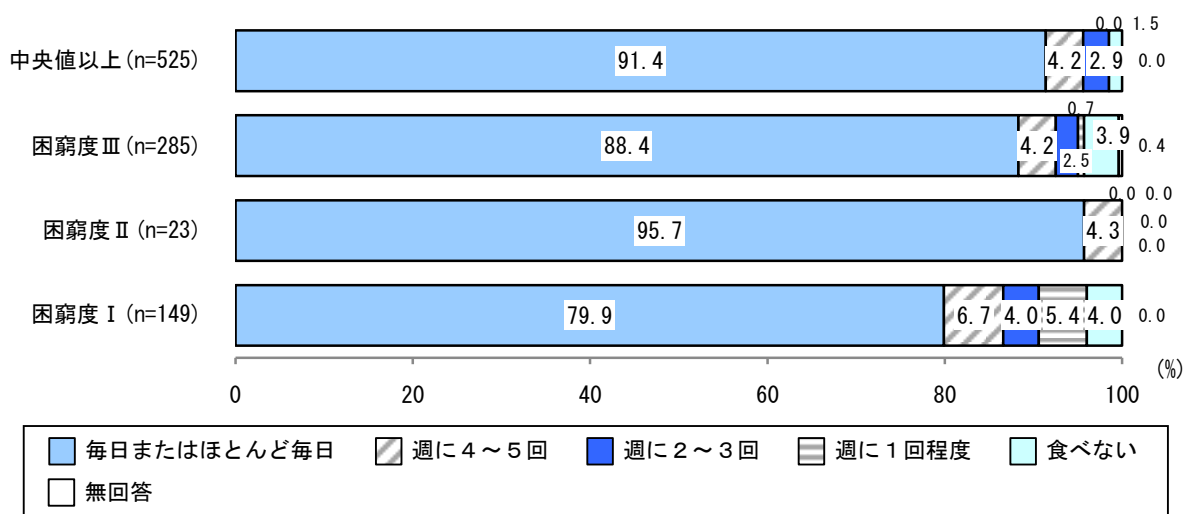
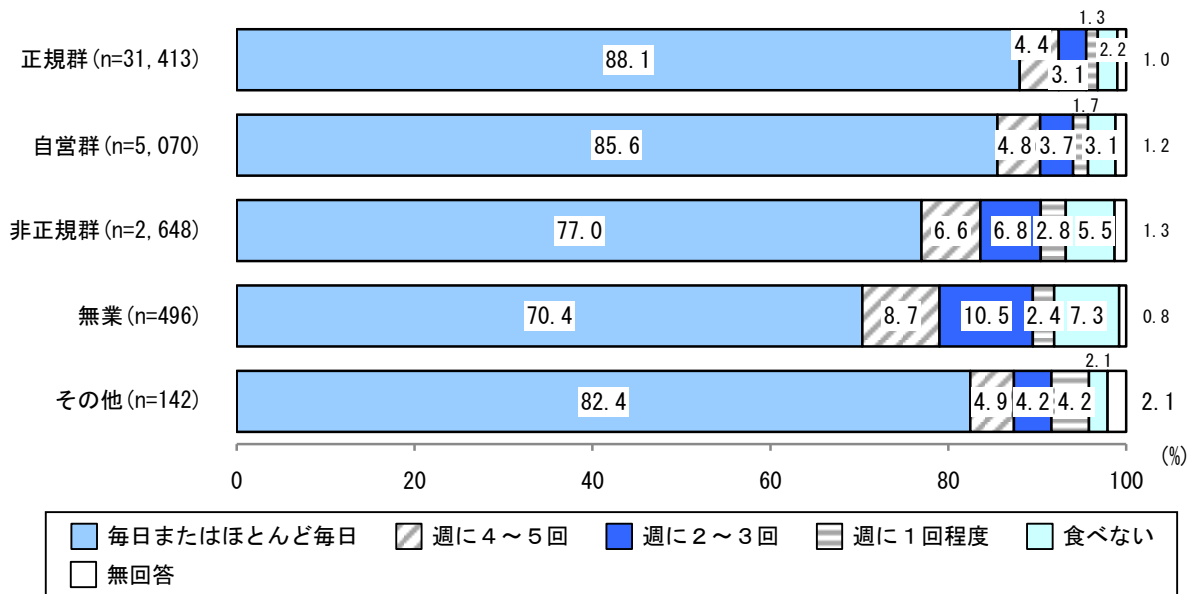


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べると回答した割合が、困窮度Ⅰ群（79.9％）で最も低い。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

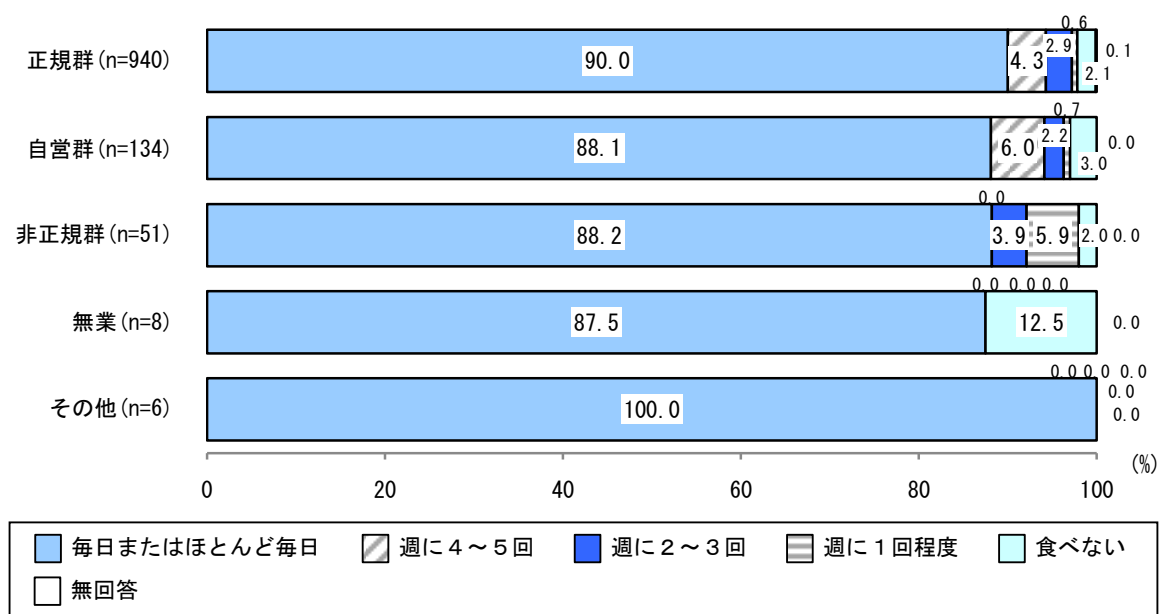
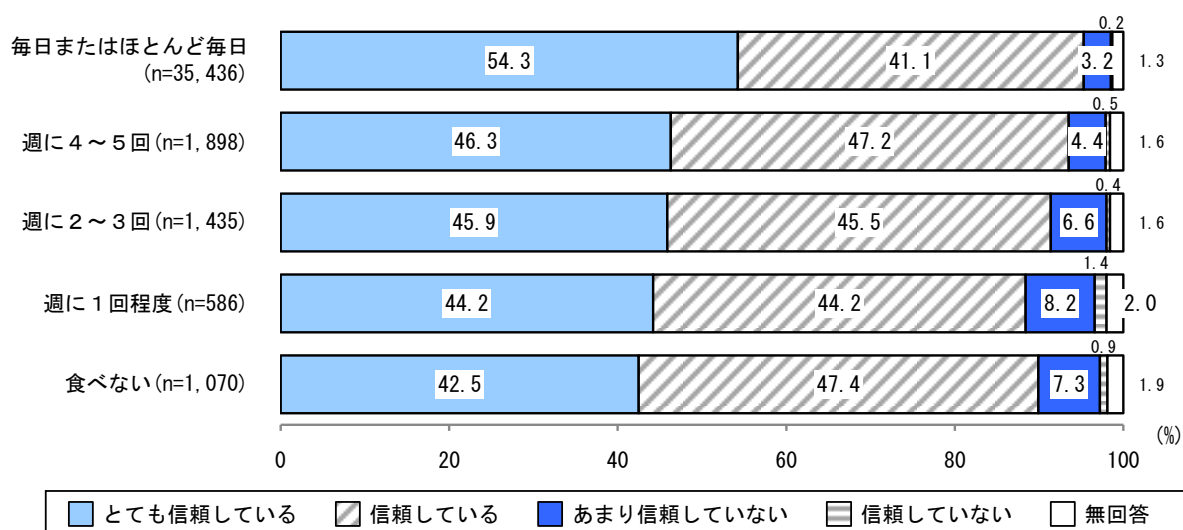


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、正規群（90.0%）が最も高く、次いで、非正規群（88.2%）、自営群（88.1%）、無業（87.5%）の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

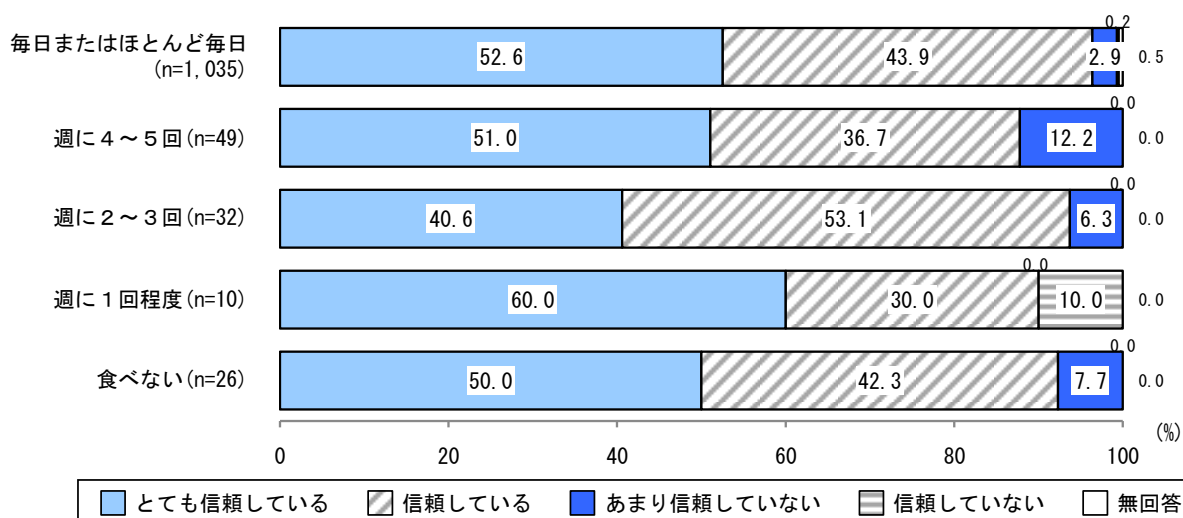
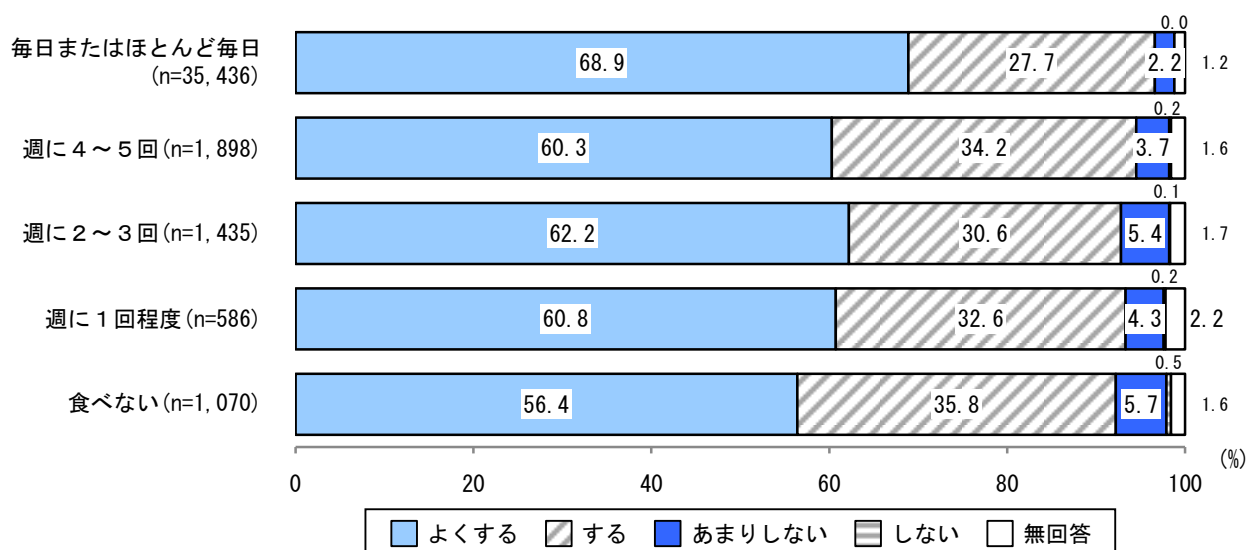


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合が、朝食の頻度が「週に1回程度」において60.0%と最も高く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が52.6%となっている。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

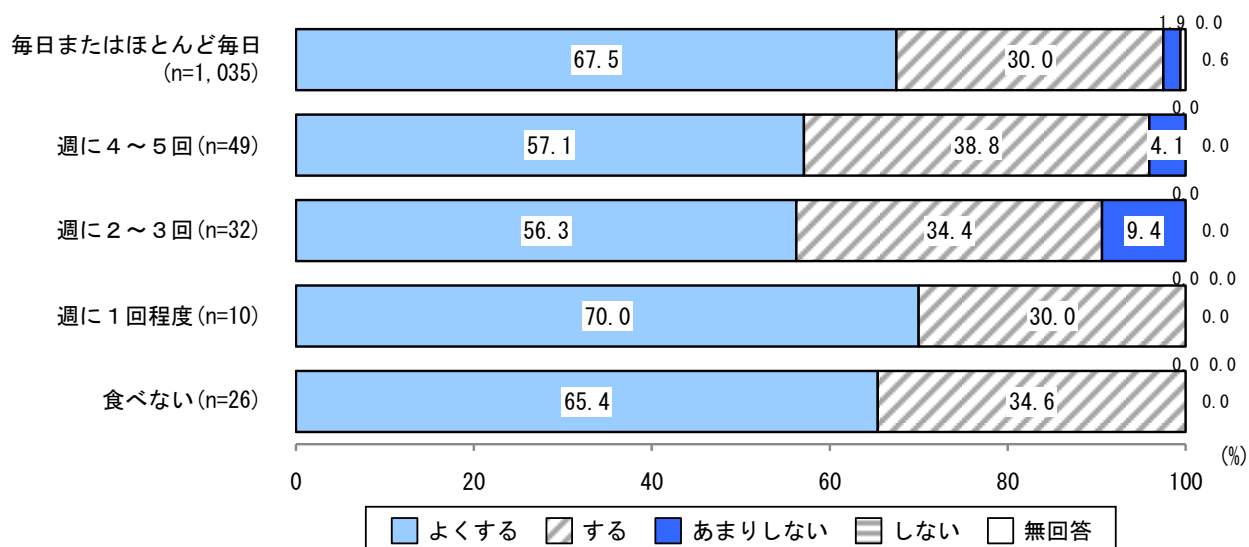
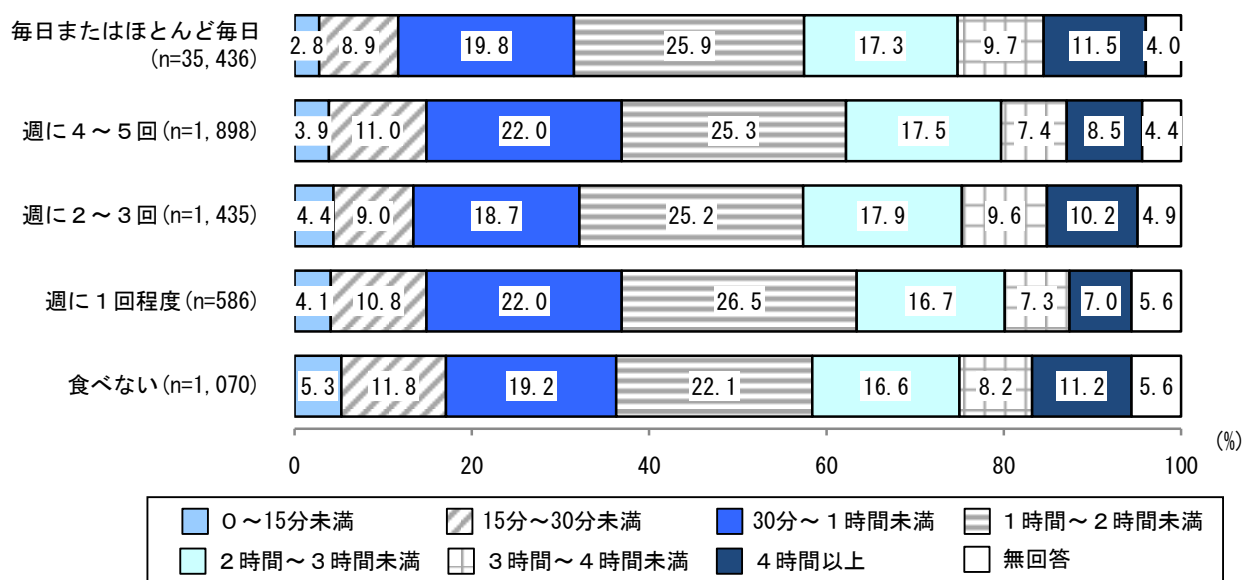


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもとの会話頻度を見ると、会話を「よくする」と回答した割合が、朝食の頻度が「週に 2～3 回」において 56.3% と最も低い。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

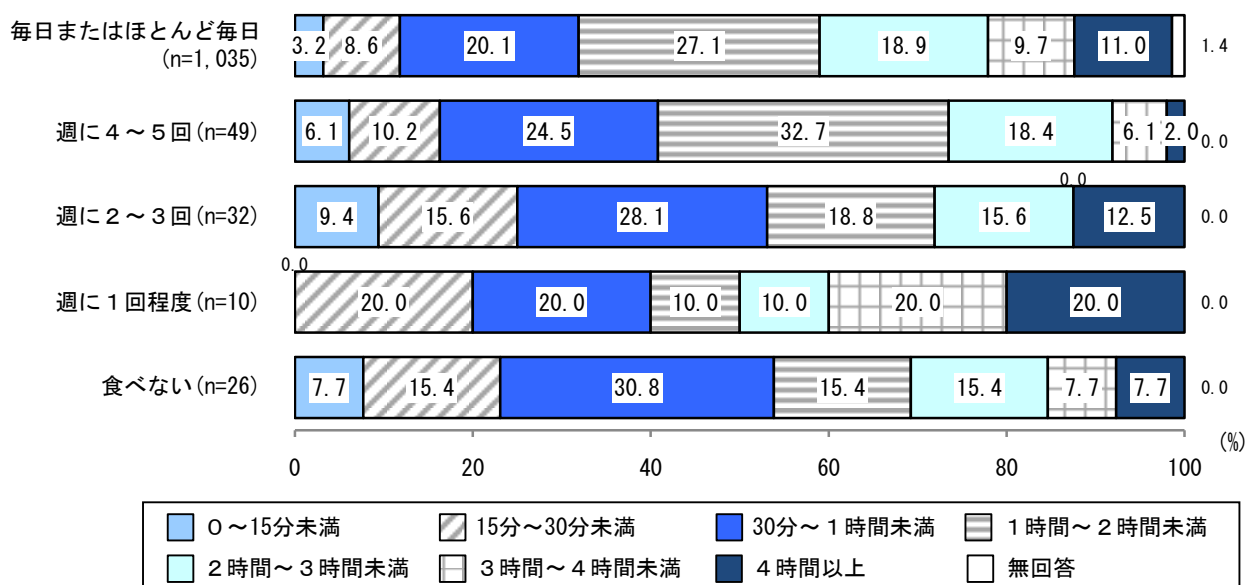
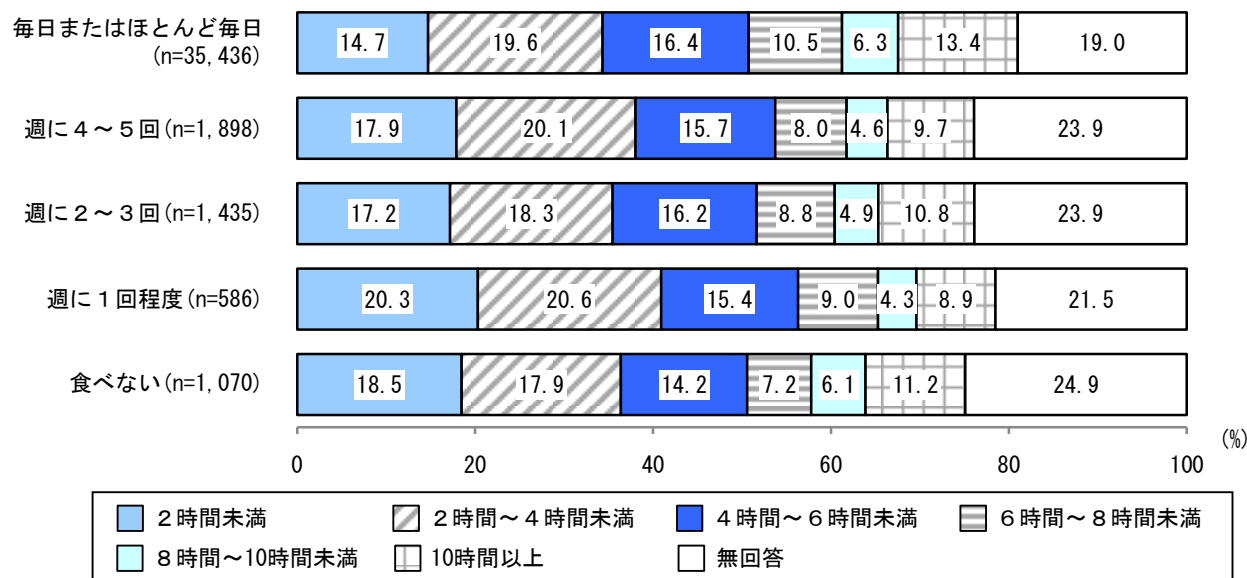


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「2時間～3時間未満」と回答した割合が18.9%で最も高い。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

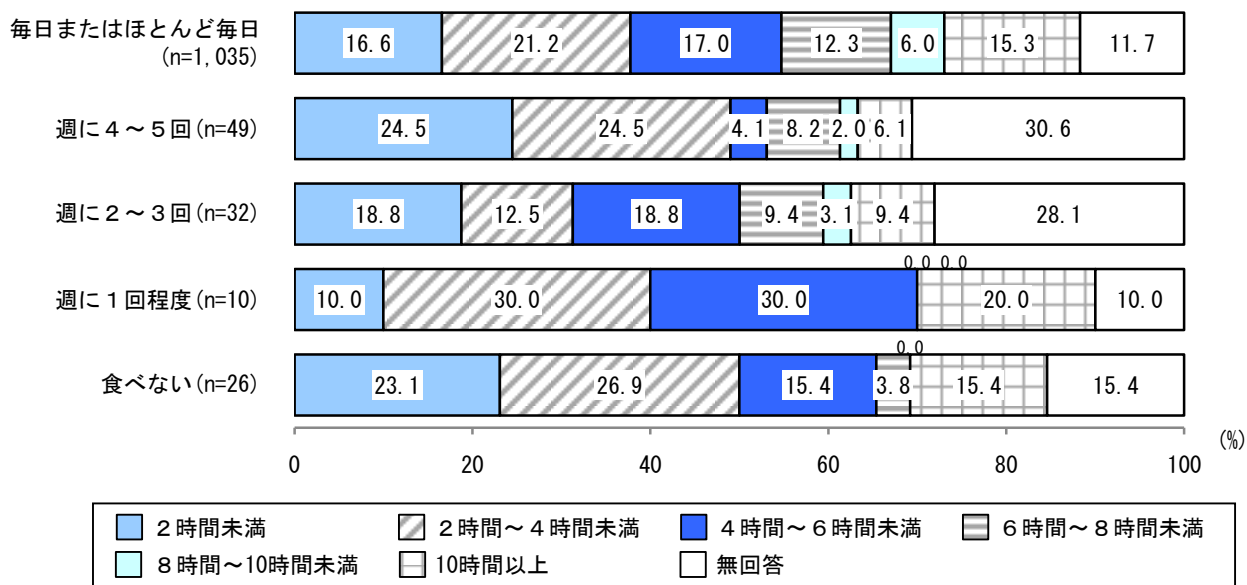
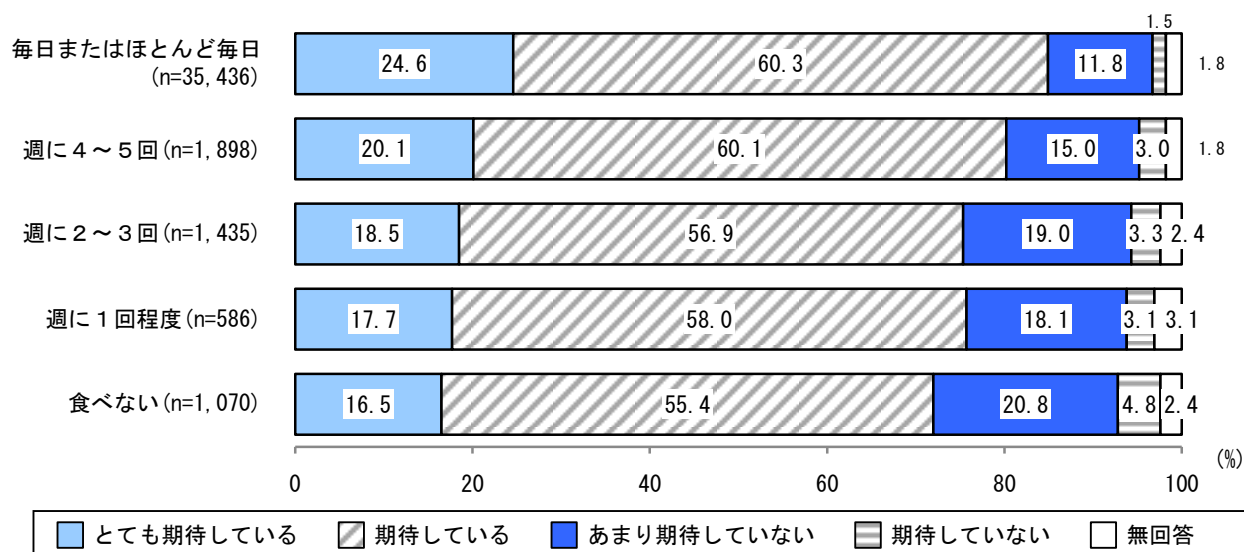


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「8時間～10時間未満」と回答した割合が6.0%と最も高い。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (4)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

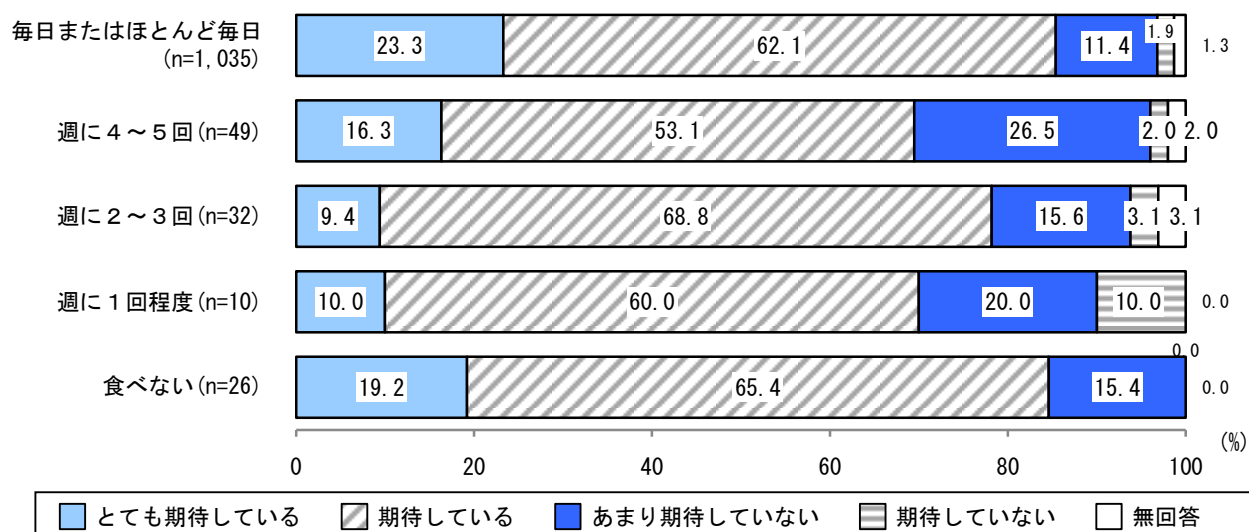


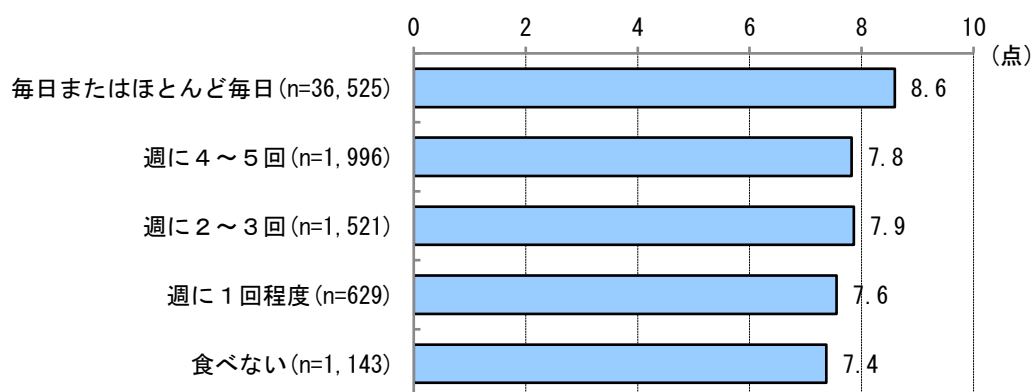
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」(23.3%)、「期待している」(62.1%)となんらか『期待している』割合が85.4%と最も高く、朝食を「週に4～5回」と回答した人では、「とても期待している」(16.3%)、「期待している」(53.1%)となんらか『期待している』割合が69.4%と最も低い。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問4(1)×子ども票問23)

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<八尾市>

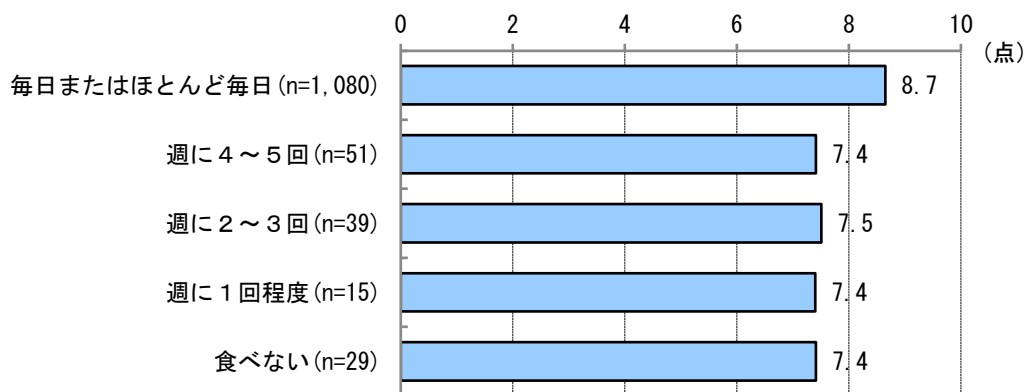
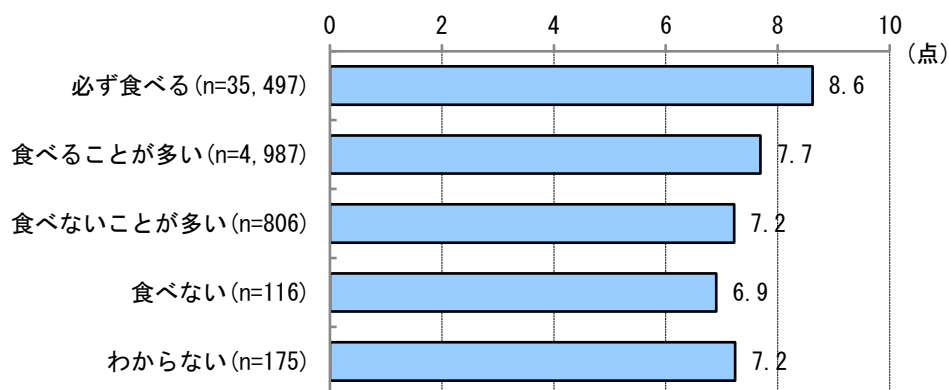


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.7点であるのに対して、「食べない」では、7.4点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問6（1）×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<八尾市>

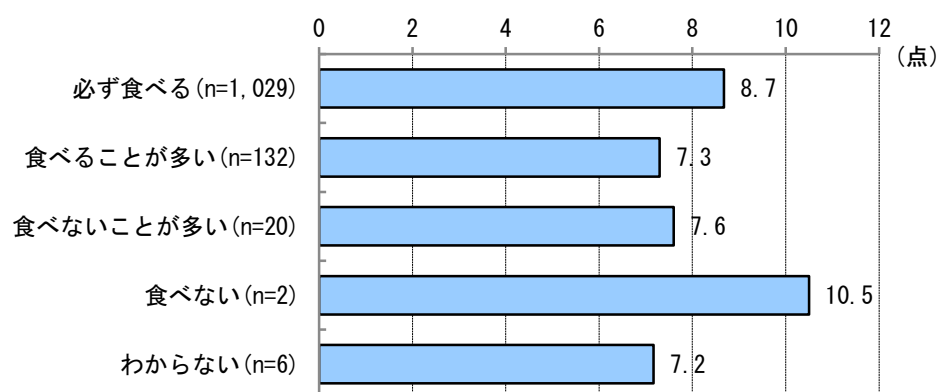
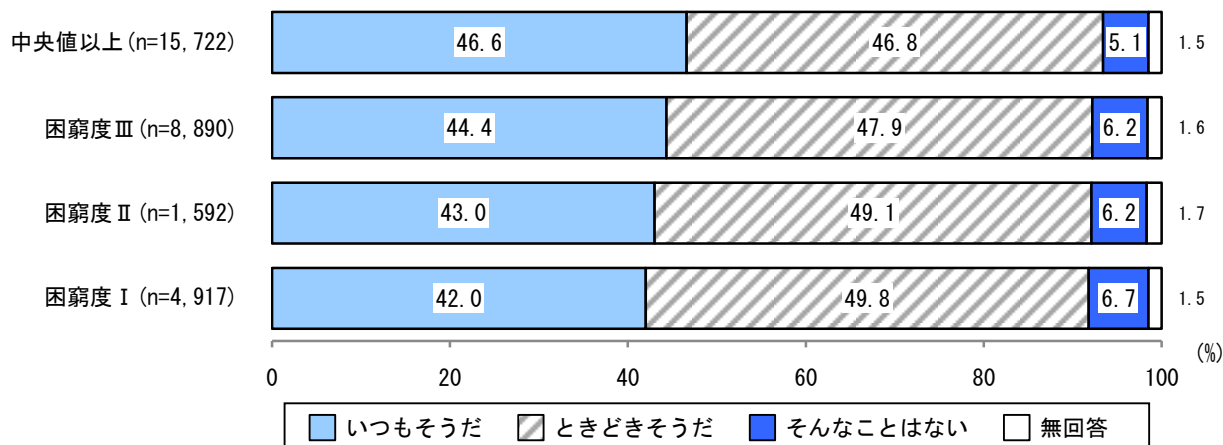


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「食べることが多い」と回答した人の得点が7.3点と最も低く、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<八尾市>

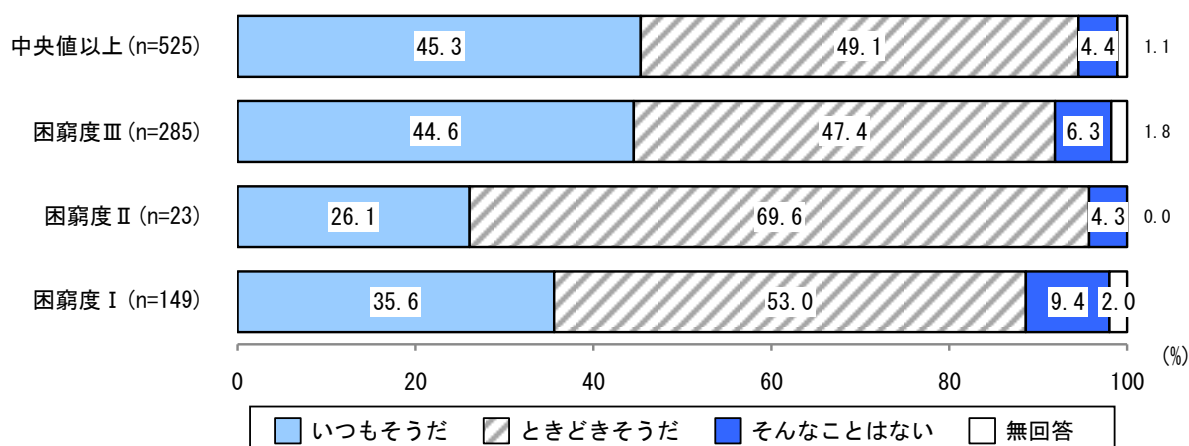
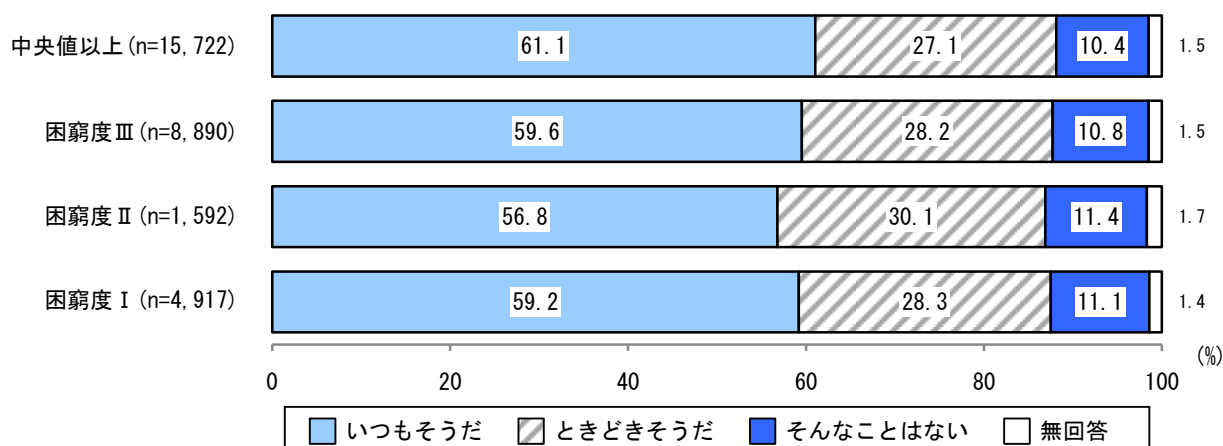


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合が、困窮度Ⅱ群（26.1%）で最も低い。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<八尾市>

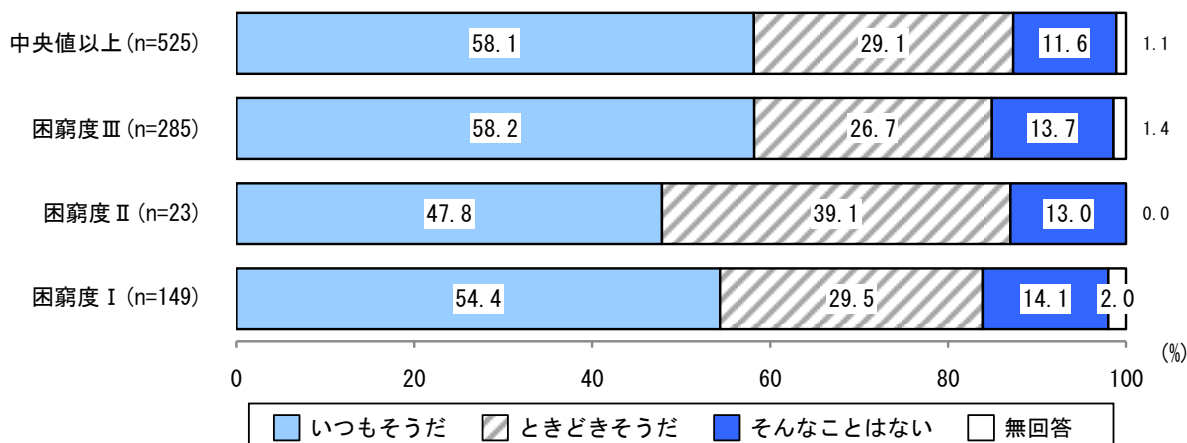
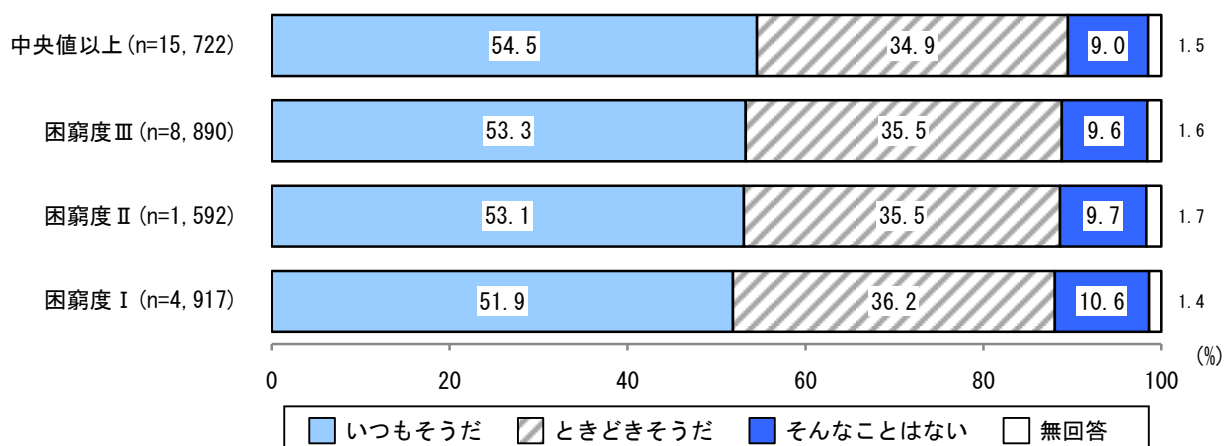


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（47.8%）で最も低い。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ（子ども票問 19③）

<大阪府内全体>



<八尾市>

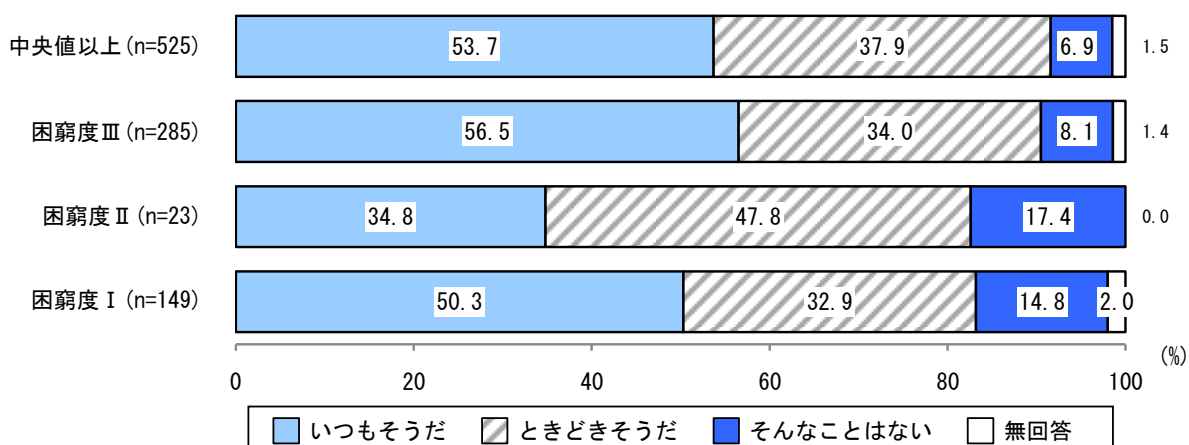
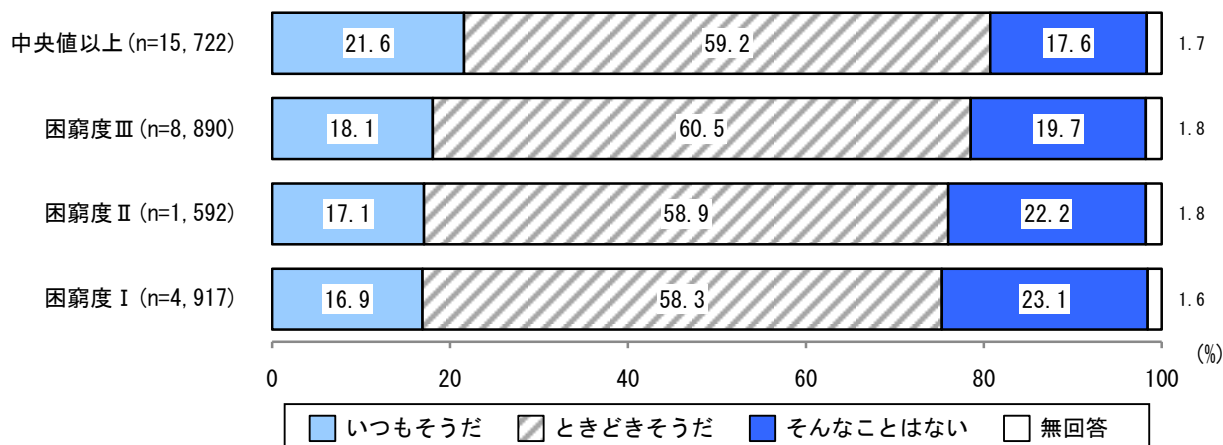


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（34.8%）で最も低い。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<八尾市>

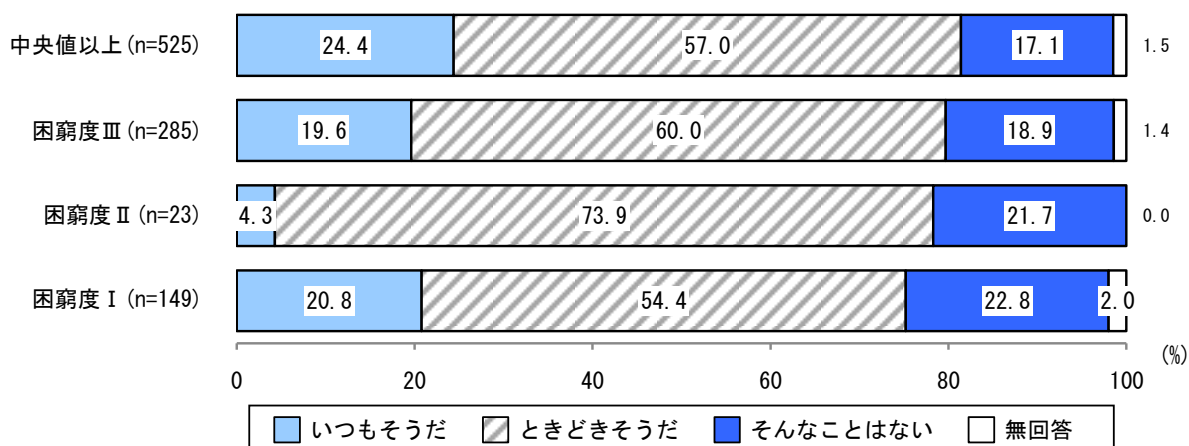
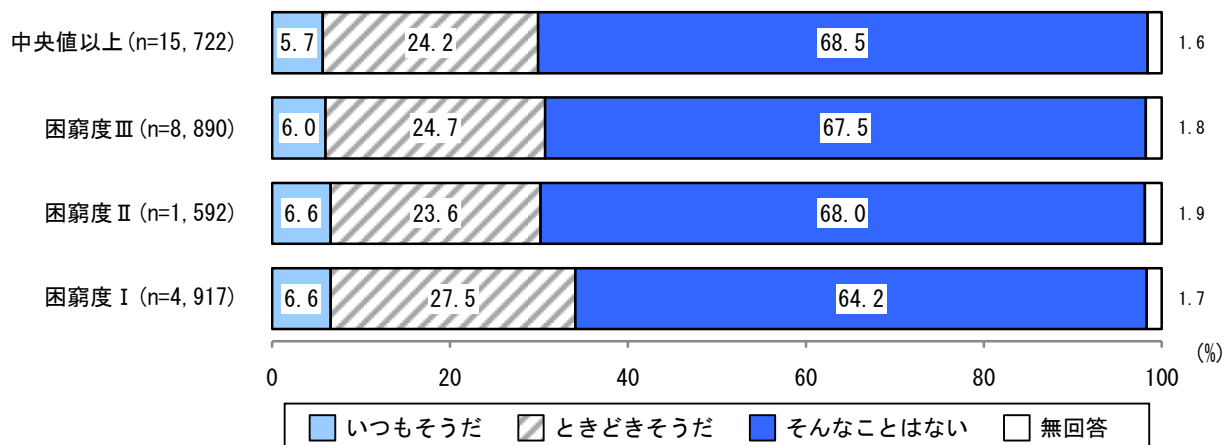


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合が、中央値以上群（24.4%）で最も高い。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<八尾市>

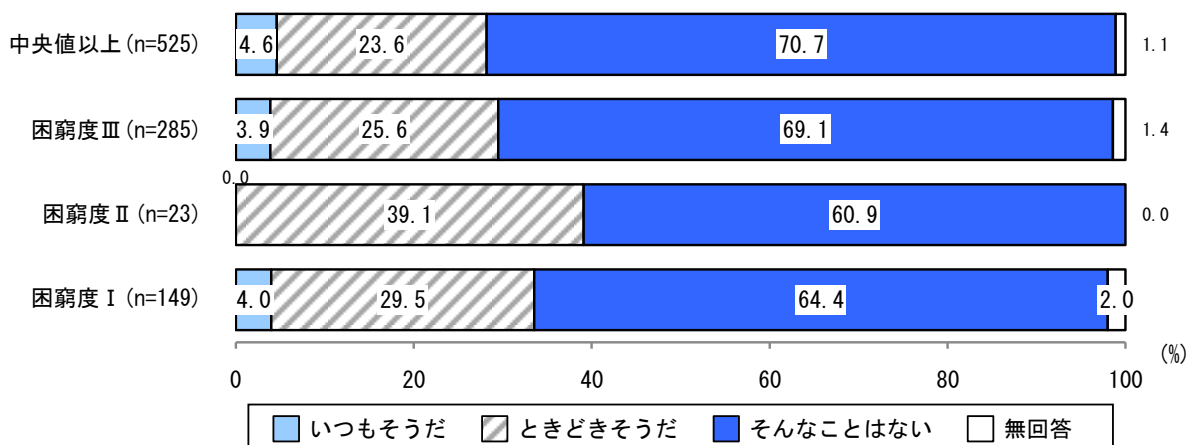
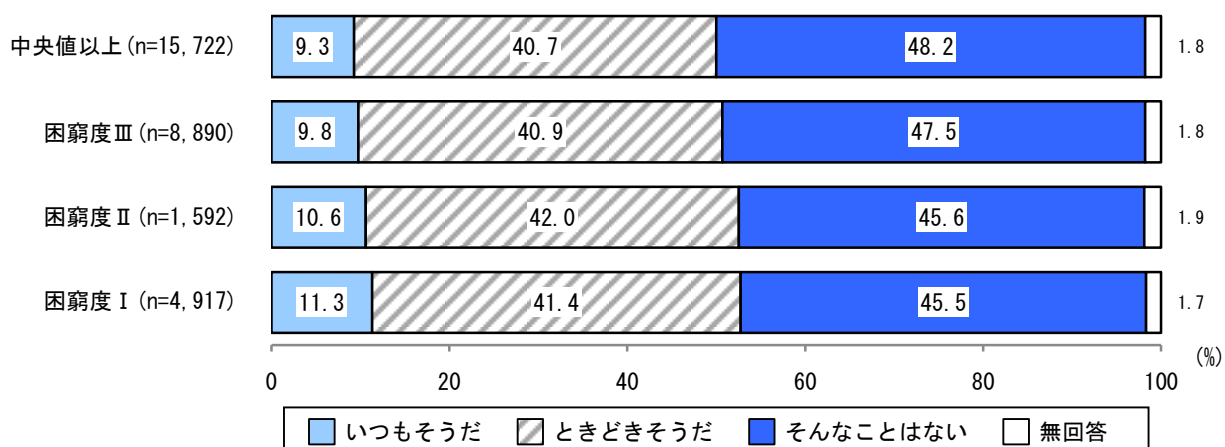


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、中央値以上群（4.6％）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<八尾市>

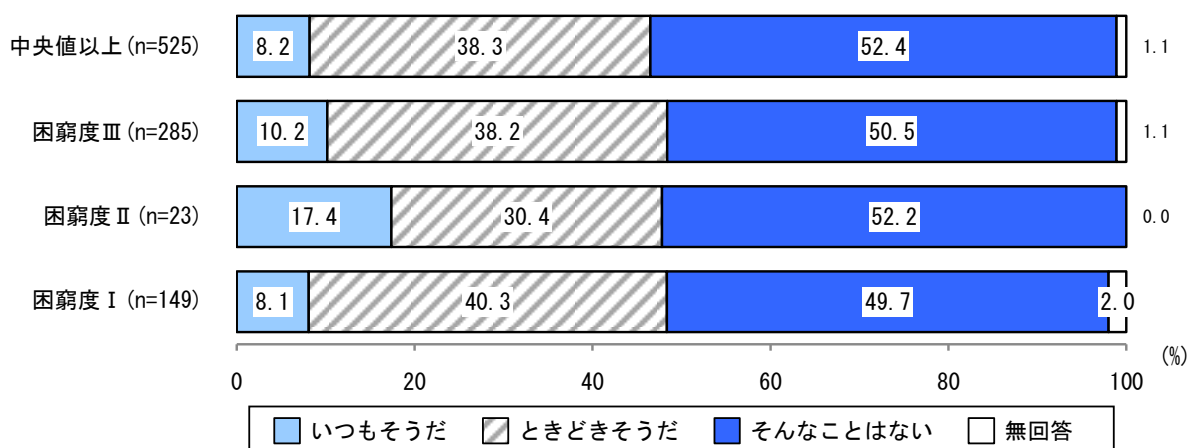
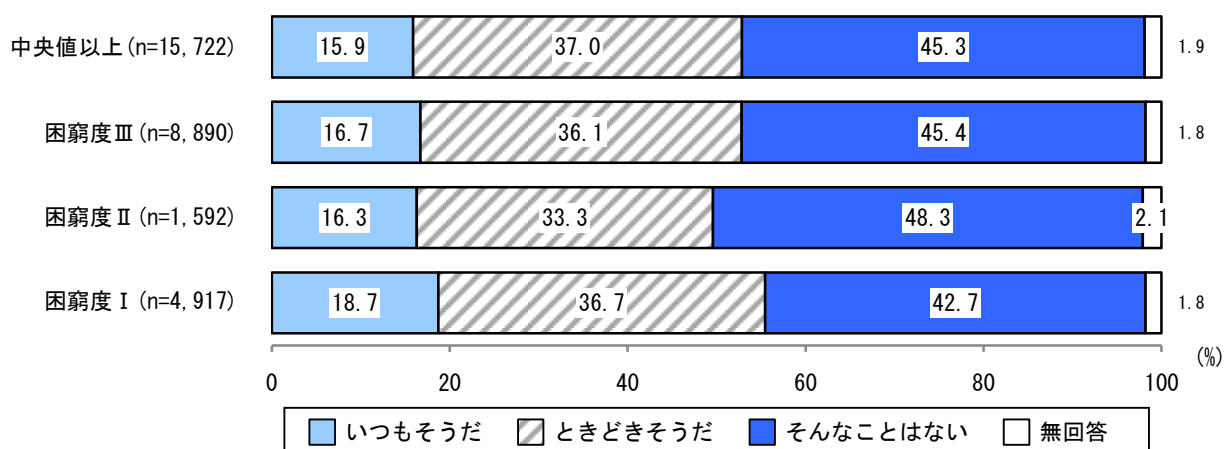


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（17.4%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる（子ども票問 19⑦）

<大阪府内全体>



<八尾市>

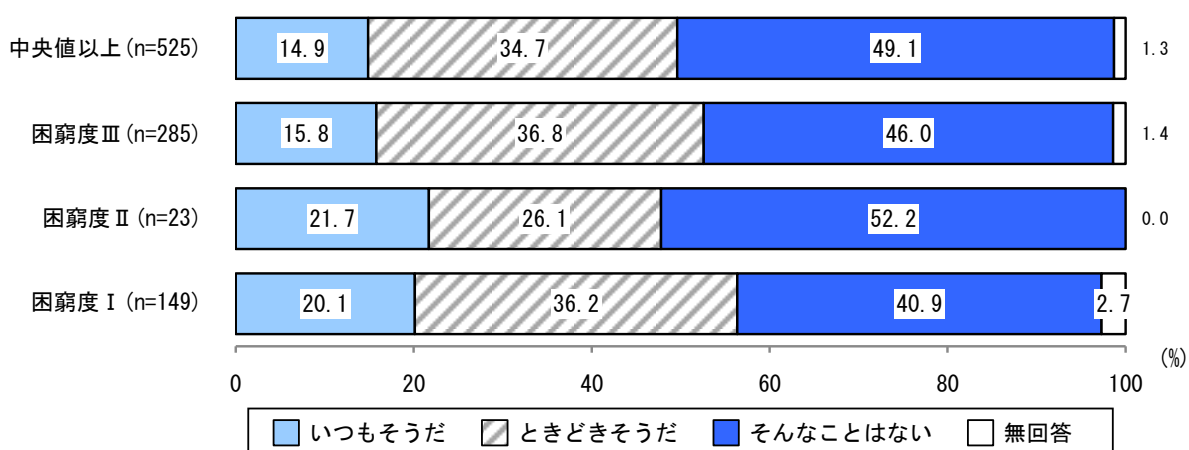
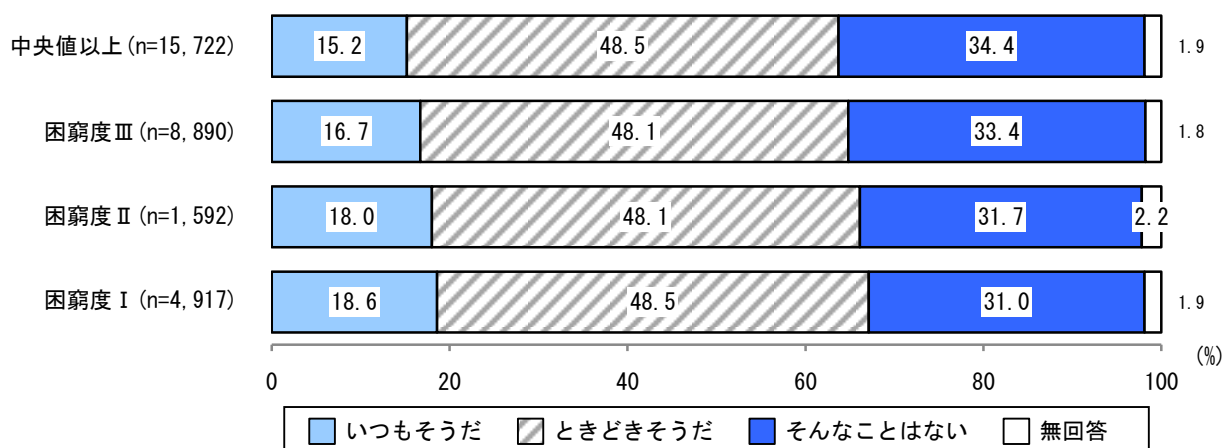


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（21.7%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<八尾市>

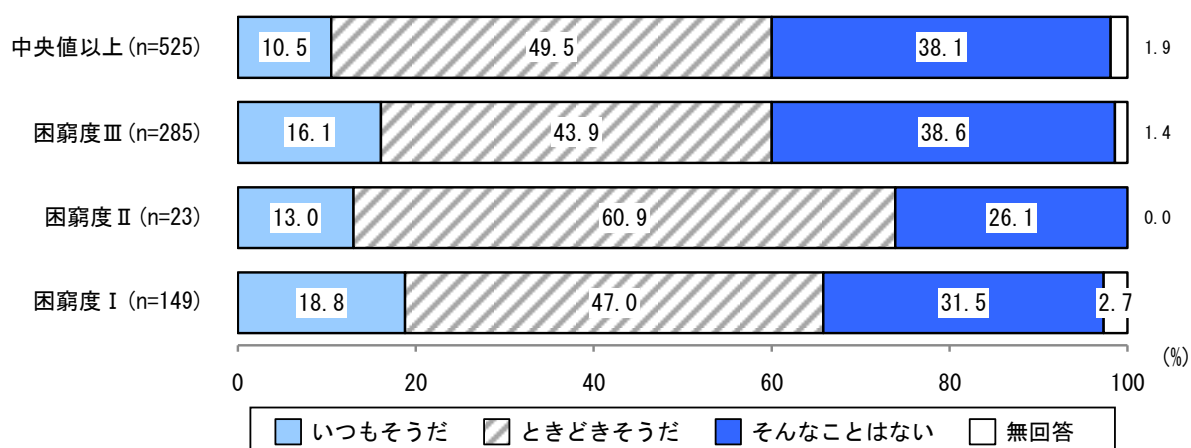
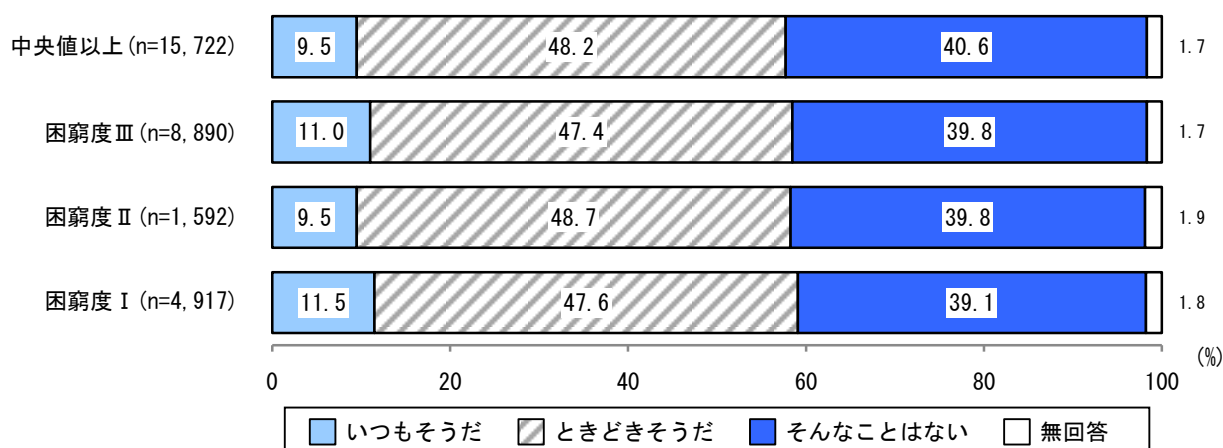


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群（18.8%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする（子ども票問 19⑨）

<大阪府内全体>



<八尾市>

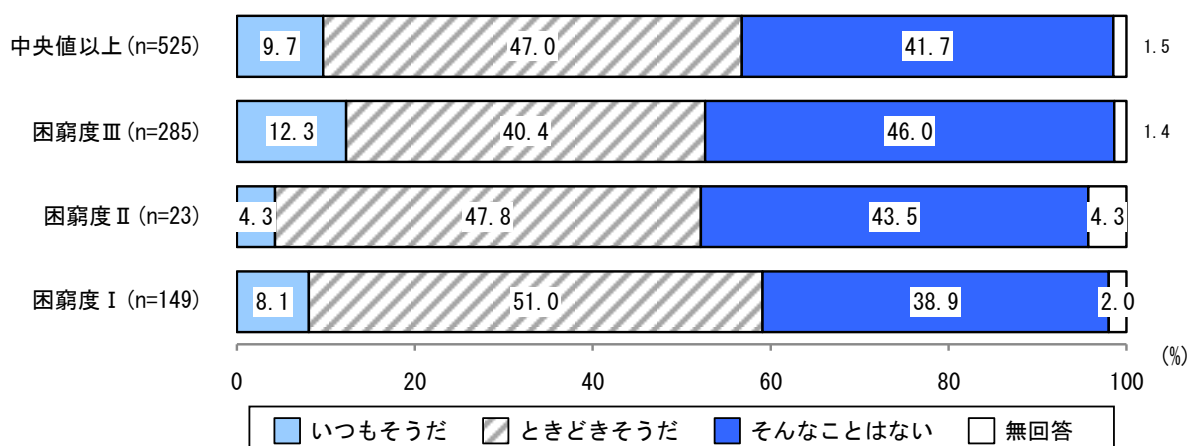
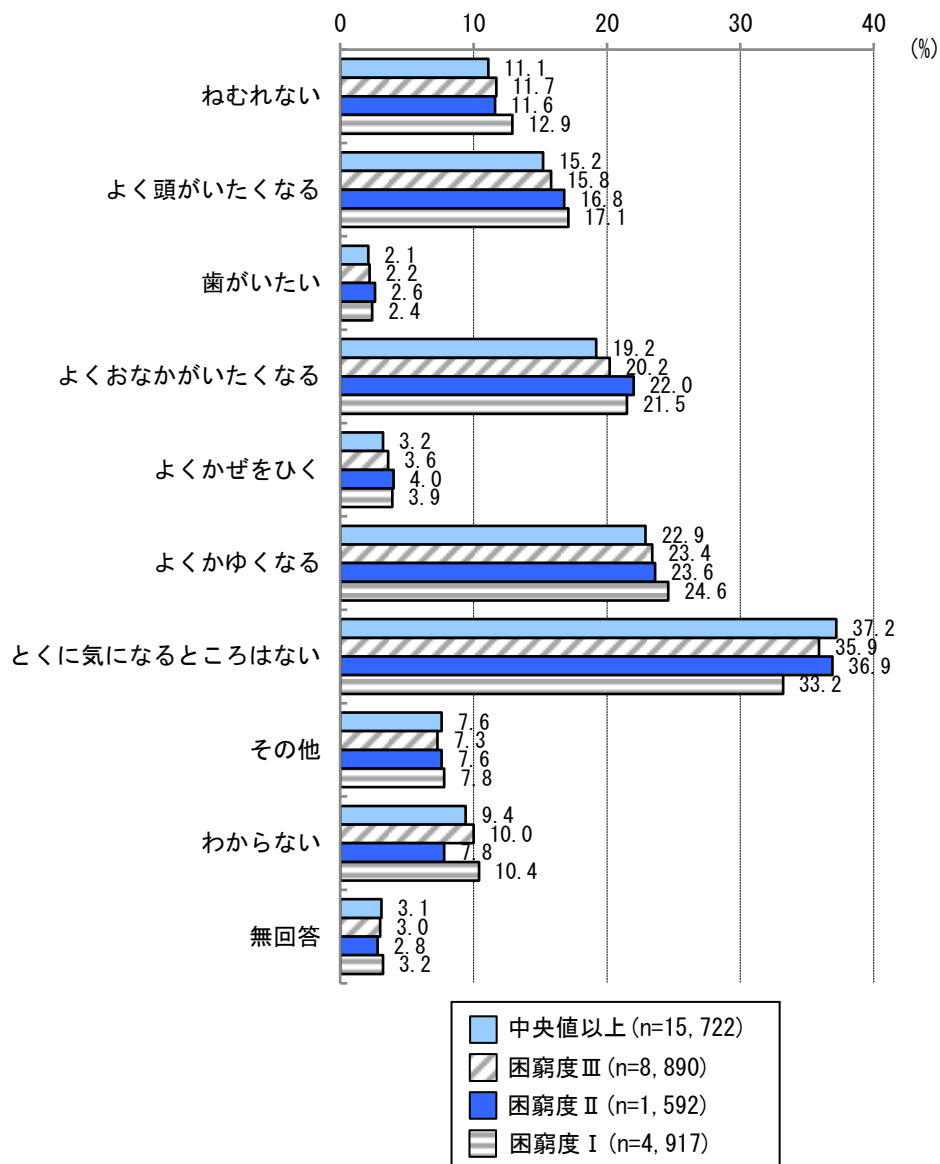


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群（12.3%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<八尾市>

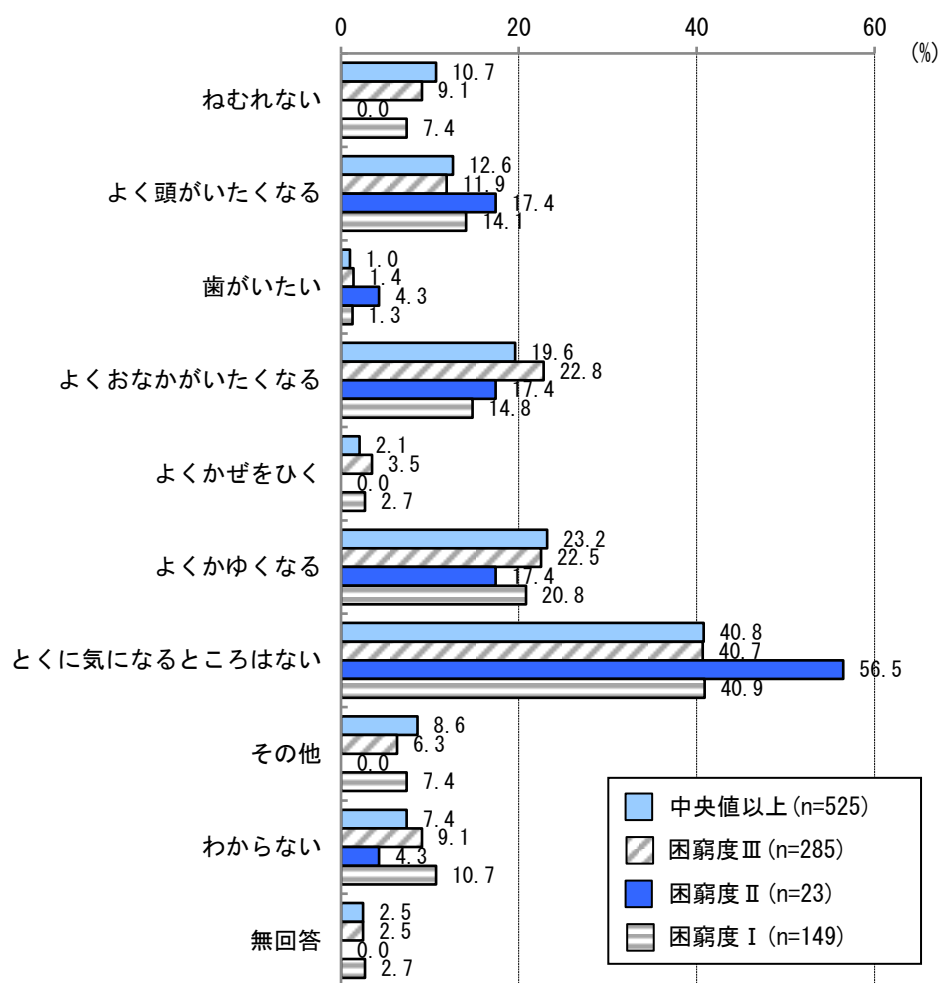
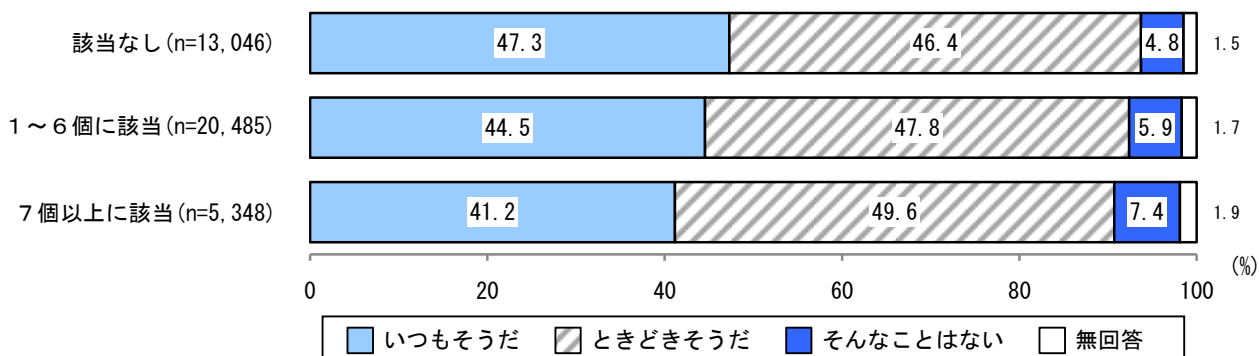


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「歯がいたい」1.3%（中央値以上群に対して1.3倍）、「よくかぜをひく」2.7%（同じく1.3倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<八尾市>

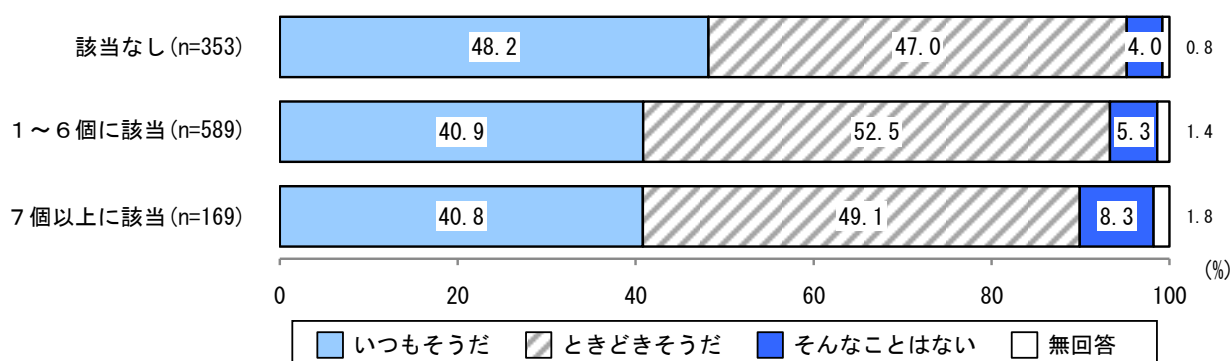
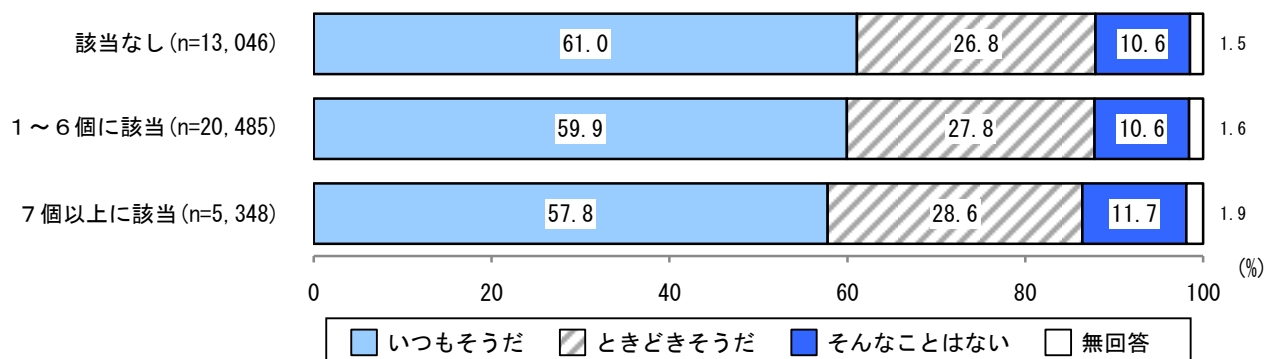


図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」（40.8％）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

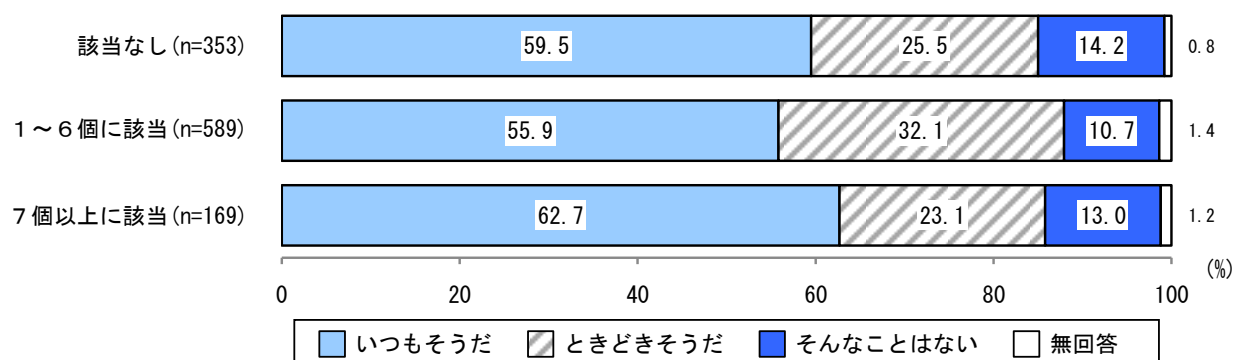
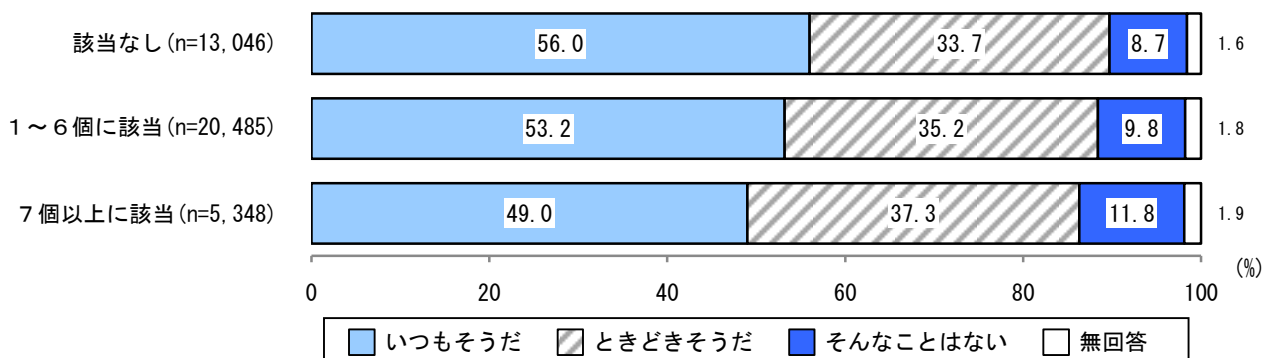


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「1～6個に該当」(55.9%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
(保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<八尾市>

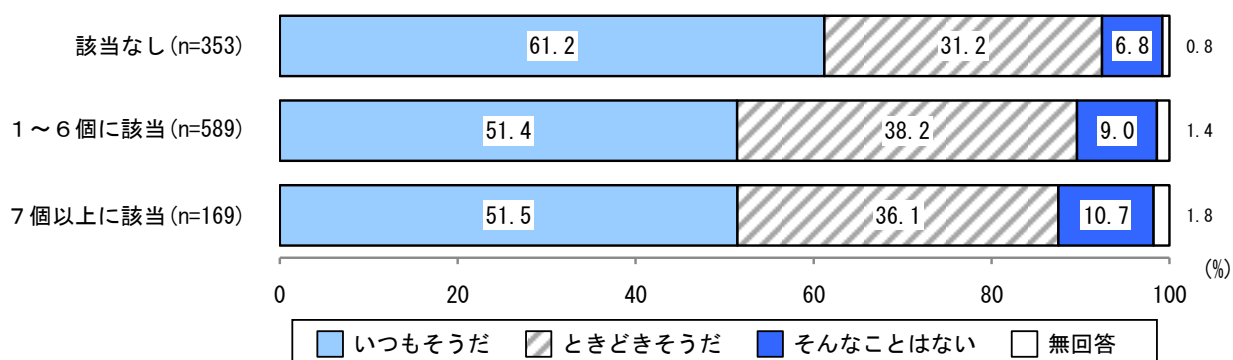
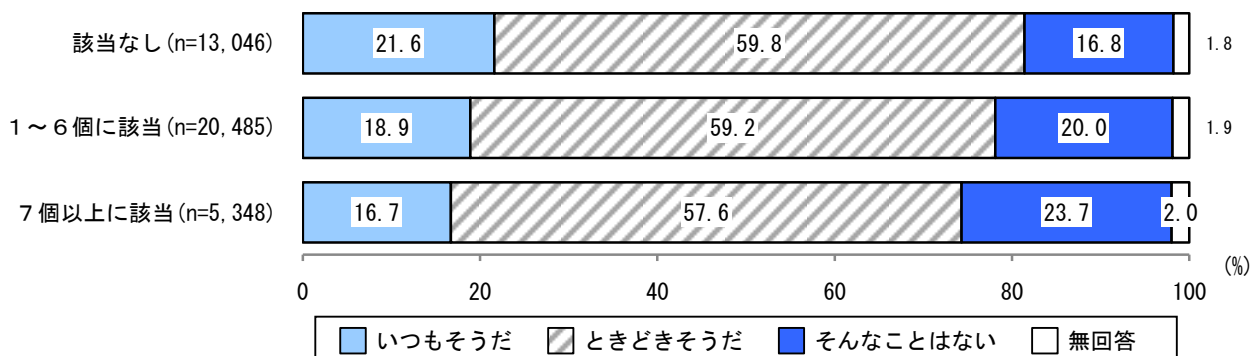


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「該当なし」が61.2%と最も高い。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<八尾市>

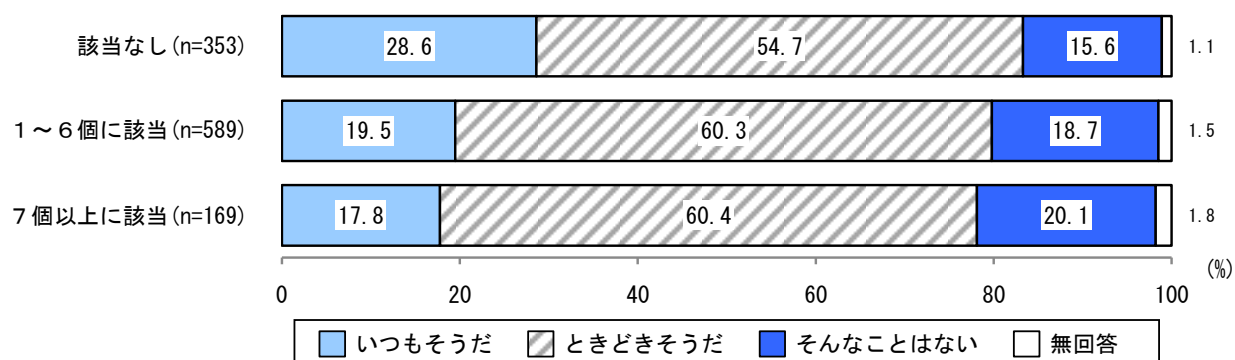
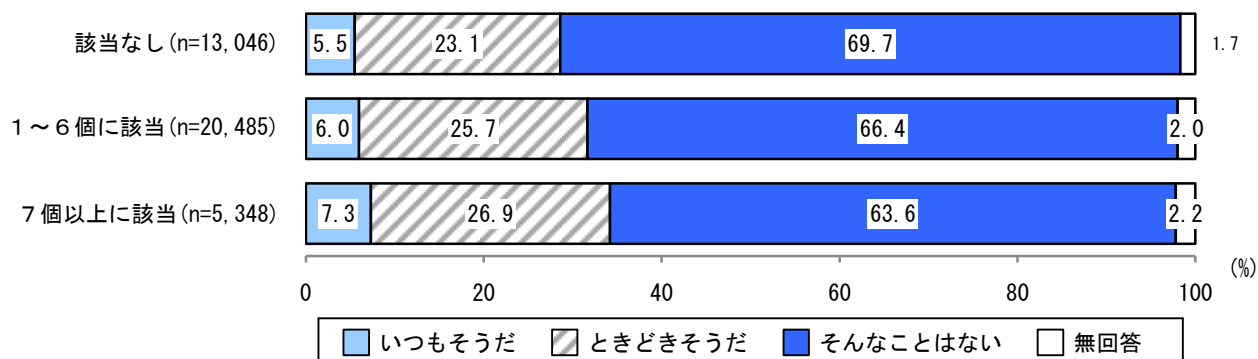


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は「7個以上に該当」(17.8%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<八尾市>

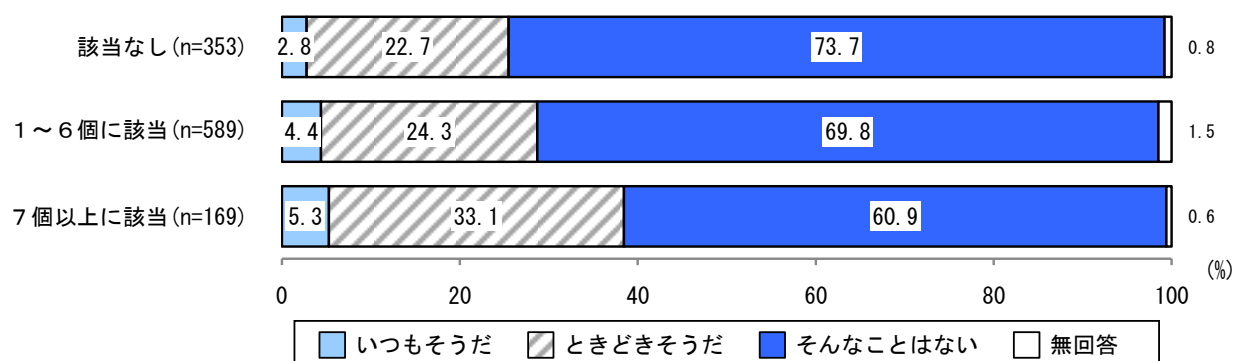


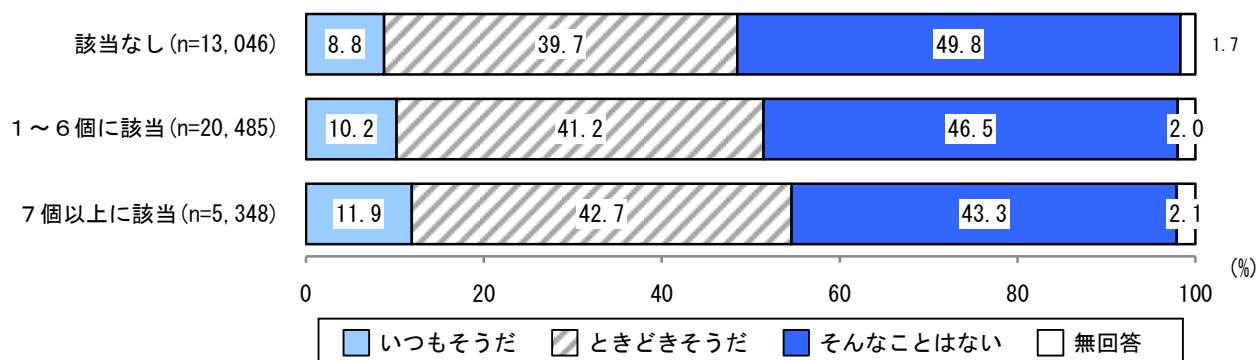
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は「7個以上に該当」(5.3%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<八尾市>

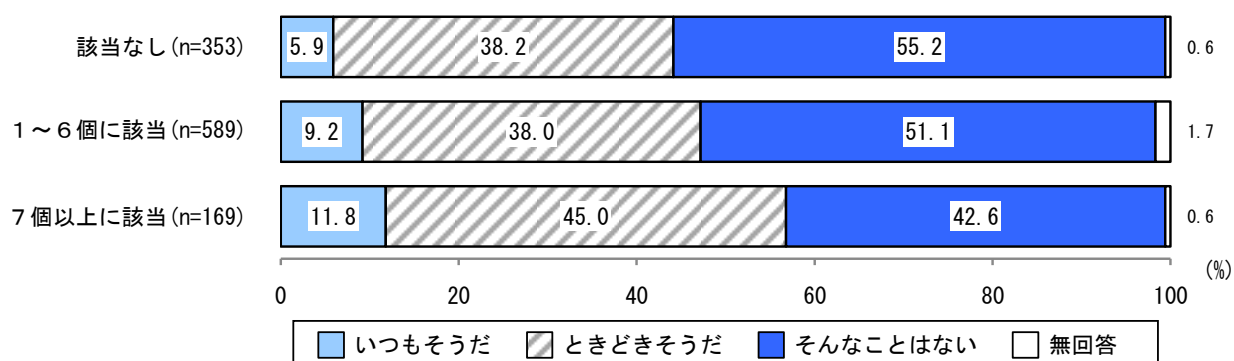
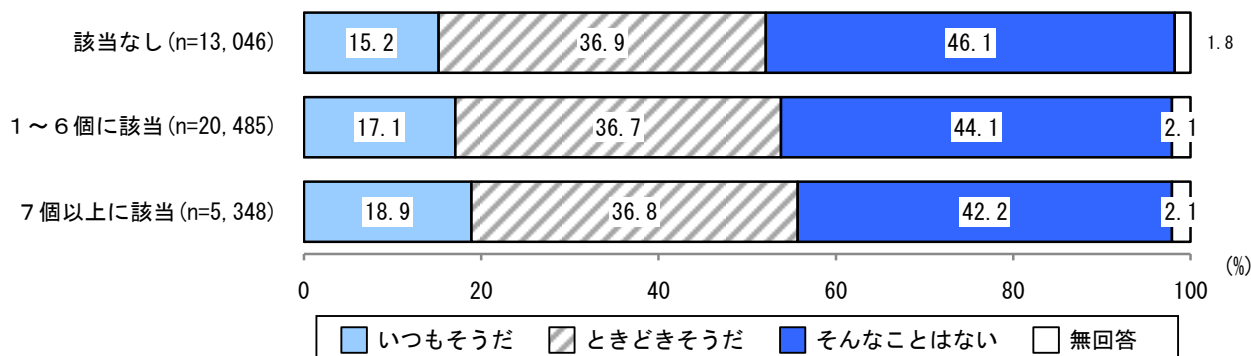


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は「7個以上に該当」(11.8%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
(保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<八尾市>

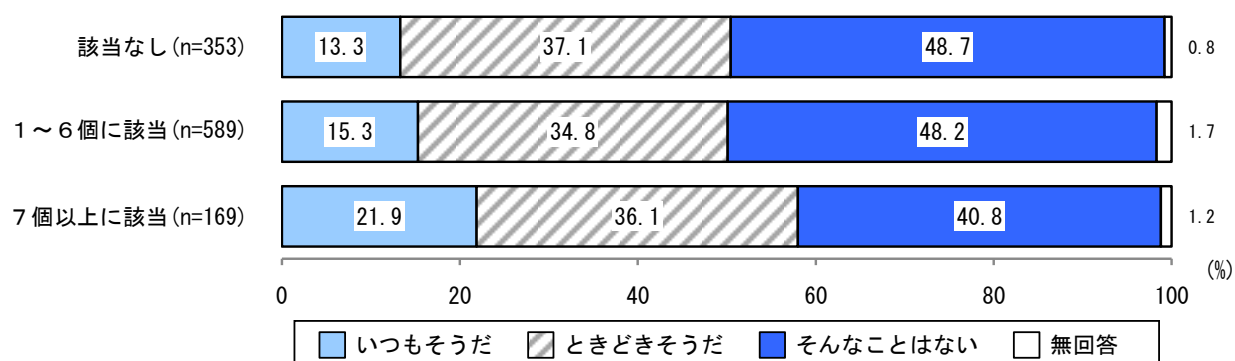
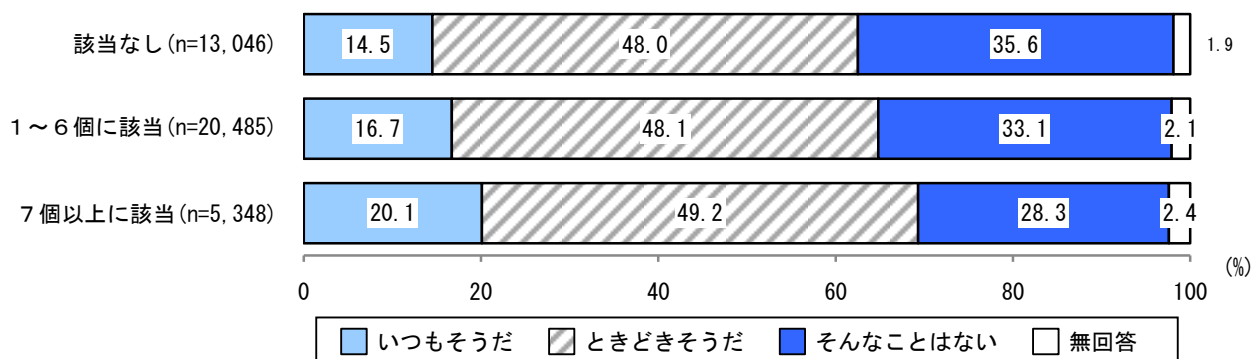


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は「7個以上に該当」(21.9%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
(保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<八尾市>

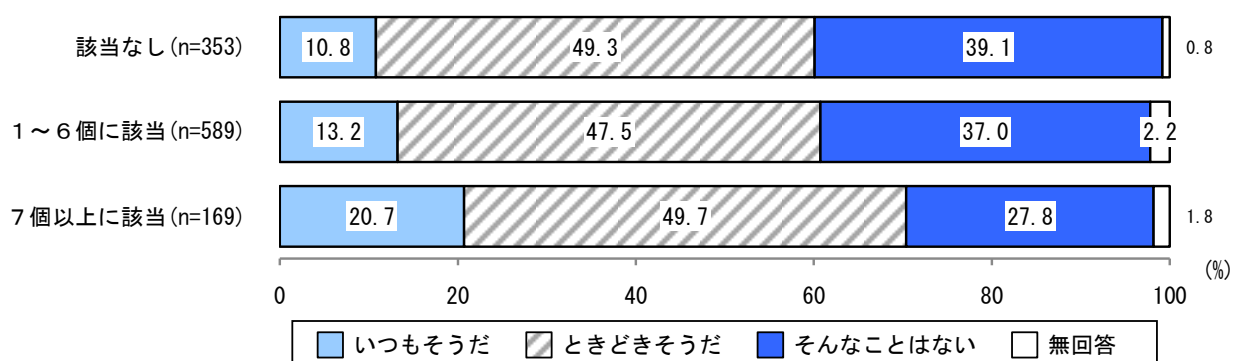
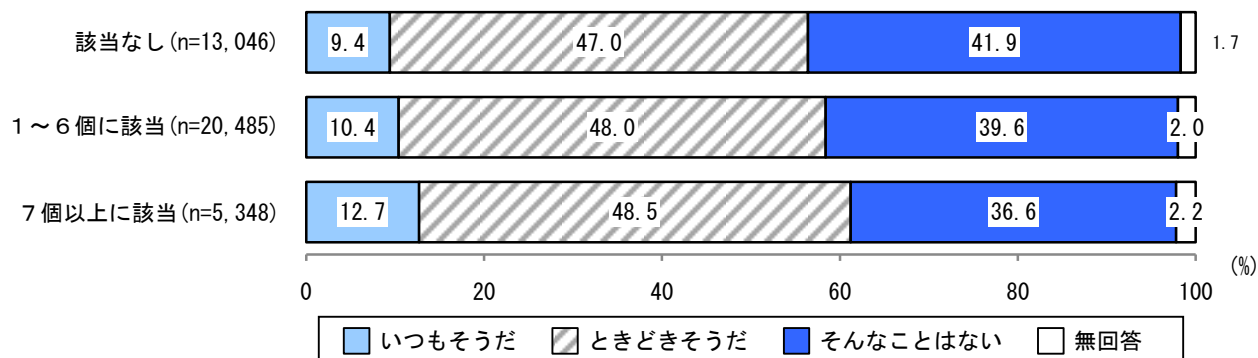


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は該当数が多いほど高くなり、「7個以上に該当」が20.7%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする
(保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<八尾市>

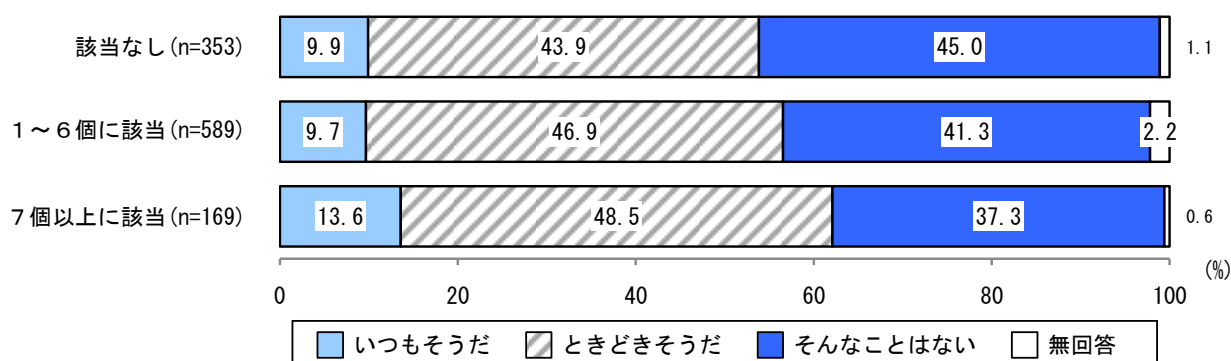
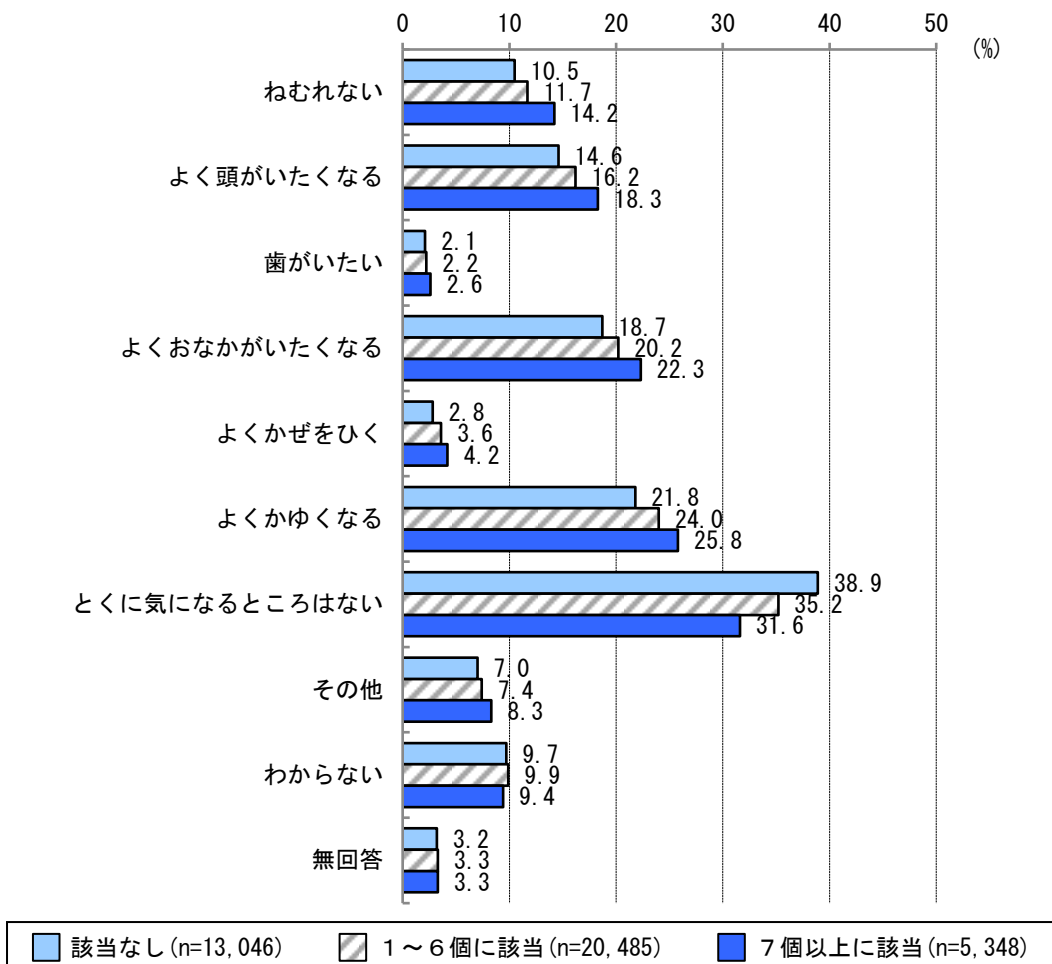


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は「7個以上に該当」が13.6%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
(保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



<八尾市>

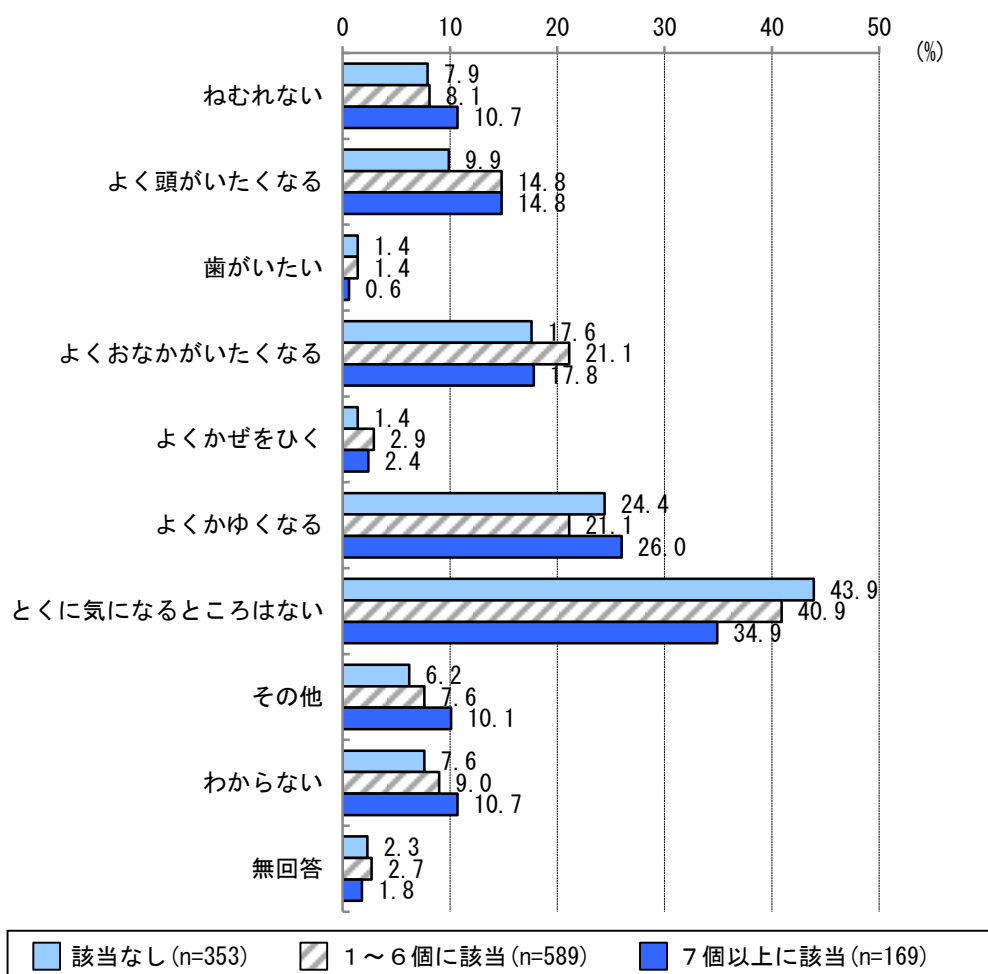
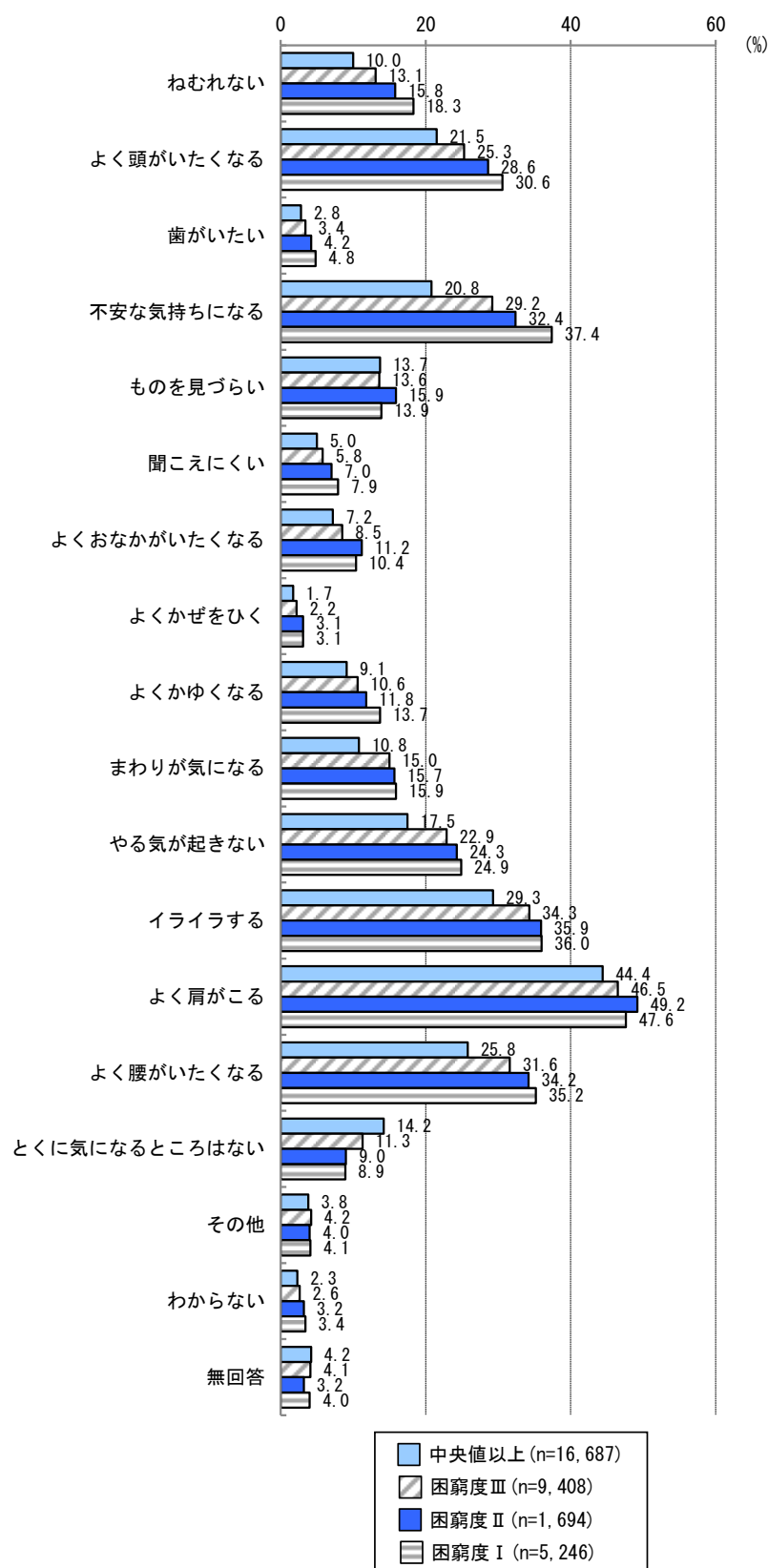


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、「7個以上に該当」群と「該当なし」群間で差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「よくかぜをひく」2.4%（「該当なし」群に対して1.7倍）、「よく頭がいたくなる」14.8%（同じく1.5倍）、「ねむれない」10.7%（同じく1.4倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<八尾市>

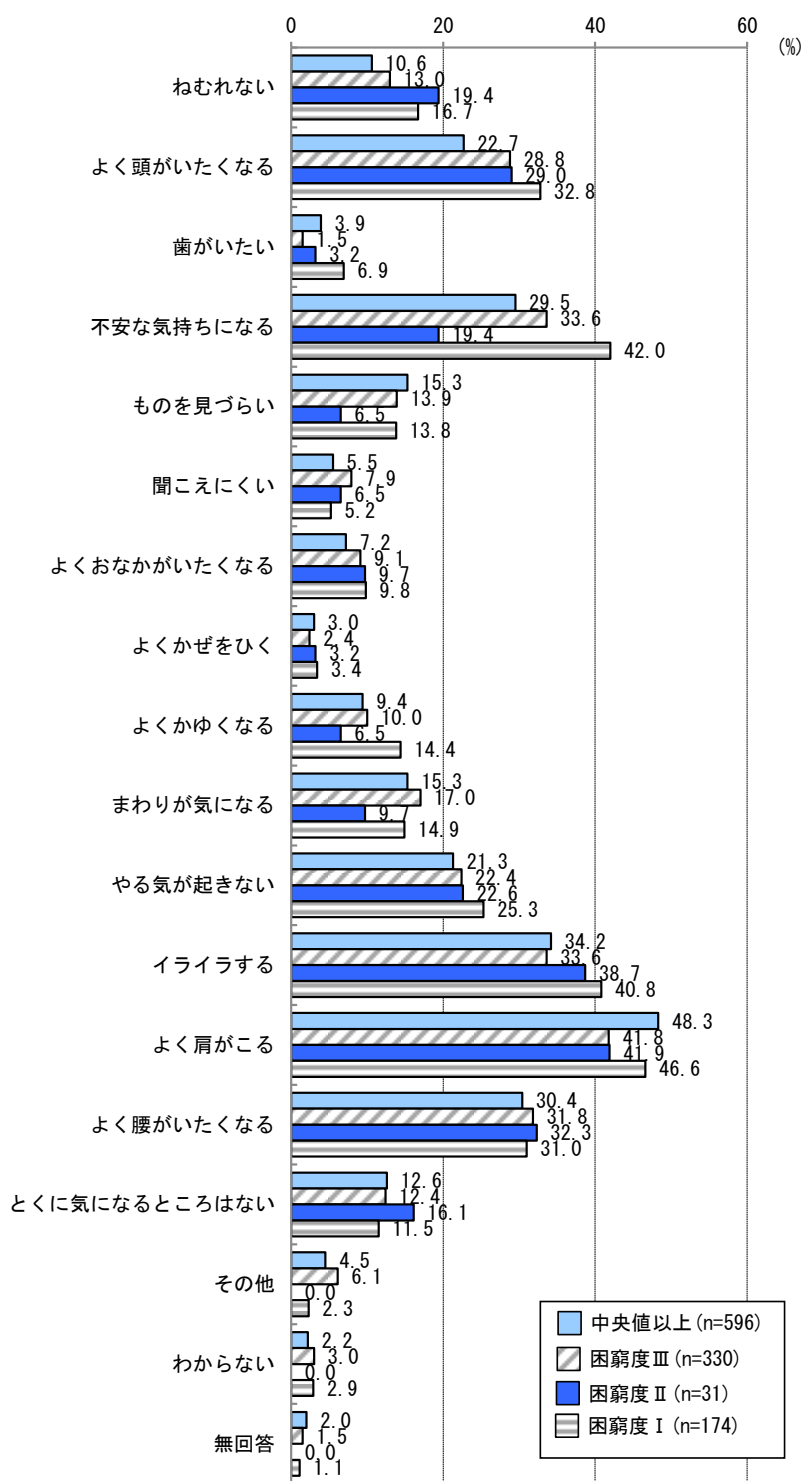
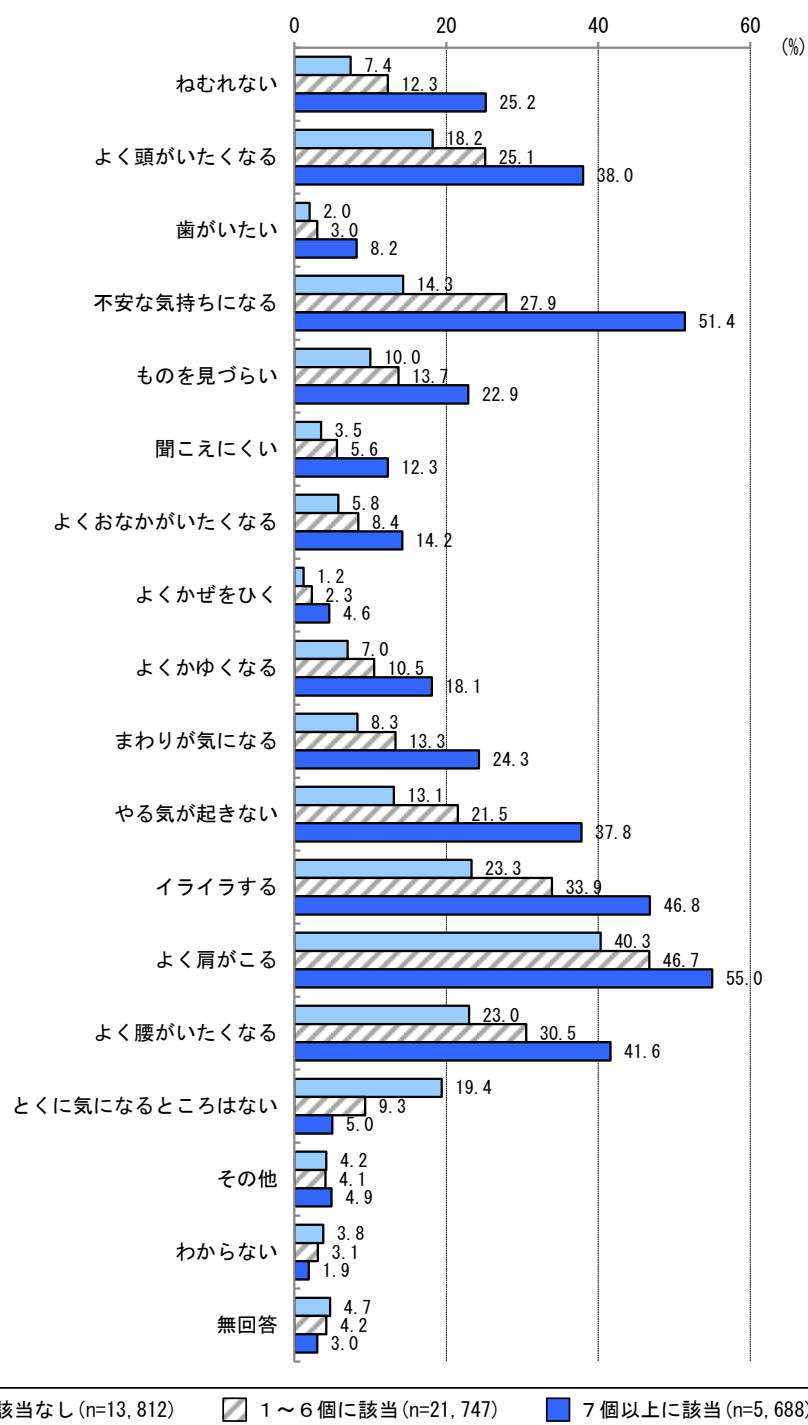


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「歯がいたい」6.9%（中央値以上群に対し1.8倍）、「ねむれない」16.7%（同じく1.6倍）、「よくかゆくなる」14.4%（同じく1.5倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票問7×保護者票問22)

<大阪府内全体>



<八尾市>

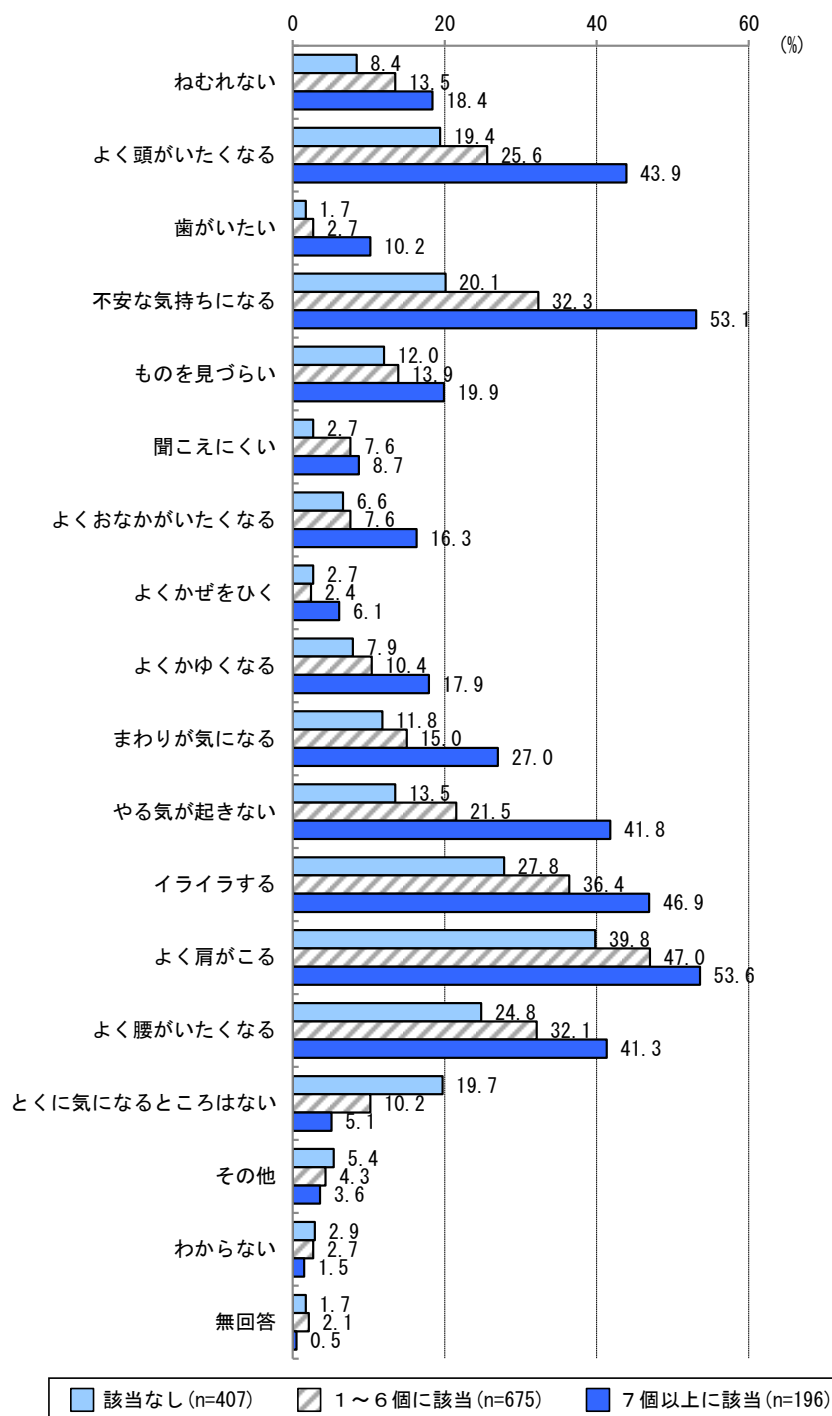
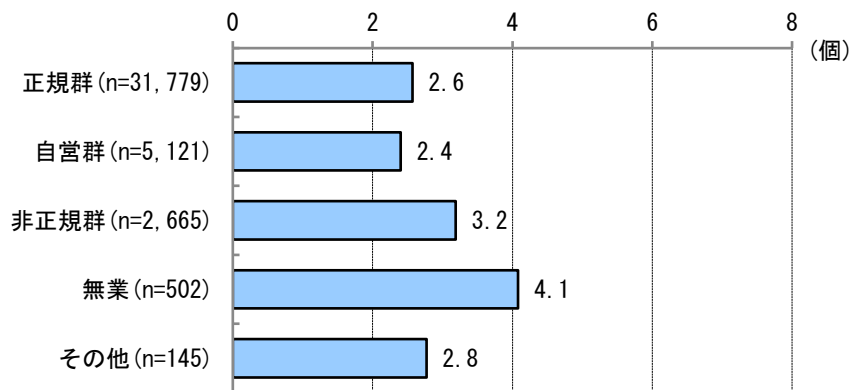


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、多くの項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目の割合が高くなっている。特に、7個以上に該当群について、該当なしとの差が大きい順に挙げると、「歯がいたい」10.2%（該当なしに対して6.0倍）、「聞こえにくい」8.7%（同じく3.2倍）、「やる気が起きない」41.8%（同じく3.1倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<八尾市>

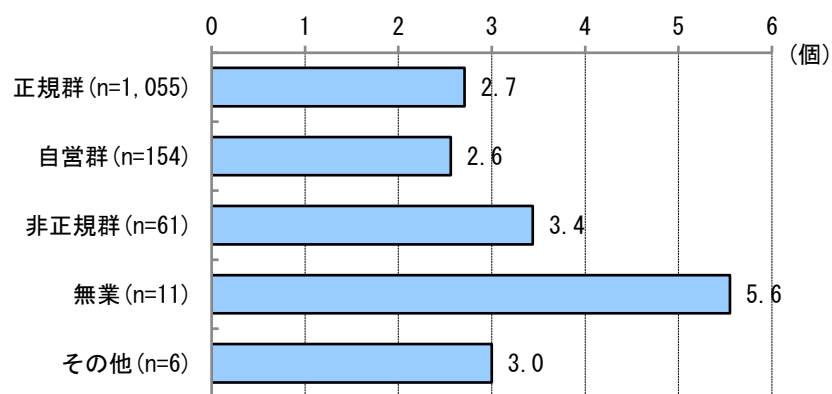


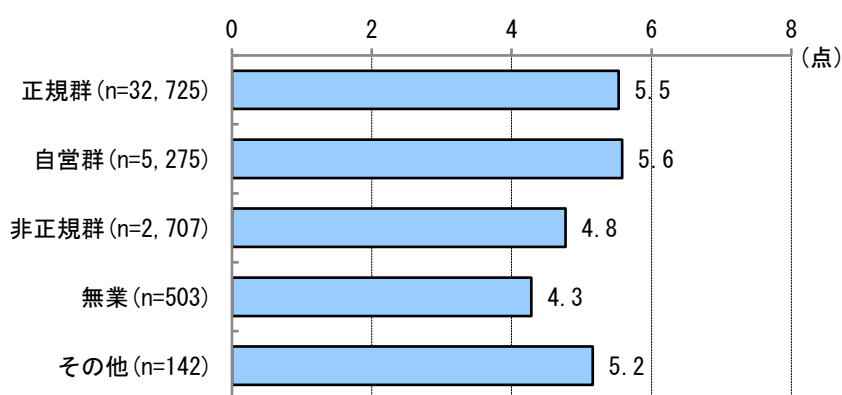
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営群」に対して、「非正規群」、「無業」、「その他」群において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が増える結果となった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<八尾市>

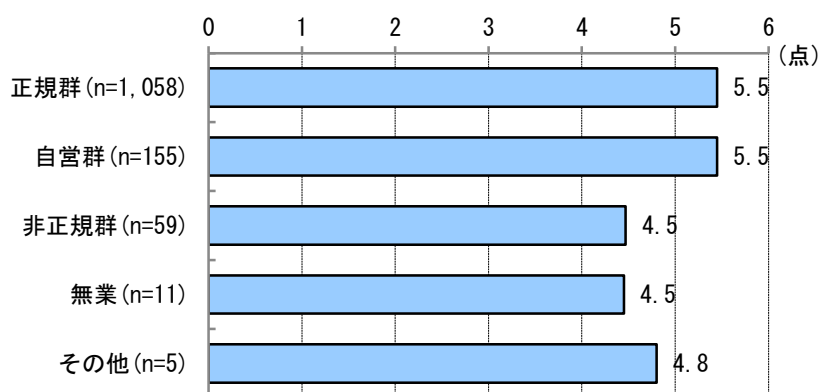
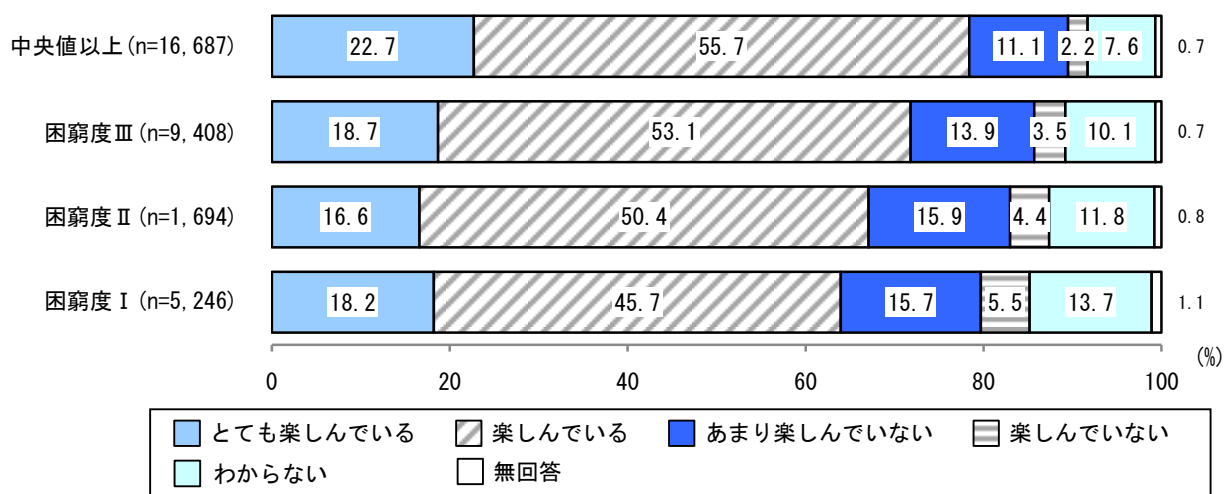


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」（5.5点）、「自営群」（5.5点）が高く、「非正規群」と「無業」で4.5点と最も低い結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

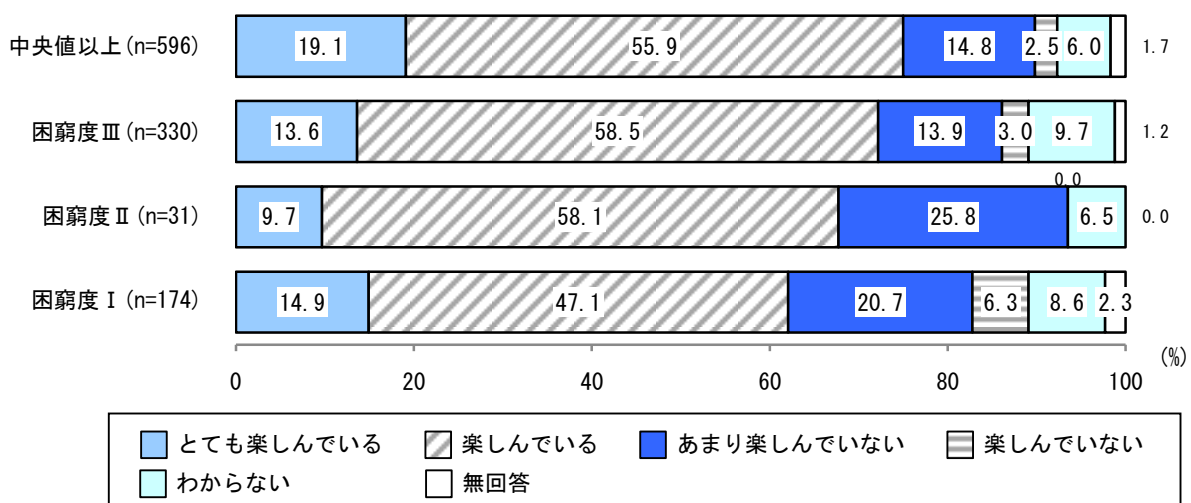
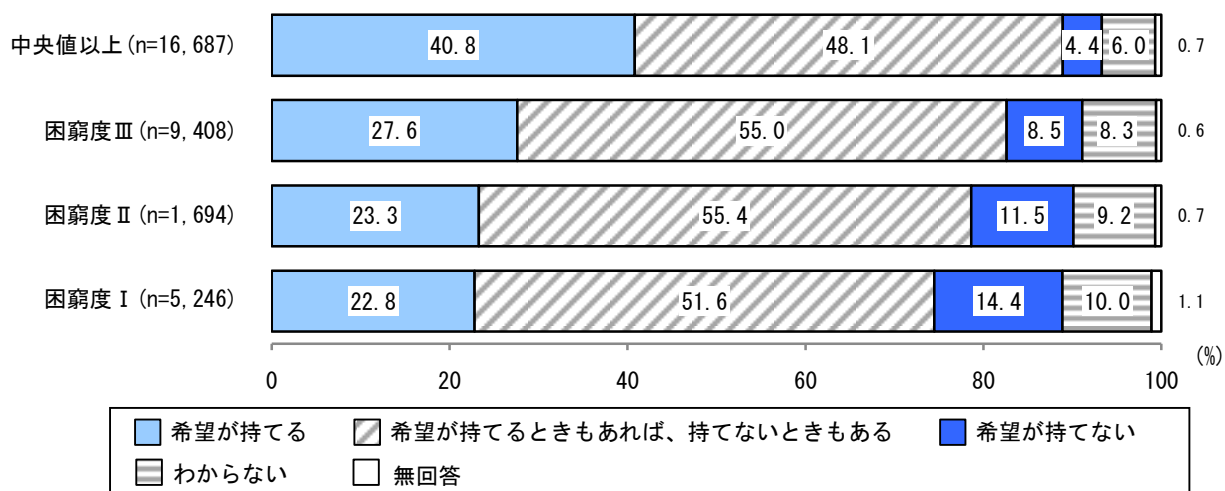


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせてなんらか『楽しんでいる』割合では、中央値以上群で75.0%と最も高く、続いて、困窮度Ⅲ群で72.1%、困窮度Ⅱ群が67.8%、困窮度Ⅰ群においては62.0%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21 (2)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

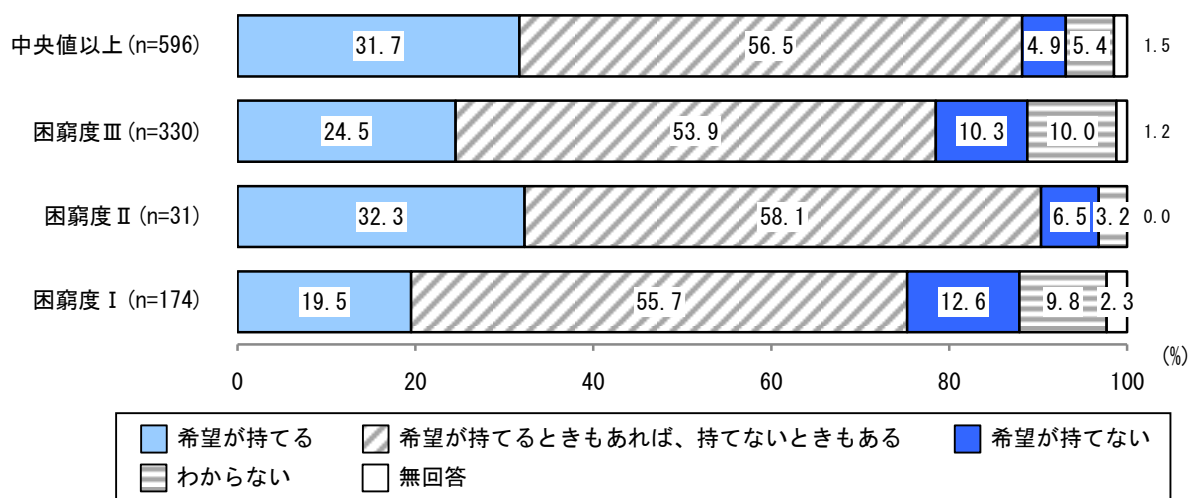
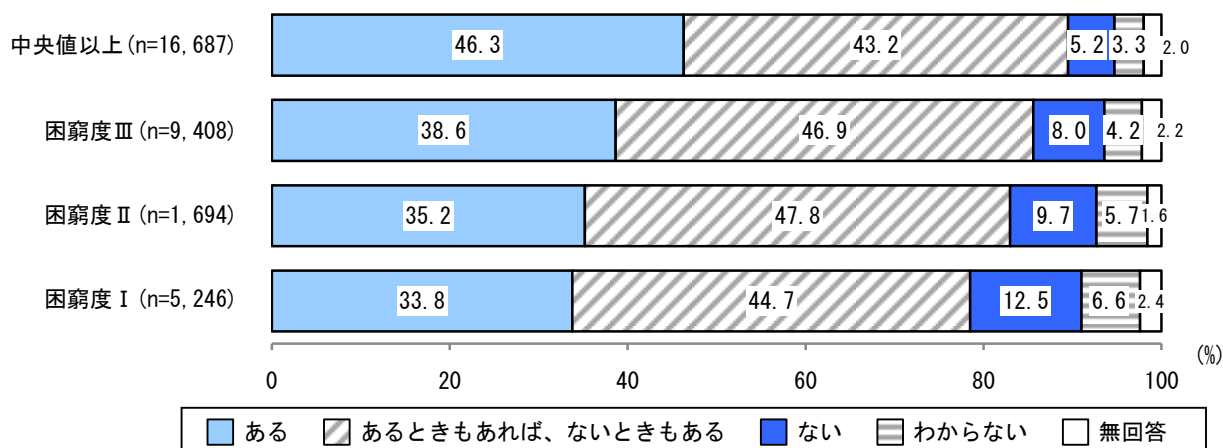


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来に対して希望を持っているかを見ると、「希望が持てる」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が19.5%と最も低くなった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

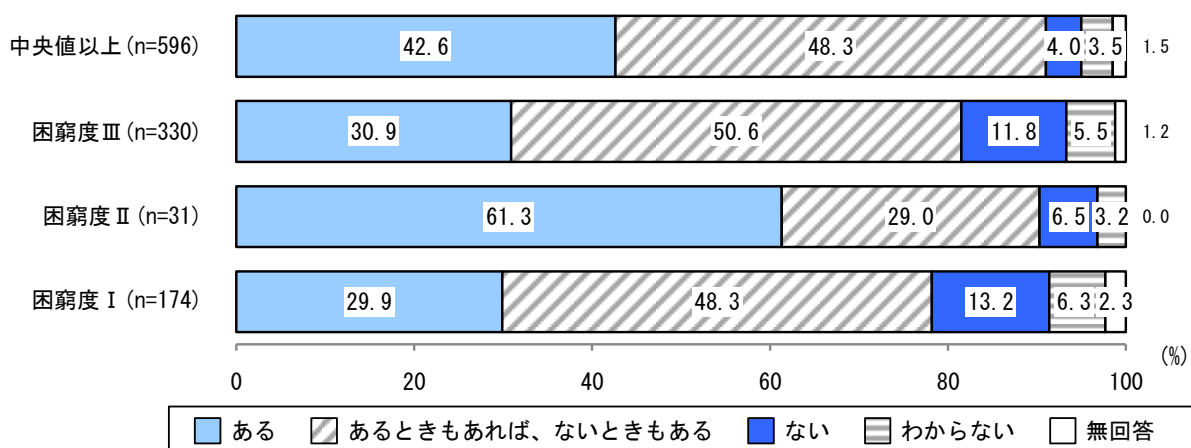
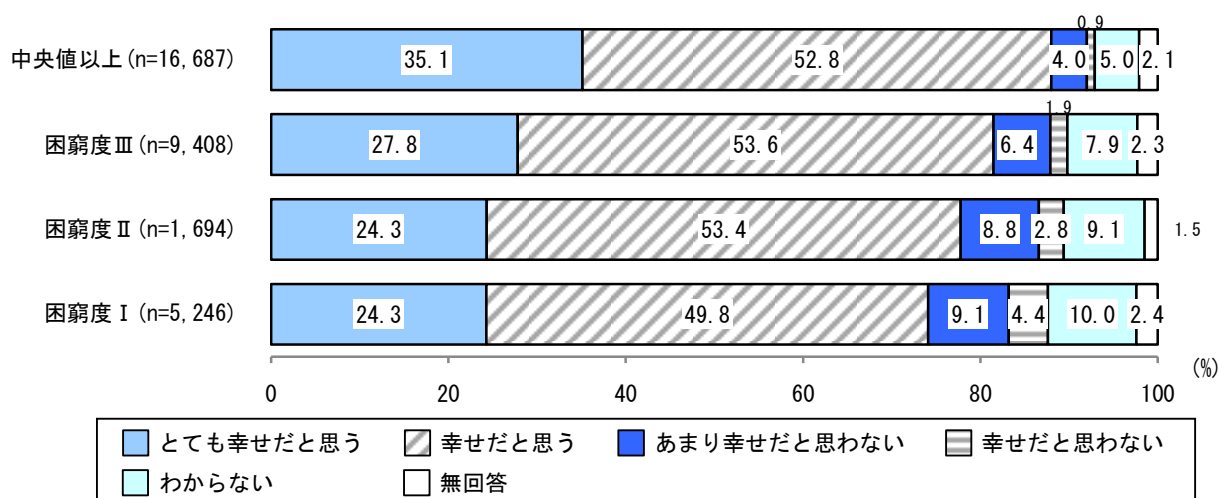


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものがあるかを見ると、ストレスを発散できるものが「ない」という回答に着目すると、困窮度Ⅰ群が13.2%と、「ない」と回答する割合が最も高くなっている。また、中央値以上群でストレスを発散できるものが「ない」と回答した割合は、4.0%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

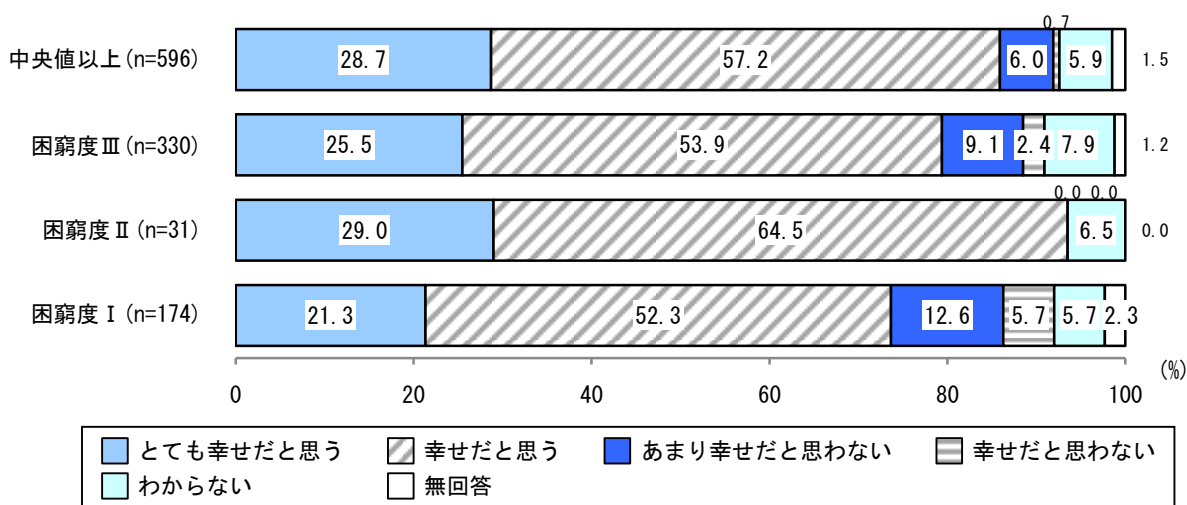


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に自分が幸せだと思うかを見ると、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」をあわせて、なんらか『幸せと思う』と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（93.5%）で最も高くなっており、次いで中央値以上群（85.9%）、困窮度Ⅲ群（79.4%）と続き、困窮度Ⅰ群（73.6%）で最も低くなっている。逆に、「幸せだと思わない」と回答する割合は、困窮度Ⅰ群（5.7%）で最も高くなっている。

<健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(91.4%対79.9%)が約10ポイント高くなっている。

子どもの心の状態では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「楽しみにしていることがたくさんある」で「いつもそうだ」(45.3%対35.6%)が約10ポイント高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まわりが気になる」に対し「いつもそうだ」(20.1%対14.9%)、「やる気が起きない」に対し「いつもそうだ」(18.8%対10.5%)がそれぞれ5ポイント以上高くなっている。

保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ねむれない」(16.7%対10.6%)、「よく頭がいたくなる」(32.8%対22.7%)、「不安な気持ちになる」(42.0%対29.5%)、「よくかゆくなる」(14.4%対9.4%)、「イライラする」(40.8%対34.2%)が5ポイント以上高くなっている。また、保護者の心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、生活を「楽しんでいない」と「あまり楽しんでいない」(27.0%対17.3%)の合計が約10ポイント、将来に対して「希望が持てない」(12.6%対4.9%)が5ポイント以上高くなっており、一方で中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、ストレスを発散できるものが「ある」(42.6%対29.9%)が10ポイント以上高くなっている。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、自分が「幸せだと思わない」と「あまり幸せだと思わない」(18.3%対6.7%)の合計が10ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、子どもが「不安な気持ちになる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」で「いつもそうだ」の割合が高くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「よくおなかがいたくなる」と「よくかゆくなる」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「聞こえにくい」「よくおなかがいたくなる」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、子どもでは不安な気持ちや周囲からの目線、やる気に問題を抱え、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出て、将来に対して悲観的な気持ちを持っている可能性がある。それと同時に保護者には肩こりや腰痛が多く、肉体労働に従事している可能性や、心身の休養が不十分である可能性もある。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれも腹痛やかゆみを感じており、衛生状態も懸念される。一方で経済的な困難がない世帯の保護者は、楽しみにしていることがあり、ストレス発散ができて望ましい状態で過ごしていると考えられる。

続いて、保護者の就業状況別の健康状態を見てみる。親の就業状況別の体や気持ちで気になることの該当数では、「0個(とくに気になるところはない／わからない)」が「正規群」と「自営群」においてそれぞれ14.8%と18.1%に対し、「非正規群」と「無業」では6.6%と9.1%となっている。親の就業状況別の「支えてくれる人得点」が満点(7点)の割合は、「正規群」「自営群」「非正規群」「無業」で(43.2%、50.0%、26.2%、27.3%)となっており、「非正規群」および「無業」で低かった。これらの結果から、保護者が非正規雇用もしくは無業の世帯では、体や気持ちに問題を抱える人が多いことがうかがえ、またソーシャルサポートの不足が示唆される。

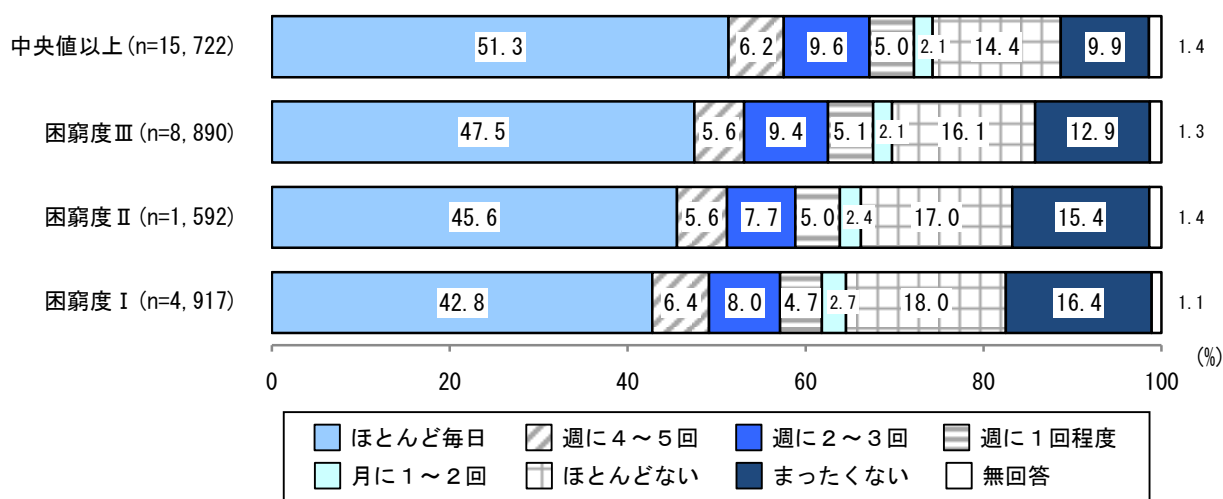
最後に、食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「食べない」子どもは、「毎日またはほとんど毎日」食べている子どもと比べ、子どもと関わる時間が平日で「0～15分未満」と「15分～30分未満」の合計(23.1%対11.8%)が10ポイント以上、休日で「2時間未満」(23.1%対16.6%)は6ポイント以上高くなっている。子どもの自己効力感では、朝

食を「毎日またはほとんど毎日」食べている子どもは、「食べない」子どもと比べ、1点以上高くなっており、学校が休みの日の昼食を「必ず食べる」子どもも他の群に比べ高い傾向がある。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食・昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆される。

3-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<八尾市>

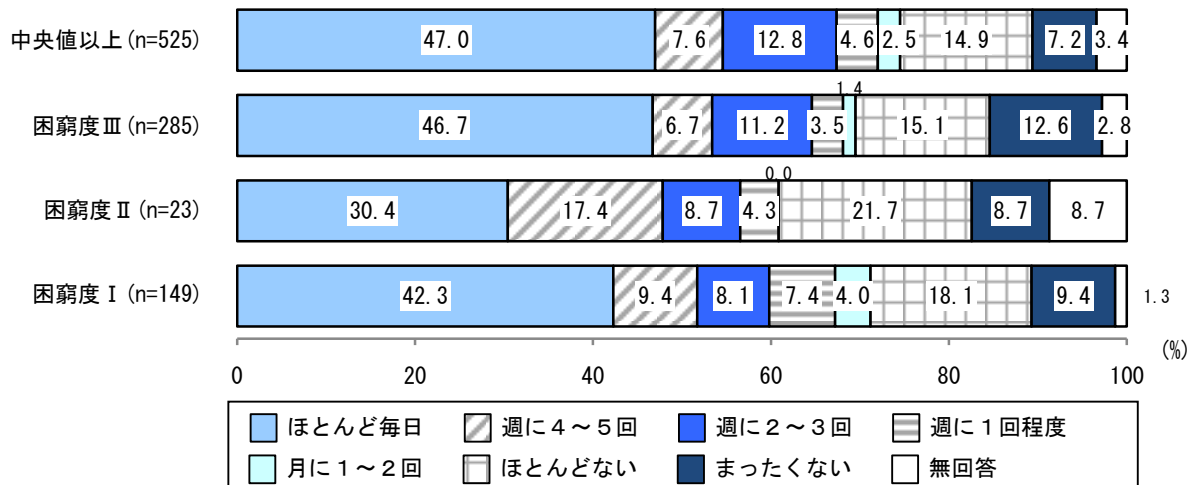
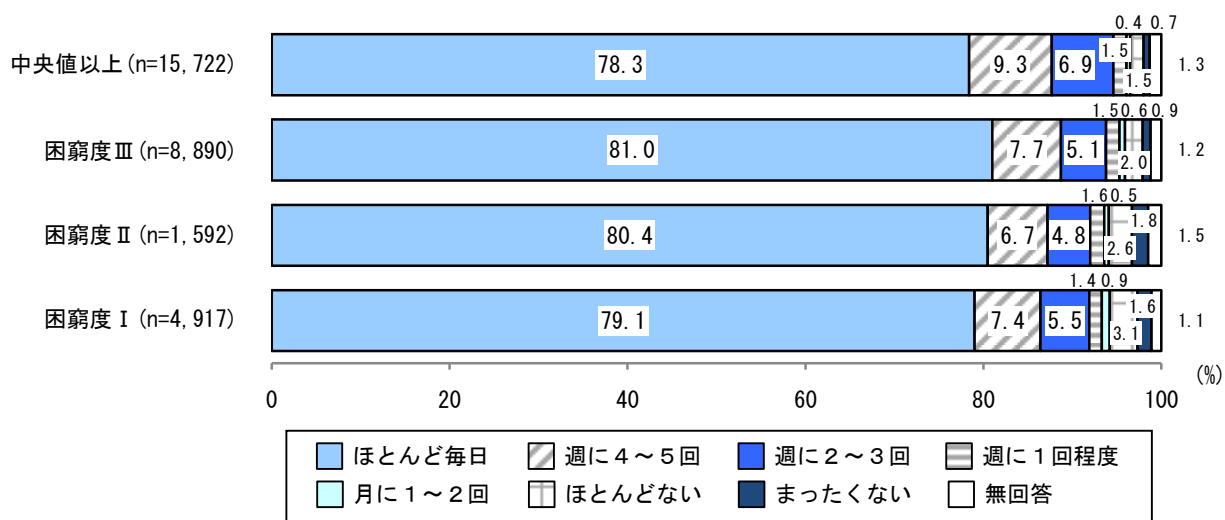


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は中央値以上群が47.0%と最も高くなっている。一方、「まったくない」の割合は困窮度Ⅲ群が12.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

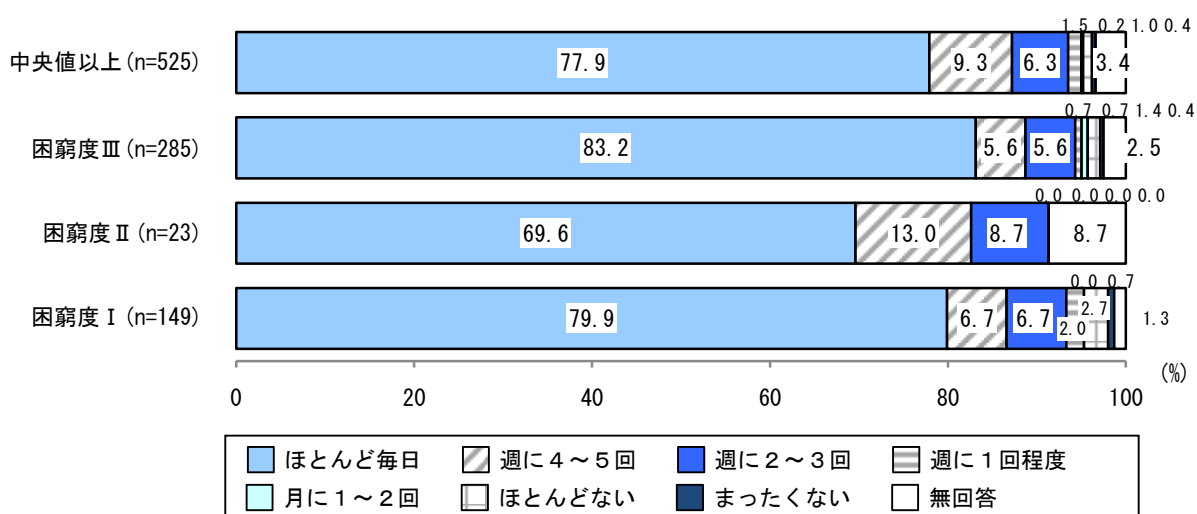
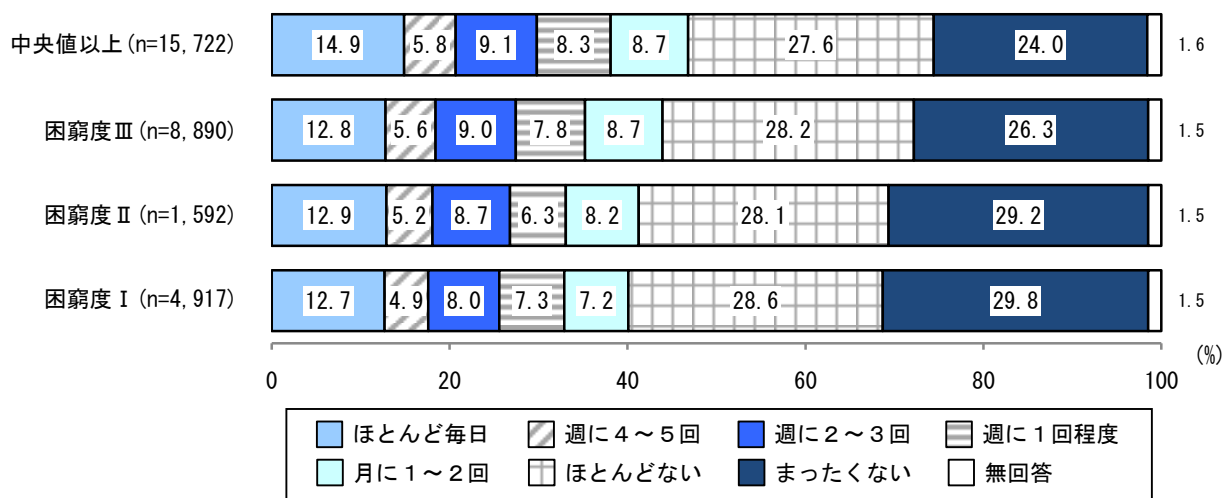


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、困窮度Ⅲ群において、「ほとんど毎日」の割合が83.2%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<八尾市>

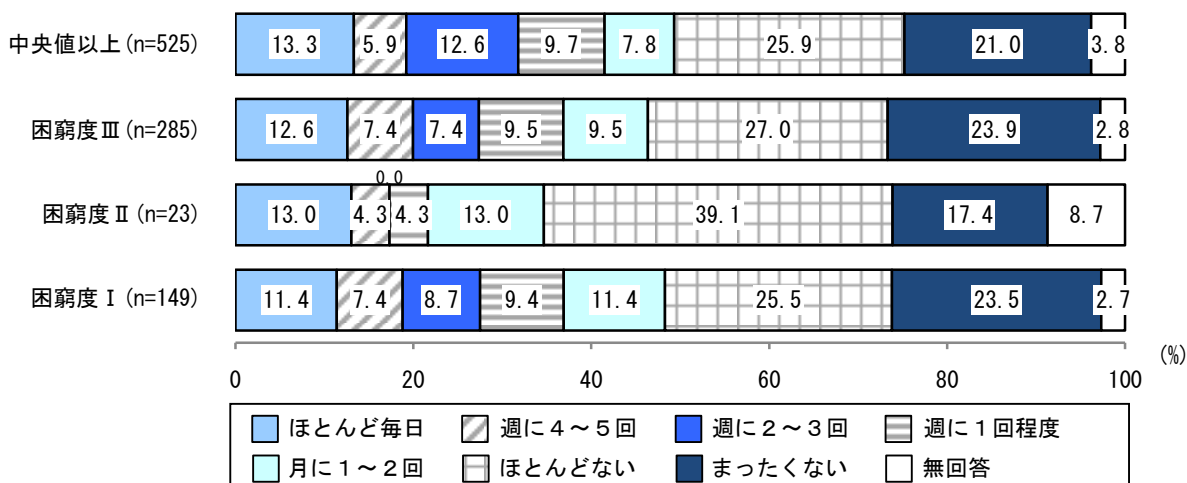
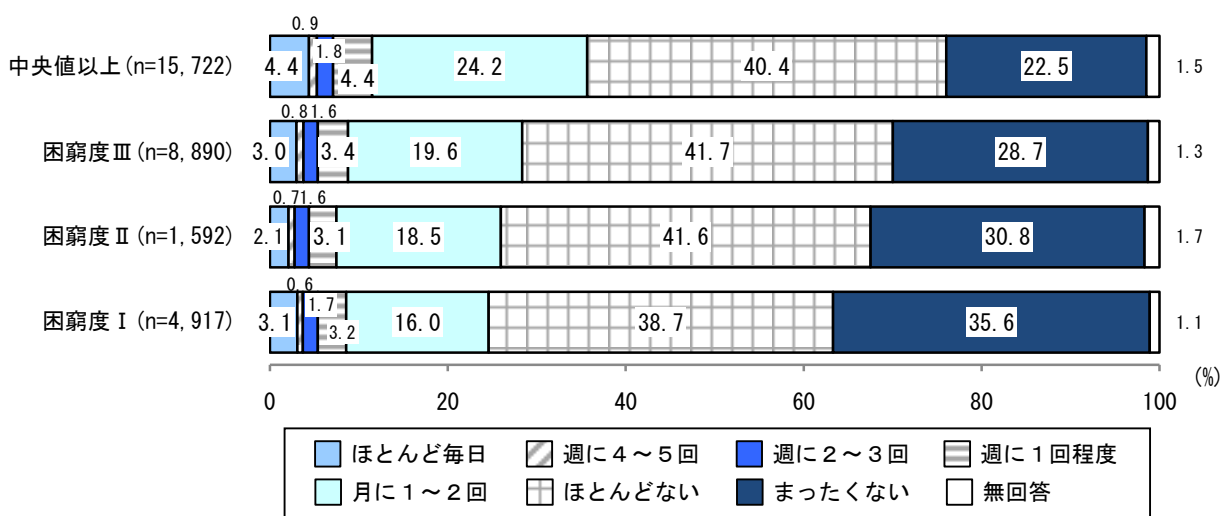


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度Ⅲ群では、「まったくない」と回答した割合が23.9%で最も高くなっている。また、「ほとんど毎日」と回答した割合が、困窮度Ⅰ群では11.4%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<八尾市>

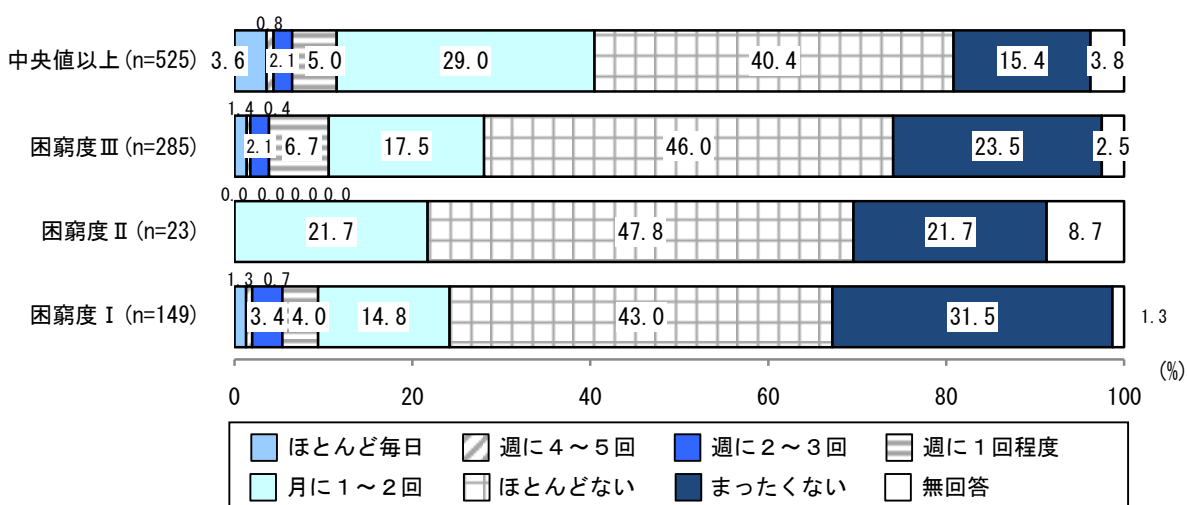
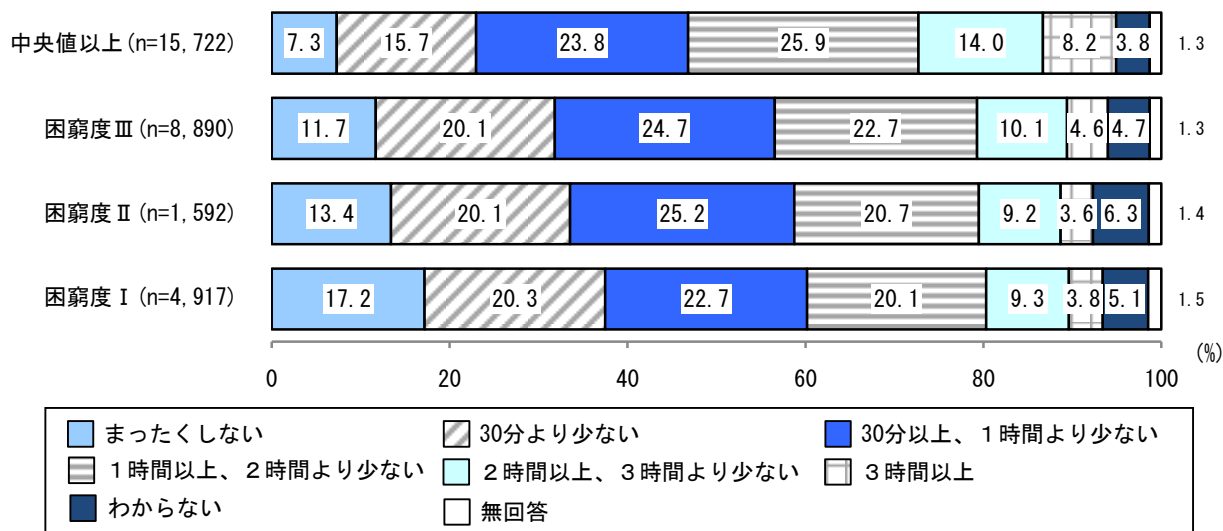


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した人の割合が、困窮度Ⅰ群では31.5%と最も高かった。一方、「ほとんど毎日」と回答した人の割合では、中央値以上群が3.6%で最も高かった。

困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<八尾市>

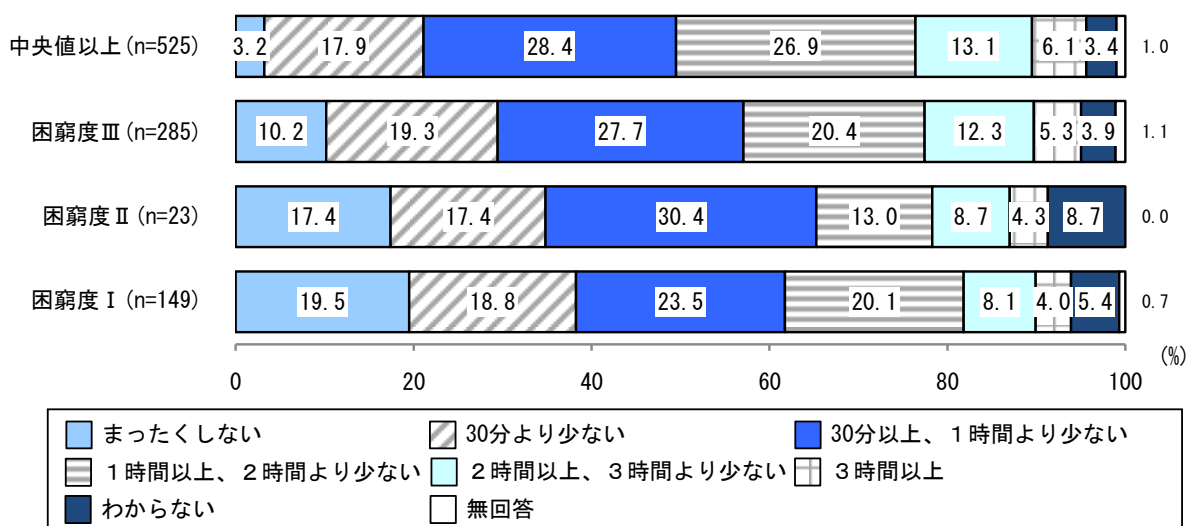
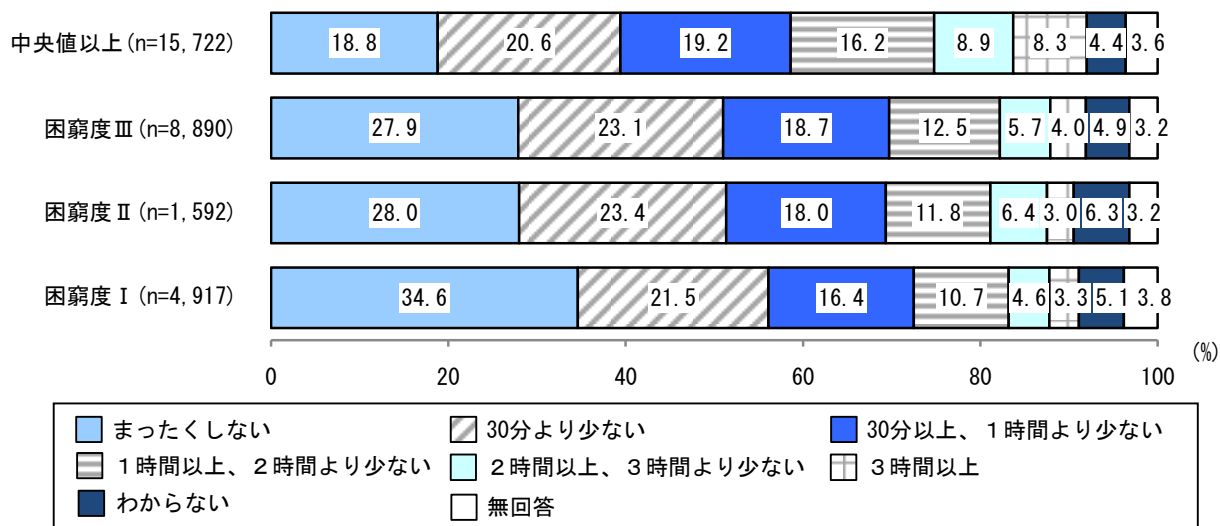


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の 1 日あたりの勉強時間を見ると、学校のある日では、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した割合は19.5%で最も高くなった。「30分より少ない」と回答した割合では、困窮度Ⅲ群が19.3%で最も高くなった。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

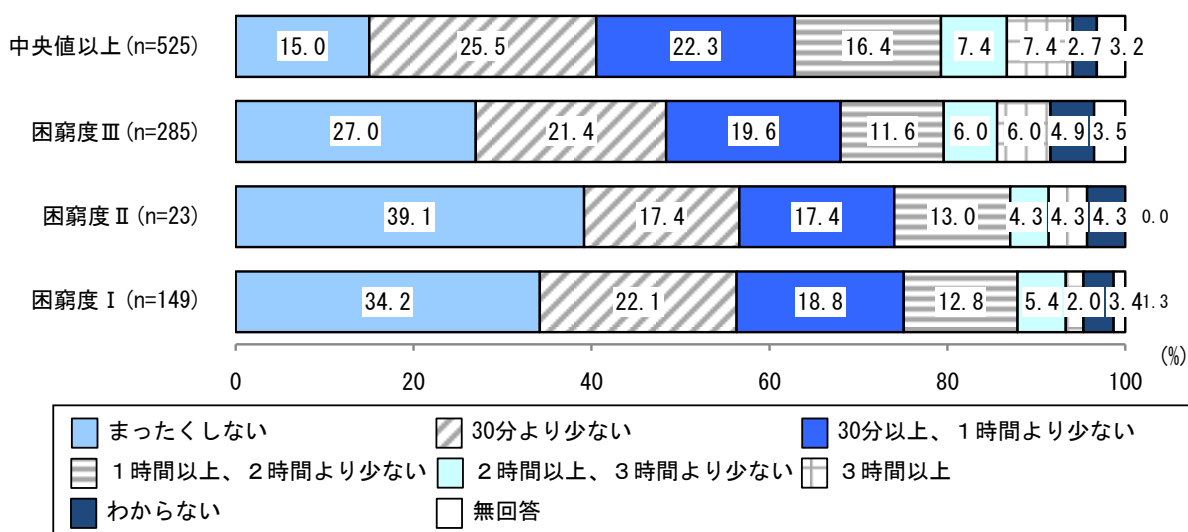
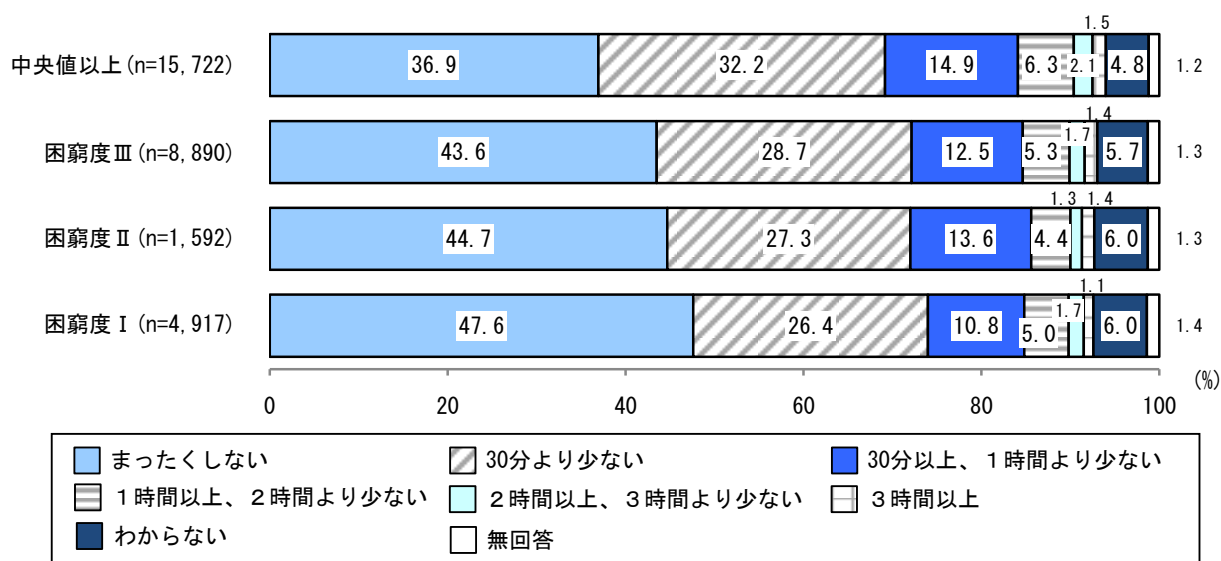


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の1日あたりの勉強時間を見ると、学校がない日では、「まったくしない」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で39.1%と最も高くなっている。また、「30分より少ない」、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」、「3時間以上」のいずれか勉強した時間帯を回答した割合は、中央値以上群で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<八尾市>

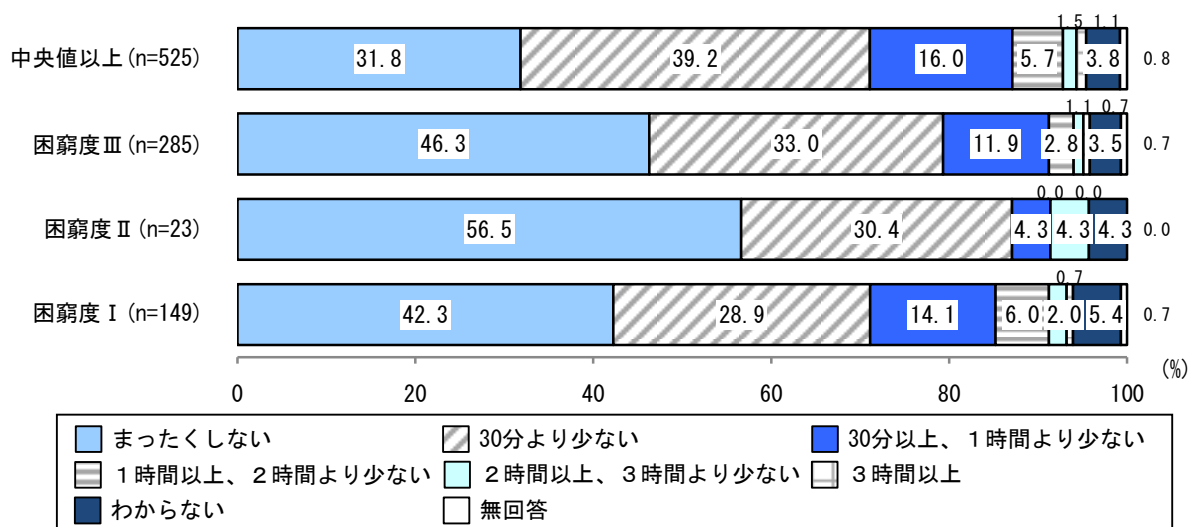
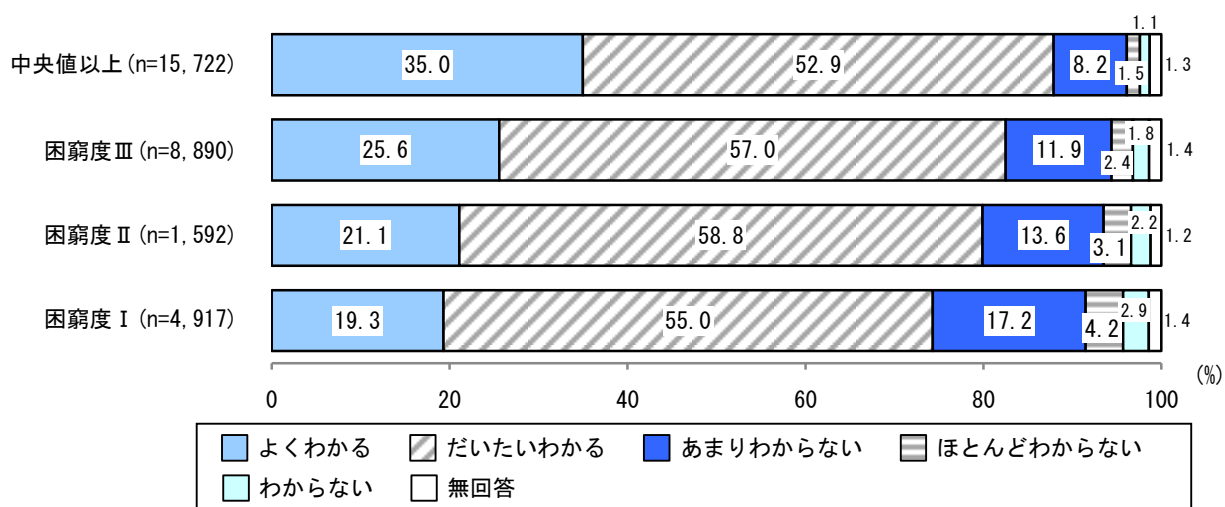


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は困窮度Ⅱ群が56.5%で最も高くなっている。次いで、困窮度Ⅲ群で「まったくしない」と回答した人の割合は46.3%となっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

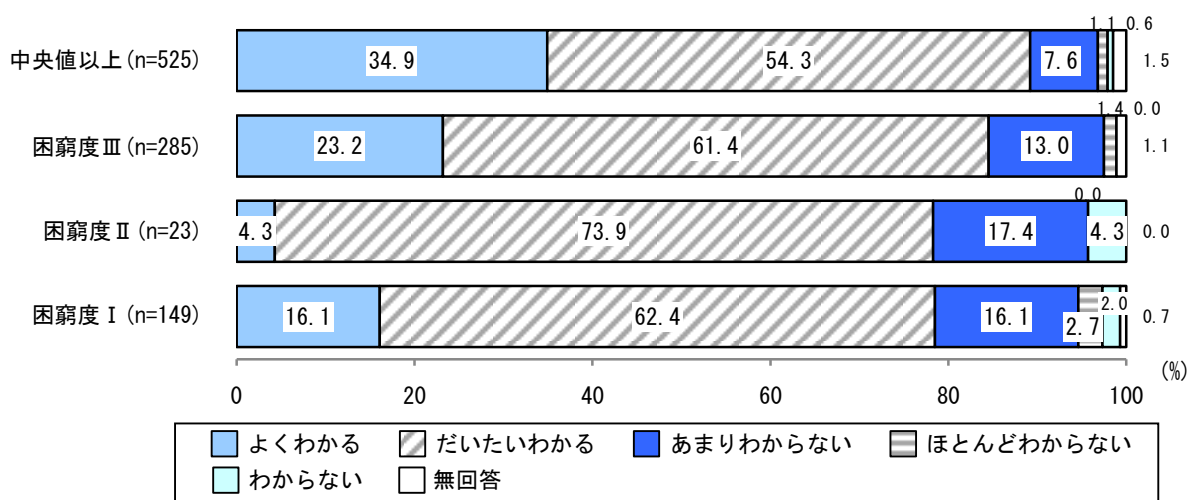


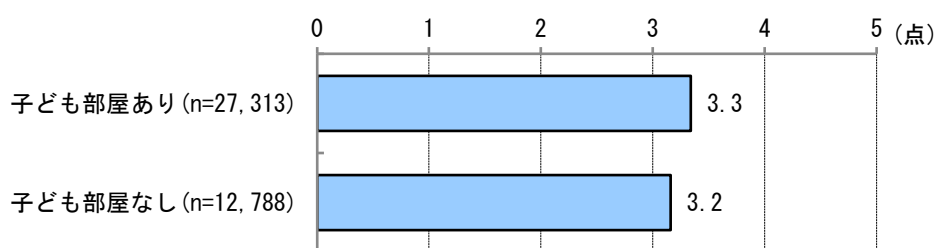
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と回答した人の割合は困窮度Ⅱ群が4.3%で最も低くなっている。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどわからない」と回答した人の割合は2.7%で最も高くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日)(子ども票問21×子ども票問13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<八尾市>

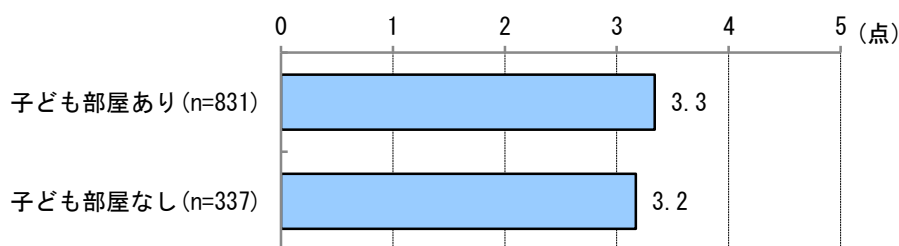
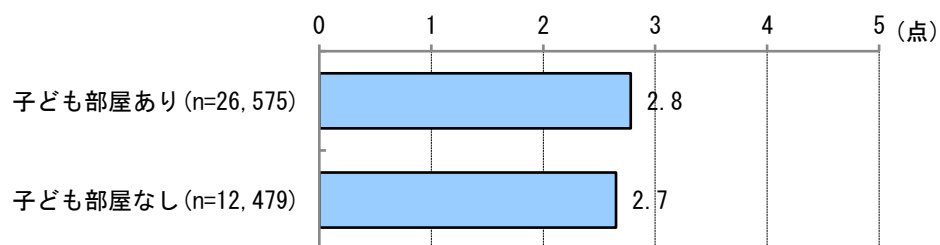


図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どものほうが、勉強時間が長い。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日)(子ども票問21×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<八尾市>

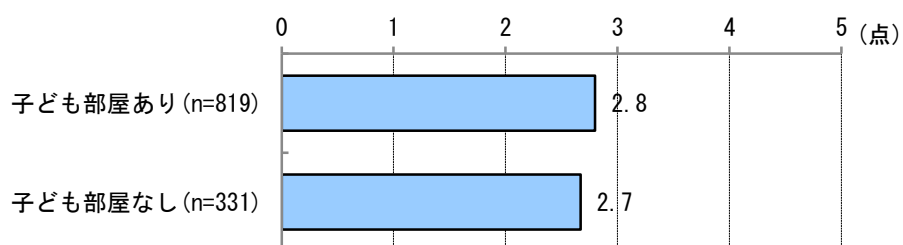
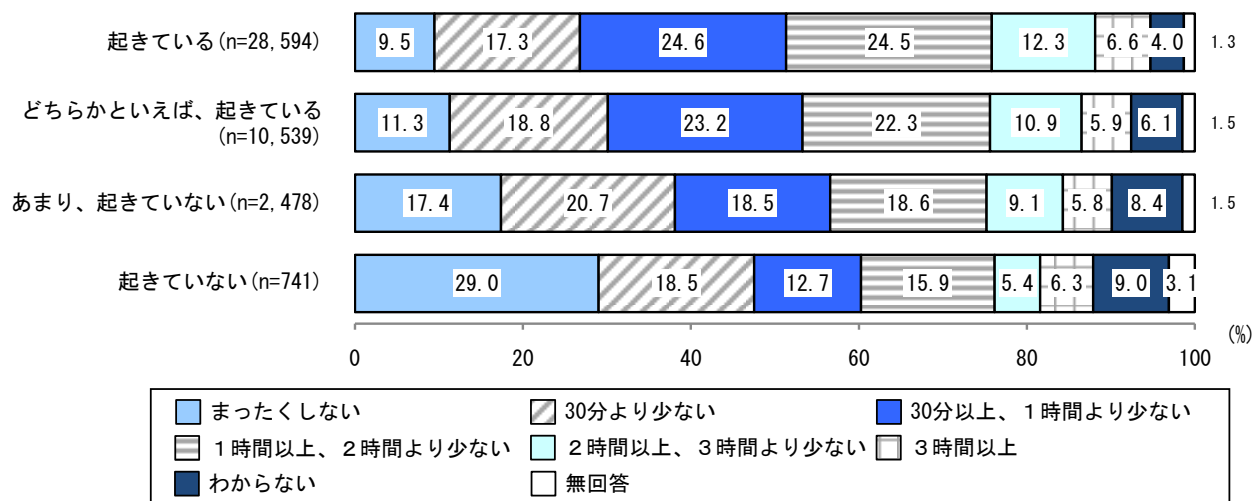


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どものほうが、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<八尾市>

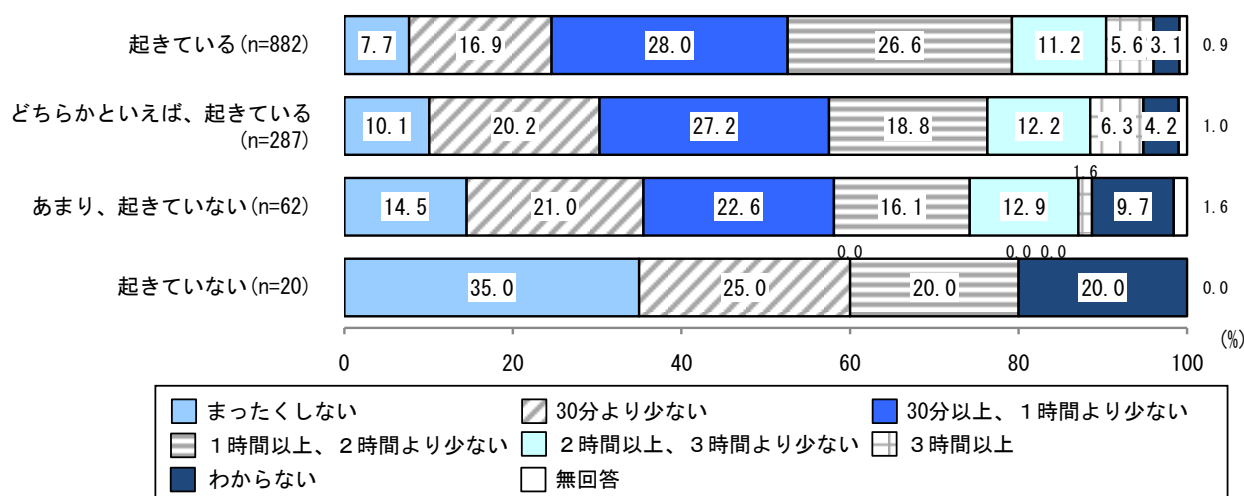
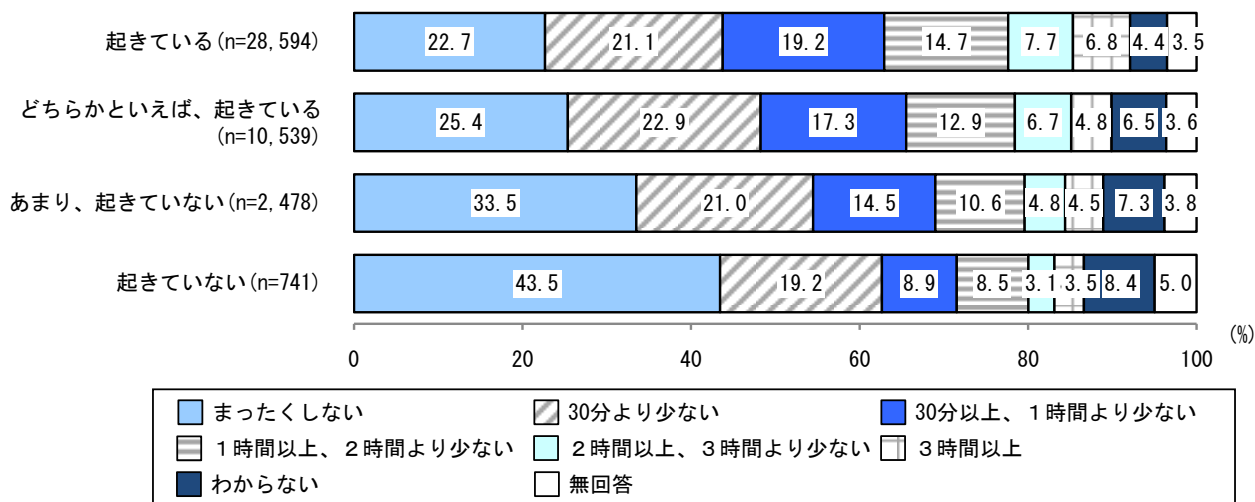


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」(28.0%)、「1時間以上、2時間より少ない」(26.6%)の割合は起きている人の割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は起きていない人が35.0%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

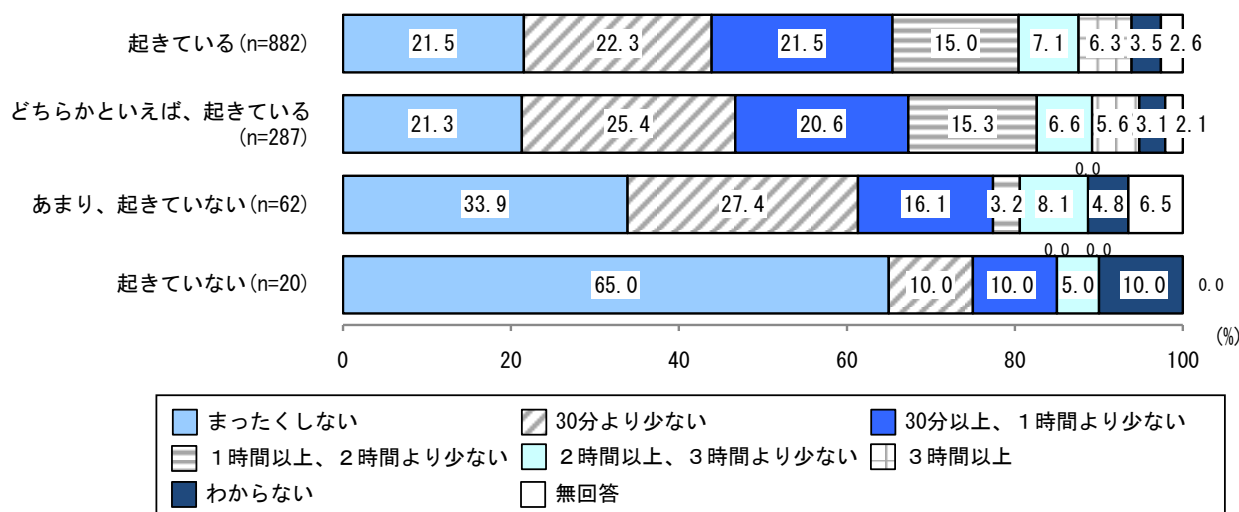
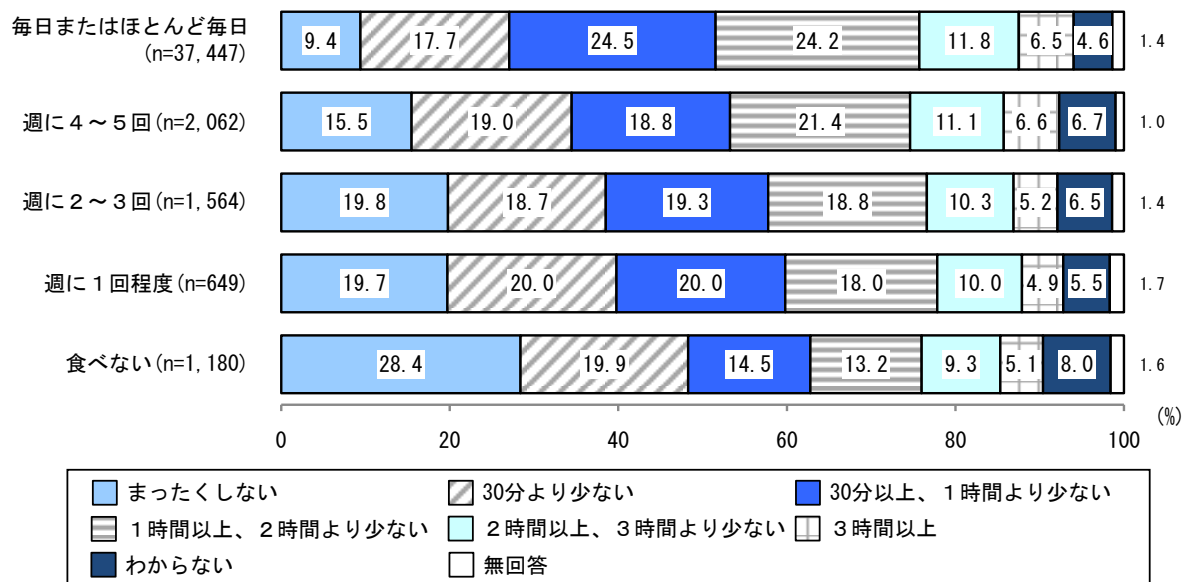


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」（21.5%）、「3時間以上」（6.3%）の割合は起きていますの割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は起きていない人が65.0%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<八尾市>

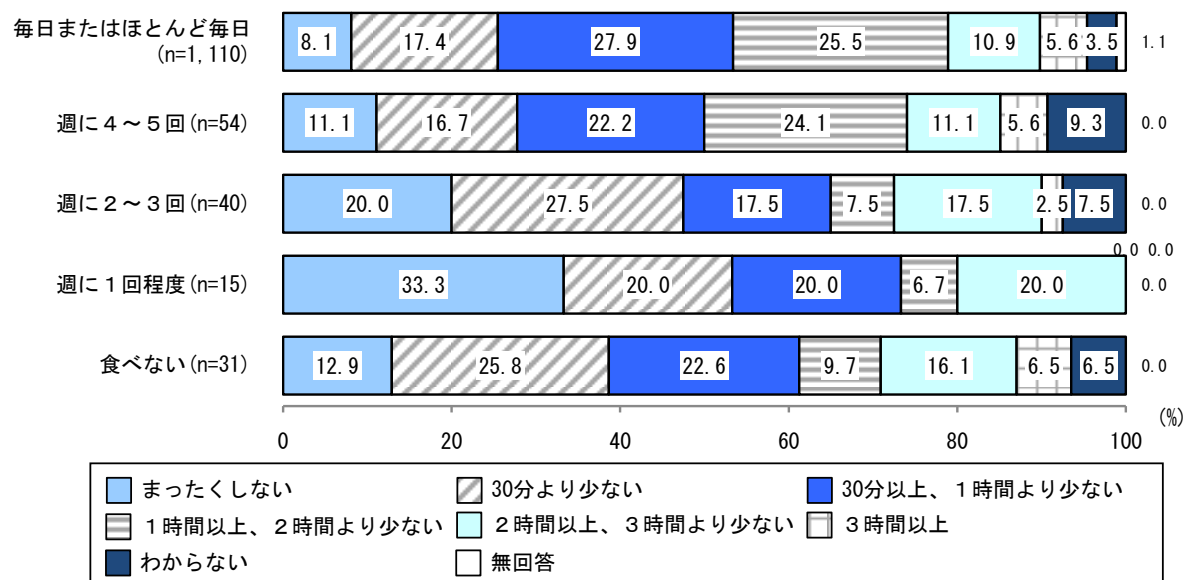
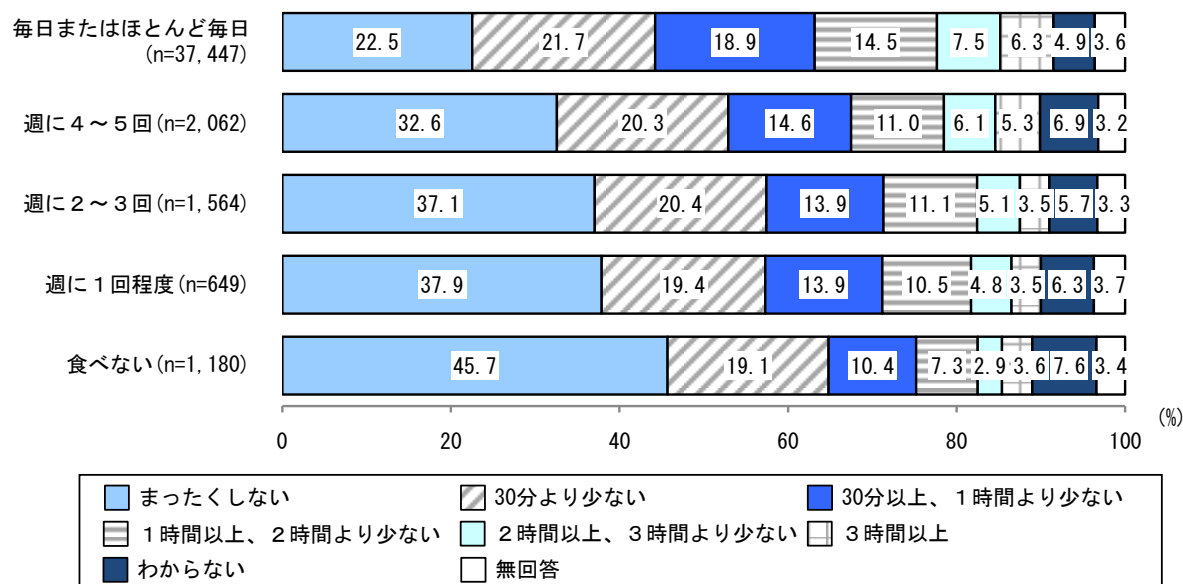


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合では、週に1回程度食べる人が33.3%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

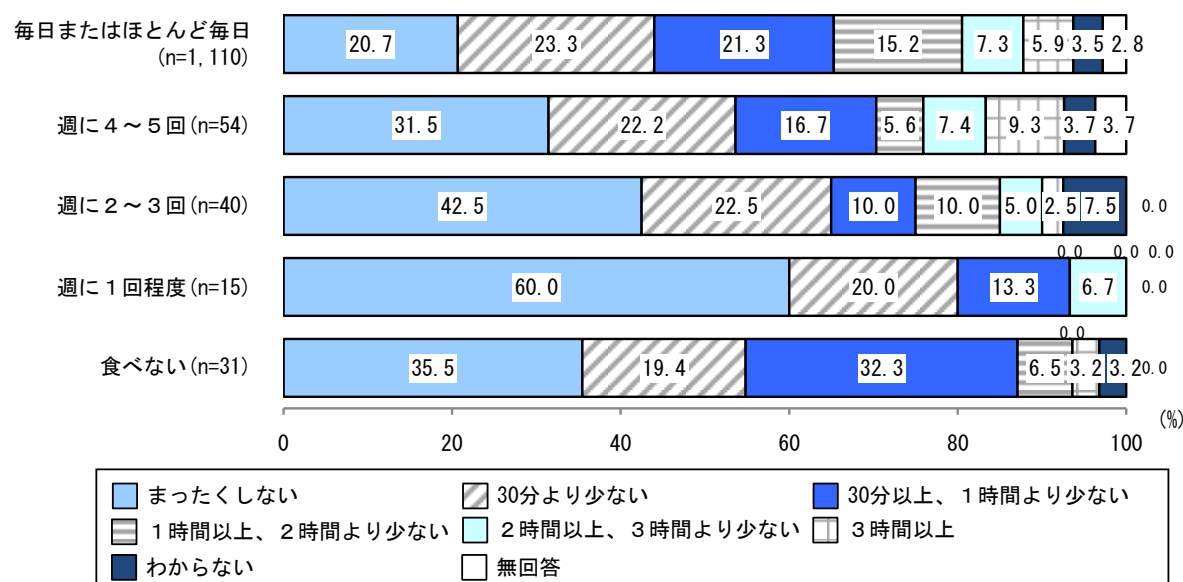
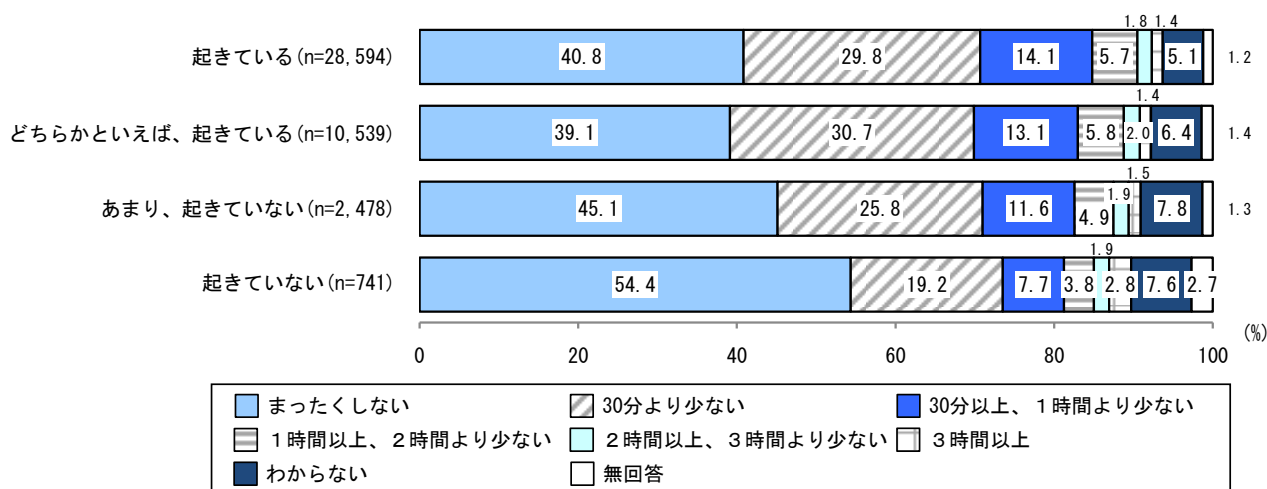


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合では、週に1回程度食べる人が60.0%で最も高いが、食べない人では35.5%と低くなる。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<八尾市>

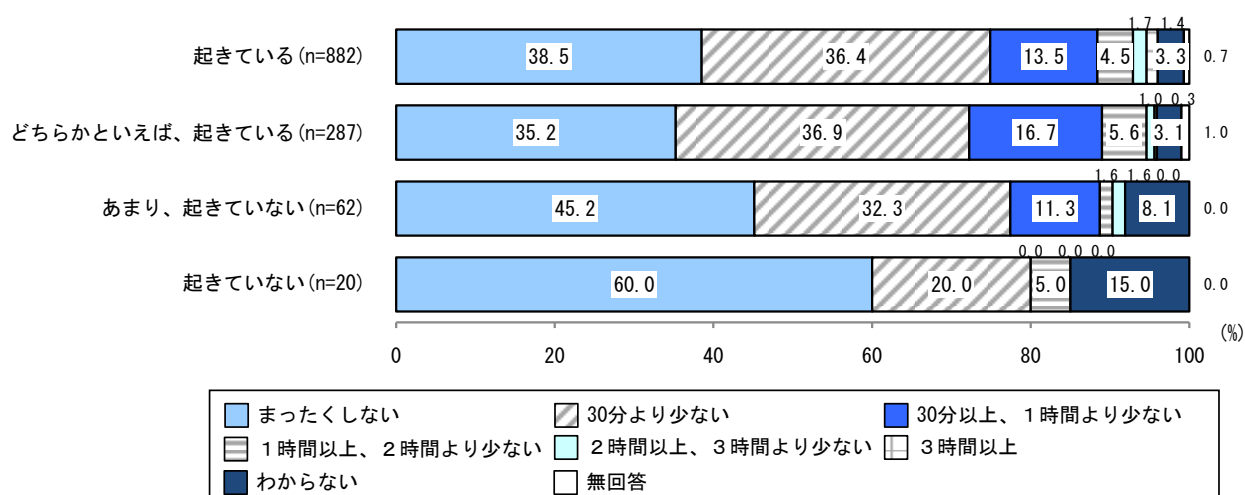
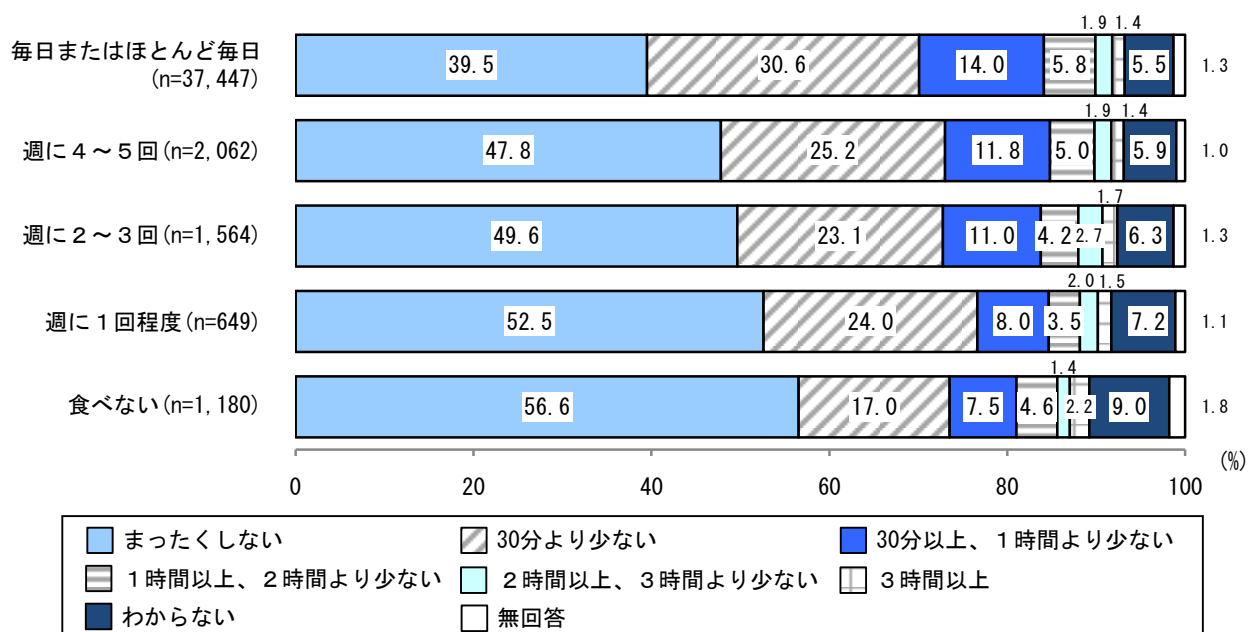


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど、「まったくしない」と回答した割合が高くなっている。起きていない人では、「まったくしない」と回答した人の割合は60.0%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<八尾市>

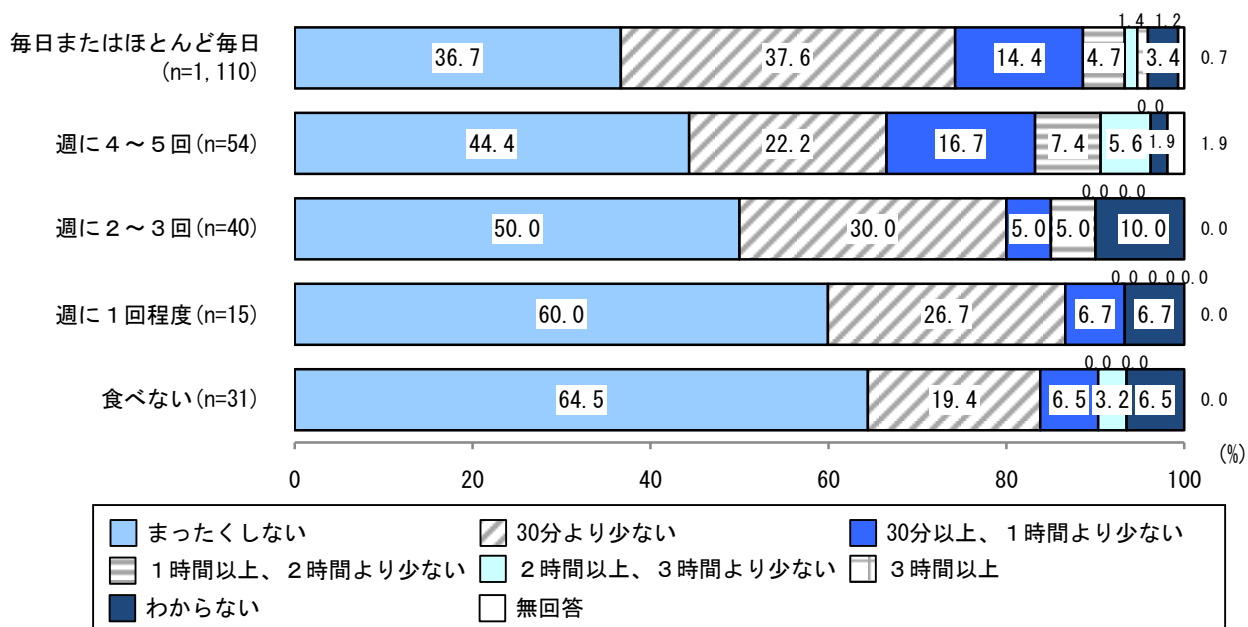
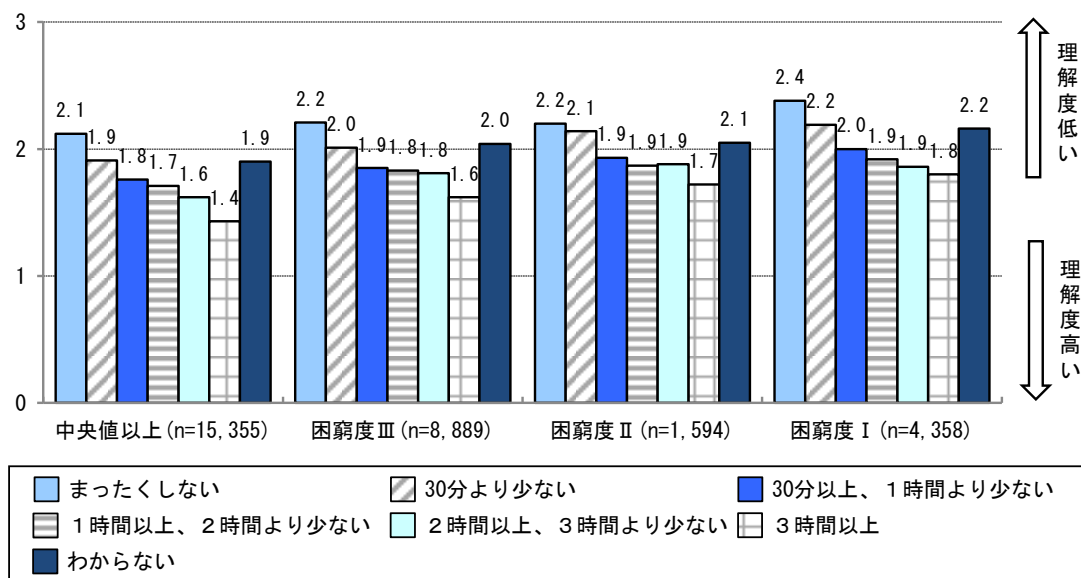


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した人は朝食の頻度が少なくなるほど割合が高くなり、食べない人で64.5%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<八尾市>

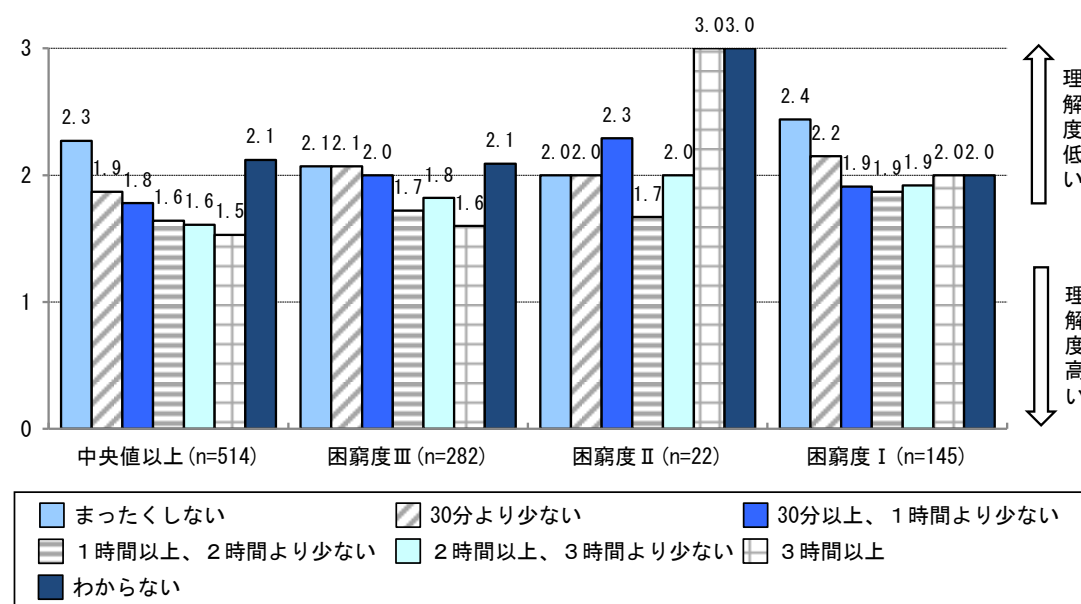
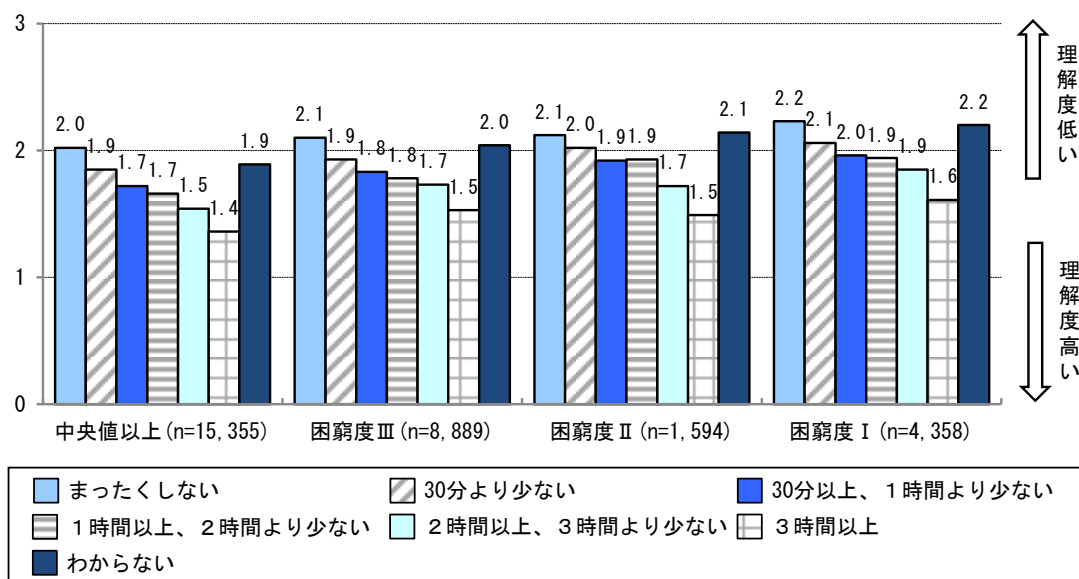


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群の子どもは、勉強時間が長くなるほど学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは学習時間と学習理解度が関連しない。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

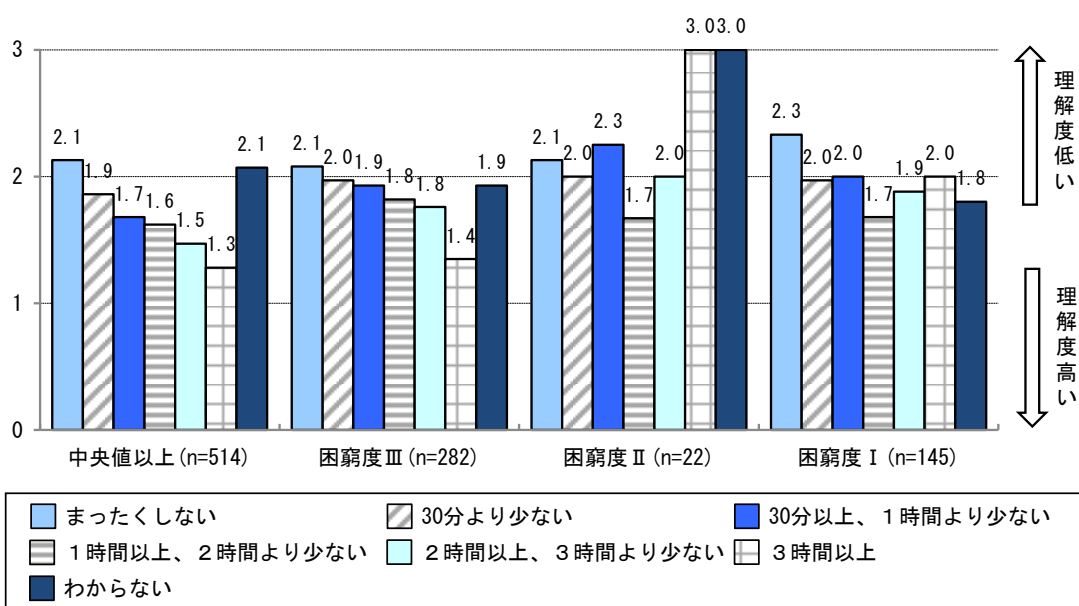
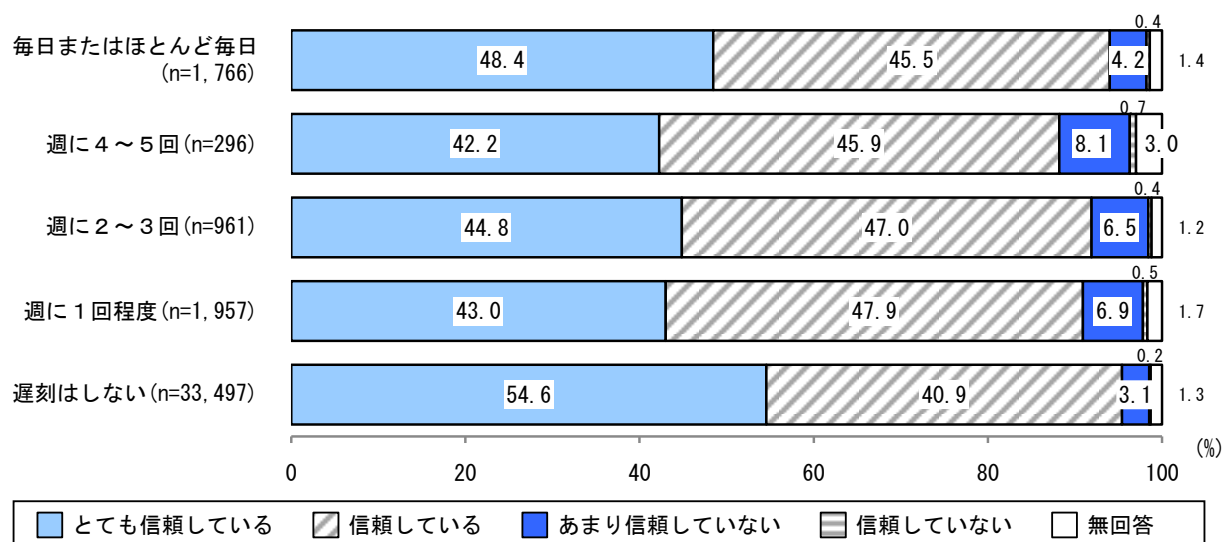


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群の子どもは、勉強時間が長くなるほど学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは学習時間と学習理解度が関連しない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問7×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

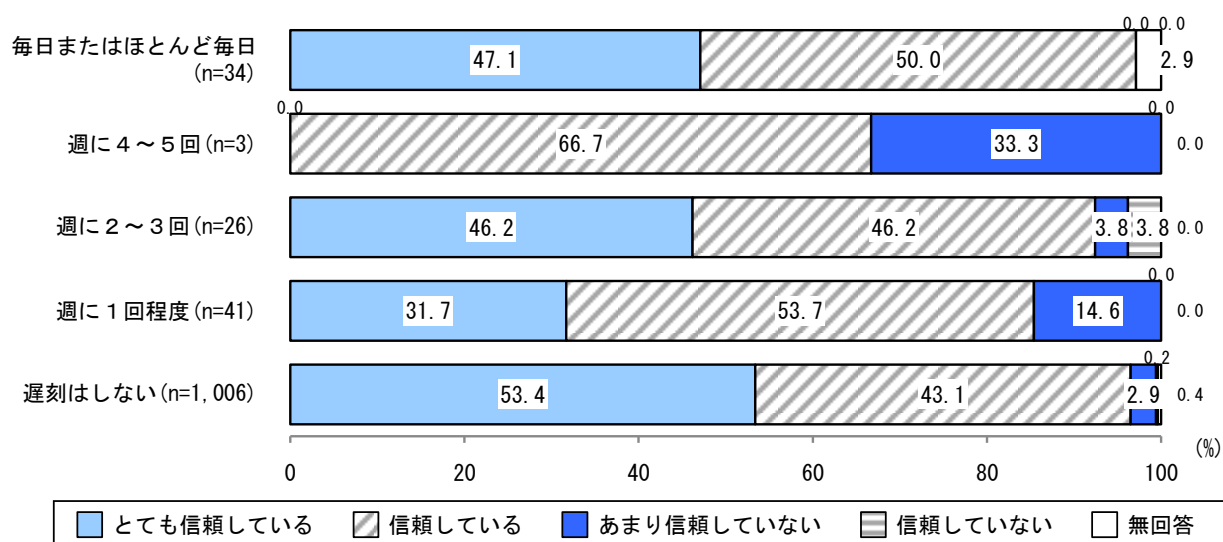
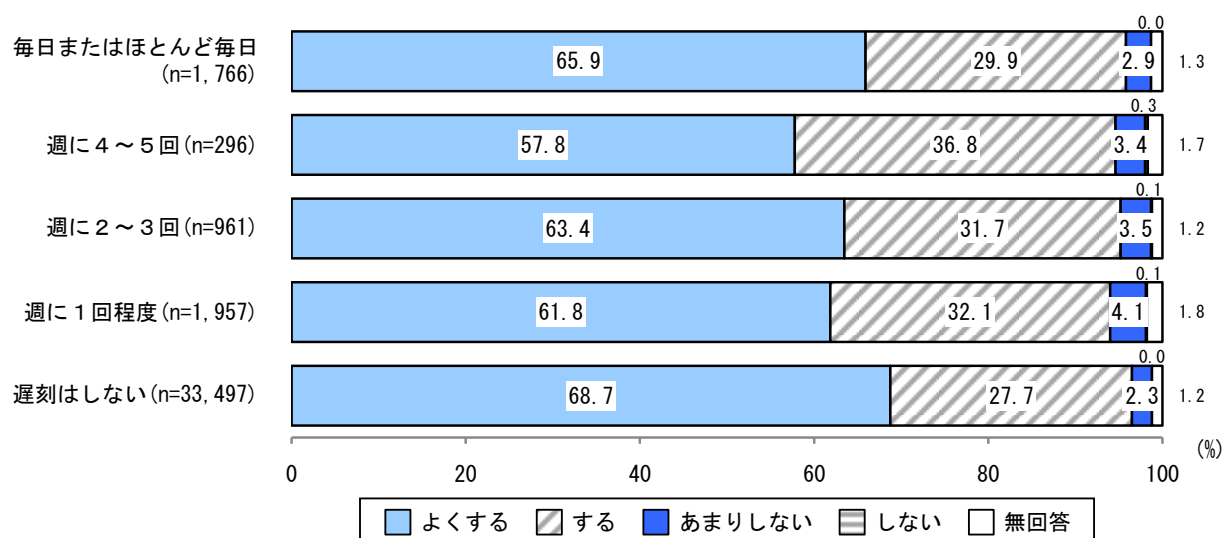


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、母数が少なく一概には言えないが、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が53.4%で最も高い。「週に4～5回」の子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が高く、33.3%である。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

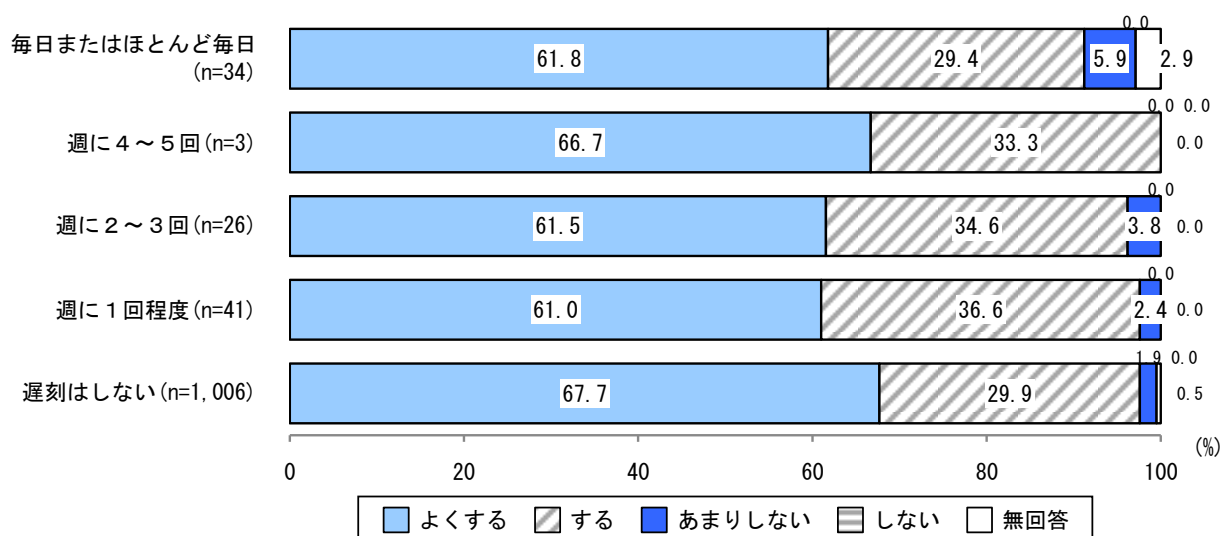
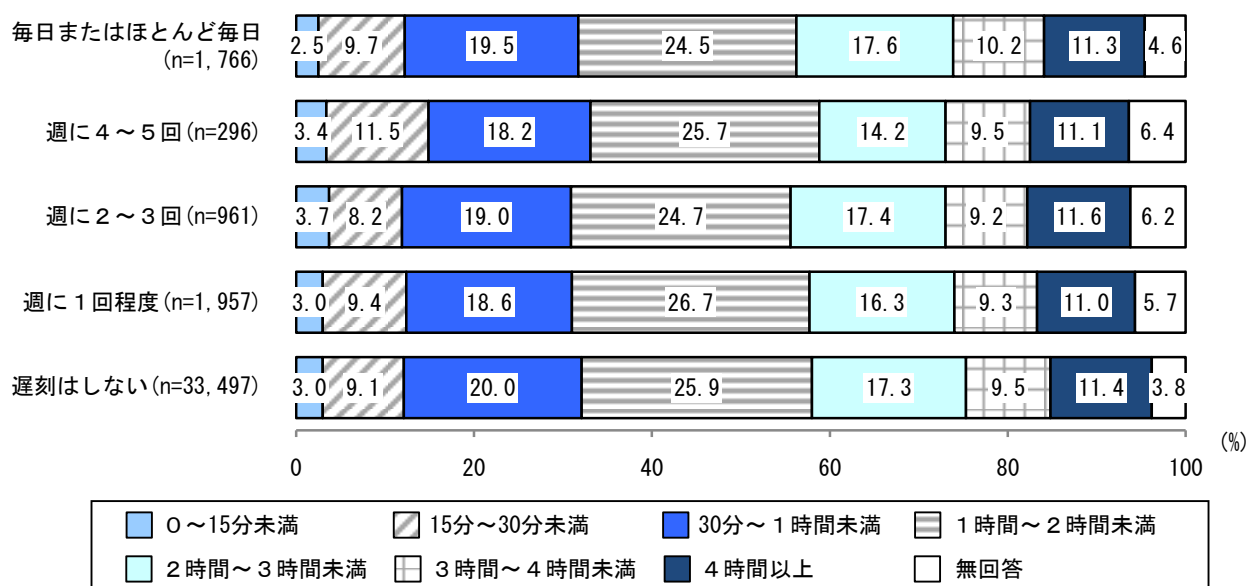


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、母数が少なく一概には言えないが、「遅刻はしない」子どもにおいては、会話を「よくする」割合が最も高く67.7%である。次いで「週に4～5回」の子どもが66.7%である。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

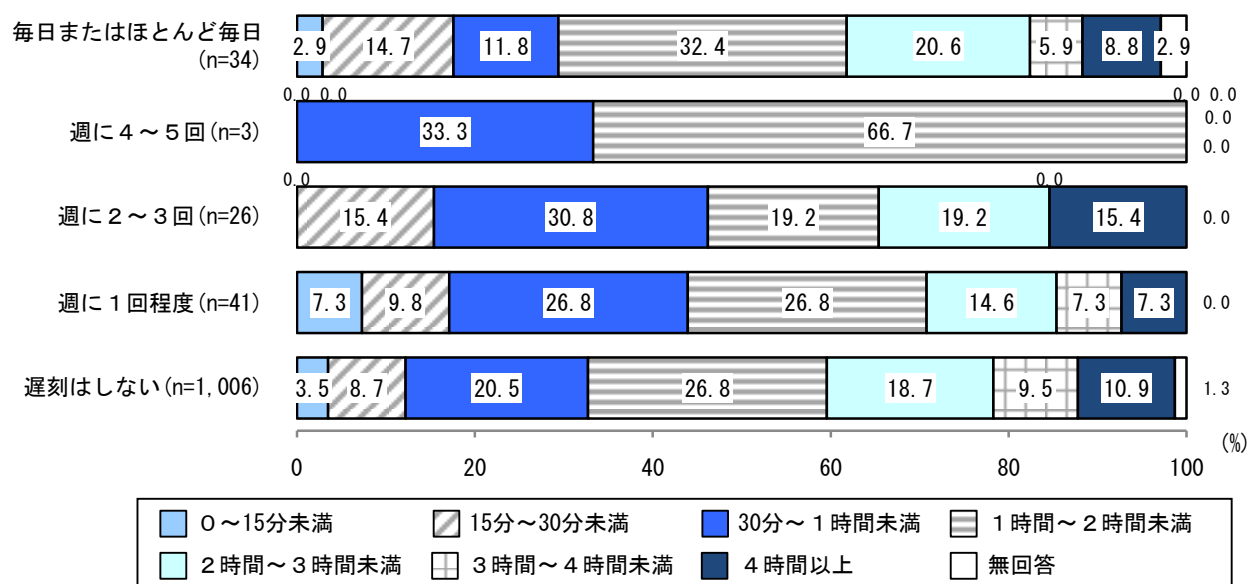
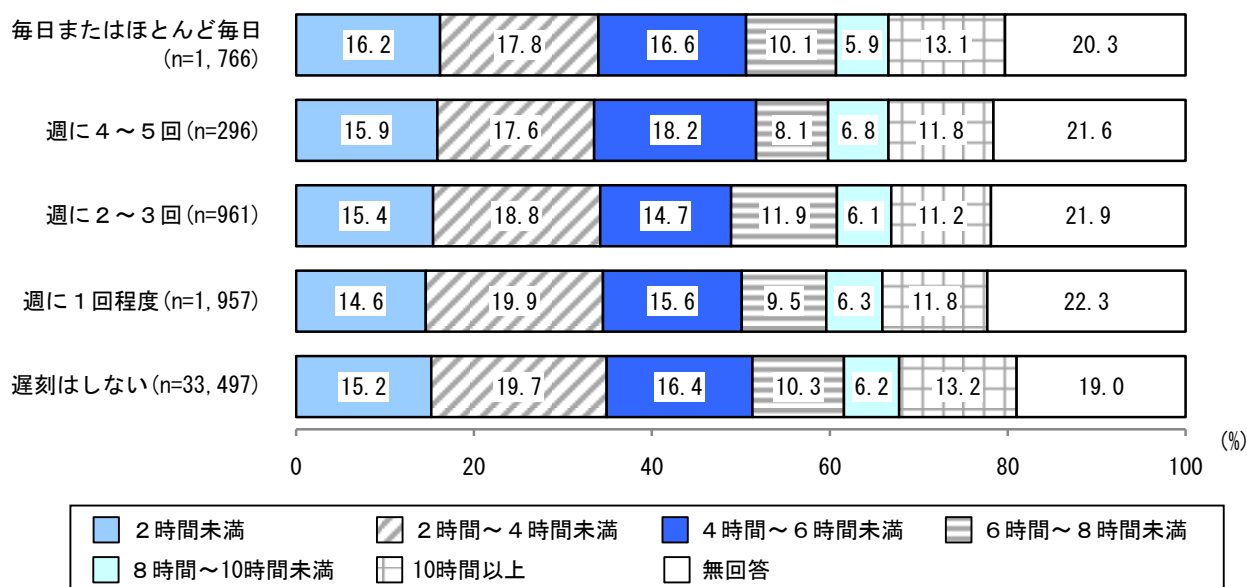


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、母数が少なく一概には言えないが、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「2時間～3時間未満」（20.6％）の割合が最も高くなっている。「週に2～3回」の子どもにおいては、「15分～30分未満」（15.4％）、「4時間以上」（15.4％）の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

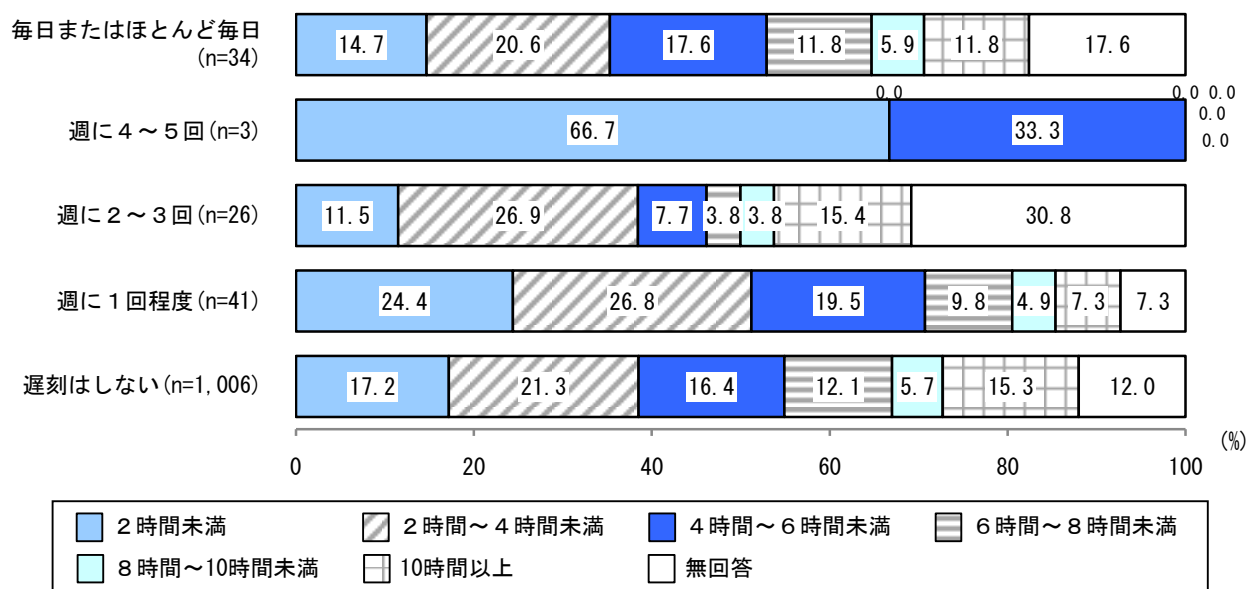
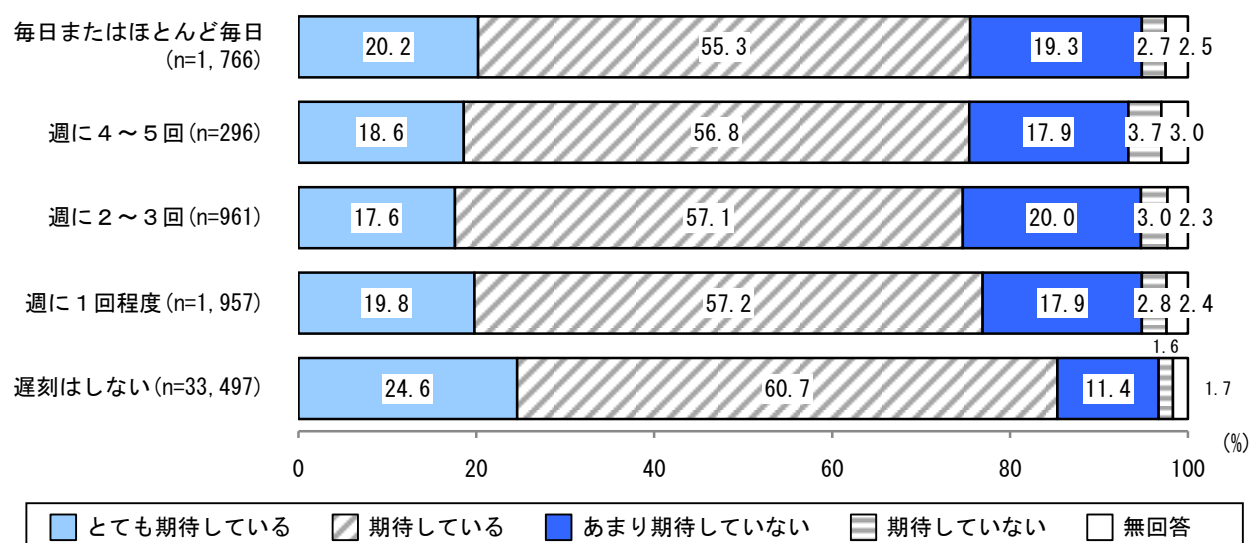


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、母数が少なく一概には言えないが、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「8時間～10時間未満」（5.9％）の割合が最も高くなっている。「週に4～5回」の子どもにおいては、「2時間未満」（66.7％）、「4時間～6時間未満」（33.3％）の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

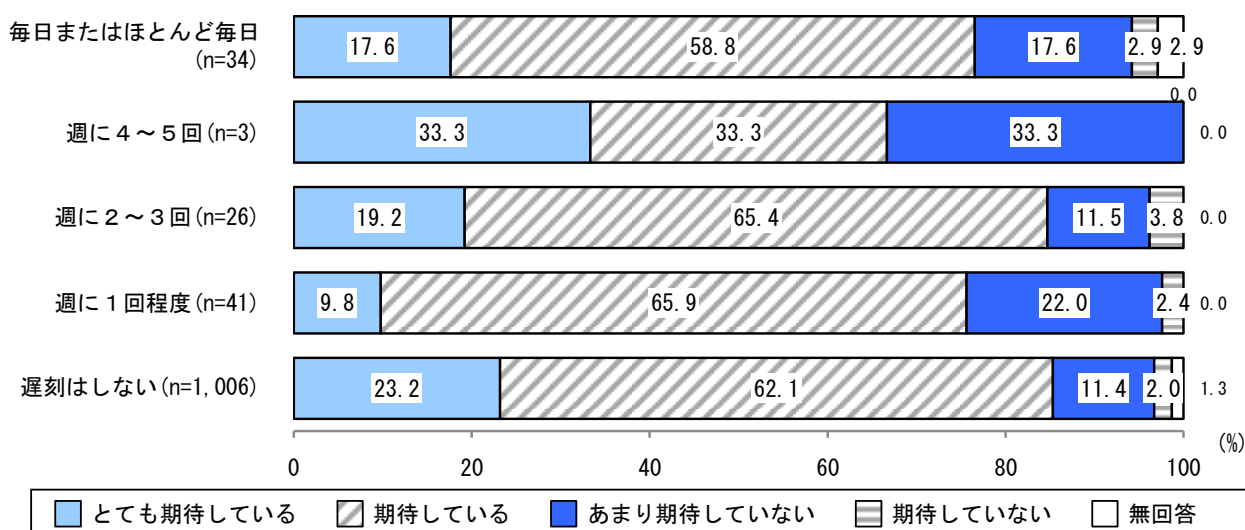
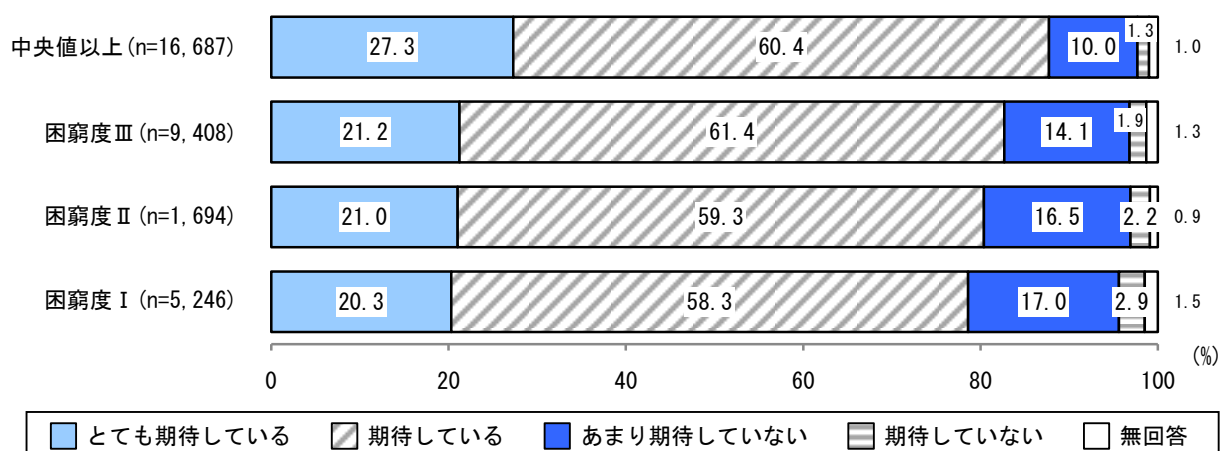


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、母数が少なく一概には言えないが、「週に 4 ～ 5 回」の子どもにおいては、「とても期待している」の割合が 33.3% で最も高くなっており、「週に 1 回程度」の子どもにおいては 9.8% と最も低い。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

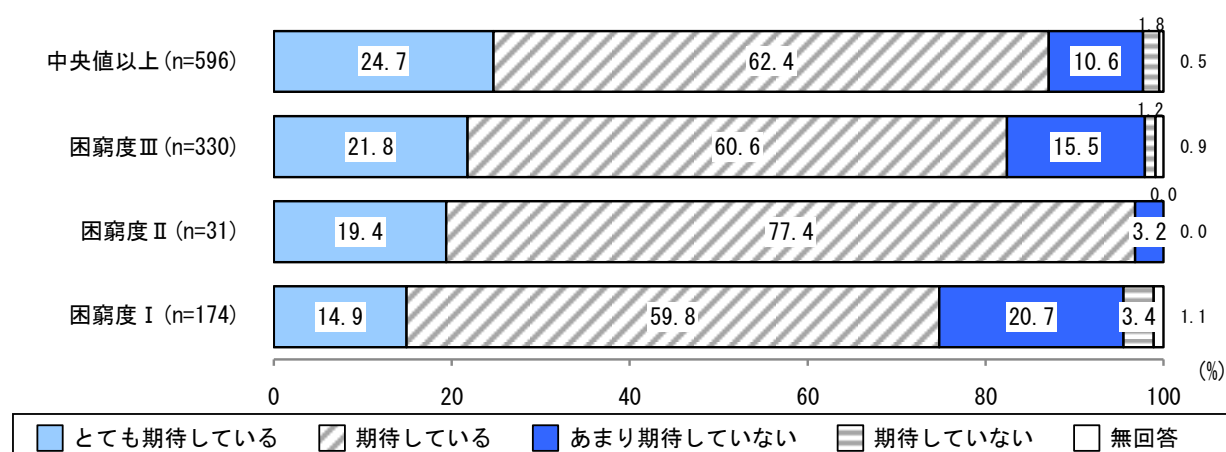
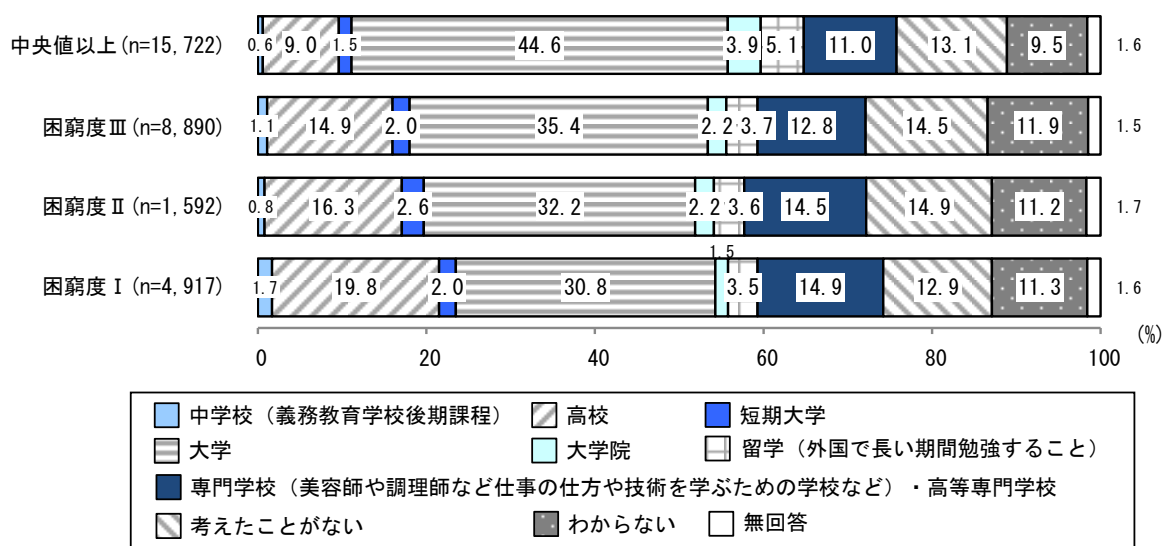


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」と回答する割合は困窮度が高まるにつれ低くなり、困窮度Ⅰ群が14.9%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<八尾市>

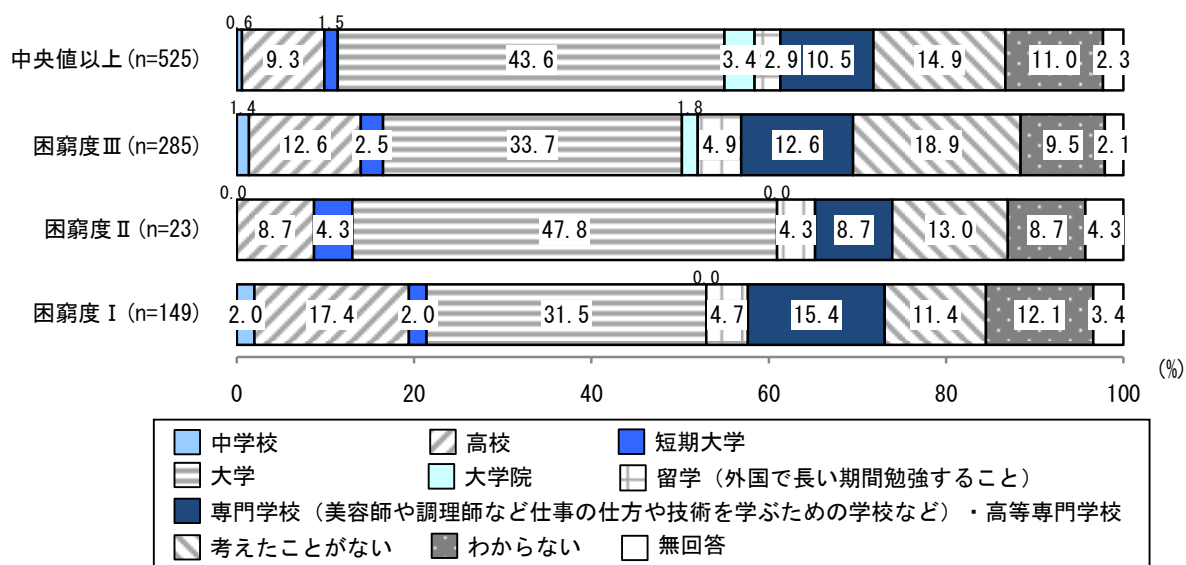
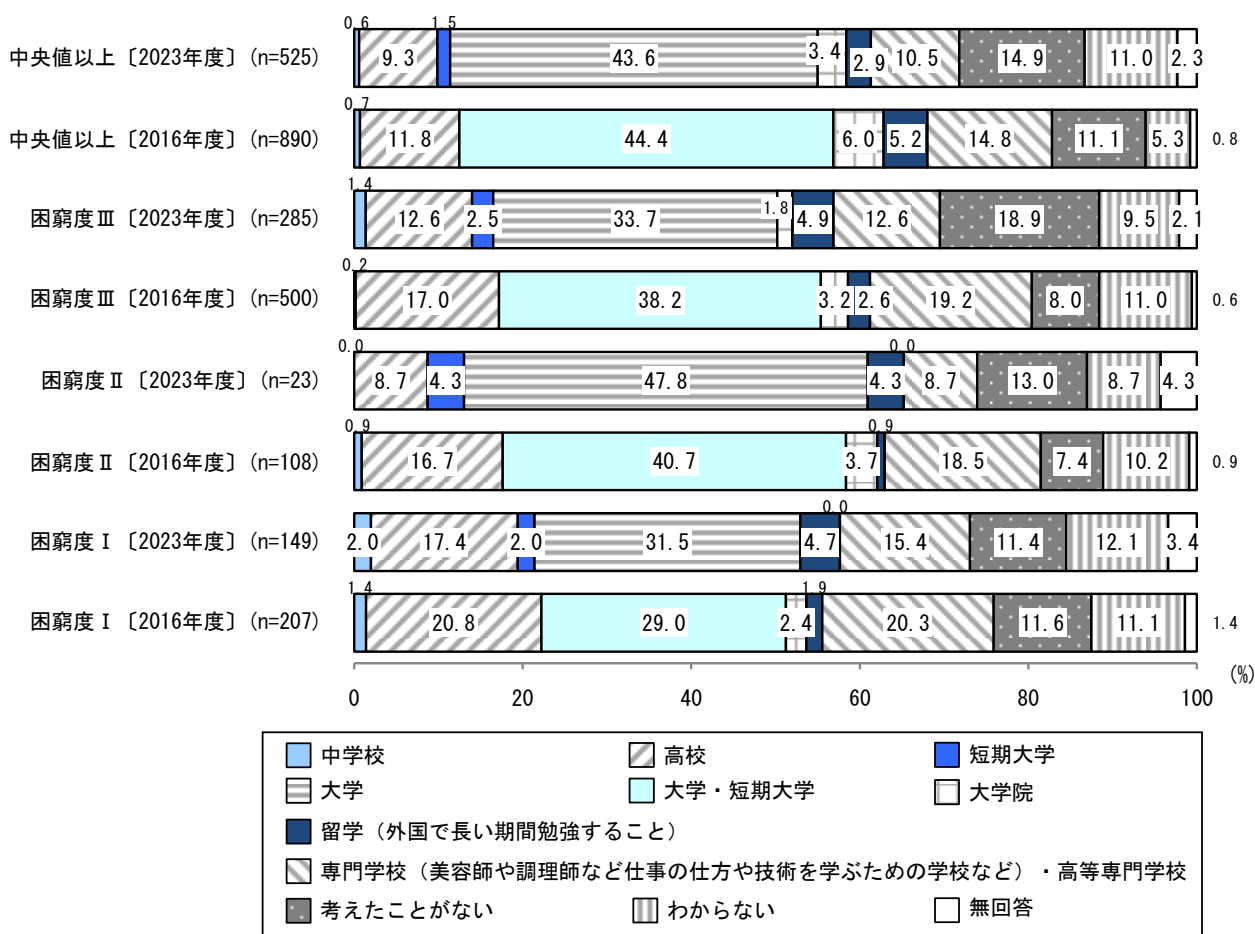


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度Ⅰ群では、「中学校」（2.0%）、「高校」（17.4%）と回答した子どもの割合が最も高かった。困窮度Ⅱ群において「大学」と回答した割合は最も高く、47.8%である。

<2016 年度調査との比較／八尾市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016 年度調査では「大学・短期大学」

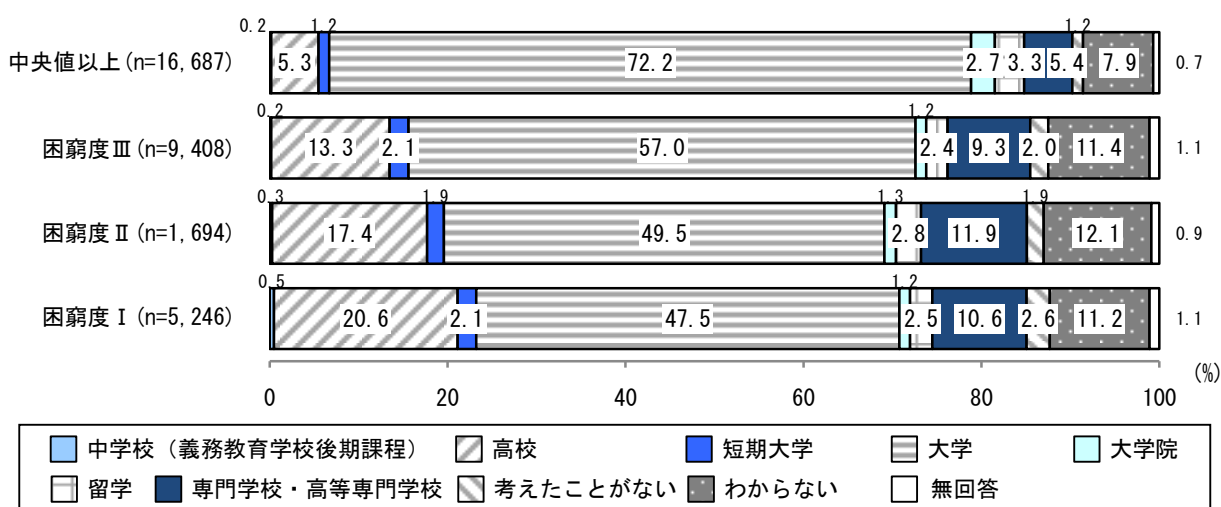
※2 「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「高校」、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<八尾市>

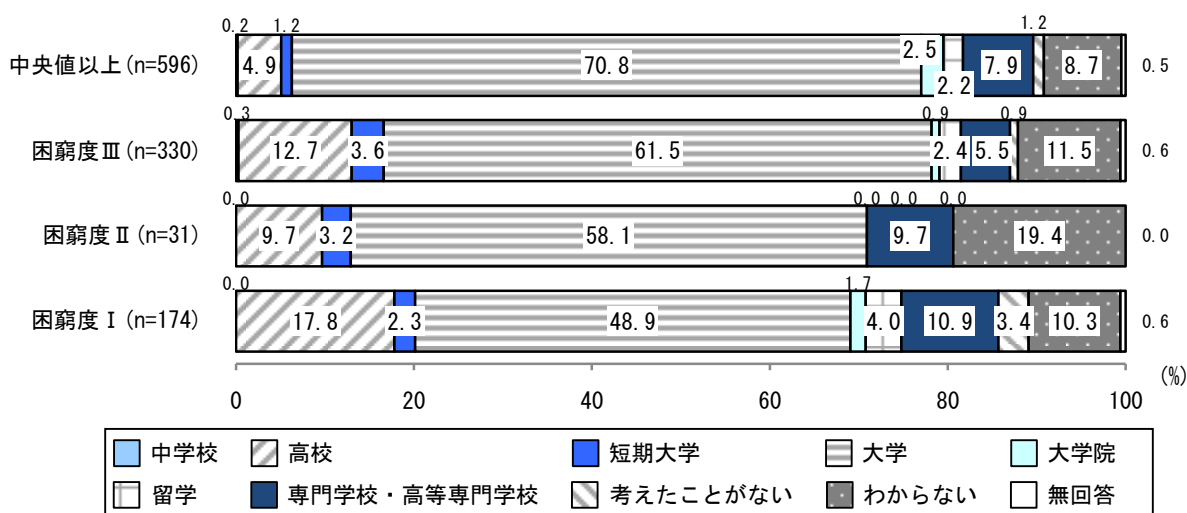
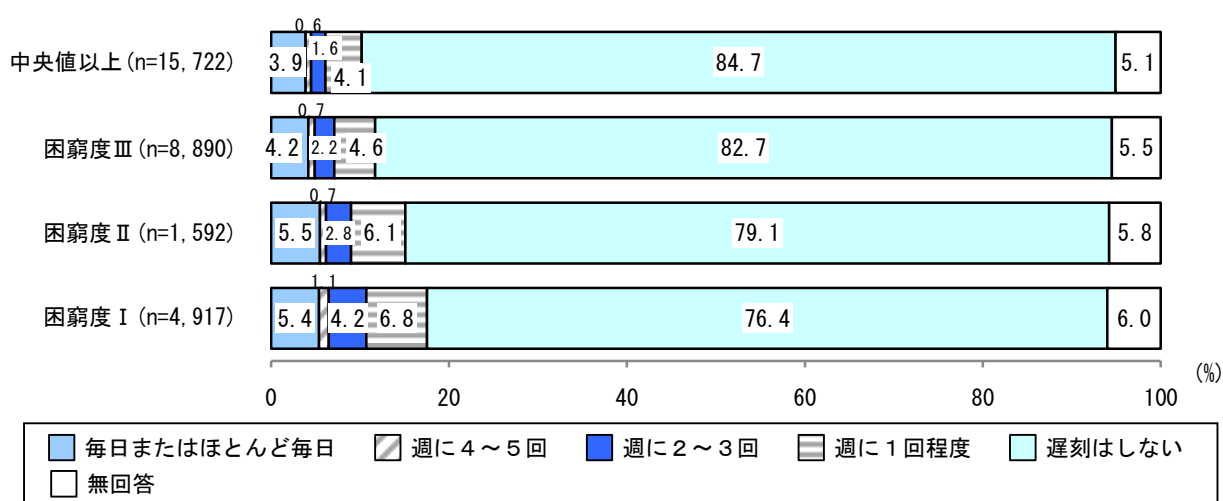


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもに希望する進学先を見ると、「高校」と回答した割合が困窮度Ⅰ群で17.8%と最も高くなっている。また、「大学」と回答した割合が中央値以上群において最も高く、70.8%である。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<八尾市>

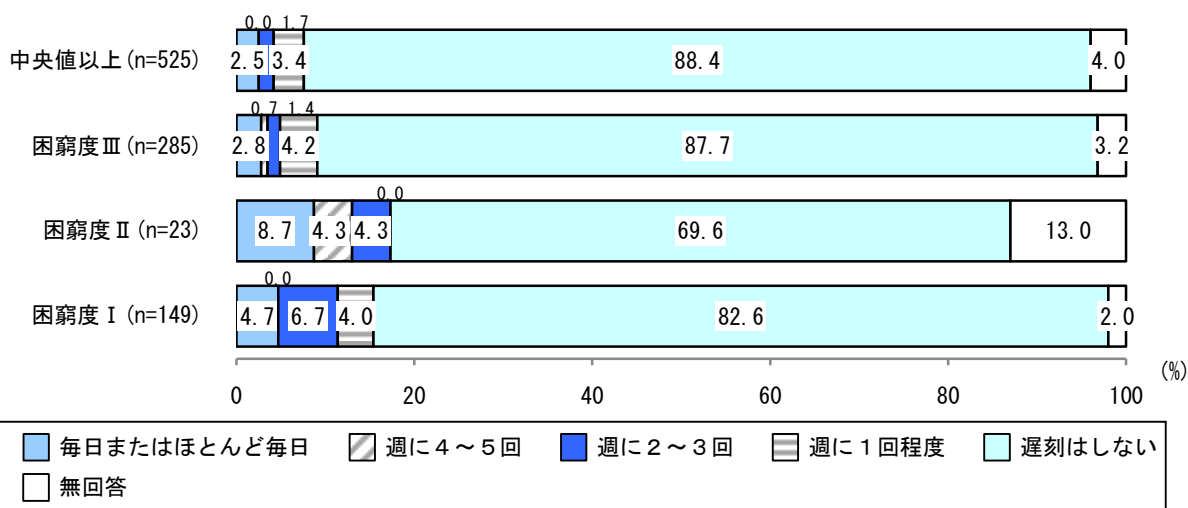
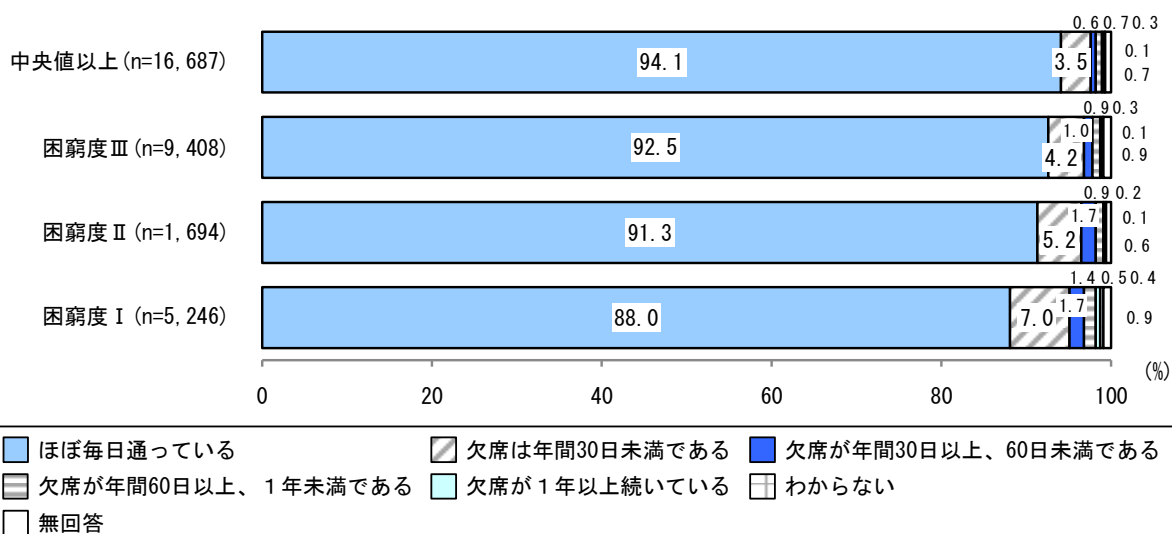


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」と「週に4～5回」はそれぞれ困窮度Ⅱ群が8.7%、4.3%と最も高くなっている。「遅刻はしない」は中央値以上群が88.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<八尾市>

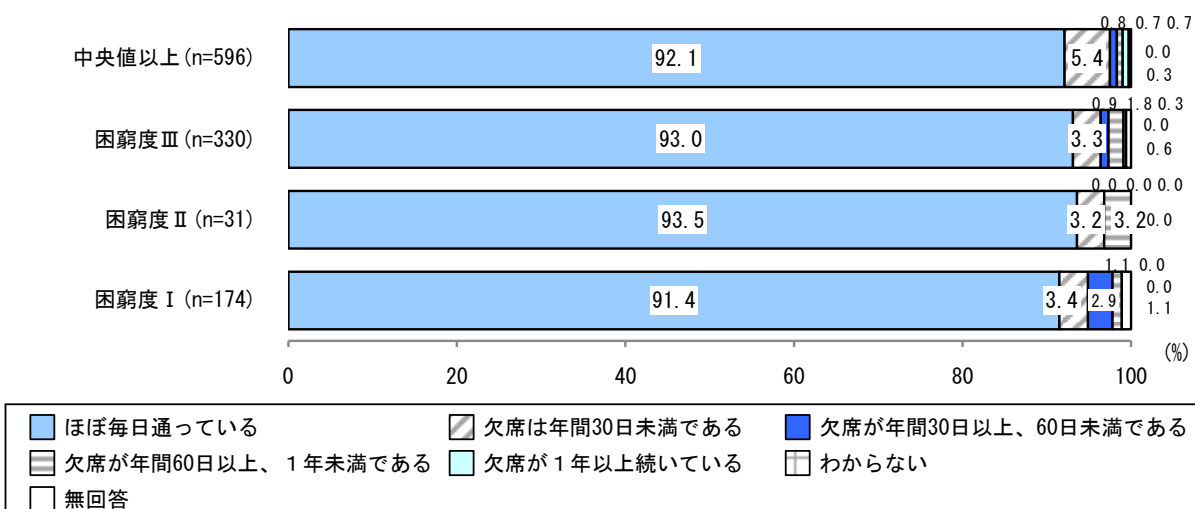
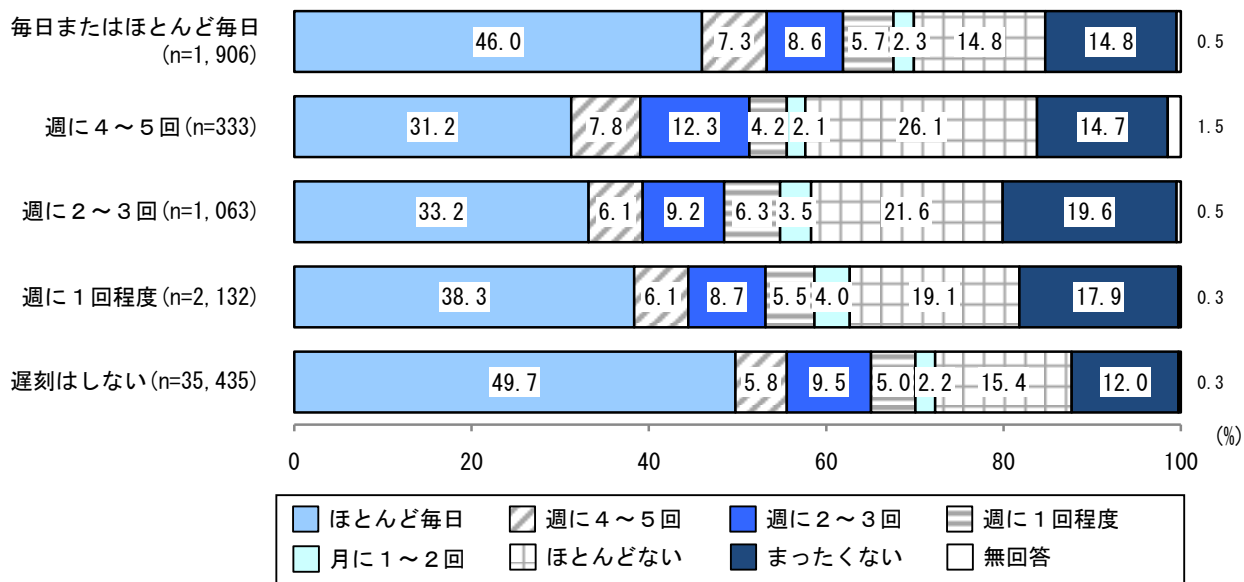


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群が91.4%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<八尾市>

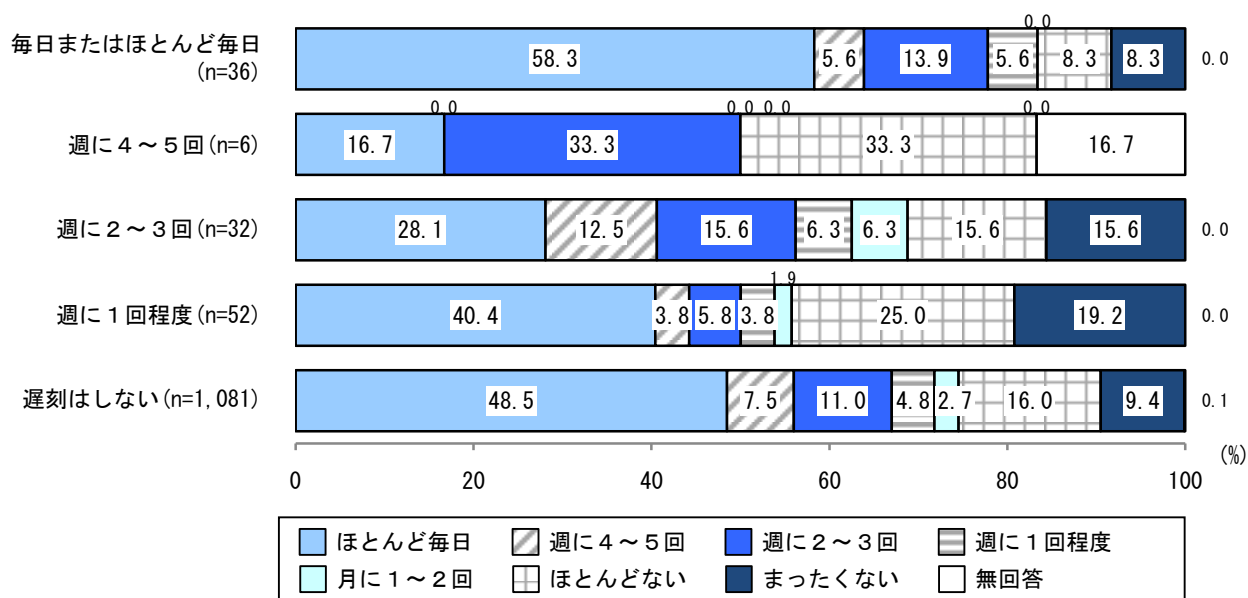
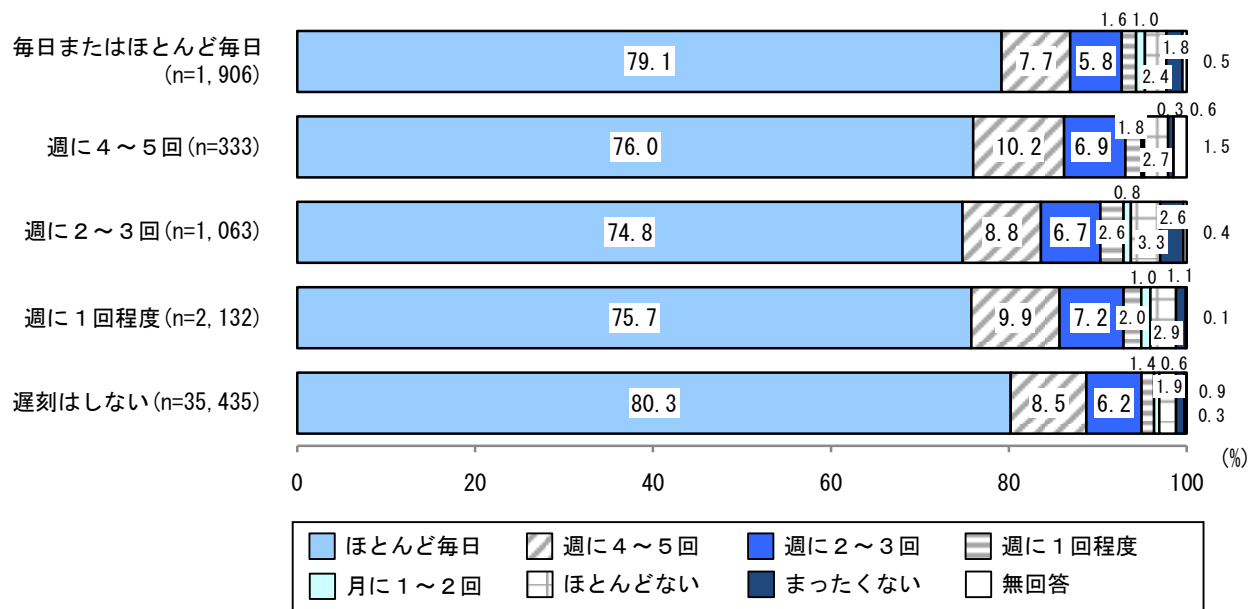


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが58.3%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が19.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<八尾市>

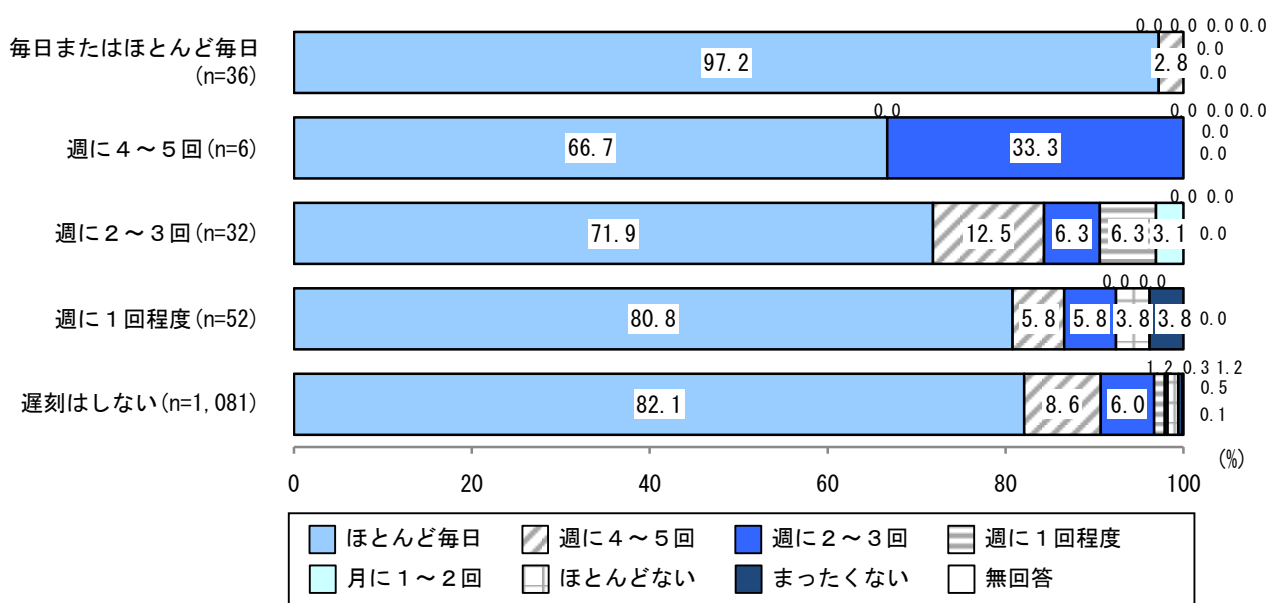
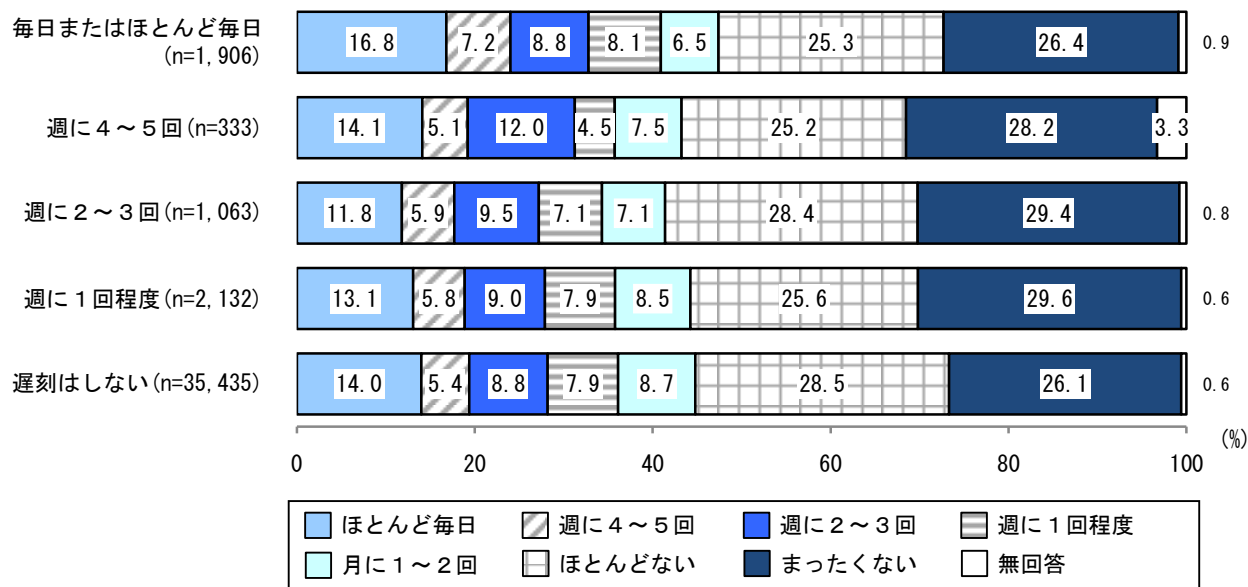


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが97.2%で最も高く、一方で、「ほとんどない」、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合がともに3.8%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（子ども票問7×保護者票問8⑤）

<大阪府内全体>



<八尾市>

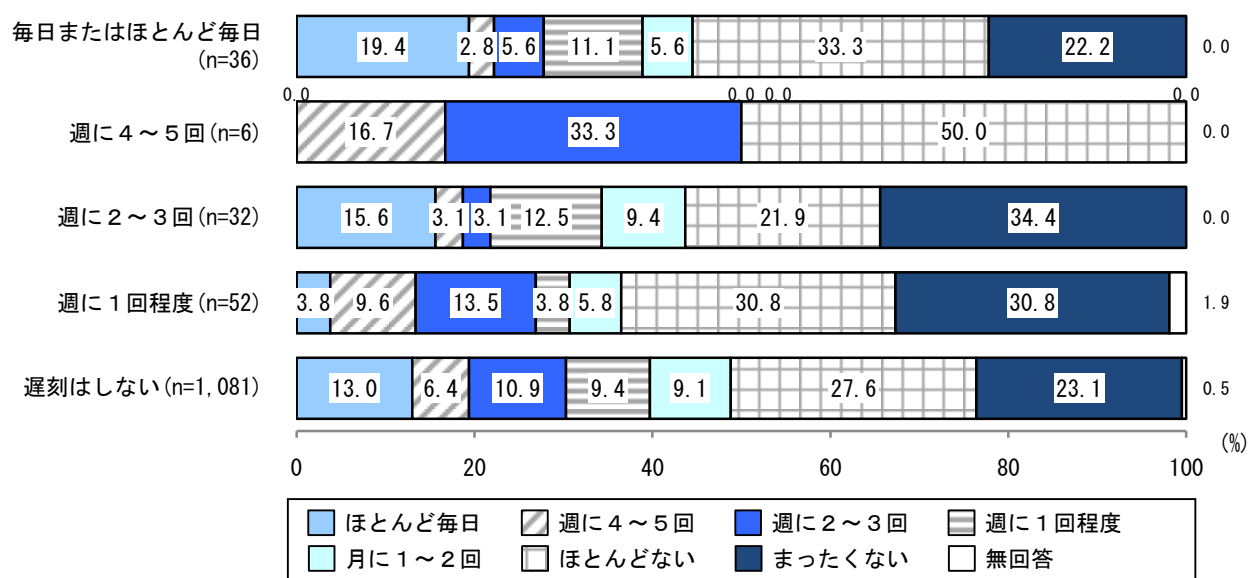
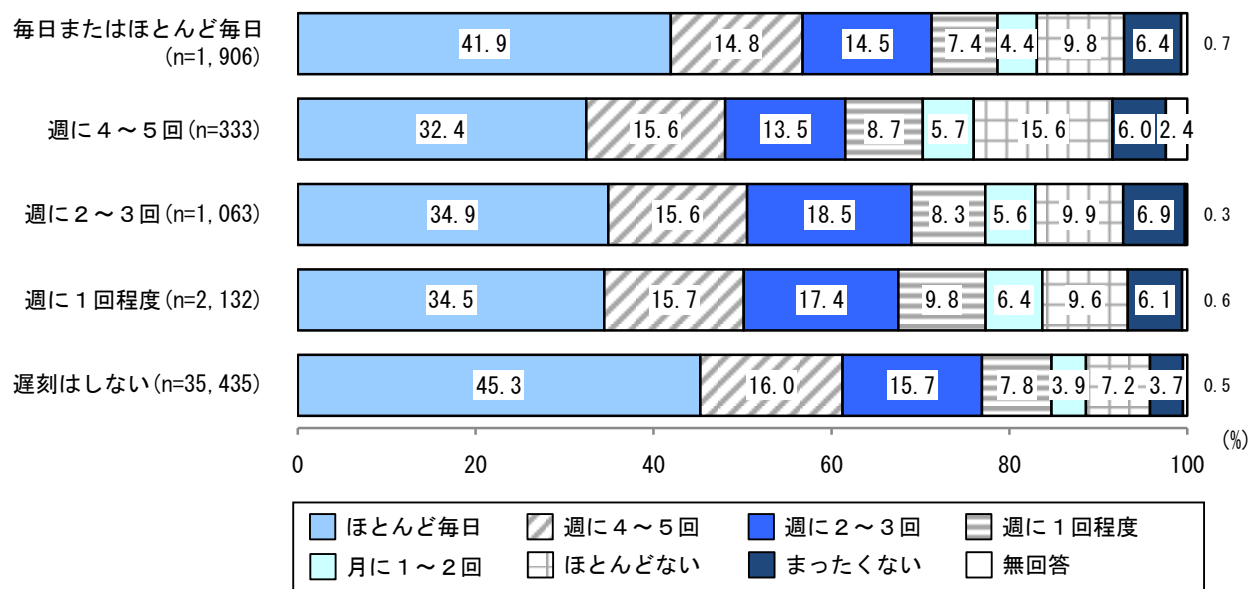


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが19.4%で最も高く、一方で、「まったくない」は週に2～3回遅刻をしている子どもの割合が34.4%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<八尾市>

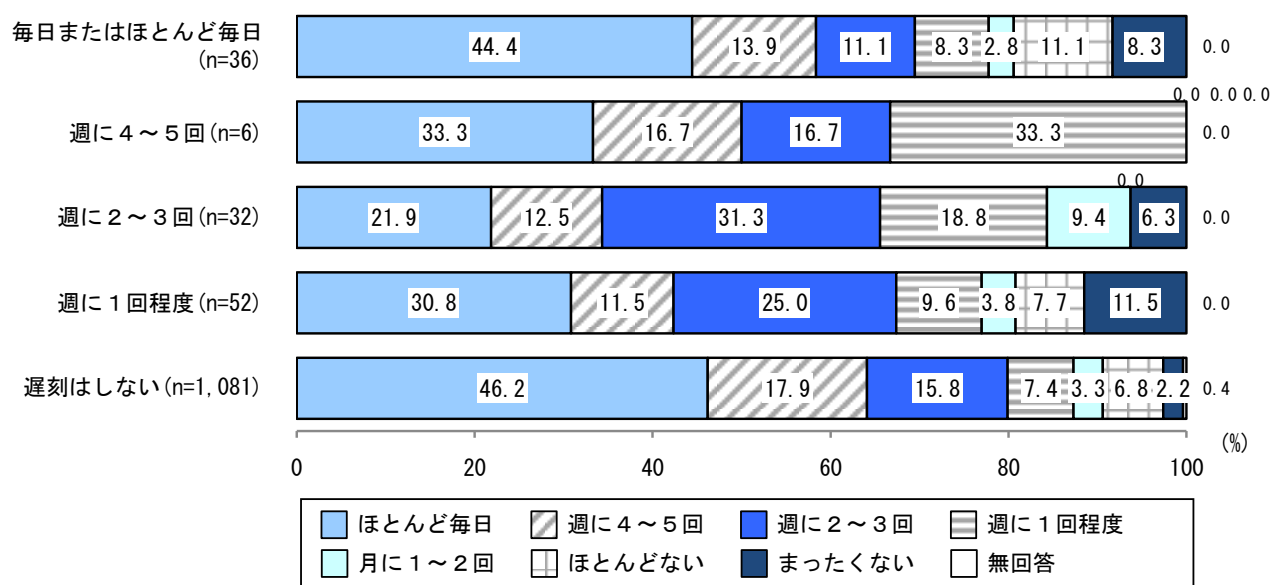
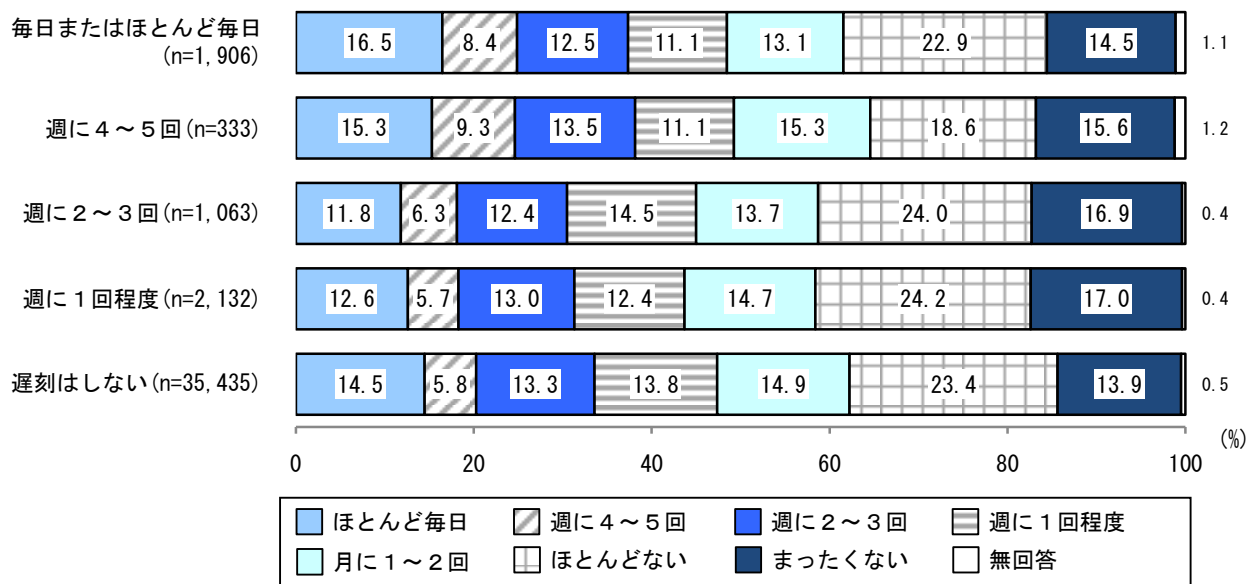


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、遅刻はしない子どもが46.2%で最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が11.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<八尾市>

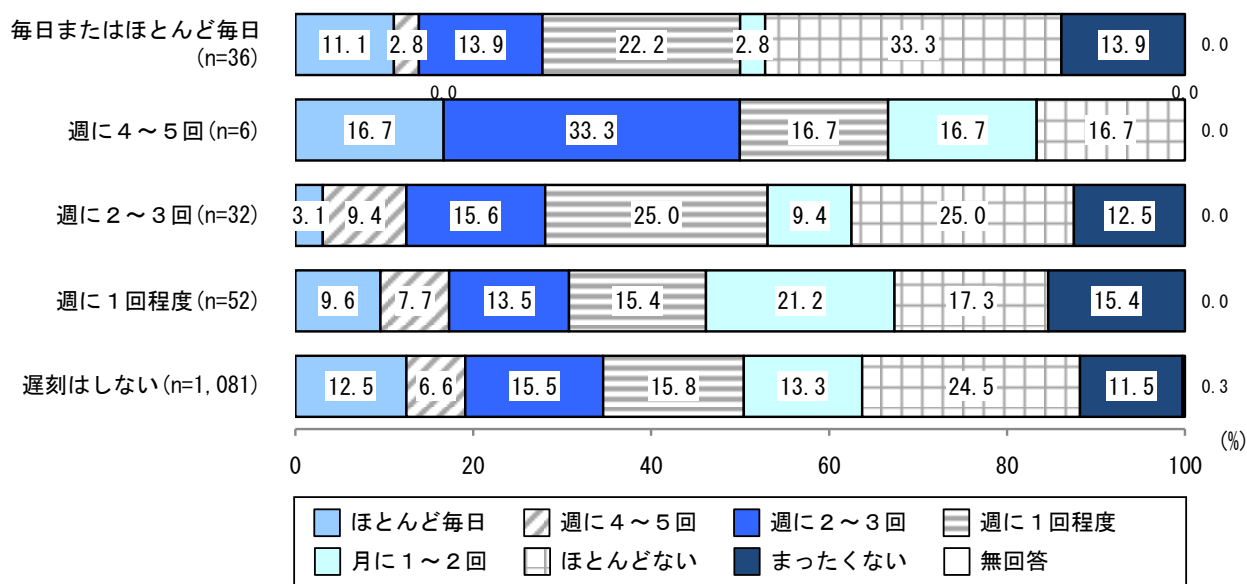
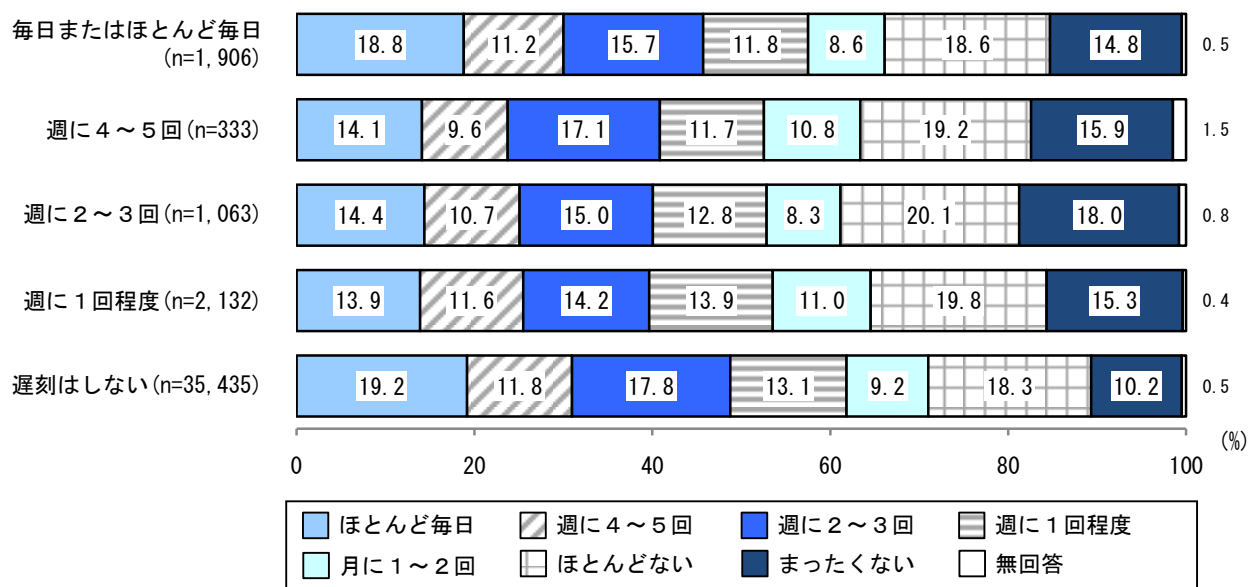


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが16.7%で最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が15.4%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<八尾市>

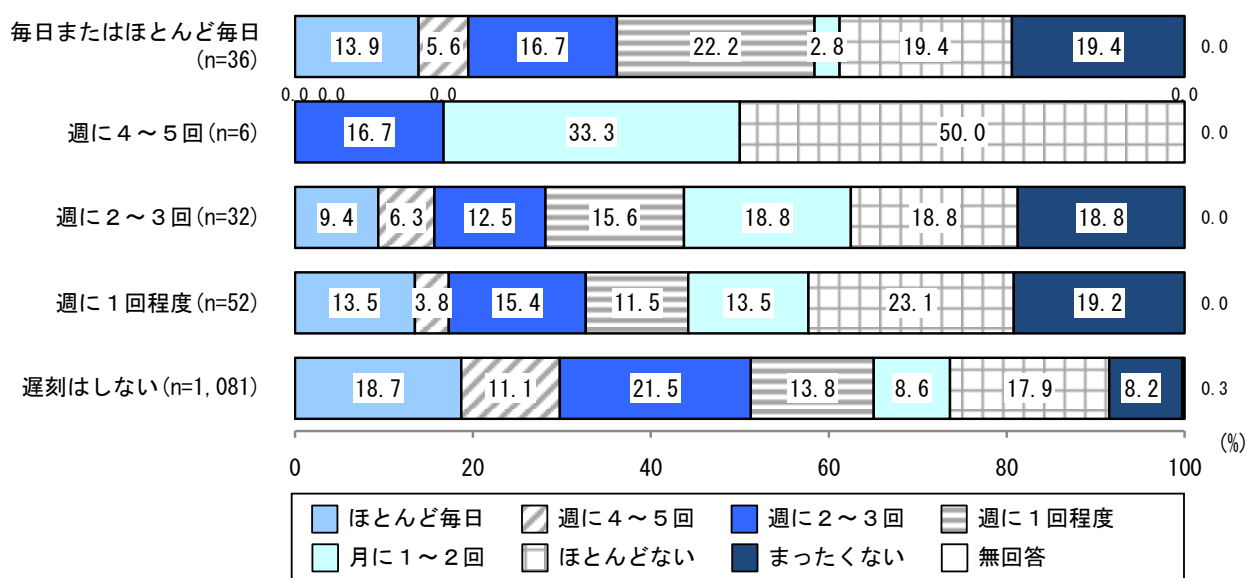
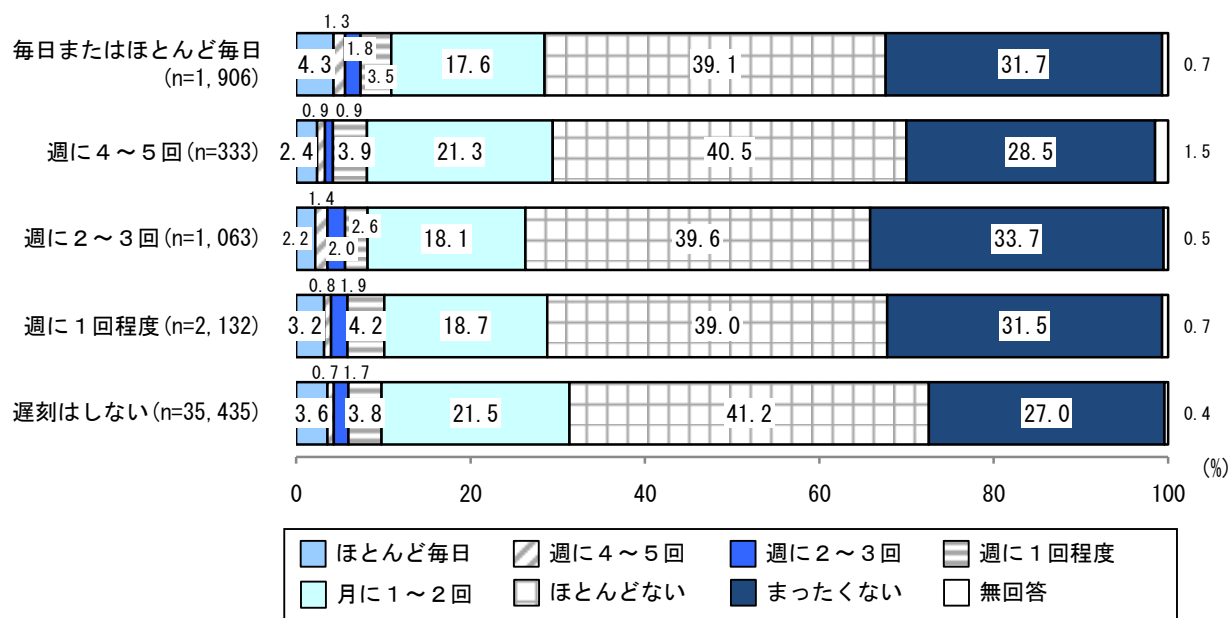


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、遅刻はしない子どもが18.7%で最も高く、一方で、「まったくない」は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が19.4%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
(子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<八尾市>

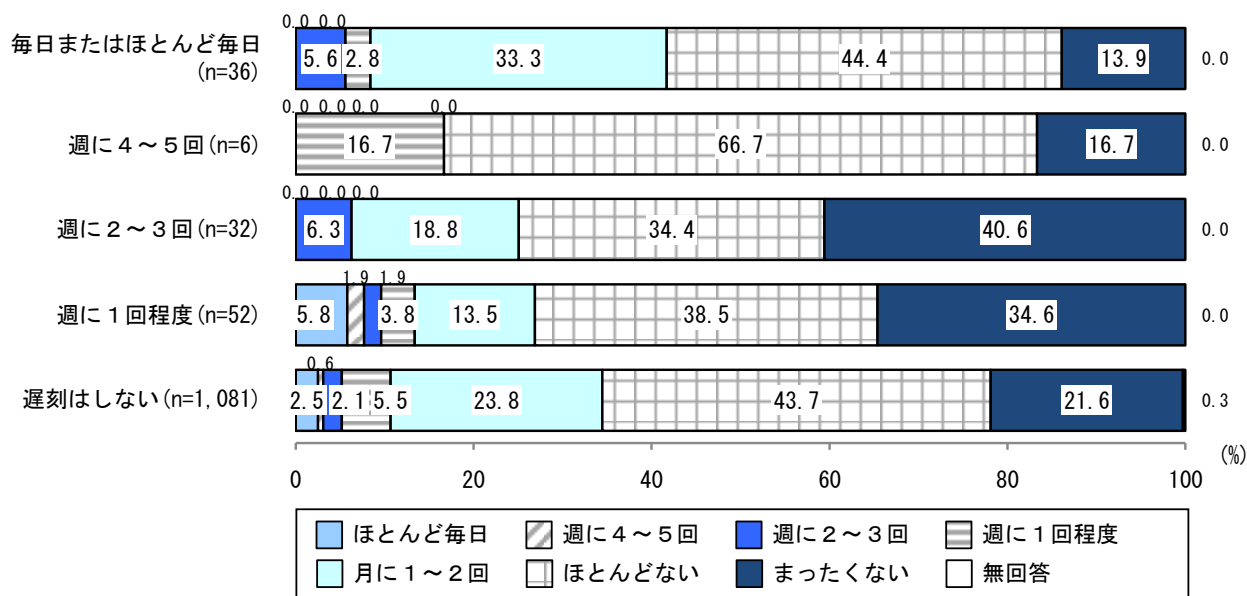
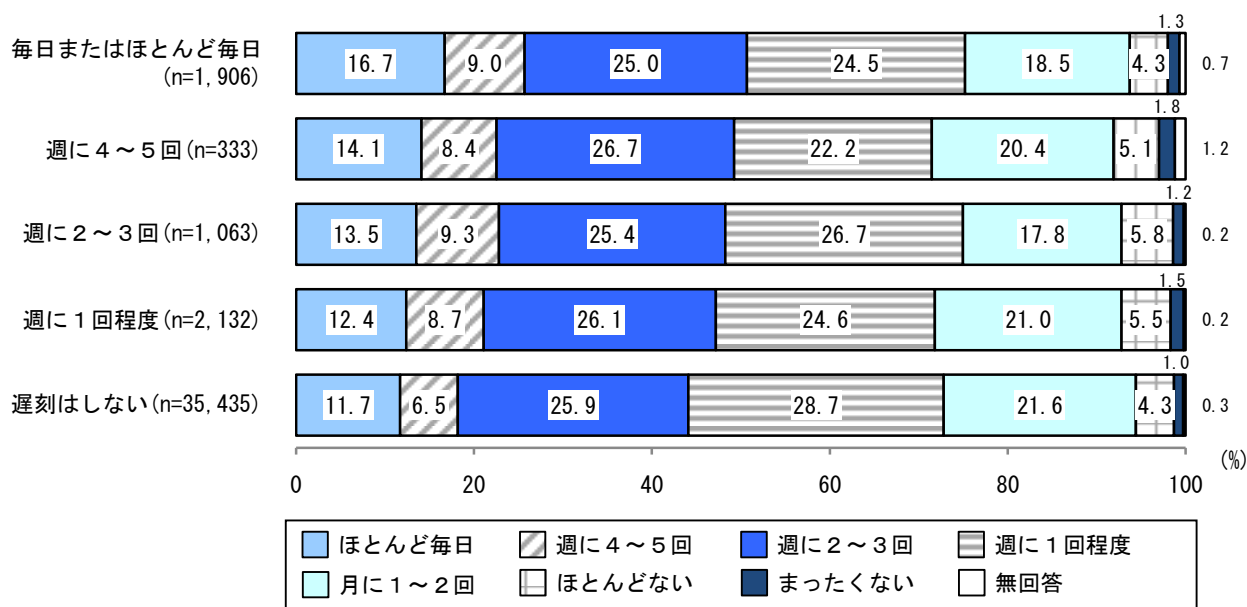


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」は週に2～3回遅刻をしている子どもの割合が40.6%と最も高い。「ほとんど毎日」は、週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が5.8%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<八尾市>

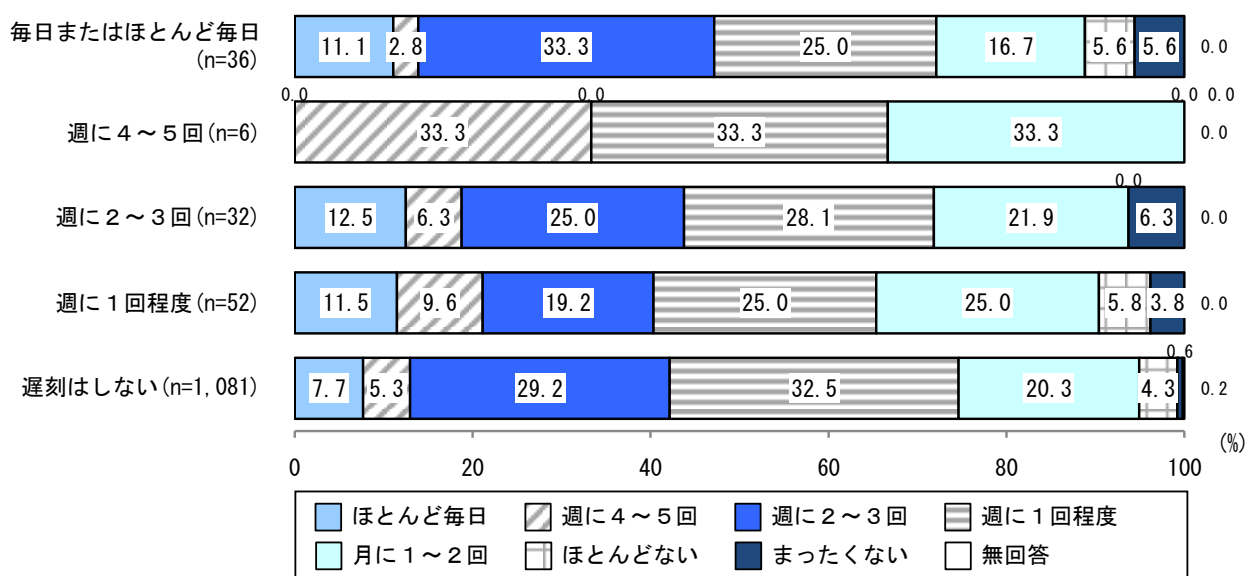
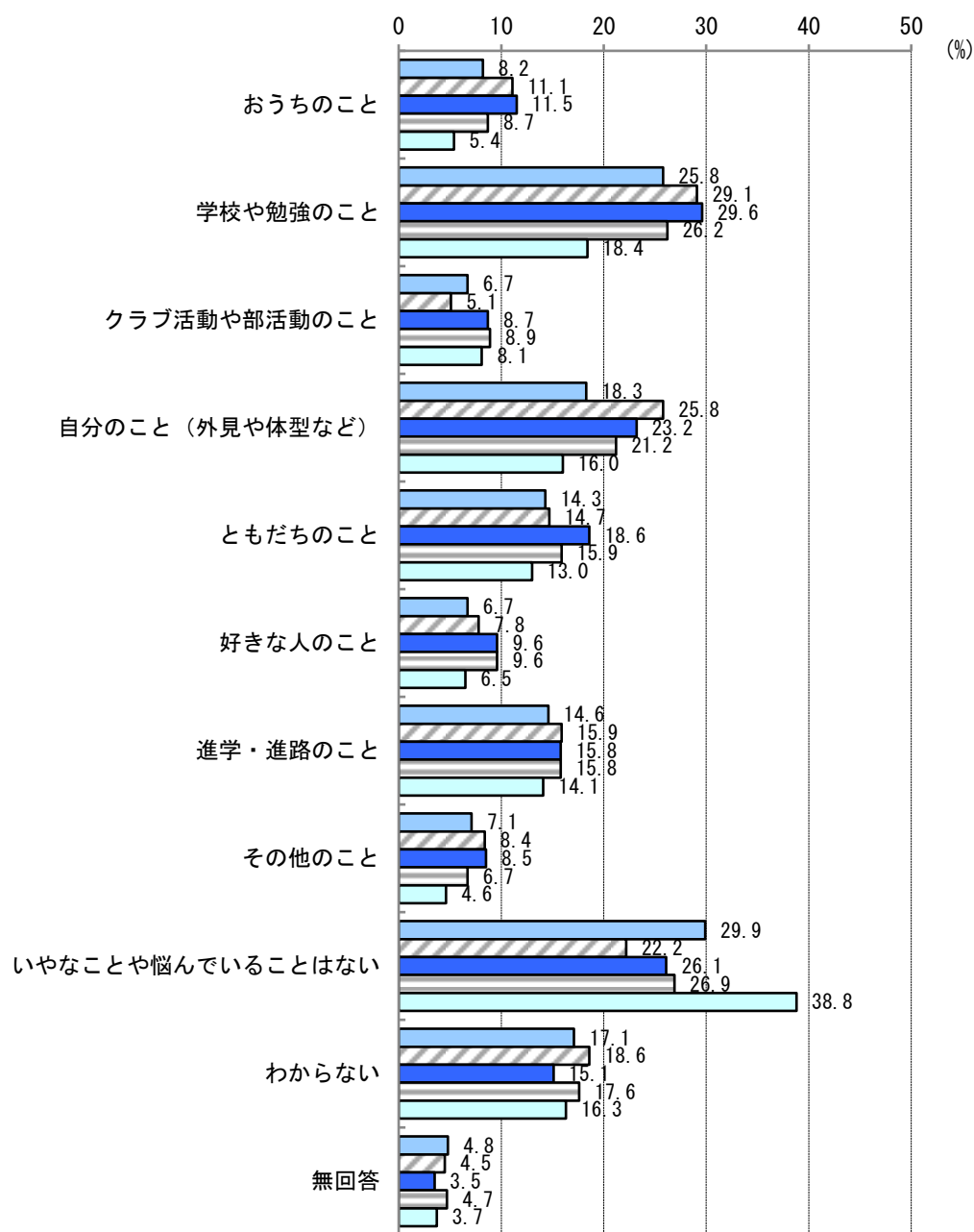


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2～3回遅刻をしている子どもが12.5%で最も高く、一方で、「ほとんどない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が5.8%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問 7×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

<八尾市>

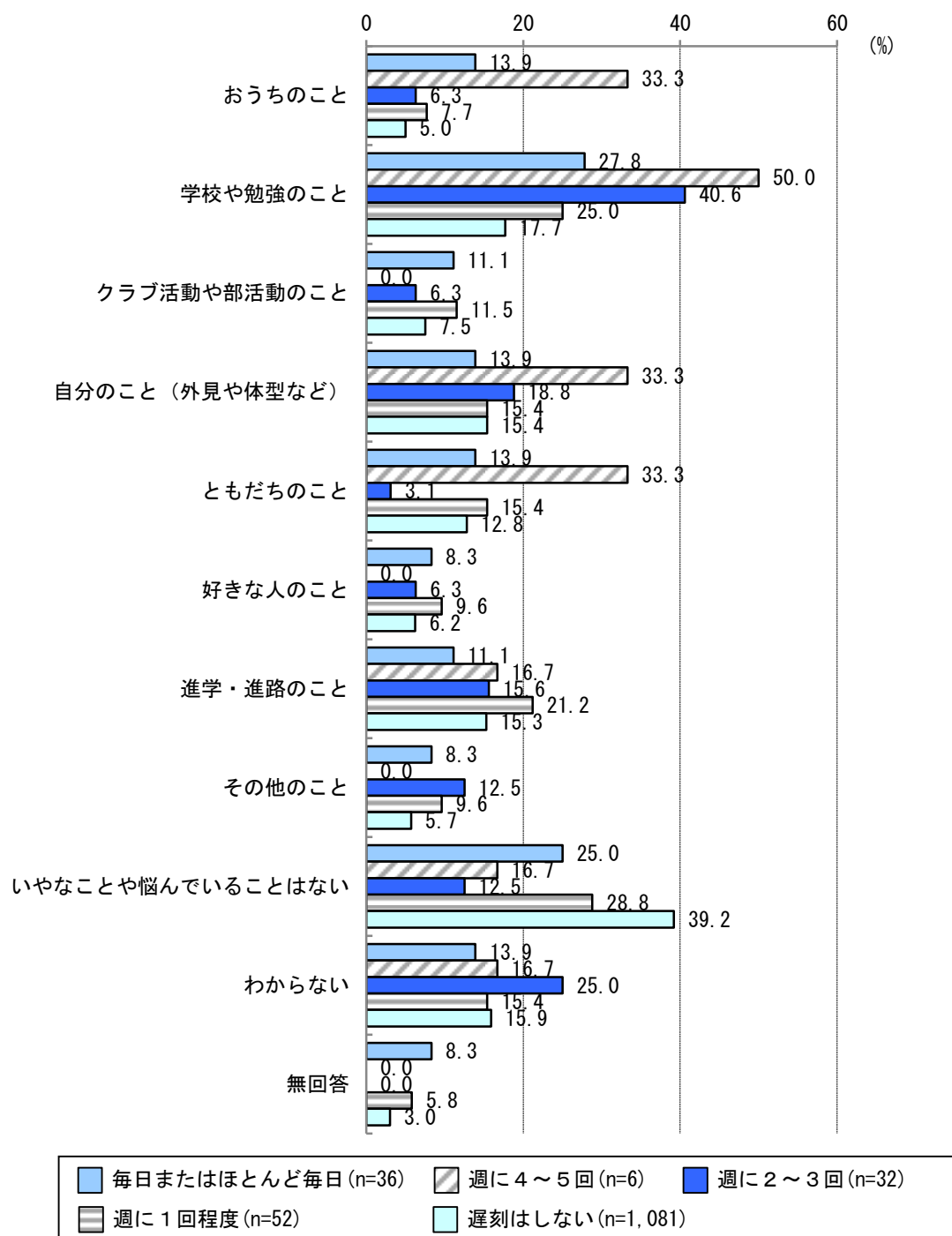
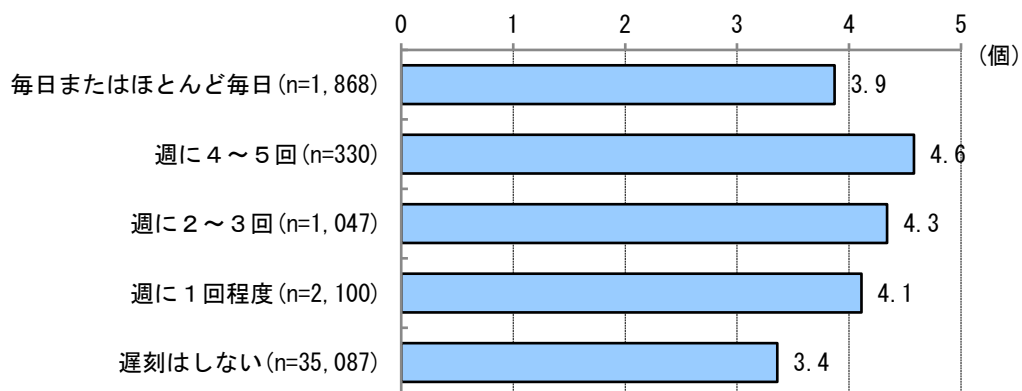


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「おうちのこと」の割合は、週に4～5回遅刻をしている子どもが33.3%で最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」の割合では、遅刻はしない子どもの割合が39.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<八尾市>

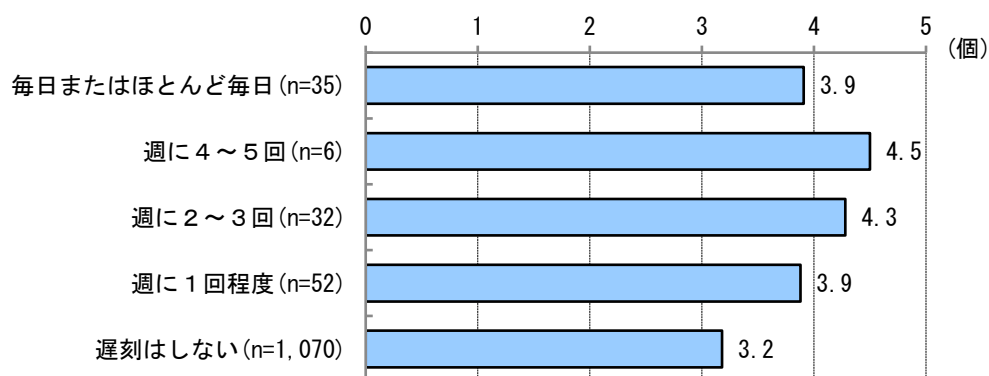
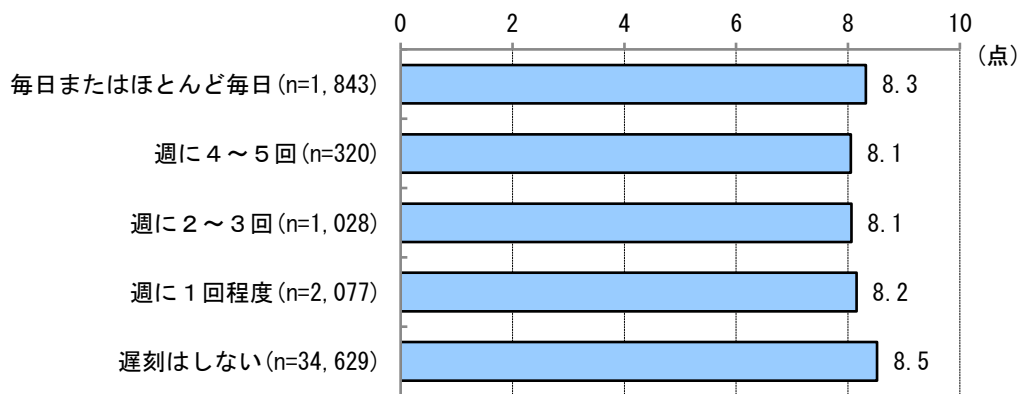


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に4～5回」遅刻をしている子どもが4.5個で最も多く、次いで「週に2～3回」遅刻をしている子どもが4.3個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<八尾市>

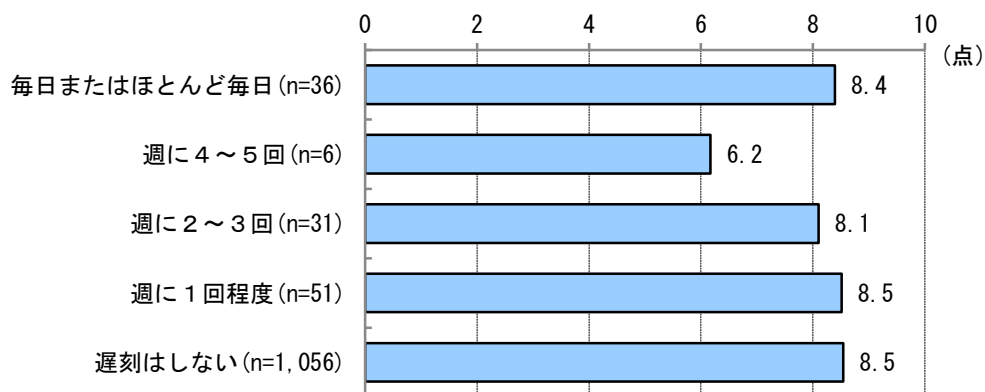
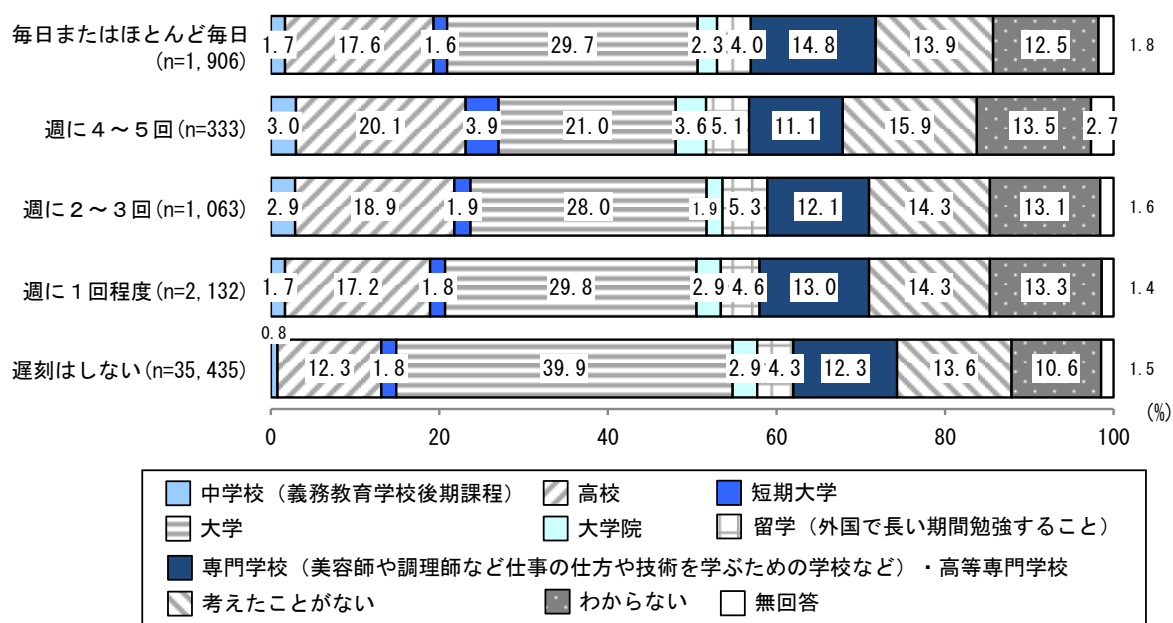


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「遅刻はしない」、または「週に1回程度」遅刻している子どもは、ともに8.5点と、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<八尾市>

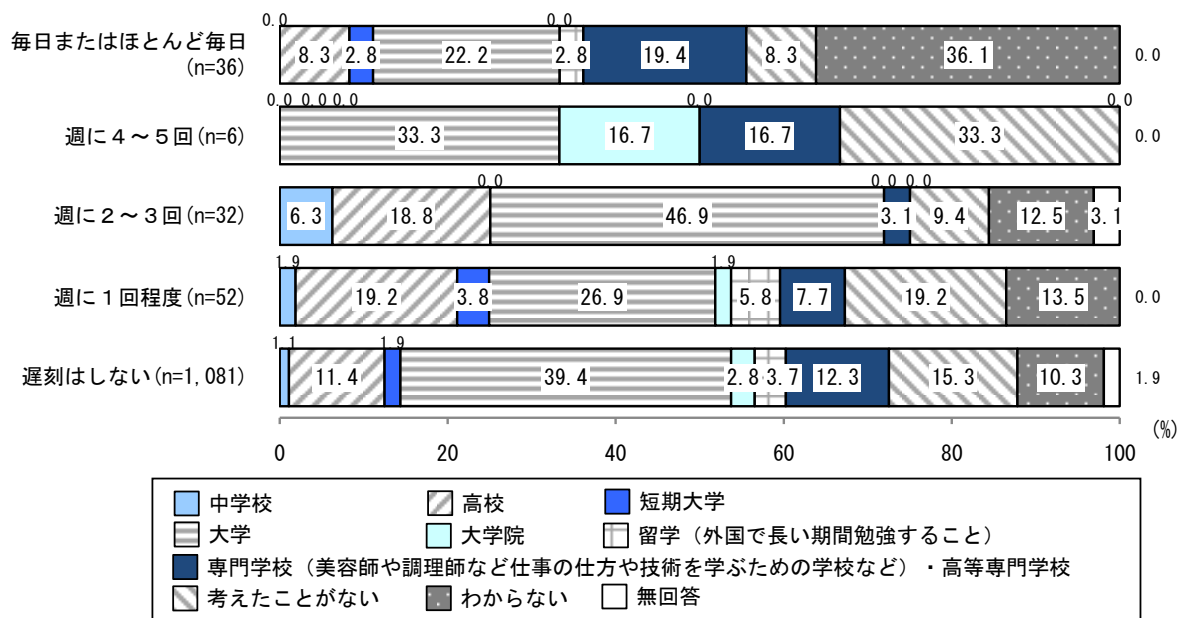
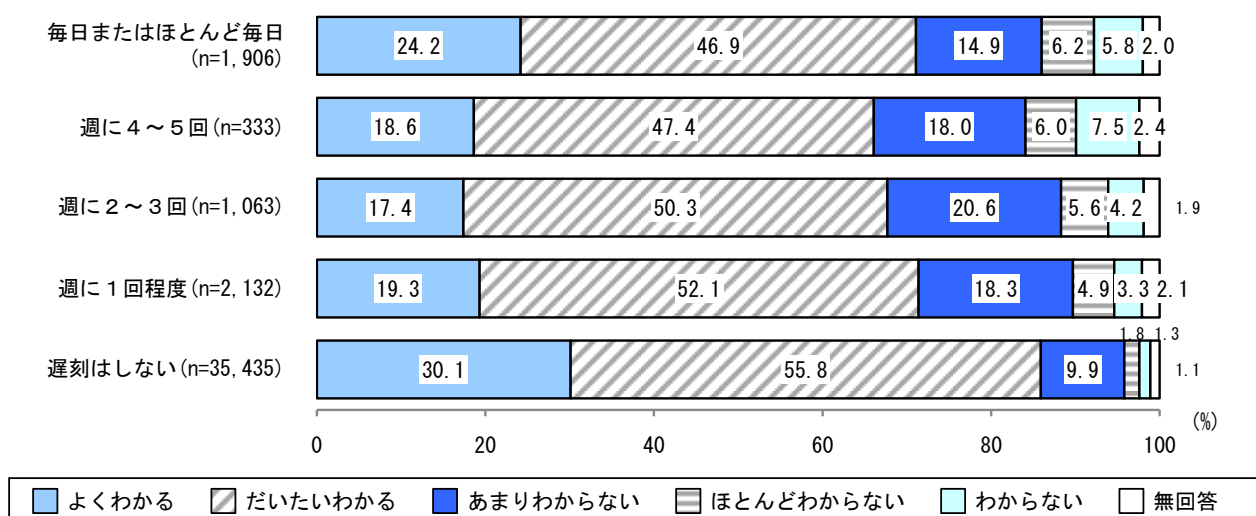


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」は週に2～3回遅刻をしている子どもの割合が46.9%で最も高く、次いで遅刻はしない子どもの割合が39.4%となっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

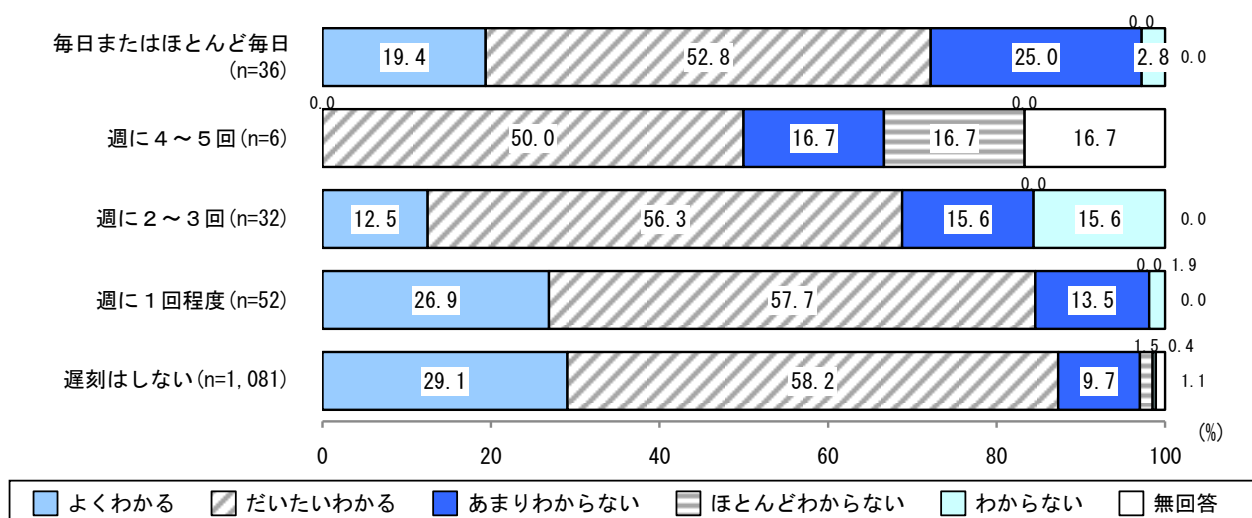
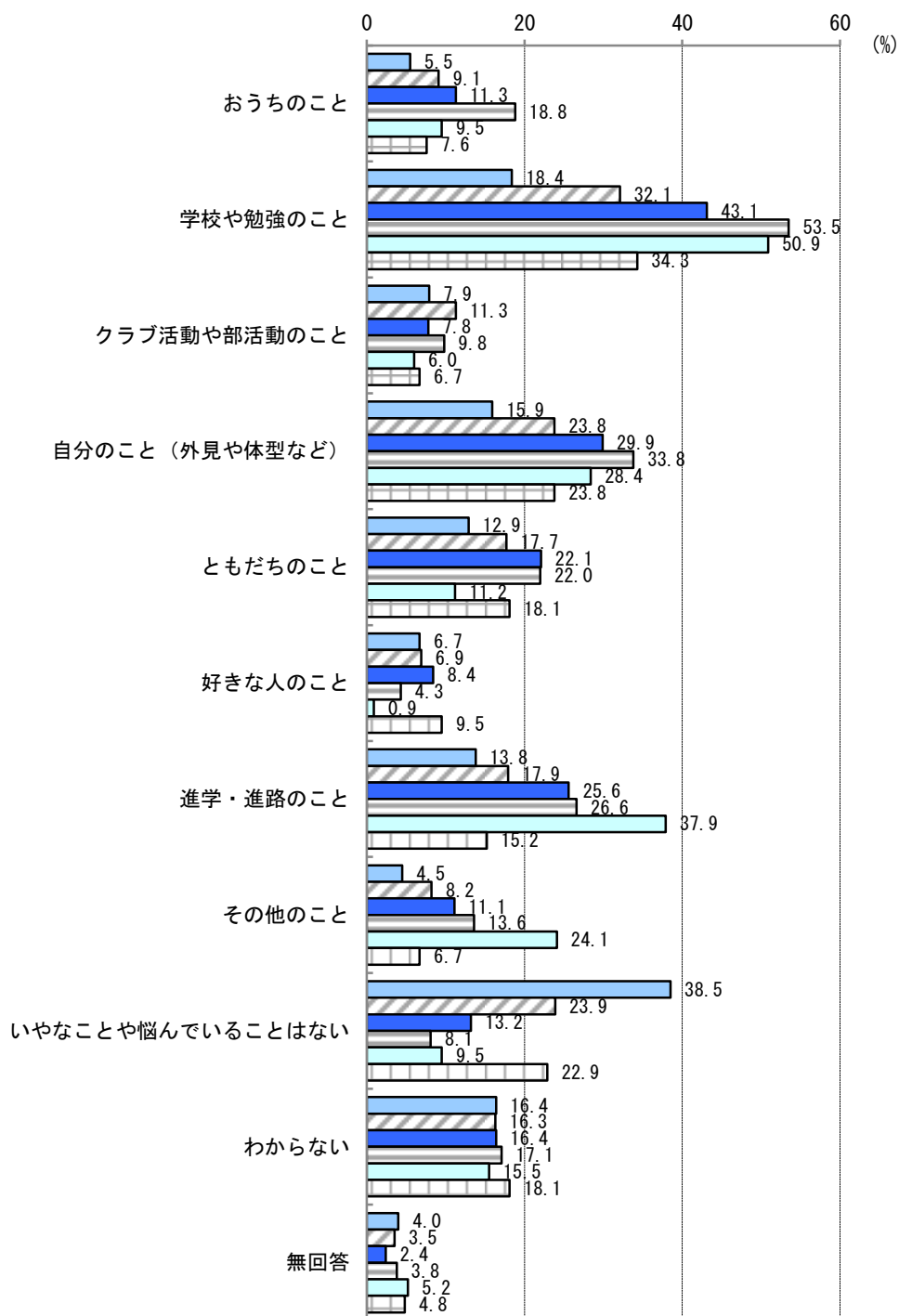


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが29.1%で最も高く、「だいたいわかる」も遅刻はしない子どもの割合が58.2%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661)
 ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
 ■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371)
 ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
 ■ 欠席が1年以上続いている (n=116)
 ■ わからない (n=105)

<八尾市>

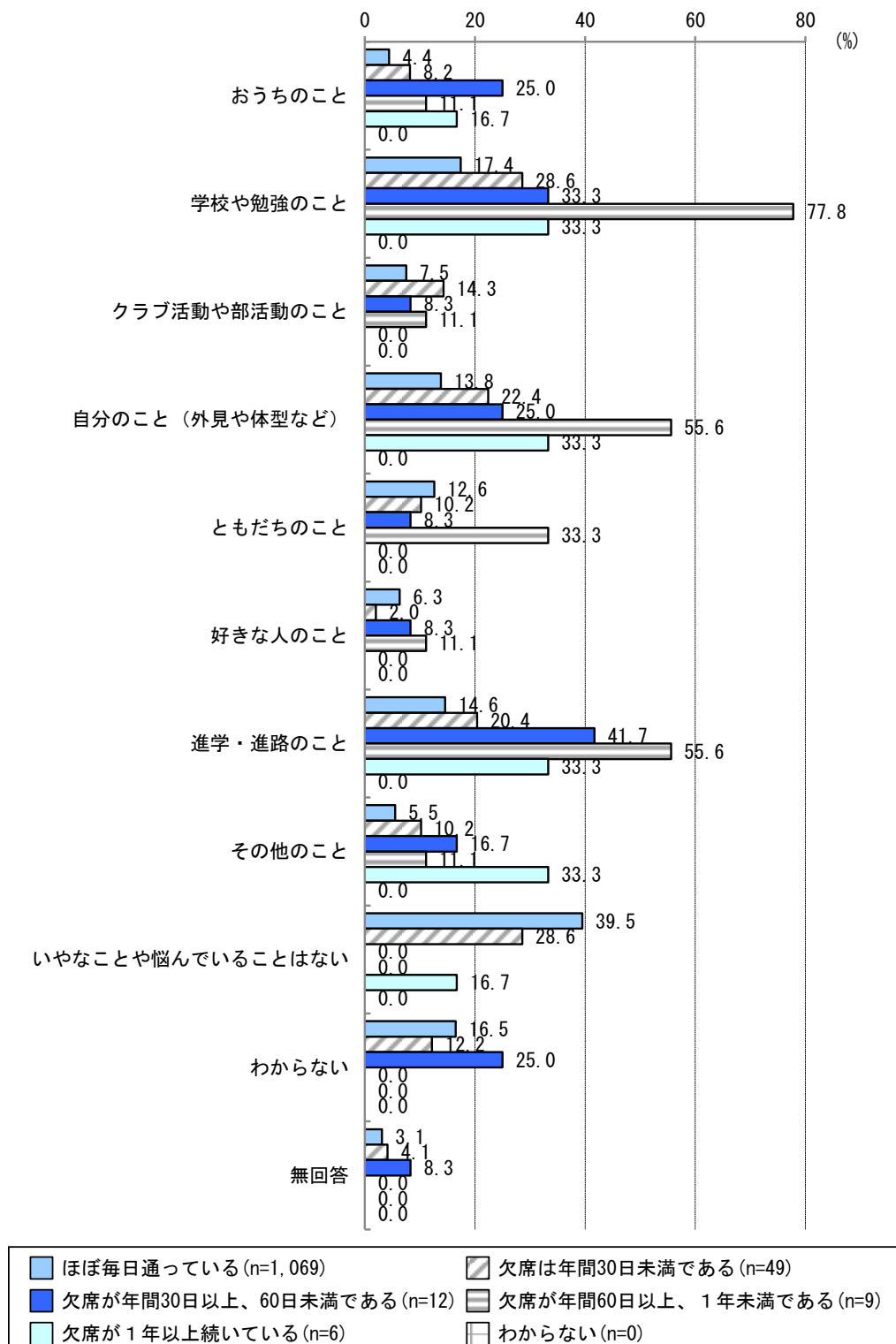
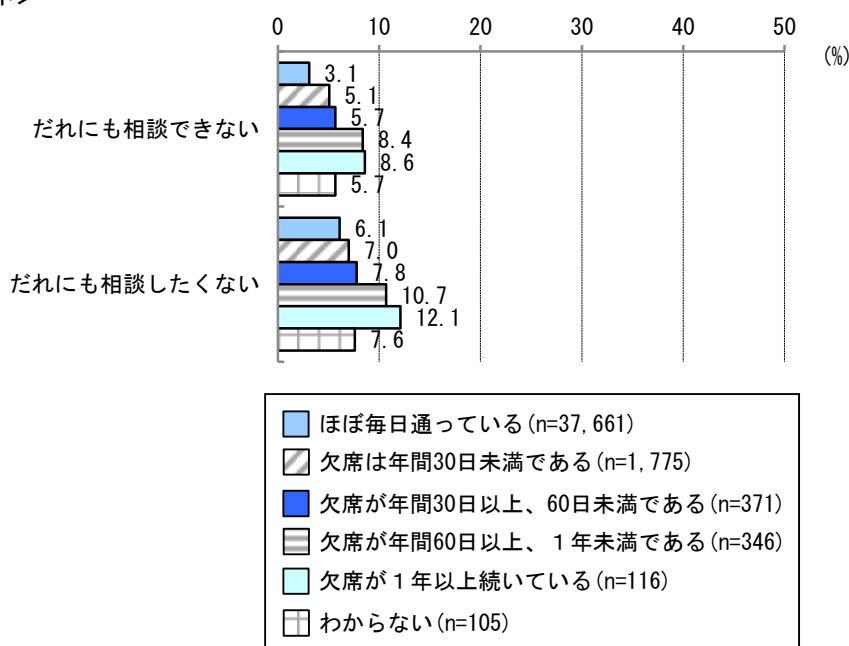


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「学校や勉強のこと」や「自分のこと (外見や体型など)」、「進学・進路のこと」は、概ね子どもの欠席が多くなるほど割合が高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
(保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<八尾市>

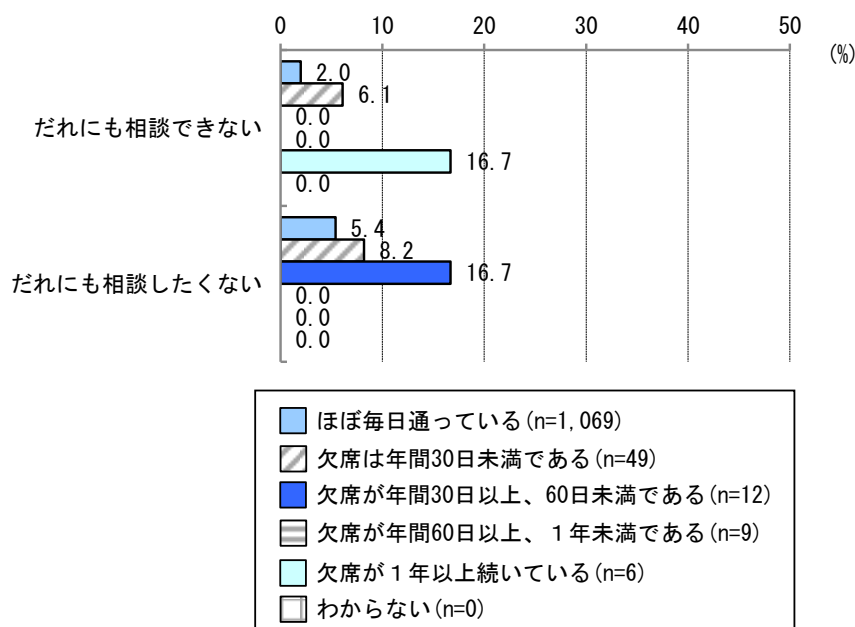
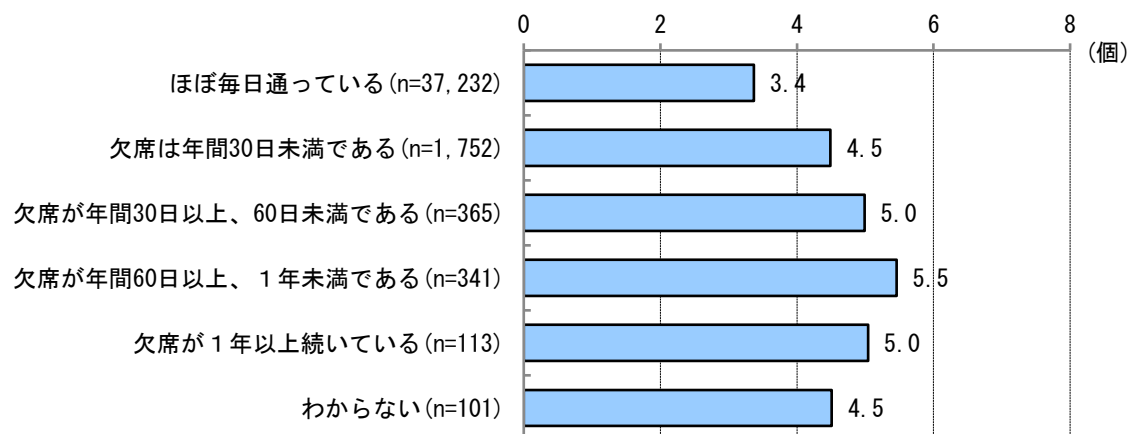


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談できない」と回答した人の割合は、欠席が1年以上続いている人（16.7%）が最も高く、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は、欠席が年間30日以上、60日未満の人（16.7%）が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<八尾市>

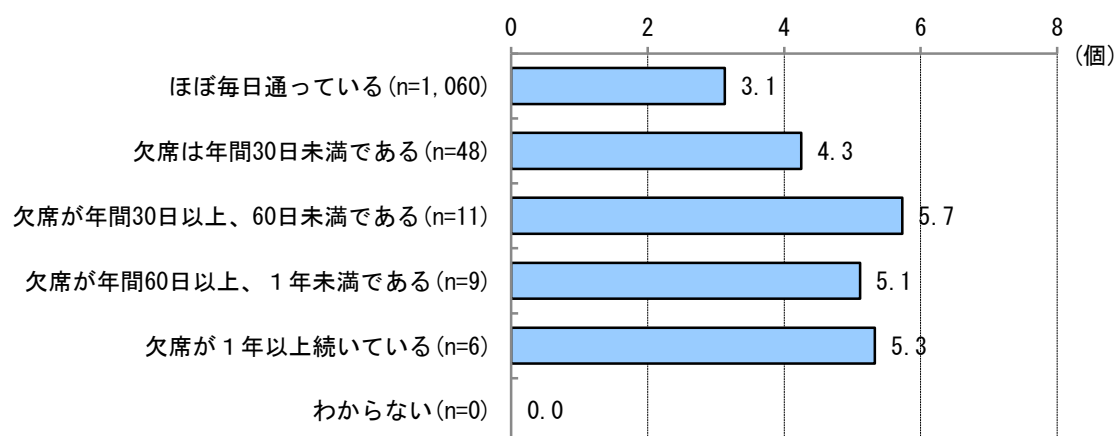
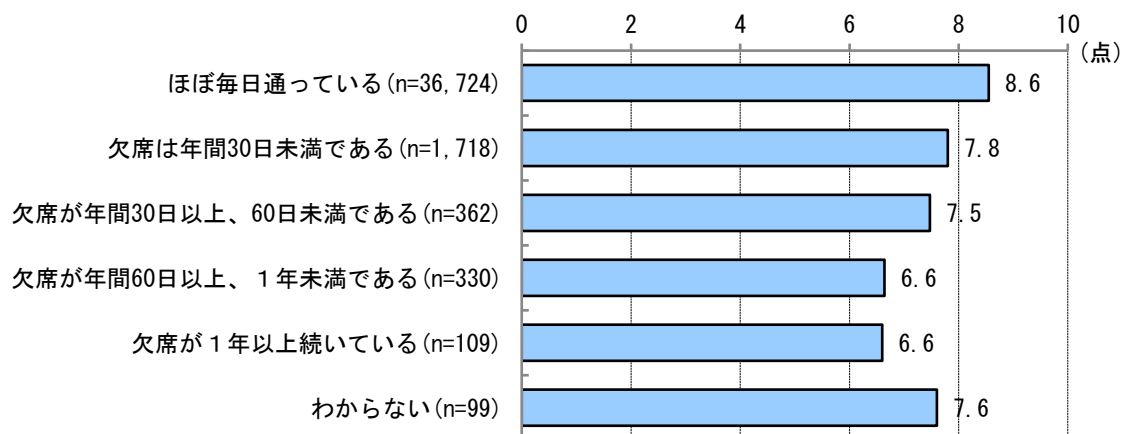


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、欠席が年間30日以上、60日未満であると回答した人が5.7個で最も多く、次いで欠席が1年以上続いている人が5.3個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<八尾市>

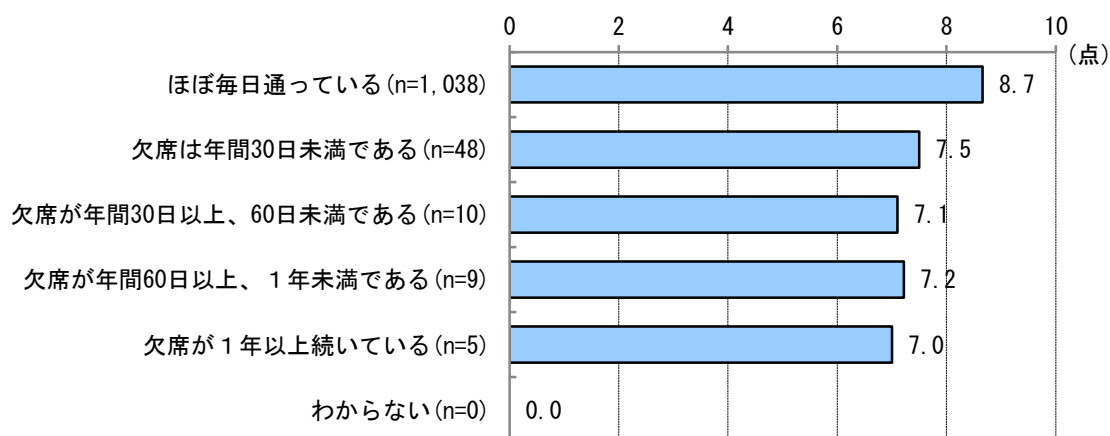
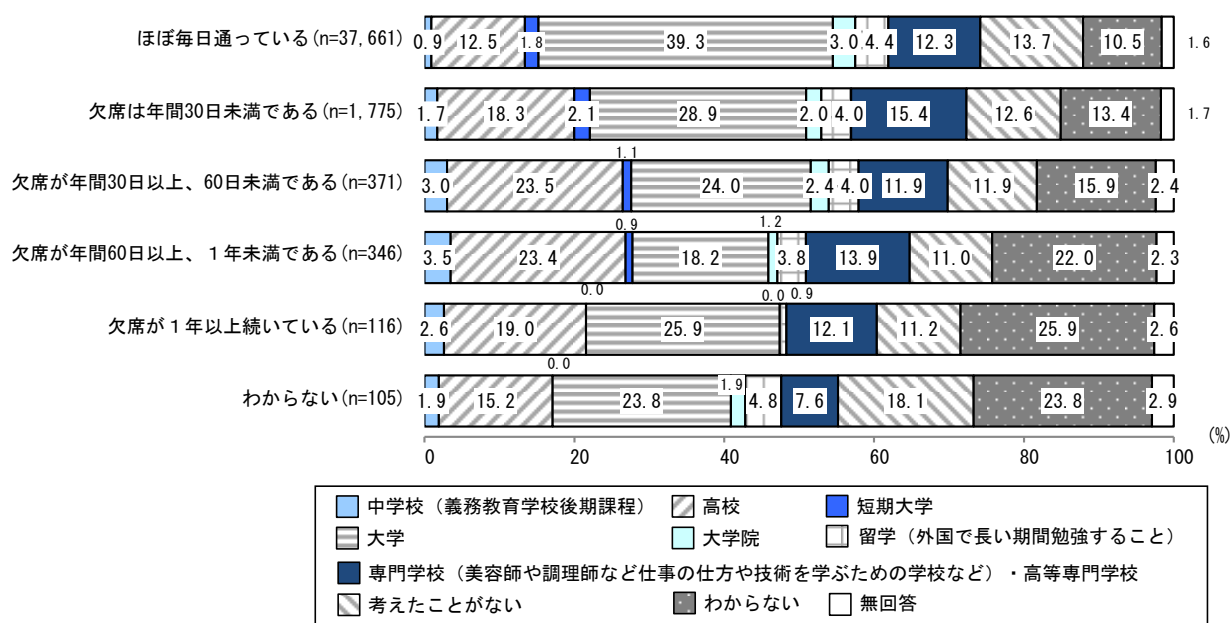


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の得点が8.7点であるのに対して、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人は7.2点、「欠席が1年以上続いている」と回答した人は7.0点と通学日数が少ない子どもほど、セルフ・エフィカシーが低い結果となった。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<八尾市>

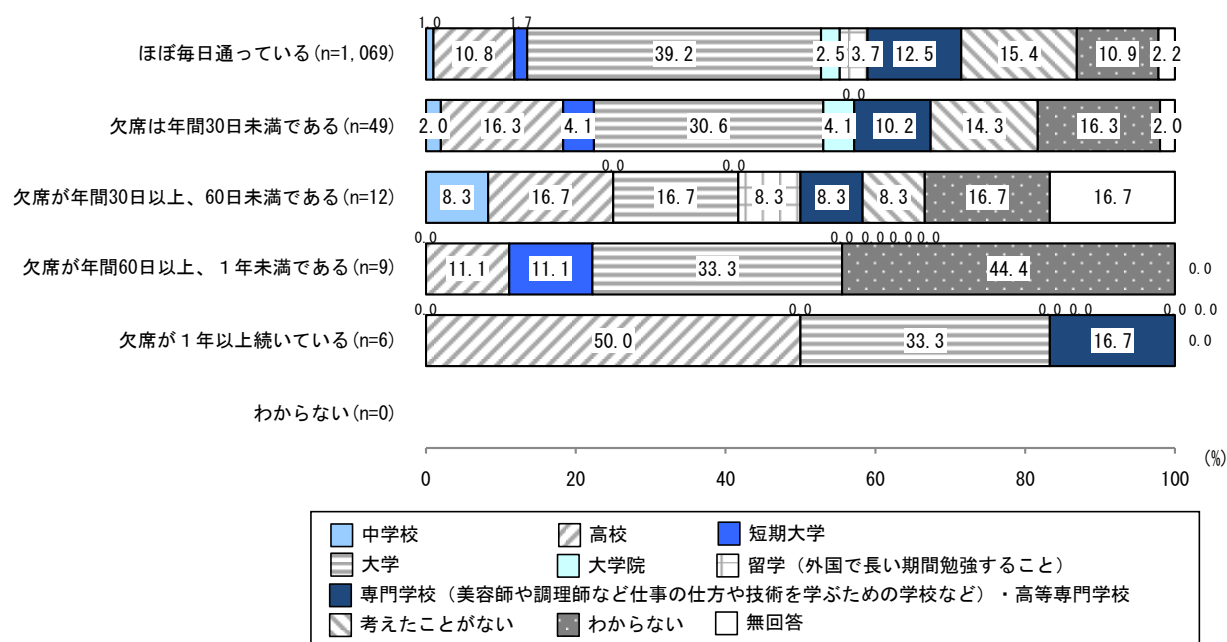
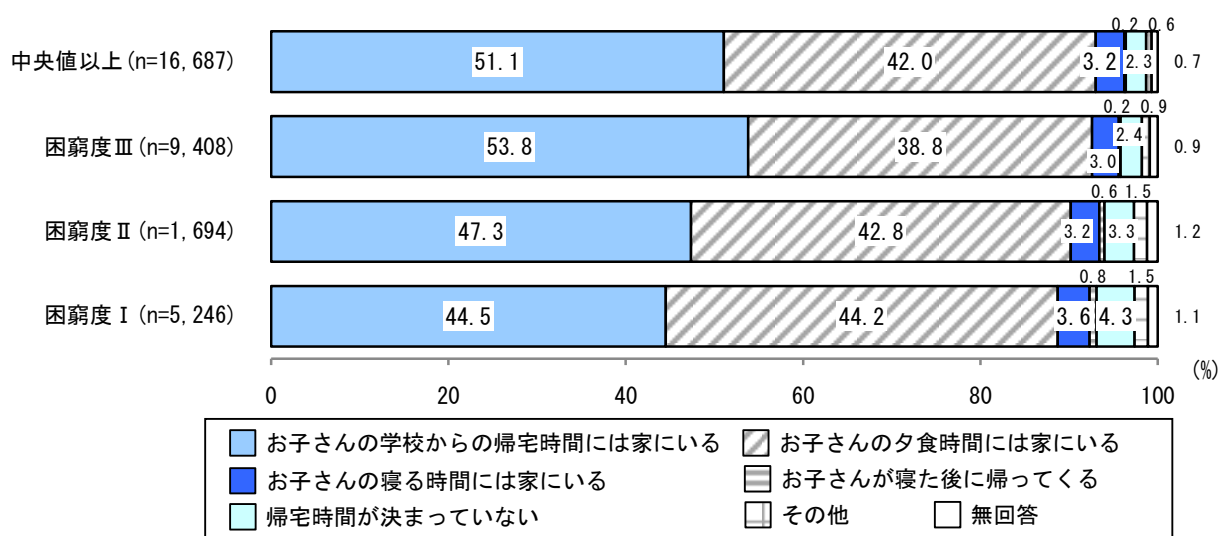


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」はほぼ毎日通っていると回答した人の割合が39.2%で最も高く、「中学校」は欠席が年間30日以上、60日未満と回答した人の割合が8.3%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<八尾市>

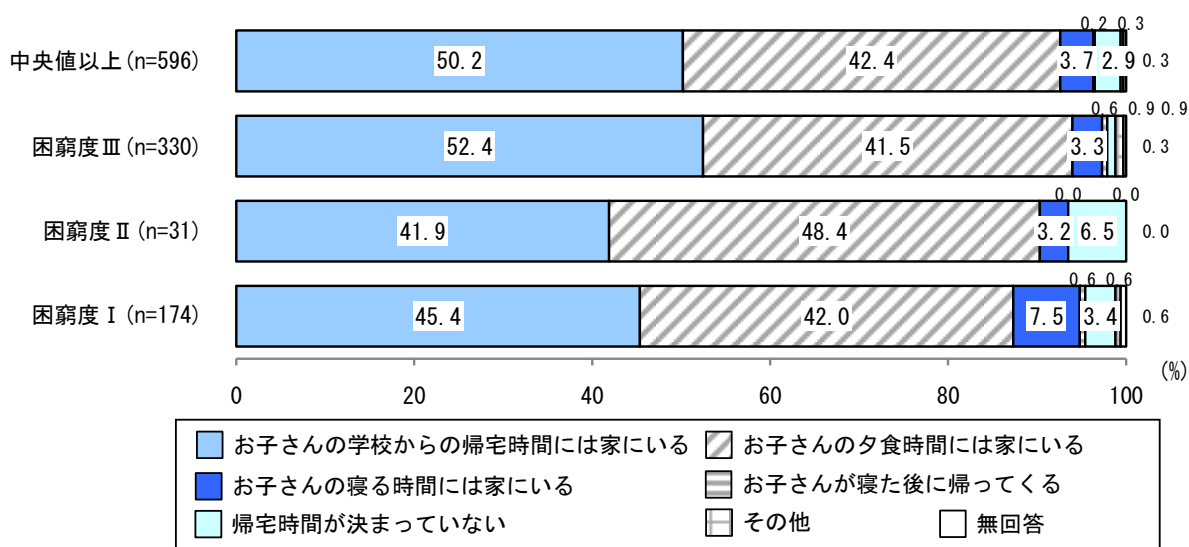
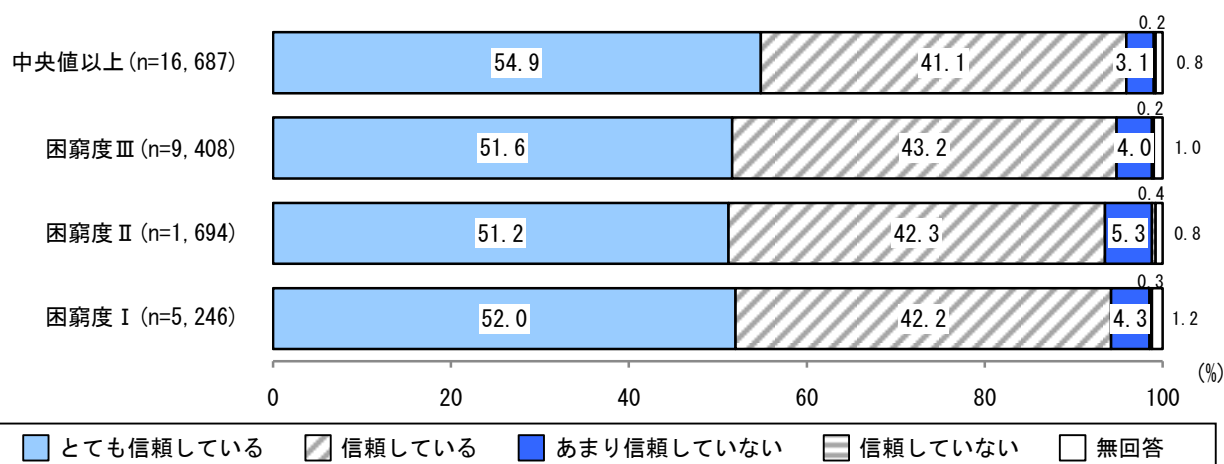


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が困窮度Ⅱ群で41.9%と最も低くなっている。また、「お子さんの寝る時には家にいる」と回答した割合が困窮度Ⅰ群で7.5%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

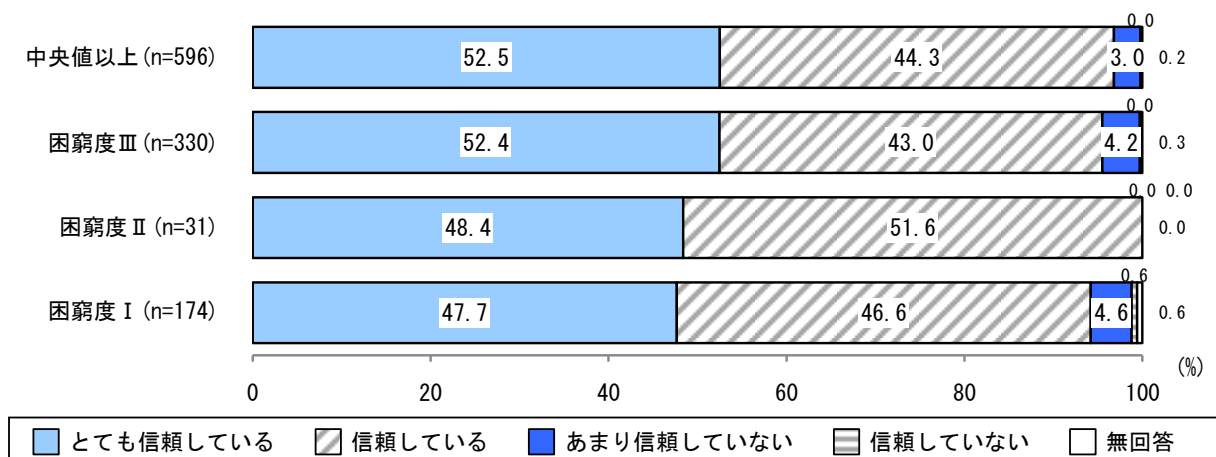
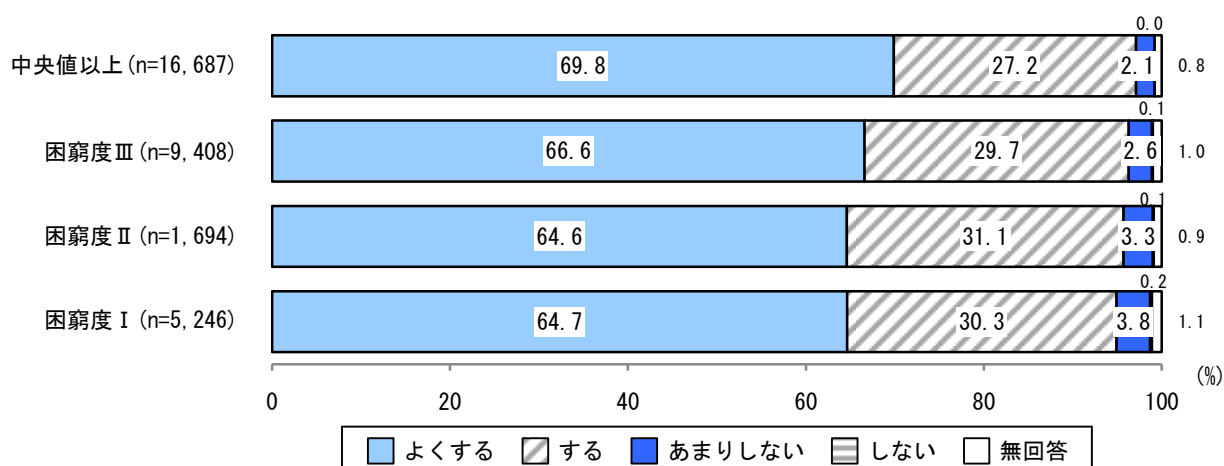


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「とても信頼している」と回答した割合が低くなり、困窮度Ⅰ群が47.7%で最も低い。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

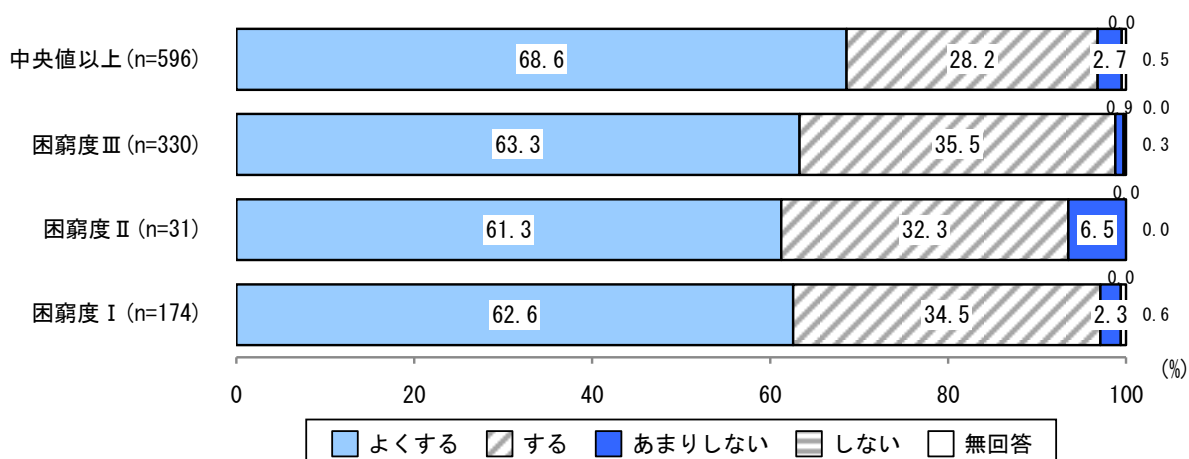
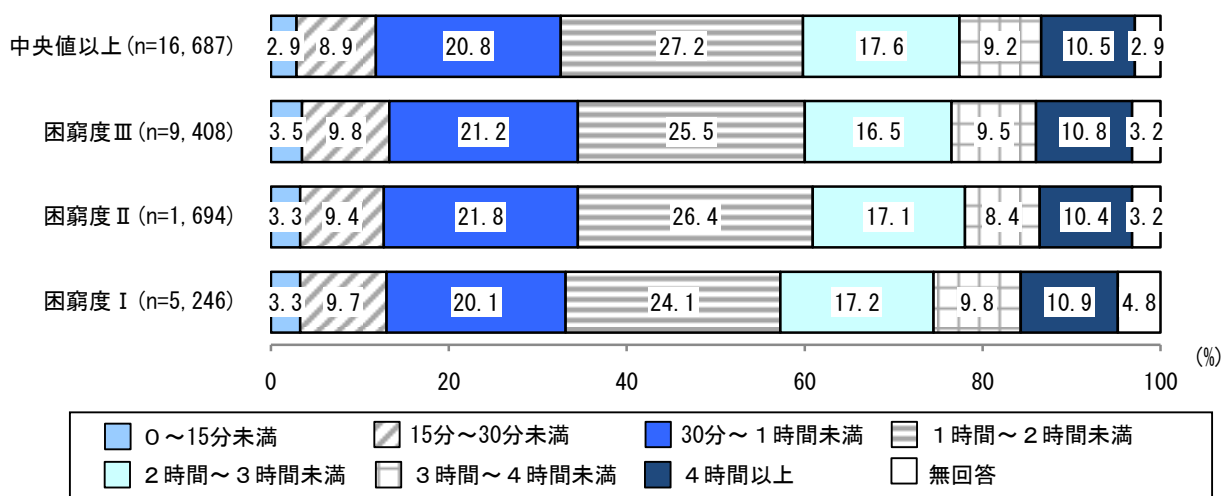


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、困窮度Ⅱ群では「よくする」と回答した割合が最も低く、61.3%である。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

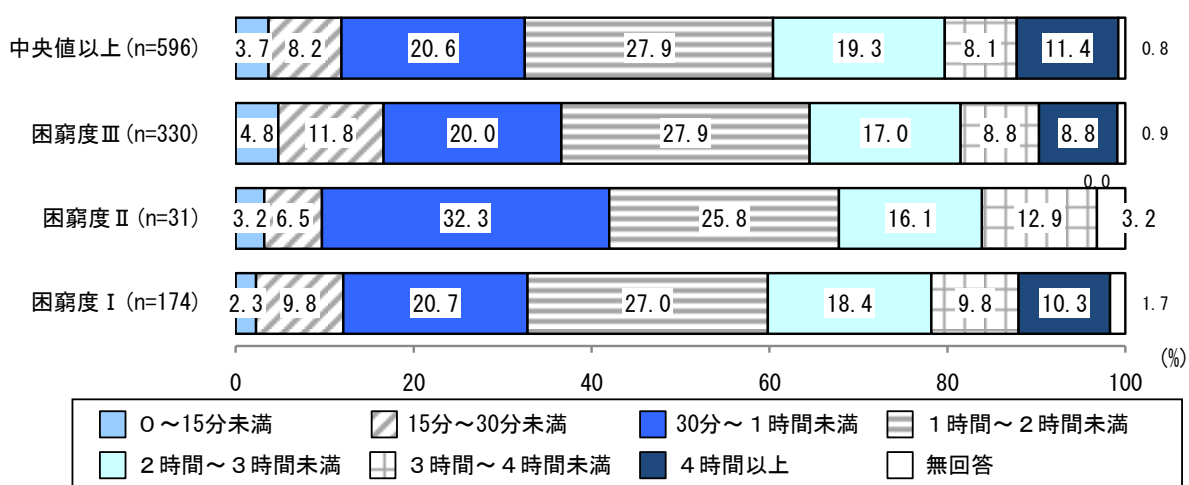
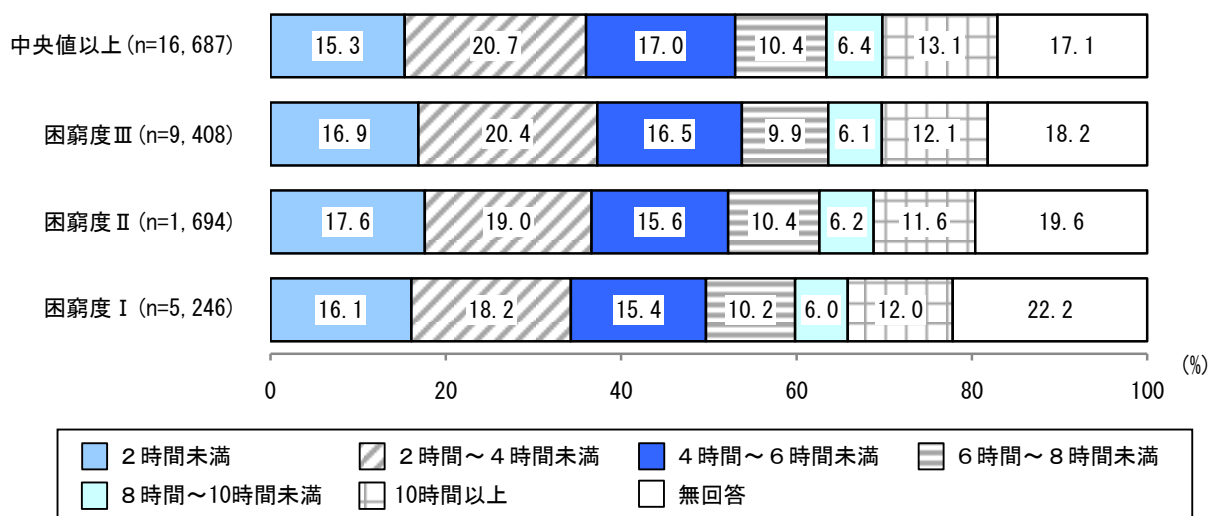


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合が中央値以上群で最も高く、11.4%である。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

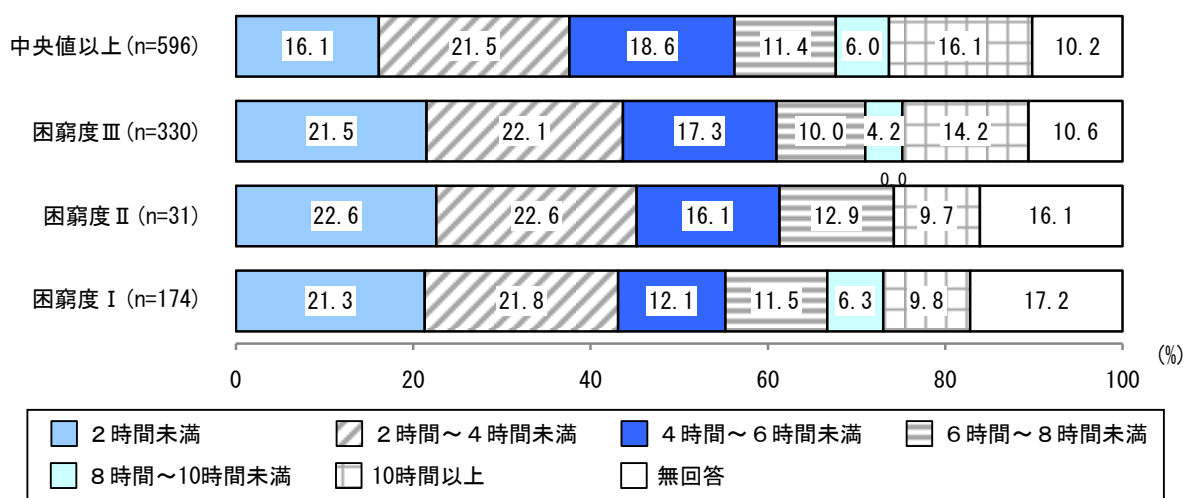
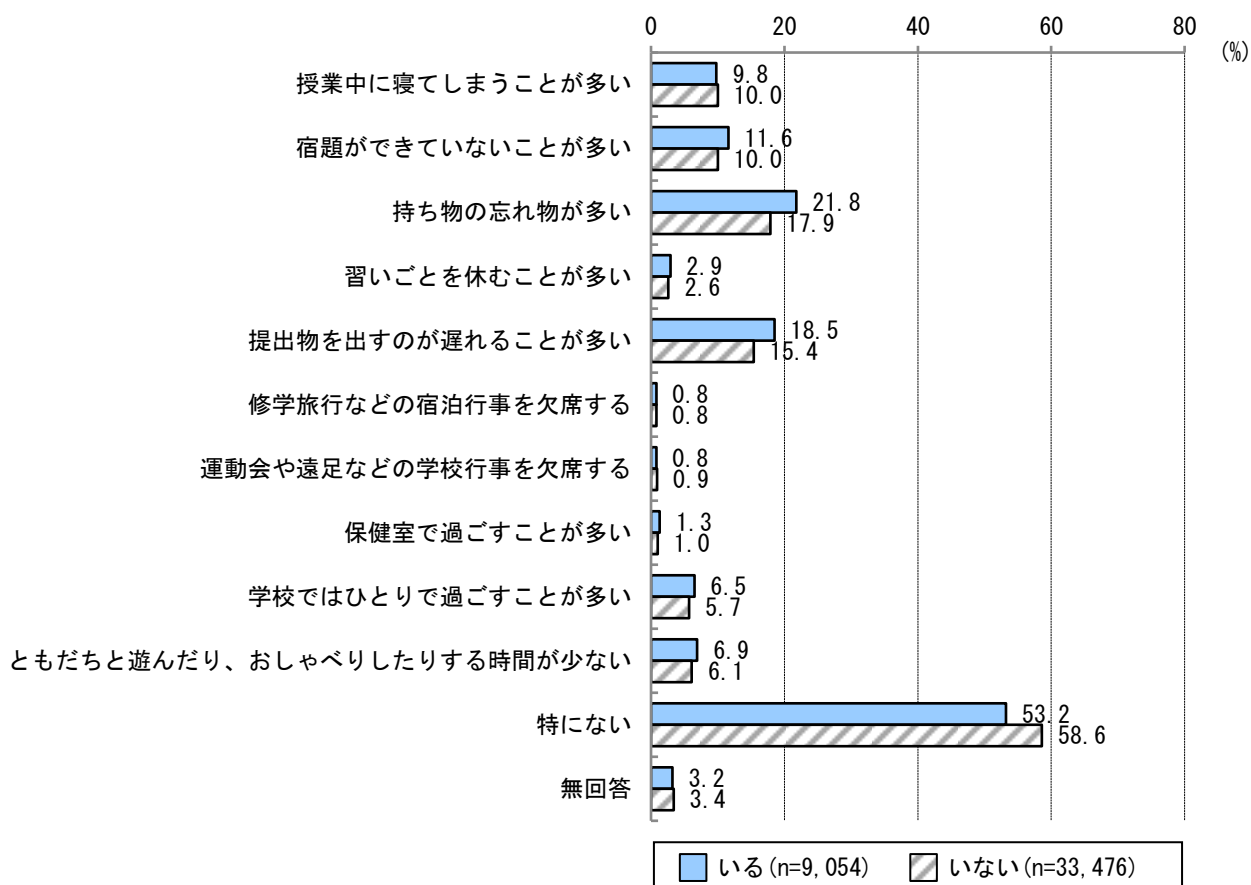


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2 時間未満」、「2～4 時間未満」と回答した割合が困窮度Ⅱ群でともに22.6%で最も高く、「4 時間～6 時間未満」（18.6%）、「10 時間以上」（16.1%）と回答した割合では中央値以上群が最も高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



<八尾市>

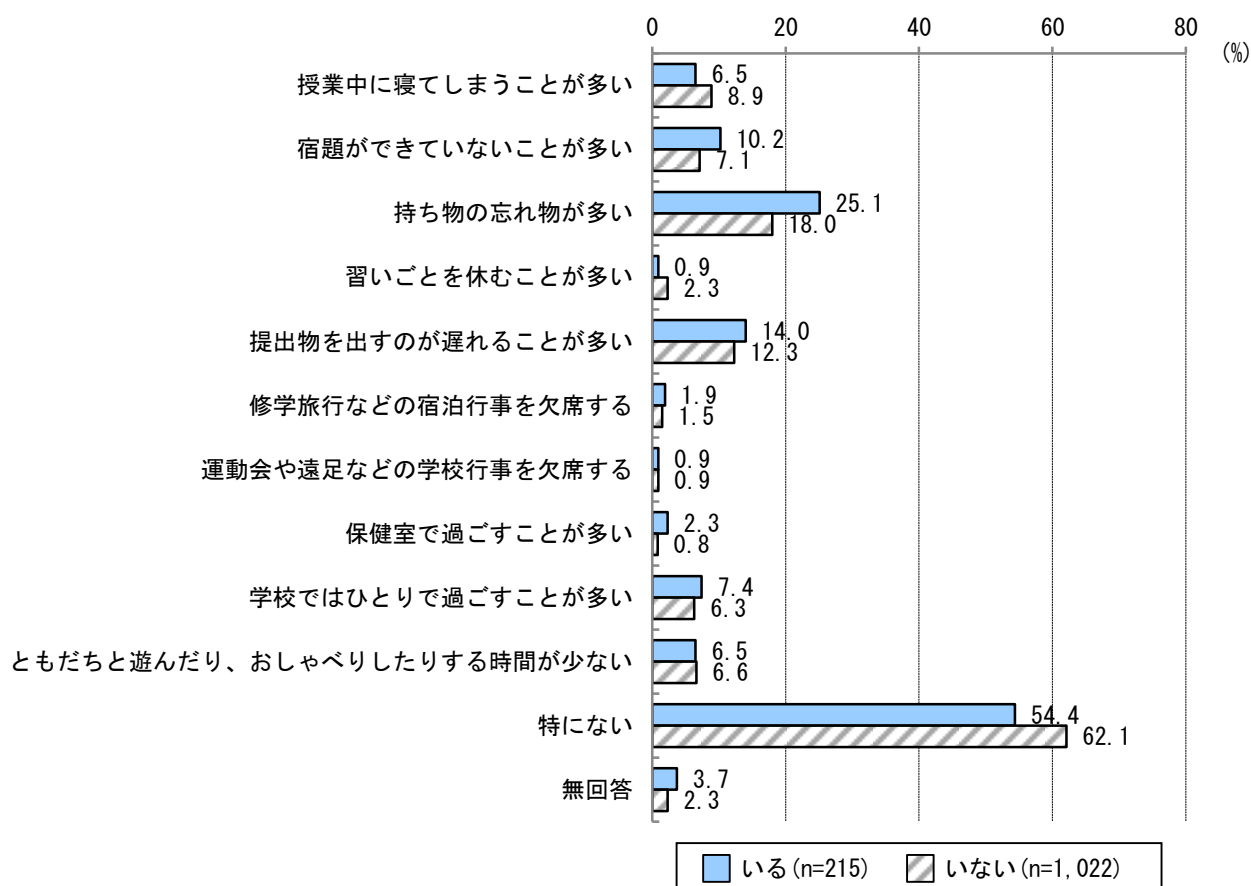
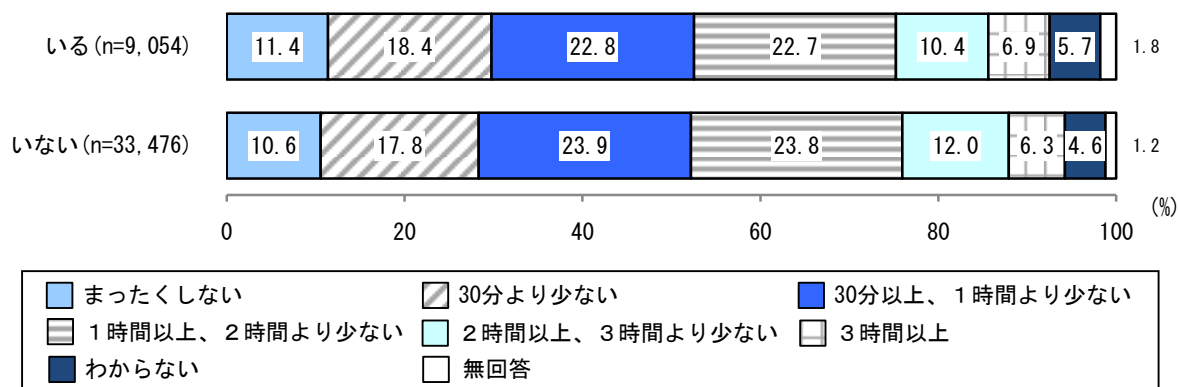


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「持ち物の忘れ物が多い」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<八尾市>

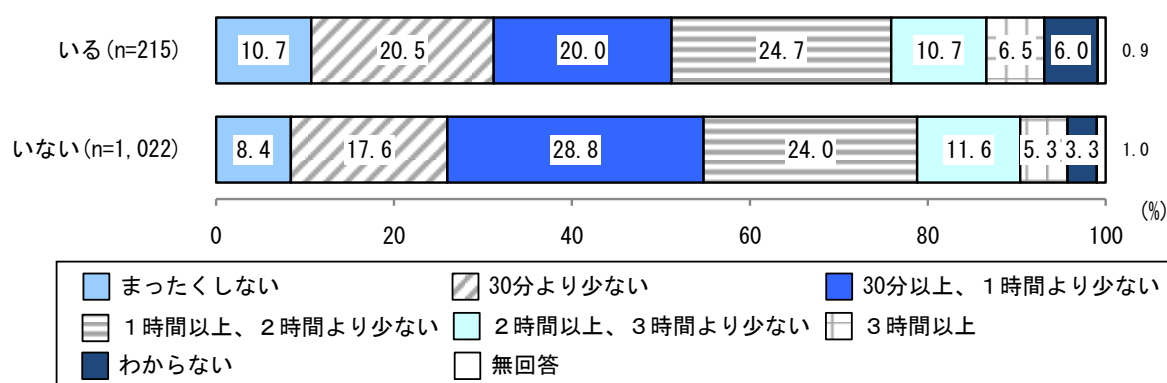
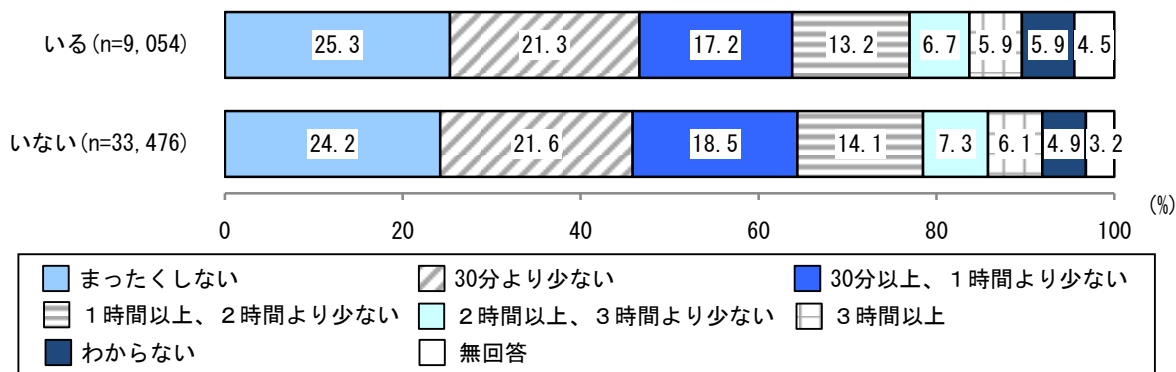


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

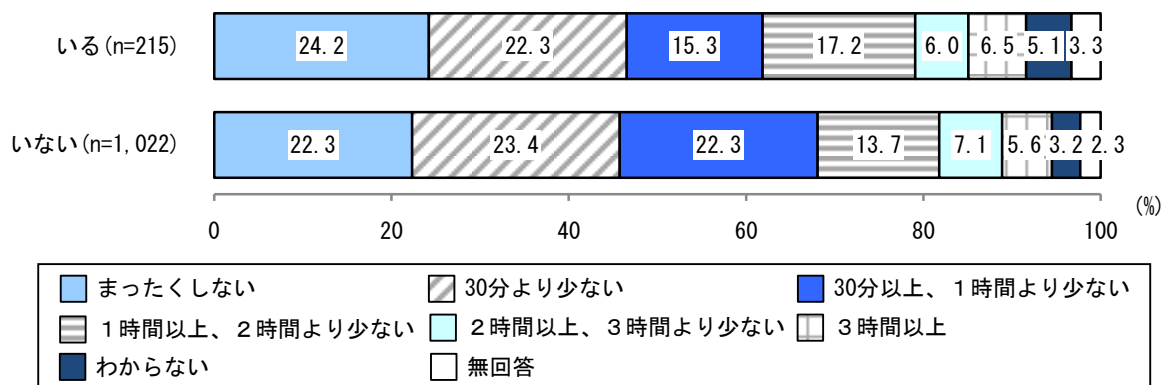


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが高くなっている。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、概ね大きな乖離はなく、最も差が大きいものは「ほとんど毎日」(47.0%対42.3%)で中央値以上群が困窮度Ⅰ群より4.7ポイント高く、次いで「週に2～3回」(12.8%対8.1%)で中央値以上群が困窮度Ⅰ群より4.7ポイント高くなっている。保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」(50.2%対45.4%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ4.8ポイント高くなっている。

保護者のこどもとの会話頻度を見ると、「する」か「しない」かの傾向では大きな乖離はないが、「よくする」(68.6%対62.6%)に注目すると中央値以上群が困窮度Ⅰ群より6ポイント高くなっている。平日での子どものかかわり時間ではほとんど違いはないが、休日での子どものかかわり時間を見ると、「2時間未満」(21.3%対16.1%)は困窮度Ⅰ群が中央値以上群と比べ5.2ポイント高くなっている。また、子どもとの関係を見ると、「とても信頼している」および「信頼している」が全体の9割以上を占めている。「とても信頼している」(52.5%対47.7%)は中央値以上群が困窮度Ⅰ群より高く、「信頼している」(44.3%対46.6%)では中央値以上群より困窮度Ⅰ群が高いものの、明確な傾向性はない。これらの結果から、経済状況が、保護者と子どもの関係に大きな影響を及ぼしているとは断言できないが、経済状況によって子どもと接する時間や頻度やや違いが見られた。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について確認する。学校への遅刻と、悩みの関係について、自分の体や気持ちで気になることの数では、遅刻頻度と個数に明確な傾向はないが、2～3個が遅刻頻度全てにおいて最も高くなっている。悩みごとを具体的に聞いたところ、「遅刻はしない」では、「いやなことや悩んでいることはない」が39.2%と最も多かったが、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する層では「学校や勉強のこと」で悩んでいるという回答が27.8%と最も高くなっている。その一方で、毎日遅刻する層でも25.0%が「いやなことや悩んでいることはない」と回答しており、この点からも、遅刻が特定の原因によって発生しているものではなく、習慣化している可能性が示唆された。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。学校のある日の勉強時間を見ると、「まったくしない」(19.5%対3.2%)では困窮度Ⅰ群が中央値以上群と比べ16.3ポイント以上高くなっている。こうした傾向は学校がない日の勉強時間でも同様で、「まったくしない」(34.2%対15.0%)は困窮度Ⅰ群が中央値以上群と比べ19.2ポイント高くなっている。また、学習理解度を見ると、「よくわかる」(34.9%対16.1%)は中央値以上群が困窮度Ⅰ群より18.8ポイント高く、「あまりわからない」「ほとんどわからない」「わからない」の合計(20.8%対9.3%)は困窮度Ⅰ群が中央値以上群と比べ11.5ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、経済状況に関係なく、子ども、保護者ともに「大学」「専門学校」「高校」の順に回答割合が多い。しかし、子どもの希望する進学先を見ると「大学」(43.6%対31.5%)では中央値以上群が困窮度Ⅰ群と比べ12.1ポイント高く、一方で「高校」(17.4%対9.3%)、「専門学校」(15.4%対10.5%)では困窮度Ⅰ群が中央値以上群と比べそれぞれ8.1ポイント、4.9ポイント高くなっている。保護者が子どもに希望する進学先を見ると、「大学」(70.8%対48.9%)では中央値以上群が困窮度Ⅰ群と比べ21.9ポイント高く、一方で「高校」(17.8%対4.9%)、「専門学校」(10.9%対7.9%)では困窮度Ⅰ群が中央値以上群と比べそれぞれ12.9ポイント、3ポイント高くなっている。これらの結果から、経済状況の悪化は、子どもの学習習慣や学習理解度に影響を及ぼすと同時に、保護者・子どもが抱く希望進路にもその影

を落とす結果になっていることが示唆される。

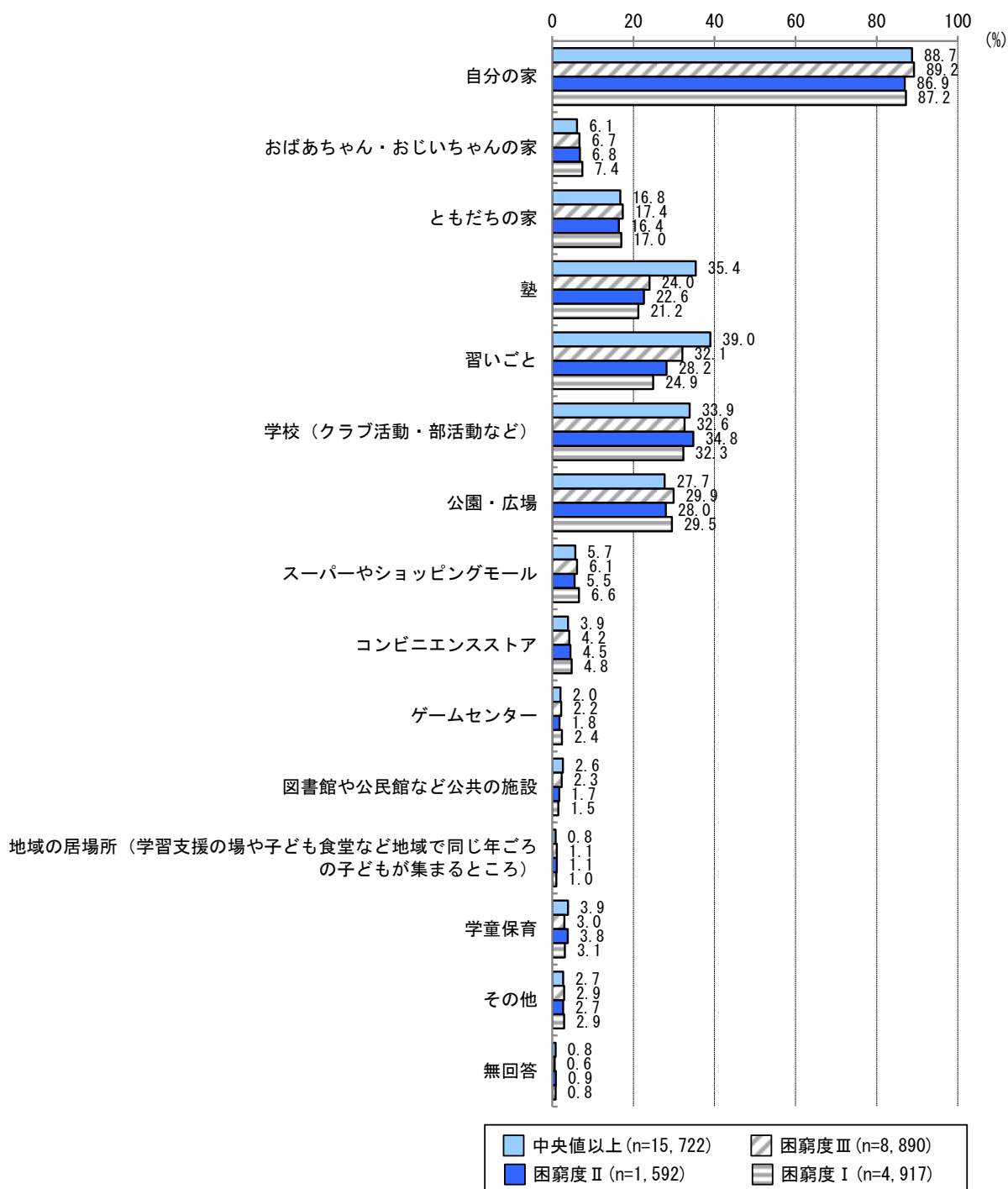
最後に、「自分が世話をしている人」の有無と子どもの学習状況との関連を確認する。学校の勉強に関して、「よくわかる」(33.0%対27.1%)では、「いる」の方が「いない」より5.9ポイント高いのに対して、「だいたいわかる」(58.9%対53.5%)では「いない」の方が「いる」より5.4ポイント高くなっている。また、「授業が分からなくなった時期」に関しては、特徴的に「小学1・2年生のころ」(14.8%対10.5%)、「小学3・4年生のころ」(33.3%対19.5%)という低学年で「いる」が「いない」より授業が分からなくなる割合が高い。「自分が世話をしている人」の有無は、「学校や学校の行事等の状況」にも関連しており、「持ち物の忘れ物が多い」(25.1%対18.0%)では「いる」が「いない」より7.1ポイント高くなっており、自分のことが疎かになる傾向が見られている。

※参照データについては一部資料編に掲載

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問 11）

<大阪府内全体>



<八尾市>

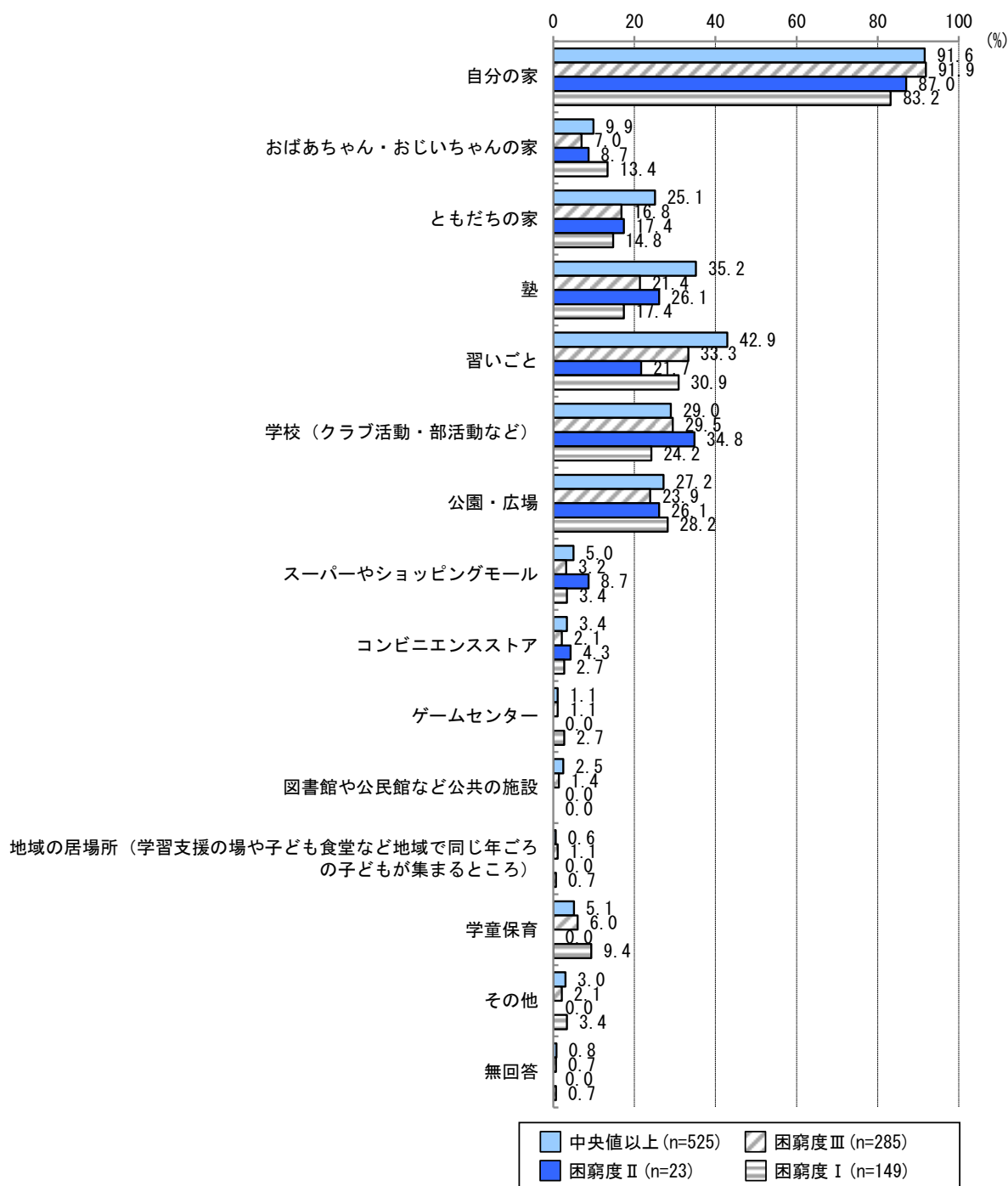
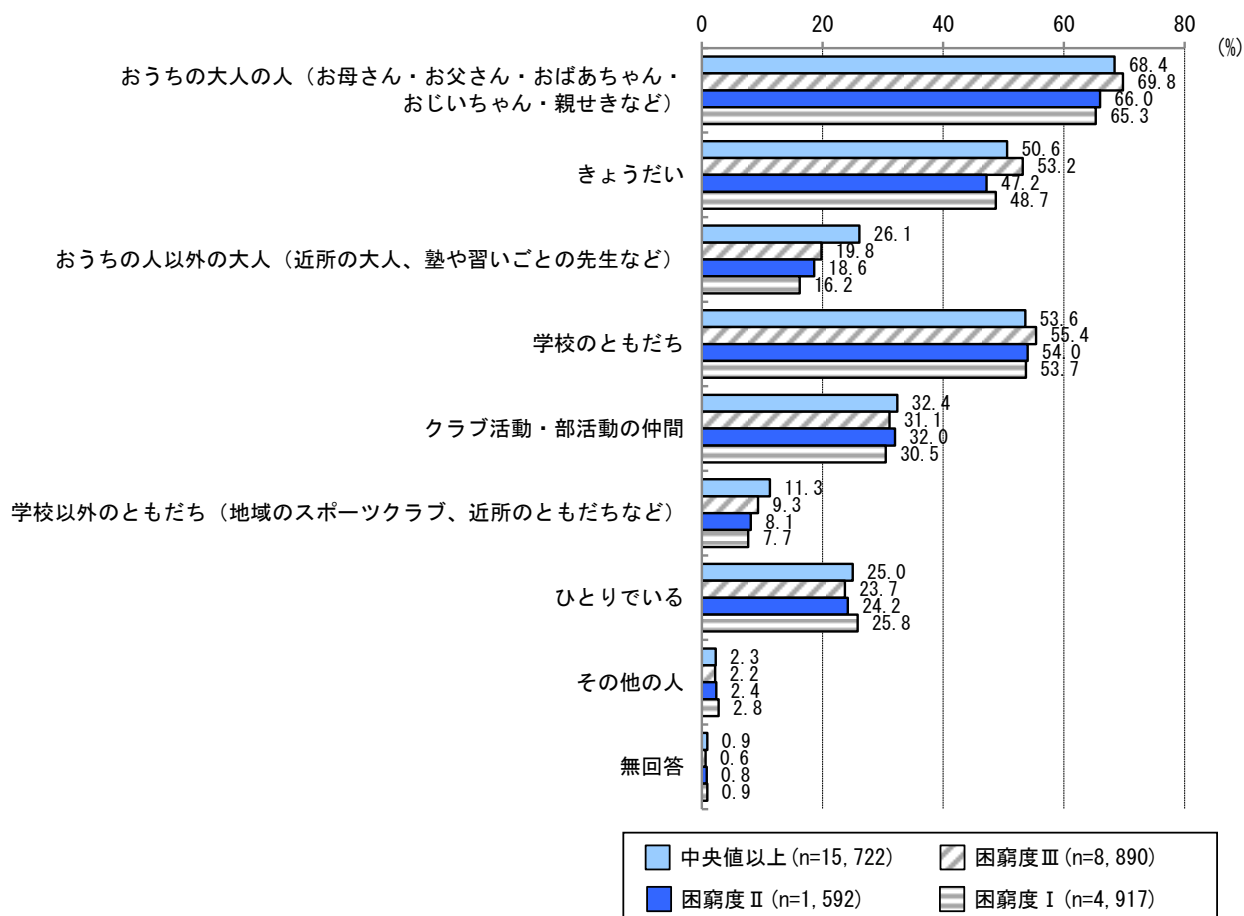


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ゲームセンター」2.7%（中央値以上群に対して2.5倍）、「学童保育」9.4%（同様に1.8倍）、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」13.4%（同様に1.4倍）となっている。一方、中央値以上群では、「塾」35.2%（困窮度Ⅰ群に対して2.0倍）、「ともだちの家」25.1%（同様に1.7倍）、「スーパーやショッピングモール」5.0%（同様に1.5倍）などが高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問10）

<大阪府内全体>



<八尾市>

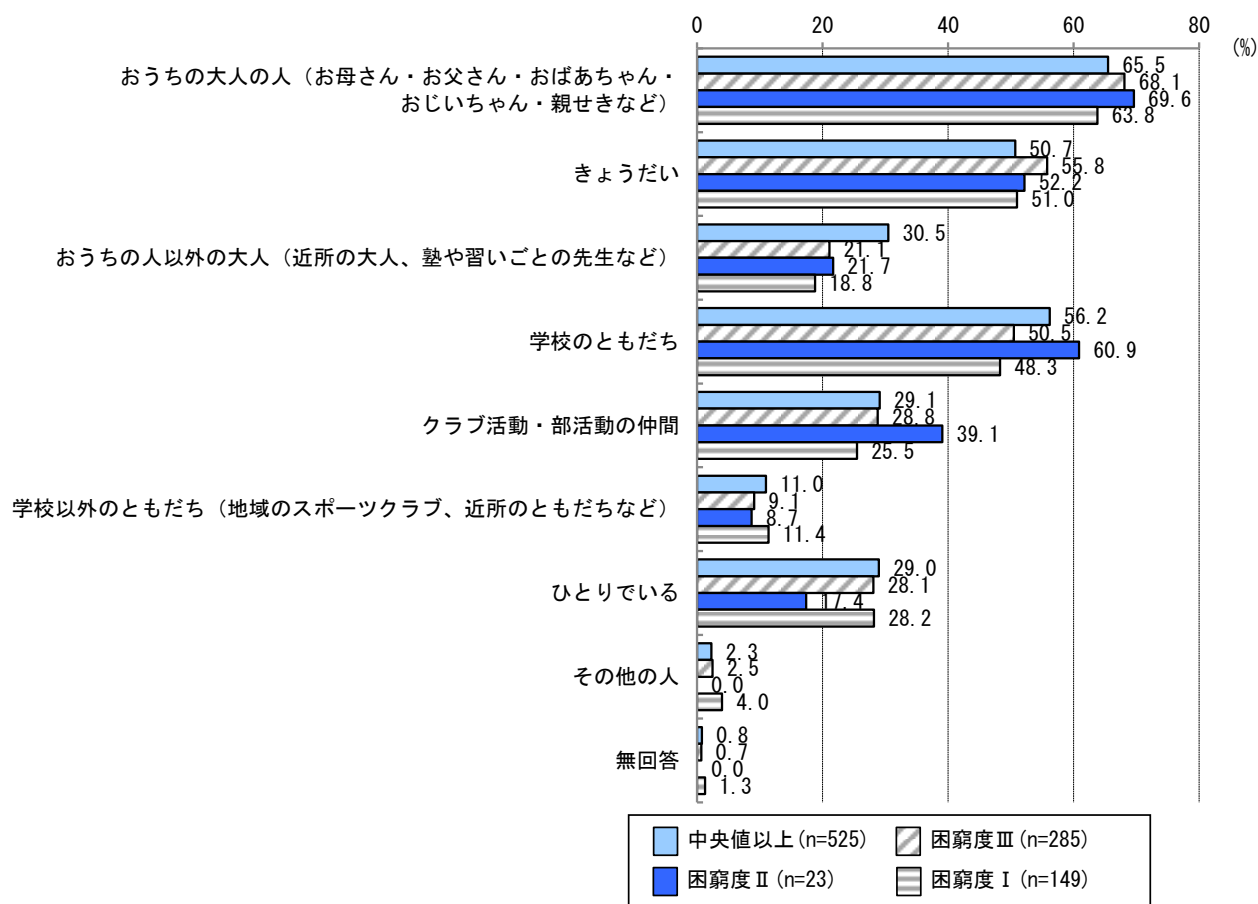
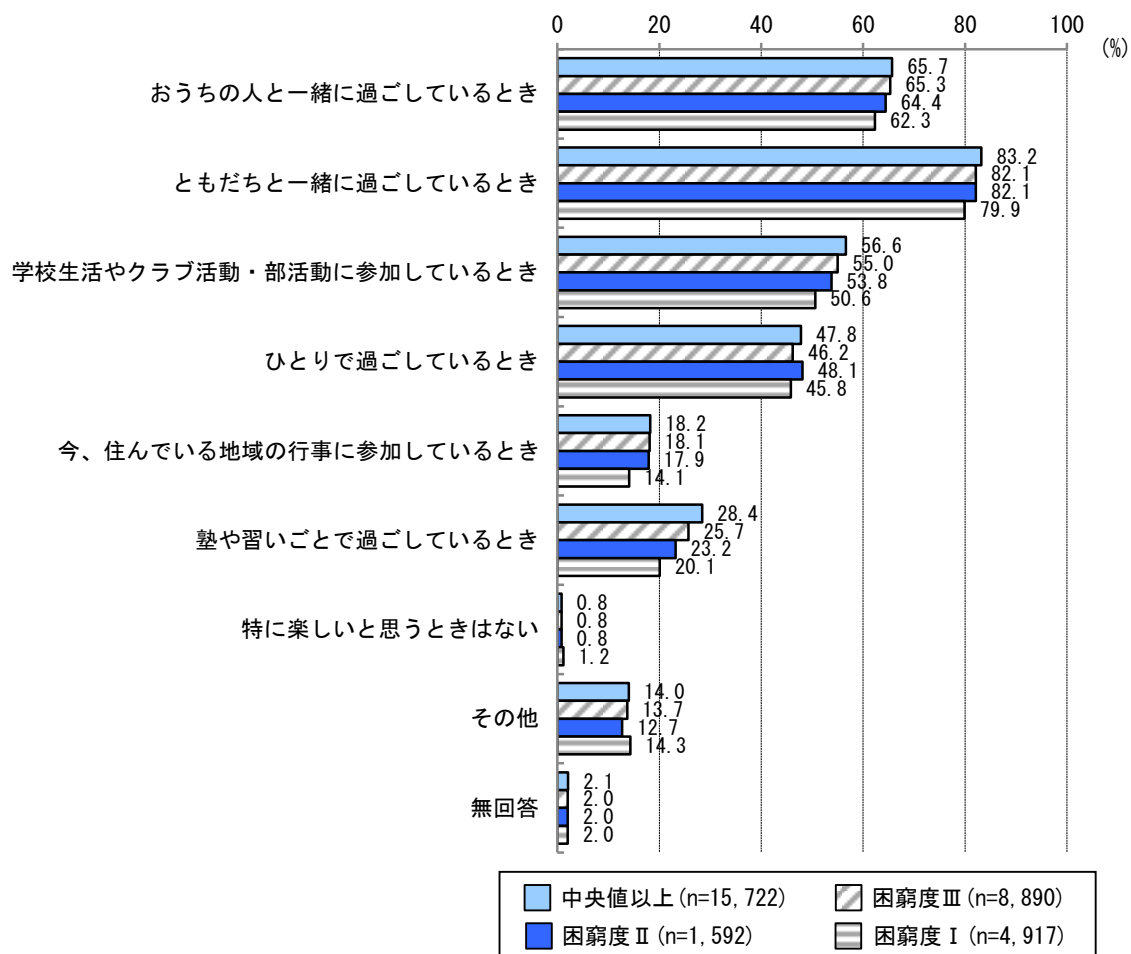


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「おうちの人以外の大人」30.5%（困窮度Ⅰ群に対して1.6倍）、「学校のともだち」56.2%（同じく1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<八尾市>

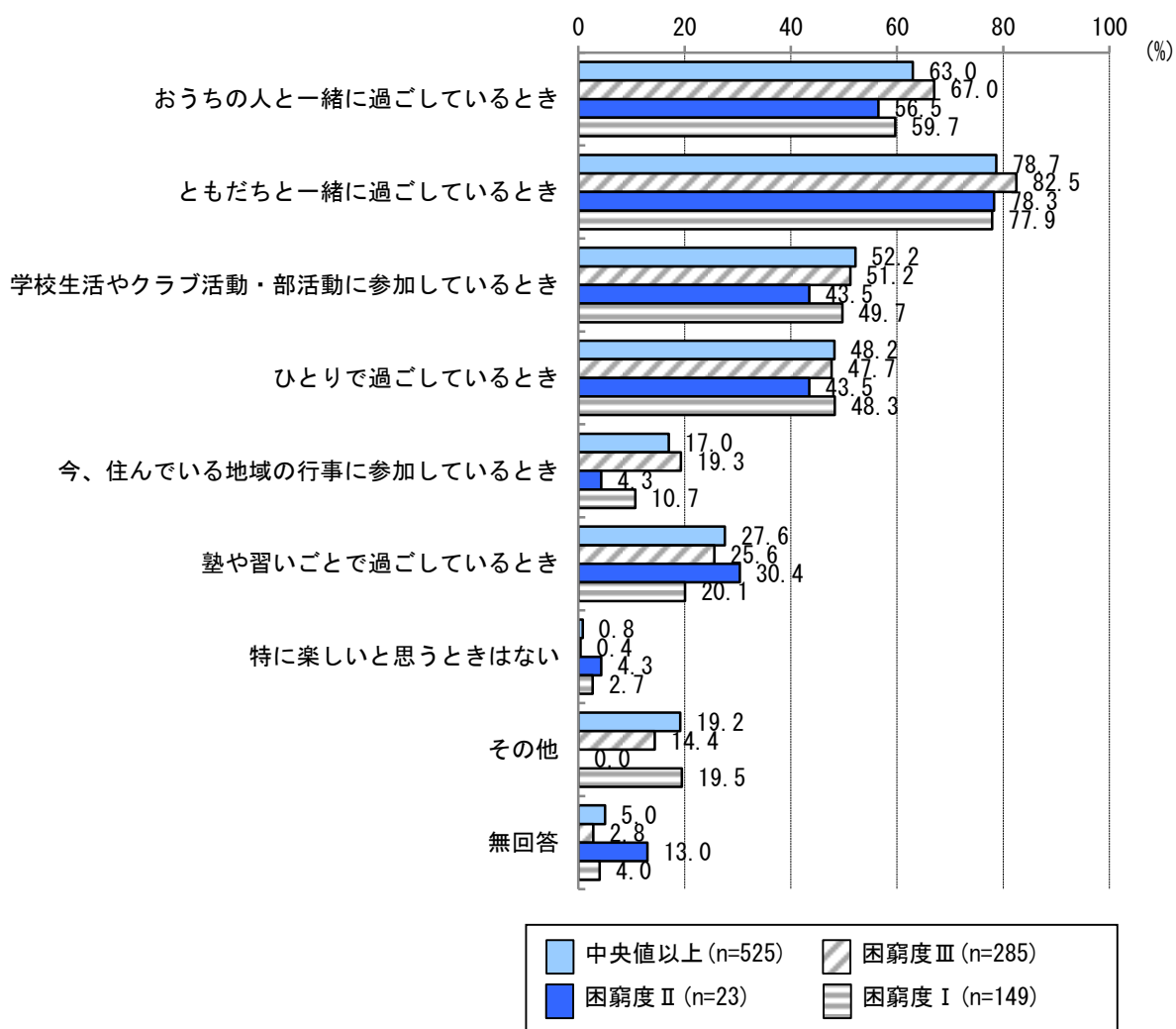
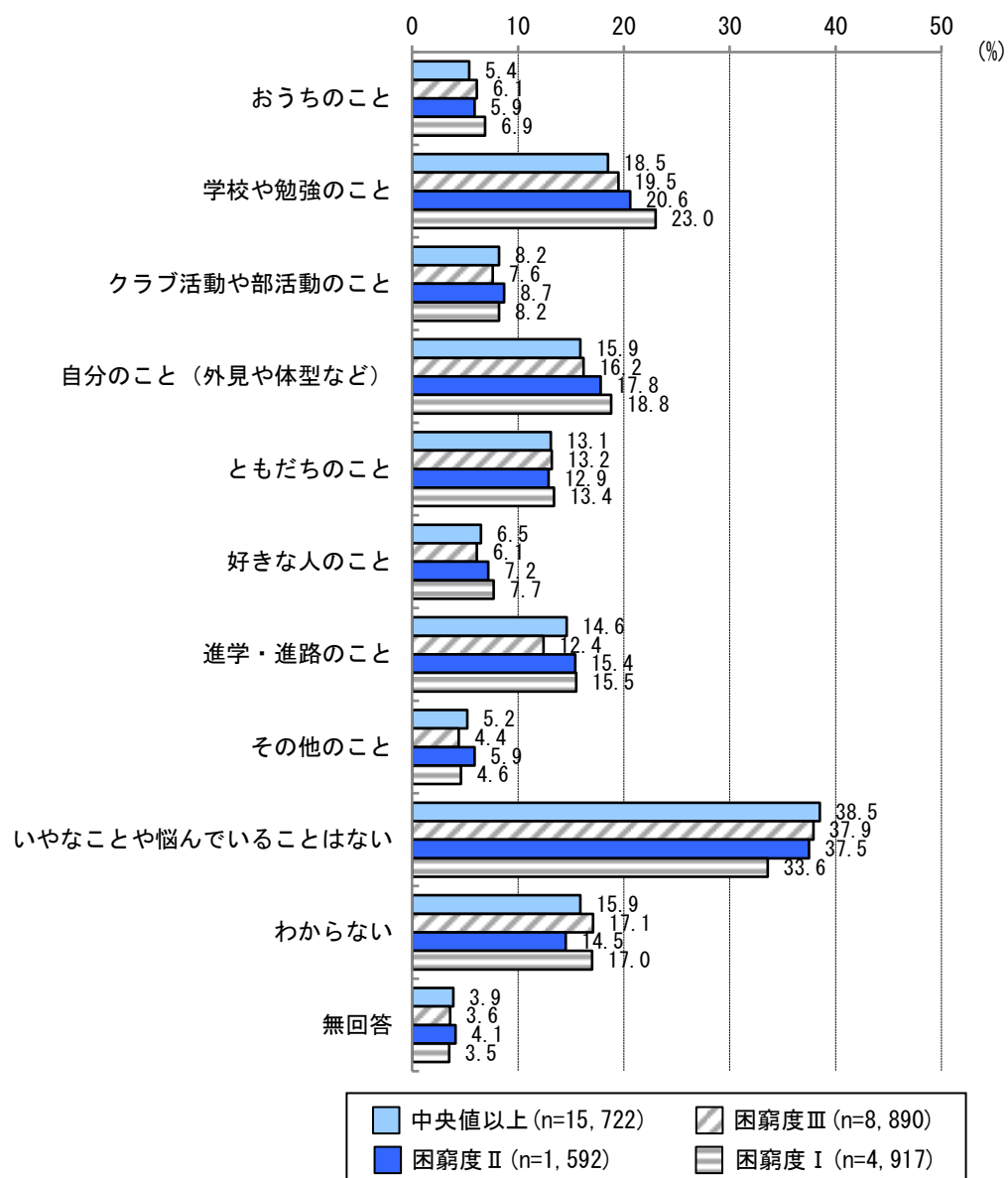


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」17.0%（困窮度Ⅰ群に対して1.6倍）、「塾や習いごとで過ごしているとき」27.6%（同じく1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



<八尾市>

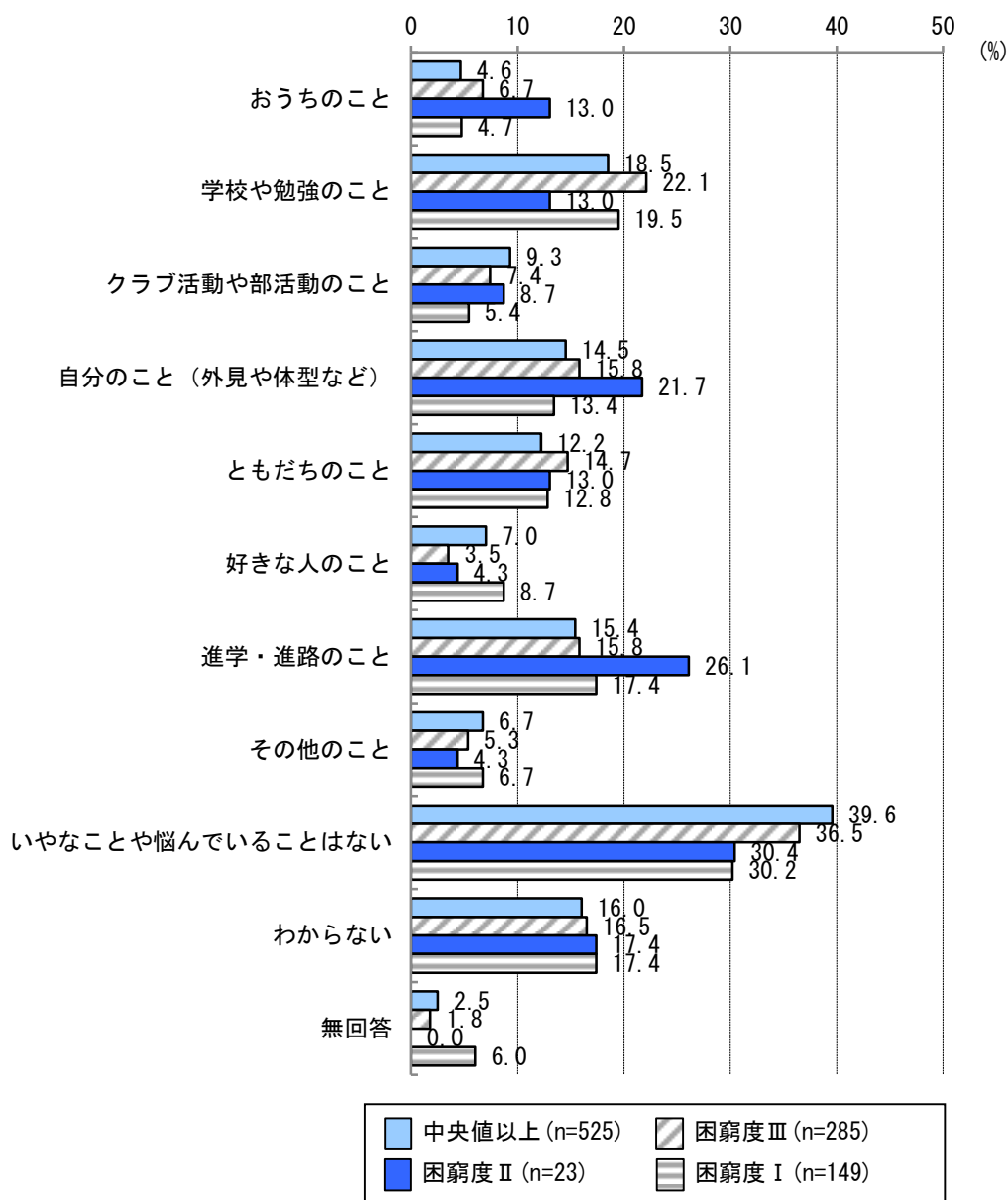
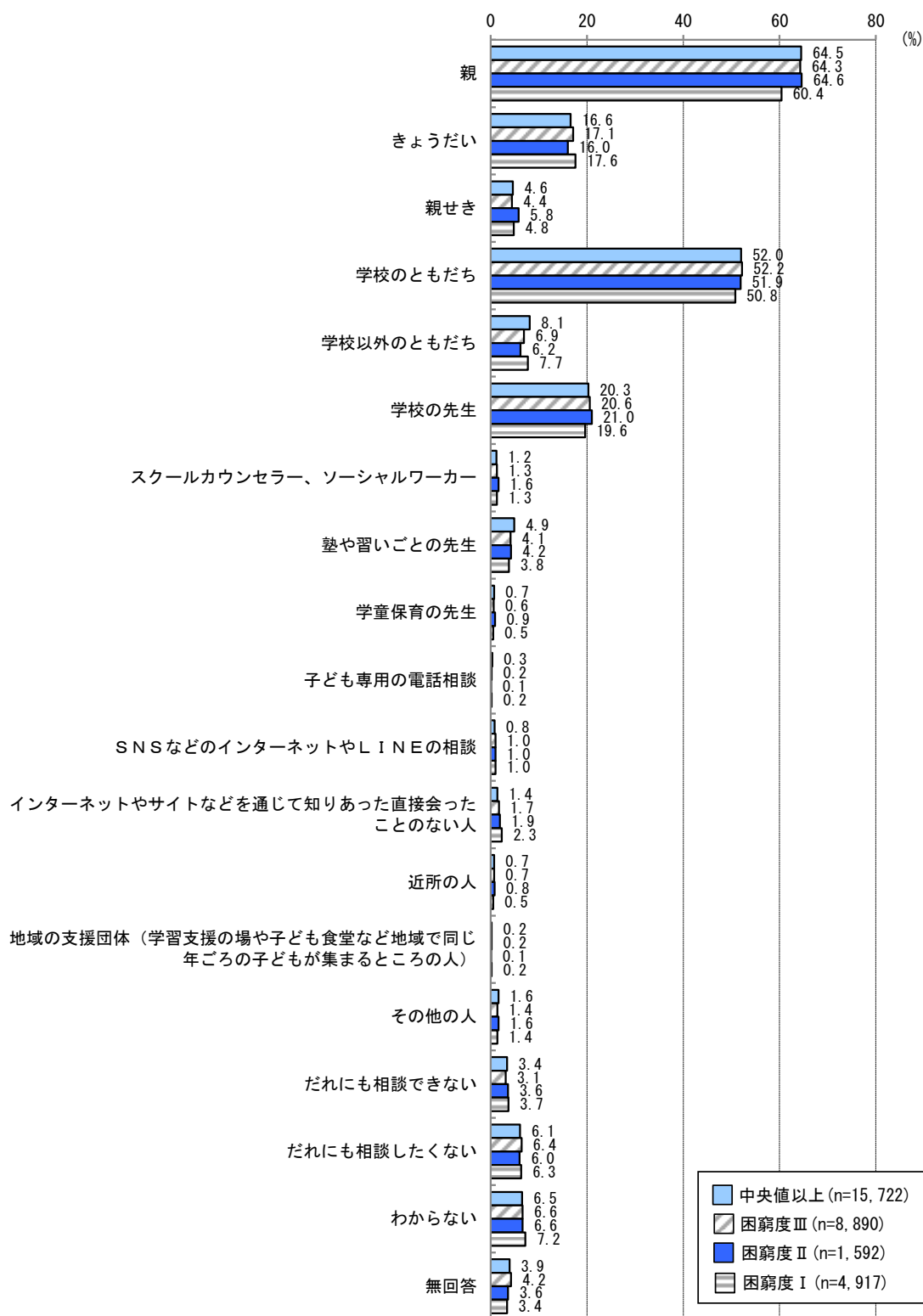


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「好きな人のこと」8.7%（中央値以上群に対して1.2倍）、「学校や勉強のこと」19.5%（同じく1.1倍）、「進学・進路のこと」17.4%（同じく1.1倍）が高く、中央値以上群では「クラブ活動や部活動のこと」9.3%（困窮度Ⅰ群に対して1.7倍）、「いやなことや悩んでいることはない」39.6%（同じく1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問18）

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

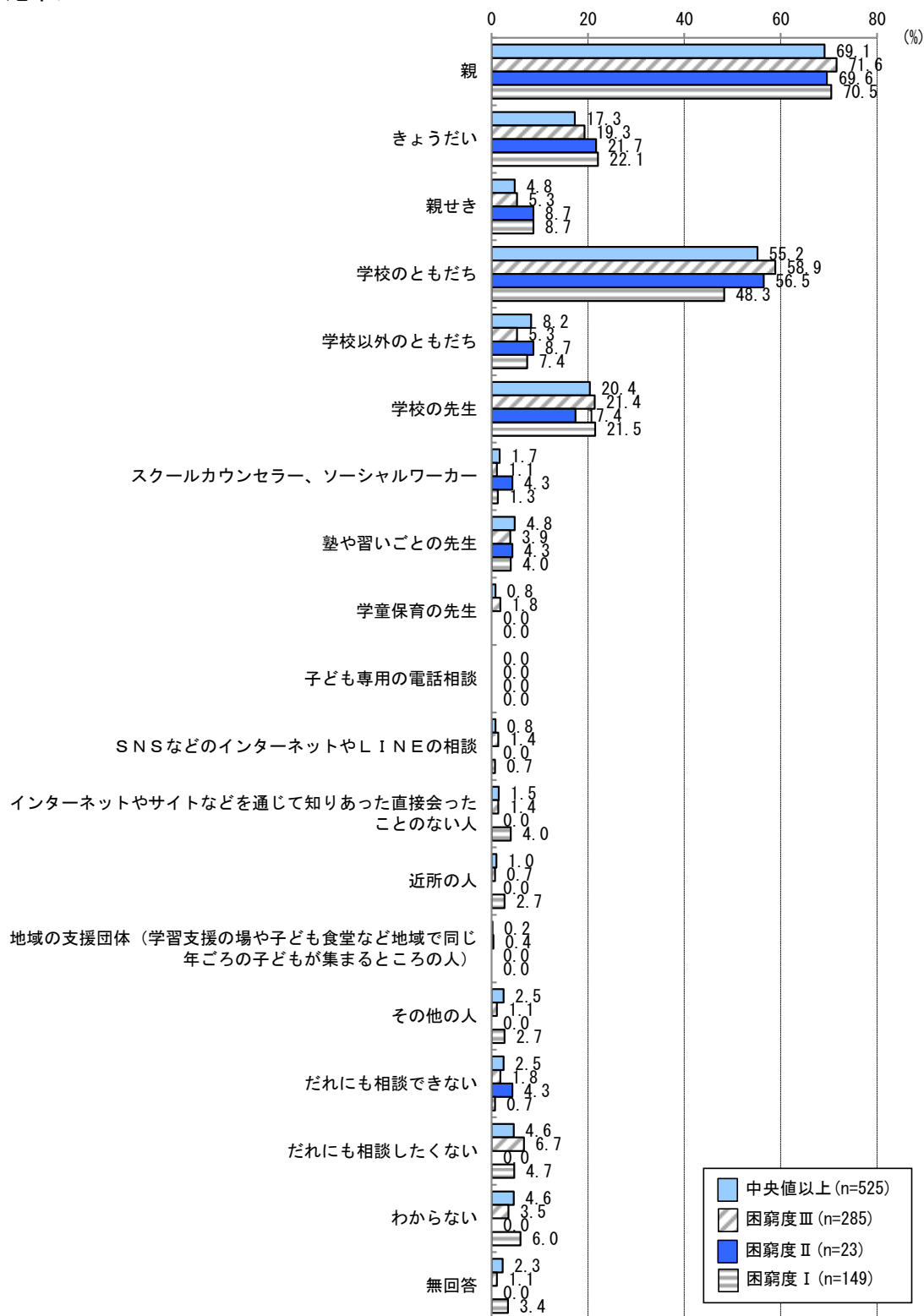
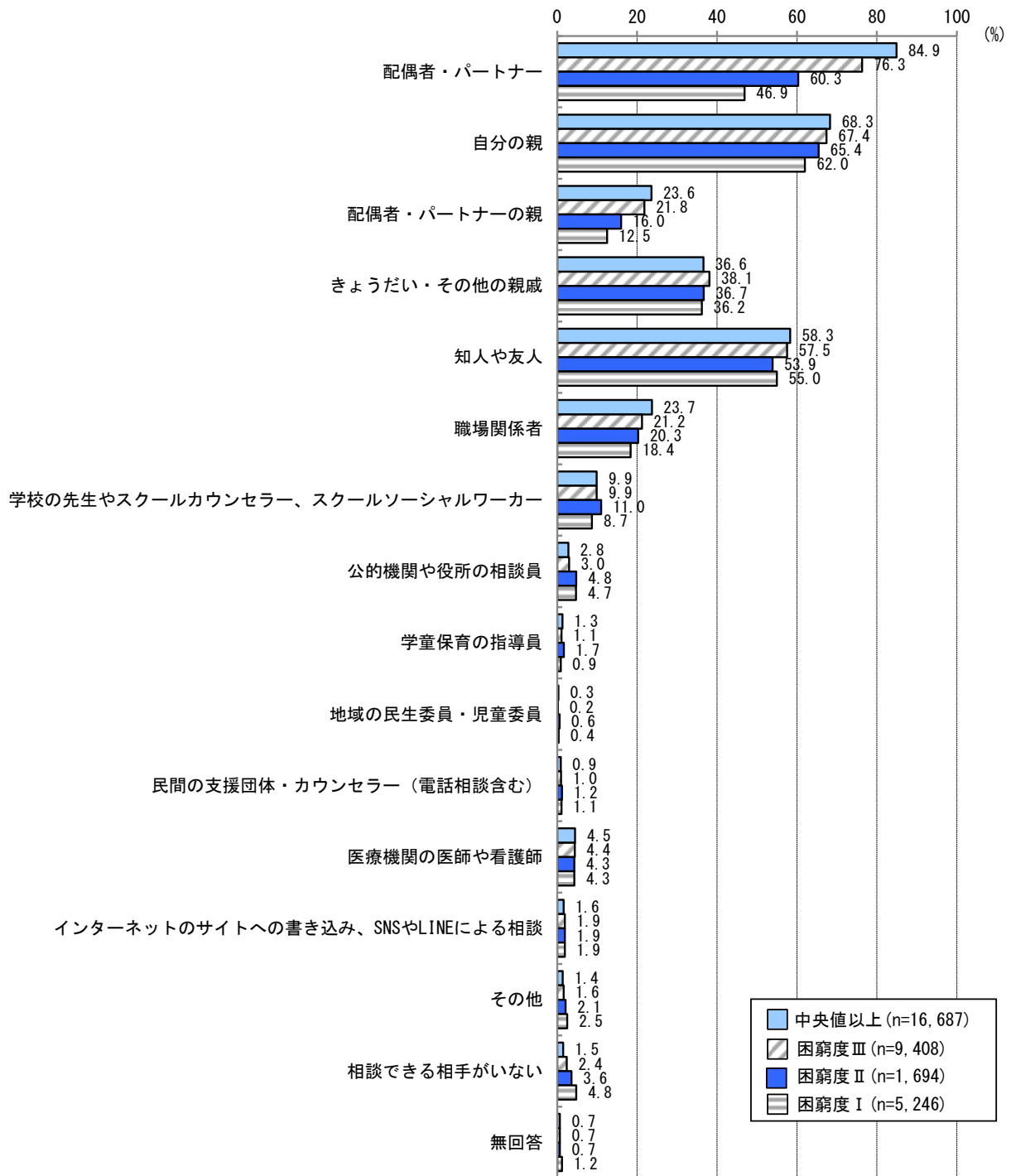


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」4.0%（中央値以上群に対して2.7倍）、「近所の人」2.7%（同じく2.7倍）、「親せき」8.7%（同じく1.8倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



<八尾市>

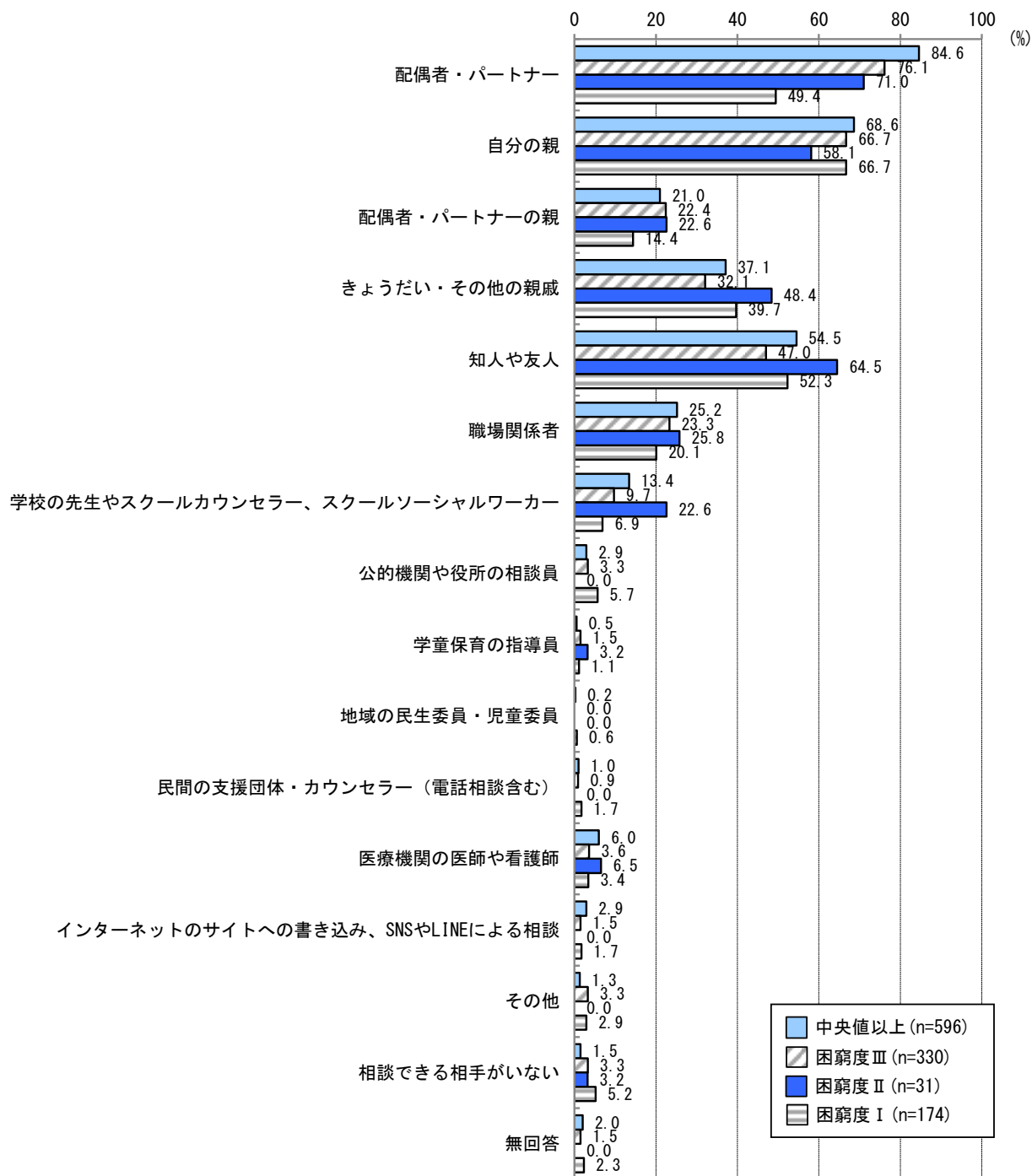
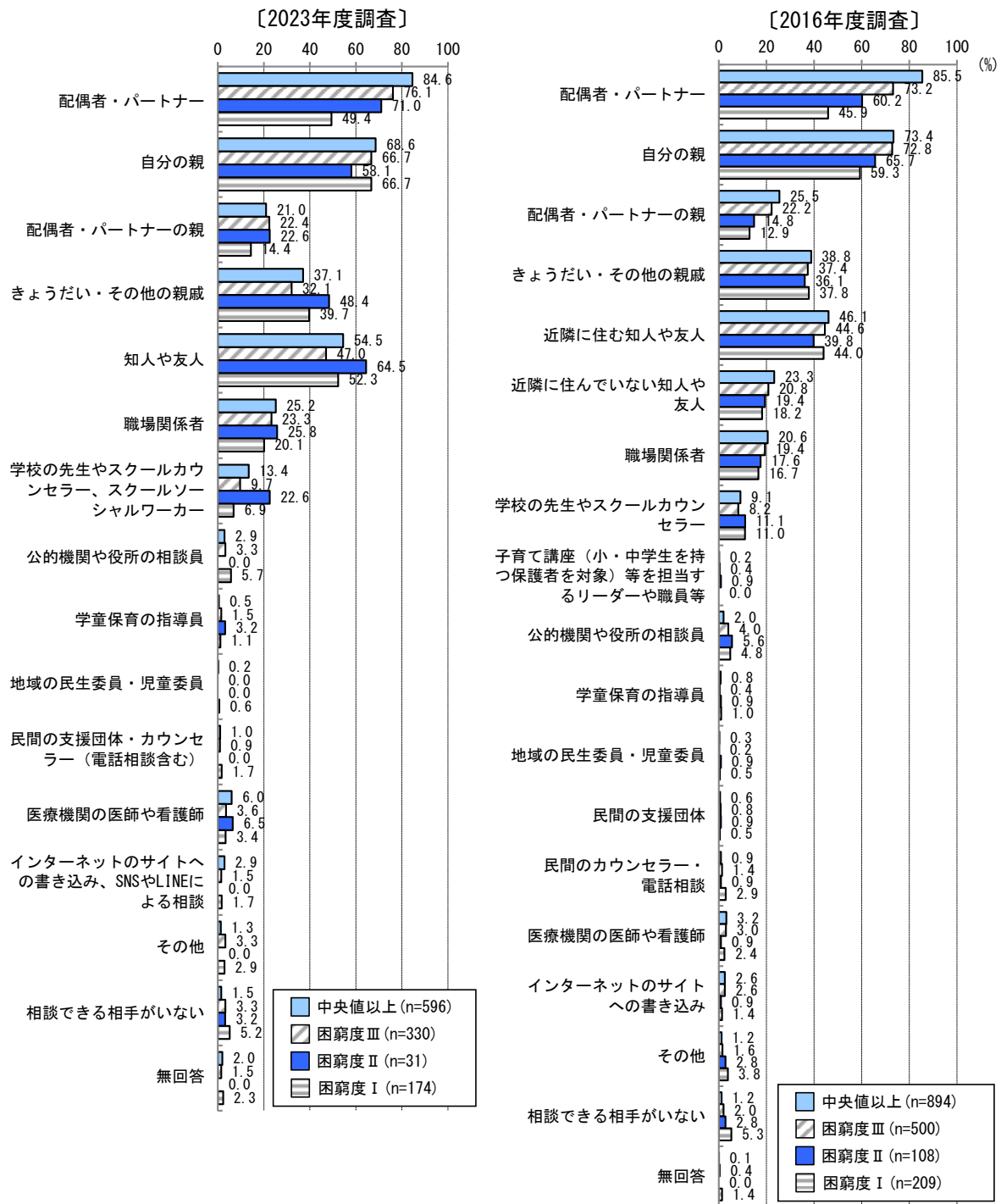


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」5.2%（中央値以上群に対して3.5倍）、「地域の民生委員・児童委員」0.6%（同じく3.0倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」13.4%（困窮度Ⅰ群に対して1.9倍）、「医療機関の医師や看護師」6.0%（同じく1.8倍）、「配偶者・パートナー」84.6%（同じく1.7倍）となっている。

＜2016 年度調査との比較／八尾市＞



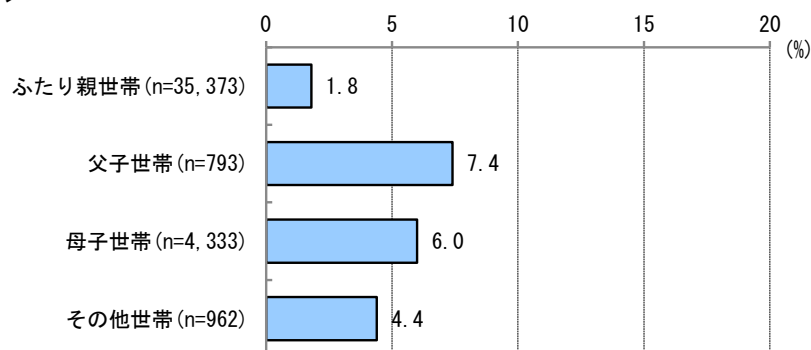
- ※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」
 ※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」
 ※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除
 ※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」
 ※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「職場関係者」「医療機関の医師や看護師」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<八尾市>

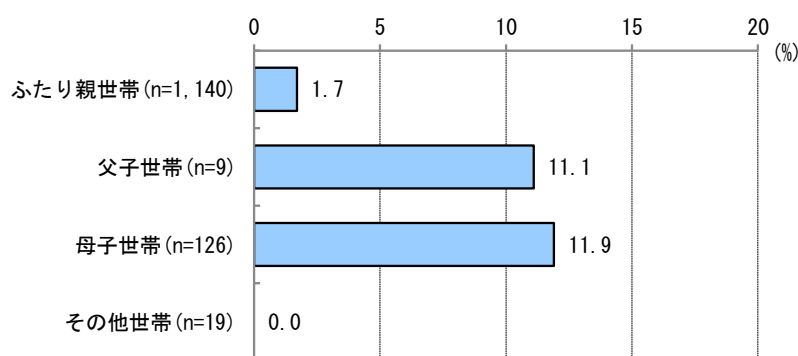


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合を見ると、「相談できる相手がない」と回答した割合は、父子世帯で11.1%、母子世帯で11.9%である。

<2016年度調査との比較／八尾市>

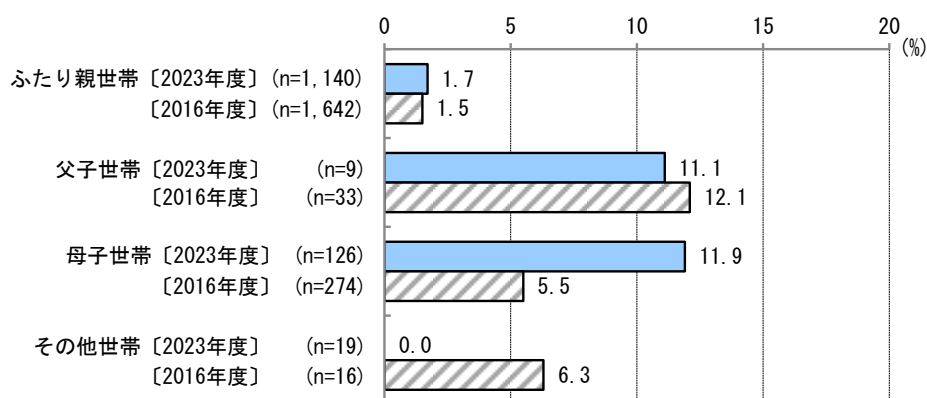
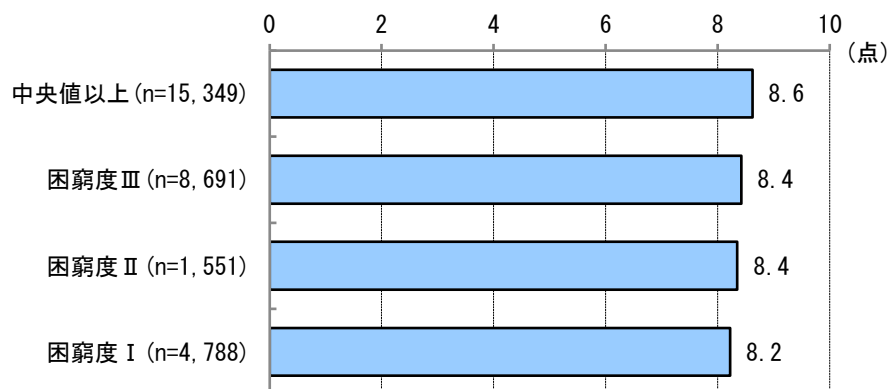


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、父子世帯は2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<八尾市>

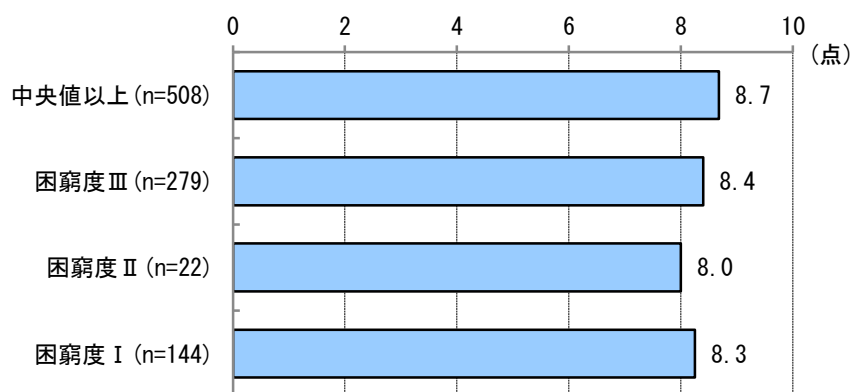
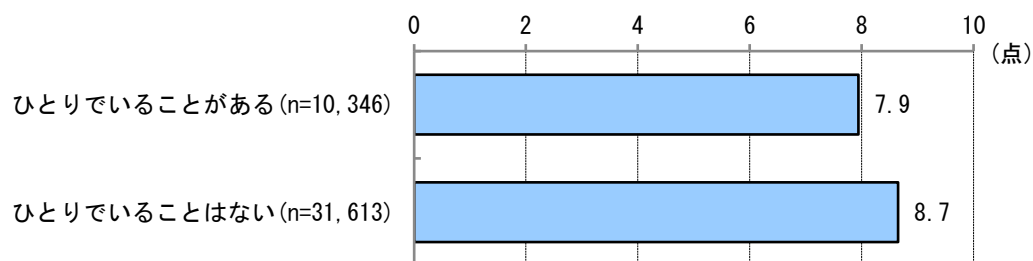


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ても、大きな差はみられない。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<八尾市>

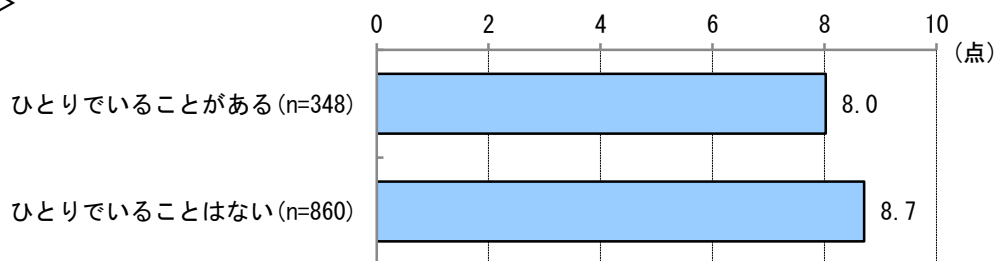


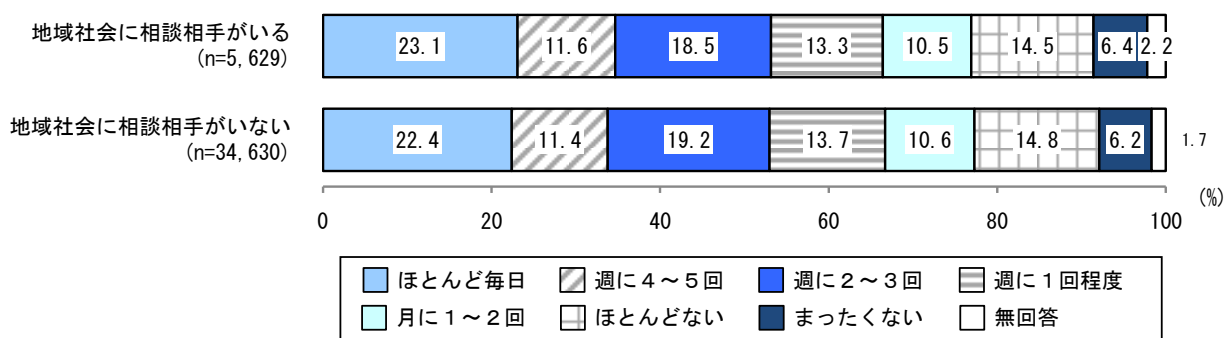
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どものほうがそれでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
(保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<八尾市>

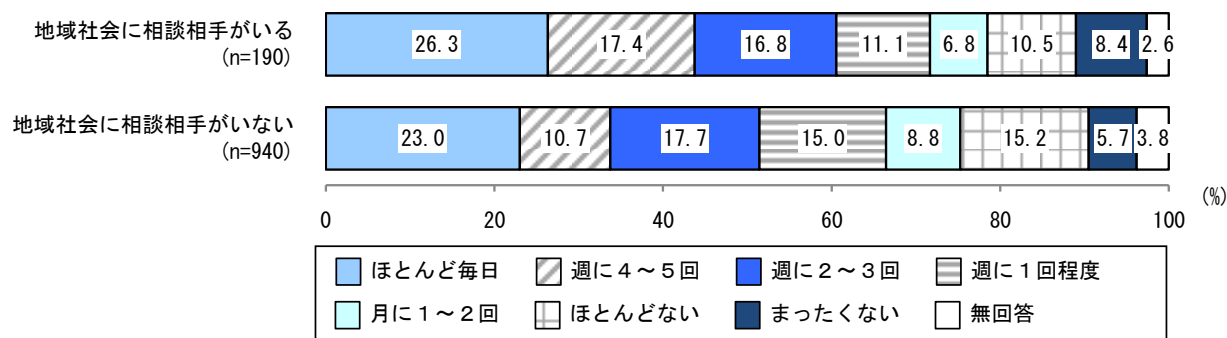
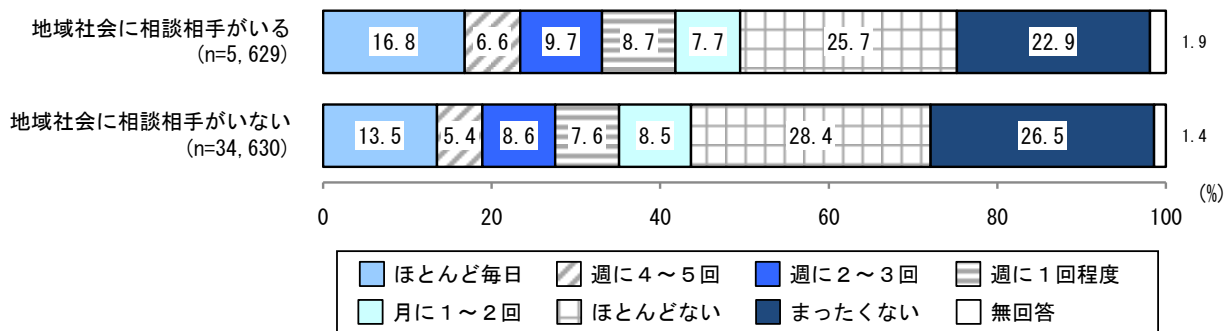


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、地域社会に相談相手がいる人のほうが、地域社会に相談相手がない人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（保護者票問 19×子ども票問 8⑤）

<大阪府内全体>



<八尾市>

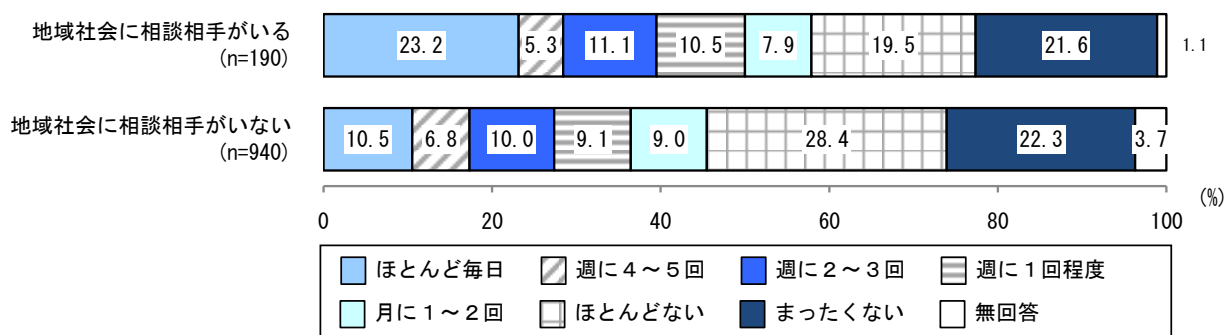
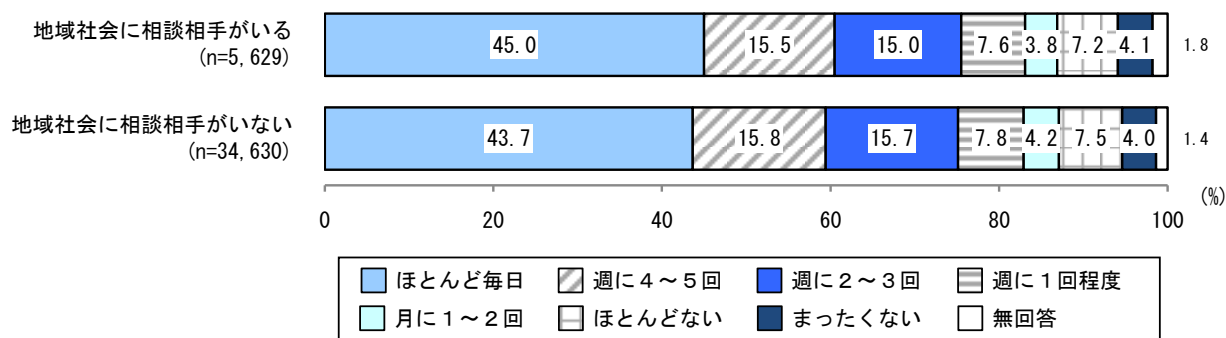


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、地域社会に相談相手がいる人のほうが、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑥)

<大阪府内全体>



<八尾市>

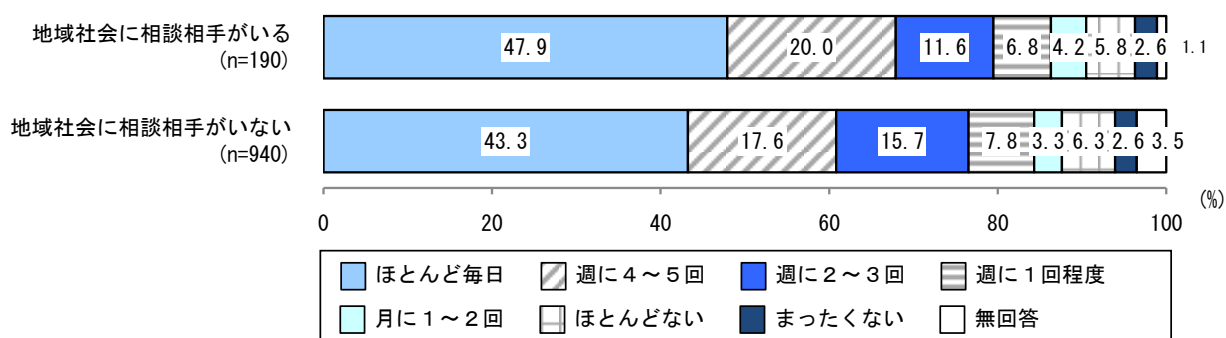
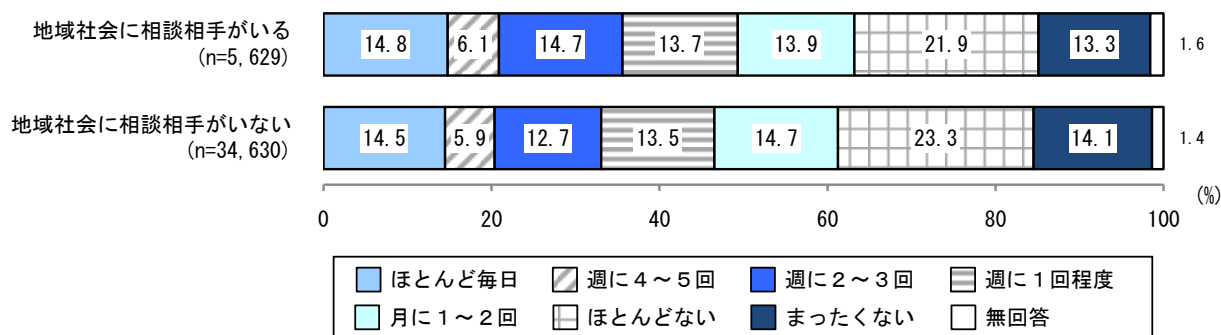


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、地域社会に相談相手がいる人のほうが、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<八尾市>

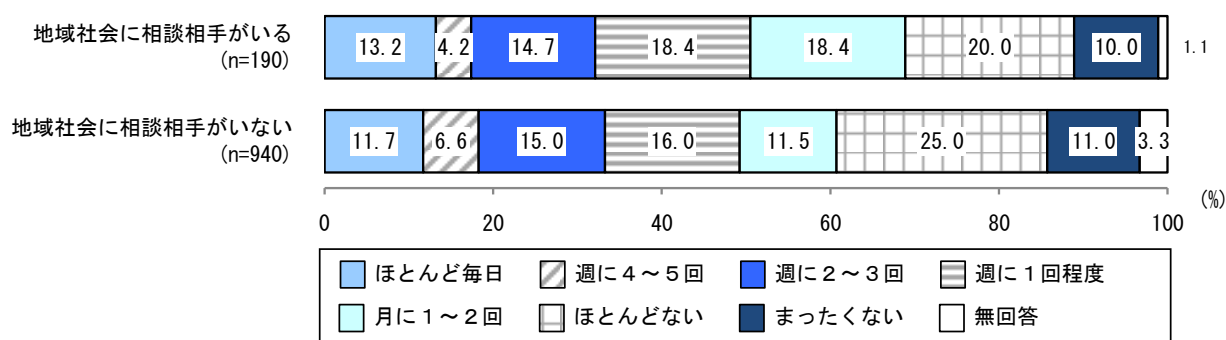
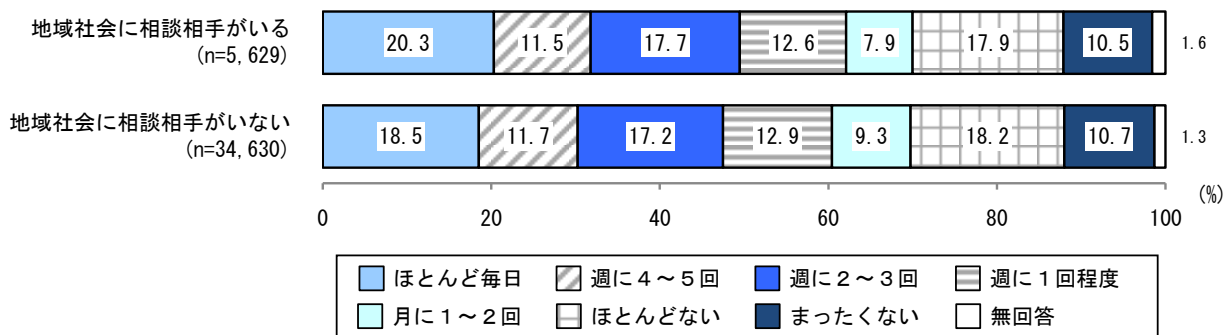


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、地域社会に相談相手がいる人のほうが、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」「週に1回程度」、「月に1～2回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<八尾市>

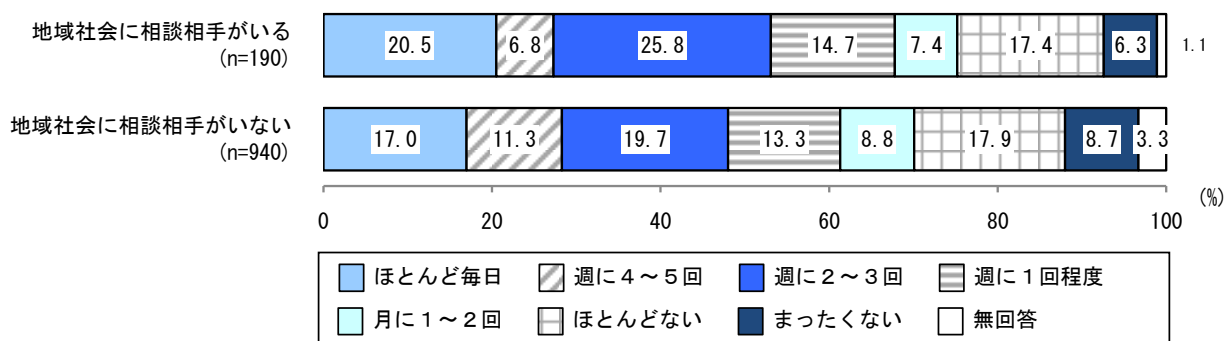
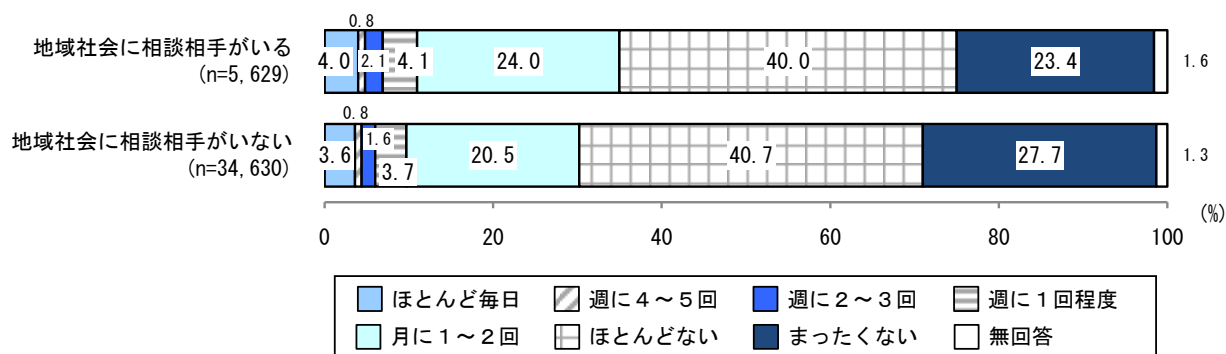


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、地域社会に相談相手がいる人のほうが、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」「週に2～3回」「週に1回程度」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑨)

<大阪府内全体>



<八尾市>

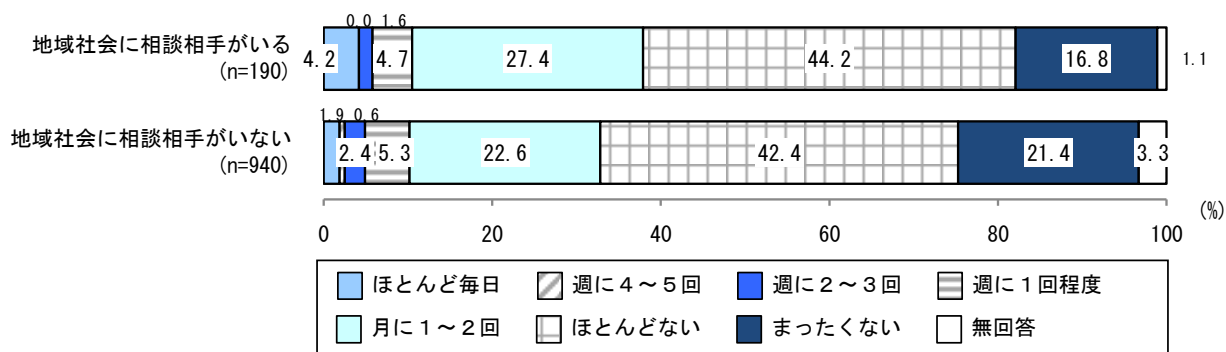
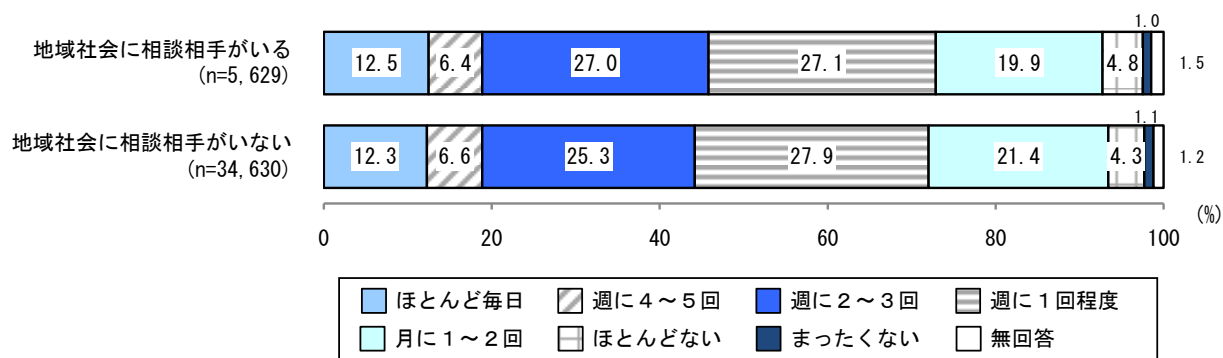


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、地域社会に相談相手がいる人のほうが、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人と文化活動をするかに「ほとんど毎日」「月に1~2回」「ほとんどない」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<八尾市>

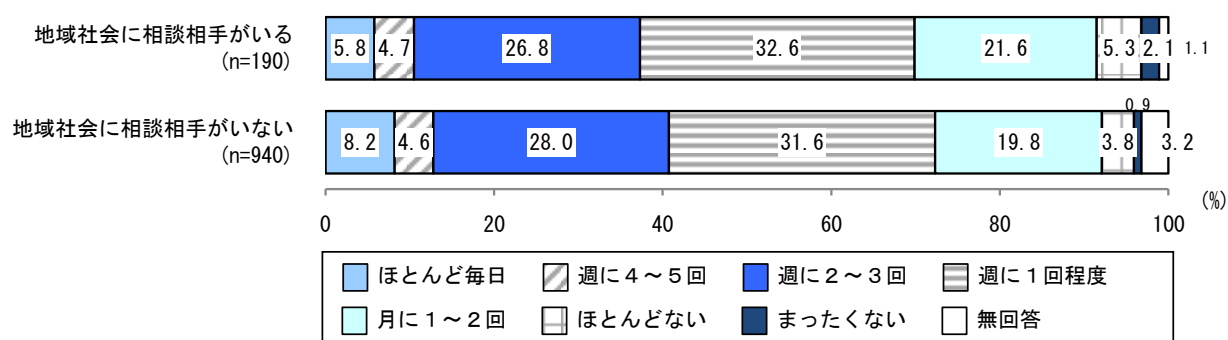
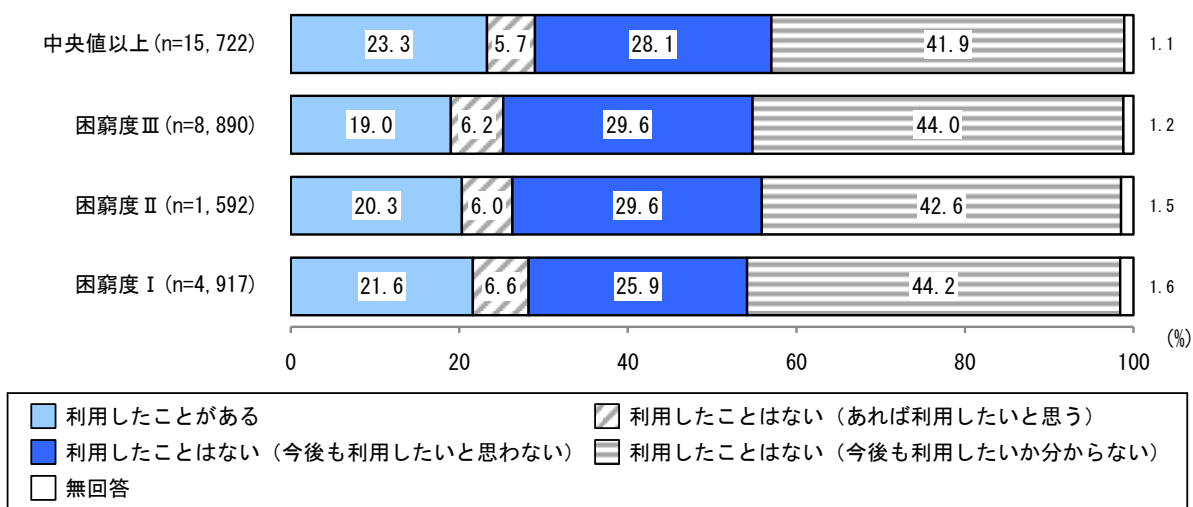


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、地域社会に相談相手がいる人のほうが、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するかに「週に4～5回」「週に1回程度」「月に1～2回」「ほとんどない」「まったくない」と回答する割合が高かった。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<八尾市>

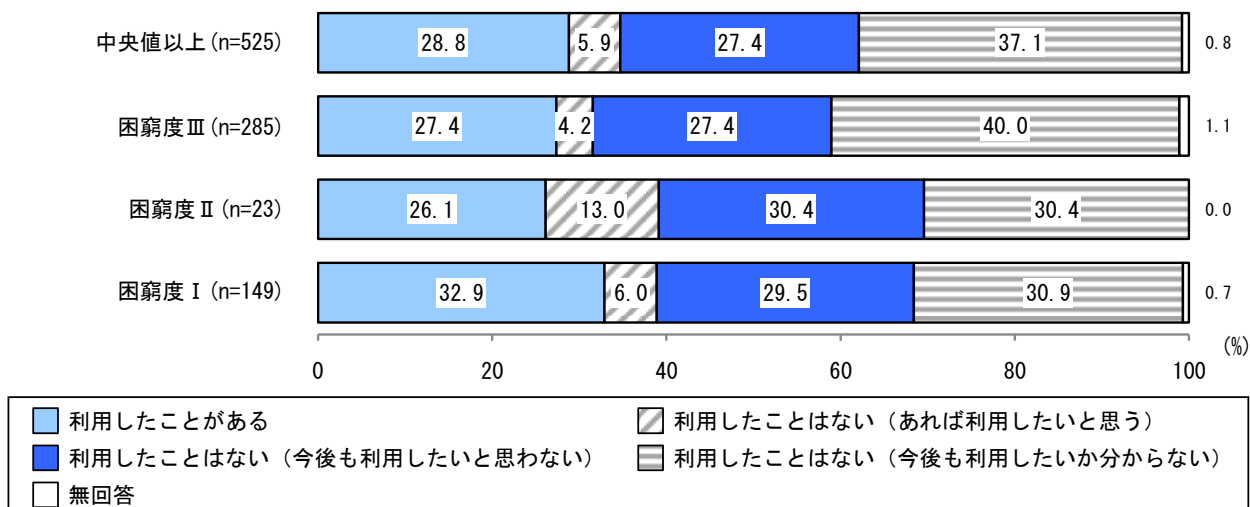
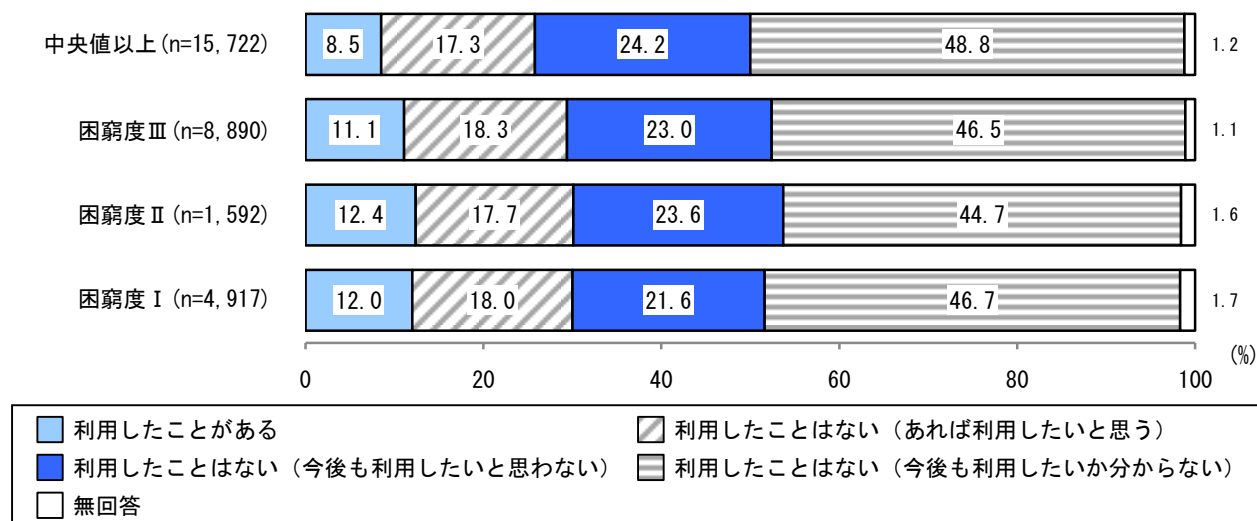


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で32.9%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<八尾市>

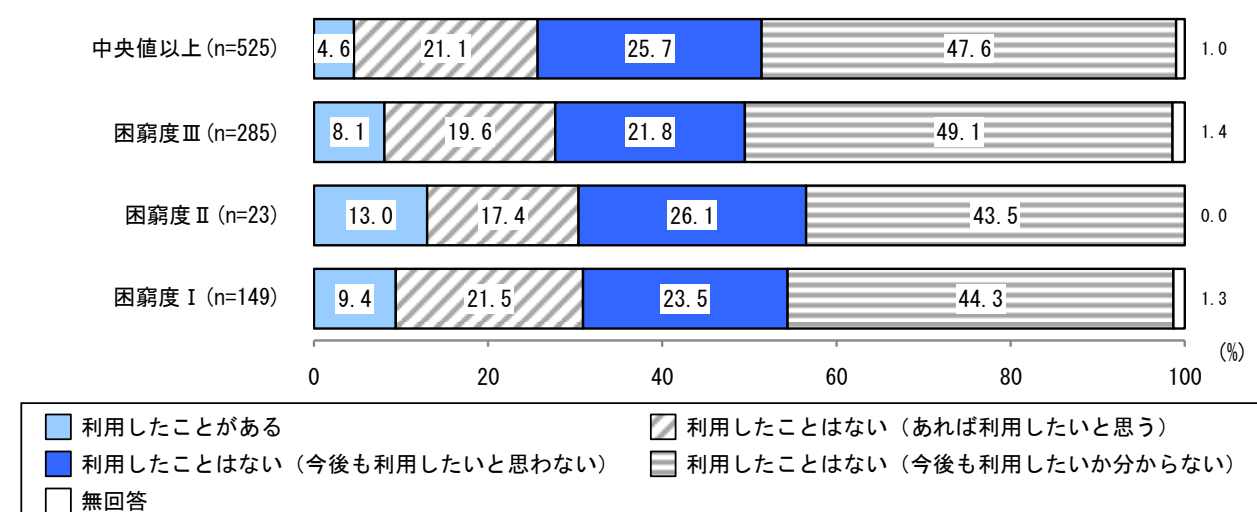
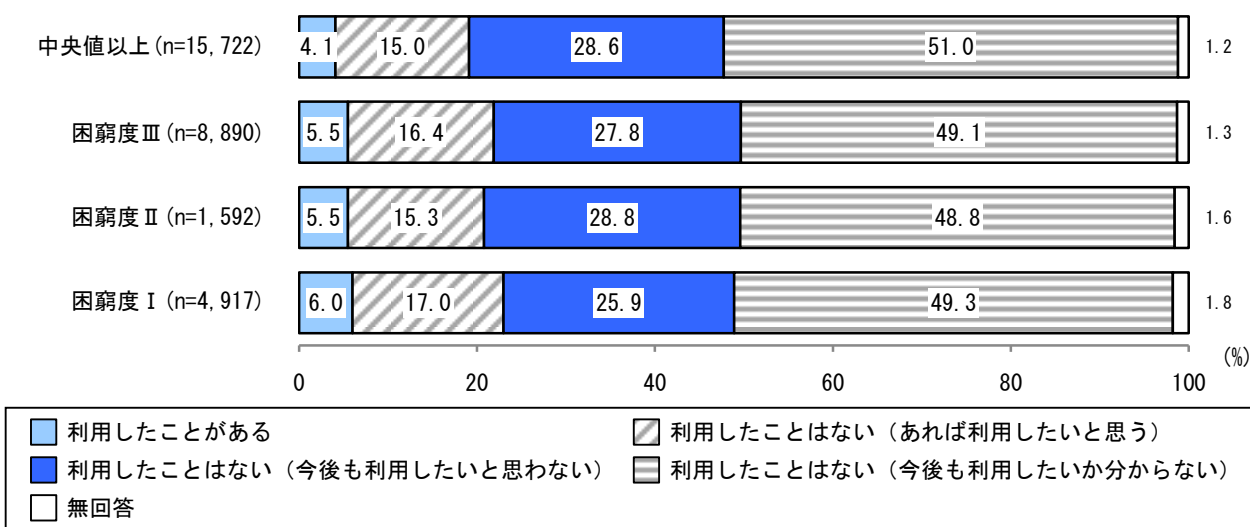


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことはない (今後利用したいか分からない)」と回答する割合が困窮度Ⅲ群で49.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<八尾市>

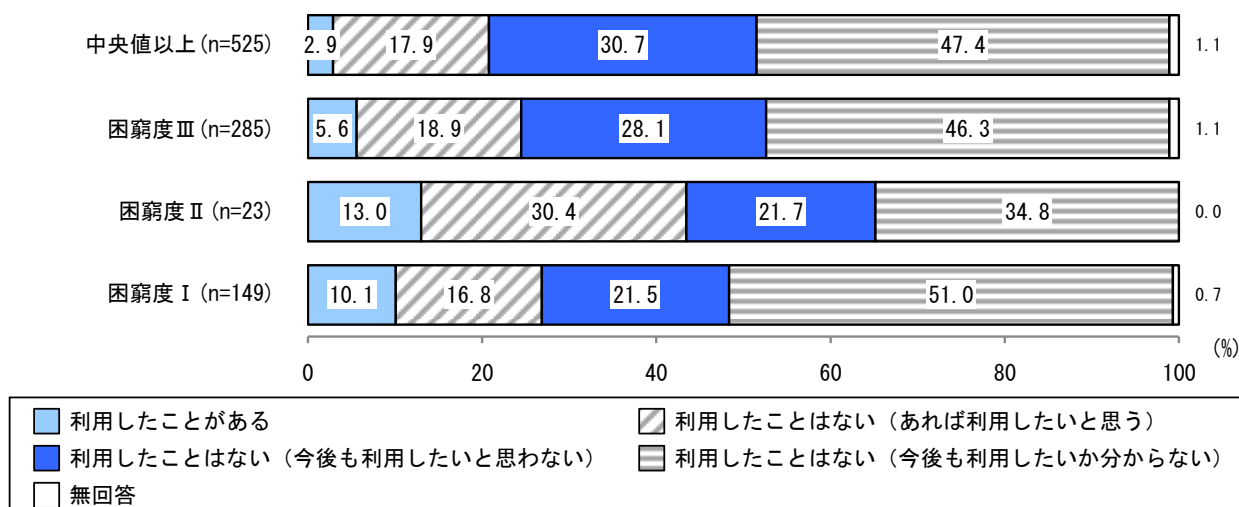
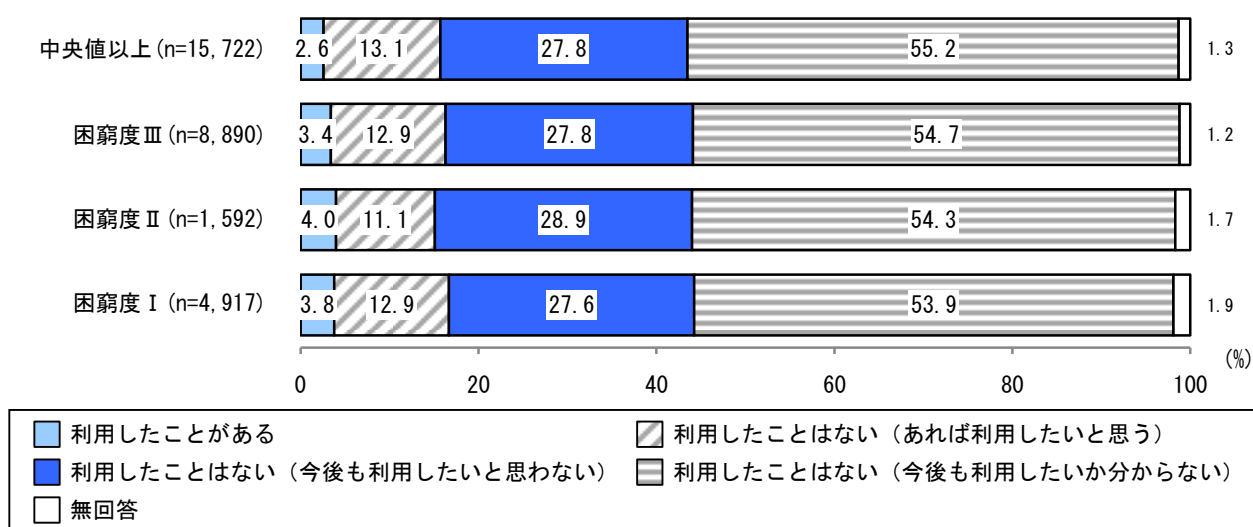


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合が困窮度Ⅱ群で13.0%と最も高く、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」も困窮度Ⅱ群で30.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<八尾市>

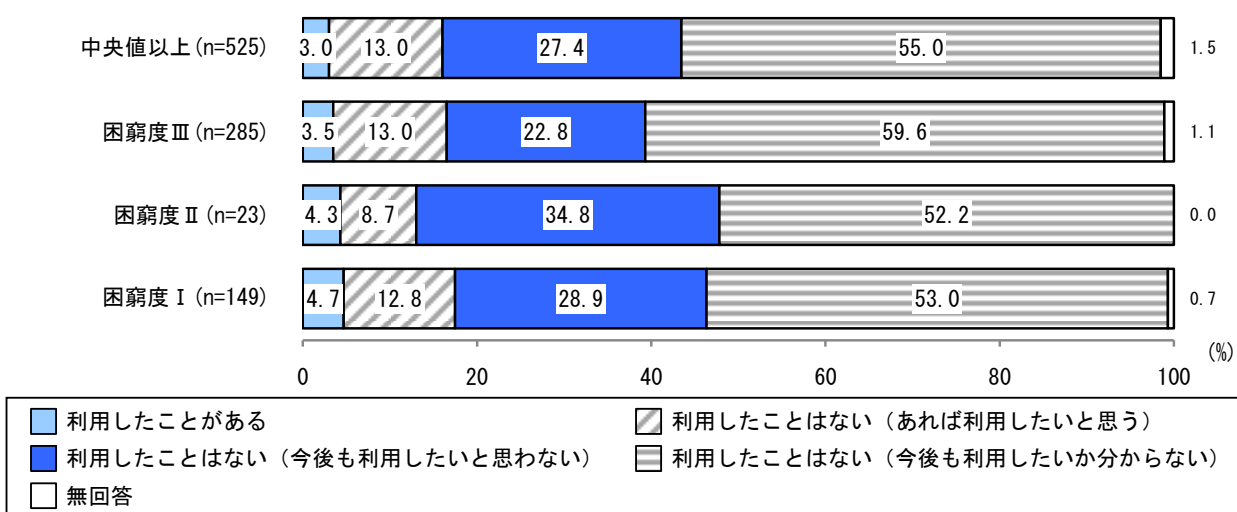
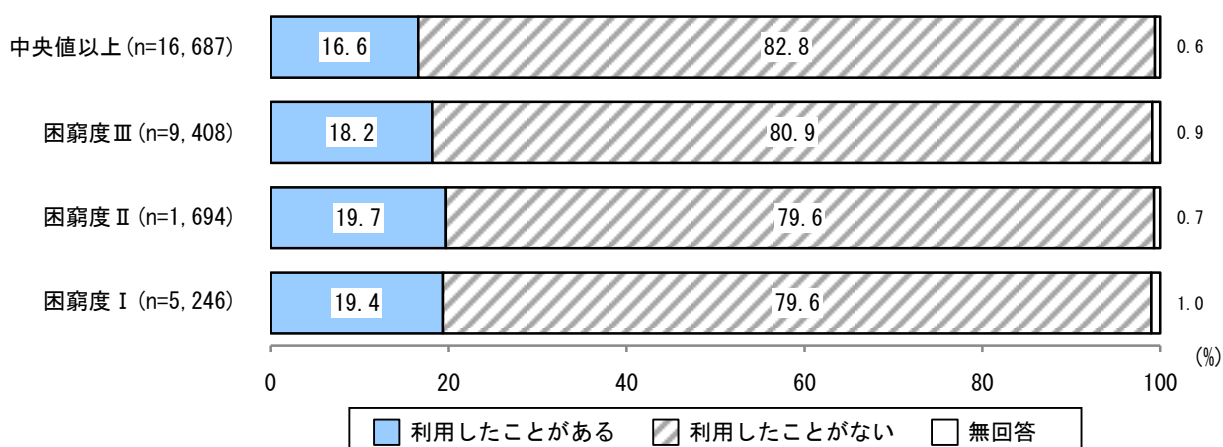


図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、困窮度が高まるにつれて、「利用したことがある」と回答した割合が高く、困窮度Ⅰ群で4.7%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<八尾市>

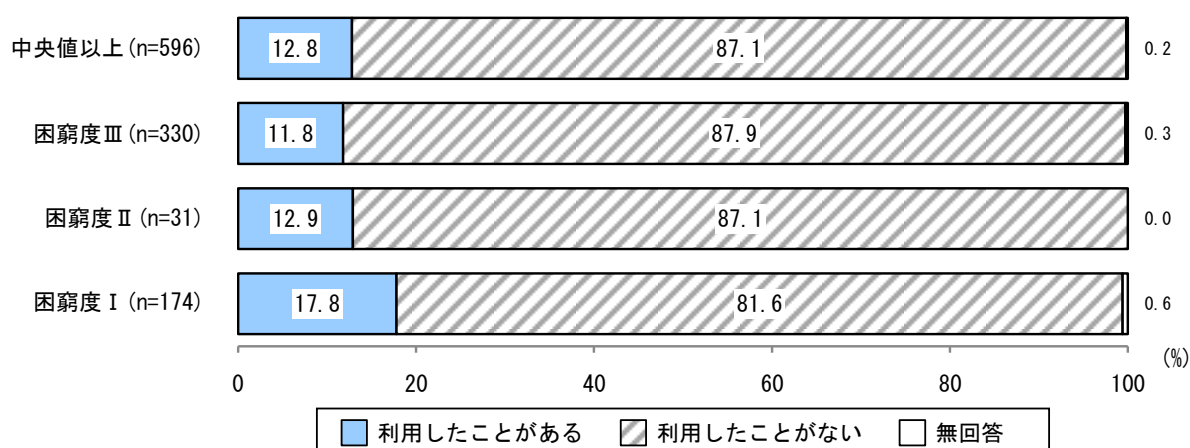
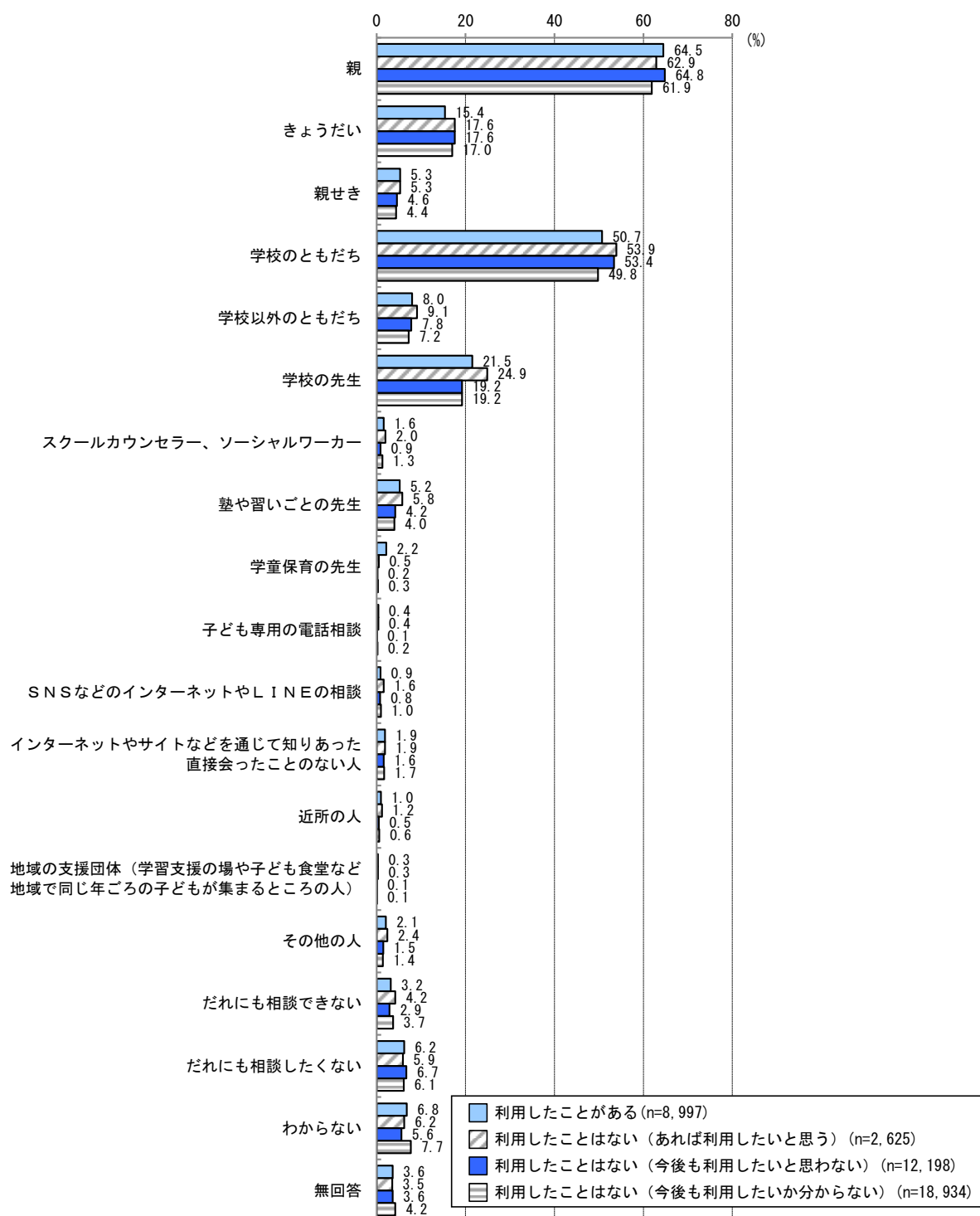


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は困窮度Ⅲ群が11.8%で最も低く、困窮度Ⅰ群が17.8%で最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<八尾市>

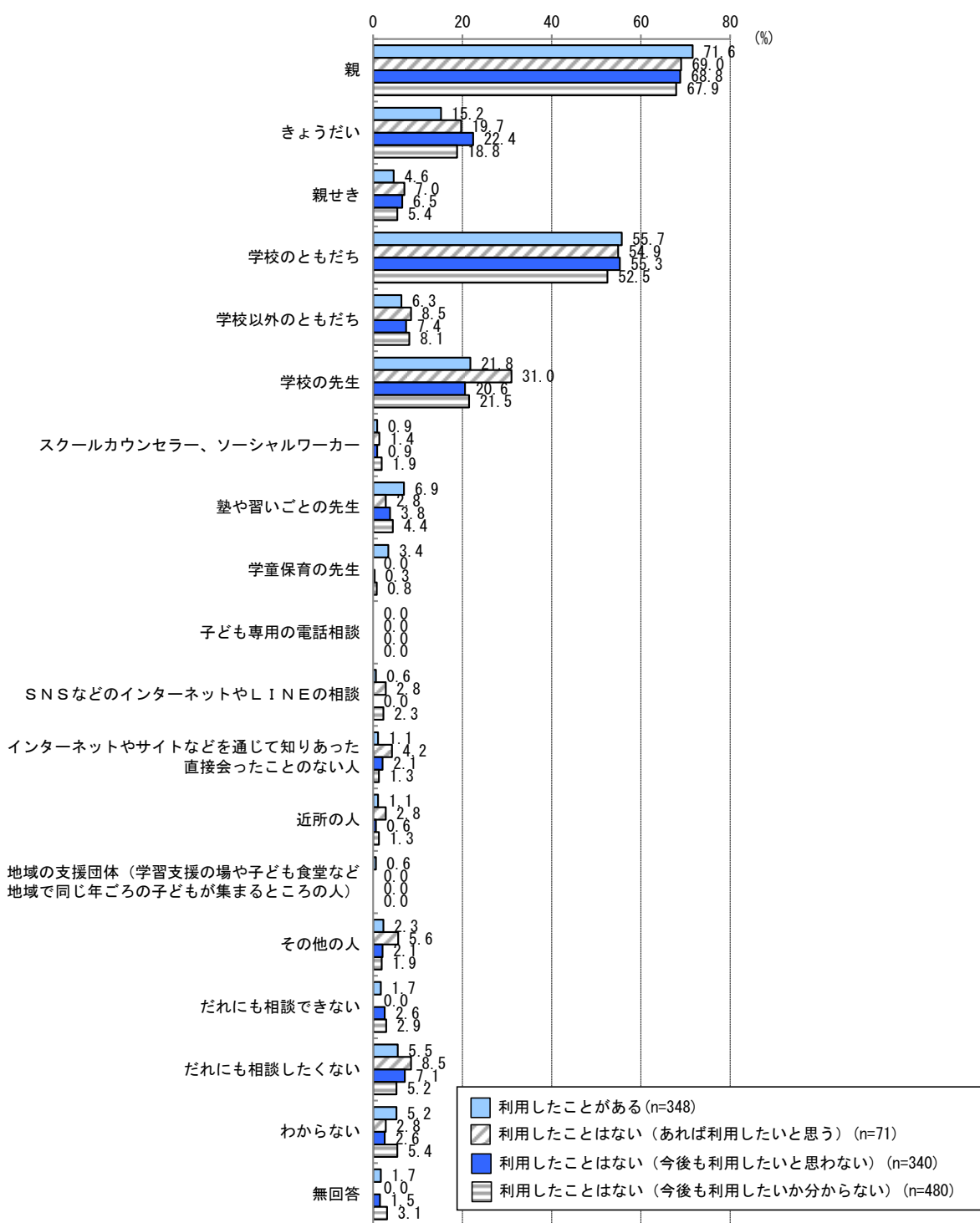
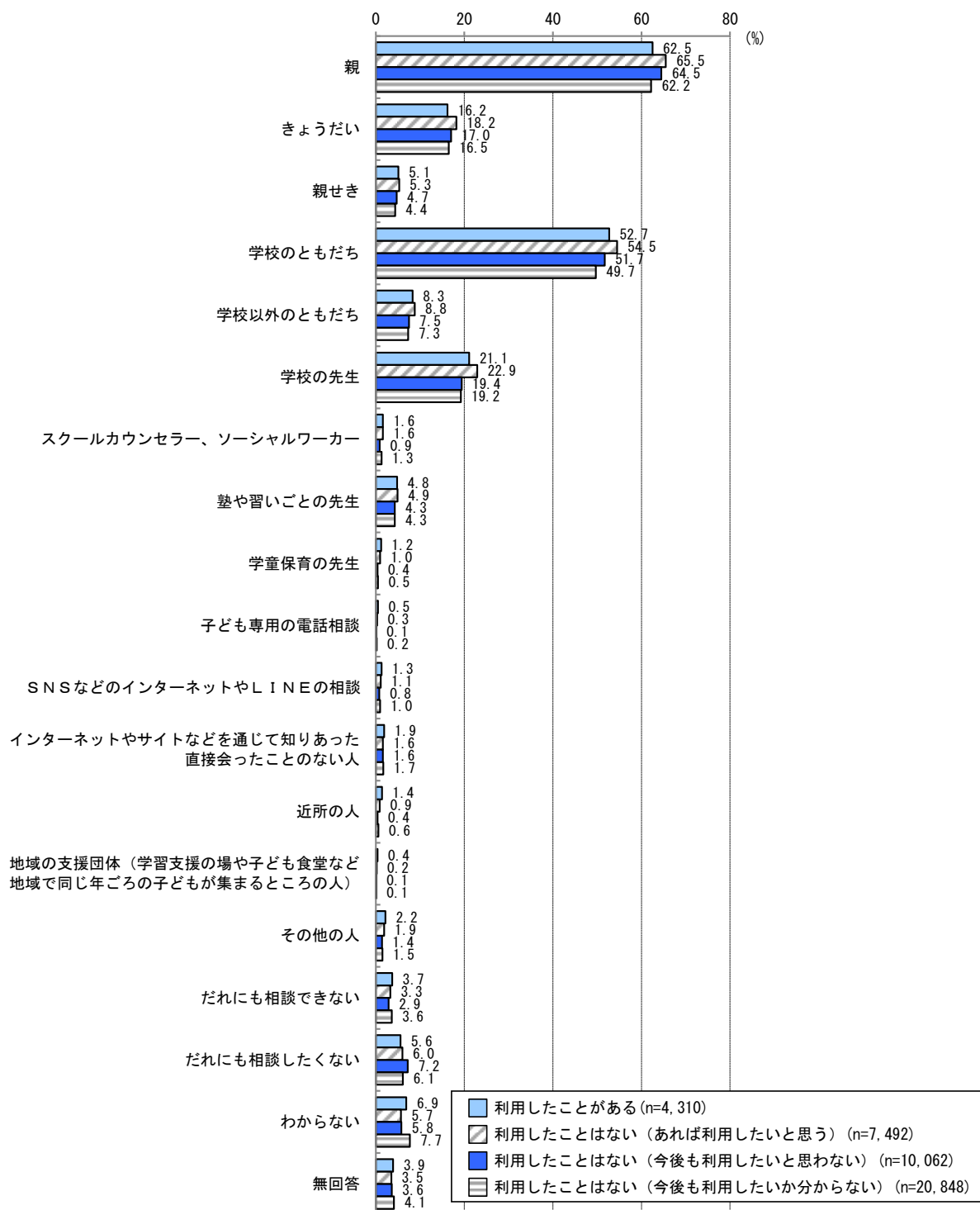


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」「学校のともだち」「塾や習いごとの先生」「学童保育の先生」と回答した割合は、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25 (1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

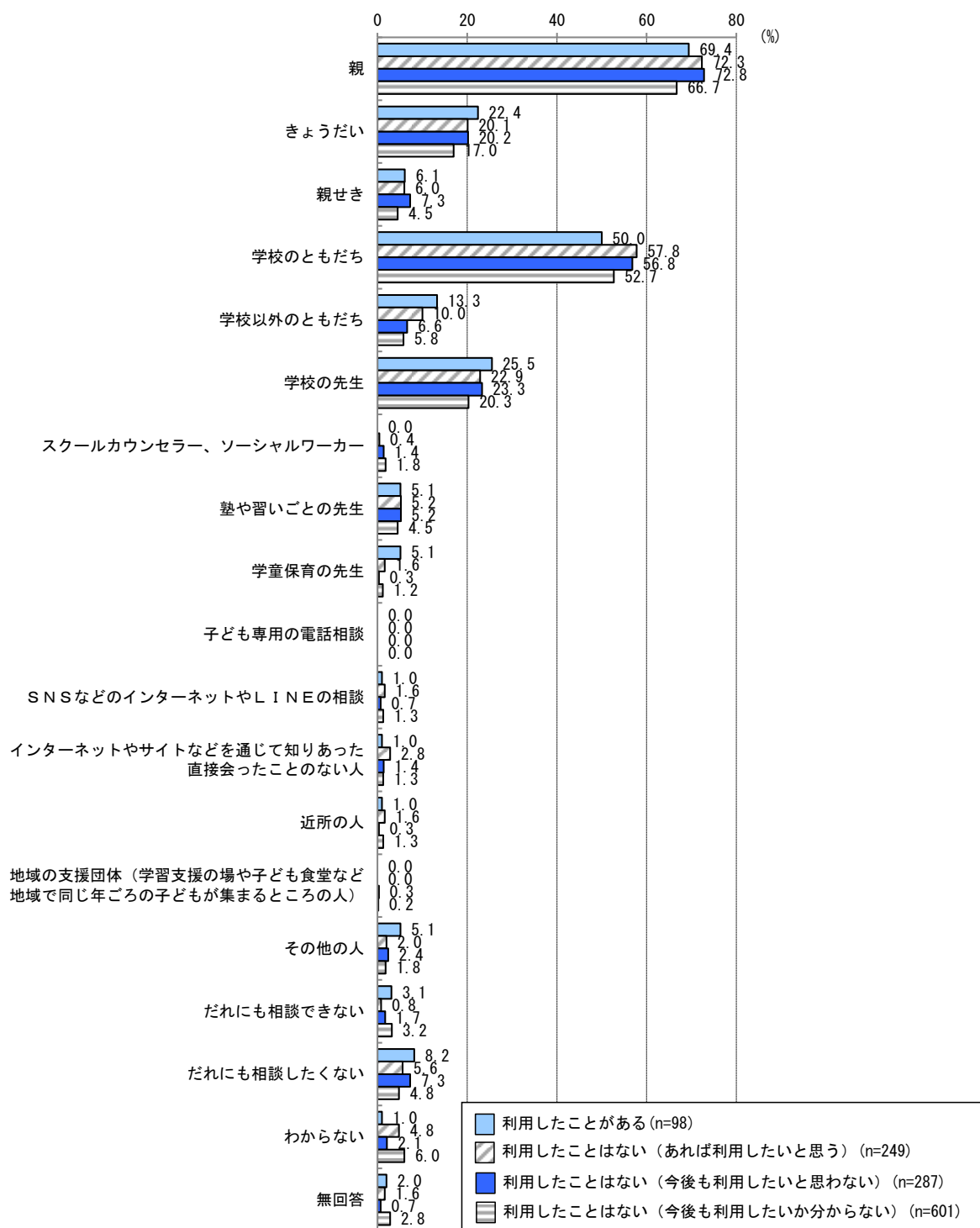
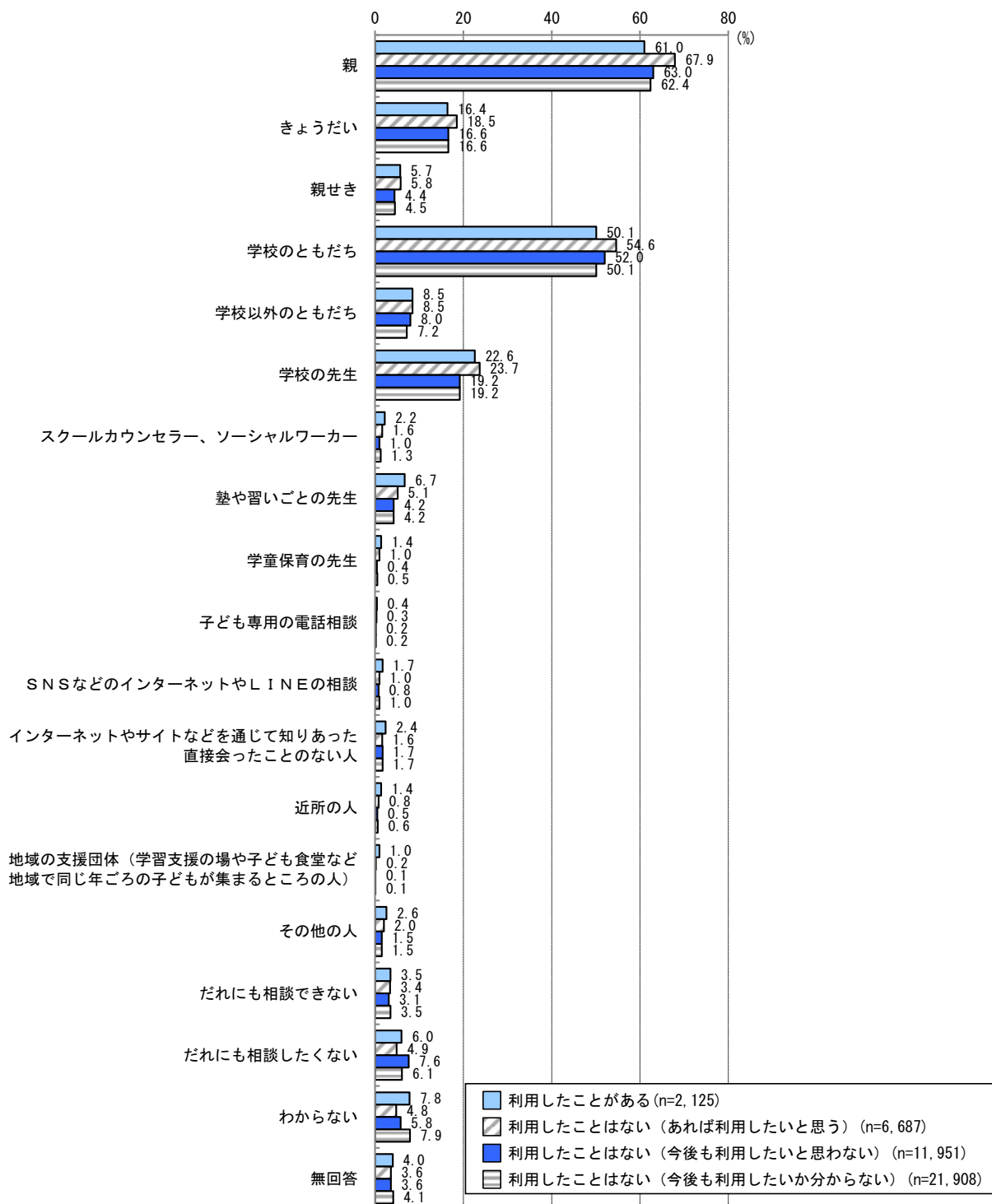


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「きょうだい」「学校以外のともだち」「学校の先生」「学童保育の先生」と回答した割合は、「利用したことがある」と回答した割合が最も高くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<八尾市>

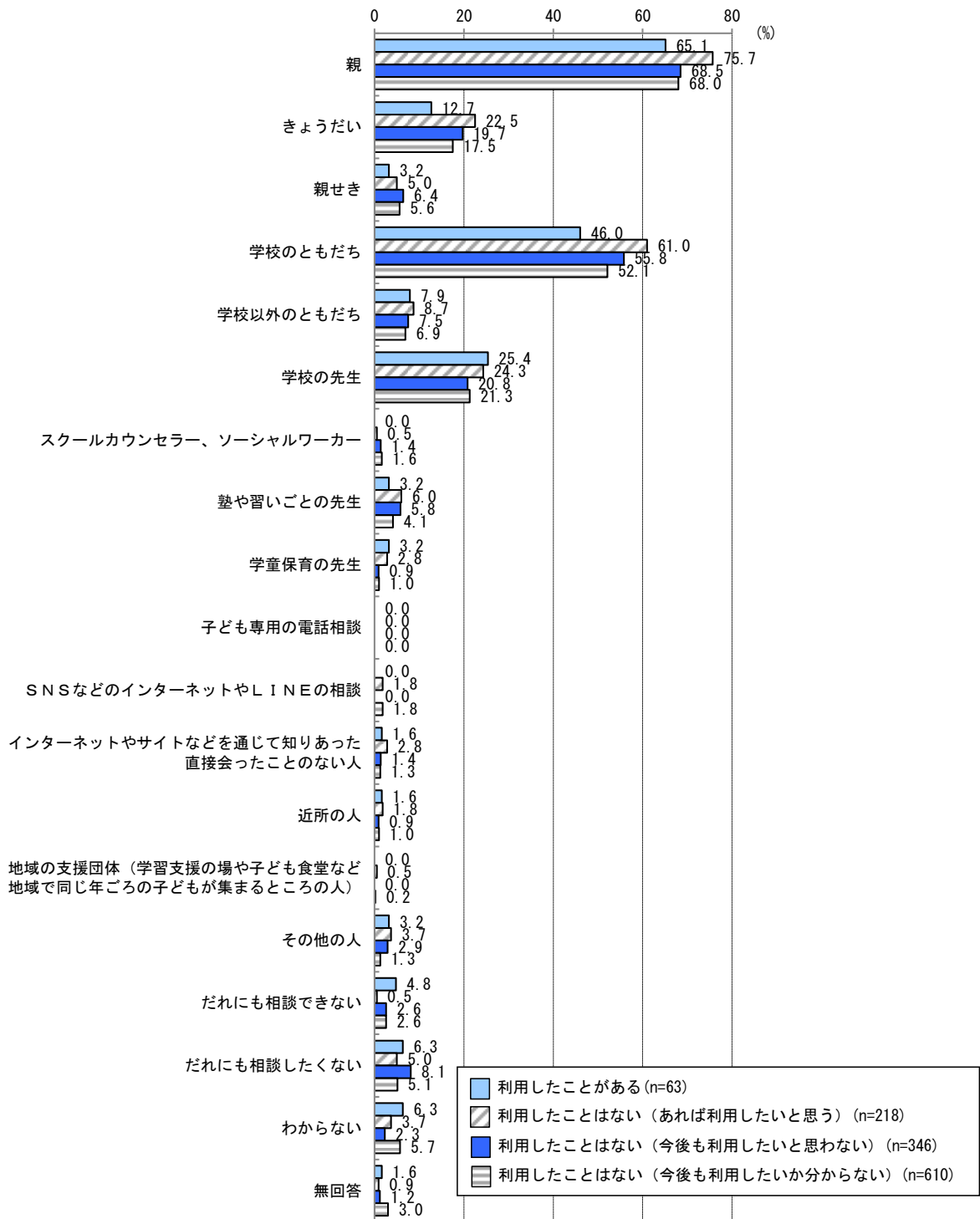
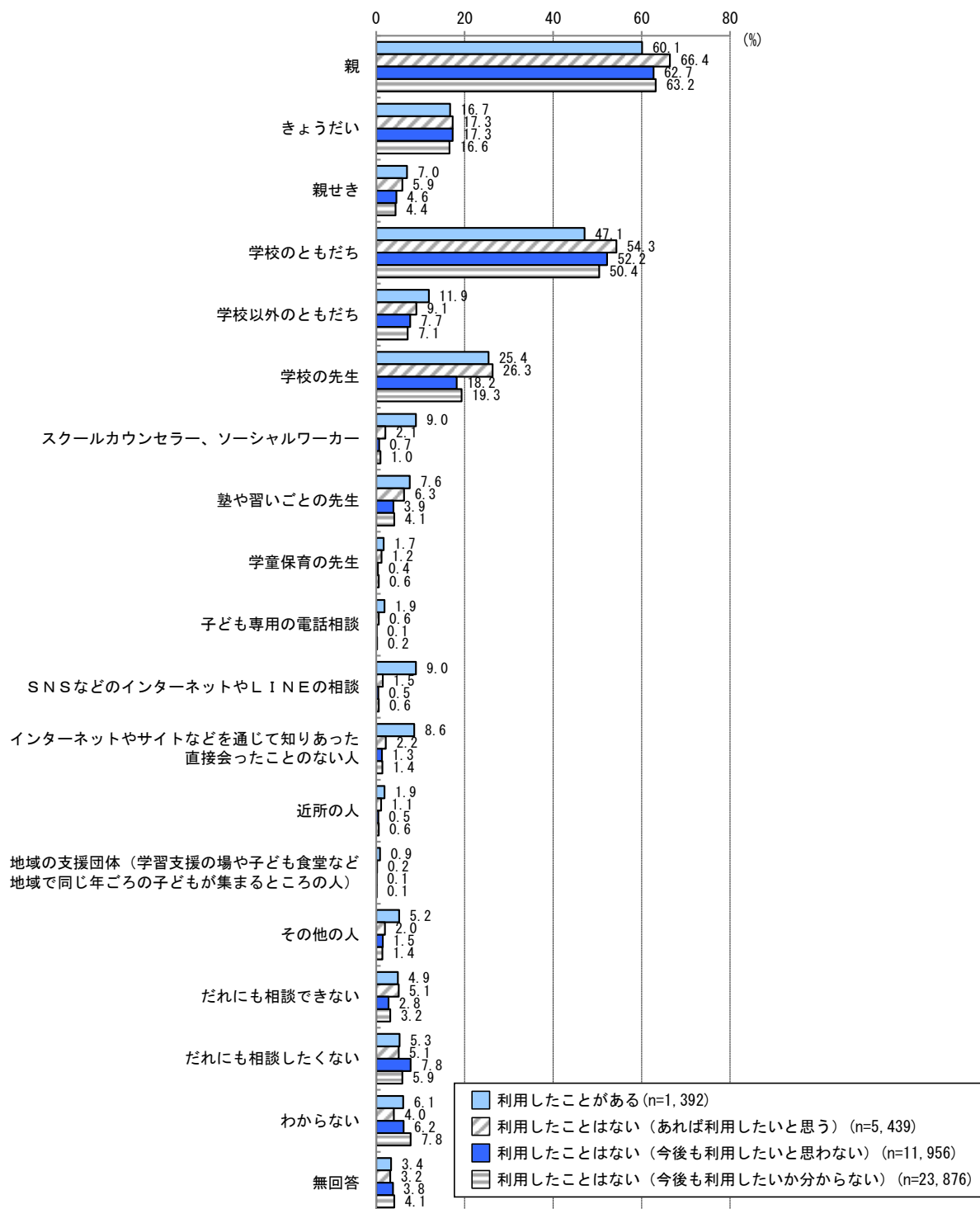


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「学校の先生」「学童保育の先生」と回答した割合は、「利用したことがある」と回答した割合が最も高くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<八尾市>

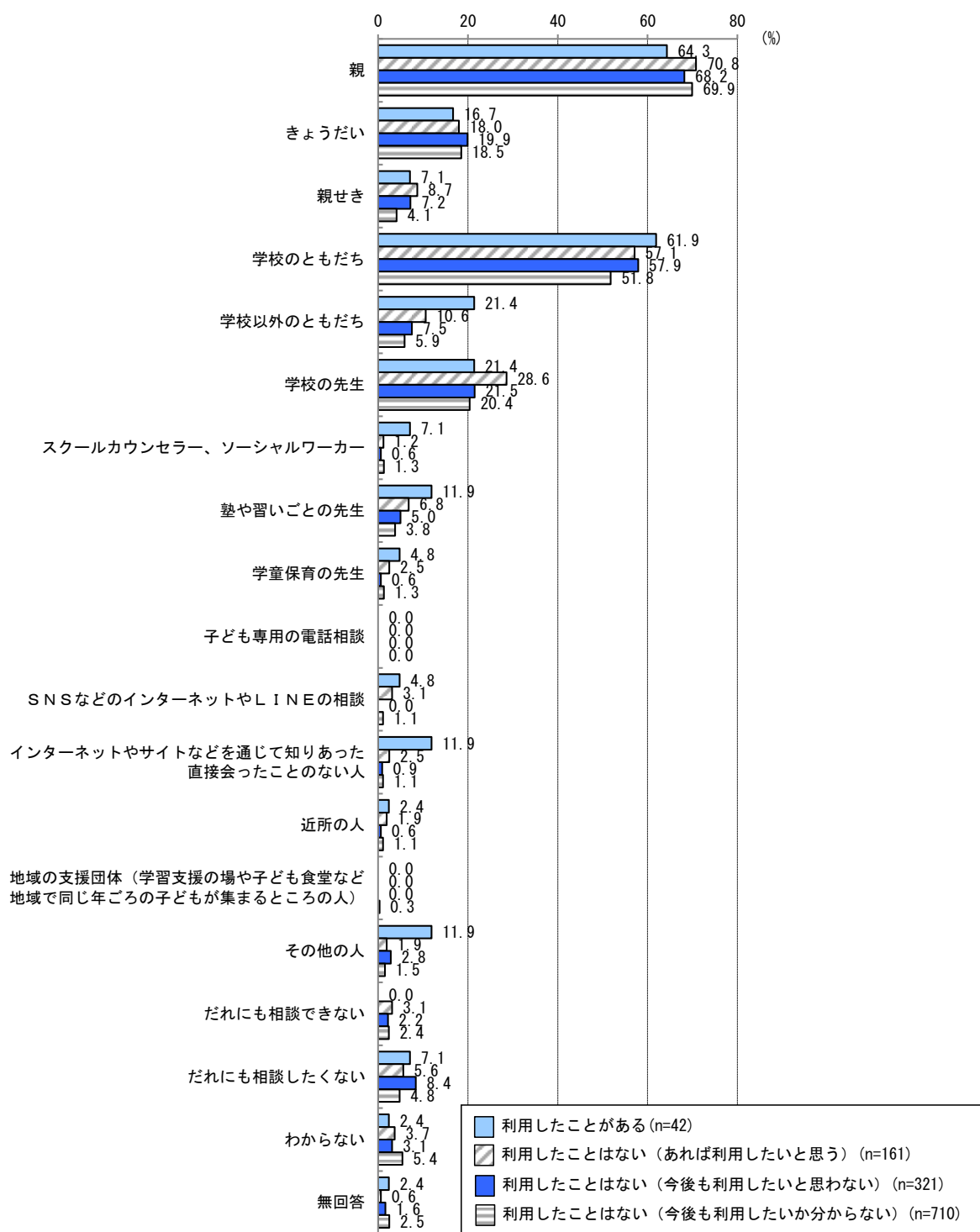
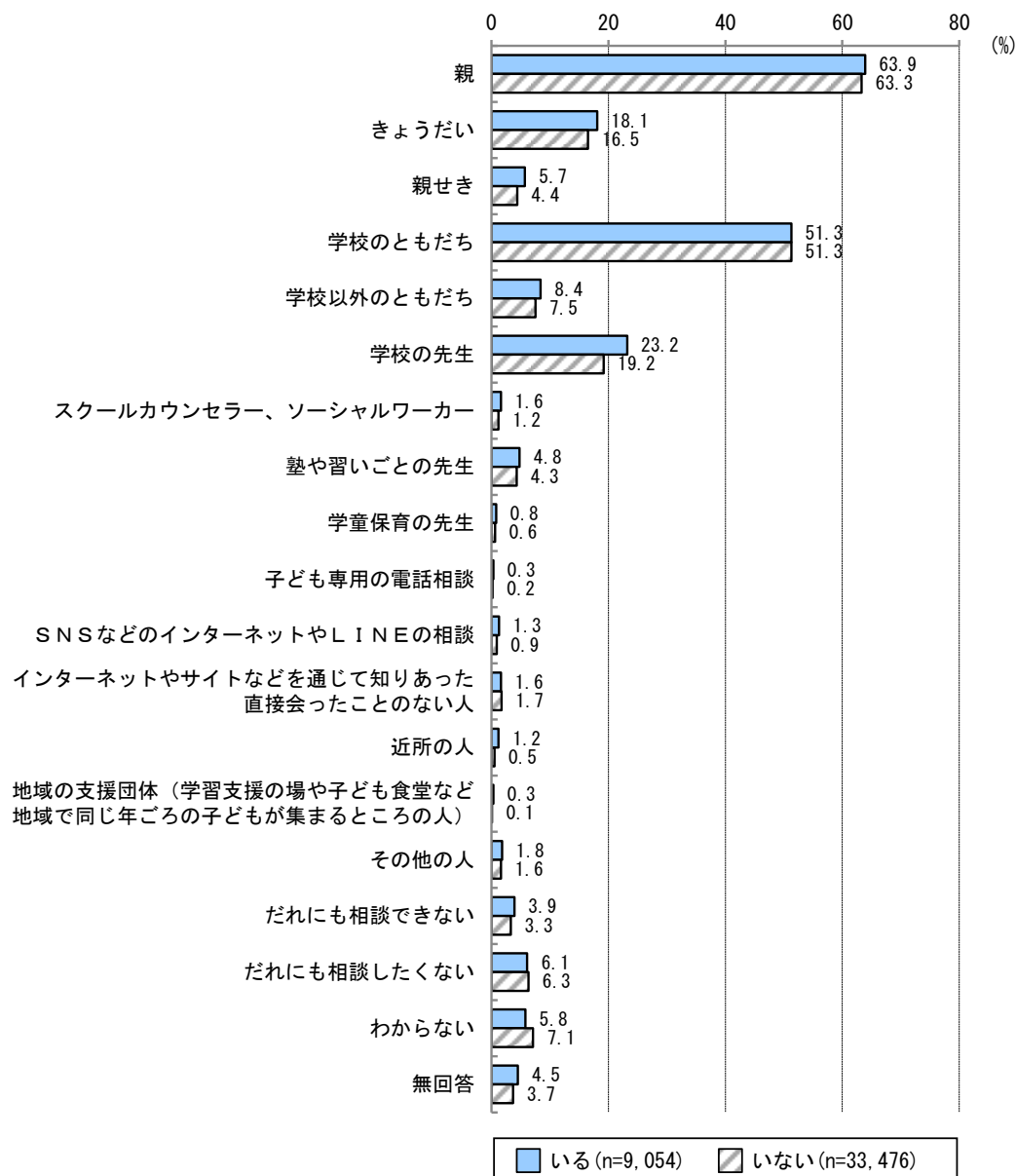


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「学校のともだち」「学校以外のともだち」「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」「塾や習いごとの先生」「学童保育の先生」「SNSなどのインターネットやLINEの相談」「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」「近所の人」と回答した割合は、「利用したことがある」と回答した割合が最も高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

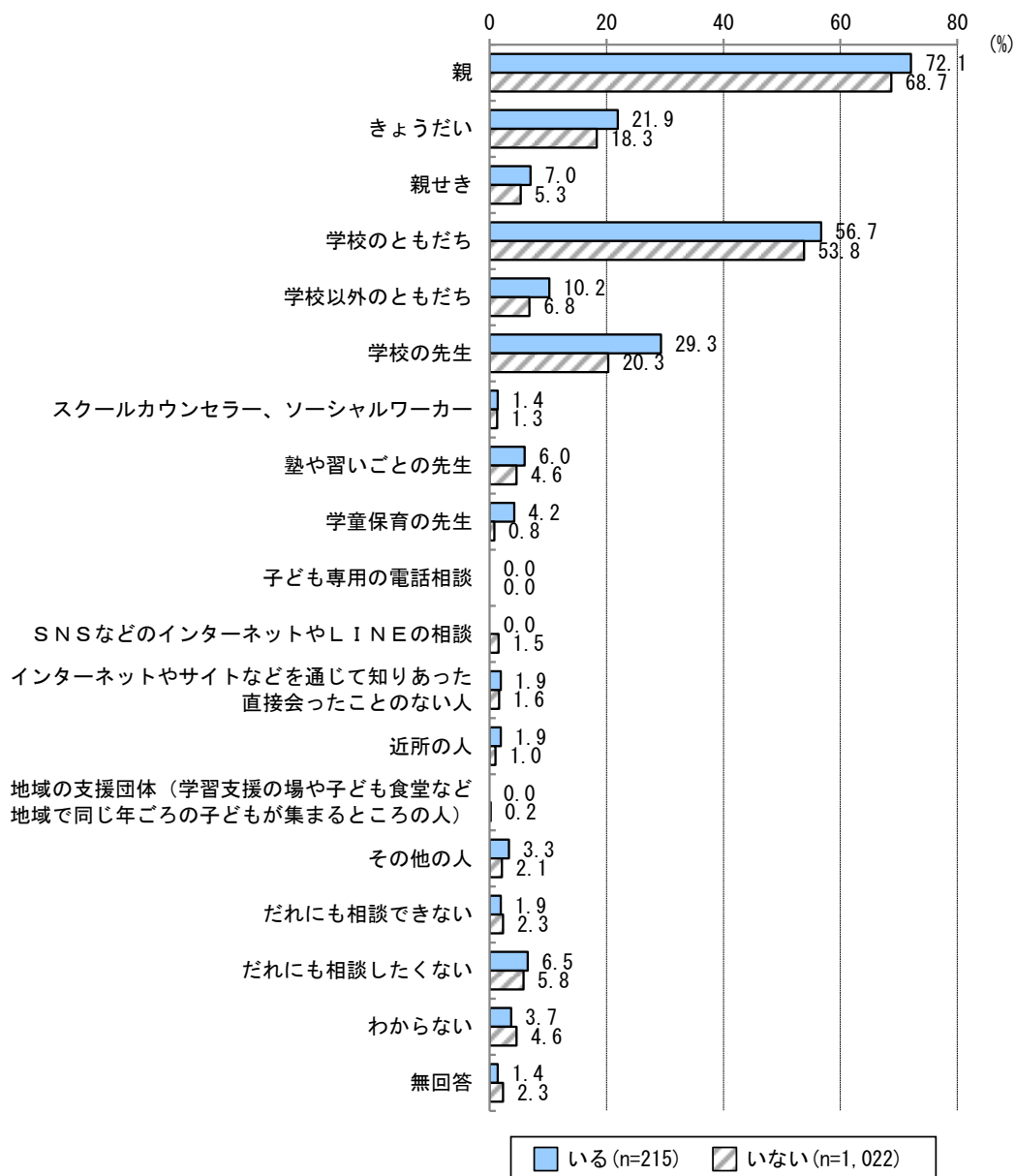
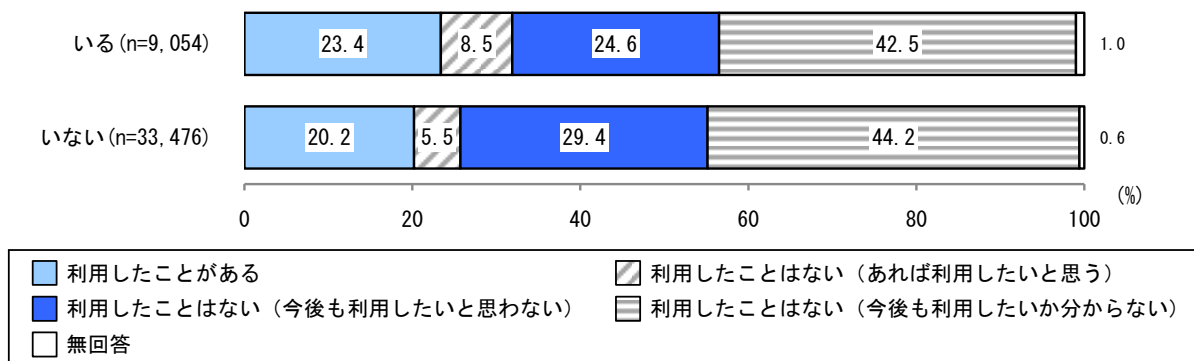


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「学校の先生」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが29.3%と割合が高くなり、他の相談相手より差が大きくなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<八尾市>

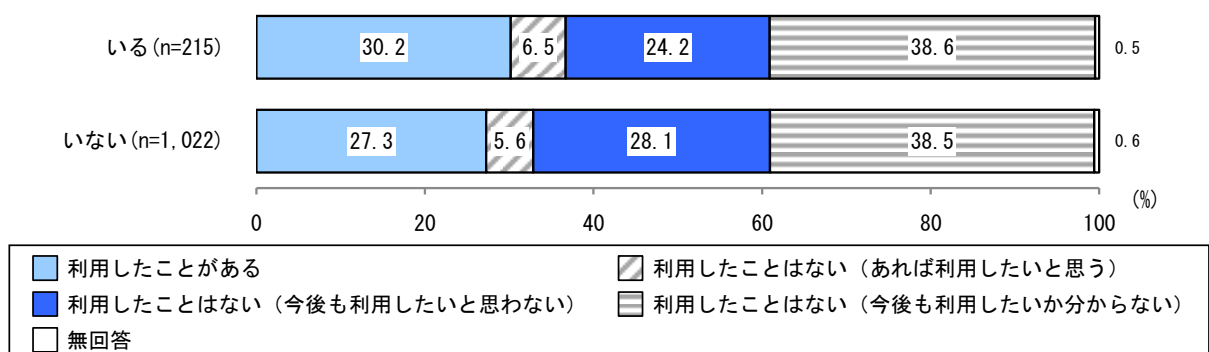
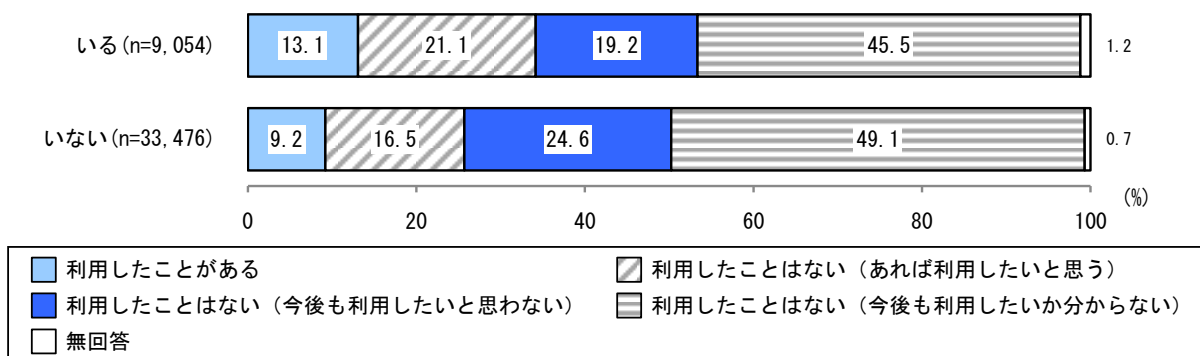


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが、割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

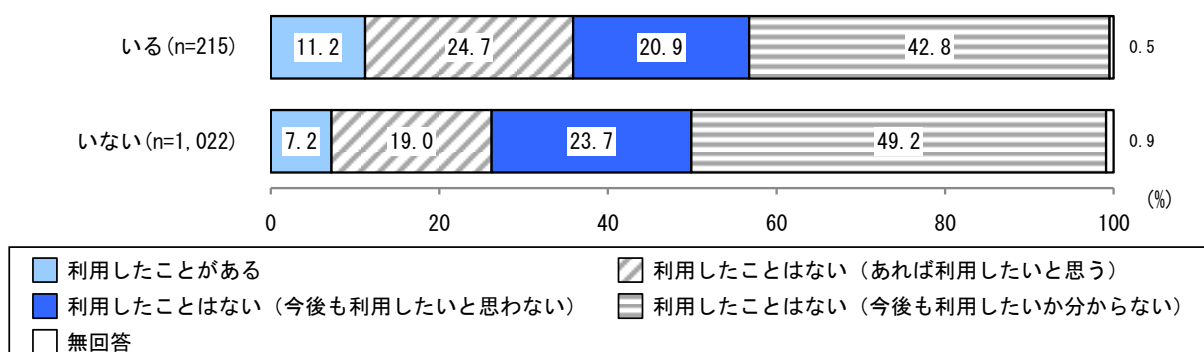
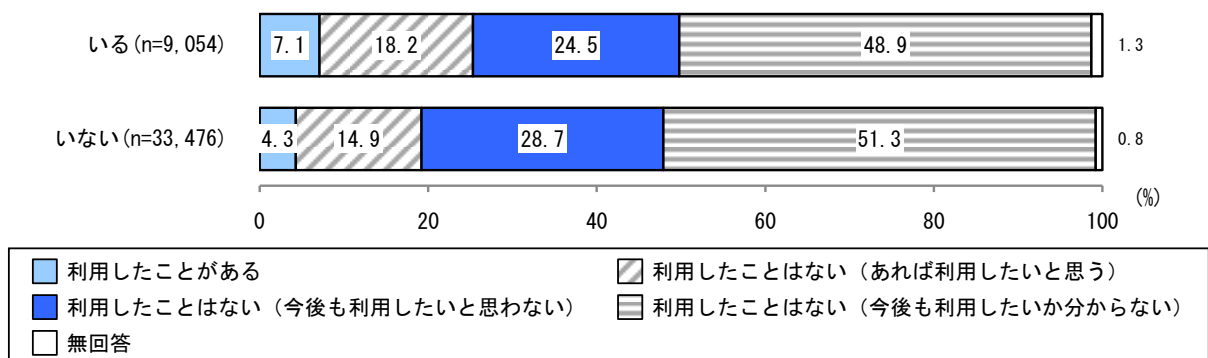


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが、割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<八尾市>

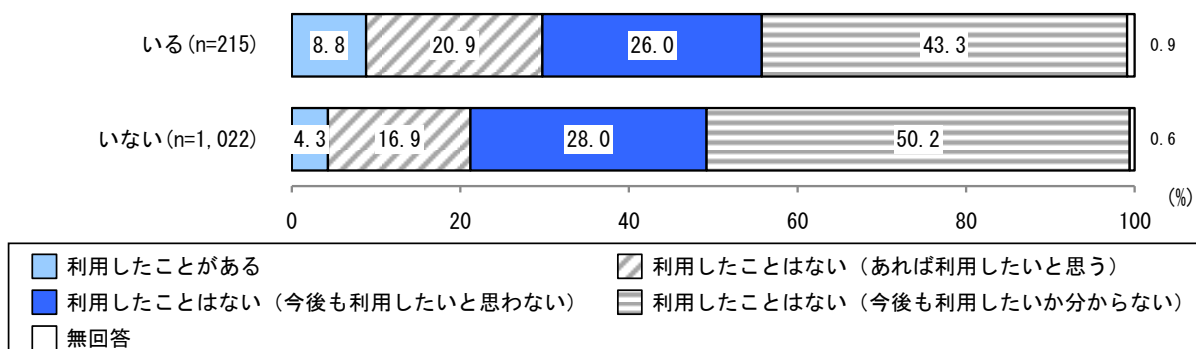
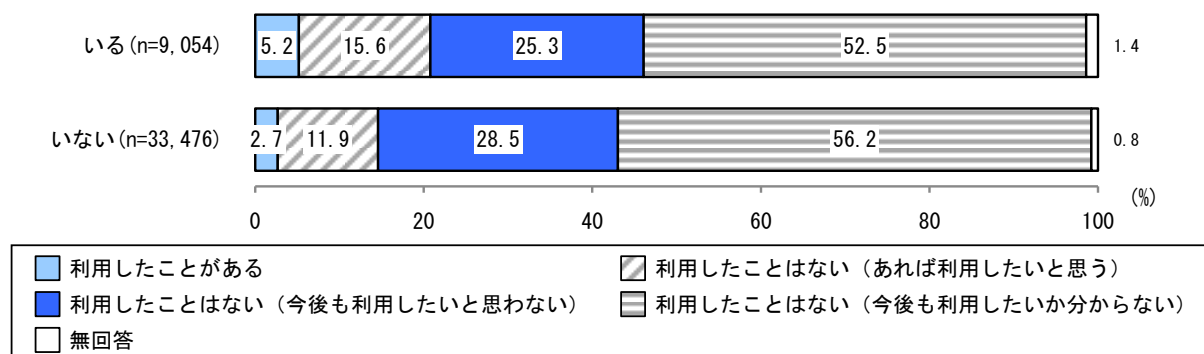


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが、割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<八尾市>

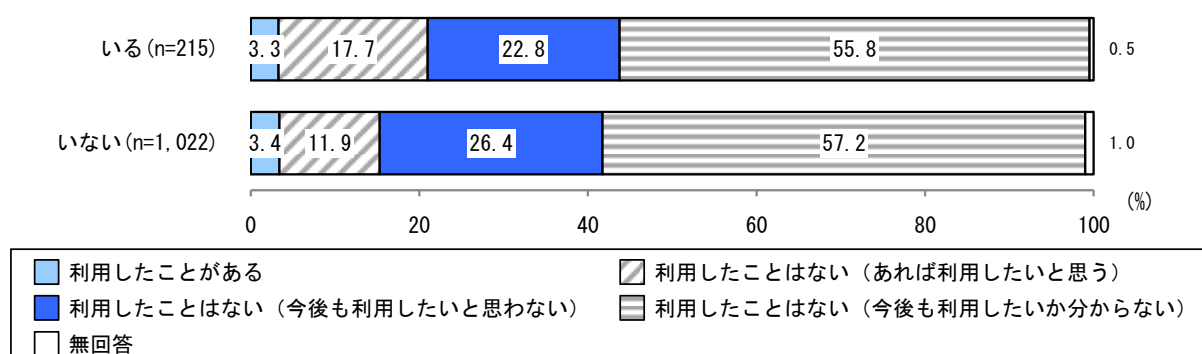
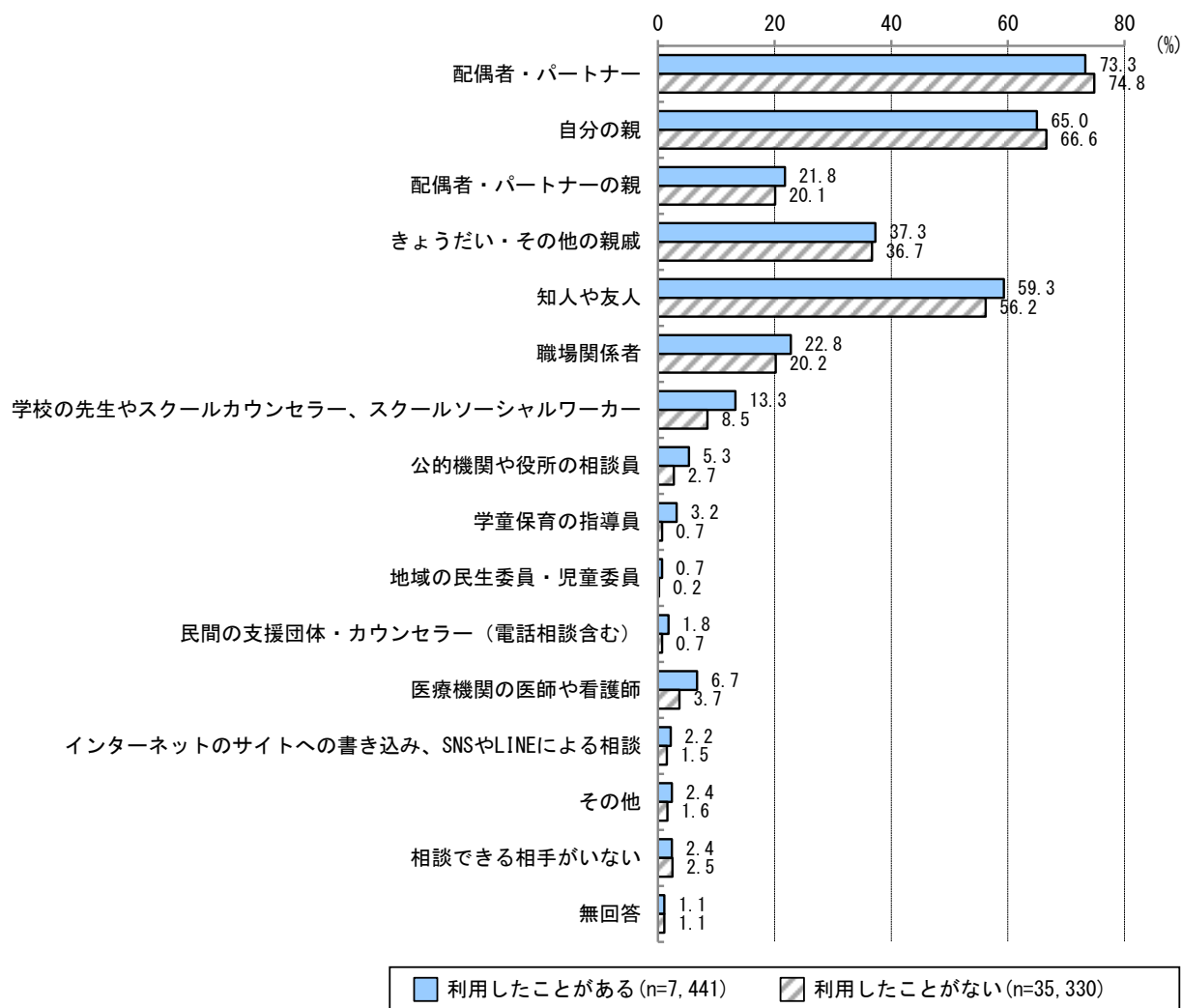


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが、割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<八尾市>

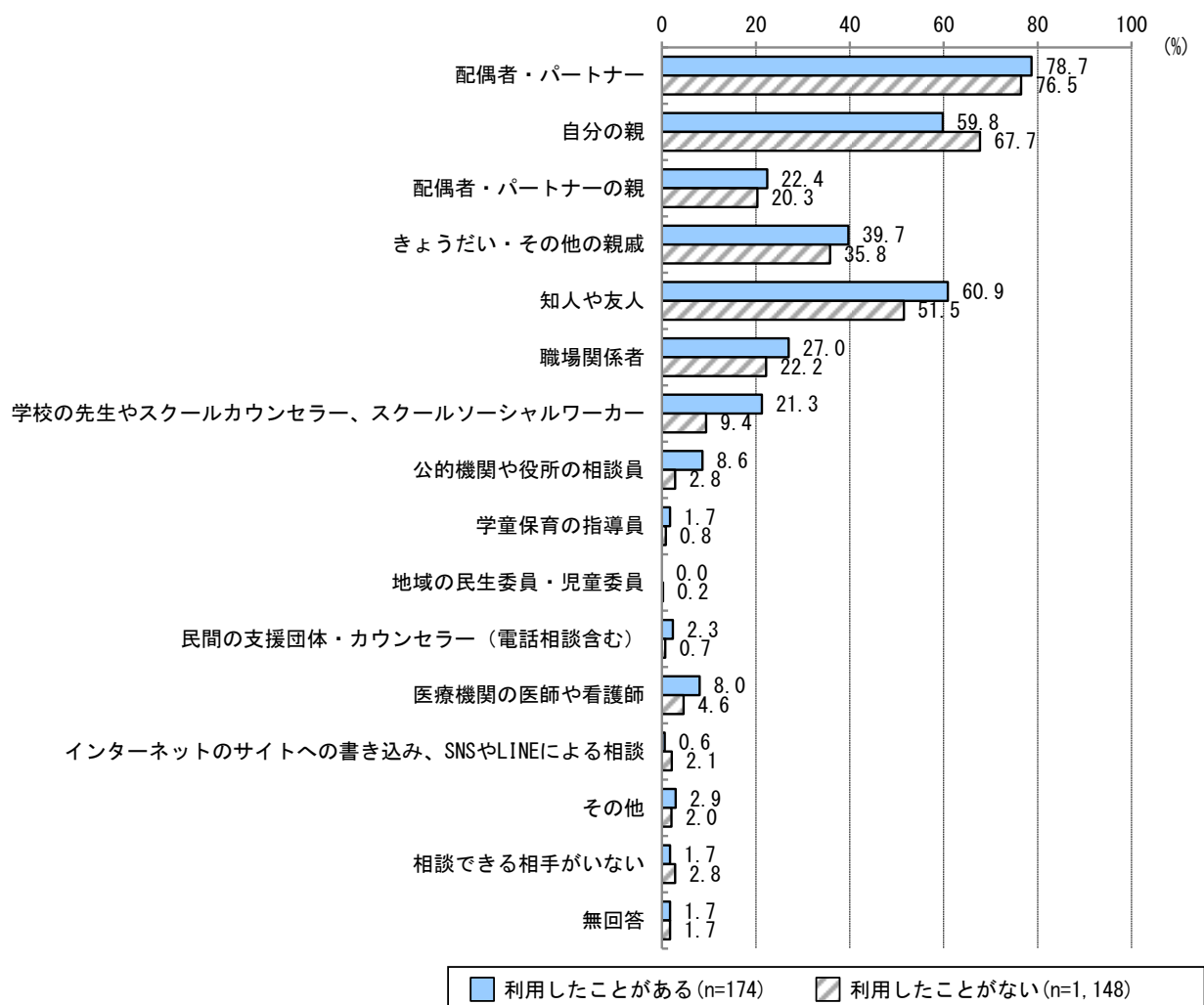
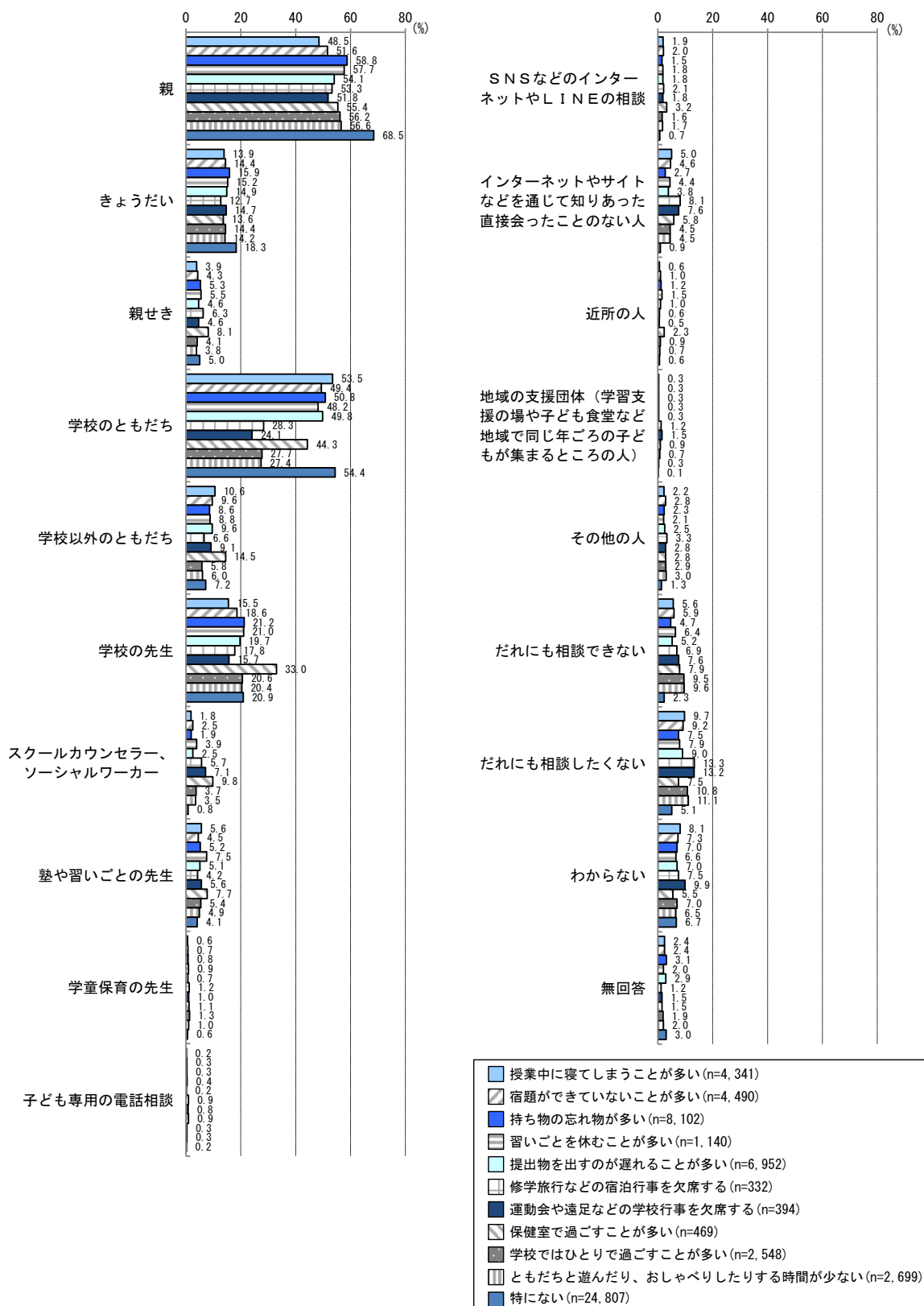


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「自分の親」と回答した人の割合は、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 16×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

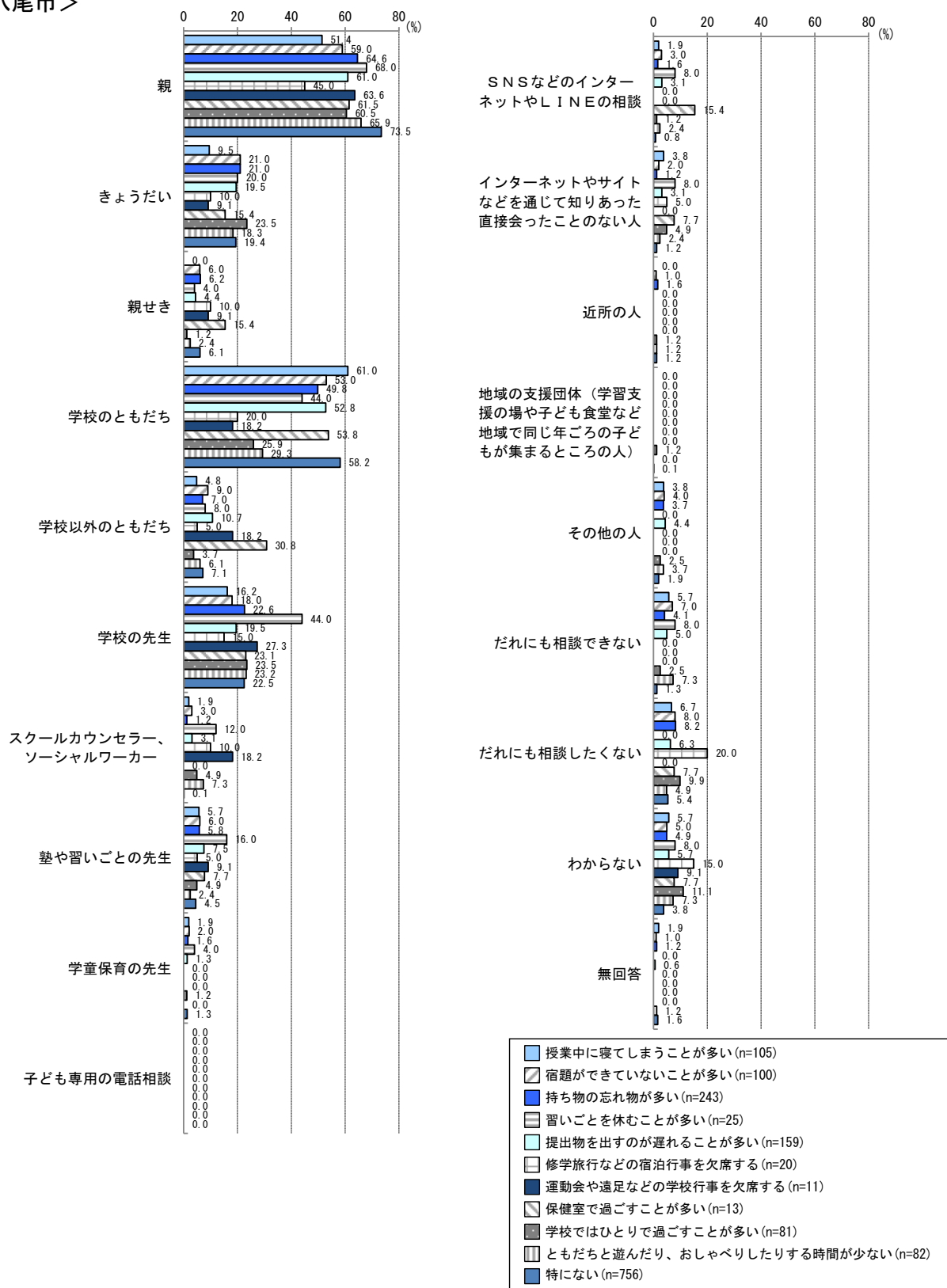
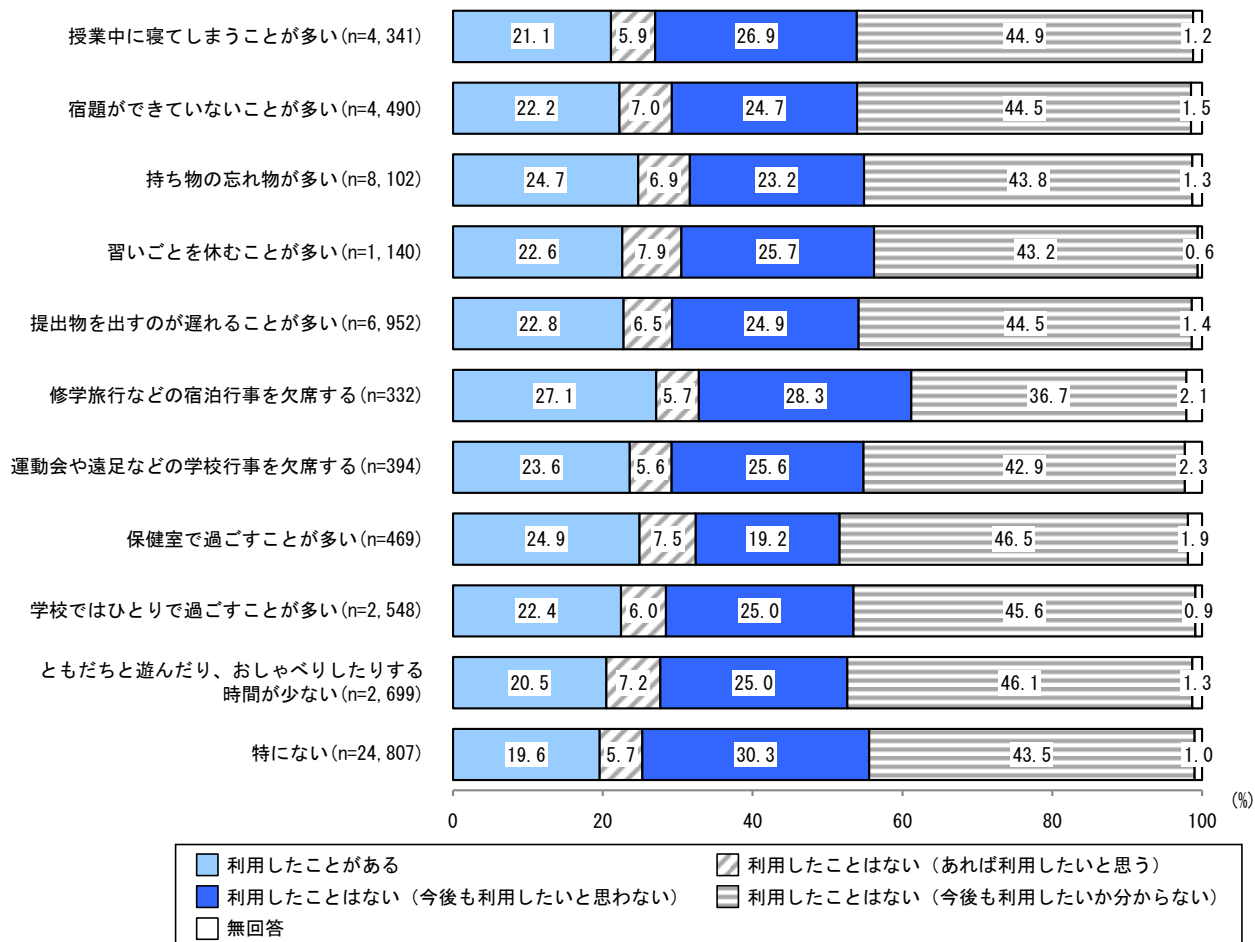


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「習いごとを休むことが多い」と回答した人の割合が68.0%で最も高く、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した人の割合が45.0%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<八尾市>

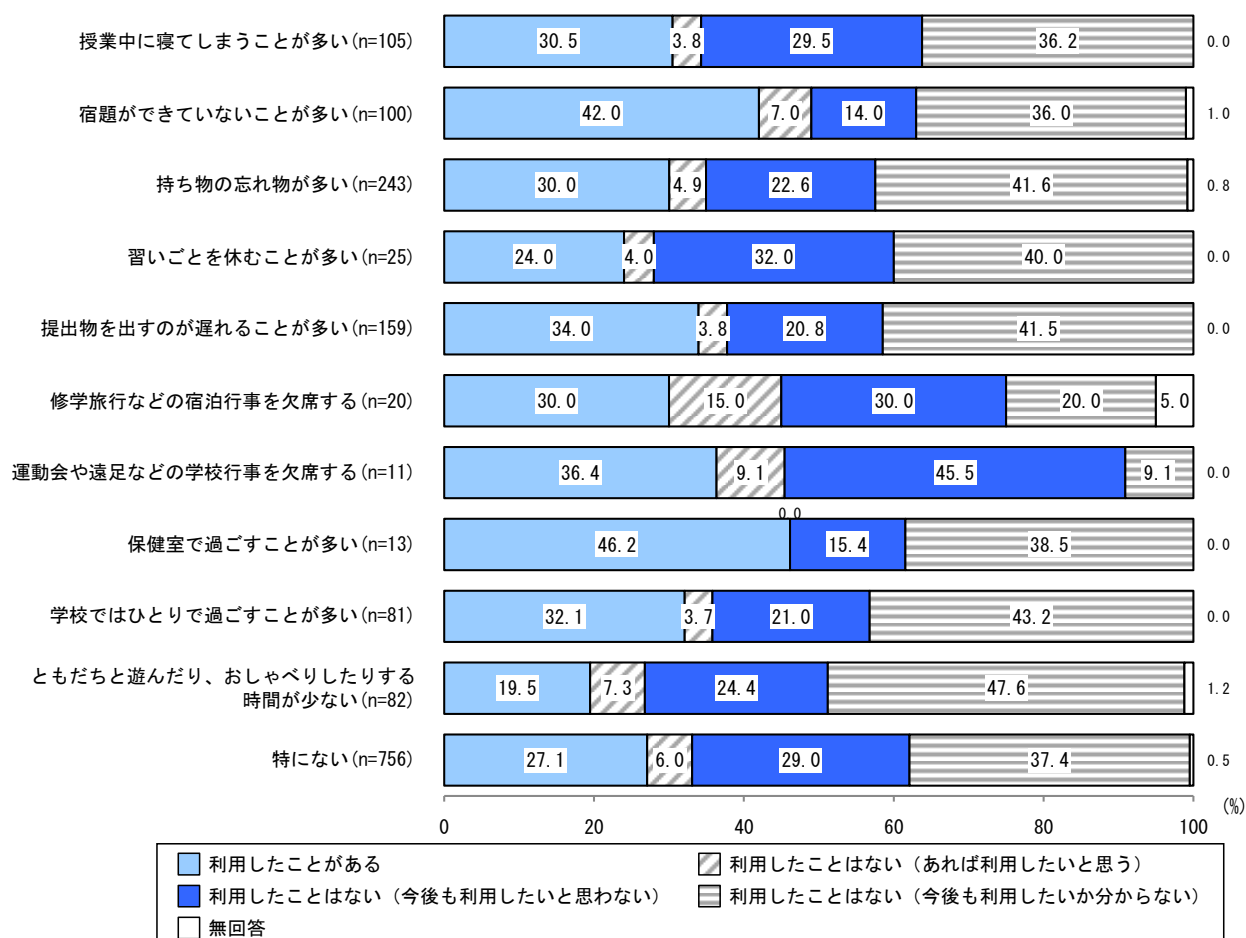
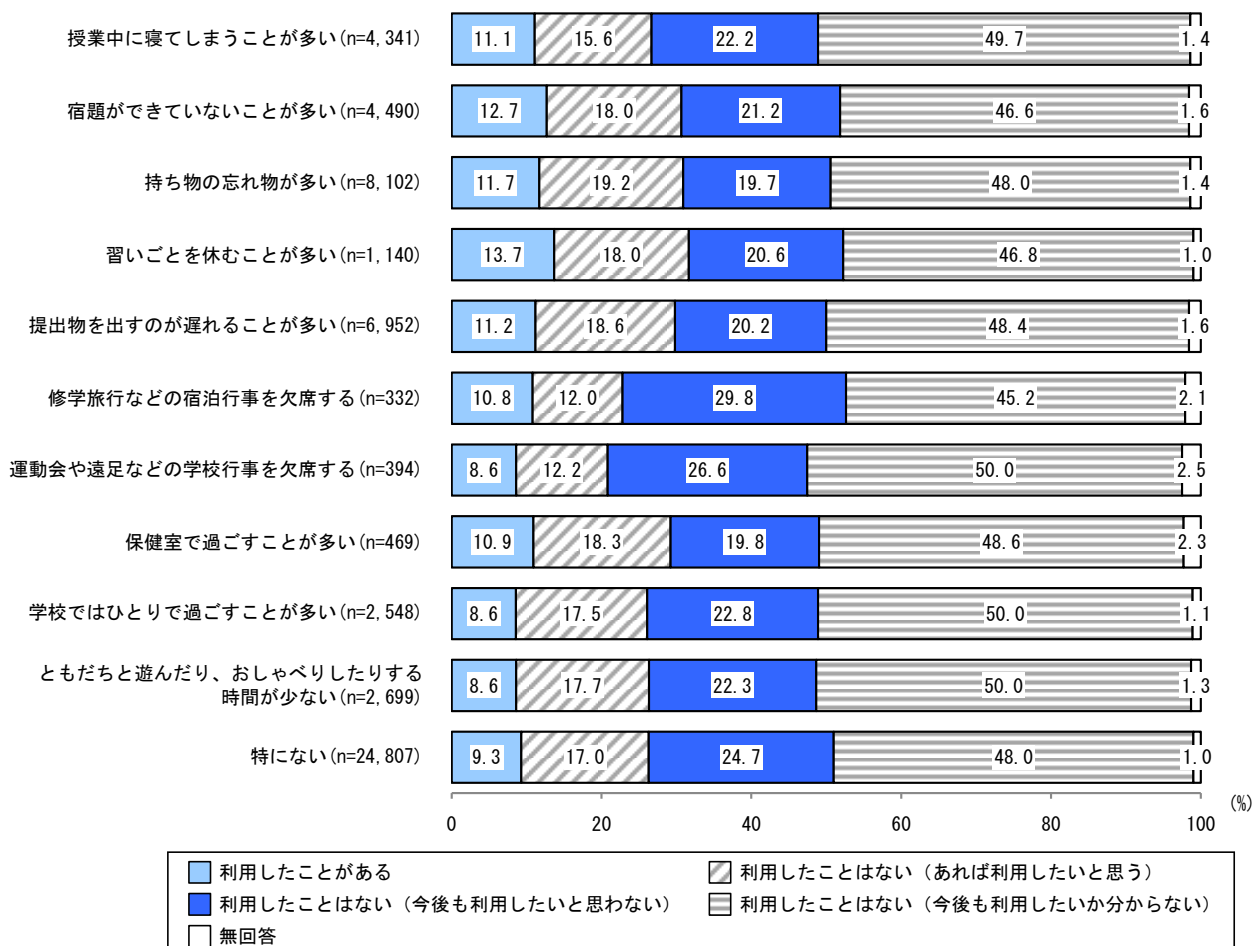


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は「保健室で過ごすことが多い」が46.2%で最も高く、次いで「宿題ができていないことが多い」が42.0%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<八尾市>

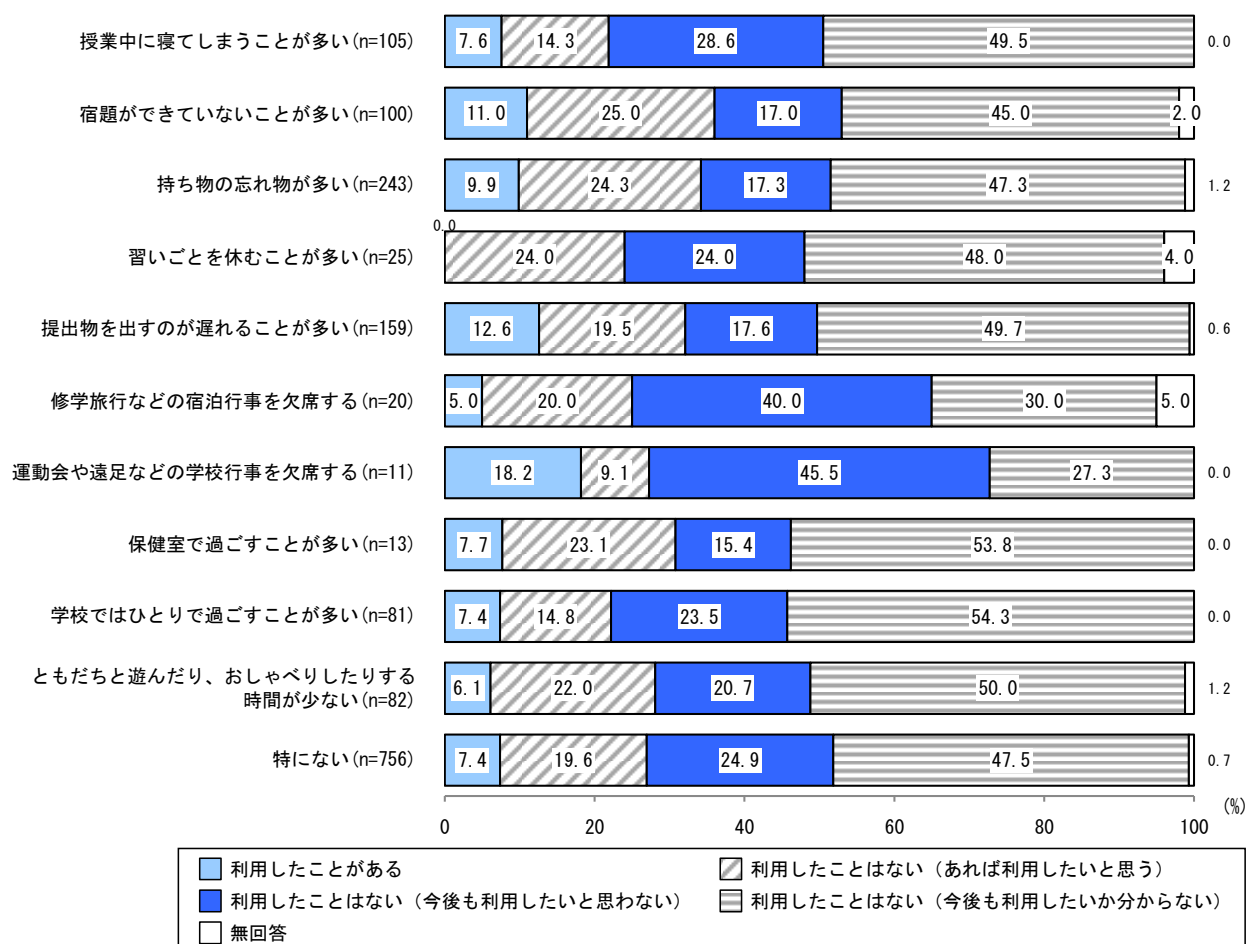
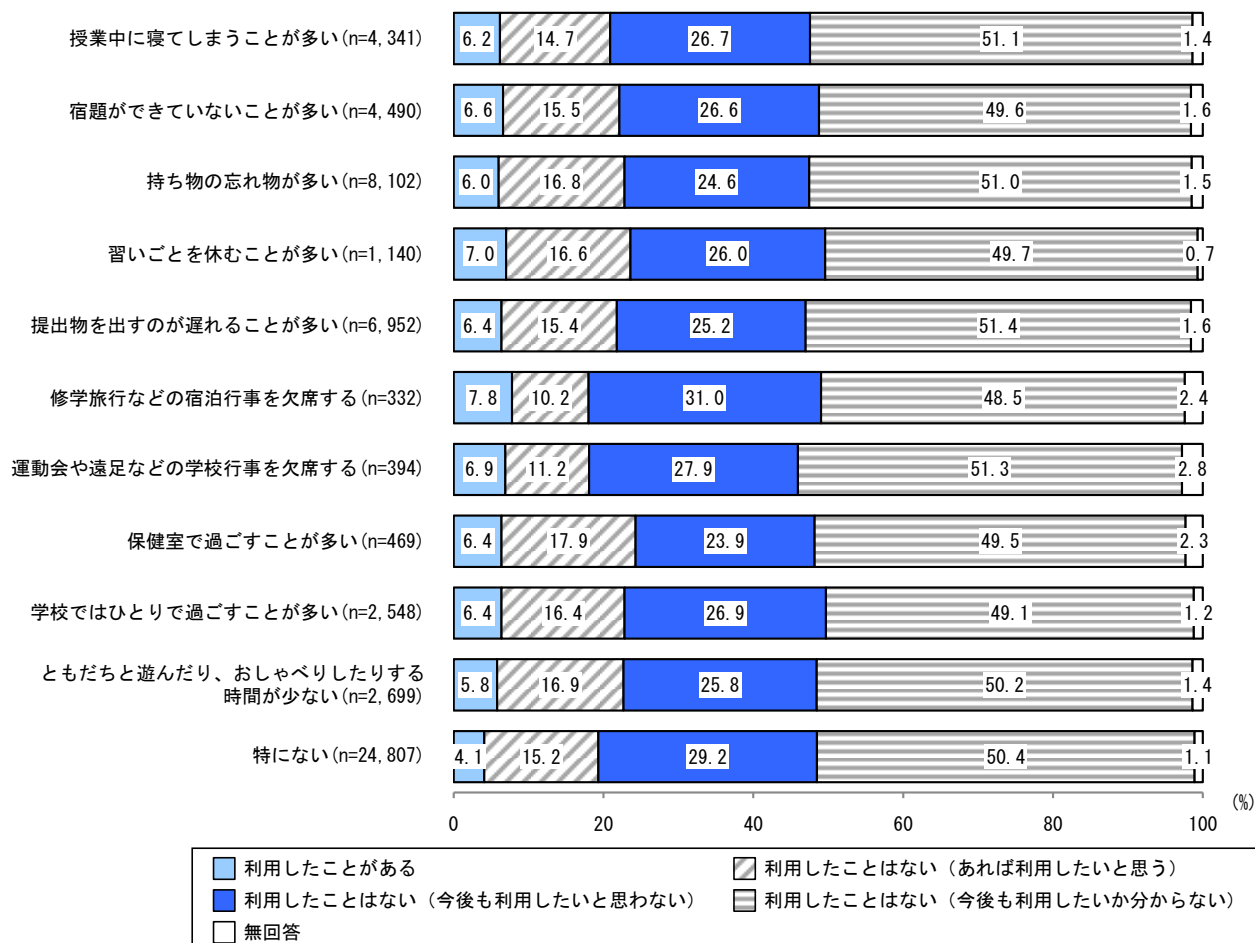


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」が18.2%で最も高く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が12.6%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<八尾市>

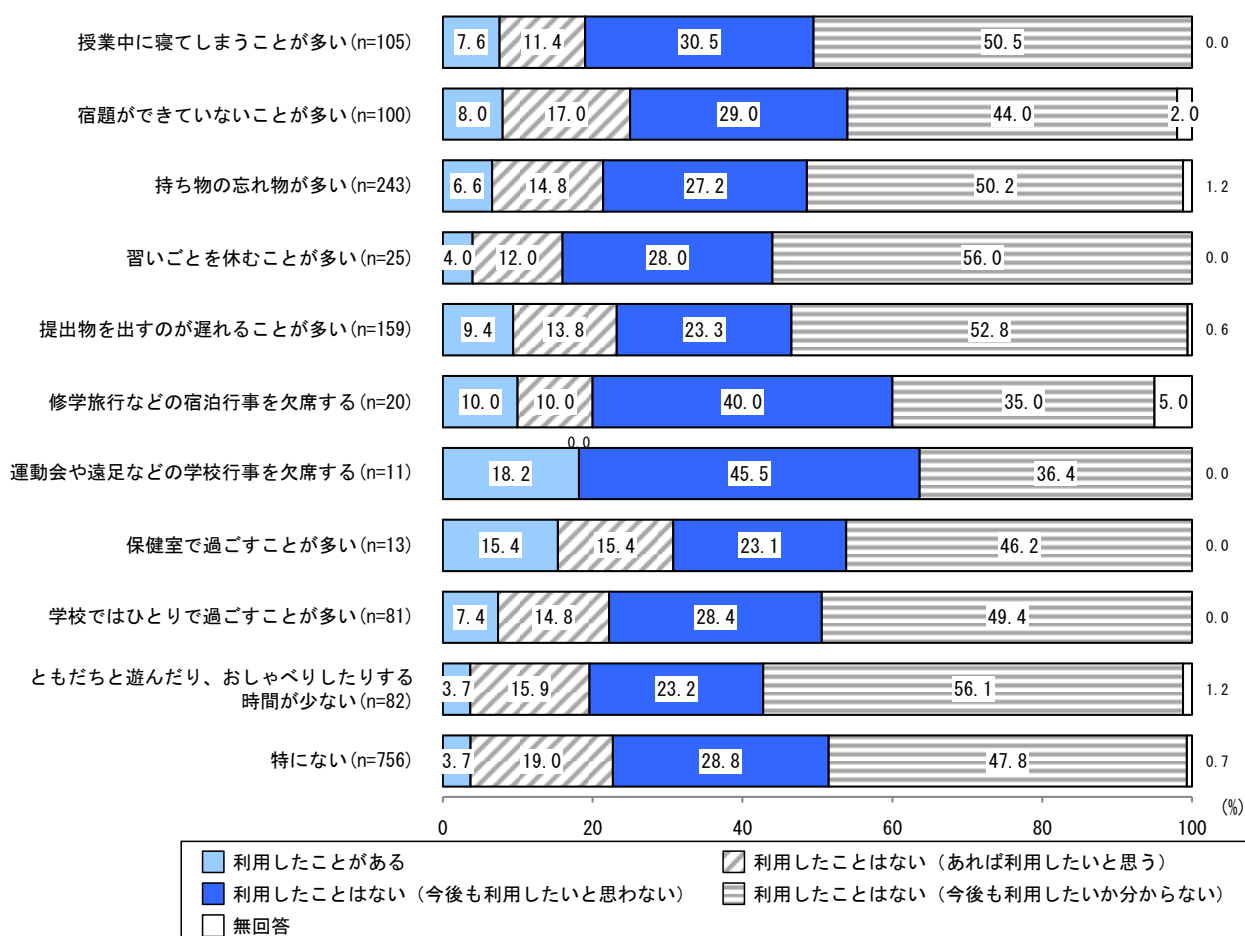
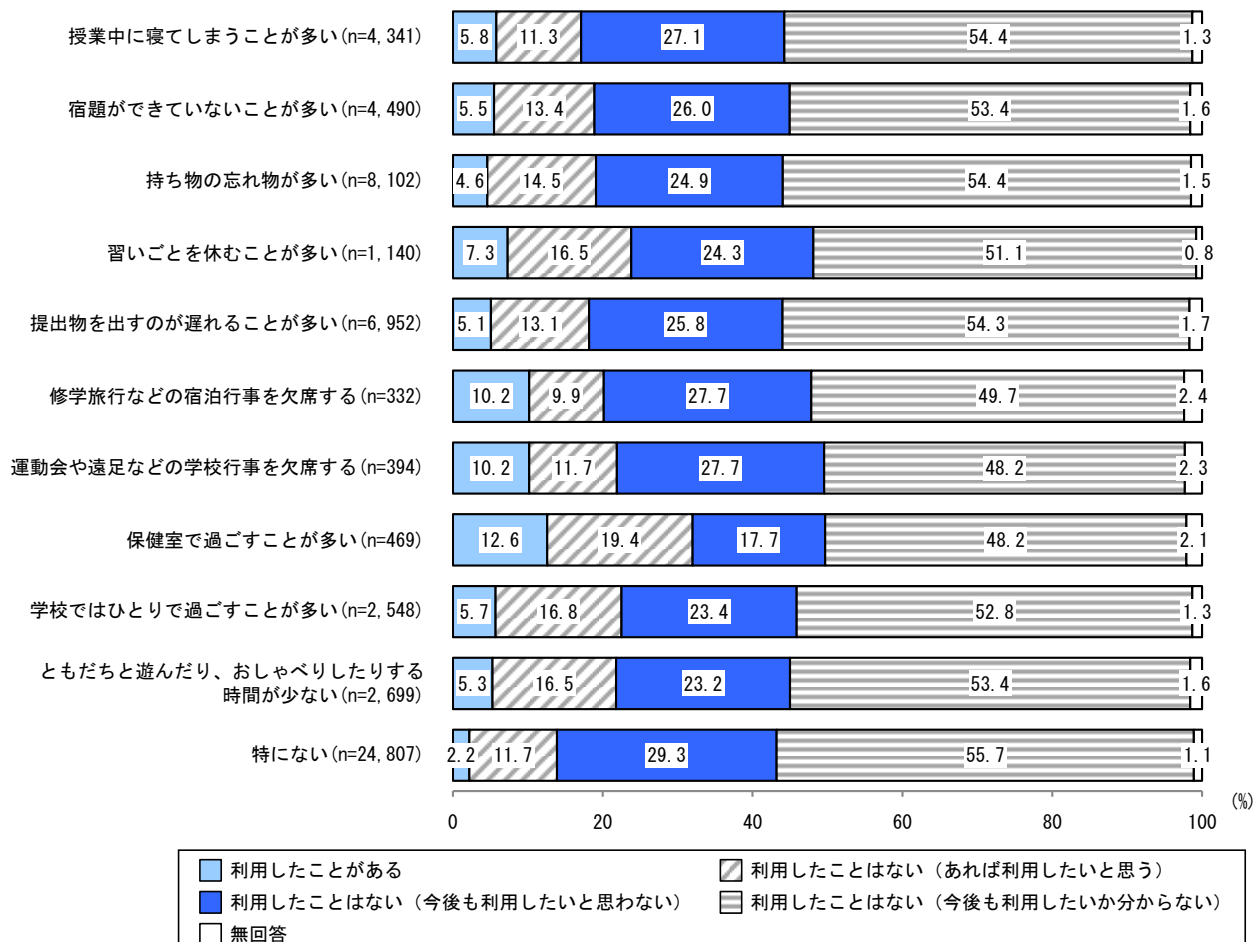


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」が18.2%で最も高く、次いで「保健室で過ごすことが多い」が15.4%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<八尾市>

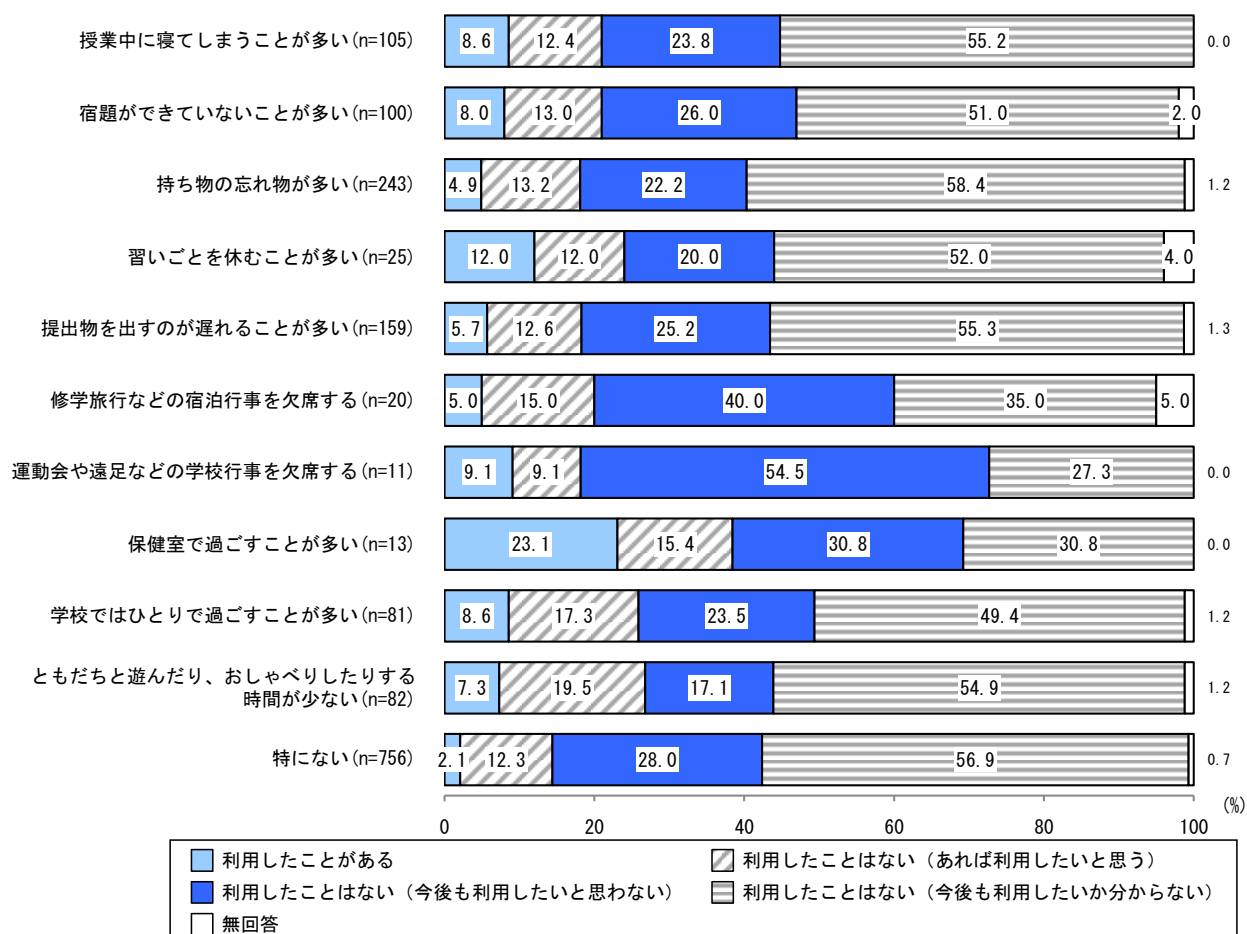
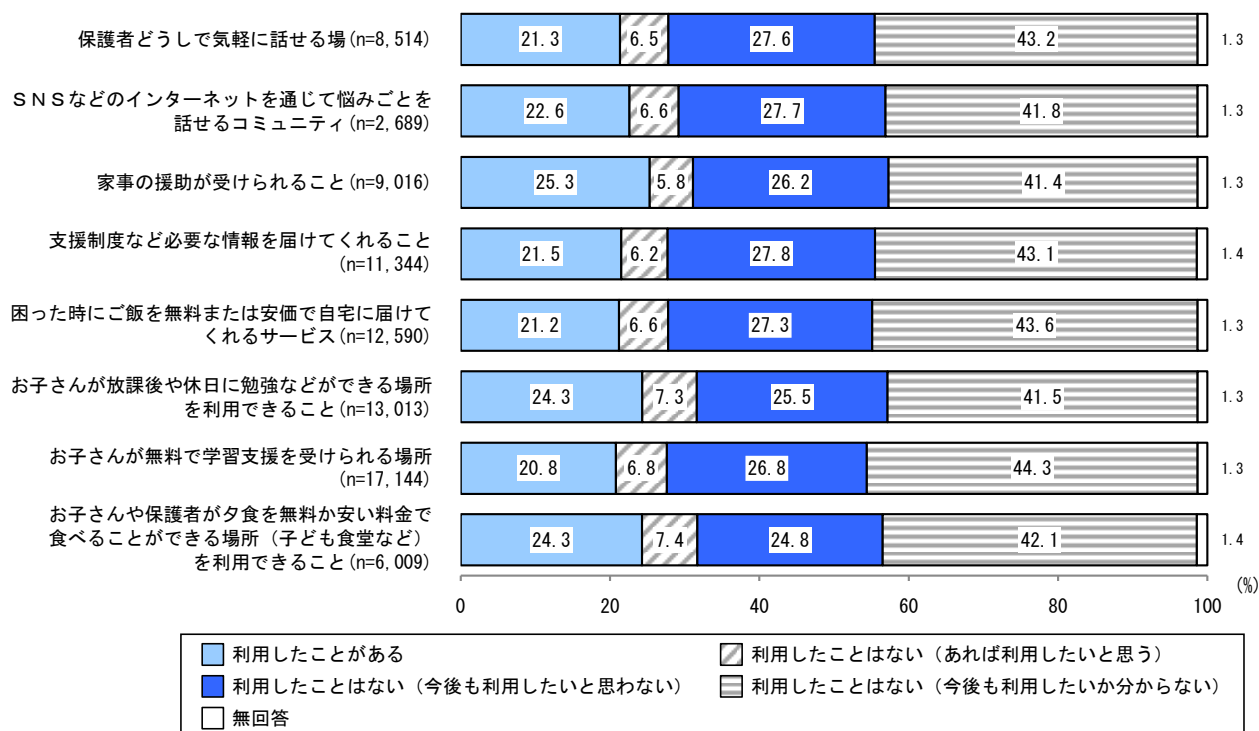


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は「保健室で過ごすことが多い」が23.1%で最も高く、次いで「習いごとを休むことが多い」が12.0%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

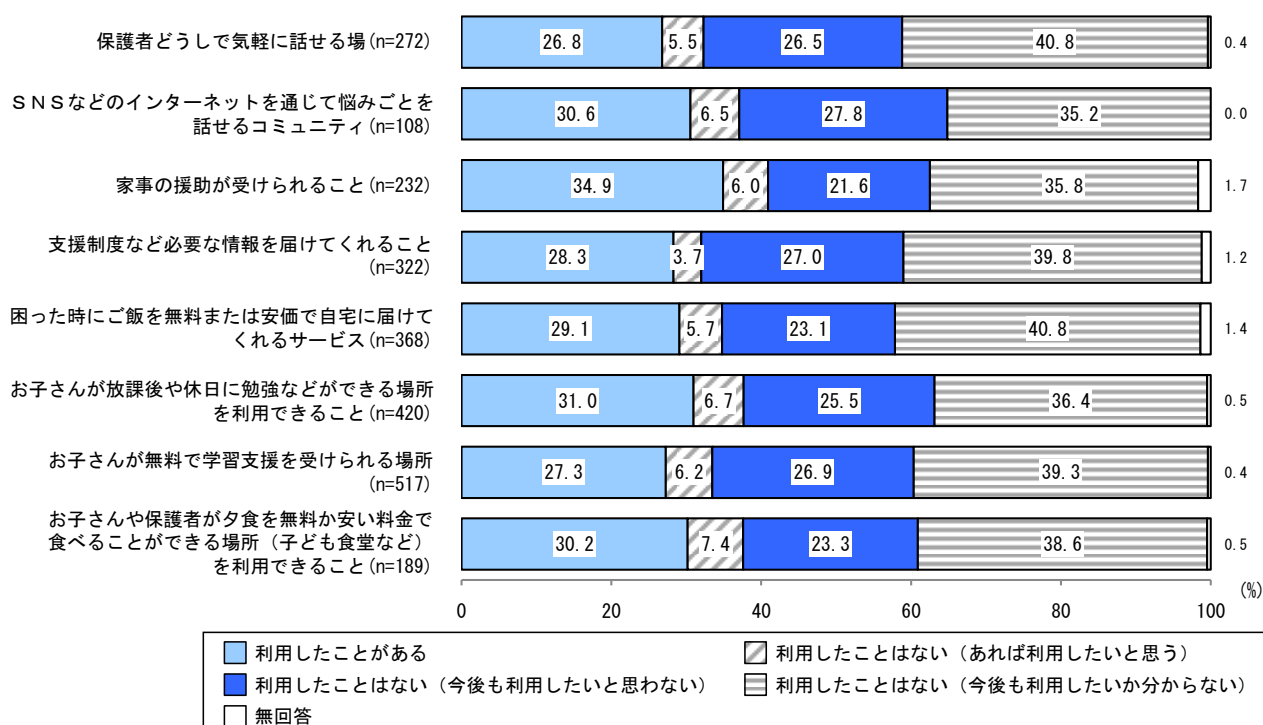
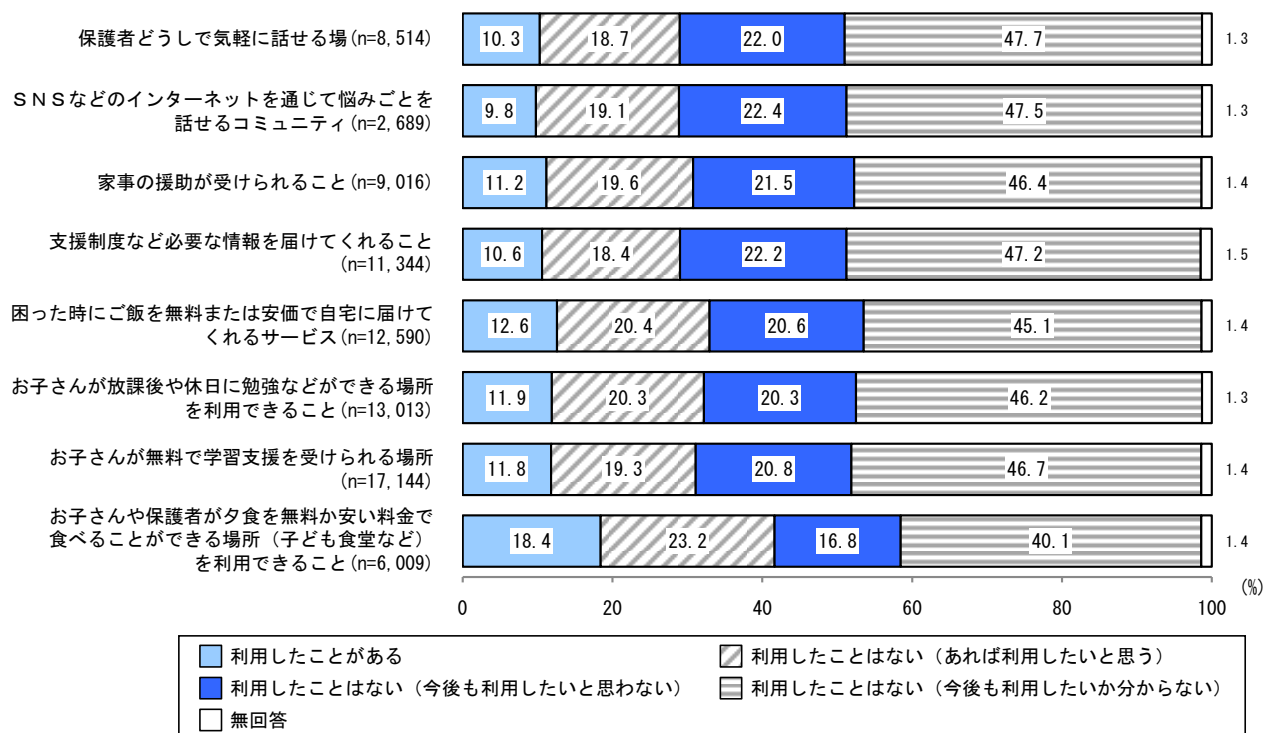


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「家事の援助が受けられること」が34.9%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が31.0%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

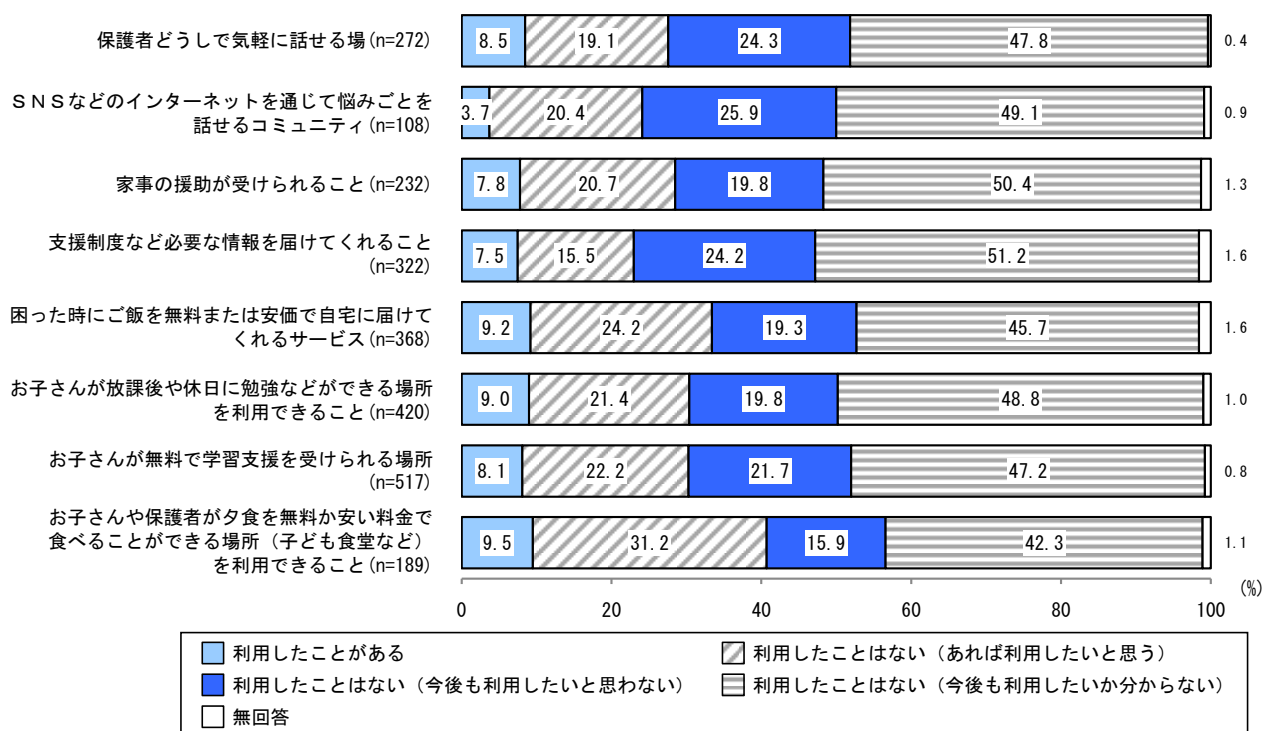
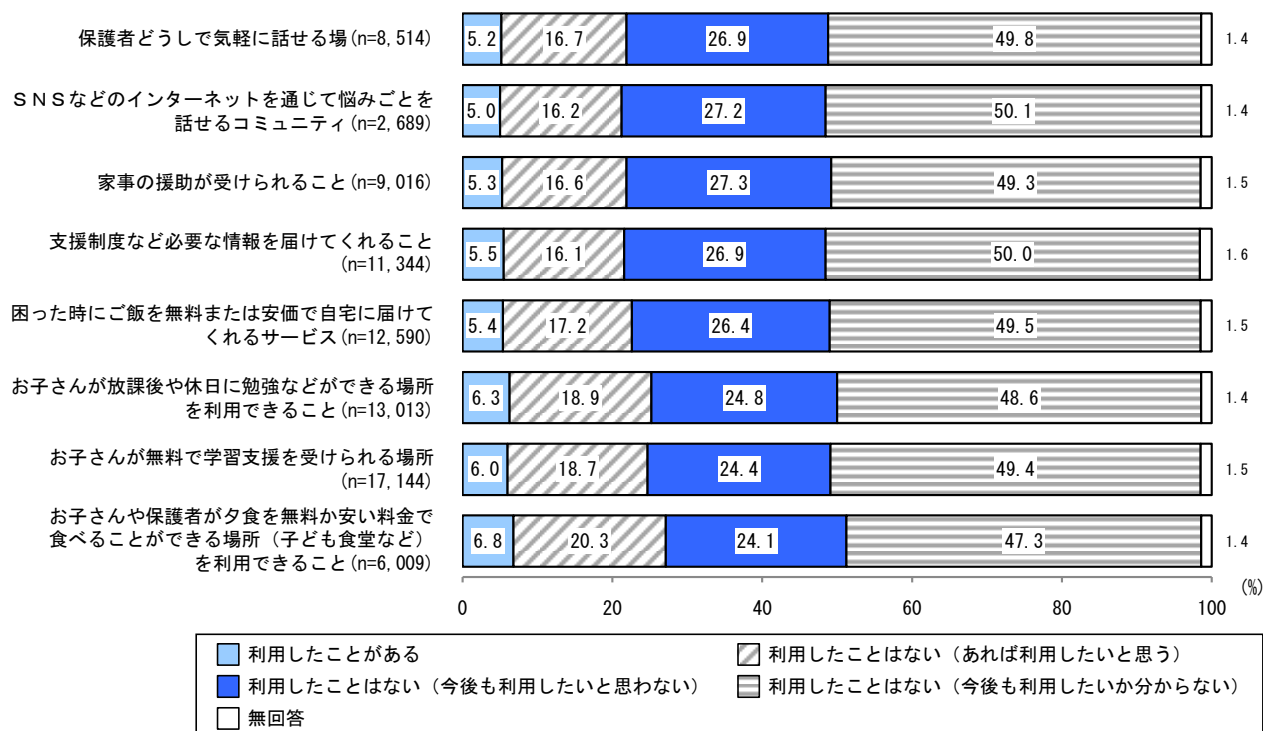


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が9.5%で最も高く、次いで「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が9.2%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

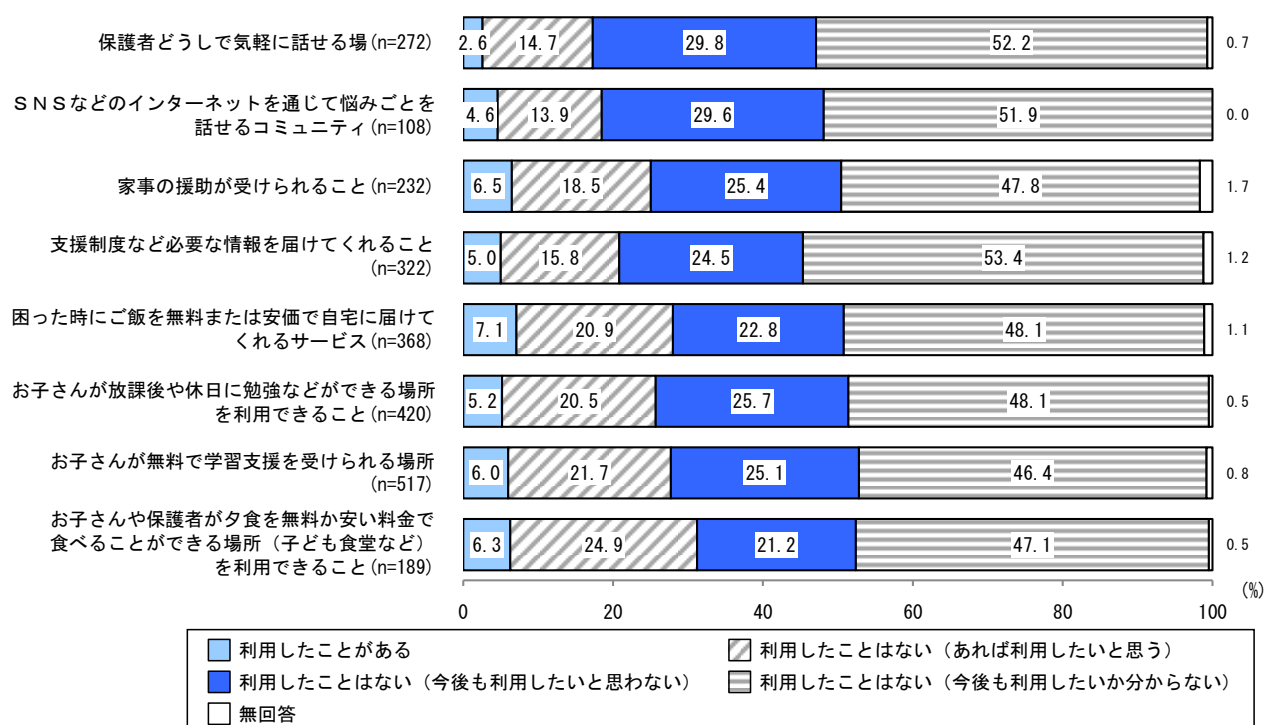
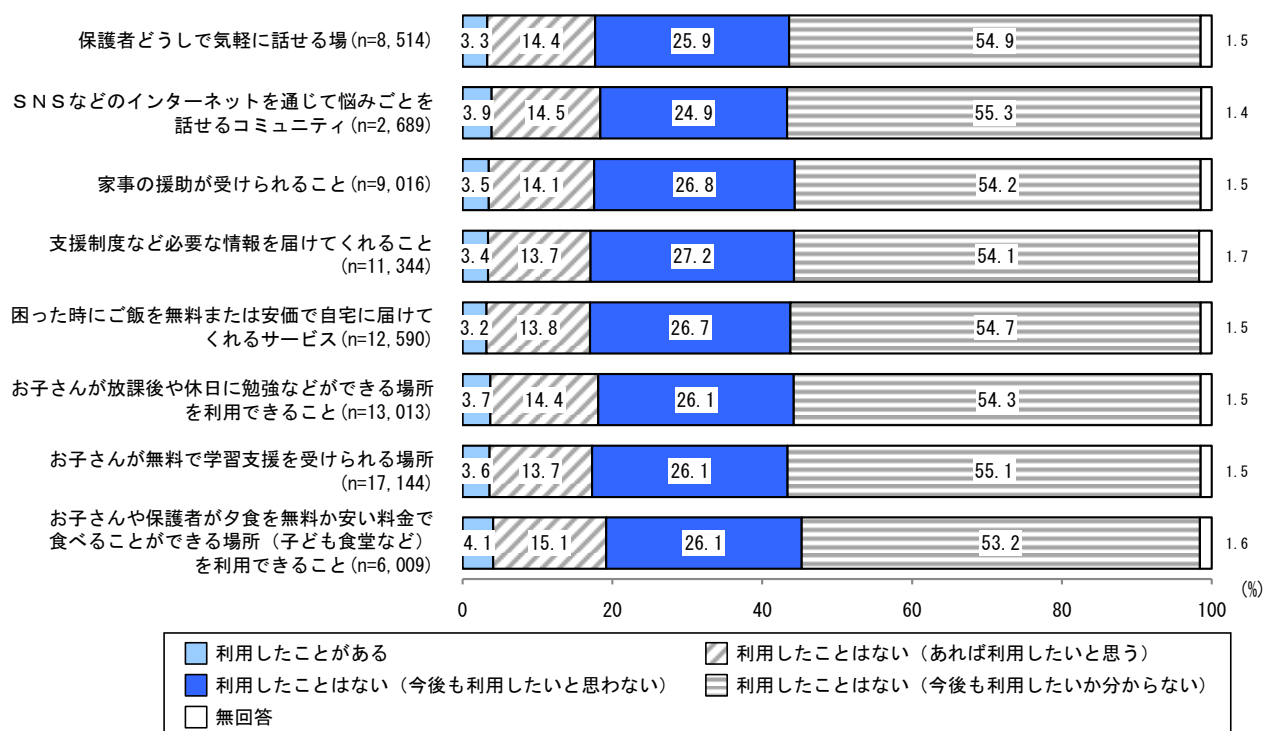


図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が24.9%で最も高く、次いで「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が21.7%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

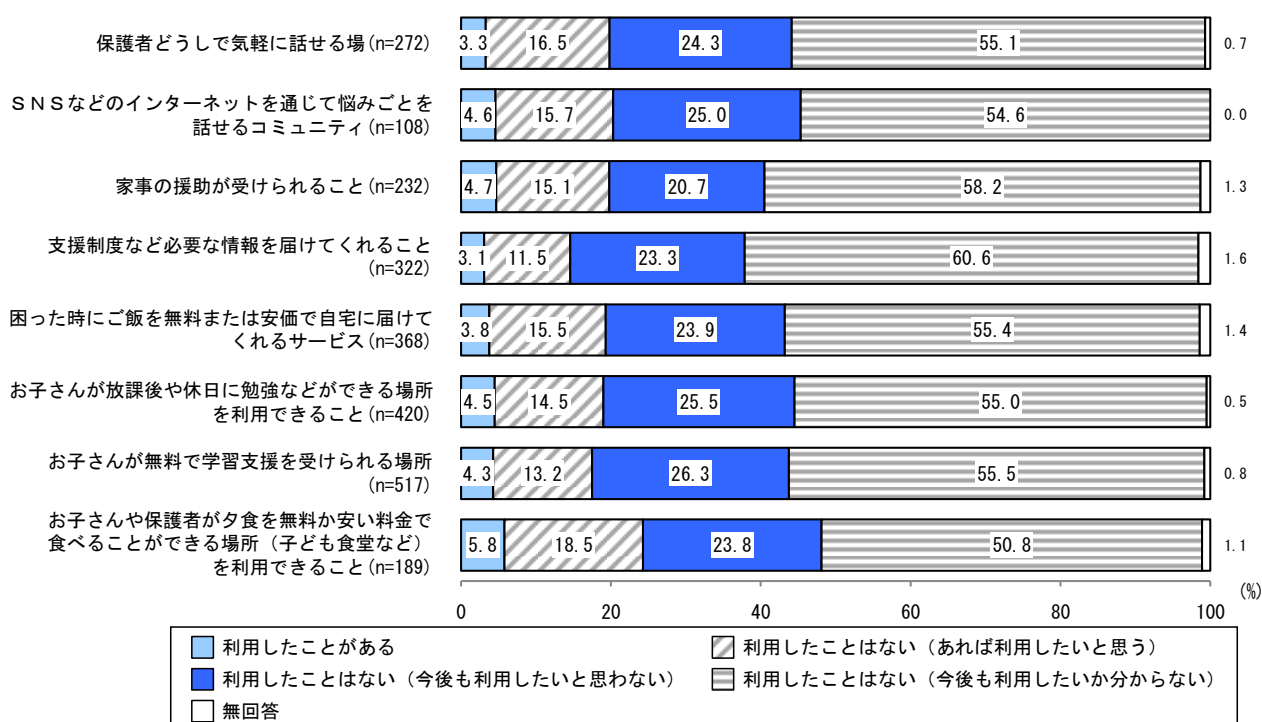
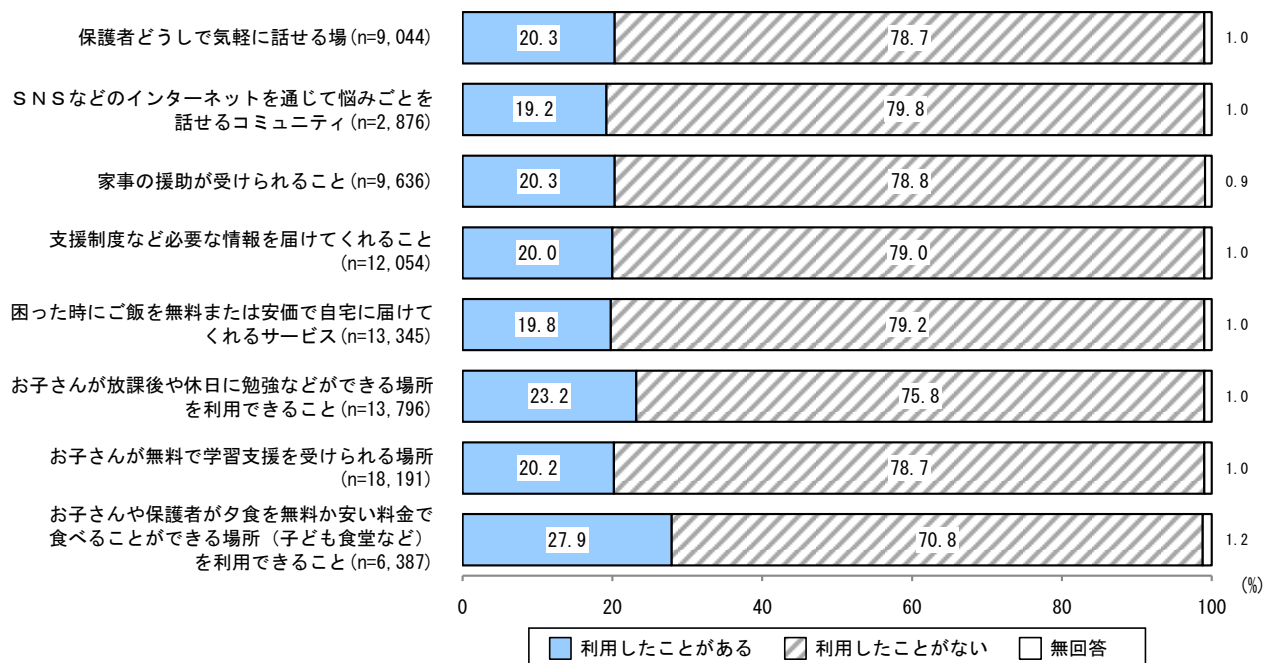


図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が18.5%で最も高く、次いで「保護者どうして気軽に話せる場」が16.5%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
(保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



＜八尾市＞

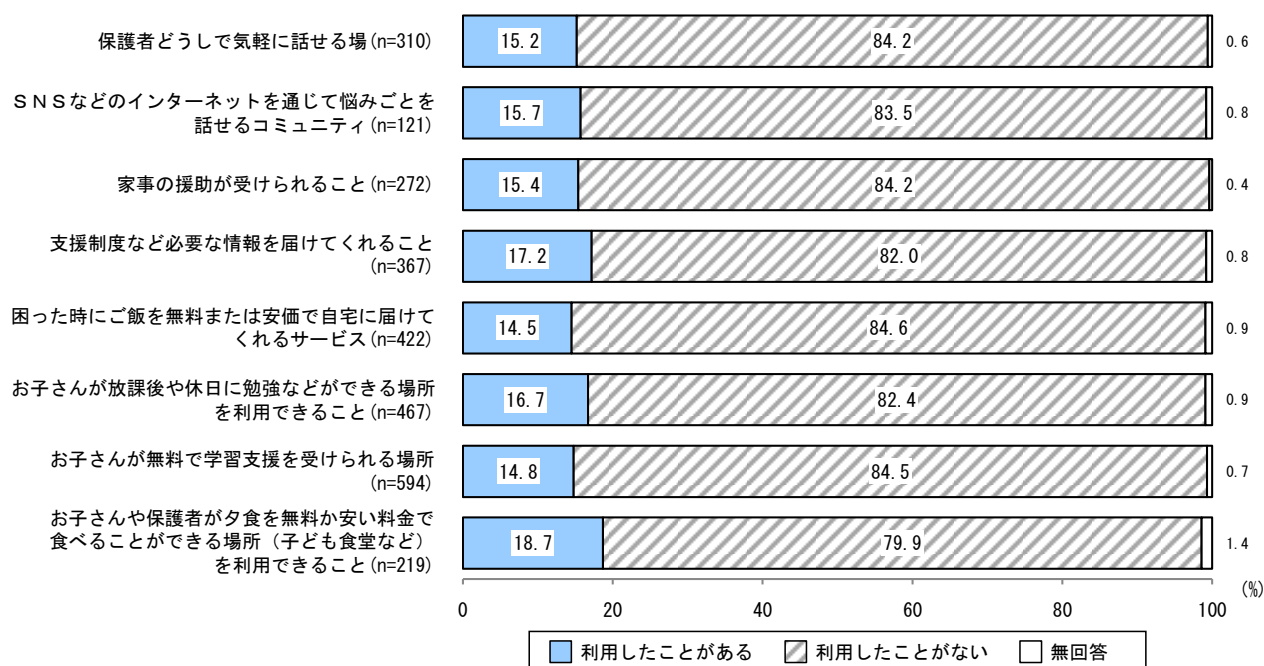
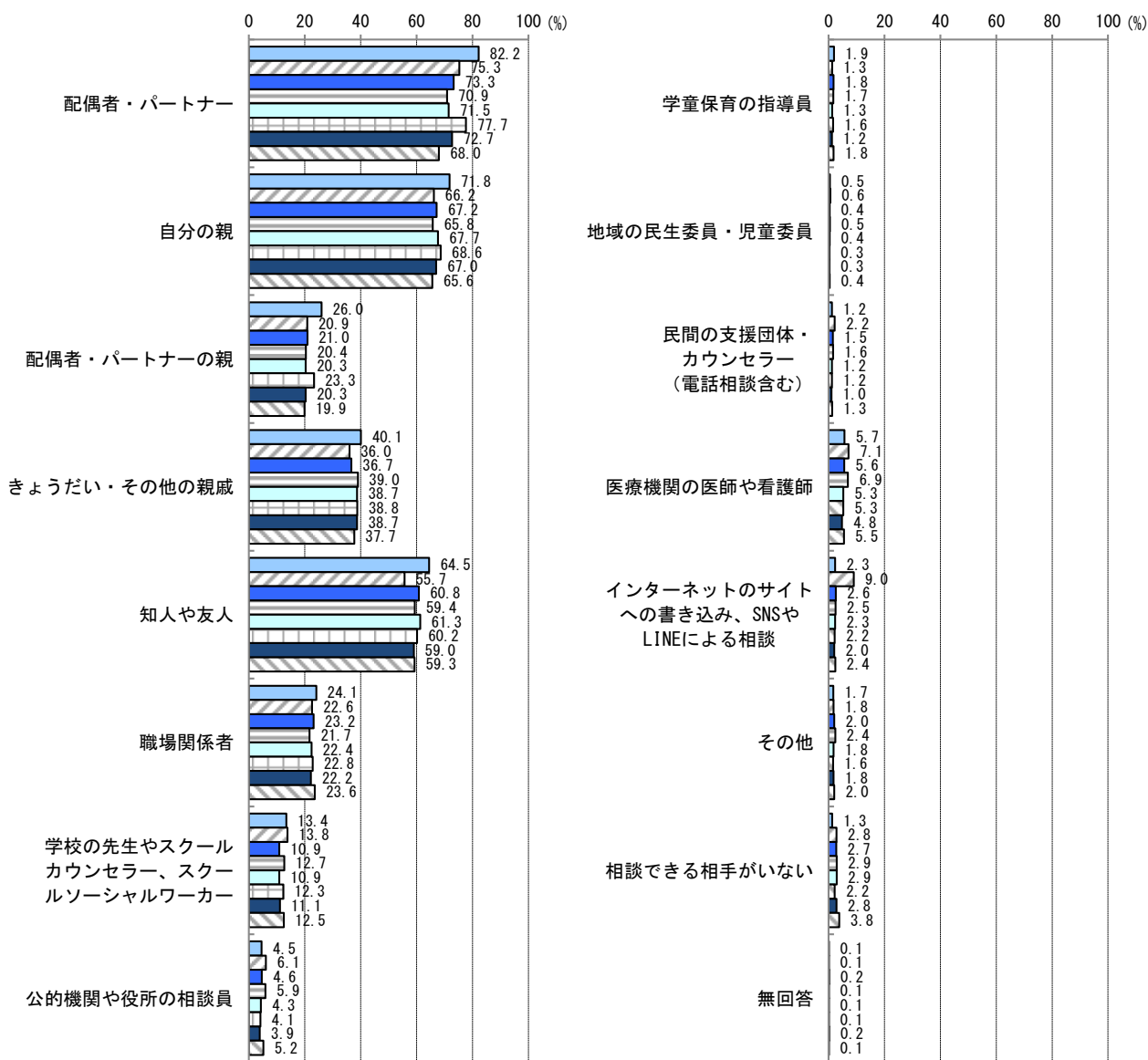


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が18.7%で最も高く、次いで「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が17.2%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9, 044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2, 876)
- 家事の援助が受けられること (n=9, 636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12, 054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13, 345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13, 796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18, 191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6, 387)

<八尾市>

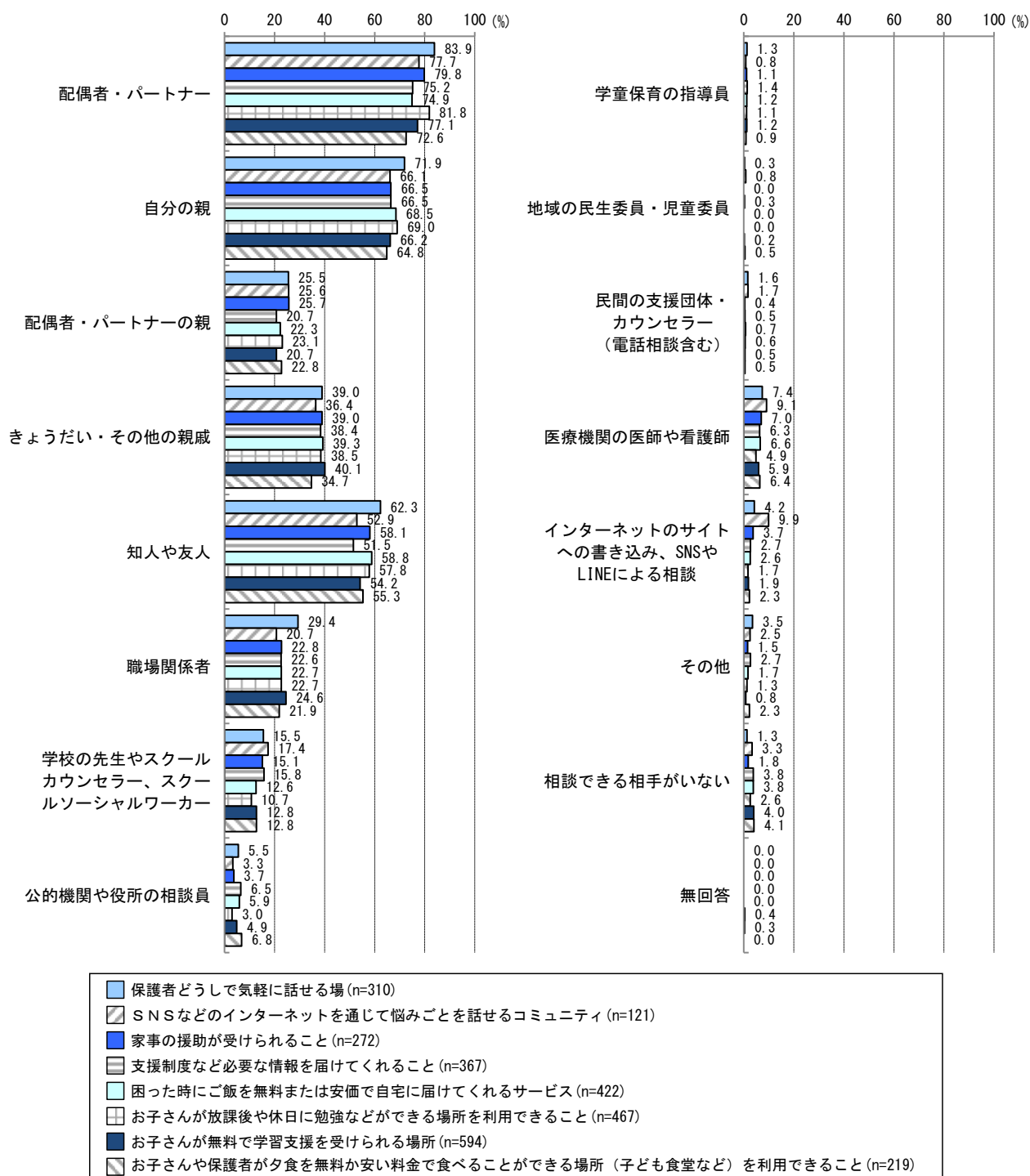


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が83.9%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が81.8%となっている。

<対人関係に関する考察>

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目した分析結果を以下にまとめる。子どもが「放課後に過ごす場所」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾」(35.2%対17.4%)が約2倍である。次いで「ともだちの家」(25.1%対14.8%)、「習いごと」(42.9%対30.9%)、「自分の家」(91.6%対83.2%)が約10ポイント高くなっている。一方で困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学童保育」(9.4%対5.1%)が4.3ポイント高くなっている。子どもが「放課後に一緒に過ごしている人物」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「おうちの人以外の大人」(30.5%対18.8%)と一緒に過ごす割合が約12ポイント高く、次いで「学校のともだち」(56.2%対48.3%)と一緒に過ごす割合が約8ポイント高くなっている。「毎日の生活で楽しいこと」では中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾や習いごとで過ごしているとき」(27.6%対20.1%)が楽しいと考えている子どもの割合が7.5ポイント高く、次いで「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」(17.0%対10.7%)が楽しいと考えている子どもの割合が6.3ポイント高くなっている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセスが制限されるだけでなく、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されていることが示唆される。また、地域行事を代表とした社会的イベントへの参加ハードルが下がっていることが示唆される。「嫌なことや悩んでいるときの相談相手」では中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「学校のともだち」(55.2%対48.3%)を相談相手に選ぶ割合が6.9ポイント高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「きょうだい」(22.1%対17.3%)を相談相手に選ぶ割合が4.8ポイント高くなっている。これらのことから、子どもの教育的な活動へのアクセスが容易であるほど家族外の人間関係の親密度が高くなること、そうでない場合は家族内での人間関係の親密度が高くなっていることが示唆される。

困窮度別に子どもの世話をしている人の有無をみると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、誰かの世話をしている割合が高くなっている(22.1%対16.0%)。また、子どもの世話している人の有無別に相談相手をみると、世話をしている子どもはそうでない子どもと比べて、「親」(72.1%対68.7%)、「きょうだい」(21.9%対18.3%)、「学校のともだち」(56.7%対53.8%)、「学校以外のともだち」(10.2%対6.8%)、「学校の先生」(29.3%対20.3%)、「学童保育の先生」(4.2%対0.8%)に相談する割合が高く、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」(30.2%対27.3%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所」(11.2%対7.2%)、「勉強を無料か安い料金でみってくれる場所」(8.8%対4.3%)といった居場所を利用している割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆される。

また、子どもが世話している人の有無別に子どもの居場所の利用状況をみると、世話をしている子どもはそうでない子どもと比べて、居場所の利用割合(18.3%対11.8%)が高くなっている。さらに、「お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから」(5.4%対2.7%)、「栄養バランスがとれた食事がとれるから」(10.8%対2.7%)、「運営者が相談に乗ってくれるから」(10.8%対3.6%)、「低額(または無料)でご飯が食べられるから」(16.2%対8.1%)、「宿題など勉強を見してくれるから」(29.7%対17.1%)、「お子さんが楽しんでいるから」(70.3%対64.9%)を「子どもの居場所を利用することで良いと思うこと」として挙げている。これらの結果から、子どもの居場所は経済的に困難な家庭をサポートする役割を果たしていると考えられる。一方で「地域の人とつながれるから」という点については期待通りの結果につながっておらず、また利用しない理由として両群とも「どこにあるか知らないから」を挙げていることから、各家庭の社会的帰属感を満た

し、社会的に孤立しないような社会的支援が望まれる。

一方、困窮度別に保護者の相談相手をみると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「配偶者・パートナー」(84.6%対49.4%)に相談する割合が約35ポイント高くなっている。次いで「配偶者・パートナーの親」(21.0%対14.4%)、「職場関係者」(25.2%対20.1%)、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(13.4%対6.9%)に相談する割合が約5～6ポイント高くなっている。また世帯構成別に保護者の相談相手をみると、母子世帯群及び父子世帯群はふたり親世帯群に比べ、「相談できる相手がいない」(11.9%及び11.1%対1.7%)割合は約10ポイント高くなっている。これらの結果は、経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示唆される。

また地域社会の相談相手の有無別に、子どもが「おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか」について着目すると、地域社会に相談相手がいる群は地域社会に相談相手がいない群に比べて、「ほとんど毎日」(23.2%対10.5%)勉強をみてもらっている割合は約2倍高くなっている。また「おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか」についても「ほとんど毎日」(47.9%対43.3%)話している割合は4.6ポイント高くなっている。これらのことから、特定の世帯構成の保護者は相談相手がいないため、子どもの教育的な活動に関心を向けるほどの余裕がないことが示唆される。

※参照データについては一部資料編に掲載

Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、2016年の調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察においては大阪府、つまりほかの各市町村が実施した数値で検討を行う（大阪府は府が直接実施した25市町村分であり、前回比較は2016年度実施の30市町村分で行う）。これまでグラフコメントやクロスの分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載してきた。総合考察においては、これらセクションコメントを踏まえ、2016年度と比較し変化のあるものや新規項目など、まさに考察すべきものを中心に記載する（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントに出てこないの、可能な限り数字を入れて説明する。そして、まとめではこれらの結果から必要な対策等を提案するものである。

1) 大阪府共同調査の意義

本調査では、八尾市のみならず大阪府内43自治体で共同実施して把握したことは、その回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、傾向として八尾市の調査結果を裏付けるものであった。

本報告では、すべての項目に大阪府内全自治体のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

2) 単純集計

<経済面・家庭状況（制度）面>

2016年度と比較して、大阪府の可処分所得の分布はほぼ前回と同じような形になっており、世帯構成や人数などに関しても大きな差は見られない。

八尾市でも、2016年度の前回調査（以後、前回調査とする）では26.4%の世帯が赤字であったが、今回はやや低くなり、20.2%であった。この値は、中2の世帯（30.2%）が小5の世帯（23.3%）より高かった前回とは異なり、中2の世帯（20.5%）と小5の世帯の割合（19.5%）はほぼ同じである。また、子どものための貯蓄をしたいができない状態が、前回36.5%が今回30.1%であった。持ち家率は前回80.9%だったのが、今回85.9%とやや上がった結果である。貯蓄率（37.3%→46.1%）が10ポイント上昇し、赤字率（26.4%→20.2%）が約5ポイント低くなった結果の中で、持ち家の傾向をどう見るのかは、コロナも含め災害が多発することで持ち家への価値観が変化してきて、言い換えれば、人々は将来のリスクに対抗するために貯蓄や資産を増やす傾向があるとも考えられる。

経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、生活における食費の切りつめやレジャーを控えるなどの項目は、2016年に比較して該当率が下がっている。それに呼応して、どれにもあてはまらないという回答は前回24.2%、今回30.7%と高くなっている。家計の

赤字の数も減り、全体を見たときに、2016年度から少しではあるが、好転しているようにとらえられる。

ただし、経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が前回1.8%、今回0.7%と半減している。この結果は、医療面で子どものいる世帯への施策が自治体において広く実施され、その成果が出たものと思われる。ほかの項目は残念ながら好転が見られず、「子どものための本や絵本が買えなかった」が前回5.6%、今回4.7%、「子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった」前回0.5%、今回0.6%、「子どもの誕生日を祝えなかった」前回1.9%、今回0.5%、「子どもを習い事に通わすことができなかった」前回12.6%、今回12.2%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」前回19.7%、今回19.1%などとなっている。

また、子どもが持っているものや使えるものを見ると、子ども部屋が前回75.7%、今回69.2%、自転車が前回95.0%、今回89.7%と下がっているものが多い中、極端に上がったのは、スマートフォンやタブレット（前回56.0%、今回76.4%）であり、これらは学校からの配布の成果であろう。

以上から、家計の状況は少し改善がみられるが、基本的には家計の改善を子どもに回す余裕には至っていない。経済的理由による子どもにできなかった経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも実現できるような方策が非常に重要である。

2016年度に養育費の取り決めについては設問を入れていなかったため、八尾市での正確な比較はできないが、今回養育費の取り決めをして受け取っているのは約3割であった。反対に、養育費の取り決めをしておらず受け取っていないのは4割を超えていた。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取り決めをしている割合が母子世帯で62.9%、父子世帯で20.8%、ひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯69.8%、父子世帯90.2%という値であった。

<雇用・健康>

学歴については、母親の学歴を上げると、高校卒業が前回31.4%、今回21.7%、約10ポイント減少、大学卒業が前回14.7%、今回27.1%、約12ポイント上昇した。雇用状況では、何らかの仕事をしている母親は、前回77.3%、今回85.9%と約8ポイント上昇している。そのなかで、正規職員が前回17.5%、今回27.2%で約10ポイント増えている。これらは、世の中の人手不足と相まって働く人が増加したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があったのではないかと考えられる。子どもの貧困に関する世論が広まり、各所に出された政策の効果と考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は前回20.6%、今回12.7%、児童扶養手当が前回11.7%、今回15.1%、生活保護が前回2.7%、今回1.4%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が前回45.3%、今回78.1%とかなり増加し、その理由を今回のみ聞いているが、「自身が該当しない」が89.6%でほぼ皆がそう思っていることがわかった。可処分所得の結果から考えても、もっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていない。前回も「あなたには受ける権利がある」というメッセージを必要な人にどう届けるのかが大きな課題であったが、改善に至っていない。各制度を正しく知らせ、他人ごとにせず、そこでのスティグマを無くして受けやすくする工夫がさらに必要である。

<健康・家庭生活・学習・対人関係>

まず食事から確認する。「朝食を食べない」（週に1回も食べていない）が前回1.3%、今回2.5%、

約1ポイントではあるが増えている。食べない理由に「用意されていないから」が、前回3.2%、今回4.3%、「食べる習慣がない」が前回4.5%、今回7.1%であった。回答した小学生の63名が毎日食べていない。このことは、2016年度も話題になったが、改善すべき喫緊の課題である。また、家族の人と食事をしていない子どもは、「ほとんどない」、「まったくない」を合計して、朝食では、小学5年生の子どもが153名、夕食では12名の子どもがうちの人と夕食を食べていないと回答した。これらは前回調査の際に警鐘をならすべきこととしてとらえられていたが、より重視すべきである。

おうちの人との関わりについての設問は、2016年と傾向はほぼ変わらなかった。放課後過ごす場所は、「友だちの家」が前回27.2%、今回22.3%、「学校（クラブ活動など）」が前回41.4%、今回28.5%と減っており、コロナの影響による社会的交流が減ったことからの可能性が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査で「授業がわからなくなった時期」が小学5年生は3・4年生のころ（45.2%）、中学2年生なら中学1年生のころ（53.3%）でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、前回13.6%、今回は8.3%と2016年よりも減っている。前は身体や気持ちで気になることを聞き、今回は身体の状態で気になること、「この1週間の気持ちの状況」で気になることを聞いているため単純に比較はできないが、「とくに気になるところはない」が前回24.1%、今回40.0%であった。

悩みについては、2016年度と数値も傾向も変わらない。最も多いのが、「学校や勉強のこと」について「進学・進路のこと」「自分のこと（外見や体型のこと）」であった。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5で30.4%、中2で23.6%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5で6.9%、中2で9.1%、「学習支援の居場所」は小5で3.6%、中2で7.3%、「何でも相談できる場所」は、小5で3.1%、中2で3.8%であった。これらと併せて、居場所の効果として「友だちの増加」が小5で42.6%、中2で33.5%、「生活の中に楽しみなことが増えた」は小5が15.8%、中2が6.4%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で15.4%、中2で12.1%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、33.5%が友達が増えたと回答する反面、26.0%が「特に変化なし」と回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にする必要がある。

最後に、ヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査結果と比べると、小学生6.5%（日本総研2022）、中学生5.7%（MURC2021）という全国の数より高い。本調査では世話の内容等、複数回答ができることから単純に比較できないが、小5が21.0%、中2が11.3%となっている。内容はきょうだいの世話が最も多く、小5は71.3%（小学6年生28.5%：日本総研2022）、中2が66.1%（中学生79.8%：MURC2021）である。小学生の世話が国に比べてきょうだいの世話の割合が高い。「家事」は、先述した厚生労働省の研究事業では、小6の世話の内容を家事と答えたのが35.2%（日本総研2022）できょうだいの世話より高いが、本調査では逆であった。時間をみると1時間未満が最も多く、定義のあいまいさが子どもに答えにくくさせている可能性もあるであろう。今後、イギリスのように定義を明確にしていくことも検討する必要がある。

今回の調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「無料で学習支援が受けられる場所」44.8%、「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」35.2%、「困ったときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」31.8%であった。学習に関して最も気にしていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

3) クロス集計

各セクションコメントでは、今回の項目のみで確認してきたが、ここでは可能な限り前回と比較する。まず経済面では、できなかった経験、つまりはく奪指標として、前回も検討してきた項目で確認する。

経済面から確認する。「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」「電話（固定・携帯）など通信料の支払いが滞ったことがある」「国民年金の支払いが滞ったことがある」などの項目では前回よりも減少、特に困窮度Ⅰ群においては半減に近い減少がみられる。ただし「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」の減少はそこまで大きくない。経済的な大人のはく奪に比べ、子どものはく奪に関して、「お子さんの進路を変更した」、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」など2016年度と比較して減少している。また、家計を住居形態別にみると、「府営、市営の住宅」において、家計が赤字の世帯の割合が約3割（前回27.7%、今回40.0%）、子どものために「貯蓄したいが、できていない」割合が約6割（前回70.2%、今回55.0%）と他と比較して家計の厳しさが示されたと言える。

支援制度に関しては、まず就学援助制度は、申請すれば利用できるはずである困窮度Ⅰ群であっても利用したことがない人が、2016年度12.4%あり、これを減らすことを第一目的に考えたほどであったが、2023年度も困窮度Ⅰ群において36.2%と増加している。現在利用している人をとってみても、2016年度65.6%だったところ2023年度は54.0%と減少している。児童扶養手当は困窮度Ⅰ群で利用したことがない人が、2016年度30.1%、2023年度15.4%と減少している。「生活保護制度」についても、困窮度Ⅰ群において「利用している」が2016年度11.5%から2023年度8.0%とやや減少し、やはり利用は少ない。これら設問の文言（例「受けたことがある」→「利用したことがある」など）の違いはあるものの、困窮度Ⅰ群にとって、つまり厳しい家庭にとって、制度利用は決して進んでおらず、さらに厳しい状況となったとも推察できる。

子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において府下全体で7.4%、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金は1.3%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万未満の世帯で35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合が低い。このことから、2016年以降子どもの貧困が周知されはじめ、コロナ禍となって支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪においてはその活用が広がり切れなかったと言わざるを得ない。最も厳しい世帯における利用が減少した要因を探る必要がある。

10代で親になった世帯の厳しさは2016年度同様であり、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が半数近く、他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の年齢群と比べて低くなっている。出産などによって学業を中断せざるを得なかった親への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見ずえるような教育的支援も必要である。例えば、小学生から高校生まで、性教育含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）の積極的な導入を進めるべきである。またスウェーデンで行われる、実際の社会問題と向き合い、制度を知り選択できる力を養う社会科授業の実施など、思い切った根本的な教育改革が必要である。

雇用に関しては、質問形態が違うため安易に2016年度と比較できないが、非正規雇用の方が困窮度が増すことや、最終学歴が高いほど中央値以上群に占める割合が高くなる傾向は2016年度と同じである。世帯構成と就労状況の関係をみると、母子世帯の非正規雇用の割合は前回35.7%、今回31.7%とやや低くなっているが、母子世帯へのさらなる重点支援を検討すべきである。

健康に関しても傾向は、2016年度と2023年度はほぼ変わらない。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食摂取が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関する傾向も2016年度の調査と変わらない。経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。遅刻頻度の高さは保護者と子どものコミュニケーション不足を暗示しうる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群と中央値以上群の差は2016年度から変わっていない。つまり、経済的に困難な世帯の子どもは、将来への希望が持てていない。

経済状況が生活習慣や学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身についていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。こうした学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断して支援に繋ぐ。例えば家庭学習を補完するためにも、小学生なら中学生、中学生なら高校生、など年齢の近い年上の子ども・若者を各所で導入する仕組みを作ったり、校内でサポートを展開するメンターの導入などが望ましい。(イギリスやアメリカで活用されるメンター制度など)

対人関係においても2016年度の結果とクロスの傾向は変わらない。変わったところで述べると、放課後を一緒に過ごす人の回答は「学校以外の友だち」が今回、困窮度Ⅰ群が11.4%、中央値以上群が11.0%とほぼ同じであり、前回の差(困窮度Ⅰ群が8.7%と中央値以上群が10.9%)より全体は高くなり、差は縮まった。また、場所としても、前は困窮度Ⅰ群対中央値以上群ではスーパーが6.8%対4.6%が特徴的で困窮度Ⅰ群の方が高かったが、今回は、スーパーが3.4%対5.0%と、やや逆転した。塾や習い事は、前は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では、塾22.7%対33.9%、習い事28.0%対38.9%が、今回は同じく塾17.4%対35.2%、習いごと30.9%対42.9%と格差が広がった。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的に困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能できると考えられる。

最後に、子どもが保護者以外と話せる機会が必要である。しかし、家庭と学校しかソーシャル・キャピタルを持たない子どもたちにとって、今回の調査において、「おうちの人に関する悩み」は「おうちの人」と「学校の友だち」に話しにくいという結果であった。これは、ますます経済的に厳しい子どもたちを孤立させ、ソーシャル・キャピタルを欠如させてしまう。おうちの人や学校の友だちに相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友だちに話せないという今回の結果から、自然と話せるような場や人材を確保し、すべての子どもが自然に通う、学校から自然に構えずに参加できる、流れるような仕組みを創設または充実させる必要がある。

まとめ

今回の調査結果から、子どもの貧困に関する対策の結果として、親の就労や学歴、所得状況は改善がみられ、中央値は上昇する結果であった。これは2021年度の厚生労働省の国民生活基礎調査の結果をみても同様の傾向である。

しかし、その分が子どもに回っておらず、物価高の影響等々も考えられる。肝心の困窮度Ⅰの世帯あるいは子どもの状況の改善は見られず、悪化している部分もあった。このことは子どもの貧困を考える立場にとっては厳しい結果である。この解決には、国が縦割りを解消しようともども家庭庁を設立し、データ連携等々新たな動きをしているなか、同様に教育や福祉という既存の枠組みを越えて、「こどもまんなか」を実行できる体制や制度設計を早急に考えるべきである。それには、以下のような対策が必要と考えられる。

- ① 経済面：母子世帯への支援や収入のアップを企業側が実行できるような施策が必要である。
- ② 学習面：すべての子どもが通う学校と連携した学びの保障を検討する必要がある。方策として、コミュニティスクールや学習支援、無料塾の創設などである。保護者ニーズのある無料塾は、例えば沖縄で導入している。貧困調査の結果から支援員を大々的に投入し、訪問による給付や支援の申請書書きのサポートなど、人的支援方策を実施した。各自治体でもそのような方法を検討する必要がある。あるいはそれをクラウドデータで行えるようなデータ連携と社会資源を選択できるよう可視化と自治体内どこにこの部署でも所持するような共有化が必要である。
- ③ 無償化の対象にならない部活の費用などの補助を行ったり、塾代助成のような方策を検討する必要がある。なおかつ申請をしなくても必要な人が利用できるような形で配分する枠組みが考えられる。
- ④ 価値の創造：教育の力はすべての子どもに影響を与えることができる。年齢に応じて子どもの人権や生きる価値など、人間尊重の理念から獲得できるような学びとその方法を導入する必要がある。小学1年生から体験的に教育を受ける生きる教育（西澤・西岡2022）やブレインストーミングのように子どもたちとの対話で進めるフィンランドの教育（北川 2005）、実際的な生活課題から制度やサービス、権利に関して体験的に学ぶスウェーデンの社会科（リンドクウィスト・ウエステル1997）のようなものがある。レクチャー型でなく、自身の意見を出し、周りの意見を聞きながら進める体験型にするなど、教育の進め方を根本から検討すべきである。そのことによって、10代の妊娠やいじめ、ヤングケアラーなど家庭状況を抱えるようになってからも早期にSOSが出せたり、自身で支援を選択できる力を養うことができる。
- ⑤ 地域資源：支援の場所を周知する必要がある。自治体のパンフなど見やすい形で拡充する必要がある。子ども食堂に限らず、様々な機能（駄菓子屋や公園などほっと寄れるような場を使ったたまり場など）を持つ居場所や体験交流できる場が子どもが自力で行ける小学校区に必要である。例えば学校が場所を開放するのもひとつと考える。その場所が子どもにとっても親にとってもわかりやすく、行きやすい場所にあり、選択肢が増え、可視化し利用しやすくする必要がある。相談機関を増やしても子どもや親からの相談の数値は決して上がらず、居場所などの場の方が有効である。
- ⑥ 連携の考え方：個人情報を含まない連携が必要である。連携とは個人情報を共有しなければならないわけではない。個人情報は把握しないまま連携することが重要で、これが社会資源を知らない教師と個人情報を持ってない地域の居場所の新しい連携の方法であり、これらを周知徹底させることである。
- ⑦ すべての子どもを視野に入れ、そこから自然につながる仕組みなど、今までの縦割りとは次

元の違う支援の仕組みが必要である。

- ⑧ 社会福祉協議会など居場所の中間支援を行う機関の役割を明確化し、機能的に促進させる必要がある。社会教育分野が持つ公民館や図書館や博物館なども場であり、さらなる協働を明確にする。(子ども食堂等居場所の活動団体が無料で入れる、利用できるなど)
- ⑨ 全数からの仕組み：必要な子どもが確実に発見され自然につながるためには、スクリーニングから繋ぐ機能まで持った、例えば文部科学省推奨(2020)のYOSSスクリーニング(山野研究室2021)の仕組みが必要である。今回の調査で2016年からの比較によってアウトリーチでは乗り越えられなかった壁が明かになった。相談ではなく、自然に伴走する支援を厳しい家庭の保護者や子どもたちは求めていることがわかる。支援が必要な子どもを早期に発見し、伴走しながら、必要な制度や仕組みを紹介する。そして制度などの利用を増やすことで生活の改善をはかる。さらに子どもや保護者本人の力をアップさせ、資源を活用できるようにする機能が必要である。
- ⑩ システム化：洩れなく持続可能な形で巡回させるためには、人に頼るだけでなく、福祉と学校のデータ連携を推奨し、地域資源の可視化のためにクラウド化することも考慮すべき点である。クラウドによっていち早く支援場所や居場所の所在が学校にもすぐにわかるようにする。地域活動と支援の必要な子どもを結び、支援提供を展開する必要がある。
- ⑪ 人材：学校においてすべての子どもの検討、発見から支援に繋ぐ校内の体制作りができる人材養成に力を入れる必要がある。スキルを取得する訓練講座の予算化や新たな認定制度になることも家庭ソーシャルワーカー養成制度の活用などである。
- ⑫ 専門職の1つがスクールソーシャルワーカーである。各校に1名配置できるよう、正職化への働きかける、あるいは各自治体での正職化計画を立てる必要がある。
- ⑬ 法制化：これらは連携ではなく仕組み作りであり、制度化が必要である。要綱や規程を作成し、自治体や機関として動きやすいように作成する必要がある。
- ⑭ 制度設計：デジタル化のために補助金や助成金を検討することも必要である。なぜなら、どこに必要な子どもが存在するのかがわからない、そのためデータ連携をし、どこに必要な子どもが存在し、様々な制度を活用してどうだったかを検証できるように作りこむことである。しかし、これらのシステム費用がベンダーロックにより莫大な金額がかかる課題がある。企業を巻き込むと同時に、自治体や政府からクラウド化に向けた助成制度を創設する必要がある。

引用・参考文献

- アーネ・リンドクウィスト&ヤン・ウェステル、川上 邦夫(翻訳)(1997)『あなた自身の社会：スウェーデンの中学教科書』新評論。
- 大阪府(2023)「大阪府子ども(子育て世帯)に対する食費支援事業(第2弾)」
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/20980/00457638/2-9.pdf>)
- 大阪府立大学(2017)「大阪府子どもの生活実態調査」
- 北川達夫(2005)「図解フィンランド・メソッド入門」経済界。
- 厚生労働省(2004)「ワークシェアリング導入促進に関する秘訣集及びリーフレットについて」
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/06/h0630-2.html>)
- 厚生労働省(2017)「平成28年度 全国ひとり親世帯等調査結果報告」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11923000-Kodomokateikyoku-Kateifukishika/0000190325.pdf>)

厚生労働省（2022）「2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況」

(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>)

柴田悠（2016）『子育て支援が日本を救う—政策効果の統計分析』勁草書房.

内閣府（2010）「平成21年度インターネットによる子育て費用に関する調査」

(https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net_hiyo/mokuji_pdf.html)

西澤哲・西岡加名恵ほか（2022）『『生きる』教育：自己肯定感を育み、自分と相手を大切にする方法を学ぶ』日本標準.

日本総研（2022）「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.

三菱UFJリサーチコンサルティング（株）（2021）「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.

文部科学省（2023）「令和5年度就学援助の実施状況」

(https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_shuugaku-000013450_27.pdf)

文部科学省・山野研究室（2020）「スクリーニング活用ガイド」

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2020/03/27/20200327_mxt_kouhou02_2.pdf)

山野則子編著（2019）『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見てきたもの』明石書店.

山野則子（2018）『学校プラットフォーム』有斐閣.

山野則子研究室（2021）「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 保護者調査・子ども調査報告書」厚生労働省.

山野則子研究室（2021）「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」文部科学省.

柳澤靖明・福島尚子（2019）『隠れ教育費：公立小中学校でかかるお金を徹底検証』太郎次郎社エディタス.

UNESCO(2020) 'International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach (jpn)' (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>)

図表目次

図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験.....	183
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験.....	185
図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの.....	187
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均.....	188
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均.....	189
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均.....	190
図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成.....	191
図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）.....	192
図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況.....	193
図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数.....	194
図 11. 困窮度別に見た、住居形態.....	195
図 12. 困窮度別に見た、家計の状況.....	196
図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況.....	197
図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無.....	198
図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況.....	201
図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016 年度調査との比較）.....	202
図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）.....	203
図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016 年度調査との比較）.....	204
図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況.....	205
図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016 年度調査との比較）.....	206
図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）.....	207
図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢.....	208
図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）.....	209
図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）.....	210
図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）.....	211
図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）.....	212
図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）.....	214
図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）.....	216
図 29. 住居形態別に見た、家計の状況.....	217
図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況.....	218
図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況.....	219
図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況.....	220
図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況.....	221
図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）.....	222
図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況.....	223
図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況.....	224
図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況.....	225
図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況.....	227
図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況.....	229
図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況.....	231
図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）.....	233
図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況.....	235
図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況.....	237
図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況.....	239
図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況.....	240
図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況.....	241
図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況.....	242
図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）.....	243

図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	244
図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	245
図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況.....	246
図 52. 困窮度別に見た、就労状況	248
図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴.....	249
図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴.....	250
図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況.....	251
図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況.....	252
図 57. 世帯構成別に見た、就労状況	253
図 58. 就労状況別に見た、家計の状況.....	254
図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度	256
図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度.....	257
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度.....	258
図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度.....	259
図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間.....	260
図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間.....	261
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度.....	262
図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	263
図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	264
図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	265
図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	266
図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	267
図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	268
図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	269
図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	270
図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	271
図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	272
図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	273
図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること	275
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある ..	276
図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ..	277
図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ.....	278
図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる....	279
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする...	280
図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる.....	281
図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる.....	282
図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない.....	283
図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする.....	284
図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること	286
図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること	288
図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること	290
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	291
図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点.....	292
図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）	293
図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）	294
図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）	295
図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）	296
図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか.....	299
図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか.....	300

図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人のの人に宿題（勉強）をみてもらうか.....	301
図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人のひと文化活動をするか.....	302
図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）.....	303
図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）.....	304
図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間.....	305
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの.....	306
図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がある日）.....	307
図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がない日）.....	308
図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）.....	309
図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）.....	310
図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）.....	311
図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）.....	312
図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間.....	313
図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間.....	314
図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連.....	315
図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連.....	316
図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度.....	317
図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度.....	318
図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間.....	319
図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間.....	320
図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度.....	321
図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度.....	322
図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先.....	323
図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）.....	324
図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学.....	325
図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻.....	326
図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況.....	327
図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひと一緒に朝食を食べているか.....	328
図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひと一緒に夕食を食べているか.....	329
図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のの人に宿題（勉強）をみてもらうか.....	330
図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひと学校のできごとについて話すか.....	331
図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひと遊んだり、体を動かしたりするか.....	332
図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとニュースなど社会のできごとについて話すか.....	333
図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひと文化活動をするか.....	334
図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひと一緒に外出するか.....	335
図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること.....	337
図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	338
図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	339
図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先.....	340
図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの.....	341
図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること.....	343
図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合.....	344
図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	345
図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	346
図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先.....	347
図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯.....	348
図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度.....	349
図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度.....	350
図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間.....	351

図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間.....	352
図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況.....	354
図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）.....	355
図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）.....	356
図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所.....	360
図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人.....	362
図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと.....	364
図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること.....	366
図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	368
図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先.....	370
図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）.....	371
図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合.....	372
図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合（2016年度調査との比較）.....	372
図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	373
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	374
図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか.....	375
図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか.....	376
図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校のできごとについて話すか.....	377
図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか.....	378
図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか.....	379
図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか.....	380
図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか.....	381
図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	382
図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	383
図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	384
図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所.....	385
図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験.....	386
図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	388
図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	390
図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	392
図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	394
図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	396
図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	397
図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	398
図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	399
図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所.....	400
図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先.....	402
図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	404
図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	406
図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	408
図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	410
図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所.....	412
図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	414
図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	416
図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	418
図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所.....	420
図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無.....	422
図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先.....	424

IV 資料編

<家庭生活、学習に関する考察> 参照データ

子ども__問14（1）学校の勉強で気持ちに近いもの（上段：実数、下段：%）
 子ども__問26（1）自分が世話をしている人の有無

	調査数	よくわかる	だいたいわかる	あまりわからない	ほとんどわからない	わからない	無回答
全 体	1252 100.0	352 28.1	723 57.7	135 10.8	17 1.4	11 0.9	14 1.1
いる	215 100.0	71 33.0	115 53.5	23 10.7	1 0.5	3 1.4	2 0.9
いない	1022 100.0	277 27.1	602 58.9	109 10.7	16 1.6	8 0.8	10 1.0
無回答	15 100.0	4 26.7	6 40.0	3 20.0	-	-	2 13.3

子ども__問14（2）授業がわからなくなった時期（上段：実数、下段：%）
 子ども__問26（1）自分が世話をしている人の有無

	調査数	ろ小学 1・2 年生のこ	ろ小学 3・4 年生のこ	か小学 5年生に なっ	小学 6年生の ころ	中学 1年生の ころ	か中学 2年生に なっ	無 回 答
全 体	163 100.0	18 11.0	37 22.7	26 16.0	10 6.1	48 29.4	21 12.9	3 1.8
いる	27 100.0	4 14.8	9 33.3	2 7.4	3 11.1	9 33.3	-	-
いない	133 100.0	14 10.5	26 19.5	24 18.0	6 4.5	39 29.3	21 15.8	3 2.3
無回答	3 100.0	-	2 66.7	-	1 33.3	-	-	-

子ども__問16 学校や学校の行事等の状況（上段：実数、下段：%）
 子ども__問26（1）自分が世話をしている人の有無

	調査数	が授業 中に寝 てしま うこと	が宿題 ができ ていな いこと	持ち物 の忘れ 物が多 い	い習い ごとを 休むこ とが多 い	提出物 を出す のが遅 れる	を修学 旅行な どの宿 泊行事	行事運 動会や 遠足な どの学 校	い保健 室で過 ごすこ とが多 い	ことが 多い	がしと もだち と遊ん だり、 時間お かしい	特にな い	無 回 答
全 体	1252 100.0	105 8.4	100 8.0	243 19.4	25 2.0	159 12.7	20 1.6	11 0.9	13 1.0	81 6.5	82 6.5	756 60.4	34 2.7
いる	215 100.0	14 6.5	22 10.2	54 25.1	2 0.9	30 14.0	4 1.9	2 0.9	5 2.3	16 7.4	14 6.5	117 54.4	8 3.7
いない	1022 100.0	91 8.9	73 7.1	184 18.0	23 2.3	126 12.3	15 1.5	9 0.9	8 0.8	64 6.3	67 6.6	635 62.1	24 2.3
無回答	15 100.0	-	5 33.3	5 33.3	-	3 20.0	1 6.7	-	-	1 6.7	1 6.7	4 26.7	2 13.3

＜対人関係に関する考察＞ 参照データ

保護者__問16（１）子どもの居場所の利用有無（上段：実数、下段：％）
 子ども__問26（１）自分が世話をしている人の有無

	調査数	利用したことがある	利用したことがない	無回答
全 体	1153 100.0	151 13.1	997 86.5	5 0.4
いる	202 100.0	37 18.3	164 81.2	1 0.5
いない	937 100.0	111 11.8	822 87.7	4 0.4
無回答	14 100.0	3 21.4	11 78.6	- -

保護者__問16（２）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと（上段：実数、下段：％）
 子ども__問26（１）自分が世話をしている人の有無

	調査数	地域の人とつながれる	お食事や食生活が良くなる	栄養がとれる	運営者が相談に乗って	低額（または無料）で食事が食べられる	宿題など勉強を見てくれる	お子さんが楽しんでい	特になし	その他	無回答
全 体	151 100.0	57 37.7	5 3.3	7 4.6	8 5.3	15 9.9	31 20.5	101 66.9	7 4.6	13 8.6	1 0.7
いる	37 100.0	12 32.4	2 5.4	4 10.8	4 10.8	6 16.2	11 29.7	26 70.3	-	2 5.4	1 2.7
いない	111 100.0	45 40.5	3 2.7	3 2.7	4 3.6	9 8.1	19 17.1	72 64.9	7 6.3	11 9.9	-
無回答	3 100.0	-	-	-	-	-	1 33.3	3 100.0	-	-	-

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査



しょうがくせい ちゅうがくせい む ちょうさ ちょうさひょう や お し
小学生・中学生向け調査 調査票【八尾市】

ちょうさ きょうりょく ねが
＜ 調査への協力のお願い ＞

- ◆この調査は、大阪府内の小学生・中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるものです。
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- ◆この調査は、大阪府と共同で大阪公立大学へ委託して実施します。
- ◆大阪府や八尾市はこの調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきます。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月30日までに回答してください。

う え ぶ か い どう
(1) Webによるご回答

か い どう よ う う え ぶ ペ ー ジ
回答用WEBページ



八尾市下水道
広報大使 ヤッタくん

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、**16ページ**をごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。
- ※Web・紙の調査票の両方とも回答された場合は、Web回答のほうを優先します。

か み ちょう さ ひ ょう か い どう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れて封をし、おうちの人に渡してください。

き げ ん れ い わ ね ん が つ に ち ど よ う び
◆期限： 令和5年9月30日（土曜日）◆

ちょうさ かん と い あ わ さ き
【調査に関するお問合せ先】

や お し こ ども わ かも の ぶ こ ども わ かも の せい さ く か こ ども わ かも の せい さ く が かり
八尾市 こども若者部 こども若者政策課 こども若者政策係

で ん わ ち ょ う け つ ち ょ う け つ
電話 072-924-3988（直通） ※8:45～17:15 土・日曜日・祝日を除く

ふ あ く し み り い む ー る
ファクシミリ 072-924-9548 Eメール kodomoseisaku@city.yao.osaka.jp

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしがってください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問5 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問6 お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べることが多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問7 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 遅刻はしない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	



とい 問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。（①～⑩それぞれについて、あてはまる番号ばんごう
ひと まる
1つに○をつけてください）

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅう かい	週に2～3回 しゅう かい	週に1回程度 しゅう かい いど	月に1～2回 つき かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人のひとに朝、起こしてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちの手伝いをしていますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人のひとと一緒に外出しますか。（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）	1	2	3	4	5	6	7

とい 問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。
ばんごう まる
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちのひとと一緒に過ごしているとき	5. 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき
2. ともだちと一緒に過ごしているとき	6. 塾や習いごとで過ごしているとき
3. 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	7. 特に楽しいと思うときはない
4. ひとりで過ごしているとき	8. その他

とい
問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちの大人のひと（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）
2. きょうだい
3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）
4. 学校のともだち
5. クラブ活動・部活動の仲間
6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）
7. ひとりである
8. その他のひと

とい
問11 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 自分の家	9. コンビニエンスストア
2. おばあちゃん・おじいちゃんの家	10. ゲームセンター
3. ともだちの家	11. 図書館や公民館など公共の施設
4. 塾	12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）
5. 習いごと	13. 学童保育（※）
6. 学校（クラブ活動・部活動など）	14. その他
7. 公園・広場	
8. スーパーやショッピングモール	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい
問12 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 自分で勉強する	6. おうちの人に教えてもらう
2. 塾で勉強する	7. ともだちと勉強する
3. 学校の補習を受ける	8. その他
4. 家庭教師に教えてもらう	9. 学校の授業以外で勉強はしない
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	

問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間もふくみます。)(①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

あと半分だよ。
 がんばってね！

問14 学校の勉強についておたずねします。
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方におたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。)(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

とい 問16 あなたは、^{がっこう}学校や^{がっこう}学校の^{ぎょうじなど}行事等で次のようなことがありますか。

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{じゅぎょうちゅう} 授業中に ^ね 寝てしまうことが多い	7. ^{うんどうかい} 運動会や ^{えんそく} 遠足などの ^{がっこうぎょうじ} 学校行事を ^{けっせき} 欠席する
2. ^{しゅくだい} 宿題ができていないことが多い	8. ^{ほけんしつ} 保健室で ^す 過ごすことが多い
3. ^も 持ち物の ^{わす} 忘れ物が ^{おほ} 多い	9. ^{がっこう} 学校では ^{ひとり} ひとりで ^す 過ごすことが多い
4. ^{なら} 新しい ^{やす} ことを ^{おほ} 休むことが多い	10. ^{ともだち} ともだちと ^{あそ} 遊んだり、 ^{おしゃべり} おしゃべりしたりする ^{じかん} 時間が
5. ^{ていしゅつぶつ} 提出物を ^だ 出すのが ^{おく} 遅れることが多い	^{すく} 少ない
6. ^{しゅうがくりょこう} 修学旅行などの ^{しゅくはくぎょうじ} 宿泊行事を ^{けっせき} 欠席する	11. ^{とく} 特にない

とい 問17 今、あなたは、いやなことや^{なや}悩んでいることはありますか。

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{うち} おうちのこと	6. ^す 好きな ^{ひと} 人のこと
2. ^{がっこう} 学校や ^{べんきょう} 勉強のこと	7. ^{しんがく} 進学・ ^{しんろ} 進路のこと
3. ^{くらぶ} クラブ活動や ^{ぶかつどう} 部活動のこと	8. ^た その他のこと
4. ^{じぶん} 自分のこと(外見や ^{がいけん} 体型など)	9. いやなことや ^{なや} 悩んでいることはない
5. ^{ともだち} ともだちのこと	10. ^{わから} わからない

とい 問18 あなたは、いやなことや^{なや}悩んでいることがあるとき、だれかに^{そうだん}相談しますか。(だれに^{はな}話しますか。)

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おや} 親	12. ^{いんたーねっと} インターネットや ^{さいと} サイトなどを ^{つう} 通じて ^し 知りあった
2. ^{きょうだい} きょうだい	^{ちよくせつ} 直接会ったことのない ^{ひと} 人
3. ^{しん} 親せき	13. ^{きんじよ} 近所の ^{ひと} 人
4. ^{がっこう} 学校の ^{ともだち} ともだち	14. ^{ちいき} 地域の ^{しえんだんたい} 支援団体
5. ^{がっこう} 学校以外の ^{ともだち} ともだち	(^{がくしゅう} 学習支援の ^{えん} 場や ^ば 子ども ^こ 食堂など ^{しよくどう} 地域で
6. ^{がっこう} 学校の ^{せんせい} 先生	^{おな} 同じ ^{とし} 年ごろの ^こ 子どもが ^{あつ} 集まるところの ^{ひと} 人)
7. ^{すくー} スクールカウンセラー、 ^{かうん} ソーシャルワーカー	15. ^た その他の ^{ひと} 人
8. ^{じゅく} 塾や ^{なら} 新しい ^{せんせい} こととの ^{せんせい} 先生	16. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談できない
9. ^{がくどう} 学童保育の ^{ほいく} 先生(※)	17. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談したくない
10. ^こ 子ども ^{せんよう} 専用の ^{でんわ} 電話 ^{そうだん} 相談	18. ^{わから} わからない
11. ^{えすえぬえす} SNSなどの ^{いんたーねっと} インターネットや ^{らいん} LINEの ^{そうだん} 相談	

※「^{がくどうほいく}学童保育」とは、「^{ほうかごじどうくらぶ}放課後児童クラブ」、「^{ほうかごじどうくらぶ}いきいき放課後児童クラブ」、「^{るすかていじどうかい}留守家庭児童会(室)」、「^{がくどうくらぶ}学童クラブ」、「^{なかよ}仲良し^{くらぶ}クラブ」もふくみます。

問19 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、どんな気持ちや状況だったのか、教えてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

	そいつ だも	ときどき そうだ	そんな こと
① 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

問20 あなたは、自分の体の状態で気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく頭がいたくなる	7. とくに気になるところはない
3. 歯がいたい	8. その他
4. よくおなかがいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



八尾市下水道
広報大使ヤットくん

答えたくない質問は答える必要はないよ。

答えに迷うときは、あなたの気持ちや考えに

できるだけ近いものを選んでね。

とい 問21 あなたが、持^もっているものや、あなたが使^{つか}うことができるものを選^{えら}んでください。

(あてはまる番号^{ばんごう}すべてに^{まる}○をつけてください)

1. 本 ^{ほん} (学校 ^{がっこう} の教科書 ^{きょうかしょ} やマンガ ^{まんが} ・雑誌 ^{ざっし} はのぞく)	8. テレビ ^{てれび}
2. マンガ ^{まんが} ・雑誌 ^{ざっし}	9. けいたい電話 ^{でんわ}
3. 子ども部屋 ^{こ べ や} (ひとり部屋 ^{ひとり べ や} やきょうだいと 一 ^{いっしょ} 緒 ^{つか} に使 ^へ っている部屋 ^や など)	10. スマートフォン ^{すまーとふぉん} ・タブレット機器 ^{たぶれっと き き}
4. インターネット ^{いんたーねっと} につな ^は がるパソコン ^{ぱそこん} (学校 ^{がっこう} のパソコン ^{ぱそこん} はのぞく)	11. 化粧品 ^{けしょうひん} ・アクセサリ ^{あくせさりー}
5. 運動用具 ^{うんどうようぐ} (ボール ^{ぼーる} ・ラケット ^{らけっと} など)	12. 習いごと ^{なら} となどの道具 ^{どうぐ} (ピアノ ^{ぴあの} など)
6. ゲーム機 ^{げーむき}	13. 自分 ^{じぶん} で選 ^{えら} んだ服 ^{ふく}
7. 自転車 ^{じてんしゃ}	14. キャラクターグッズ ^{きゃらくたーぐっず}
	15. その他 ^た
	16. あてはまるものはない

あなたが、ふだん 考^{かんが}えていることについておたずねします。

とい 問22 あなたは、つらいことがあってもすぐ立^たち直^{なお}ることができますか。

(あてはまる番号^{ばんごう}1つに^{まる}○をつけてください)

1. そう思 ^{おも} う	3. どちらかという ^{おも} とそう思 ^{おも} わない
2. どちらかという ^{おも} とそう思 ^{おも} う	4. そう思 ^{おも} わない

とい 問23 あなたがふだん 考^{かんが}えていることについて、次^{つぎ}の(1)～(3)について教^{おし}えてください。

(あてはまる番号^{ばんごう}1つに^{まる}○をつけてください)

(1) 自分^{じぶん}に自信^{じしん}がある

1. ある	3. どちらかという ^{おも} とない
2. どちらかという ^{おも} とある	4. ない

(2) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというとできない
2. どちらかというとできる	4. できない

(3) 自分の将来の夢や目標を持っている

1. 持っている	3. どちらかというと持っていない
2. どちらかというと持っている	4. 持っていない

問24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	6. 留学 (外国で長い期間勉強すること)
2. 高校	7. 専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など) ・高等
3. 短期大学	せんもんがっこう
4. 大学	専門学校
5. 大学院	8. 考えたことがない
	9. わからない

あともう少しだよ！

がんばってね！



©2014 大阪府もずやん

あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

- (1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用したことがある	利用したことはない (あれば利用したい と思う)	利用したことはない (今後利用したい と思わない)	利用したことはない (今後利用したい から分らない)
① 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (学童保育など)	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2	3	4
③ 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所 (一般的な学習塾とはちがう学習支援など)	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談をふくむ。)	1	2	3	4

- (2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	

(3) 問25(1)の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりでいける場所)にないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行ってもいけない」と親などの大人に言われるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがおうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) おうちの人のなかあなたが世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたがやっているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどろを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによつて次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが ふ 増える	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にない
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れて、封をし、おうちの人に渡してください。

相談窓口のご案内

・すこやかホットライン

TEL : 06-6607-7361

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分 (※祝日・年末年始を除く)

Eメール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp

・子どもの悩み相談フリーダイヤル

TEL : 0120-7285-25

24時間 365日



八尾市下水道
広報大使ヤッタくん

・親子のための相談LINE

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html



【ひとりで悩まないで、相談してね。】

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

【二次元バーコード】



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

【URL】 <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査
ほ ご し ゃ む ちようさ ちようさひよう や お し
保護者向け調査 調査票【八尾市】



＜ ちようさ きようりよく ねが
調査への協力をお願い ＞

- ◆この調査は、保護者の方に家庭状況などをお聞きし、大阪府及び八尾市の子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと考えていますので、忙しい中お手数ですが、調査への協力をお願いします。
- ◆この調査は、大阪府と共同で大阪公立大学へ委託して実施します。
- ◆調査の対象は、八尾市立小・中・義務教育学校に通う小学5年生（義務教育学校前期課程5年生）と中学2年生（義務教育学校後期課程8年生）及びその保護者です。
- ◆名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆お子さんと別々に回答いただき、お互いの回答を見ないように記入してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月30日までに回答してください。

（1）Webによるご回答

➢この調査は、Webから回答することができます。

➢回答方法は、16ページをごらんください。

※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

※Web・紙の調査票の両方とも回答された場合は、Web回答のほうを優先します。

かいとうよう え ぶ ペー じ
回答用WEBページ



八尾市下水道
広報大使 ヤックくん

（2）紙の調査票によるご回答

・調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れて封をしてください。お子さんの回答の入った「小学生・中学生用封筒」と「保護者用封筒」を返信用封筒にまとめて入れ、期限までに返信してください。切手は不要です。

◆期限： 令和5年9月30日（土曜日）◆

【調査に関するお問合せ先】

八尾市 こども若者部 こども若者政策課 こども若者政策係

電話 072-924-3988（直通） ※8:45～17:15 土・日曜日・祝日を除く

ファクシミリ 072-924-9548 Eメール kodomoseisaku@city.yao.osaka.jp

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含みます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。（①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください）（⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。）

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している（再婚や事実婚を含む。） 2. 離婚 3. 死別	4. 未婚 5. わからない 6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 取り決めをしており、受け取っている 2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている 3. 取り決めをしているが、受け取っていない 4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 持ち家（親・きょうだい ^{めいぎ} の名義 ^{ふく} を含む）	4. 民間 ^{みんかん} の賃貸住宅 ^{ちんたいじゅうたく}
2. 府営 ^{ふえい} ・市営 ^{しえい} の住宅 ^{じゅうたく}	5. 官舎 ^{かんしゃ} ・社宅 ^{しゃたく}
3. UR賃貸住宅 ^{ゆーあーちんたいじゅうたく} ・公社賃貸住宅 ^{こうしゃちんたいじゅうたく}	6. その他 ^た

問6 あなたの家計^{かけい}の収支状況^{しゅうしじょうきょう}についておたずねします。

（1）前年^{ぜんねん}（2022年^{ねん}）の1年間^{いちねんかん}のあなたの家計^{かけい}の状況^{じょうきょう}について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 貯蓄 ^{ちちく} ができています	3. 赤字 ^{あかじ} でもなく黒字 ^{くろじ} でもない
2. 赤字 ^{あかじ} である	4. わからない

（2）お子さん^この将来^{しやうらい}のために貯蓄^{ちちく}をしていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 貯蓄 ^{ちちく} をしている	3. 貯蓄 ^{ちちく} をするつもりはない
2. 貯蓄 ^{ちちく} をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯^{せたい}では、経済的^{けいざいてき}な理由^{りゆう}で、次のような経験^{けいけん}をされたことがありますか。おおむね半年^{はんとし}の間^{あいだ}でお考え^{かんが}ください。（あてはまる番号^{ばんごう}すべてに○をつけてください）

1. 食費 ^{しょくひ} を切りつめた	13. 鉄道 ^{てつどう} やバス ^{ばす} の利用 ^{りよう} を控え ^{ひか} 、自転車 ^{じてんしゃ} を使 ^{つか} ったり歩 ^{ある} くようにした
2. 電気 ^{でんき} ・ガス ^{がす} ・水道 ^{すいどう} などが止められた	14. 電話 ^{でんわ} （固定 ^{こてい} ・携帯 ^{けいたい} ）などの通信料 ^{つうしんりょう} の支払い ^{しはら} が滞 ^{とどこお} ったことがある
3. 医療機関 ^{いりょうきかん} を受診 ^{じゅしん} できなかった	15. 家賃 ^{やちん} や住宅ローン ^{じゅうたくろーん} の支払い ^{しはら} が滞 ^{とどこお} ったことがある
4. 国民健康保険料 ^{こくみんけんこうほけんりょう} の支払い ^{しはら} が滞 ^{とどこお} ったことがある	16. 趣味 ^{しゅみ} やレジャー ^{れじゃー} の出費 ^{しゅつび} を減 ^へ らした
5. 国民年金 ^{こくみんねんきん} の支払い ^{しはら} が滞 ^{とどこお} ったことがある	17. 冷暖房 ^{れいだんぼう} の使用 ^{しよう} を控え ^{ひか} た
6. 金融機関 ^{きんゆうきかん} などに借金 ^{しゃっきん} をしたことがある	18. 友人 ^{ゆうじん} ・知人 ^{ちじん} との外食 ^{がいしょく} を控え ^{ひか} た
7. クレジットカード ^{くれじっとかーど} の利用 ^{りよう} が停止 ^{ていし} になったことがある	19. 敷金 ^{しききん} ・保証金 ^{ほしょうきん} などを用意 ^{ようい} できないので、住み替 ^{すか} え・転居 ^{てんきょ} を断念 ^{だんねん} した
8. 新しい衣服 ^{あたらしいふく} ・靴 ^{くつ} をかうのを控え ^{ひか} た	20. 理髪店 ^{りはつてん} ・美容院 ^{びよういん} に行く回数 ^{かいすう} を減 ^へ らした
9. 新聞 ^{しんぶん} や雑誌 ^{ざっし} をかうのを控え ^{ひか} た	21. 子ども部屋 ^{こどもへや} が欲 ^ほ しかったがつくれなかった
10. スマートフォン ^{すまーとふぉん} への切替 ^{きりかえ} ・利用 ^{りよう} を断念 ^{だんねん} した	22. 1～21の項目 ^{こうもく} には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭 ^{かんこんそうさい} のつきあい ^{つきあい} を控え ^{ひか} た	
12. 生活 ^{せいかつ} の見通し ^{みとお} がたたくて不安 ^{ふあん} になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）（現在、ひとりでお子さんを育てている場合（ひとり親の場合）はあてはまる方だけに○をつけてください。）

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。（複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください）

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ① 家事や育児に専念したため ② 学生のため ③ おうちの人の介護や介助のため ④ 病気療養のため ⑤ 年金収入があるため ⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦ その他

とう お父さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ① 家事や育児に専念したため ② 学生のため ③ おうちの人の介護や介助のため ④ 病気療養のため ⑤ 年金収入があるため ⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦ その他

お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ① 家事や育児に専念したため ② 学生のため ③ おうちの人の介護や介助のため ④ 病気療養のため ⑤ 年金収入があるため ⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦ その他

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年間で考えてください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった
7. お子さんを習い事に通わすことができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15分未満	1. 2時間未満
2. 15分～30分未満	2. 2時間～4時間未満
3. 30分～1時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 8時間～10時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 10時間以上
7. 4時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校行事に参加していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ととき参加している	4. まったく参加していない

問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

(1) あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所 (子ども食堂)
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

1. 利用したことがある

2. 利用したことがない

(2) 前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 地域の人とつながれるから

2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから

3. 栄養バランスのとれた食事がとれるから

4. 運営者が相談に乗ってくれるから

5. 低額 (または無料) でご飯が食べられるから

6. 宿題など勉強を見ってくれるから

7. お子さんが楽しんでいるから

8. 特になし

9. その他

(3) 問16 (1) の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから

2. 家の近く (小学校区内) にないから

3. 家で過ごしてほしいと思うから

4. 居場所のイメージがよくないから

5. お子さんが「行きたくない」と言っているから

6. 行きたい日・時間に開いていないから

7. 利用したいと思わないから

8. 何をしているかわからないから

9. その他

あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め（お子さんは除く）、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 (運動や文化活動)	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員（※）
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）
4. きょうだい・その他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がいない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

とい つぎ みぢか おも なん ばんごう まる
問20 次のうち、身近にあるといいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 保護者^{ほごしや}どうして気軽に^{きがるはな}話せる場^ば 2. SNSなどのインターネット^{えすえぬえす いんたーねっと}を通じて^{つう}悩みごと^{なや}を話せる^{はな}コミュニティ^{こみゆにてい} 3. 家事^{かじ}の援助^{えんじょ}が受けられること 4. 支援制度^{しえんせいど}など必要な^{ひつよう}情報^{じょうほう}を届けて^{とど}くれること 5. 困った^{こま}とき^{とき}にご飯^{はん}を無料^{むりよう}または安価^{あんか}で自宅^{じたく}に届け^{とど}てくれるサービス^{さーびす}	6. お子^こさんが放課後^{ほうかご}や休日^{きゅうじつ}に勉強^{べんきょう}などができる場所^{ばしよ}を利用^{りよう}できること 7. お子^こさんが無料で^{むりよう}学習支援^{がくしゅうしえん}を受けられる場所^{ばしよ} 8. お子^こさんや保護者^{ほごしや}が夕食^{ゆうしよく}を無料^{むりよう}か安い料金^{やすりょうきん}で食べる^たことができる場所^{ばしよ}（子ども食堂^{こどもしきどう}など）を利用^{りよう}できること

とい
問21 あなたの心^{こころ}の状態^{じょうたい}についておたずねします。

（1）生活^{せいかつ}を楽しんで^{たの}いますか。（仕事^{しごと}や家事^{かじ}、育児^{いくじ}など）

（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. とても楽しんでいる^{たの} 2. 楽しんでいる^{たの}	3. あまり楽しんでいない^{たの} 4. 楽しんでいない^{たの}	5. わからない

（2）将来^{しょうらい}に対して希望^{たい}を持っ^{きぼう}ていますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. 希望^{きぼう}が持てる^も 2. 希望^{きぼう}が持てる^もときもあれば、持てない^もときもある	3. 希望^{きぼう}が持てない^も 4. わからない

（3）ストレス^{すとれす}を発散^{はっさん}できるものがありますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. ある 2. あるときもあれば、ないときもある	3. ない 4. わからない

（4）あなたは、ご自分^{じぶん}が幸せ^{しあわ}だと思いますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. とても幸せ^{しあわ}だと思う^{おも} 2. 幸せ^{しあわ}だと思う^{おも} 3. あまり幸せ^{しあわ}だと思わ^{おも}ない	4. 幸せ^{しあわ}だと思わ^{おも}ない 5. わからない

とい
問22 あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが ^き 気になる
2. よく ^{あたま} 頭がいたくなる	11. やる ^き 気が ^お 起きない
3. ^は 歯がいたい	12. ^{いら いら} イライラする
4. 不安な ^{ふ あん き も} 気持ちになる	13. よく ^{かた} 肩がこる
5. ものを見づ ^み らい	14. よく ^{こし} 腰がいたくなる
6. ^き 聞こえにくい	15. とくに ^き 気になるところはない
7. よくおなかがいたくなる	16. その他 ^た
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

^{こた}答えたくない^{しつもん}質問に^{こた}答える^{ひつよう}必要はありません。

^{こた}答えに迷う^{まよ}場合には、あなたの^{き も}気持ちや^{かんが}考えにできるだけ^{ちか}近いものを^{えら}選ぶようにしてください。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得 の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思う から	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続が わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください
3に○をつけた場合、

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。
（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。
税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型ウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。
(例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。)

かい
回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

(1) あなたがお住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに
○をつけてください)

1. ワンルーム	3. 居室2部屋 (2K、2DK、2LDK)
2. 居室1部屋 (1K、1DK、1LDK)	4. 居室3部屋 (3K、3DK、3LDK) 以上

(2) その住居には、何人でお住まいですか。(□に数字をお書きください。)

にん
人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

・八尾市こども総合支援センターほっぷ
<こども総合支援課>

<https://www.city.yao.osaka.jp/0000002224.html>

<いじめから子どもを守る課>

<https://www.city.yao.osaka.jp/0000052464.html>

・親子のための相談LINE

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html



パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

【二次元バーコード】



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

【URL】 <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700081>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

八尾市子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

八尾市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学